

# 西 今 井 遺 跡

早川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

1987

群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



資料	(助)群馬県埋蔵文化財 調査事業団保管	01-330
		12
98- NO.5037	平成10年5月13日	1(7)



# 西 今 井 遺 跡

早川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

1987

群 馬 県 教 育 委 員 会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 序

国道17号の建設に並行して早川の河川改修が計画され埋蔵文化財の発掘調査が昭和50年・51年度の両年にわたって群馬県教育委員会により、整理事業は(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団で昭和62年度に実施され多大の成果を得ることができました。

原始・古代の群馬県は毛野国とよばれ我が国の政治文化の中心地の一つでありました。赤城山麓を南流する早川は佐波郡境町付近で蛇行を繰り返し、肥沃な原野を形成しました。この地が新しい開拓の場を求めて、進出してきた人々の生活の場となりました。その後も途絶えることのない営みが続いたようであります。火山噴火、洪水などの自然災害に耐えながらしたたかに生きた先人の姿が発掘調査によって蘇りました。

調査によって、古墳から平安時代の数百軒にもものぼる竪穴住居、掘立遺構が見付かりました。古代末期に「ごかんのごうごう」と呼ばれた地域にも連綿とした生活があったことがわかりました。これらの資料は古代社会究明の貴重な資料となるものと思います。

終わりに調査の実施にあたりご指導ご協力を頂きました皆様に感謝申し上げるとともに本書が私達の先人の生活を知る資料として広く活用されることを念願して序と致します。

昭和63年2月15日

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 清水一郎

## 例 言

1. 本書は西今井遺跡（にしいまい いせき）の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の所在地は以下のとおりである。

群馬県佐波郡境町大字西今井小字中道     （Ⅰ～Ⅴ区）  
 群馬県新田郡新田町大字下田中小字諏訪下     （Ⅵ区）

3. 本遺跡に関する発掘調査の経緯は以下のとおりである。

調査回数	第 一 回		第 二 回
調 査 期 間	1975年7月28日～1977年1月22日	1975年7月28日～1977年1月22日	1979年4月6日～ 1980年2月2日
調 査 原 因	一般国道17号(上武道路)改築工事	早川河川改修工事	県営圃場整備事業
委 託 者	建 設 省	群 馬 県	群 馬 県
発掘調査受託者	群馬県教育委員会文化財保護課	群馬県教育委員会文化財保護課	境町教育委員会
整理・報告書	群馬県埋蔵文化財調査事業団	群馬県埋蔵文化財調査事業団	境町教育委員会

4. 本書は第一回の調査のうちの早川河川改修工事に伴う発掘調査報告書で正式名は『西今井遺跡』早川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書と呼称し、本文中では「早川河川改修」と略称することもある。

5. 発掘調査に参加された方々は以下のとおりである。

発掘担当者 横沢克明 平野道一 柿沼恵介 清水和夫 巾 隆之 真下高幸 石塚久則  
 （当時 群馬県教育委員会文化財保護主事）

調査指導者 新井房夫 群馬大学教授(地学、地理学) 尾崎喜左雄 群馬大学教授(考古学)  
 勝守すみ 群馬大学教授(中世史) 檜崎彰一 名古屋大学教授(日本古代焼物)  
 峯岸純夫 東京都立大学教授(古代史)

調査協力者 神奈川大学考古学研究会 佐波郡境町教育委員会  
 新田郡尾島町教育委員会 新田郡新田町教育委員会

6. 報告書の準備 報告書の作製は1987年度の事業とし、1987年4月1日から1988年3月31日までの期間、群馬県埋蔵文化財調査事業団で実施した。

発掘調査から報告書作成着手まで10年間もの歳月の経過があり、発掘参加者の移動数もかなりにのぼった。報告書作成にあたって発掘担当者との協議の結果、石塚久則が編集責任者として当時の記録類をもとに報告書を作製することとなった。

7. 報告書の作製 本書の執筆のうち第三章 遺物 5. 近世陶磁器については大西雅弘があたり他は石塚久則が担当した。挿図類の実測、製図、版組み作業については下記の方々の協力を得た。

浅井良子 今井智恵美 樺沢禄子 小久保トシ子 木暮明美 佐藤美代子  
 高橋秀子 高橋裕美 生巢由美子 平林照美 柳井さよ里

8. 本遺跡は発掘し、記録したのち河川改修され、遺跡は消滅した。記録された遺構図面、記録写真、調査日誌等の資料、出土した遺物、報告書作製のための遺物実測図等は一括して群馬県埋蔵文化財調査センターに保存、管理してある。研究者及び市民の活用をおねがしたい。

9. 発掘調査から報告書作製に至るまでには多くの方々の御協力があったことを忘れてはいない。酷寒の凍土の中での調査、単調の中にも微密さを要する実測作業、それらの作業に耐えていただいた全ての方々に感謝を捧げたい。



# 凡 例

- 1 報告書** 本書は西今井遺跡の発掘調査のうち群馬県教育委員会が実施した部分の報告書である。

群馬県教育委員会が実施した西今井遺跡の発掘調査の成果は委託者によって2分冊となった。本書は群馬県（土木部河川課）より委託をうけた発掘調査報告書で「早川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」と呼称している。他の1冊は建設省（関東地方建設局高崎工事事務所）より委託をうけた発掘調査報告書で「一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」と呼称し2冊1組として刊行した。
- 2 編集** 2冊の報告書は全体の流れを調査の経過、遺構、遺物、結語の順に並べた。「早川河川改修」に関連する本書は早川河川改修事業予定地域内の竪穴住居と、掘立柱建物、溝、土壌、土器集積の遺構と遺物の報告である。予算的な制約から包含層出土の縄文土器、石器、遺構に伴出しない発掘区表面採集品の土器については掲載を割愛せざるをえなかった。
- 3 遺跡** 遺跡の位置の表記は国家座標の平面直角座標系第Ⅸ系を使用し、高さ基準は標高を使用した。遺跡の基準線は上武道路の計画中心線を基本に、20m毎の番号杭を利用して発掘区を4m×4mの単位として設定した。発掘区設定概念図は「上武道路調査」17頁に掲載してある。
- 4 遺構** 遺構は原則として片頁、又は見開きで完結している。このために全体の遺構の均質化は計れたものの特に遺存良好な遺構については手抜きとして受け取られても止むを得ない箇所が多々生じている。遺構の縮尺は1/60を原則としている。住居の配置は竈を天としてレイアウトした。竈前面の焼土及び炭化物の散布範囲は破線で表現した。床面下の所謂「掘り方」については不鮮明なものが多く特別にその企図が判断されたものに限って表現することにした。
- 5 遺物** 遺構に伴出した遺物については出土位置の明確なものを優先している。又、不用意にも「覆土」や「埋土」なる取扱になってしまった遺物についても器種構成を重視して小破片からも積極的に復元、実測して掲載した。土器は多量に掲載することから現寸図面を1/2に縮尺トレースして1/4の縮尺で報告書に使用した。このため特に調整技法についての表現に不備が目立ち、技法変化の位置にヒゲを出すことにした。土器のうち土師器は断面を白ヌキ、須恵器は黒く塗りつぶした。但し羽釜類などの須恵器については接合痕跡の表現を優先させることから白ヌキとなっている。灰釉陶器類などについては断面は塗りつぶさずに施釉範囲にスクリントーンを貼り付けた。土器の色調の表現については『標準土色帖』農林省農林水産技術会議事務局監修のものを使用した。土器以外のその他の遺物、土錘、砥石や埴輪類などについてはなるべく大きめに表現することにつとめた。発掘された遺物のうち炭化物については管理の怠慢から分析不可能な結果に、また植物質の出土品についても同様な結果を招くことになってしまった。また金属塊については防錆処理済であるものの用途や分析作業はしていない。394土壌出土の馬骨についても鑑定結果を掲載することができなかった。
- 6 補遺** 二年度にわたる発掘調査の期間と原因者別による概要報告書は利用者を混乱させていた。この報告書を正式なものと考えていただきたい。なお、概報類とは発掘区や住居などの遺構の呼称について大幅な変更がある。新旧対照表をつけるべきであったがこれも紙数の都合で割合せざるをえなかった。不明な点などの問い合わせは助群馬県埋蔵文化財調査事業団におねがいしたい。

# 西 今 井 遺 跡

早川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

## 目 次

第Ⅰ章	序 言	1
第Ⅱ章	遺 構	2
	1  竪穴住居の調査（北地区）	2
	2  掘立柱建物の調査	117
	3  溝の調査	138
	4  土壌の調査	142
	5  土器集積の調査	174
第Ⅲ章	遺 物	180
	1  土 器	180
	2  土 錘	296
	3  砥 石	296
	4  その他の遺物	296
	5  近世陶磁器	309
第Ⅳ章	結 語	315



21	住居	7	149号住居	竈	29	住居	6	197号住居	全景	
		8	150号住居	全景			7	197号住居	竈	
		1	151号住居	全景			8	198、199号住居	全景	
		2	152号住居	全景			1	200号住居	全景	
		3	153号住居	全景			2	200号住居	竈	
		4	154号住居	全景			3	201号住居	全景	
		5	155、156号住居	全景			4	201号住居	竈	
		6	155号住居	竈			5	202、203号住居	全景	
22	住居	7	157号住居	全景	6	133号住居内	覆土			
		8	157号住居	竈	7	202号住居	竈			
		1	158号住居	全景	8	203号住居	竈			
		2	158号住居	竈	30	掘立柱建物	1	1号掘立柱建物	東より	
		3	159、160、161号住居	全景			2	2号掘立柱建物	遠景	西より
		4	159号住居	竈			3	2号掘立柱建物	近景	南より
		5	160号住居	竈			4	3号掘立柱建物		南より
		6	162号住居	全景			5	4号掘立柱建物		南より
7	163号住居	全景	6	5号掘立柱建物				南より		
8	163号住居	竈	7	6、8、9、10号掘立柱建物			遠景	南より		
8	164号住居	全景	8	6号掘立柱建物				南より		
23	住居	2	164号住居	竈	31	掘立柱建物	1	7号掘立柱建物	南より	
		3	165、166号住居	全景			2	8号掘立柱建物		西より
		4	166号住居	竈			3	9号掘立柱建物	7号溝	西より
		5	167号住居	全景			4	10号掘立柱建物		南より
		6	167号住居	竈			5	11号掘立柱建物		北より
		7	168号住居	全景			6	12号掘立柱建物		東より
		8	168号住居	竈			7	13号掘立柱建物		北より
		1	170号住居	全景			8	14号掘立柱建物		西より
24	住居	2	170号住居	竈	32	溝	1	1号溝	西より	
		3	171号住居	全景			2	1号溝		西より
		4	171号住居	竈			3	2号溝		南より
		5	172、173号住居	全景			4	2号溝		土層断面
		6	172号住居	竈			5	4、5、6号溝		北西より
		7	173号住居	竈			6	4号溝		西より
		8	174号住居	全景			7	5号溝		西より
		1	175号住居	全景			8	8号溝		北より
25	住居	2	175号住居内	覆土	33	土壙	1	4号土壙		
		3	176、177号住居	全景			2	5号土壙		
		4	178、179、180号住居	全景			3	6～11号土壙		
		5	178号住居	竈			4	13～15号土壙		
		6	181号住居	全景			5	39号土壙		
		7	181号住居	竈			6	40号土壙		
		1	182、184、185号住居	全景			7	41号土壙		
		2	182号住居	竈			8	42号土壙		
26	住居	3	183号住居	全景	34	土壙	1	43号土壙		
		4	183号住居	竈			2	44号土壙		
		5	185号住居	竈			3	45、46号土壙		
		6	186、187、188号住居	全景			4	52号土壙		
		7	186号住居	竈			5	47～49、53、59、61～63、65号土壙		
		8	187号住居	竈			6	59号土壙		
		1	189号住居	全景			7	71号土壙		
		2	189号住居	竈			35	土壙	1	72～83号土壙
3	190号住居	全景	2	73、74号土壙						
4	190号住居	竈	3	85号土壙						
5	191号住居	全景	4	86号土壙						
6	191号住居	竈	5	91(A)、91(B)号土壙						
7	192号住居	全景	6	92号土壙						
8	192号住居	竈	7	101(B)号土壙						
27	住居	1	193号住居	竈	8	147号土壙				
		2	194号住居	全景	36	土壙	1	149号土壙		
		3	194号住居	竈			2	154号土壙		
		4	195、196号住居	全景			3	155号土壙		
		5	196号住居	竈			4	157号土壙		

		5	166(B)号土壙			5	420号土壙
		6	172号土壙			6	421号土壙
		7	168~171、174~179 181~184、187~190号土壙			7	422号土壙
37	土壙	1	180号土壙	45	土壙	8	423号土壙
		2	200号土壙			1	424号土壙
		3	201号土壙			2	425号土壙
		4	203号土壙			3	426号土壙
		5	209号土壙			4	427号土壙
		6	210号土壙			5	428号土壙
		7	211号土壙			6	430号土壙
		8	218号土壙			7	431号土壙
38	土壙	1	263、264、271、275、277、278号土壙	46	土器集積	8	432号土壙
		2	287号土壙			1	1号土器集積 遠景
		3	307号土壙			2	1号土器集積 近景
		4	315、368号土壙			3	2号土器集積 遠景
		5	316号土壙			4	2号土器集積 近景
		6	325号土壙			5	3号土器集積
		7	335、369号土壙			6	3号土器集積
		8	343号土壙			7	4号土器集積
39	土壙	1	344号土壙	47	遺物	8	5号土器集積
		2	345号土壙			1	土師器 杯 0479 S B 085
		3	346号土壙			2	須惠器 椀 0480 S B 085
		4	347号土壙			3	須惠器 杯 0484 S B 086
		5	348号土壙			4	須惠器 高台杯 0486 S B 086
		6	349号土壙			5	須惠器 足高椀 0487 S B 086
		7	350号土壙			6	須惠器 高台杯 0488 S B 086
		8	351号土壙			7	土師器 丸甕 0494 S B 086
40	土壙	1	352号土壙	48	遺物	8	須惠器 杯 0497 S B 087
		2	353号土壙			1	須惠器 高台杯 0498 S B 087
		3	354、355号土壙			2	須惠器 高台杯 0500 S B 087
		4	356号土壙			3	須惠器 杯 0513 S B 090
		5	357号土壙			4	須惠器 椀 0514 S B 090
		6	358号土壙			5	土師器 椀 0524 S B 092
		7	359号土壙			6	土師器 椀 0530 S B 092
		8	381号土壙			7	土師器 椀 0535 S B 092
41	土壙	1	383、384号土壙	49	遺物	8	土師器 椀 0546 S B 094
		2	385号土壙			1	土師器 椀 0547 S B 094
		3	386号土壙			2	土師器 椀 0548 S B 094
		4	387号土壙			3	土師器 椀 0549 S B 094
		5	389号土壙			4	土師器 椀 0550 S B 094
		6	390号土壙			5	土師器 椀 0552 S B 094
		7	391号土壙			6	土師器 椀 0553 S B 094
		8	394号土壙			7	須惠器 蓋 0555 S B 094
42	土壙	1	396号土壙	50	遺物	8	須惠器 椀 0559 S B 094
		2	397号土壙			1	須惠器 杯 0560 S B 094
		3	398号土壙			2	須惠器 杯 0561 S B 094
		4	399、400号土壙			3	土師器 丸甕 0566 S B 094
		5	401号土壙			4	土師器 椀 0580 S B 098
		6	404号土壙			5	土師器 椀 0581 S B 098
43	土壙	1	405号土壙			6	須惠器 杯 0582 S B 098
		2	406、407号土壙			7	須惠器 杯 0583 S B 098
		3	408号土壙			8	須惠器 高台杯 0586 S B 099
		4	409号土壙	51	遺物	1	土師器 椀 0607 S B 104
		5	410号土壙			2	土師器 長甕 0624 S B 105
		6	411号土壙			3	須惠器 高台杯 0652 S B 112
		7	412号土壙			4	須惠器 高台杯 0653 S B 112
		8	413号土壙			5	須惠器 杯 0670 S B 115
44	土壙	1	414号土壙			6	須惠器 椀 0676 S B 117
		2	415号土壙			7	須惠器 高台杯 0677 S B 117
		3	417~419号土壙	52	遺物	8	土師器 長甕 0679 S B 117
		4	417号土壙			1	須惠器 杯 0687 S B 118
						2	須惠器 羽釜 0707 S B 124



		7	須恵器	椀	1758	5号土器集積
		8	須恵器	椀	1759	5号土器集積
68	遺物	1	須恵器	椀	1761	5号土器集積
		2	須恵器	椀	1762	5号土器集積
		3	須恵器	椀	1764	5号土器集積
		4	須恵器	椀	1765	5号土器集積
		5	須恵器	椀	1766	5号土器集積
		6	須恵器	椀	1767	5号土器集積
		7	須恵器	椀	1768	5号土器集積
		8	須恵器	椀	1770	5号土器集積
69	遺物	1	土錘			
		2	砥石			
		3	砥石			
		4	平瓦			
		5	埴輪			
		6	紡錘車	石錘		
		7	支脚			
		8	羽口	4012	S B 128	
70	遺物	1	磁器	染付碗	5005	S D 008
		2	陶器	染付碗	5006	S D 008

		3	陶器	染付碗	5007	S D 008
		4	陶器	碗	5008	S D 008
		5	陶器	飴釉碗	5009	S D 008
		6	陶器	腰鑄碗	5010	S D 008
		7	陶器	陶胎上絵付丸碗	5015	S D 008
		8	陶器	筒形碗	5017	S D 008
71	遺物	1	陶器皿	(正面)	5020	S D 008
		2	陶器皿	(内面)	5020	S D 008
		3	磁器	染付皿	5025	S D 008
		4	陶器	灰釉碗	5022	S D 008
		5	陶器	片口鉢	5027	S D 008
		6	陶器	飴釉德利	5028	S D 008
		7	陶器	飴釉德利	5029	S D 008
72	遺物	1	陶器	鉄釉德利	5030	S D 008
		2	陶器	鉄釉德利	5031	S D 008
		3	陶器	ひょうそく	5034	S D 008
		4	磁器	染付碗	5023	S D 008
		5	磁器	染付碗	5043	B - 159
		6	陶器	片口鉢	5055	B - 159

## 挿 図 (Fig.)

1	住居分布(1) Ⅲ、Ⅳ区 S B 084 ~ S B 175	3	37	第121号竪穴住居	38	75	第163号竪穴住居	77
2	住居分布(2) Ⅵ区 S B 176 ~ S B 203	4	38	第122号竪穴住居	39	76	第164号竪穴住居	78
3	第84、85号竪穴住居	5	39	第123号竪穴住居	40	77	第165号竪穴住居	79
4	第86、87号竪穴住居	6	40	第124号竪穴住居	41	78	第166号竪穴住居	80
5	第88号竪穴住居	7	41	第125号竪穴住居	42	79	第167号竪穴住居	81
6	第89号竪穴住居	8	42	第126号竪穴住居	43	80	第168号竪穴住居	82
7	第90号竪穴住居	9	43	第127号竪穴住居	44	81	第169号竪穴住居	83
8	第91号竪穴住居	10	44	第128号竪穴住居	45	82	第170号竪穴住居	84
9	第92、93号竪穴住居(1)	11	45	第129号竪穴住居	46	83	第171号竪穴住居	85
10	第92、93号竪穴住居(2)	12	46	第130号竪穴住居	47	84	第172号竪穴住居	86
11	第94号竪穴住居(1)	13	47	第131号竪穴住居	48	85	第173号竪穴住居	86
12	第94号竪穴住居(2)	14	48	第132号竪穴住居	49	86	第174号竪穴住居	87
13	第94号竪穴住居(3)	15	49	第133号竪穴住居	50	87	第175号竪穴住居	88
14	第95号竪穴住居	16	50	第134号竪穴住居	51	88	第176号竪穴住居	89
15	第96号竪穴住居	16	51	第135号竪穴住居	52	89	第177号竪穴住居	90
16	第97号竪穴住居	17	52	第136号竪穴住居	53	90	第178号竪穴住居	91
17	第98号竪穴住居	18	53	第137号竪穴住居	54	91	第179号竪穴住居	92
18	第99号竪穴住居	19	54	第138号竪穴住居	55	92	第180号竪穴住居	93
19	第100号竪穴住居	19	55	第139号竪穴住居	56	93	第181号竪穴住居	94
20	第101号竪穴住居	20	56	第140号竪穴住居	57	94	第182号竪穴住居	95
21	第102号竪穴住居	21	57	第141号竪穴住居	58	95	第183号竪穴住居	96
22	第103号竪穴住居	22	58	第142号竪穴住居	59	96	第184号竪穴住居	97
23	第104号竪穴住居	23	59	第143、144、145号竪穴住居	61	97	第185号竪穴住居	98
24	第105号竪穴住居	24	60	第146号竪穴住居	62	98	第186号竪穴住居	99
25	第106、107、108号竪穴住居	26	61	第147号竪穴住居	63	99	第187号竪穴住居	100
26	第109号竪穴住居	27	62	第148号竪穴住居	64	100	第188号竪穴住居	101
27	第110号竪穴住居	28	63	第149号竪穴住居	65	101	第189号竪穴住居	102
28	第111号竪穴住居	29	64	第150、151、152号竪穴住居	66	102	第190号竪穴住居	103
29	第112号竪穴住居	30	65	第153号竪穴住居	67	103	第191号竪穴住居	104
30	第113号竪穴住居	31	66	第154号竪穴住居	68	104	第192号竪穴住居	105
31	第114号竪穴住居	32	67	第155号竪穴住居	69	105	第193号竪穴住居	106
32	第115号竪穴住居	33	68	第156号竪穴住居	70	106	第194号竪穴住居	107
33	第116、117号竪穴住居	34	69	第157号竪穴住居	71	107	第195号竪穴住居	108
34	第118号竪穴住居	35	70	第158号竪穴住居	72	108	第196号竪穴住居	109
35	第119号竪穴住居	36	71	第159号竪穴住居	73	109	第197号竪穴住居	110
36	第120号竪穴住居	37	72	第160号竪穴住居	74	110	第198、199号竪穴住居	111
			73	第161号竪穴住居	75	111	第200号竪穴住居	112
			74	第162号竪穴住居	76	112	第201号竪穴住居	113

113	第202号竪穴住居	114	146	土壙集成図10	152	179	土器実測図(25)	206
114	第203号竪穴住居	115	147	土壙集成図11	153	180	土器実測図(26)	207
115	第1号掘立柱建物(1)	118	148	土壙集成図12	154	181	土器実測図(27)	208
116	第1号掘立柱建物(2)	119	149	土壙集成図13	155	182	土器実測図(28)	209
117	第2号掘立柱建物(1)	120	150	第1号土器集積	175	183	土器実測図(29)	210
118	第2号掘立柱建物(2)	121	151	第2号土器集積	176	184	土器実測図(30)	211
119	第3号掘立柱建物	122	152	第3号土器集積	177	185	土器実測図(31)	212
120	第4号掘立柱建物(1)	123	153	第4号土器集積	178	186	土器実測図(32)	213
121	第4号掘立柱建物(2)	124	154	第5号土器集積	179	187	土器実測図(33)	214
122	第5号掘立柱建物	125	155	土器実測図(1)	182	188	土器実測図(34)	215
123	第6号掘立柱建物	126	156	土器実測図(2)	183	189	土器実測図(35)	216
124	第7号掘立柱建物	127	157	土器実測図(3)	184	190	土器実測図(36)	217
125	第8号掘立柱建物(1)	128	158	土器実測図(4)	185	191	土器実測図(37)	218
126	第8号掘立柱建物(2)	129	159	土器実測図(5)	186	192	土器実測図(38)	219
127	第9号掘立柱建物(1)	130	160	土器実測図(6)	187	193	土器実測図(39)	220
128	第9号掘立柱建物(2)	131	161	土器実測図(7)	188	194	土器実測図(40)	221
129	第10号掘立柱建物(1)	132	162	土器実測図(8)	189	195	土器実測図(41)	222
130	第10号掘立柱建物(2)	133	163	土器実測図(9)	190	196	土器実測図(42)	223
131	第11号掘立柱建物	134	164	土器実測図(10)	191	197	土器実測図(43)	224
132	第12号掘立柱建物	135	165	土器実測図(11)	192	198	土器実測図(44)	225
133	第13号掘立柱建物	136	166	土器実測図(12)	193	199	遺物実測図(1) 土錘	297
134	第14号掘立柱建物	137	167	土器実測図(13)	194	200	遺物実測図(2) 土錘	298
135	第1、2、3号溝実測図	139	168	土器実測図(14)	195	201	遺物実測図(3) 土錘	299
136	第4、5、6、7、8号 溝実測図	141	169	土器実測図(15)	196	202	遺物実測図(4) 砥石	300
137	土壙集成図1	143	170	土器実測図(16)	197	203	遺物実測図(5) 砥石	301
138	土壙集成図2	144	171	土器実測図(17)	198	204	遺物実測図(6) 埴輪他	302
139	土壙集成図3	144	172	土器実測図(18)	199	205	遺物実測図(7) 支脚他	303
140	土壙集成図4	145	173	土器実測図(19)	200	206	遺物実測図(8) 埴輪他	304
141	土壙集成図5	147	174	土器実測図(20)	201	207	近世陶磁器実測図(1)	310
142	土壙集成図6	148	175	土器実測図(21)	202	208	近世陶磁器実測図(2)	311
143	土壙集成図7	149	176	土器実測図(22)	203	209	地形と遺跡	316
144	土壙集成図8	150	177	土器実測図(23)	204	210	遺跡における土器片の密度	317
145	土壙集成図9	151	178	土器実測図(24)	205	211	西今井遺跡出土の土器群	321

表 (Tab.)

1	土壙形態一覧	156~165
2	土壙土層一覧	166~173
3	土器観察一覧	226~290
4	土器分類一覧	291~295
5	土錘観察表	305~307
6	砥石観察表	307
7	遺物観察表(その他の遺物)	308
8	近世陶磁器観察表	312~314
9	西今井遺跡検出の遺構	315
10	西今井遺跡出土土器の総点数	318
11	西今井遺跡土器分類表	320
12	西今井住居出土の土器組成	322~325
13	西今井出土土器頻度表	326

付 図 (No.)

- 1 発掘区全体図(竪穴住居) S = 1/600
- 2 発掘区全体図(掘立柱建物、溝、土壙、土器集積) S = 1/600



# 第Ⅰ章 序 言

昭和46年、埼玉県深谷市から群馬県前橋市に至る一般国道17号バイパス『上武道路』の計画路線が発表された。佐波郡境町地域内を流れる早川は大間々扇状地を北西方向から南東方向へ斜に横切るように大きく蛇行を繰り返す河川であった。『上武道路』が計画されるにあたり川幅の狭さと流路の蛇行から溢水の多かった本川の改修工事も併行して群馬県土木部河川課により実施されることになった。

ところが本地域は「西今井遺跡」の呼称で既に遺跡台帳にも登録されており上武道路の計画地域内にもその分布は広がっていることが周知されていたのである。そこで昭和48年11月時点で昭和49年度事業として埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施することで予算措置がなされていたが用地確保や上武道路の工事工程の変更で調査は50年、51年度に大きくずれこまざるを得なくなった。河川改修工事は早川第二橋梁及び附帯工事を昭和52年度に実施することを前提としており、先の計画の延伸したこともあって52年8月に基本設計、9月に工事計画の調整作業、10月に工事着工の工程計画に合わせる形で埋蔵文化財の発掘調査も具体化することになった。まず西今井遺跡の上流部から下流部にかけて順次発掘調査を進めることで計画が立てられた。しかし用地確保の進捗状況の遅延や、遺跡地が沖積の黒色土層中に存在するといった発掘調査上の悪条件が重なった。そのため河川改修工事計画に合わせる事が困難となり、日程の変更を余儀なくされることもあった。

発掘調査は昭和50年度、51年度の2年次にわたり継続して第5次まで実施した。第一次発掘調査は主として試掘調査に費やし、50年7月28日から50年9月13日まで実施した。第二次発掘調査は主としてⅣ区の発掘調査に主力が置かれ50年9月16日から51年3月13日まで実施した。第三次発掘調査は主としてⅢ区、Ⅵ区の発掘調査に主力が置かれ51年3月19日から51年9月25日まで実施した。第四次発掘調査は51年9月27日から51年11月6日までの間Ⅱ区に主力が注がれたが遺構の検出がみられなかった。第五次発掘調査は主としてⅠ区、Ⅳ区の発掘調査に主力が置かれ51年11月8日から52年1月22日まで実施した。(発掘調査の詳細な日程は「上武道路」発掘調査報告書の第Ⅱ章の2、調査日誌20～22頁によりたい。)

発掘調査区域は地形の変化に合わせて六区分した。区分順序は上武道路の基準杭の若い番号から順に分類しており、西今井館方向から早川に流入する排水口より東側をⅠ区、西今井館への旧取水口である早川からの分岐水路までの東側をⅡ区、Ⅲ区、Ⅳ区と2本の道路で更に区分した。Ⅴ区は西今井館への旧取水口、現取水口に囲まれた地域、Ⅵ区は早川の蛇行により切り離された地域である。発掘調査の予定面積は約48,000㎡であった。試掘結果、その後の調査時における調査不可能地域、生活道路などを除く、実調査面積は26,500㎡であった。予定面積の55%を発掘調査したことになる。(発掘区域の設定、及び区分方法については、「上武道路」発掘調査報告書の第Ⅱ章の1、調査の概要16～19頁によりたい。)

発掘調査時に特に注意をしたことに地形の調査と堆積土層の検討があった。それは重複する遺構群の切り合い関係からみた沖積地形成の過程や、早川の新旧河道の歴史の変遷の復元を目的としたものであった。相当量の土層図面を広域に記録したつもりであったが、隣接する三ツ木遺跡、境町教育委員会調査による西今井遺跡の調査成果との比較なども検証しなければならないことや、前述の土層図面の広域な対応作業の困難さなども加わって今回の報告書に登載することができなかった。近い将来その成果を報告するつもりである。

西今井遺跡周辺の遺跡分布については『上武道路』報告書の第Ⅰ章、2の「遺跡の立地と環境」5～15頁を参照願いたい。

## 第Ⅱ章 遺 構

### 1. 竪穴住居の調査（北地区）

I区は上武道路中心杭No323～No332の間である。北側を蛇行する早川の旧河道の痕跡で攪乱をうけており、また屎尿処理の投棄場所となっていたことから発掘区域は大幅な制限を余儀なくされた。発掘実面積は6,980㎡である。特にNo328の北方は40m以下の標高が走り凹地をなしている。またNo323の北側は現早川が流れており、調査区域の幅が最も狭い。住居の分布は1号住居を中心とした3軒、5～18号住居を中心とした15軒、単独で検出した19号住居、20～24号住居を中心とした4箇所分布している。特に中央に分布した住居の集中地域の北方には既に早川によって削り取られてしまった住居群の存在が推定される。

II区は上武道路中心杭No332～No335の間である。この地区は標高42.5m～標高41.5mと傾斜が強い。住居の分布は標高42.5mから標高42mの約50cmの傾斜の中に分布が認められる。25号住居を中心とした4軒と30号住居を中心とした14軒の2箇所に集落の分布は集中しており、実調査面積は5,200㎡であった。特に30号住居の集団はIII区の集団と同一グループに属していると考えられる。

III区は上武道路中心杭No335～No338の間の4,180㎡が調査面積である。この地域は標高42.5mから標高42mの比高差50cmの範囲に住居が分布する。43号住居を中心に7軒、48号住居を中心に4軒、94号住居を中心に30軒の住居が分布している。

IV区は上武道路中心杭No338～No343の間の6,400㎡が発掘調査面積である。住居の分布は標高42.5mから標高41.5mの範囲に集中している。50号住居を中心に9軒、70号住居を中心に11軒、80号住居を中心に5軒、130号住居を中心に21軒、140号住居を中心に9軒、160号住居を中心に13軒、170号住居を中心に10軒、175号住居を中心に2軒と8箇所にまとまりが分けられる。

V区は上武道路中心杭No343～No347の間の2,000㎡が発掘実面積であった。西今井館へ取水したと考えられる2本の水路跡に挟まれた狭小な低地帯である。標高42mから42.5mの比高差に位置していた。当初この館に関連する遺構の検出が期待されたが想像以上に河川の氾濫による攪乱がひどく遺構の検出は皆無であった。しかし旧河道又は掘り込みの用水路と考えられていた二本の水路の性格解明のための調査は当時の調査技術の水準ではとても予測できなかった。

VI区は上武道路中心杭No347～No351の間の1,740㎡が発掘調査実面積である。早川は特にこの地区で大きく蛇行を繰り返しており、東側より新田町地籍の地形が舌状に延びてきている。発掘区域は標高42mから標高42.5mの間に占地する。調査面積は少なかったが検出された住居は多い。180号住居を中心に6軒、190号住居を中心に14軒、200号住居を中心に8軒が分布している。

もちろんこれは発掘区域内の住居の痕跡をただのまとまりの傾向としてまとめたにすぎない。早川河川改修予定地域と上武道路予定幅を合わせた幅が約80m、長さ約550mの面積のうちの約60%の面積である。この地域の標高は上武道路中心杭No350の西側が43m以上の最高点を示し、中心杭No313の東側が40m以下の最低点を示し、北西から南東に蛇行を繰り返した各時代毎の流路変化がどんな集落立地の条件を規定したものかを判断するには手持ちの資料ではあまりにも少なく心もとない。

1 竖穴住居の調査（北地区）

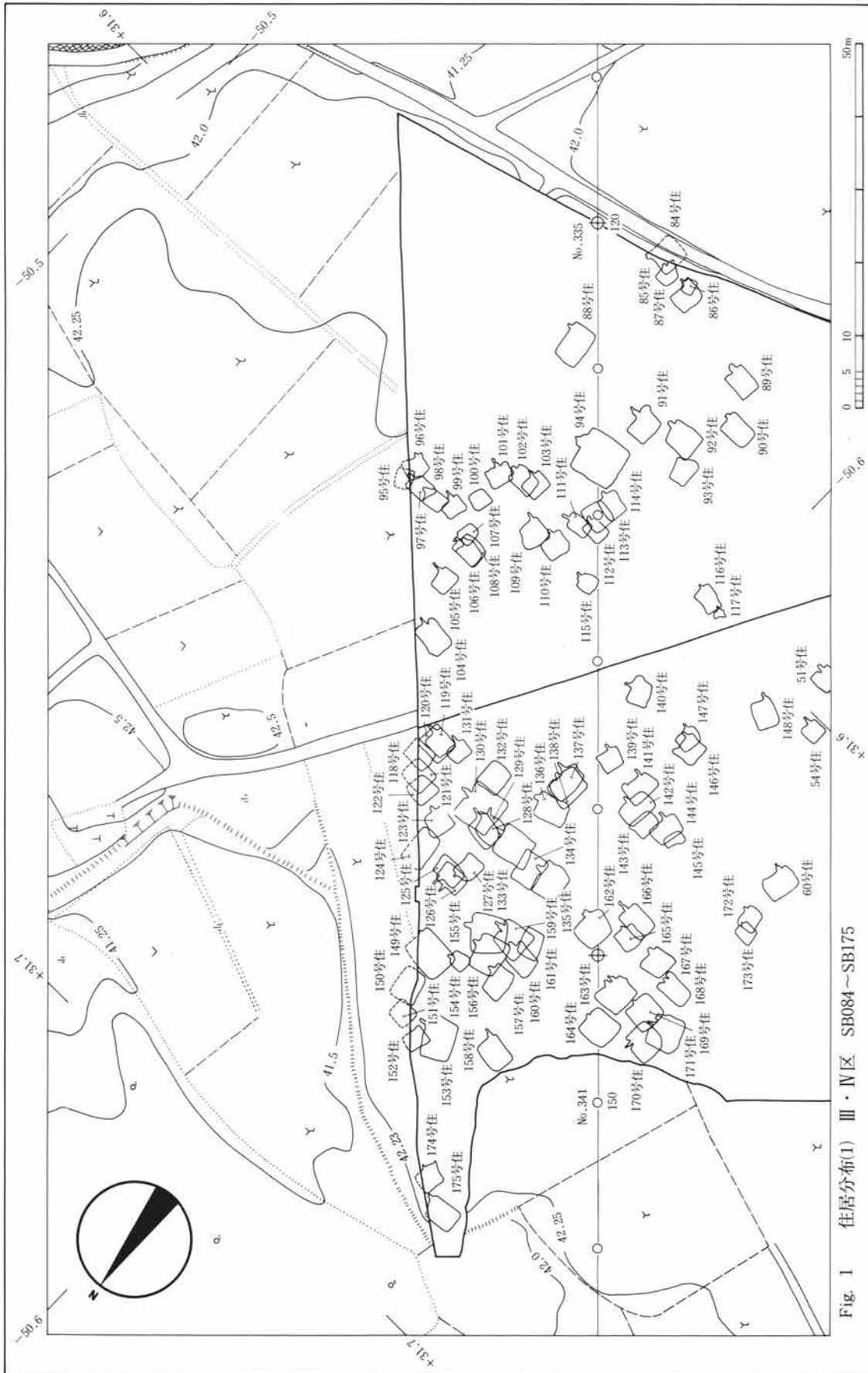


Fig. 1 住居分布(1) Ⅲ・Ⅳ区 SB084～SB175

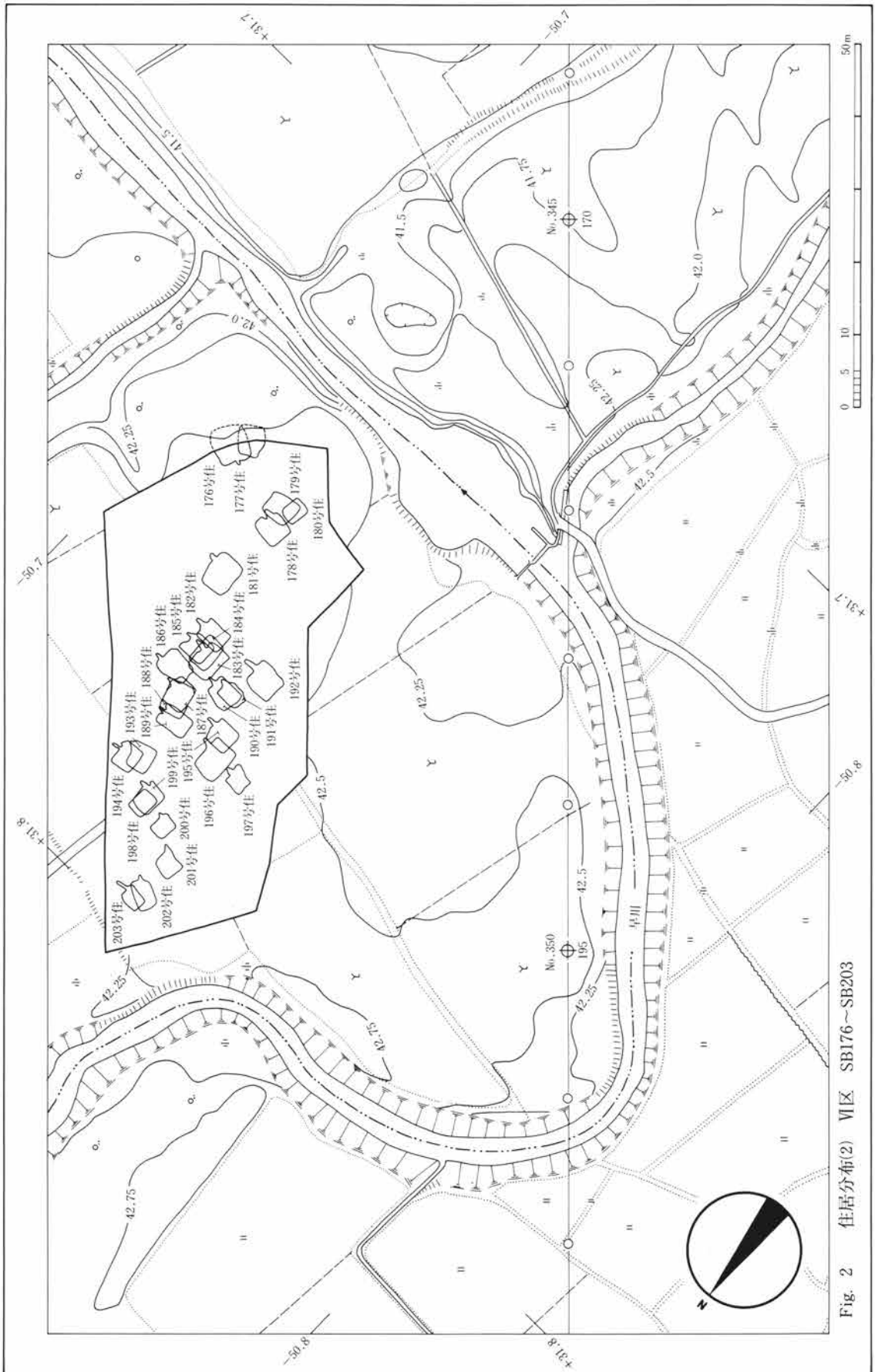


Fig. 2 住居分布(2) VI区 SB176~SB203

84号住居 SB084（遺構 PL. 8、遺物 Fig. 155、土層 116p）

発掘区Ⅲ区のN121に位置する。平面形は正方形、縦4.09m、横4.02mを測り、面積は約16.4㎡である。住居の方位はN-92°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は21cm、周溝はなく、床面高は41.52mである。85号住居に切られている。本住居の大半が発掘区域外にあり復元値が多い。出土遺物は須恵器杯蓋である。

85号住居 SB085（遺構 PL. 8、遺物 Fig. 155、土層 116p）

発掘区Ⅲ区のM121に位置する。平面形は横長形、縦2.50m、横3.10mを測り、面積は約7.8㎡である。住居の方位はN-92°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は20cm、周溝はなく、床面高は41.52mである。84号住居を切って住居を作っている。竈の右角部分は発掘区域外のため未調査である。床面から不定形で浅い土壌が穿たれている。出土遺物は土師器の椀と直線胴甕、須恵器の杯、椀である。

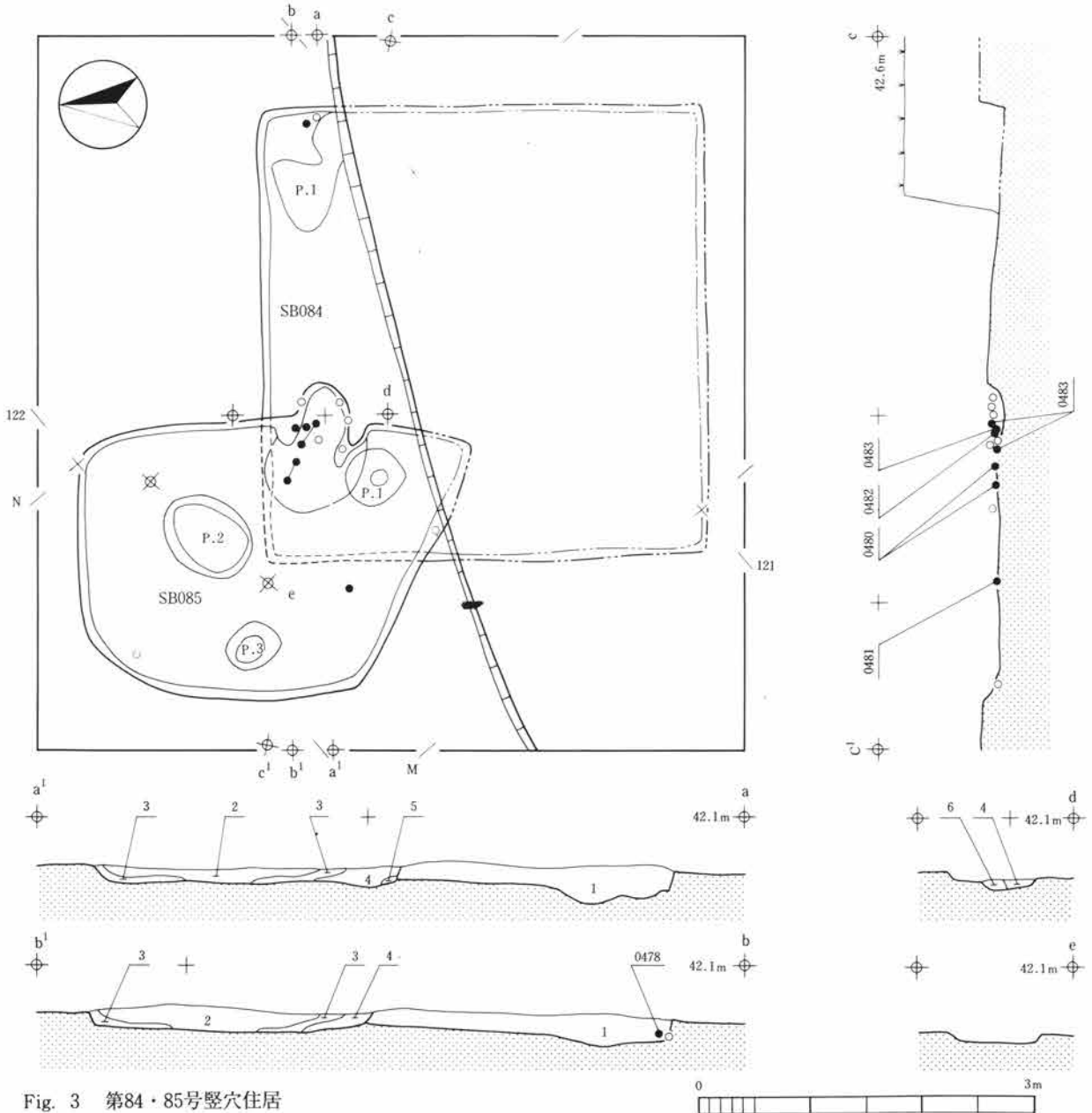


Fig. 3 第84・85号竪穴住居

86号住居 SB086 (遺構 PL. 8、遺物 PL. 47)

発掘区Ⅲ区のL122に位置する。平面形は横長形、縦1.71m、横1.98mを測り、面積は約3.4m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-82°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は12cm、周溝はなく、床面高は41.61mである。覆土は12層に分けられた。1～4層は住居内覆土、5層は攪乱、11層は床面上の炭化物層、6～10、12層は87号住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層、2、3層褐色土層、4層炭層、5層暗褐色土層、6層黒褐色土層、7層暗褐色土層、8層灰褐色土層、9層暗褐色土層、10層黄褐色土層、11層炭化層、12層暗褐色土層である。住居竈前右に貯蔵穴があり平面形は偏長方形で長軸70cm×短軸37cm、深さ11cmを測る。出土した土器は13点を数える。土師器は5点である。須恵器は8点で、土師質の高台杯が多い。

87号住居 SB087 (遺構 PL. 8、遺物 PL. 47、48、Fig. 155)

発掘区Ⅲ区のM123に位置する。平面形は横長形、縦2.85m、横3.81mを測り、面積は約10.9m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-101°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は28cm、周溝はなく、床面高は41.45mである。覆土は12層に分けられた。1～4層は86号住居内覆土、5層は攪乱、6～10、11層は床面上の炭化物層、12層は住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層、2、3層褐色土層、4層炭層、5層暗褐色土層、6層黒褐色土層、7層暗褐色土層、8層灰褐色土層、9層暗褐色土層、10層黄褐色土層、11層炭化層、12層暗褐色土層である。86号住居が浅く乗っているが、竈部分が重複し、出土遺物の検出が不充分となっている。出土の土器は土師器が2点、須恵器が6点である。須恵器でにぶい茶橙色を呈する土師質の高台杯が多い。

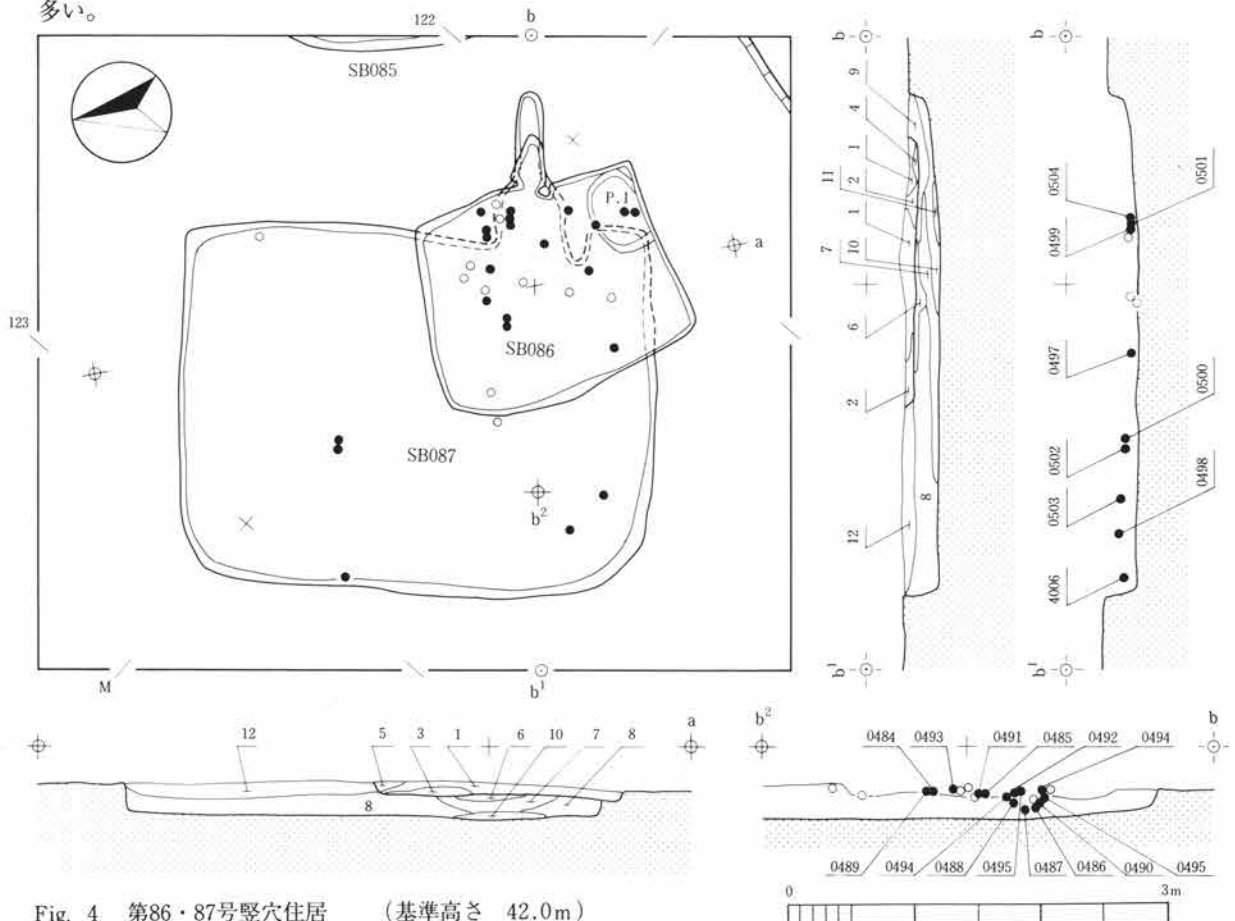


Fig. 4 第86・87号竪穴住居 (基準高さ 42.0m)

88号住居 SB088（遺構 PL. 8、遺物 Fig. 156）

発掘区Ⅲ区のQ123に位置する。平面形は横長形、縦3.62m、横5.43mを測り、面積は約19.7㎡である。住居の方位はN-88°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は14cm、周溝はなく、床面高は41.19mである。覆土は4層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯崩落土、3、4層は住居床面下のピット埋土である。土質は1層焼土粒及び炭化物を含む灰褐色土層、2層は1層より粘性が強い層、3層粘土粒をまばらに含む砂質土層、4層は3層内に灰褐色土ブロックを混入する層である。住居の竈前には床下ピットがあり平面形は不定形で深さは61.5cmを測る。その他に小ピットが床面上より穿たれている。なお、竈前から床面中央部分に踏みかためられた面が確認されている。出土遺物は竈周辺に集中して出土している。復元した土器は7点である。土師器は長胴の甕が2種類、丸い胴の甕、他に須恵質の長胴も出土している。須恵器は皿は高台の無いもの1点と杯蓋が1点出土している。その他に土錘が2点出土している。

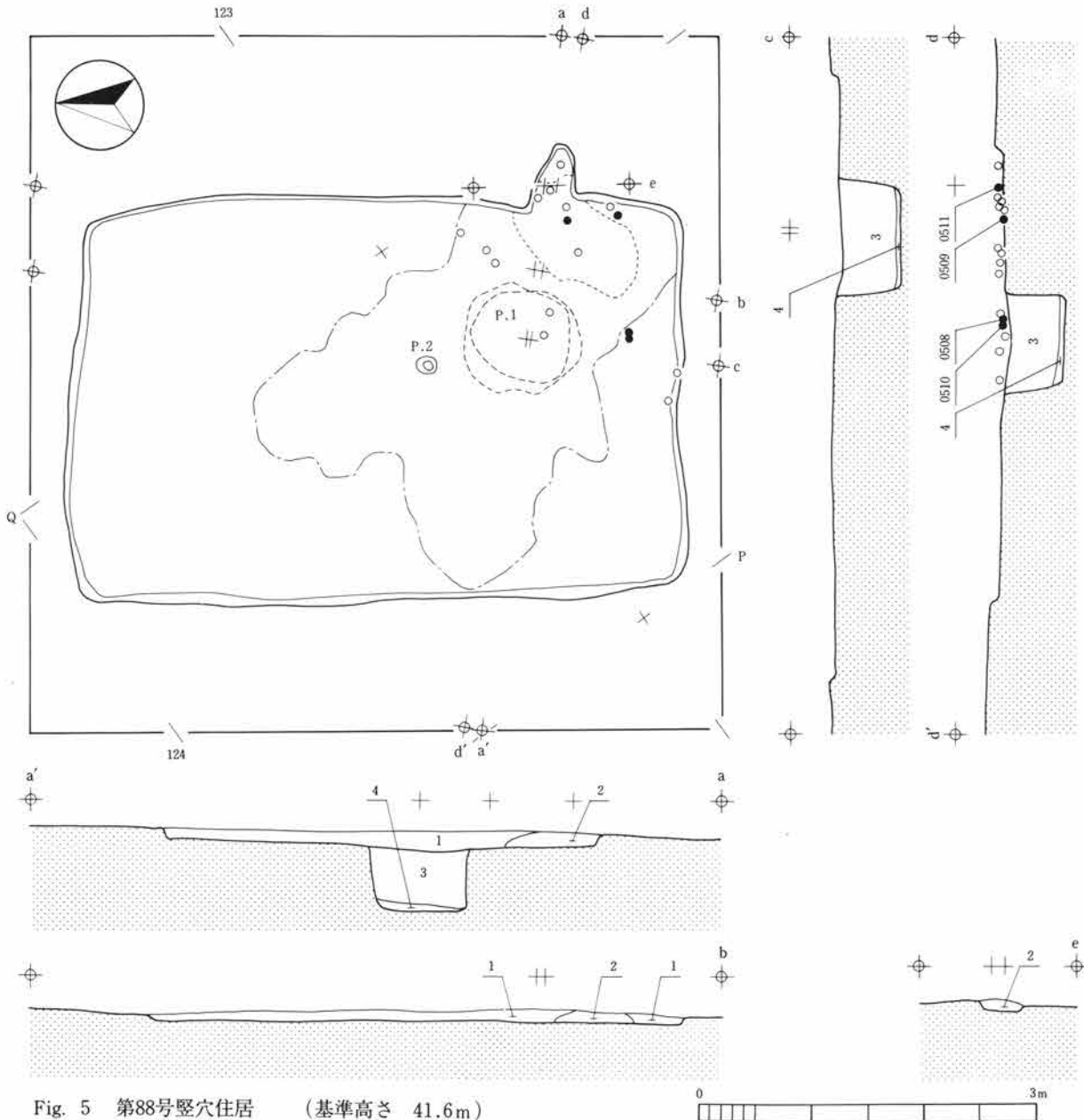


Fig. 5 第88号竪穴住居（基準高さ 41.6m）

89号住居 SB089 (遺構 PL. 9、遺物 Fig. 156)

発掘区Ⅲ区のK125に位置する。平面形は縦長形、縦3.86m、横3.15mを測り、面積は約12.2㎡である。住居の方位はN-103°-Eを取り、竈は東壁中央に付設される。確認された壁高は10cm、周溝はなく、床面高は41.58mである。覆土は4層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯体埋没土、3層は窯構築材、4層は窯底面の土層である。土質は1層軽石、粘土粒を含む暗褐色土層、2層焼土ブロックを含む暗褐色土層、3層暗褐色土層で焼土と若干の炭化粒を含む層、4層焼土、多量の炭化物を含む黒色土層である。住居の竈前には床上の1号ピットがあり平面形は楕円形で長軸41cm×短軸27cm、深さは27.5cmである。2号ピットは竈前にある床上のピットで平面形は一辺31cmの方形で深さは26cmである。全体的に掘り込みが浅いために床面上の遺物の出土も少ないものと判断された。数点の土器片が出土したものの破片であるために図示できなかった。図示しえたものは住居覆土からの一括遺物で須恵器の瓶が1点のみであった。

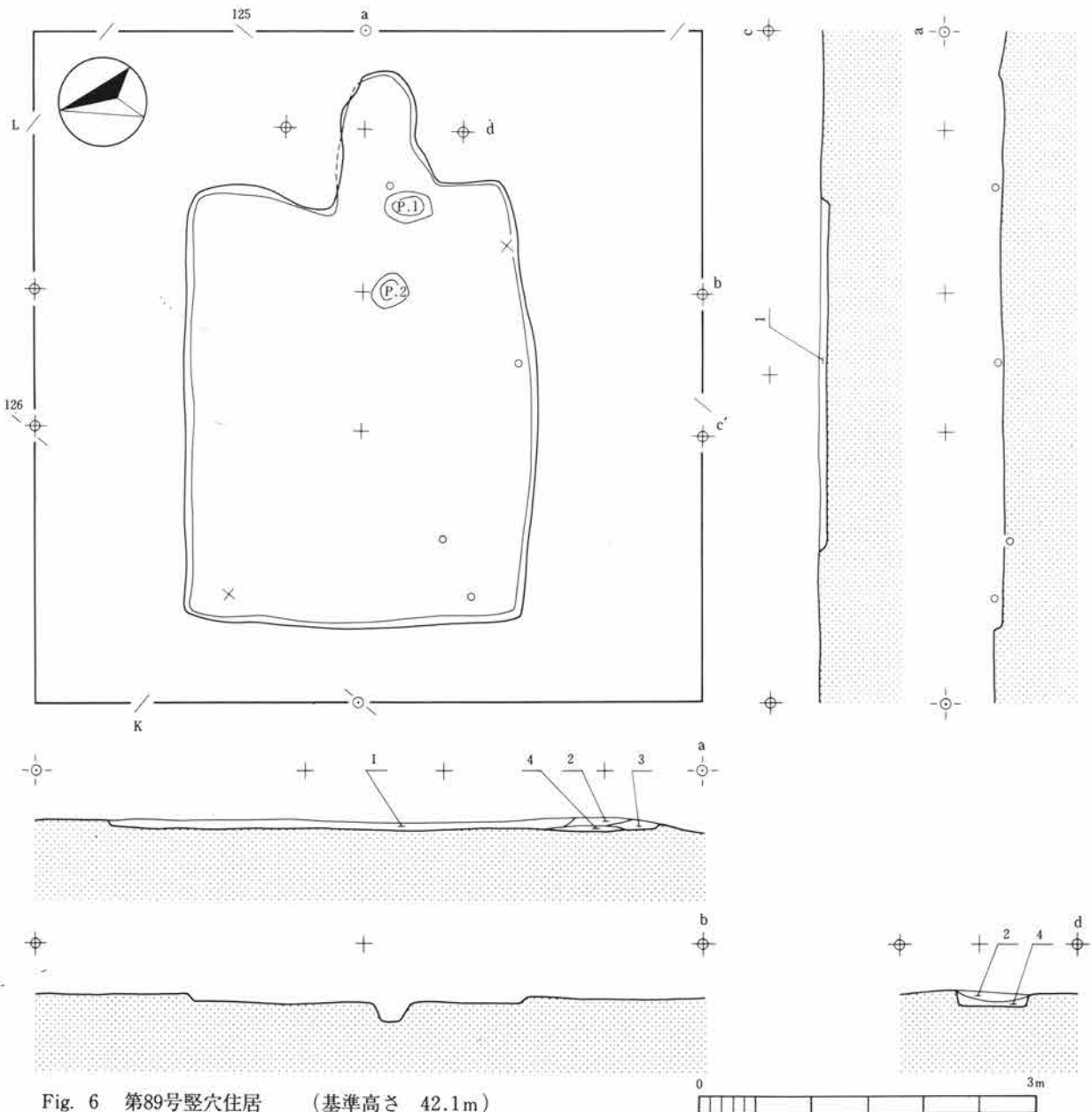


Fig. 6 第89号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)



90号住居 S B 090 (遺構 PL. 9、遺物 PL. 48、Fig. 156)

発掘区Ⅲ区のK 127に位置する。平面形は縦長形、縦4.08m、横3.08mを測り、面積は約12.6㎡である。住居の方位はN-97°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は18cm、周溝はなく、床面高は41.47mである。覆土は9層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3層は窯崩落土、4層は窯構築材、5、7、8層は窯底面の土層、6層は窯前面の土層、9層は住居床面下のピット埋土である。土質は1層暗褐色土層で粘土粒、炭化粒、軽石、砂質を含む。2層暗褐色土層で砂と地山の黒褐色土との混合土層、3層焼土ブロック、4層砂層、5層焼土と砂との混合土層、6層黒褐色土層で焼土、炭化物、炭化粒の混合土層、7層暗褐色土層砂と炭化粒との混合土層、8層暗褐色土層、9層は未確認である。住居竈前には床下ピットがあり平面形は長方形で長軸90cm×短軸49cm、深さ22cmを測る。住居北側には113、116号土壌が穿たれている。西側には3号住居掘立柱遺物の柱穴が並ぶ。北寄りの柱穴No 3と南寄りの柱穴No 6が本住居と重複している。

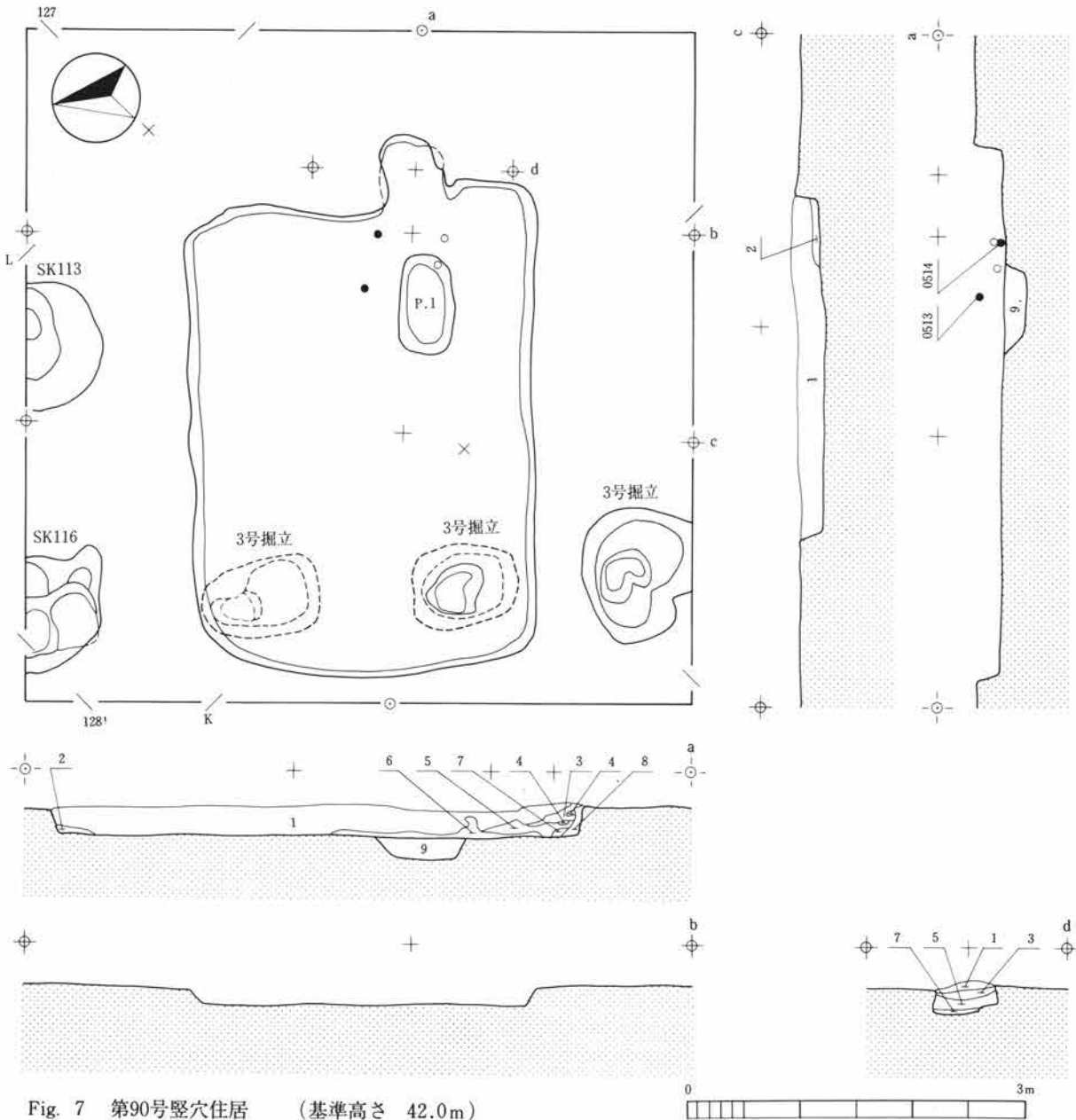


Fig. 7 第90号竪穴住居 (基準高さ 42.0m)

91号住居 S B 091 (遺構 PL. 9、遺物 Fig. 156)

発掘区Ⅲ区のN127に位置する。平面形は横長形、縦3.02m、横4.04mを測り、面積は約12.2m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-98°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は19cm、周溝はなく、床面高は41.66mである。覆土は4層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯崩落土、3層は窯体埋没土、4層は窯底面の土層である。土質は1層暗褐色土層で炭化物、軽石、鉄分を含む層、2層暗褐色土層で多量の焼土ブロックを混入する。3層暗褐色土層で多量の砂を混入する層、4層黒色土層で炭化物、焼土、灰との混合土層である。住居竈前右に貯蔵穴があり平面形は楕円形で長軸81cm×短軸59cm、深さ15.5cmを測る。平面形は横長形としたものの南東隅、竈右側の貯蔵穴部分は大きく外側にはみだして丸い。窯の平面形は燃烧部分と煙道部分に分かれており右袖側は崩れて歪む。出土した土器の分布は竈内及び貯蔵穴の周辺に集中する。出土した土器の器種は土師器の椀、長甕、丸甕、須恵器の椀などである。

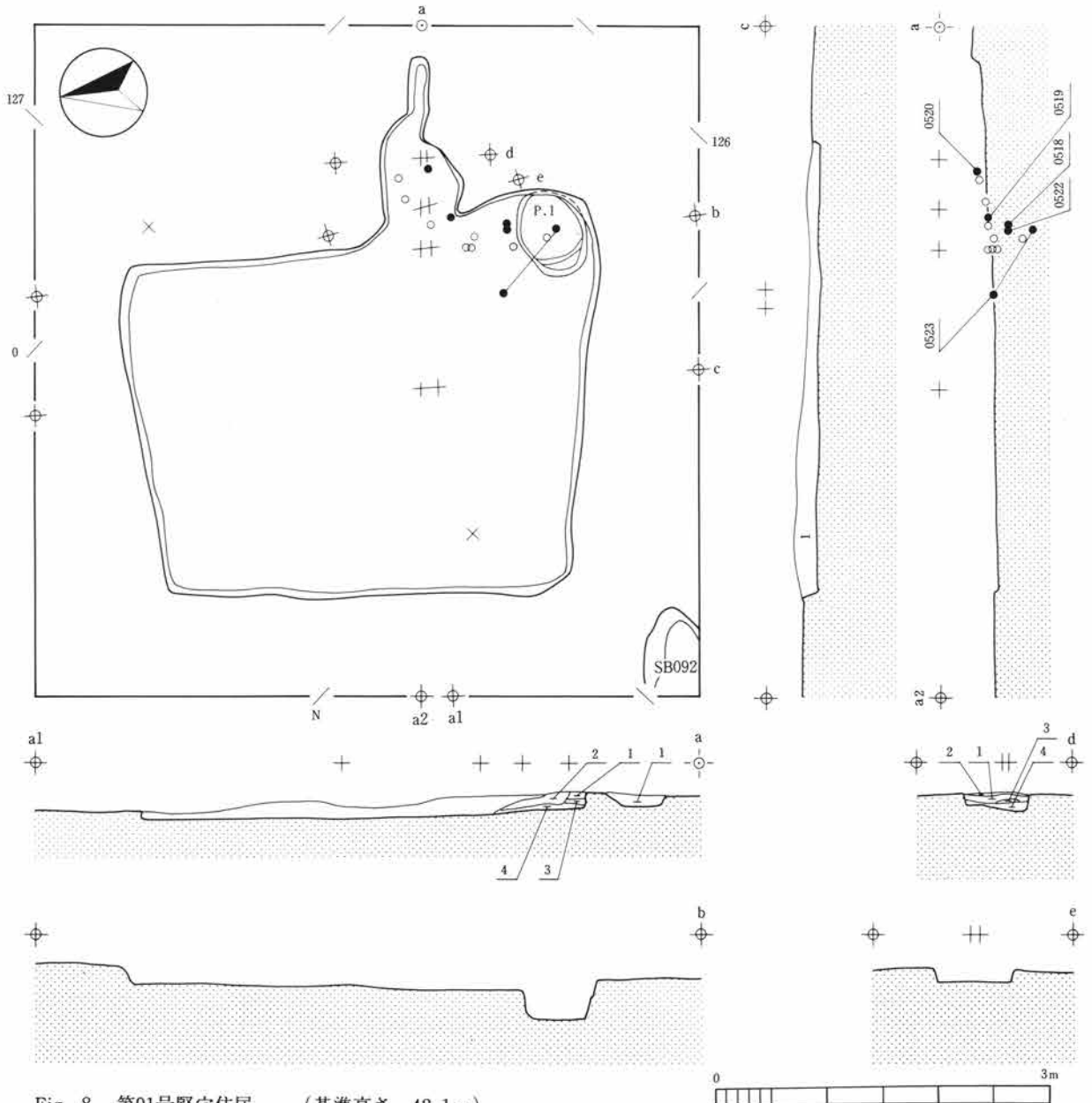


Fig. 8 第91号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

92号住居 SB092（遺構 PL. 9、遺物 PL. 48、Fig. 157）

発掘区Ⅲ区のM127に位置する。平面形は縦長形、縦4.35m、横3.80mを測り、面積は約16.5㎡である。住居の方位はN-93°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は43cm、周溝はなく、床面高は41.30mである。覆土は6層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3層は窯体埋没土、4層は窯崩落土、5層は窯構築材、6層は床面直上の土層である。土質は1層暗褐色土層で全体に砂っぽく焼土粒、炭、黑色粘土塊を含む層、2層は1層より砂が多く黑色粘土塊を含む暗褐色土層、3層固い焼土塊、灰、黑色粘土塊の混土層、4層焼土、壁ブロック、茶褐色土を含む層、5層暗褐色土層で1層より暗い色で粘性が強い層、6層は未確認である。住居中央には床下の1号ピットがあり平面形は楕円形で長軸200cm×短軸169cm、深さ15cmを測る。住居南西隅には床上の2号ピットがあり平面形は不定形で深さは18cmを測る。本住居に伴う遺物は、土師器椀10、土師器丸甕1、土師器長甕1、須恵器杯1、須恵器高台杯1、須恵器蓋2の合計16点である。

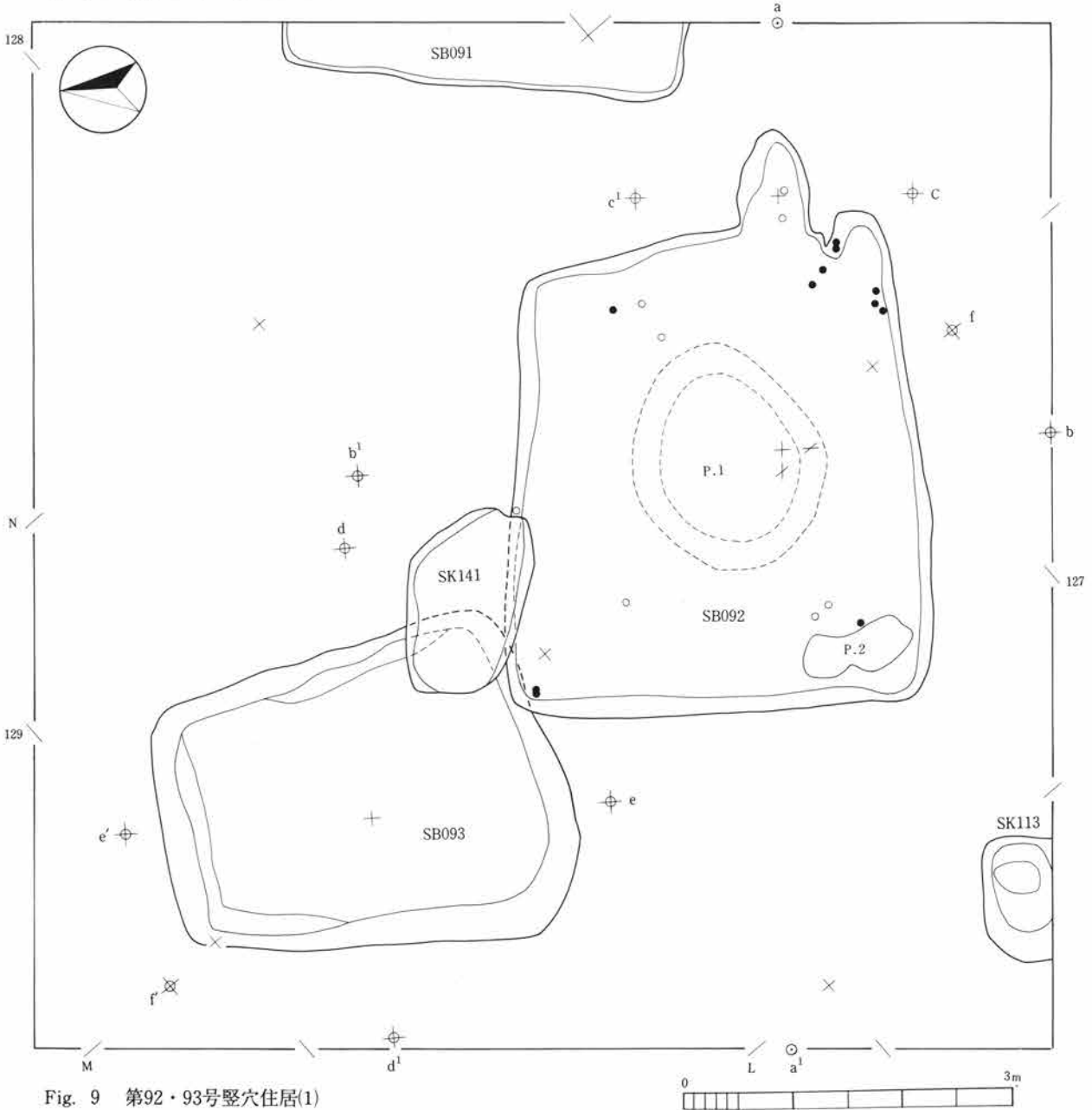


Fig. 9 第92・93号竪穴住居(1)

93号住居 S B 093 (遺構 PL. 10、遺物 Fig. 157)

発掘区Ⅲ区のM129に位置する。平面形は横長形、縦2.73m、横3.68mを測り、面積は約10.0㎡である。住居の方位はN-82°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は26cm、周溝はなく、床面高は41.29mである。覆土は7層に分けられ7~13層は住居内覆土である。土質は7層暗褐色土層で軽石、炭化物、砂を含む土層で特に鉄分凝集が多い層、8層暗褐色土層で軽石、多量の炭化物、砂を含む土層で特に鉄分凝集が少ない層、9層暗黒褐色土層で軽石、多量の炭化物、砂を含み鉄分凝集が少ない層、10層純粋砂層、11層砂層と褐色土層との混合土層、12層黒色ブロック土層、13層黒褐色土層で砂と黒色ブロックとの混合土層である。各遺構の切り合い関係は新しい順に141号土層、92号住居、93号住居である。住居の平面形は縦長形としたが、北短辺より南短辺が長く不定形である。窯の位置付近が土壌により破壊されておりその存在は不明である。遺構の掘り込みは深い。床面は凹凸がはげしい。出土遺物は土師器椀、須恵器蓋、高台杯がある。

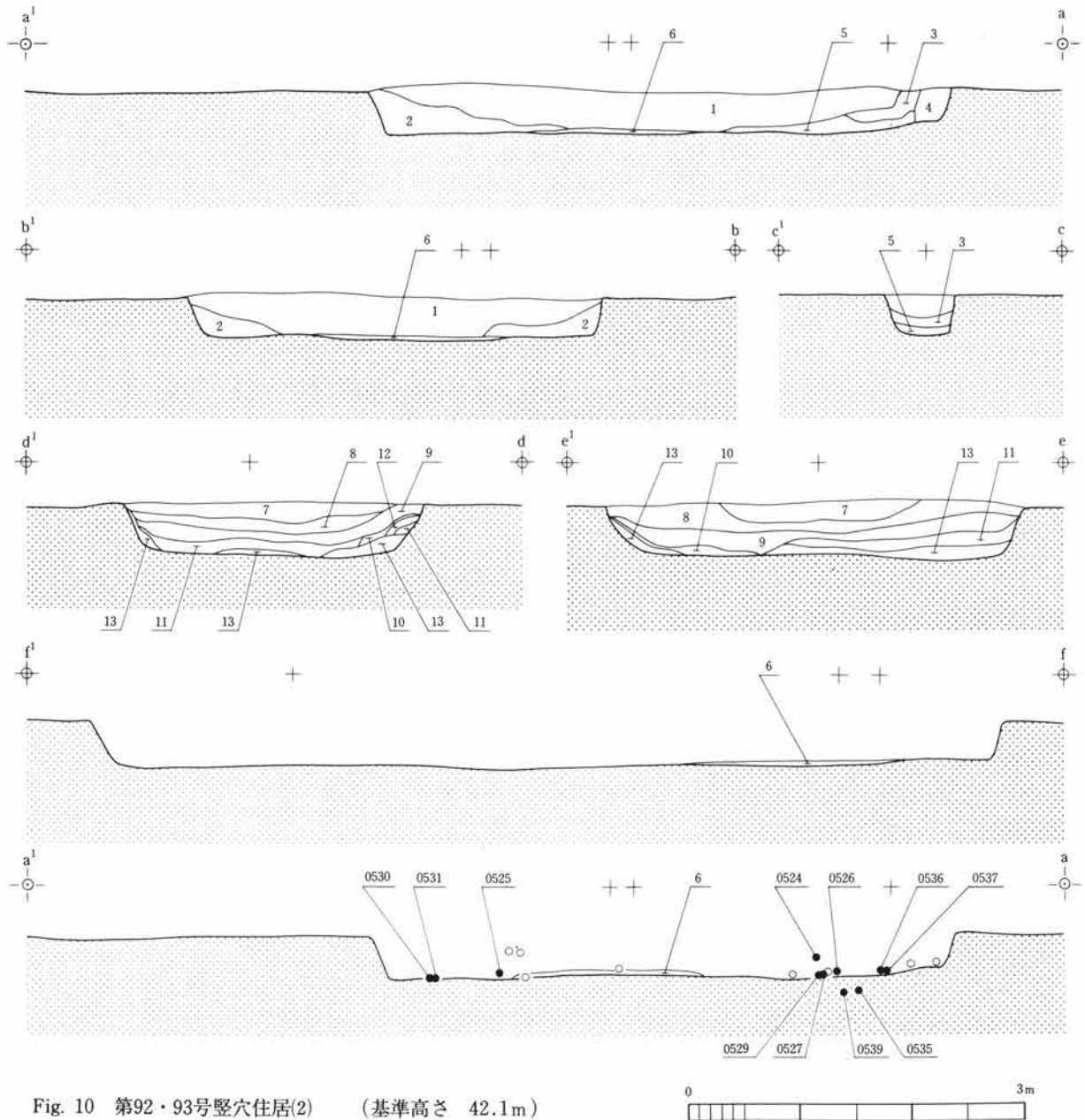


Fig. 10 第92・93号竪穴住居(2) (基準高さ 42.1m)

94号住居 SB094（遺構 PL. 10、遺物 PL. 48、49、50、Fig. 157、158）

発掘区Ⅲ区のP128に位置する。平面形は正方形、縦6.38m、横6.68mを測り、面積は約42.6㎡である。住居の方位はN-85°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は66cm、周溝はなく、床面高は41.10mである。覆土は21層に分けられた。1層は窯崩落土、2層は窯体埋没土、3、4層は窯底面の土層、5～11層は住居内覆土、12～16層は住居床面下のピット埋土、17層は貯蔵穴埋土、18層は柱穴4号ピット埋土、19～21層は床面整地土である。土質は1層暗灰色粘土層、2層灰褐色粘土ブロック層、3、17、18層未確認、4層灰層、5層暗灰色粘土層、6層暗灰色粘土層で黒色粘土ブロックを含む層、7、8層暗灰色粘土層で黒色粘土ブロックと灰白色粘土ブロックを含む層、9層暗灰色粘土層中に灰白色粘土ブロックを含む層、10層砂質分を含む単一の灰褐色土層、11層は10層中にやや黒色の土層がラミナ状にはさまれる層、12～14層灰褐色粘土層で黒色土ブロックを含む層、15層黒色土層、16層暗褐色土層で黒色土と灰褐色粘土のブロック細粒

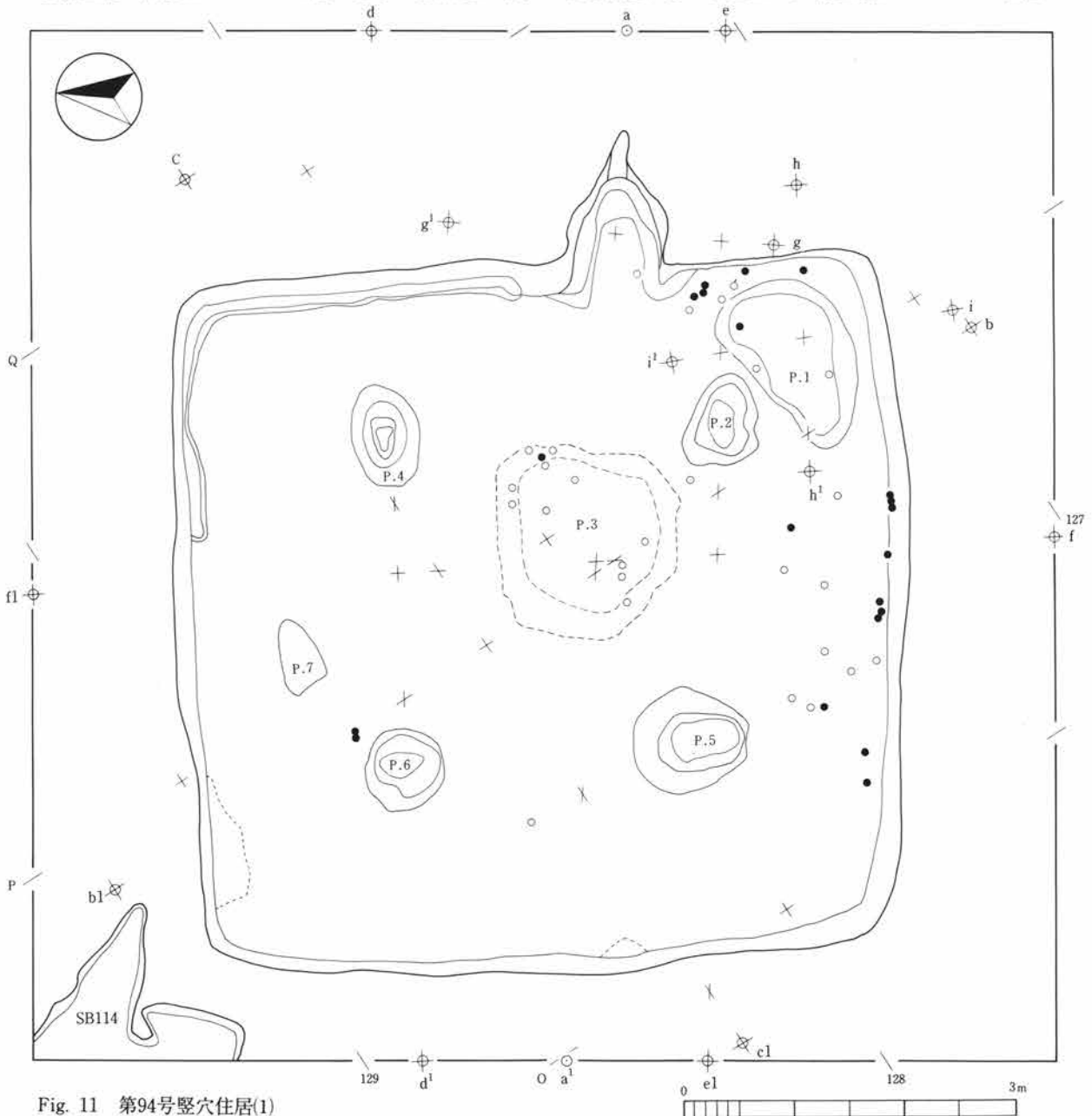


Fig. 11 第94号竪穴住居(1)

## 第II章 遺 構

を混土する層、17、18層未確認、19層灰褐色粘土層で黒色ブロックを含む層、20層暗褐色粘土層、21層灰白色粘土質土層である。住居内に7ヶ所のピットがある。1号ピットは竈前右にあり貯蔵穴で平面形は偏楕円形を呈し長軸162cm×短軸95cm、深さ24cm、2号ピットは竈前右にあり柱穴で平面形は偏楕円形を呈し長軸82cm×短軸54cm、深さ68cm、3号ピットは中央寄りにあり床下ピットで平面形は偏楕円形を呈し長軸、短軸とも169cm、深さ42cmを測り、4号ピットは北東寄りにあり柱穴で平面形は楕円形を呈し長軸96cm×短軸61cm、深さ77cm、5号ピットは南西寄りにあり柱穴で平面形は偏楕円形を呈し長軸104cm×短軸94cm、深さ83cm、6号ピットは北西寄りにあり柱穴で平面形は円形を呈し径70cm、深さ11cmを測り、7号ピットは北寄りにあり床上のピットで平面形は偏楕円形を呈し長軸63cm×短軸37cm、深さ46cmを測る。本住居はⅢ区の中央部に位置している。検出結果として周囲に掘立柱建物がとり囲むように見える。北側には101、102、103号住居、111～114号住居が近接している。東側には土塋群が展開している。西側には6号掘立柱建物が近接している。南西側には91、92、93号住居が、南東側には88号住居、2号掘立柱建物が位置している。それでも他の遺構と

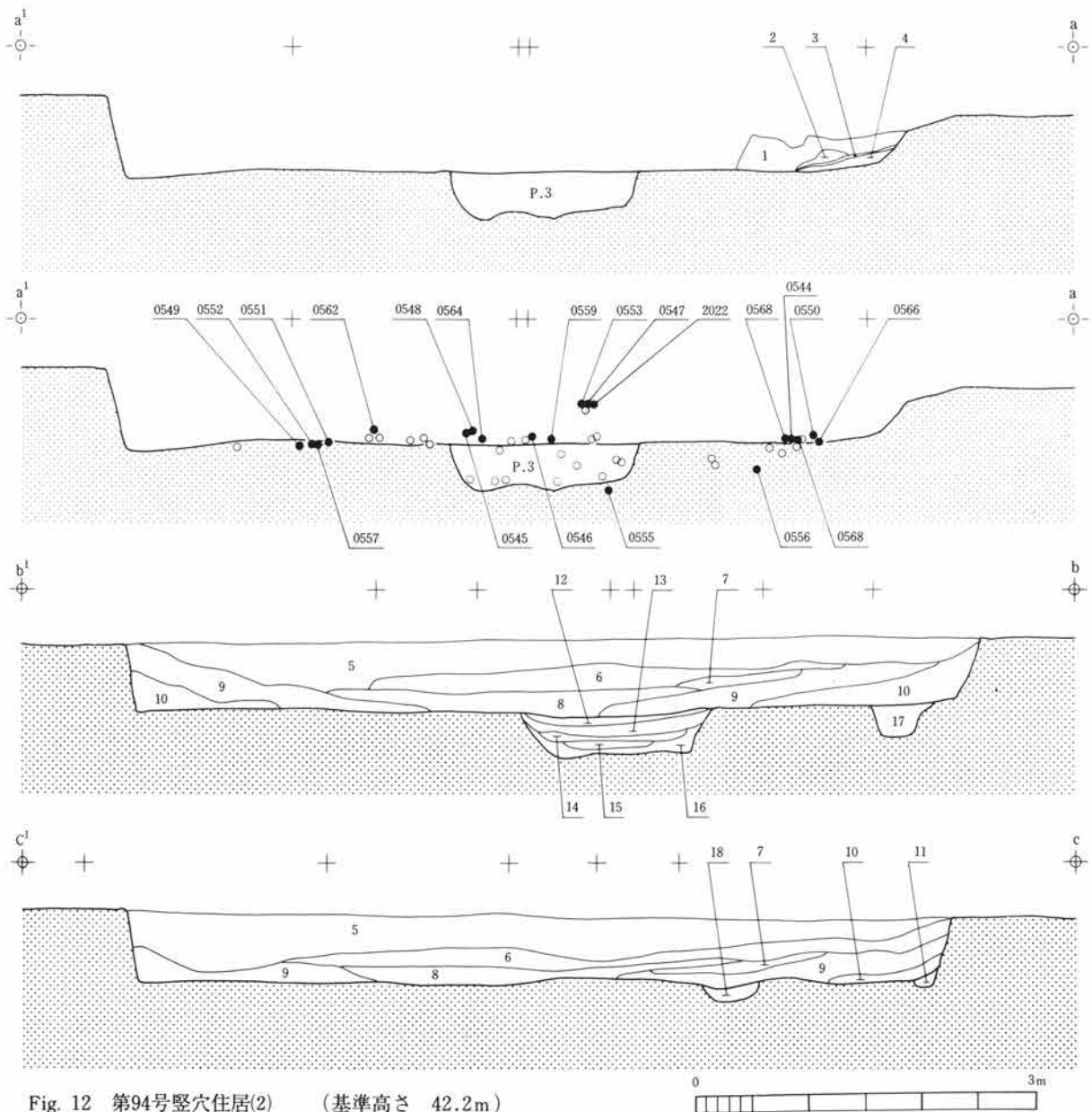


Fig. 12 第94号竪穴住居(2) (基準高さ 42.2m)

の切り合いはない。

本住居は西今井遺跡で最古の規模である。内部の施設も竈、柱穴、一部分周溝、貯蔵穴が備わっている。又、前述のように本住居のまわりには1辺が3～4 m級の住居が10数軒存在する。また掘立柱建物群もこの住居をとりまくように「コ」の字状に配置されているかの如くである。住居の壁は粘質を持つ黑色土層の地山で上層では灰褐色土が地山となっている。周溝は幅10cm、深さ5 cmで東壁のかまど左寄りから北壁の3分の1付近までの壁直下に遺存している。床面はほぼ平坦で、かまどの周辺が特に良く踏み固められている。主柱穴の4本はしっかりと深い掘り方をもち、西側のP 5、P 6の2本の柱穴の掘り方下層、床面より40cm付近に河原石の偏平なものが据えられていた。おそらく柱がこの上に乗っていたものと考えられる。かまどは全長1 m 70cm、焚口幅約50cmを計る。燃烧部は壁外にており、火床は焚口部より煙道にかけてなだらかに上ってゆく。又、燃烧部の中央には砂岩の石製支脚（No4007）が立てられていた。この住居は極めて平面の規格性は高い。床面における規格を復元するならば、30cmを単位に住居平面は20×20、柱穴間は10×10、かまど構築位置は東辺20のうち北端部より13の比率に計画されていると考えられる。

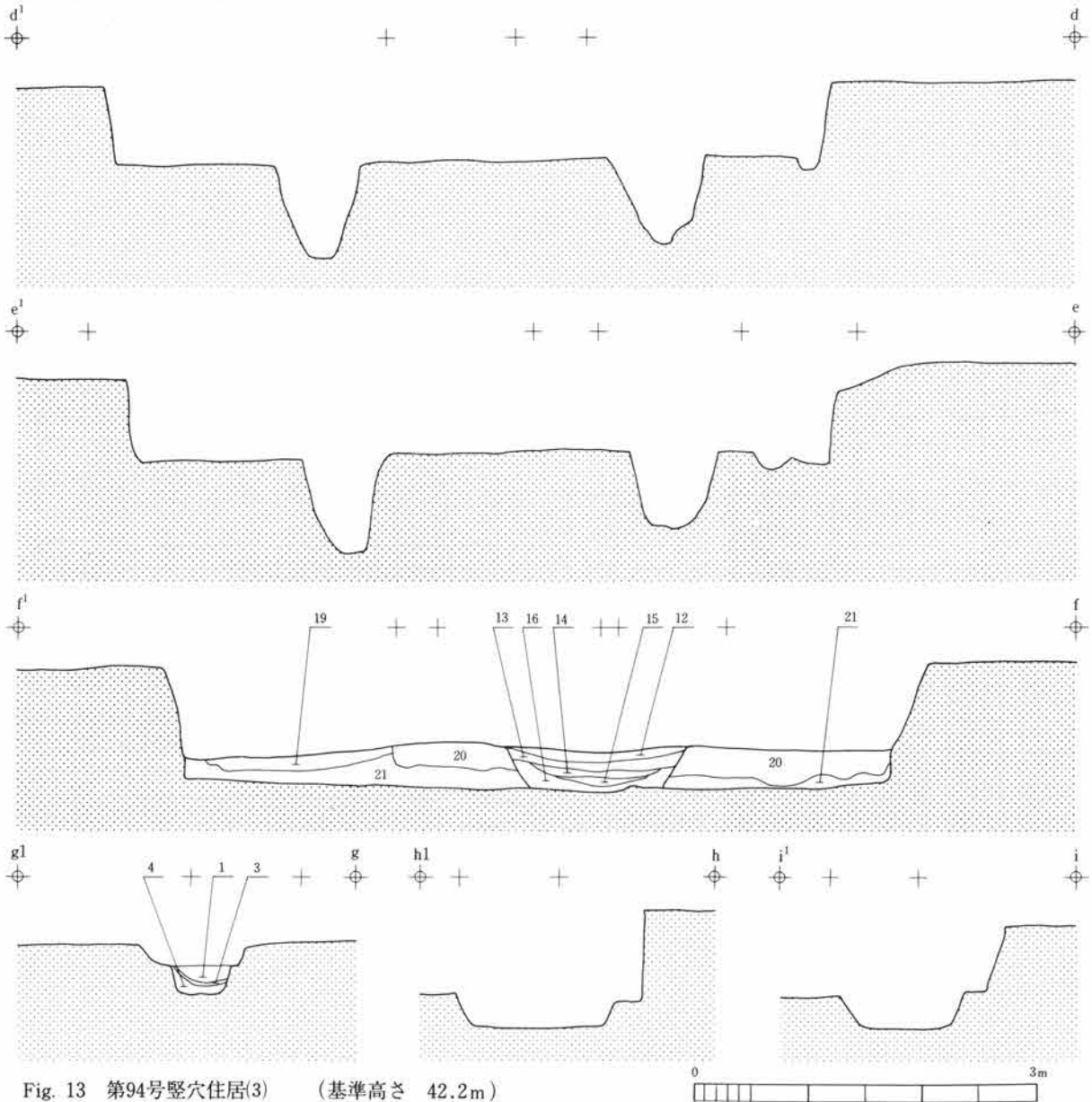


Fig. 13 第94号竪穴住居(3) (基準高さ 42.2m)

95号住居 S B 095 (遺構 PL. 10、遺物 Fig. 158、土層 116p)

発掘区Ⅲ区のW129に位置する。平面形は正方形、縦2.46m、横2.45mを測り、面積は約6.0m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-69°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は32cm、周溝はなく、床面高は41.38mである。

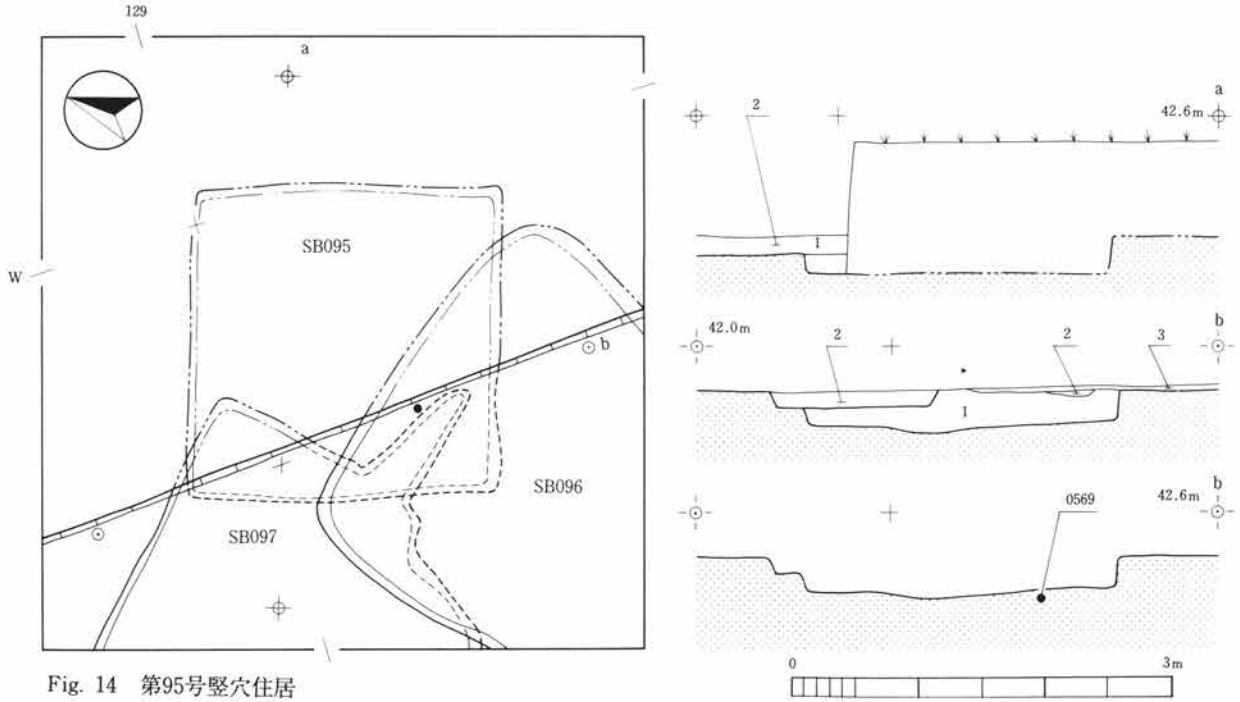


Fig. 14 第95号竪穴住居

96号住居 S B 096 (遺構 PL. 10、遺物 Fig. 158、土層 116p)

発掘区Ⅲ区のV128に位置する。平面形は横長形、縦2.82m、横3.26mを測り、面積は約9.2m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-106°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は6cm、床面高は41.65mである。

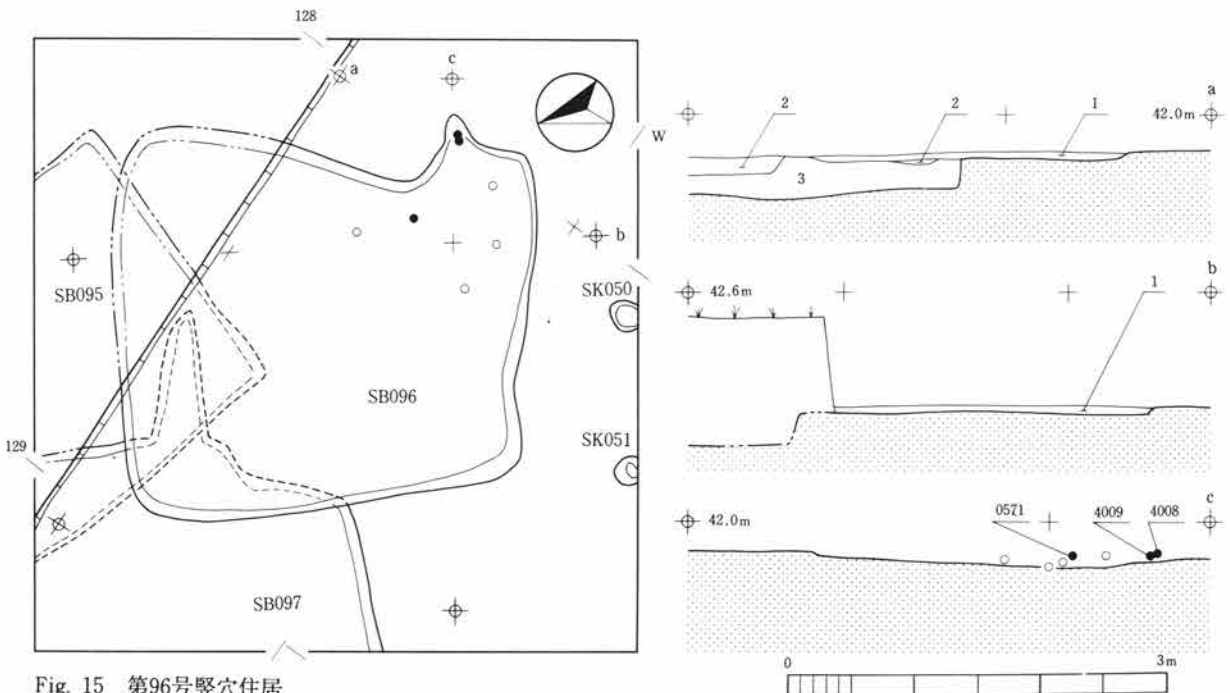


Fig. 15 第96号竪穴住居



97号住居 SB097（遺構 PL. 10）

発掘区Ⅲ区のV129に位置する。平面形は縦長形、縦3.43m、横2.87mを測り、面積は約9.8m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-97°-Eを取り、竈は東壁中央に付設される。確認された壁高は20cm、周溝はなく、床面高は41.50mである。覆土は6層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は96号住居内覆土、3層は95号住居内覆土、4～6層は98号住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層で炭化物、焼土、軽石を含み比較的軟質な層、2、3層未確認、4、5層暗褐色土層で炭化物、細砂粒と鉄分凝集を含む層、6層黒褐色土層で粘性をもち非常に固い層である。本住居の北東コーナーは未調査区域である。西壁は98号住居が新しく乗っている。南壁には52号土壌が新しく切って乗っている。南壁かまど周辺は2軒の住居が切り合っておりその順序は、新しい順に96号住居、97号住居、95号住居である。竈の構造は残された焼土を含む暗褐色土層のひろがりから推定した。右袖及び貯蔵穴位置付近は肩部は瘦せて落ちている。貯蔵穴は検出されず竈前の灰層もない。

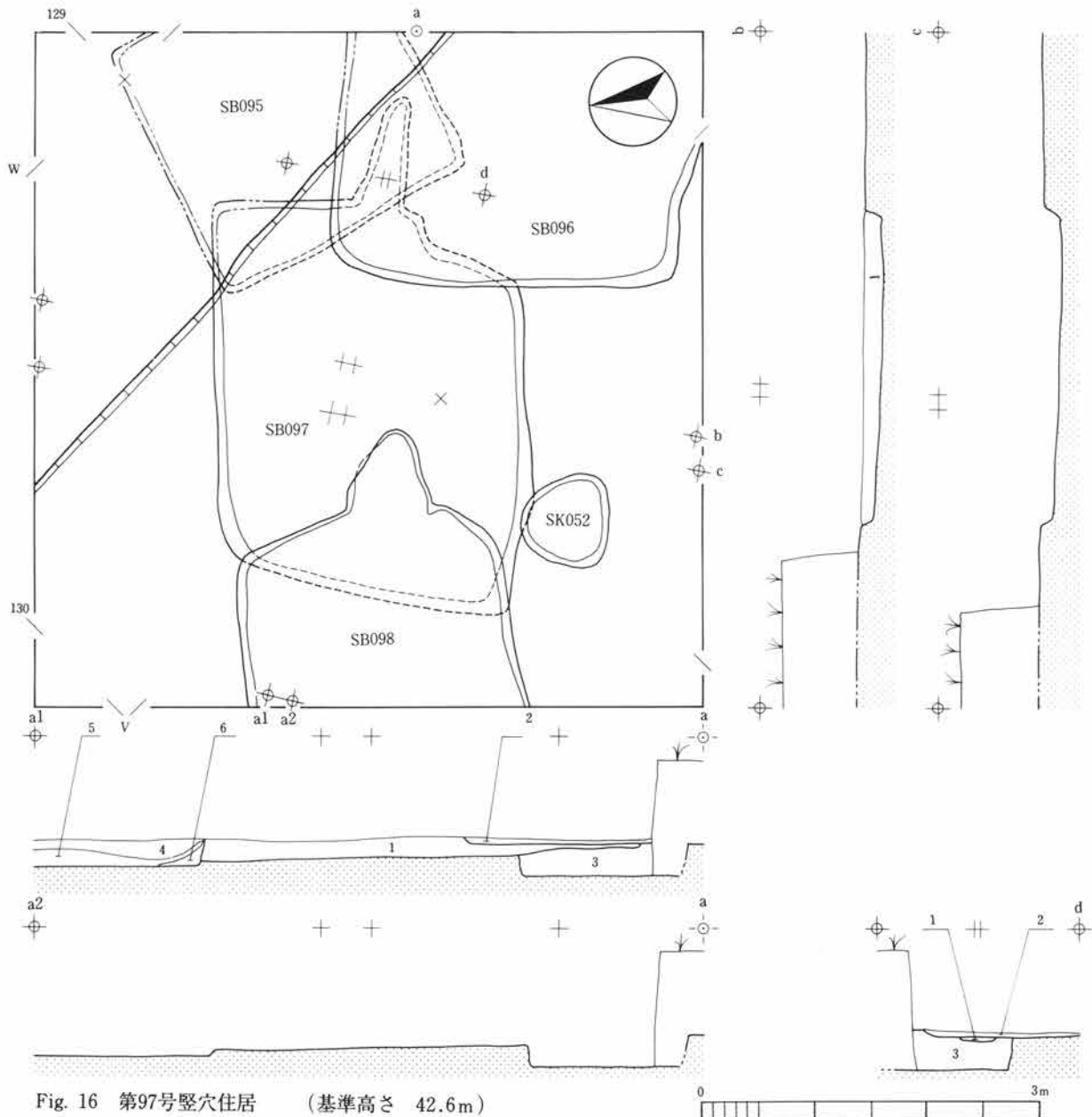


Fig. 16 第97号竪穴住居（基準高さ 42.6m）

第Ⅱ章 遺 構

98号住居 SB098 (遺構 PL. 10、遺物 PL. 50、Fig. 158)

発掘区Ⅲ区のU129に位置する。平面形は縦長形、縦3.00m、横2.47mを測り、面積は約7.4㎡である。住居の方位はN-88°-Eを取り、竈は東壁中央に付設される。確認された壁高は29cm、周溝はなく、床面高は41.44mである。覆土は18層に分けられた。1～3層は住居内覆土、4～8層は窯崩落土、9、10、18層は窯前の床下ピット埋土、11層は97号住居内覆土、12～15層は99号住居内覆土、16、17層は167号土壇埋土である。土質は1、2、4、7、10、12、16、18層暗褐色土層、3層黒褐色土層、5層灰白色粘土層、6層暗黒色土層、8層炭化層、9層粘土ブロック層、11層未確認、13層焼土ブロック層、14層炭化物、灰、焼土の混土層、15層焼土と粘土の混土層、17層炭化物、粘土、軽石を混入する層である。住居竈中には床下ピットがあり平面形は偏楕円形を呈し長軸134cm×短軸63cm、深さ32cmを測る。本住居よりも97号住居及び99号住居の方が重複関係は新しい。出土の遺物は土師器碗と須恵器杯及び須恵器碗などである。

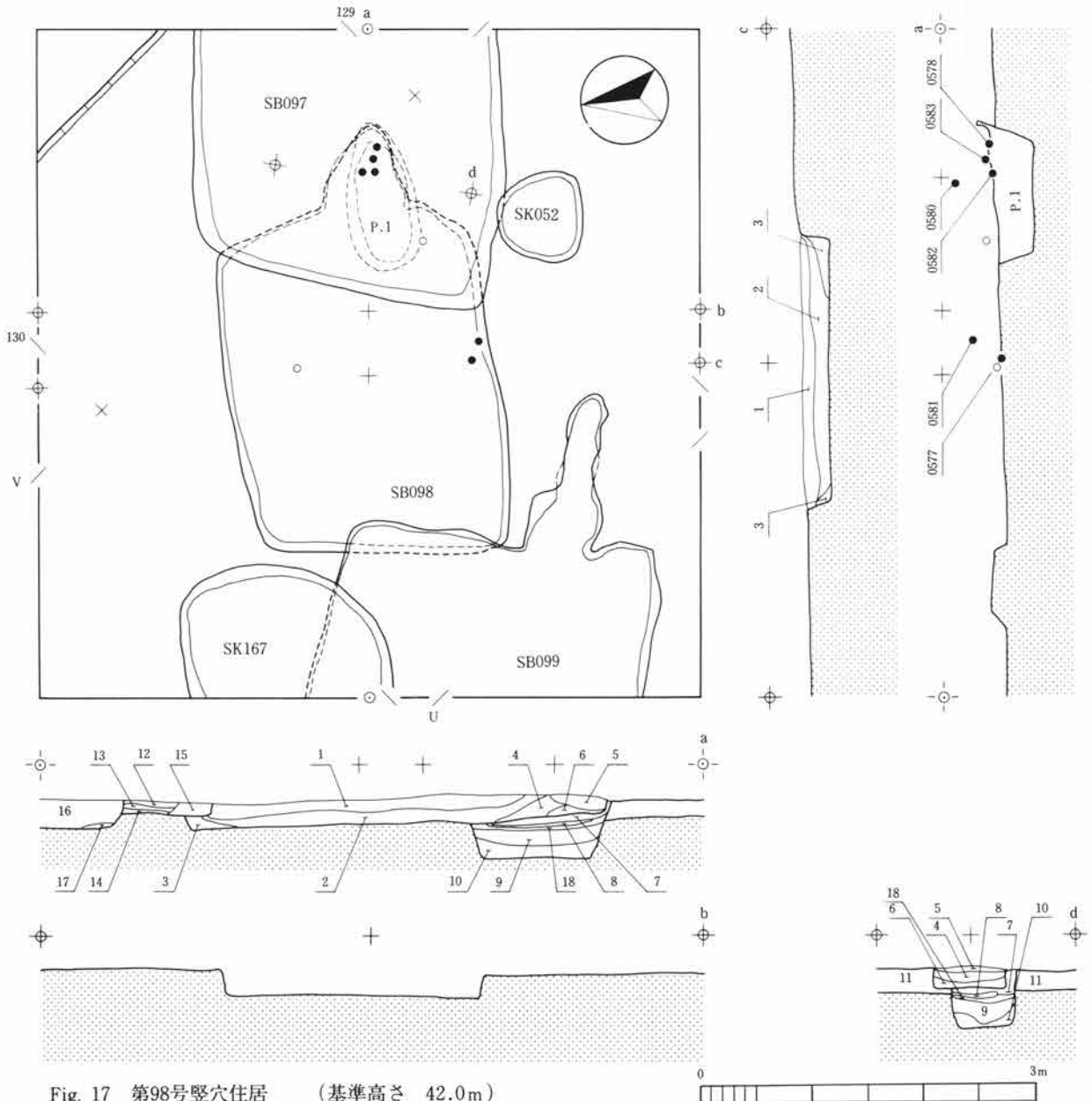


Fig. 17 第98号竪穴住居 (基準高さ 42.0m)

99号住居 SB099（遺構 PL. 11、遺物 PL. 50、Fig. 159、土層 116p）

発掘区Ⅲ区のU130に位置する。平面形は横長形、縦2.18m、横2.93mを測り、面積は約6.4㎡である。住居の方位はN-109°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は19cm、床面高は41.59mである。

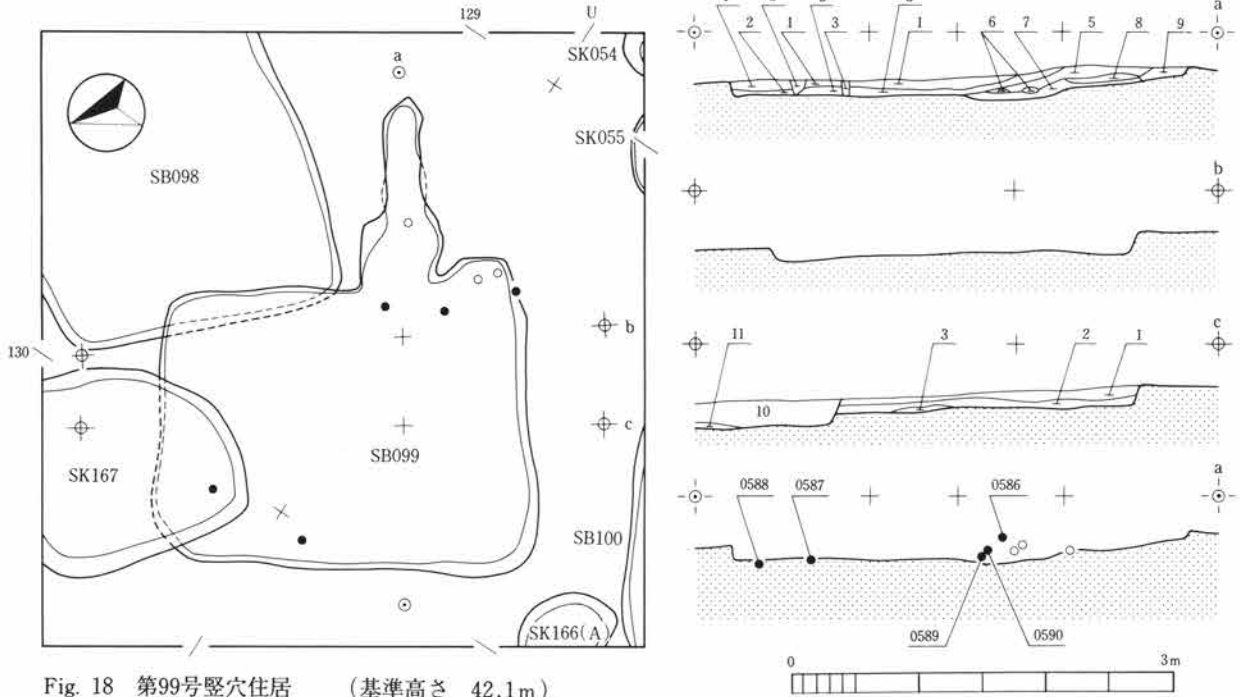


Fig. 18 第99号竪穴住居（基準高さ 42.1m）

100号住居 SB100（遺構 PL. 11、土層 116p）

発掘区Ⅲ区のT129に位置する。平面形は正方形、縦2.58m、横2.59mを測り、面積は約6.7㎡である。住居の方位はN-18°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は10cm、周溝はなく、床面高は41.82mである。

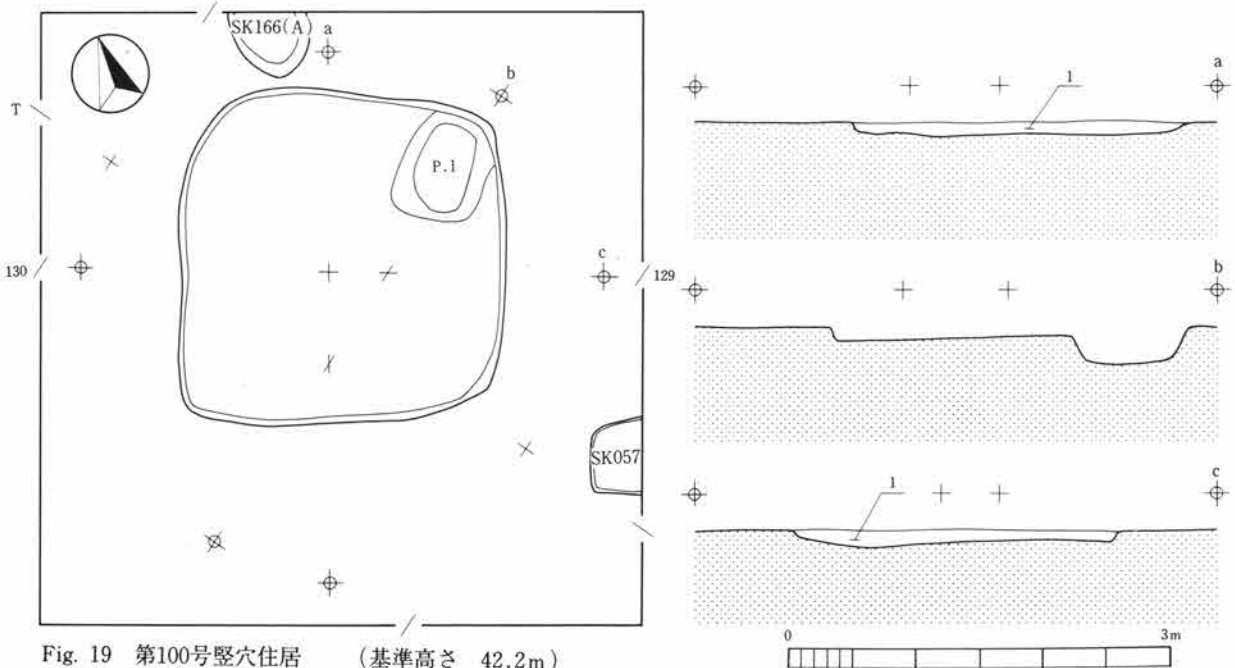


Fig. 19 第100号竪穴住居（基準高さ 42.2m）

101号住居 SB101 (遺構 PL. 11、遺物 Fig. 159)

発掘区Ⅲ区のS128に位置する。平面形は横長形、縦2.67m、横3.92mを測り、面積は約10.5㎡である。住居の方位はN-114°-Eを取り、竈は南東壁中央に付設される。確認された壁高は29cm、周溝はなく、床面高は41.66mである。覆土は6層に分けられた。1～4層は住居内覆土、5層は窯崩落土、6層は窯体埋没土である。土質は1層暗褐色土層で焼土粒子を含むしまった層で炭化物も含む層、2層灰褐色土層で粘土粒と鉄分の凝集塊との混土層、3層暗褐色土層で炭化物を含む粘性のある層、4層焼土層、5層灰褐色土で焼土、粘土の混じった層、6層粘土層である。住居竈前右には貯蔵穴があり平面形は長方形を呈し長軸77cm×短軸53cm、深さ14.5cmを測る。本住居の西隅部分には102号住居と重複関係にある。どちらの覆土に属するのか明瞭にできなかったが炭化物の混入する褐色土層が認められた。新旧は決しがたいが、図面では102号住居を新としてある。出土遺物は土師器杯、須恵器長頸瓶、須恵器碗、須恵器高台杯、灰釉陶器碗である。

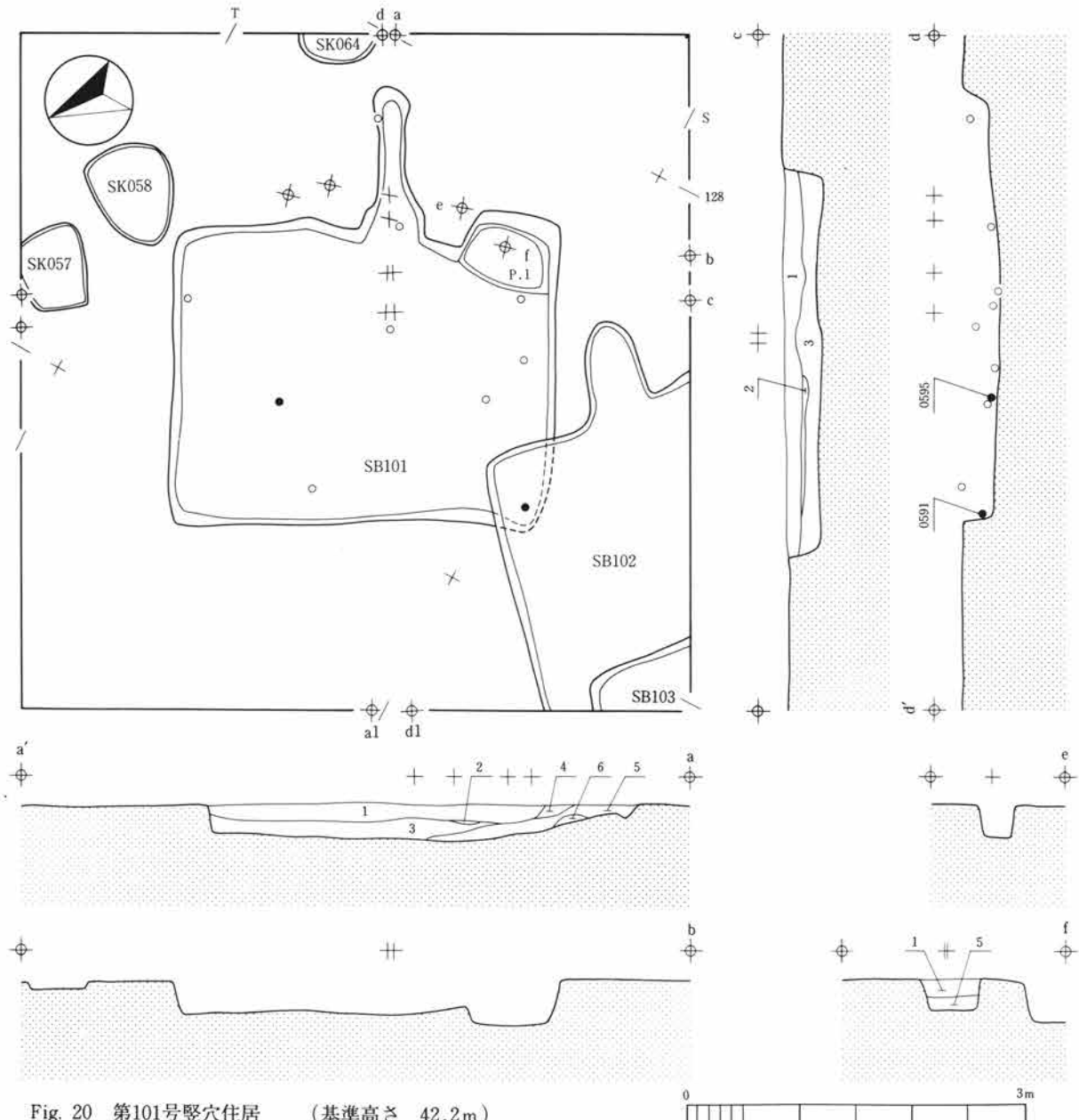


Fig. 20 第101号竪穴住居 (基準高さ 42.2m)

102号住居 SB102（遺構 PL. 11、遺物 Fig. 159）

発掘区Ⅲ区のR 129に位置する。平面形は縦長形、縦3.89m、横2.90mを測り、面積は約11.3m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-99°-Eを取り、竈は東壁中央に付設される。確認された壁高は26cm、周溝はなく、床面高は41.63mである。覆土は8層に分けられた。1層は住居内覆土、2、3、6層は窯体埋没土、4層は窯崩落土、5層は窯底面の土層、7層は103号住居内覆土、8層は103号住居貯蔵穴埋土である。土質は1層黒褐色土層で地山よりは明るく白い層、2層は1層中に炭化物、焼土を混入する層、3層焼土を含む粘土ブロック層、4層焼土と2層との混合土層、5層黒褐色土で地山と3層との混合土層、6層焼土ブロック、7層暗褐色土で炭化物を含みやや粘性をもつ層、8層は未確認である。本住居の北隅は102号住居と重複しているが新旧決することができず図示では101号住居を新としてある。西壁は103号住居と重複しているが土層の切り合いの関係から、103号住居の新しいのは明瞭である。出土土器は土師器碗、土師器甕、須恵器碗などである。

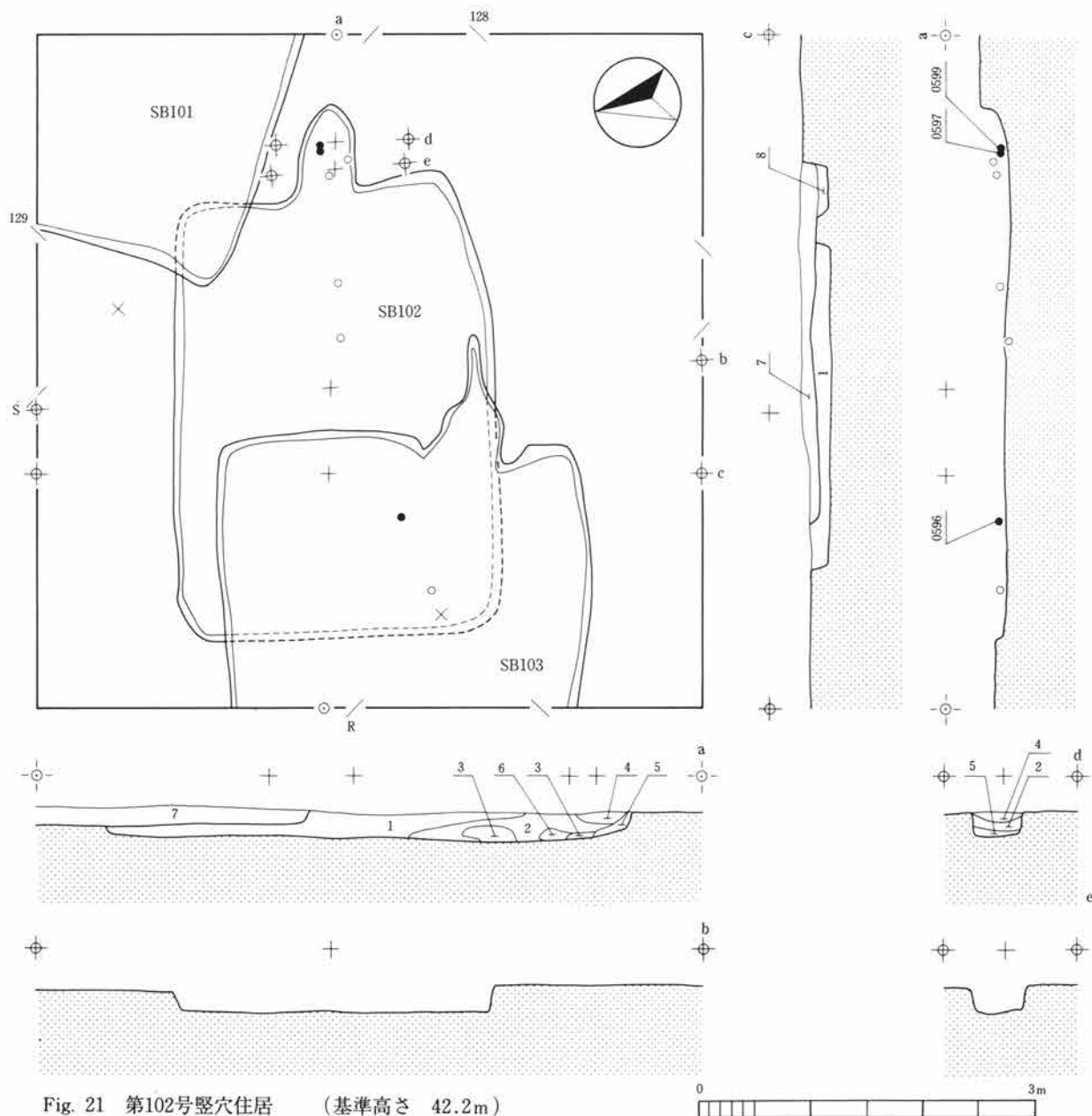


Fig. 21 第102号竪穴住居（基準高さ 42.2m）

103号住居 SB103 (遺構 PL. 11、遺物 Fig. 160)

発掘区Ⅲ区のR129に位置する。平面形は横長形、縦2.83m、横3.31mを測り、面積は約9.4㎡である。住居の方位はN-100°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は20cm、周溝はなく、床面高は41.78mである。覆土は3層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯崩落土、3層は102号住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層で炭化物を含みやや粘性をもつ層、2層焼土及び粘土粒の混土層、3層黒褐色土層で地山よりは明るく白っぽい層である。住居竈前右には貯蔵穴があり平面形は長方形を呈し、長軸45cm×短軸34cm、深さ12cmを測る。本住居は約半分ほどの面積を102号住居と重複している。新旧関係は土層断面の検討で明らかに本住居が新しい。竈は燃烧部と煙道に区分される。貯蔵穴は南東隅にあり、窯内出土の土器類との接合関係がみられた。なお本住居の西側隅は調査に先立つ地層確認のためのトレンチにより一部分破損をうけ復元箇所がある。出土遺物は土師器甕、須恵器椀、須恵器高台杯、羽釜などである。

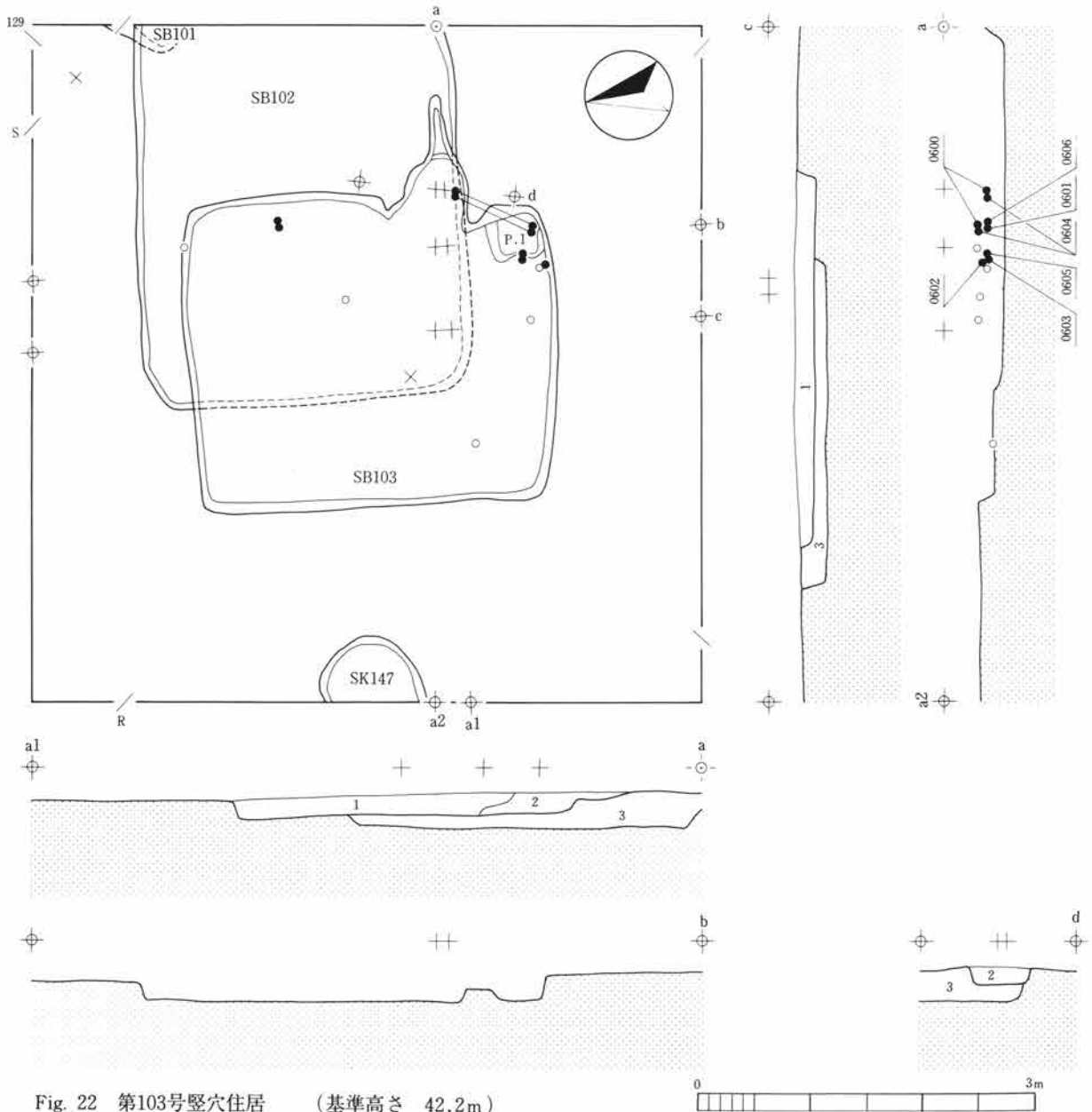


Fig. 22 第103号竪穴住居 (基準高さ 42.2m)

104号住居 SB104（遺構 PL. 12、遺物 PL. 51）

発掘区Ⅲ区のV134に位置する。平面形は縦長形、縦4.71m、横3.19mを測り、面積は約15.0㎡である。住居の方位はN-104°-Eを取り、竈は東壁中央に付設される。確認された壁高は48cm、周溝が巡り、床面高は41.00mである。覆土は9層に分けられた。1層は窯崩落土、2、3層は住居内覆土、4、5層は窯体埋没土、6、7層は窯底面の土層、8層は床面整地土、9層は住居床面下のピット埋土である。土質は1層未確認、2層暗褐色土層で炭化物、粘土粒を混入する層、3層暗褐色土層で若干灰色を呈する層、4層暗褐色土層で炭化物、焼土を混入し、炭化層と考えられる層、5層暗褐色土層で灰を検出する層、6層暗褐色土層で炭化物粒を混入し、粘性をもち軟質な層、7層黄褐色土層焼土ブロック層、8層暗褐色土層で多量の焼土、炭化物を混入し軟質な層、9層未確認である。住居内3ヶ所にピットが確認された。本住居に伴う遺物は土師器碗6、土師器鉢6、土師器長甕3、須恵器碗3、須恵器杯1、用途不明土器片1、石錘1の合計21点である。

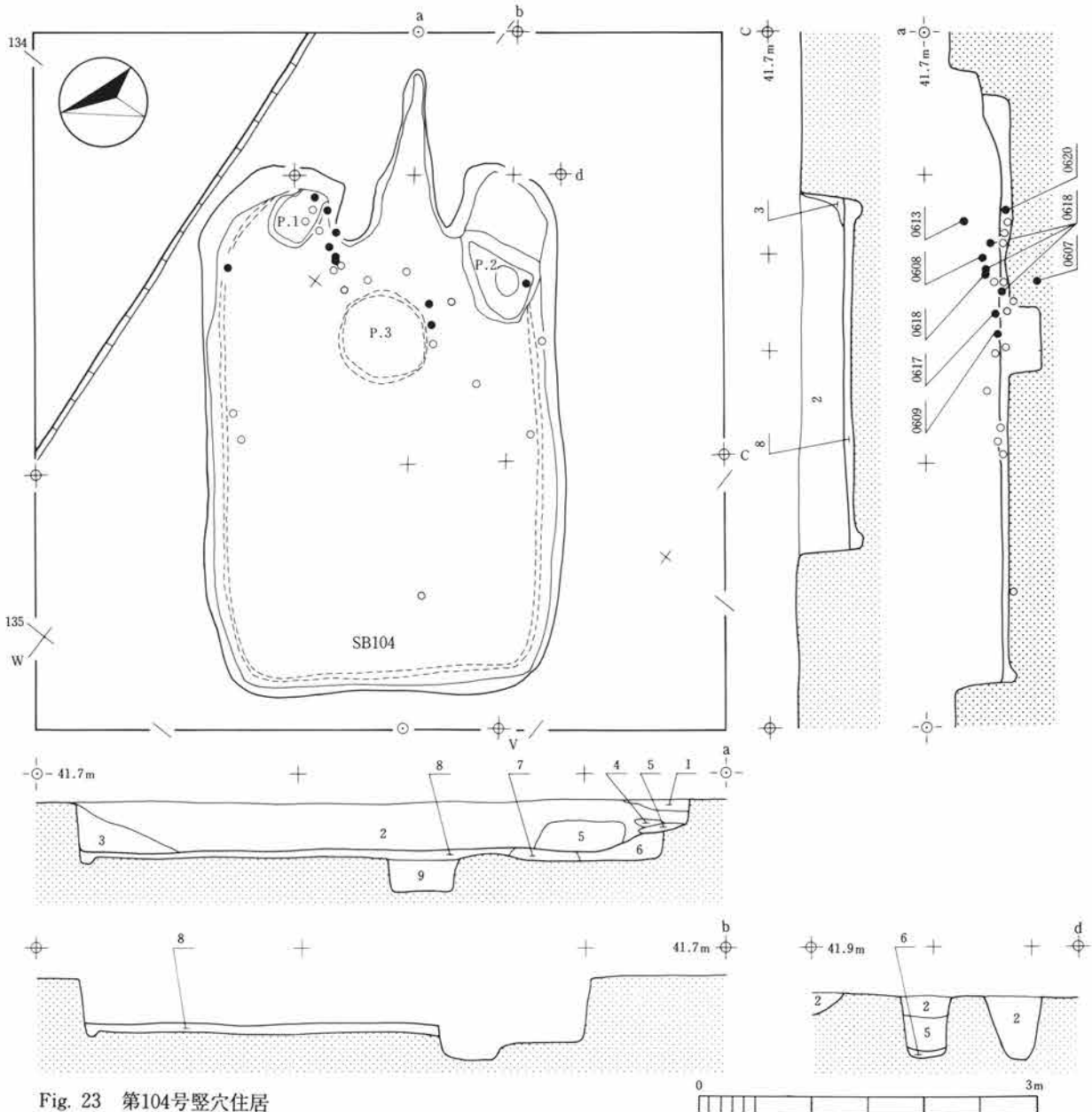


Fig. 23 第104号竪穴住居

105号住居 SB105 (遺構 PL. 12、遺物 PL. 51、Fig. 160)

発掘区Ⅲ区のU132に位置する。平面形は横長形、縦2.54m、横3.34mを測り、面積は約8.5㎡である。住居の方位はN-96°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は13cm、周溝はなく、床面高は41.46mである。覆土は5層に分けられた。1層は住居内覆土、2、4、5層は窯体埋没土、3層は窯底面の土層である。土質は1層炭化粒、軽石を含む暗褐色土層、2層焼土ブロック層、3、4層炭化物と焼土の混合土層、5層非常に軟かな灰層である。本住居の柱穴、貯蔵穴は検出されなかった。窯前には窯構築材が幅80cm、東南壁より30cm前面に崩落して流れ出している。窯前面の粘土、灰層のひろがりは明瞭に検出されていない。竈構造は燃烧部の前幅70cm、後幅60cm、奥行35cmを測る。煙道は前幅30cm、後幅20cm弱、全長130cmを測り、窯全長は165cmとなる。燃烧部から煙道にかけての炉面の傾斜は緩やかでその比高差は15cm弱である。出土の土器は土師器甕、須恵器碗、灰釉陶器皿などである。

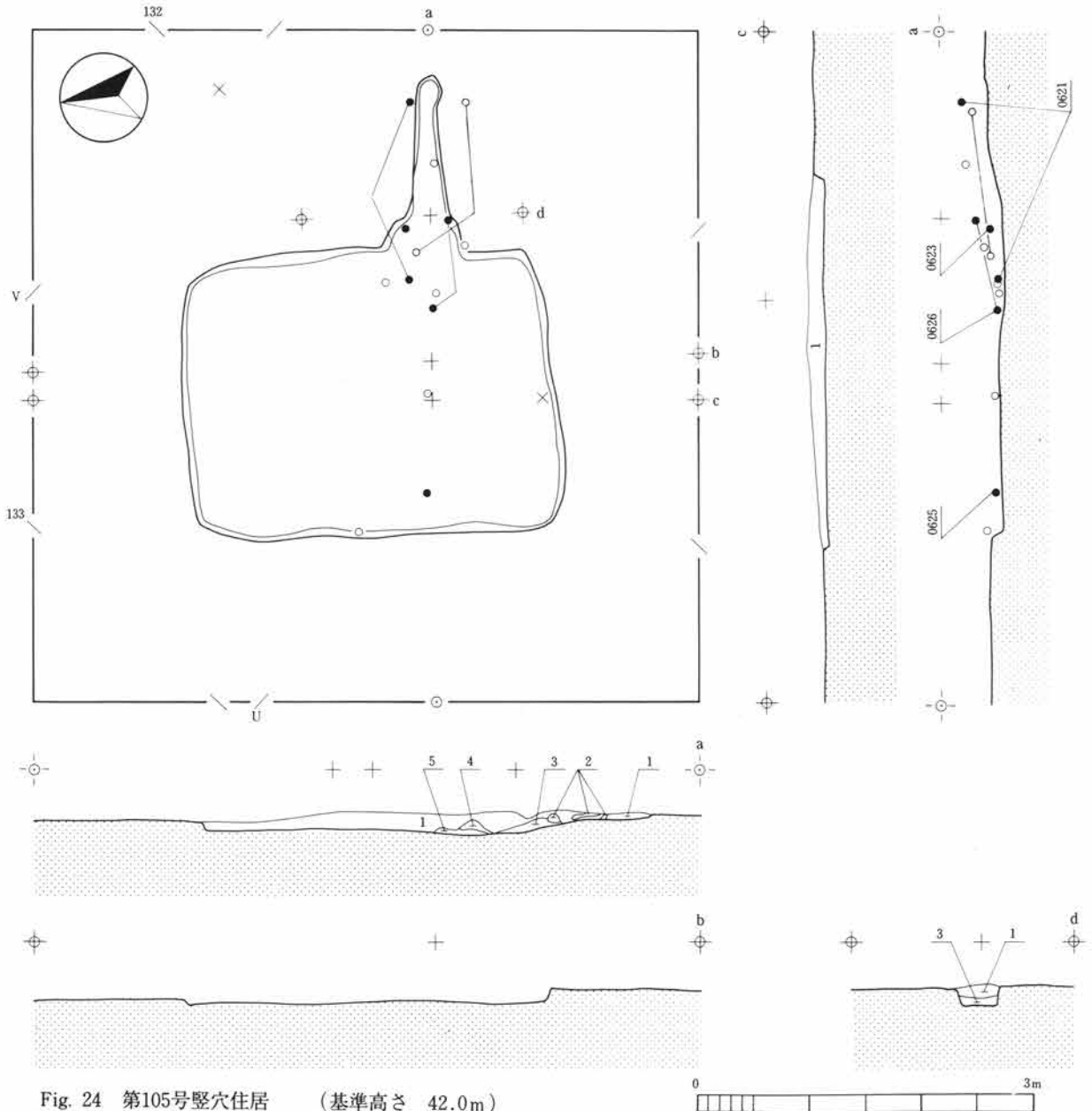


Fig. 24 第105号竪穴住居 (基準高さ 42.0m)



**106号住居 S B 106**（遺構 PL. 12）

発掘区Ⅲ区のT131に位置する。平面形は縦長形、縦3.06m、横2.50mを測り、面積は約7.7m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-97°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は20cm、周溝はなく、床面高は41.42mである。覆土は10層に分けられた。4、6、8層は住居内覆土、5、7層は108号住居内覆土、12～16層は111号土壌埋土である。土質は4層未確認、5層黒色土で鉄分凝集塊が多量に混入され固い層、6層炭化層、7層黒色土で鉄分凝集塊が多量に混入され固い層、8、12層暗褐色土層で粘土粒、炭化物、若干の焼土を混入する層、13層灰褐色土層で粘土粒、砂質を含み、8、12層より白味を帯びる層、14層黒色土層、15層黒褐色土層で焼土、炭化物が見られ、よく焼けている層、16層暗褐色土層でやや粘質をもつ層である。本住居は多数の遺構と重複している。108号住居には全体が重複している。床面の高さはほぼ同レベルにあるので窯の形状の復元は残存した焼土の範囲によっている。また窯周辺には107号住居が重複しているがこの住居の床面についても同レベルに近い。発掘中での平面及び断面の観察からはこれらの重複の新旧関係は、新しい順から111号土壌、107号住居、108号住居、106号住居となる。出土遺物は土師器碗、須恵器杯である。

**107号住居 S B 107**（遺構 PL. 12、遺物 Fig. 160）

発掘区Ⅲ区のT130に位置する。平面形は縦長形、縦2.73m、横2.35mを測り、面積は約6.4m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-7°-Eを取り、竈は北壁右寄りに付設される。確認された壁高は8cm、周溝はなく、床面高は41.56mである。覆土は16層に分けられた。1層は住居内覆土、2、3層は窯底面の土層、9層は窯崩落土、10、11層は窯体埋没土、5、7層は108号住居内覆土、6、8層は106号住居内覆土、12～16層は111号土壌埋土、17層は166(B)号土壌埋土である。土質は1層暗褐色土層で炭化物、軽石を含む層、2層焼土ブロック層、3層炭化物、焼土の混合土層、5層黒色土で鉄分凝集塊が多量に混入され固い層、6層炭化層、7層、7層は5層の崩れ層、8、12層暗褐色土層で粘土粒、炭化物、若干の焼土を混入する層、9層暗褐色土層で焼土、軽石、鉄分凝集を混入する層、10層暗褐色土層で焼土、灰を混入する層、11層暗褐色土層、13層灰褐色土層で粘土粒、砂質を含む層、14層黒色土層、15層黒褐色土層で焼土、炭化物を含む層、16層暗褐色土層、17層未確認である。本住居は多数の遺構と切り合っている。新旧関係は新しい順に166(B)号土壌、107号住居、108号住居、106号住居である。出土遺物は土師器甕、須恵器杯、碗などである。

**108号住居 S B 108**（遺構 PL. 160、遺物 Fig. 160）

発掘区Ⅲ区のT131に位置する。平面形は縦長形、縦3.98m、横3.10mを測り、面積は約12.3m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-97°-Eを取り、竈は東壁左寄りに付設される。確認された壁高は20cm、周溝はなく、床面高は41.42mである。覆土は8層に分けられた。5、7層は住居内覆土、4層は106号住居内覆土、12～16層は111号土壌埋土である。土質は4層未確認、5層黒色土で鉄分凝集塊が多量に混入され固い層、7層は5層の崩れ層、12層暗褐色土層で粘土粒、炭化物、若干の焼土を混入する層、13層灰褐色土層で粘土粒、砂質を含む層、14層黒色土層、15層黒褐色土層で焼土、炭化物が見られ、よく焼けている層、16層暗褐色土層でやや粘質をもつ層である。本住居は106号住居と重複しており、床面のレベルが近似しているため重複関係についての確認は困難であった。また窯部分は107号住居の窯の燃焼部分と重複しており双方の焼土及び灰層の分離も明瞭でなかった。各遺構の切り合いは新しい遺構順に166(B)土壌、107号住居、108号住居、106号住居となる。また住居北隅の163号土壌は本住居よりも新しい。出土遺物は須恵器杯と杯釉陶器長頸瓶である。

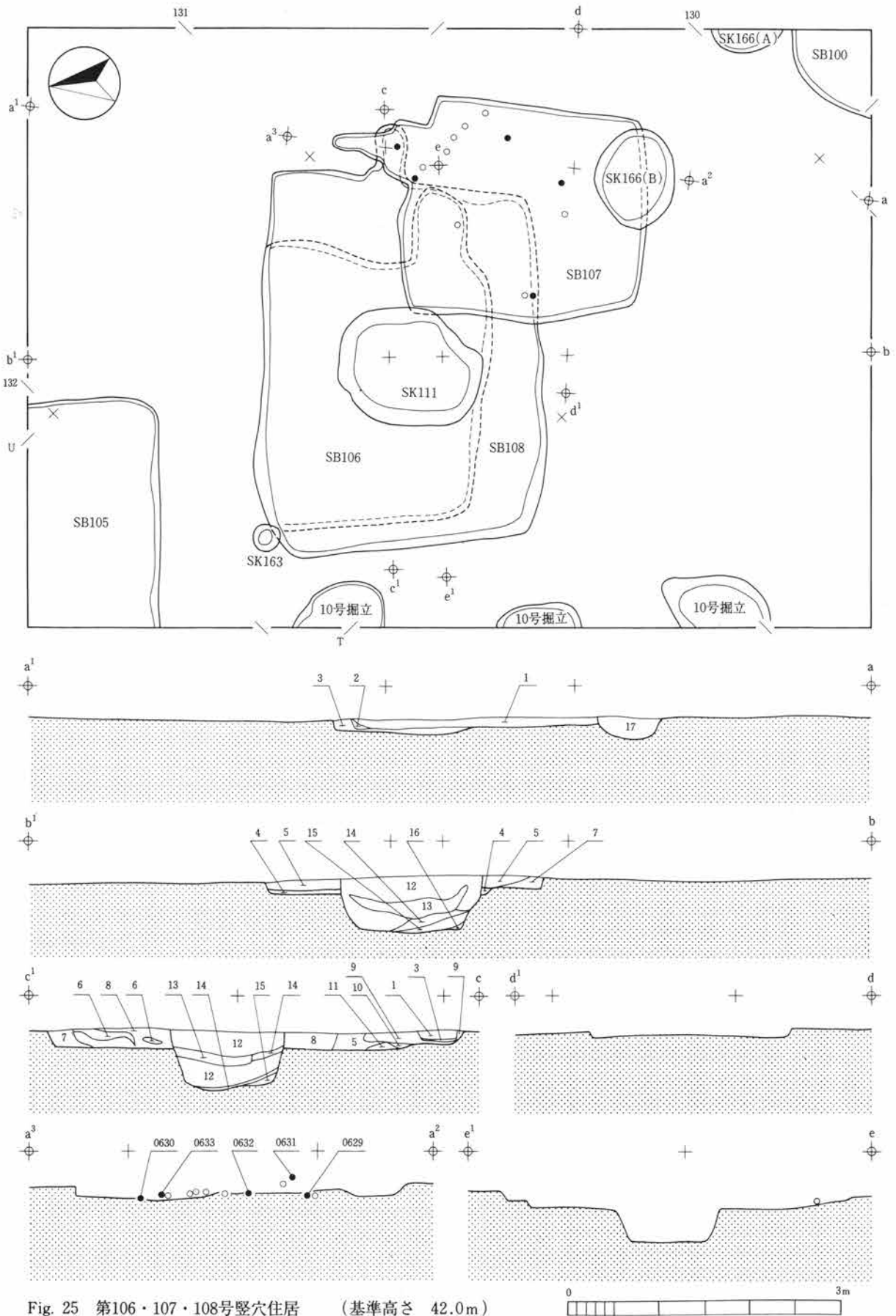


Fig. 25 第106・107・108号竖穴住居 (基準高さ 42.0m)

109号住居 S B 109（遺構 PL. 13、遺物 Fig. 160）

発掘区Ⅲ区のR 131に位置する。平面形は正方形、縦3.47m、横3.68mを測り、面積は約12.8m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-108°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は26cm、周溝はなく、床面高は41.68mである。覆土は4層に分けられた。1層は住居内覆土、2、3層は窯崩落土、4層は110号住居内覆土である。土質は1層褐色土層で炭化物、焼土を含む層、2層焼土ブロック層、3層焼土ブロックを含み、炭化物を多量に含む層、4層暗褐色土層で焼土粒及び炭化物粒を含むややしまった層である。住居竈前右に1号ピットがあり貯蔵穴で平面形は偏楕円形を呈し、長軸40cm×短軸38cm、深さ8.5cmを測り、中央寄りには床下の2号ピットがあり平面形は楕円形を呈し、長軸53cm×短軸44cm、深さ10cmを測る。平面形を正方形に分類はしたが北西壁と北東壁の隅は大きく丸く続く。竈の構造は燃烧部と煙道から成り、窯全長は125cm、燃烧部前幅40cm、奥行40cm、煙道部前幅20cm、奥行80cmを測る。出土遺物は土師器甕、須恵器羽釜などである。

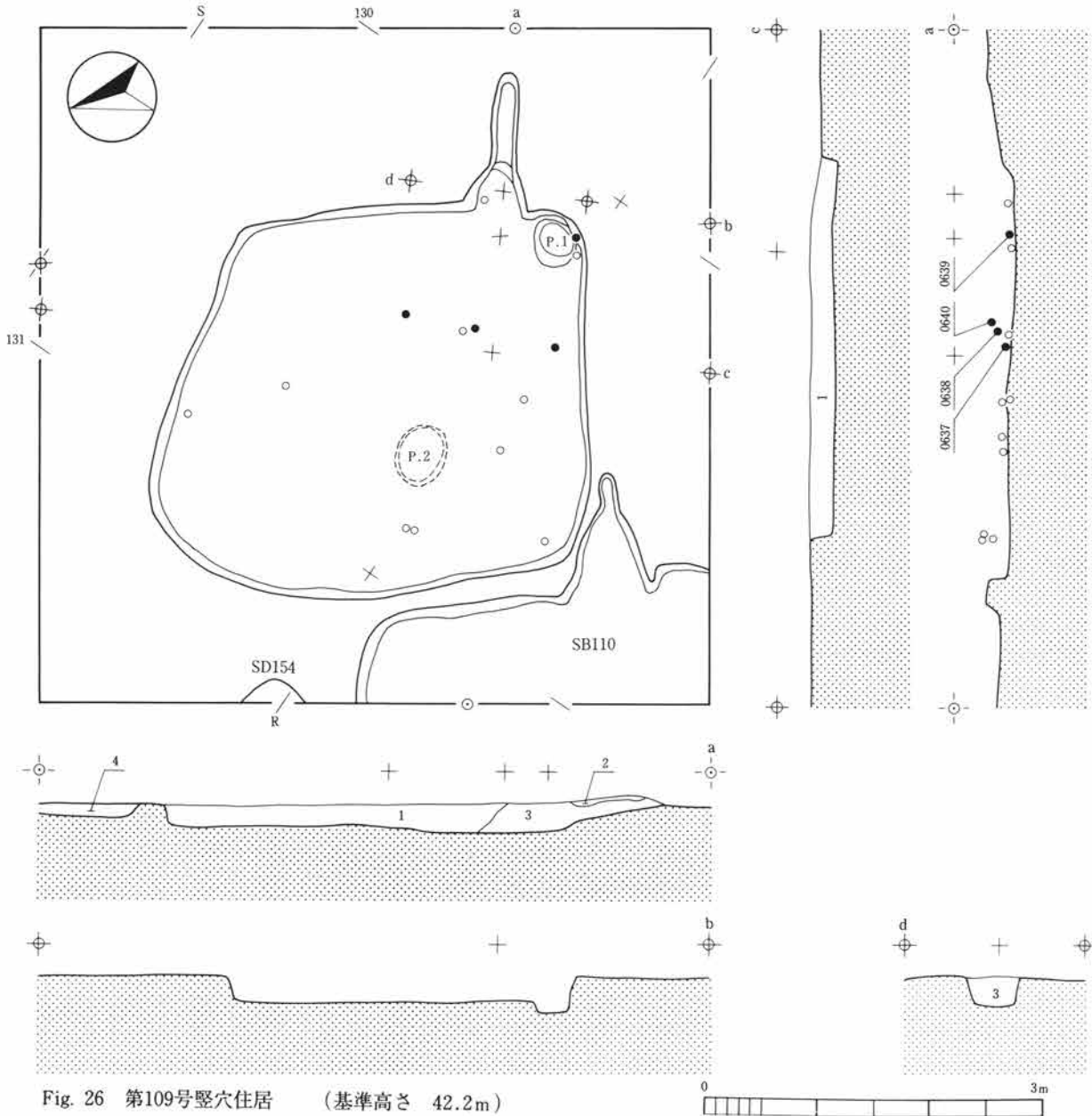


Fig. 26 第109号竪穴住居（基準高さ 42.2m）

110号住居 SB110 (遺構 PL. 13、遺物 Fig. 161)

発掘区Ⅲ区のQ131に位置する。平面形は横長形、縦2.99m、横3.60mを測り、面積は約10.8<sup>2</sup>mである。住居の方位はN-108°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は23cm、周溝はなく、床面高は41.66mである。覆土は3層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯崩落土、3層は154号土壙埋土である。土質は1層暗褐色土層で焼土粒及び炭化物粒を含むややしまった層、2層灰褐色土層で粘土粒、焼土粒の混土、3層褐色土層で炭化物粒を多く含み焼土粒も見られるややしまった層である。住居中央寄りに床下のピットがあり平面形は径32cmの円形で深さは24cmを測る。本住居の窯の東側に切り合うような位置に109号住居が接近している。また北東部に154号土壙、北側に148号、151号土壙が近接して検出されている。竈の右袖は小さく突出している。燃烧部は『風』字形を呈し前幅70cm、奥行70cmを測る。検出された煙道部は短く、前幅15cm、奥行40cmを測る。出土遺物は土師器甕、須恵器碗、瓶などがある。

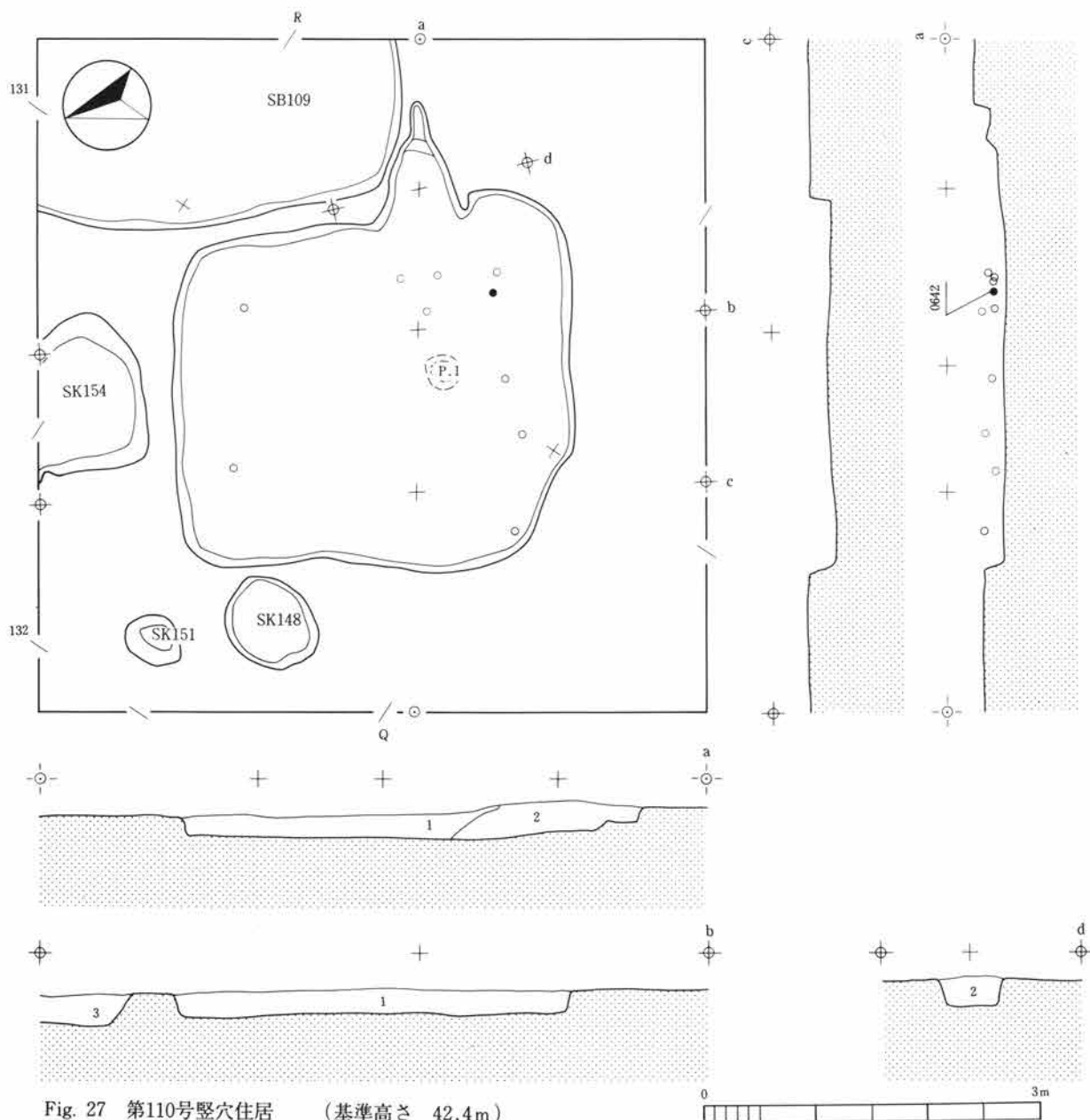


Fig. 27 第110号竪穴住居 (基準高さ 42.4m)

111号住居 SB111（遺構 PL. 113、遺物 Fig. 161）

発掘区Ⅲ区のP130に位置する。平面形は縦長形、縦3.58m、横2.31mを測り、面積は約8.3㎡である。住居の方位はN-90°-Eを取り、竈は東壁中央に付設される。確認された壁高は40cm、周溝はなく、床面高は41.71mである。覆土は3層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は112号住居内覆土、3層は113号住居内覆土である。土質は1層褐色土層で焼土、炭化物粒を含みしまった層、2、3層は未確認である。平面形は大方は縦長形をしたものの竈付設部である東壁には約50cmの食違いがみられる。竈左袖部分からの竈全長は140cmを測る。この左壁付近まで竈の底面はなだらかな傾斜を呈している。右袖付近には焼土と灰のひろがり若干みられるものの、左袖に対する右袖の欠落ということも考えてみたがそれらを証明する資料の検出はなかった。本住居の西側には2軒の住居が重複している。新旧関係は113号住居が古く、111号住居と112号住居が新しい。けれども111号住居と112号住居の新旧関係については明らかにすることができなかった。

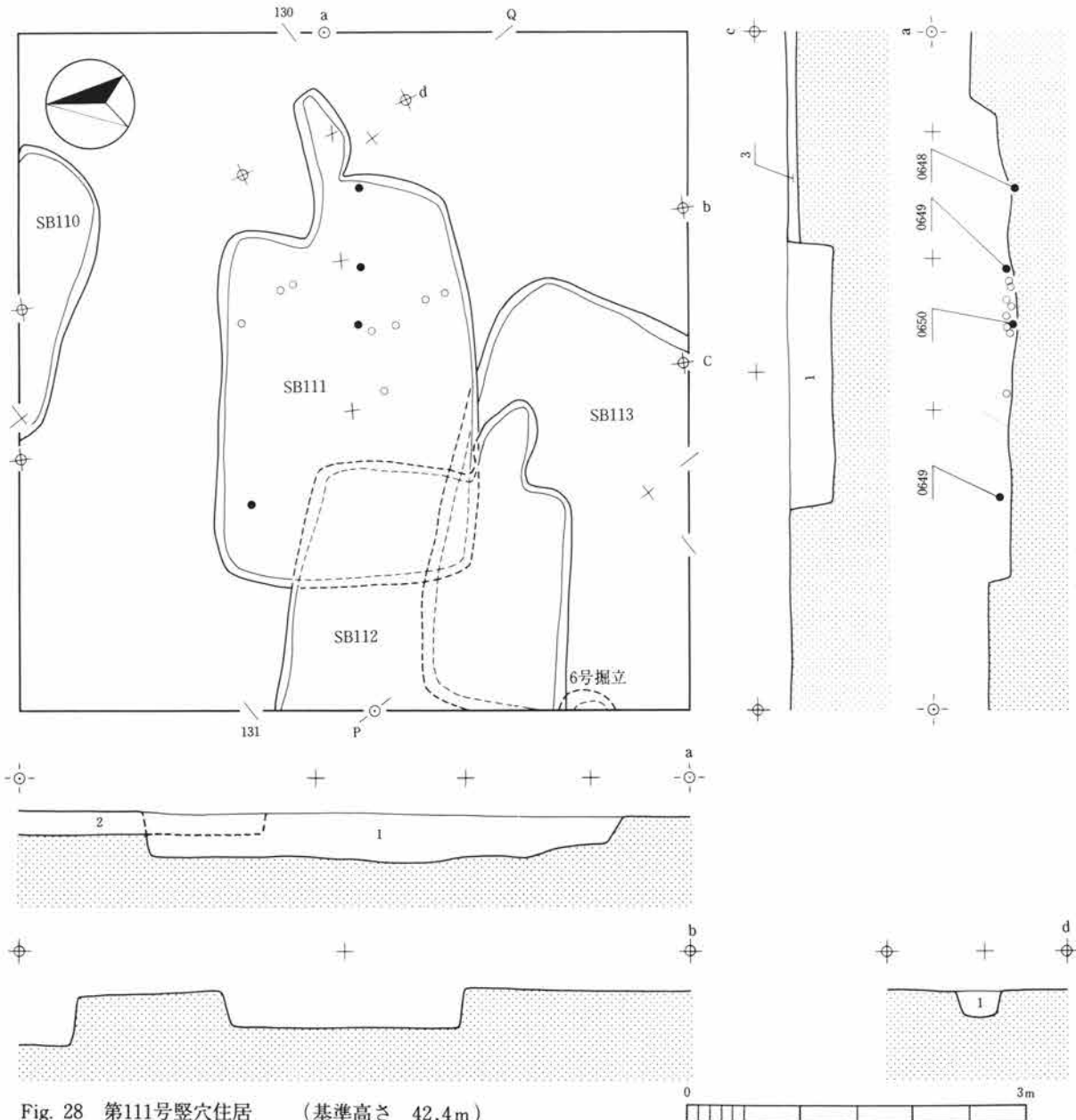


Fig. 28 第111号竪穴住居（基準高さ 42.4m）

112号住居 SB112 (遺構 PL. 13、遺物 PL. 51、Fig. 161)

発掘区Ⅲ区のP131に位置する。平面形は縦長形、縦3.15m、横2.53mを測り、面積は約8.0m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-98°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は22cm、周溝はなく、床面高は41.90mである。覆土は2層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は111号住居内覆土である。土質は1層未確認、2層褐色土で焼土、炭化物粒を含みしまった層である。本住居は他の2軒の住居と重複関係にある。113号住居が古く111号住居と112号住居とが新しい。けれども111号住居と112号住居との新旧関係について発掘において検証することができなかった。竈の前面には幅30cm、手前に45cmの焼土のひろがりがあった。窯の構造はほとんどが燃焼部の本体と考えられ煙道の検出はできなかった。燃焼部の前幅は30cmを測り奥行は75cmを測る。煙道部に向かいながら尖りながらおわる。遺物の出土は窯の燃焼部のなかと、南西壁、竈の右側に沿って検出された。器種は須恵器の高台杯と須恵器の杯である。

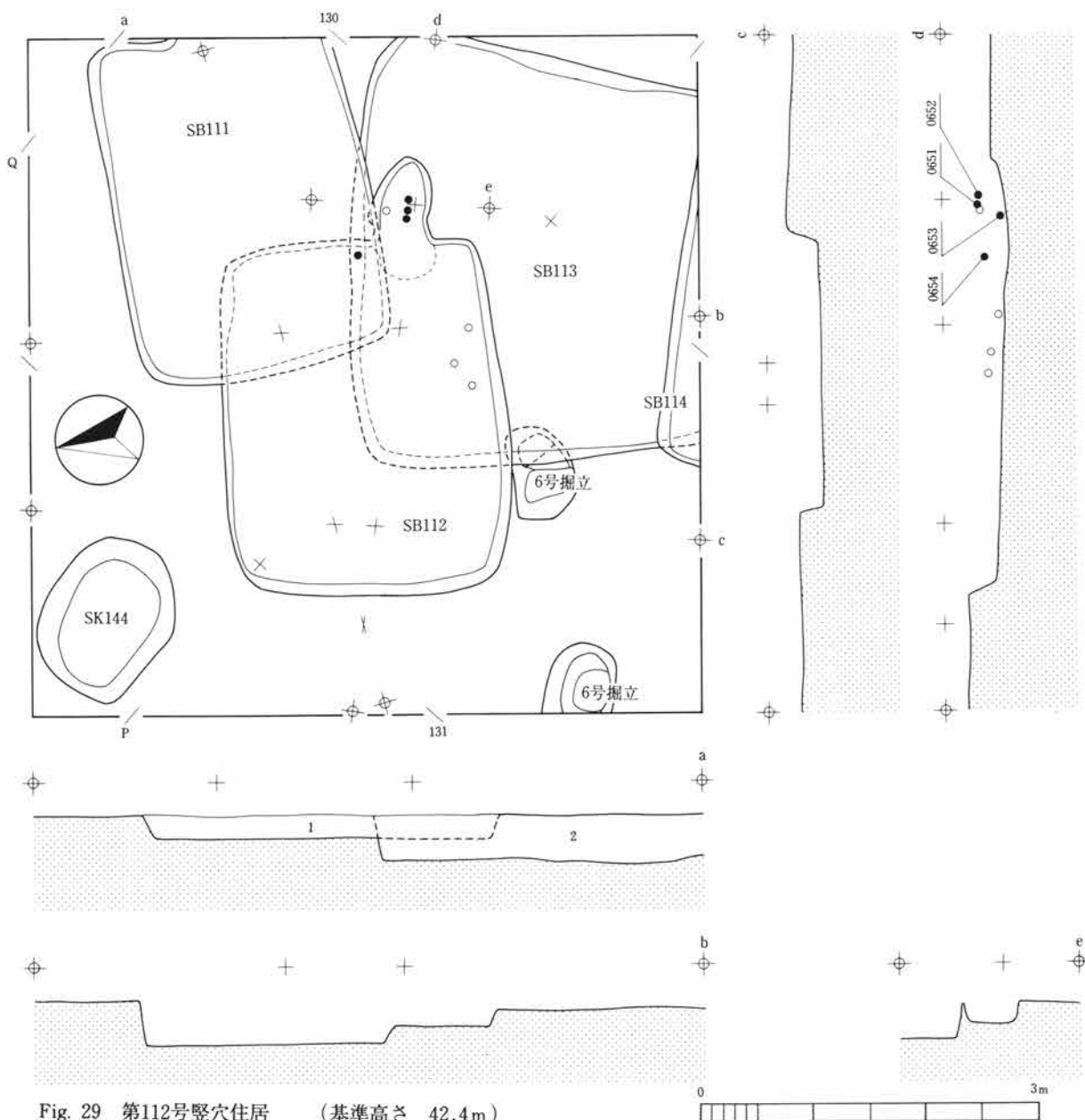


Fig. 29 第112号竪穴住居 (基準高さ 42.4m)

113号住居 SB113（遺構 PL. 14、遺物 Fig. 161）

発掘区Ⅲ区のP130に位置する。平面形は正方形、縦3.58m、横3.50mを測り、面積は約12.5㎡である。住居の方位はN-106°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は19cm、周溝はなく、床面高は42.03mである。覆土は114号住居窯前の床下ピットの1層である。土質は未確認である。本住居の周囲は他の遺構によって切り合っている。北側は112号住居によって、北東側は111号住居によって、北西側は6号掘立柱建物の3号柱穴によって切り合っている。また南東側は6号掘立柱建物の4号柱穴によって、北側は114号住居によって切り合っている。これらの遺構の切り合いの新旧関係を新しい順に並べると次のようになる。111号住居と112号住居と114号住居の3軒の住居同志の新旧関係は不明であるが、本住居よりも全て新しい。また、6号掘立柱建物の3号柱穴と4号柱穴は本住居よりも古い。112号住居と114号住居の発掘作業に重点を置いていたために、遺構精査段階に検出され、その結果、住居覆土などの図化が不十分である。

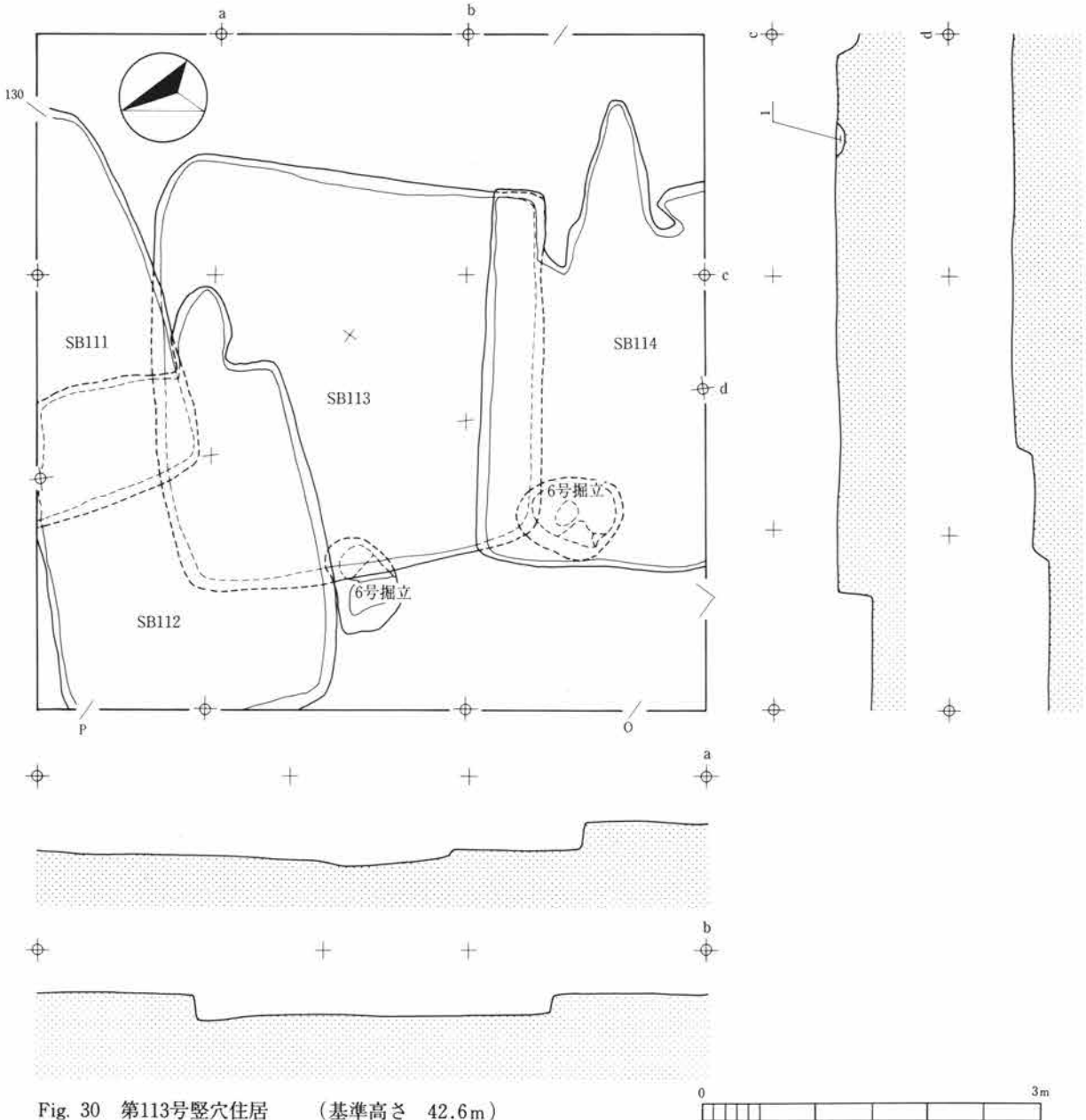


Fig. 30 第113号竪穴住居（基準高さ 42.6m）

114号住居 SB114 (遺構 PL. 14、遺物 Fig. 161)

発掘区Ⅲ区のO129に位置する。平面形は縦長形、縦3.43m、横2.44mを測り、面積は約8.4㎡である。住居の方位はN-108°-Eを取り、竈は東壁中央に付設された。確認された壁高は28cm、周溝はなく、床面高は42.03mである。覆土は6層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯崩落土、3層は窯体埋没土、4、5層は窯底面の土層、6層は窯前の床下ピットである。土質は1層焼土ブロックを含む暗灰色粘土層、2層焼土ブロック塊、3層白色粘土層上の灰層で下層の灰層と同一な土質の層、4層白色粘土層、5層灰層、6層焼土、灰を含む暗褐色土層である。住居竈前には窯前の床下ピットがあり平面形は偏楕円形を呈し、長軸79cm×短軸54cm、深さ23.5cmを測り、2号ピットは竈前右の貯蔵穴で平面形は偏楕円形を呈し長軸97cm×短軸60cm、深さ16cmを測る本住居に伴う遺物は土師器甕8、須恵器椀2、杯1、灰釉陶器皿1、椀1の合計13点である。本住居よりも重複する113号住居は古い。

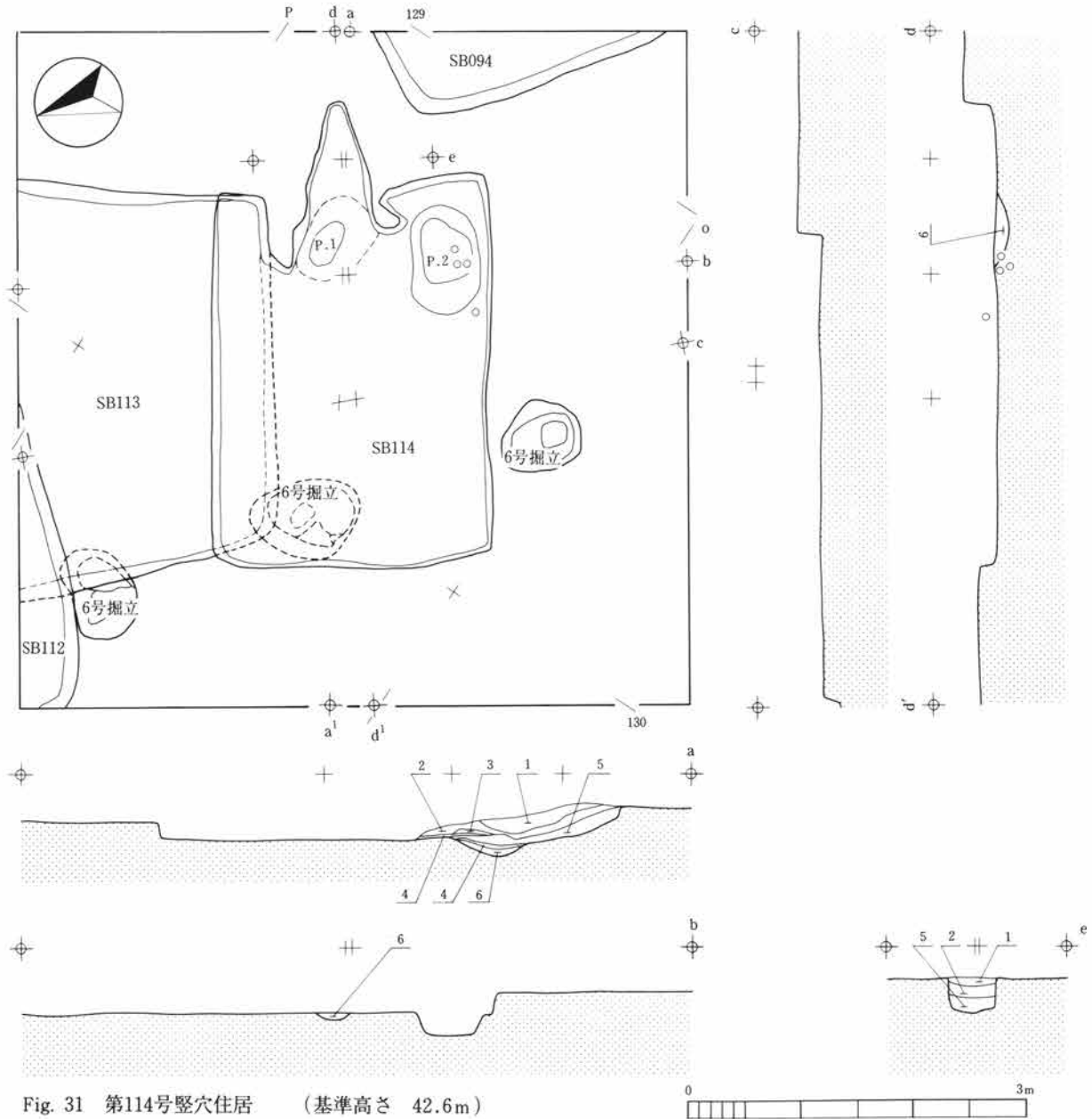


Fig. 31 第114号竪穴住居 (基準高さ 42.6m)



115号住居 SB115（遺構 PL. 15、遺物 PL. 51、Fig. 162）

発掘区Ⅲ区のP132に位置する。平面形は正方形、縦2.70m、横2.54mを測り、面積は約6.9m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-87°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は64cm、周溝はなく、床面高は41.03mである。覆土は7層に分けられた。1～6層は住居内覆土、7層は竈底面の土層である。土質は1層暗褐色土層で砂質粘土層に植物腐敗の縦方向の凝集が見られる層、2層未確認、3層暗灰色土層で黒色ブロックの混入が比較的多い層、4層暗灰色土層で単一な砂質粘土層、5層褐色土層で砂のブロックを多量に含む層、6層暗灰色土層で砂のブロック、黒色粘土ブロックを若干混入する層、7層暗灰色土層で全体に黒味を帯び若干の砂のブロック、黒色土のブロックを含む層である。平面形を正方形に分離したけれども住居の東壁、すなわち竈の両壁付近は肩の張りが弱い。竈の構造に決め手を欠くものの焼成部分本体と考えられ、煙道部分は削平してしまっただと考えられた。出土遺物は土師器甕、須恵器蓋、杯などである。

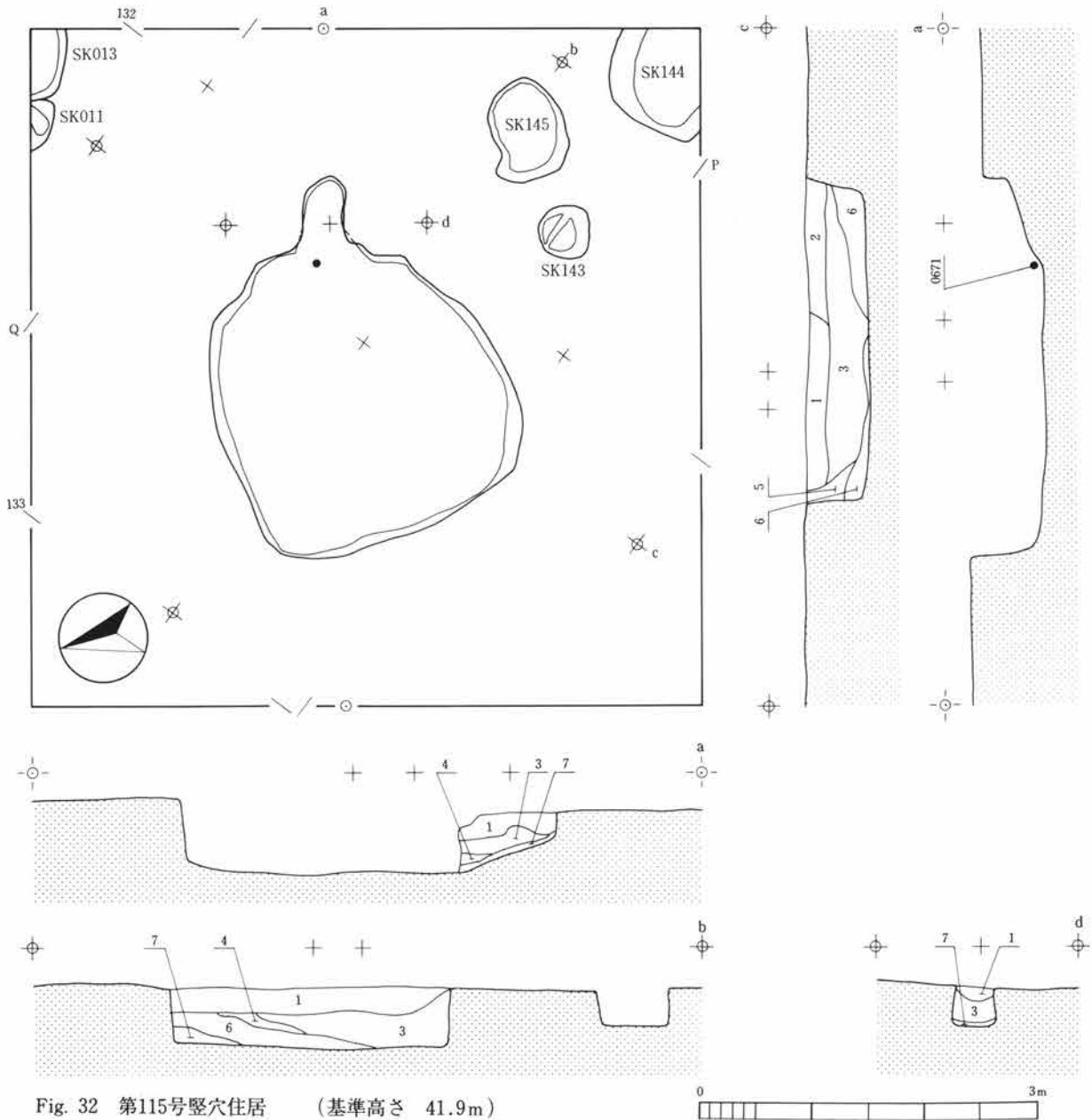


Fig. 32 第115号竪穴住居（基準高さ 41.9m）

116号住居 SB116 (遺構 PL. 14、遺物 Fig. 162)

発掘区Ⅲ区のL133に位置する。平面形は縦長形、縦3.59m、横2.43mを測り、面積は約8.7㎡である。住居の方位はN-103°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は5cm、周溝はなく、床面高は41.50mである。覆土は2層は分けられた。1層は住居内覆土、2層は117号住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層で砂質を多量に含む軟質な層、2層炭化層である。住居竈前右には貯蔵穴があり平面形は径34cmの円形を呈し深さ7cmを測る。東壁は竈を中心に両肩がなだらかに落ちている。竈前には焼土、灰層が前幅160cm、前方に約50cmの範囲にひろがる。住居中央寄りに8号掘立柱建物の4号柱穴が重複しており本住居よりも古い。また東壁部で重複する117号住居は本住居よりも新しい。出土遺物は土師器甕、須恵器鉢、盤などである。

117号住居 SB117 (遺構 PL. 14、遺物 PL. 51、Fig. 162)

発掘区Ⅲ区のK133に位置する。平面形は横長形、縦0.90m、横1.49mを測り、面積は約1.3㎡である。住居の方位はN-118°-Eを取り、竈は南東壁右寄りに付設される。確認された壁高は5cm、周溝はなく、床面高は41.54mである。覆土は2層に分けられた。土質は1層暗褐色土層で砂質を多量に含む軟質な層、2層炭化層である。平面形を横長形に分類してあるが発掘時に検出された竈とその前面の焼土と灰のひろがりを中心に復元したものである。竈は燃烧部と煙道に分かれ燃烧部前幅は80cm、奥行35cm、煙道部幅10cm、長さ30cmを測り、全長70cmである。焼土のひろがりは幅70cm、前面40cmを測る。遺物はその焼土の範囲を検出したのみであった。土器の器種は土師器碗、甕、須恵器碗、杯などである。

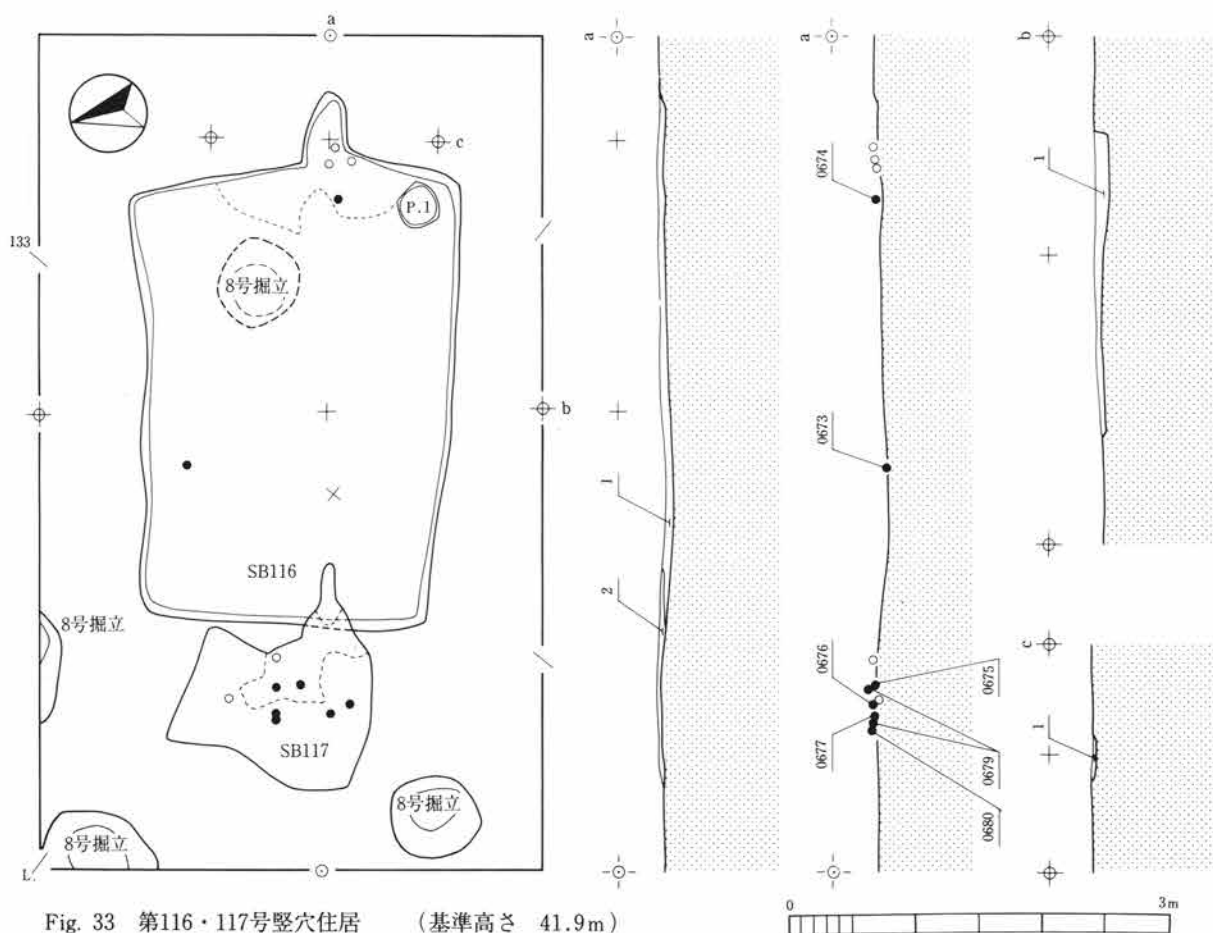


Fig. 33 第116・117号竈穴住居 (基準高さ 41.9m)

118号住居 SB118（遺構 PL. 14、遺物 PL. 52、Fig. 162）

発掘区Ⅳ区のV138に位置する。平面形は縦長形、縦3.77m、横3.11mを測り、面積は約11.7㎡である。住居の方位はN-92°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は27cm、周溝はなく、床面高は41.12mである。覆土は4層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3、4層は121号住居内覆土である。土質は1層褐色土層、2層褐色土層で炭化物を含み、ところどころ焼土粒が見られる層、3層褐色土層で炭化物、灰白色粘土粒をわずかに含む層、4層褐色土層でわずかに暗褐色粘質土を含み砂質がかった層である。本住居の東北部分の約半分は未調査部分である。したがって平面形を縦長形としたのも想定でしかない。北西隅は121号住居によって切り合い関係をもっているが本住居よりも古いと考えられる。南壁側は120号住居によって切り合っているか新旧関係を証拠だてるものはない。また119号住居は本住居とは切り合わず接近している。出土遺物は限られた範囲の全体に散布している。出土遺物は土師器碗、甕、須恵器碗、杯、長頸瓶などである。

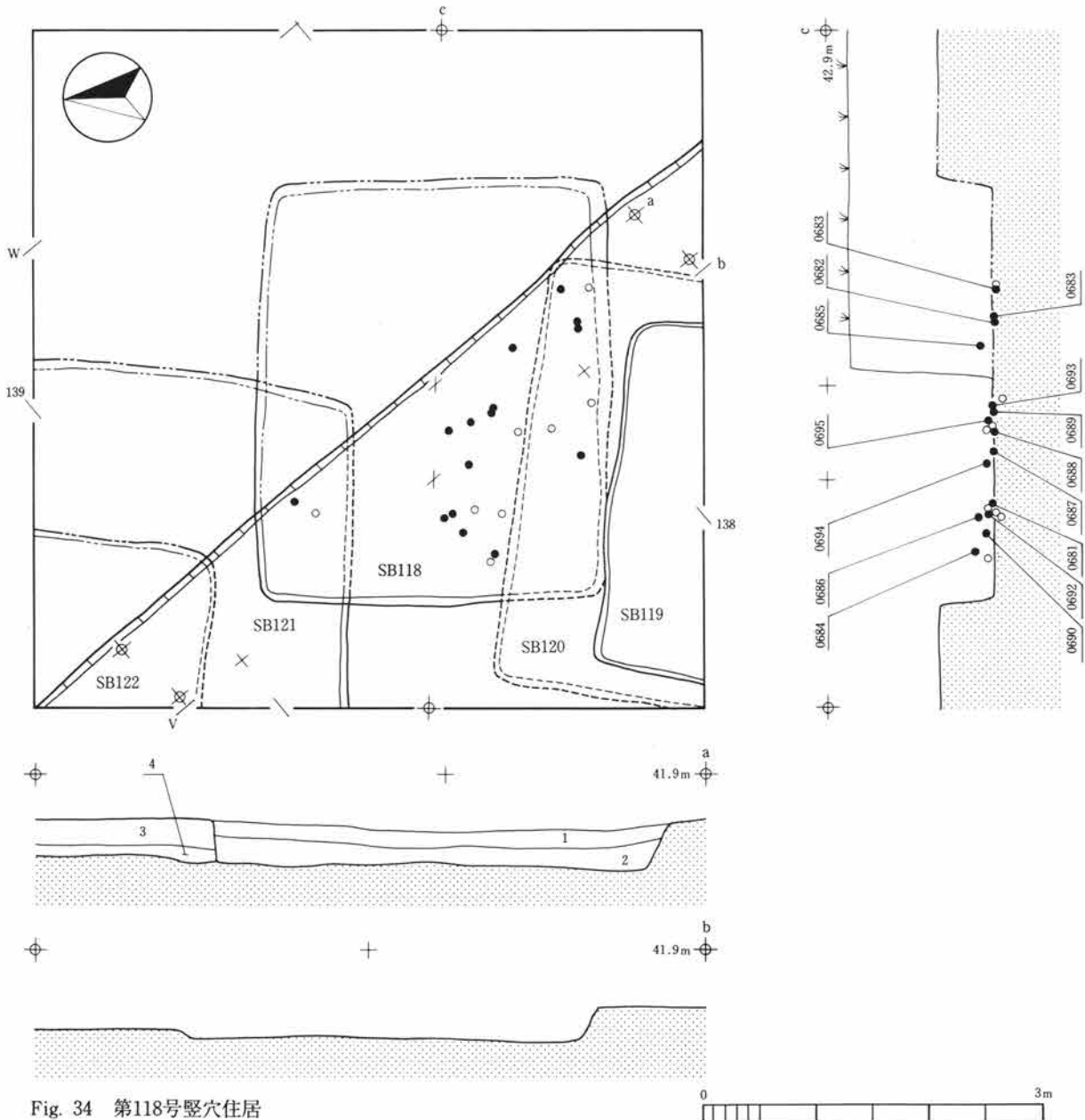


Fig. 34 第118号竪穴住居

119号住居 SB119 (遺構 PL. 15、遺物 Fig. 162)

発掘区IV区のU138に位置する。平面形は正方形、縦3.30m、横3.05mを測り、面積は約10.1m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-98°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は9cm、周溝はなく、床面高は41.48mである。覆土は5層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3層は120号住居内覆土、4、5層は118号住居内覆土である。土質は1層褐色土層で鉄分、粘土粒を含むややしまった層、2層灰と焼土の堆積層、3層未確認、4層褐色土層、5層褐色土層で炭化物を含み、ところどころに焼土粒が見られる層である。本住居は120号住居の中にすっぽりと埋没しているように検出された。住居の北壁は118号住居が接している。西隅は131号住居と切り合っている。これらの重複住居の新旧関係を新しい順に並べると119号住居、120号住居、131号住居となる。竈の窯底は平坦で全長120cm、前幅は50cmを測り、燃烧部と煙道との明瞭な区分はできなかつた。

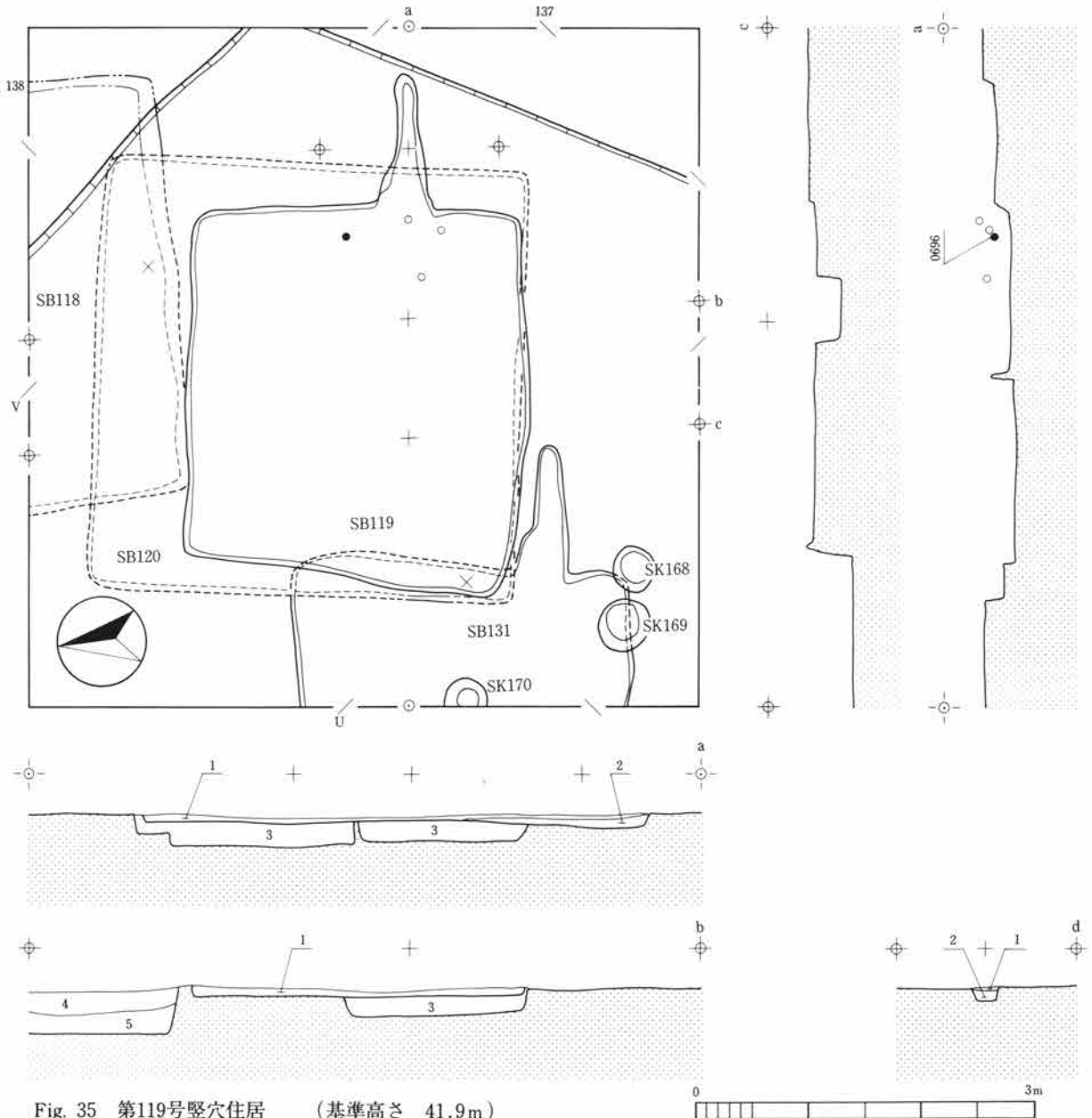


Fig. 35 第119号竪穴住居 (基準高さ 41.9m)

120号住居 SB120

発掘区Ⅳ区のU138に位置する。平面形は正方形、縦3.83m、横3.80mを測り、面積は約14.6㎡である。住居の方位はN-102°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は26cm、周溝はなく、床面高は41.30mである。覆土は5層に分けられた。1層は床面整地土、2、3層は119号住居内覆土、4、5層は118号住居内覆土である。土質は1層未確認、2層褐色土層で鉄分、粘土粒を含むややしまった層、3層灰と焼土の堆積層、4層褐色土層、5層褐色土層で炭化物を含み、ところどころに焼土粒が見られる層である。本住居の北壁に接して118号住居が位置する。119号住居が本住居の上に重なって乗り、本住居よりも新しい。131号住居も西壁部分で重複しており、本住居より古い。本住居の南半分の床下に図示された不定形の落ち込みがみられた。土壌とするには不安定で深さ5～8cmの焼土と灰の堆積があり周縁部分の一部に窯壁らしく赤褐色に硬化した部分もみられる。堆積中より羽口の崩壊した破片もみられI房の残骸とも考えられる。

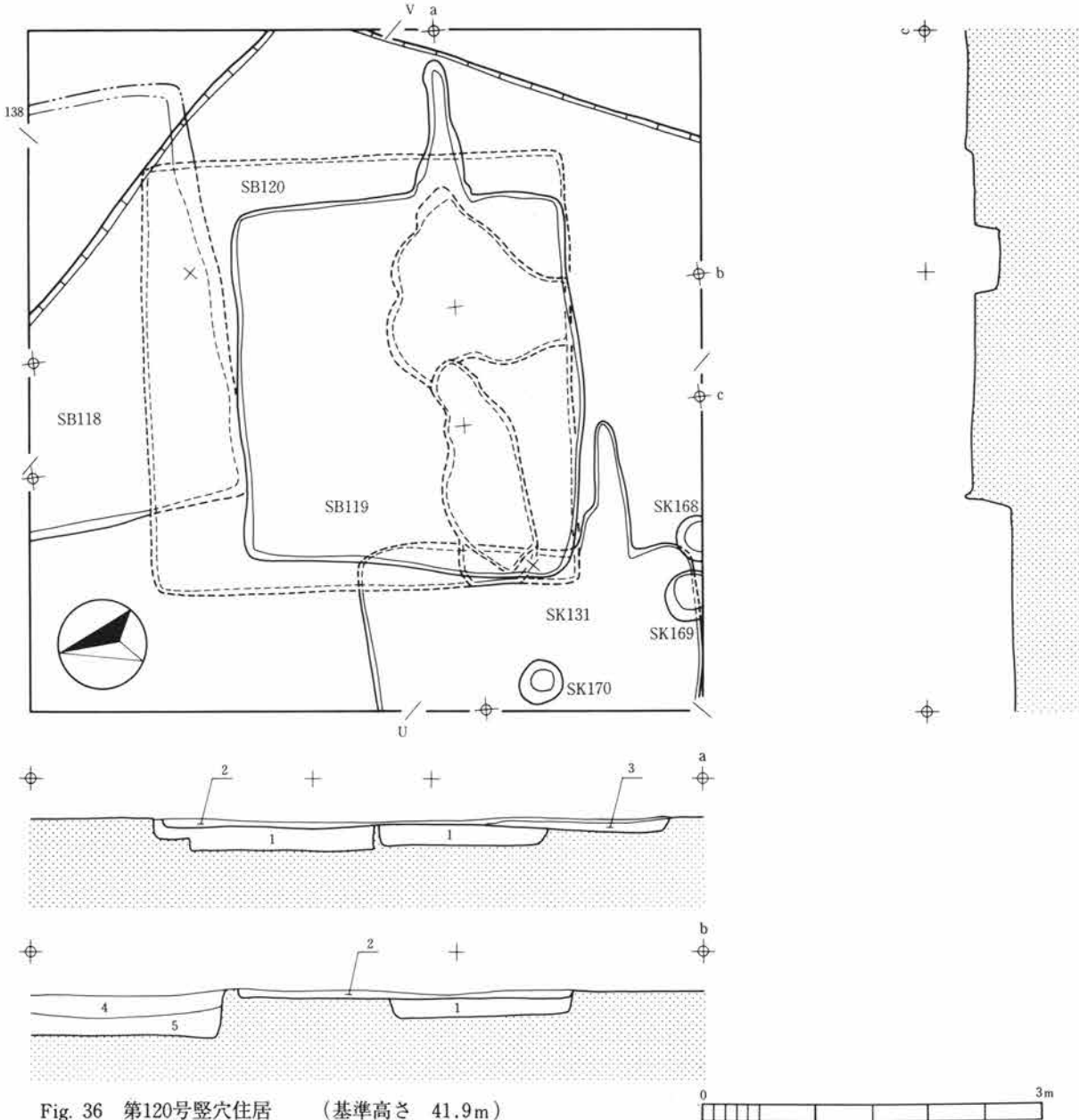


Fig. 36 第120号竪穴住居（基準高さ 41.9m）

121号住居 SB121 (遺構、遺物 Fig. 163)

発掘区IV区のV139に位置する。平面形は縦長形、縦3.84m、横3.37mを測り、面積は約12.9m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-97°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は44cm、周溝はなく、床面高は41.19mである。覆土は5層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3、4層は118号住居内覆土、5層は122号住居内覆土である。土質は1層褐色土層で炭化物、灰白色粘土粒をわずかに含む層、2層褐色土層でわずかに暗褐色粘質土を含み砂質がかった層、3層褐色土層で1層よりやや暗い層、4層褐色土層で炭化物を含み、ところどころ焼土粒が見られる層、5層未確認である。本住居の北東部分は未調査のため平面形を縦長形とした分類基準には復元が入る。また重複がみられたものの、重複部分も未調査となっているために新旧関係に積極的な論拠が弱い。新旧関係を新しい順に並べると118号住居、121号住居、122号住居となる。出土遺物は南西部分の床面付近に集中している。土器の器種は須恵器杯、碗などである。

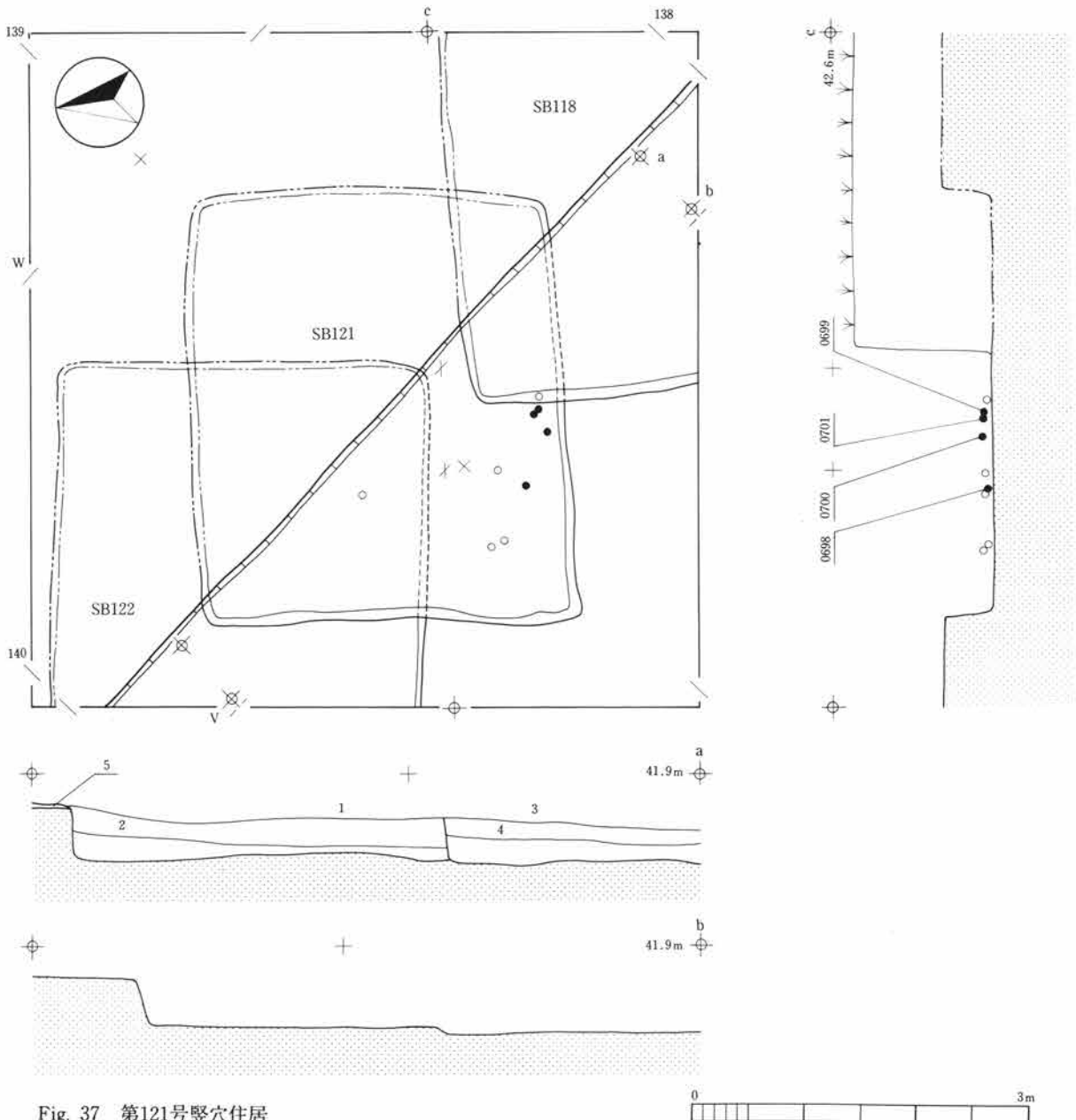


Fig. 37 第121号竪穴住居

122号住居 SB122（遺構 PL. 15）

発掘区Ⅳ区のV139に位置する。平面形は正方形、縦3.42m、横3.36mを測り、面積は約11.5㎡である。住居の方位はN-100°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は12cm、周溝はなく、床面高は41.62mである。覆土は5層に分けられた。1層は住居内覆土、2、3層は121号住居内覆土、4、5層は118号住居内覆土である。土質は1層未確認、2層褐色土層で炭化物、灰白色粘土粒が見られる層、3層褐色土層でわずかに暗褐色粘質土を含み砂質がかった層、4層褐色土層で2層よりやや暗い層、5層褐色土層で炭化物を含み、ところどころ焼土粒が見られる層である。本住居の東北部分、平面の半分近くは未調査部分であるため、平面形を正方形に区分したもの検討し復元したものである。検出後の住居内の残存覆土は少ないため重複関係についても積極性を欠くこととなった。新旧関係は122号住居が古く、121号住居が新しいと考えている。残存した床面部分は平坦で比較的硬くしまっている。出土遺物は小破片が殆どで図示できるものはなかった。

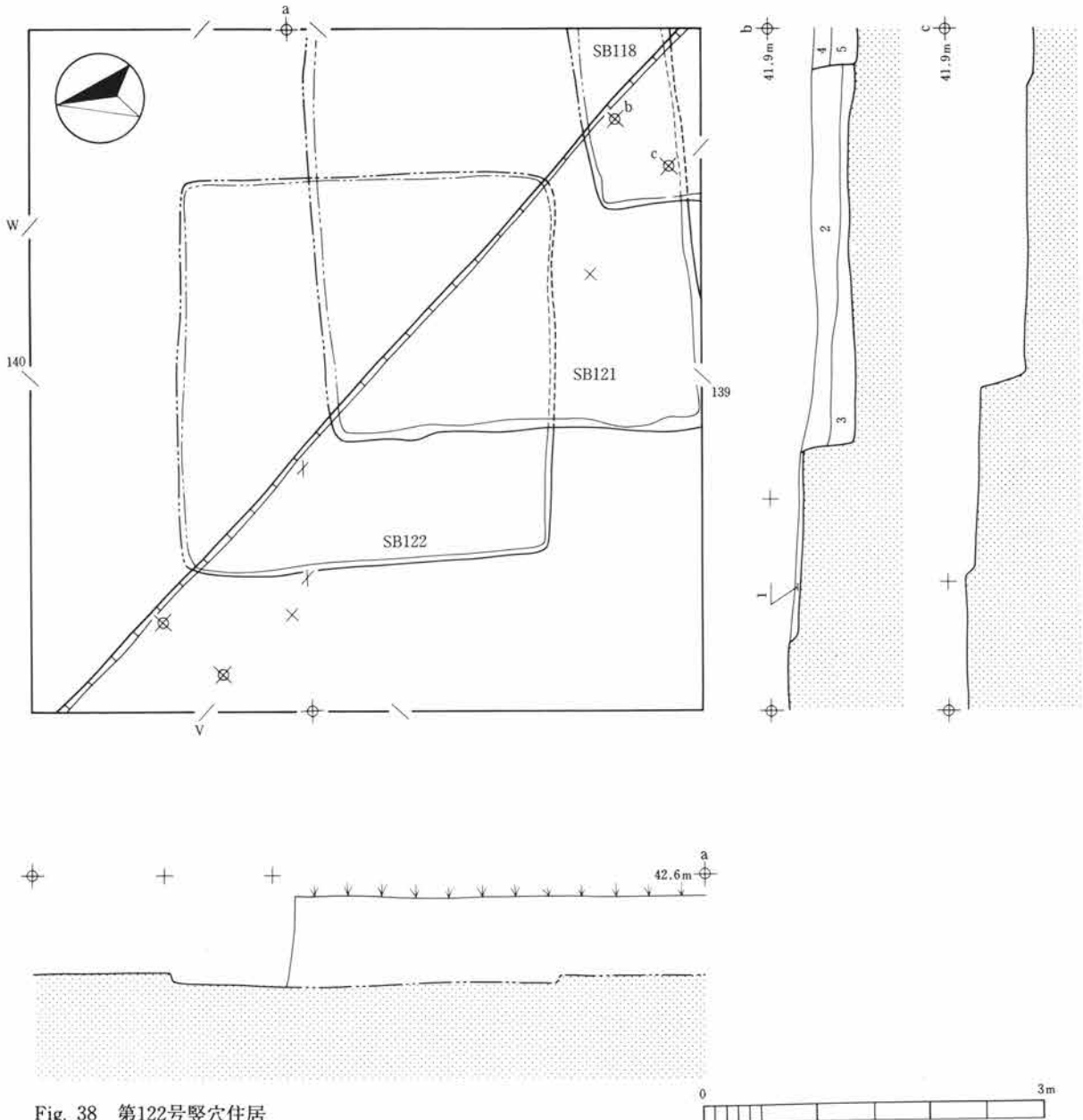


Fig. 38 第122号竪穴住居

123号住居 SB123 (遺構 PL. 23、遺物 Fig. 163)

発掘区IV区のU140に位置する。平面形は正方形、縦3.27m、横3.39mを測り、面積は約11.1m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-107°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は14cm、周溝はなく、床面高は41.64mである。覆土は4層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯崩落土、3層は窯底面の土層、4層は124号住居内覆土である。土質は1層褐色土層で砂質土でサクサクした感じ、焼土、炭化物を含む層、2層褐色土層で焼土ブロック、粘土の小粒子の堆積層、3層灰の堆積層、4層褐色土層で炭化物、焼土粒、褐色の粘土粒を含む層である。本住居の北東壁は北隅が大きく丸く弧を描き東南壁に連続する。このため正方形に平面図を区分したものの窯のある東南壁に向かって狭まる台形に近い。124号住居と重複関係にあり本住居が古い。竈前の焼土のひろがりは幅70cm、前面に45cmを測る。窯の形状は二等辺三角形の平面形で、窯床面はなだらかに傾斜して上がる。前面幅は45cm、奥行75cmを測る。出土遺物は土師器と土錘である。

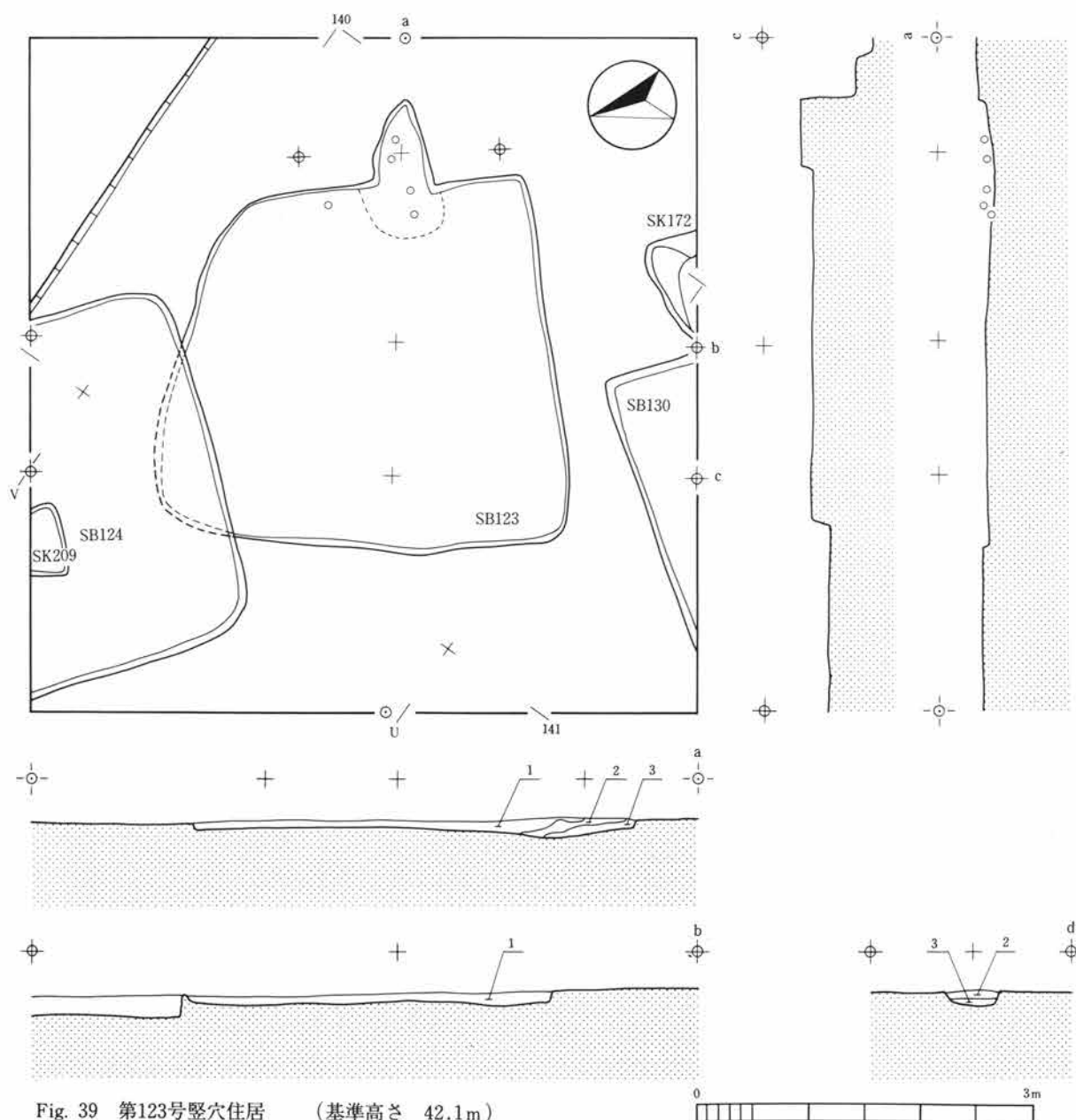


Fig. 39 第123号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)



124号住居 SB124 (遺構 PL. 15、遺物 PL. 163、Fig. 52)

発掘区Ⅳ区のU141に位置する。平面形は横長形、縦3.24m、横5.40mを測り、面積は約17.5㎡である。住居の方位はN-87°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は22cm、周溝はなく、床面高は41.54mである。覆土は住居内覆土の1層である。土質は炭化物、焼土粒を含む褐色土層である。本住居の北東部分、復元した面積の $\frac{1}{2}$ は調査区域外である。西壁の長辺に対して、南壁の短辺の比は1.7対1となっており、他の住居よりも長方すぎる形となってしまった。住居中央には209号土壙が検出された。遺構検出段階で判断されたため、本住居よりも新しいと考えられる。土壙は長方形を呈し、上幅で長辺63cm、短辺38cmを測り、深さは50cmとやや深い。南西壁には123号住居が重複している。123号住居の北西壁はその他の各辺よりも不定形な形状で検出された。すなわち北辺と西辺とは稜をもたずにゆるやかな弧線を描いて接続している。123号住居は本住居よりも古いと考えられる。床面部分には少量の黒い灰のひろがり認められたが焼土は更に少ない。

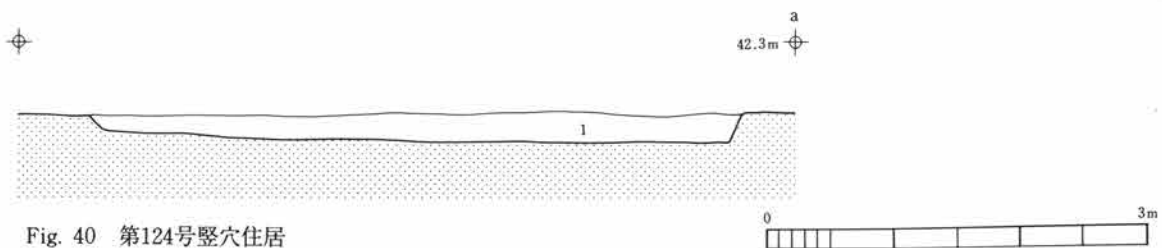
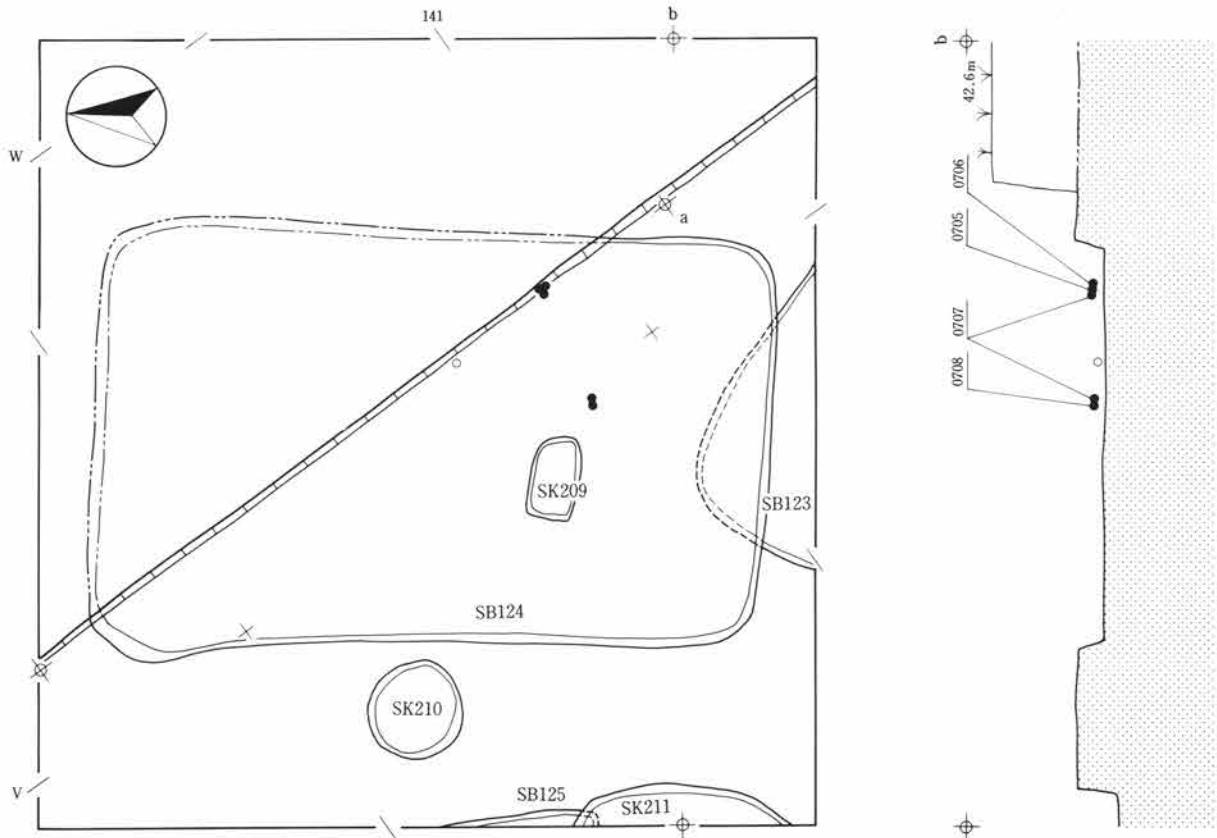


Fig. 40 第124号竪穴住居

第II章 遺 構

125号住居 SB125 (遺構 PL. 15、遺物 Fig. 163)

発掘区IV区のU142に位置する。平面形は横長形、縦2.85m、横3.96mを測り、面積は約11.3m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-3°-Eを取り、竈は北壁右寄りに付設される。確認された壁高は21cm、周溝はなく、床面高は41.60mである。覆土は9層に分けられた。1、2、4層は住居内覆土、3層は床面上のブロック、5層は窯崩落土、6層は126号住居内覆土、7層は127号住居内覆土、8層は213号土壌埋土、9層は214号土壌埋土である。土質は1層褐色土層で砂質土で比較的しまりわずかに炭化物粒を含む層、2層褐色土層で1層と同一の含有物でやや粘性が見られる層、3層砂層でやや粒子が荒い灰褐色土層、4層灰白色粘土層、5層灰と焼土の堆積層、6層は1層と同一で粘土粒、炭化物粒が多い層、7層で褐色土層で粘性をもち砂質土を含みわずかに炭化物、焼土の小粒子を含む層、8、9層未確認である。窯は燃烧部分と煙道からなり全長は140cmを測る。多数の土壌が重複しているが全て本住居よりも新しいと考えられる。土師器碗などが出土している。

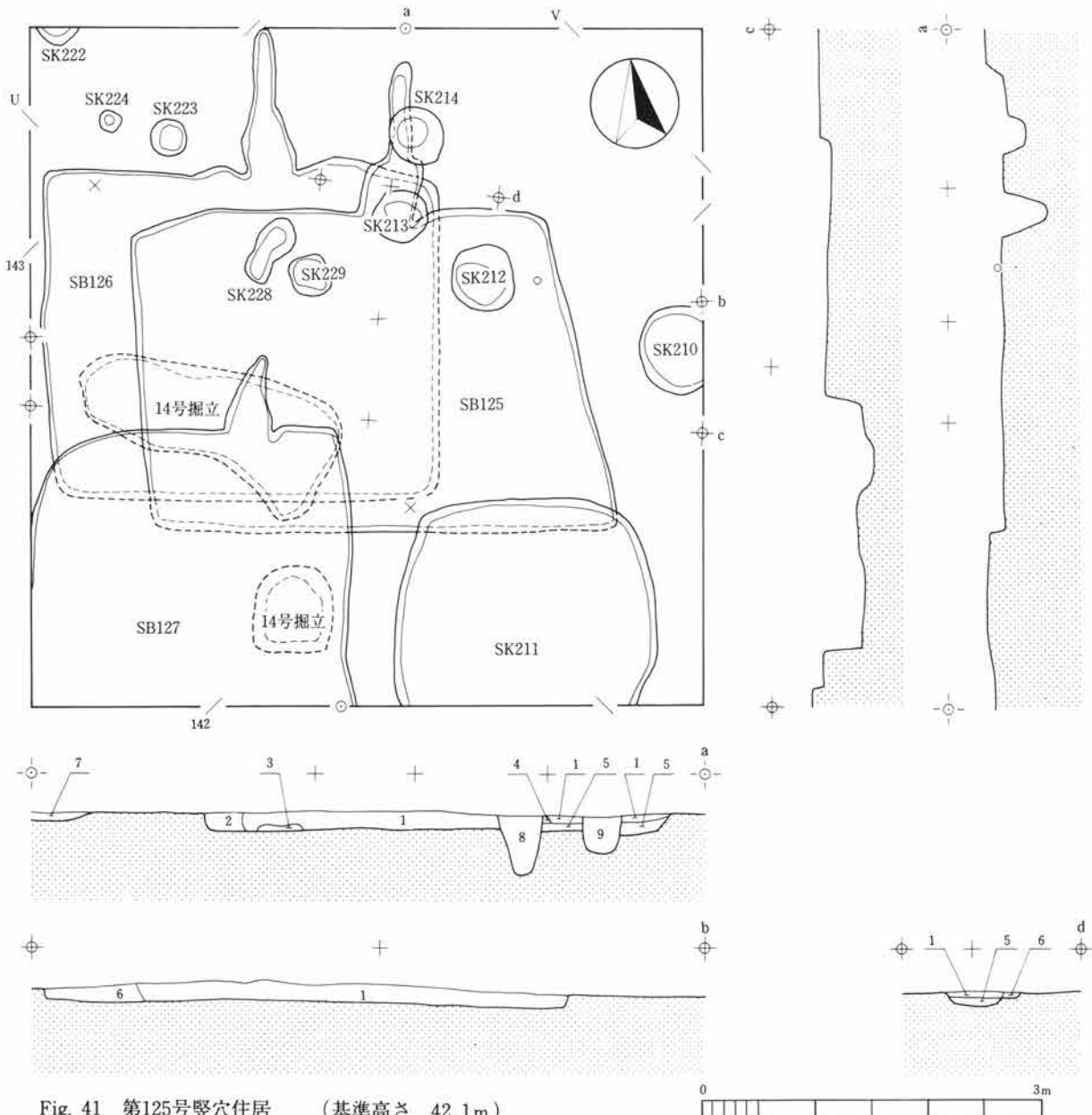


Fig. 41 第125号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

126号住居 SB126（遺構 PL. 16、遺物 Fig. 163）

発掘区Ⅳ区のU143に位置する。平面形は横長形、縦2.91m、横3.54mを測り、面積は約10.3㎡である。住居の方位はN-6°-Eを取り、竈は北壁右寄りに付設される。確認された壁高は18cm、周溝はなく、床面高は41.63mである。覆土は10層に分けられた。1、4層は住居内覆土、2、3層は窯崩落土、5層は125号住居内覆土、6層は127号住居内覆土、7層は228号土壌埋土、8層は14号掘立柱建物1号ピット埋土、9、10層は14号掘立柱建物2号、9号ピット埋土である。土質は1層褐色土層で砂質土で灰、焼土をわずかに混入する層、2層茶褐色土層で焼土ブロック、灰の堆積層、3層砂の堆積層、4、5層褐色土層で粘土粒、炭化物粒を含む砂質土でしまった層、6層褐色土層でわずかに炭化物、焼土を含む層、7~10層未確認である。本住居は125号住居と重複しており本住居が古い。また14号掘立柱建物の1号柱穴とも重複しているが本住居よりも古いと考えられる。出土遺物は土師器杯、須恵器碗、灰釉碗などが出土している。

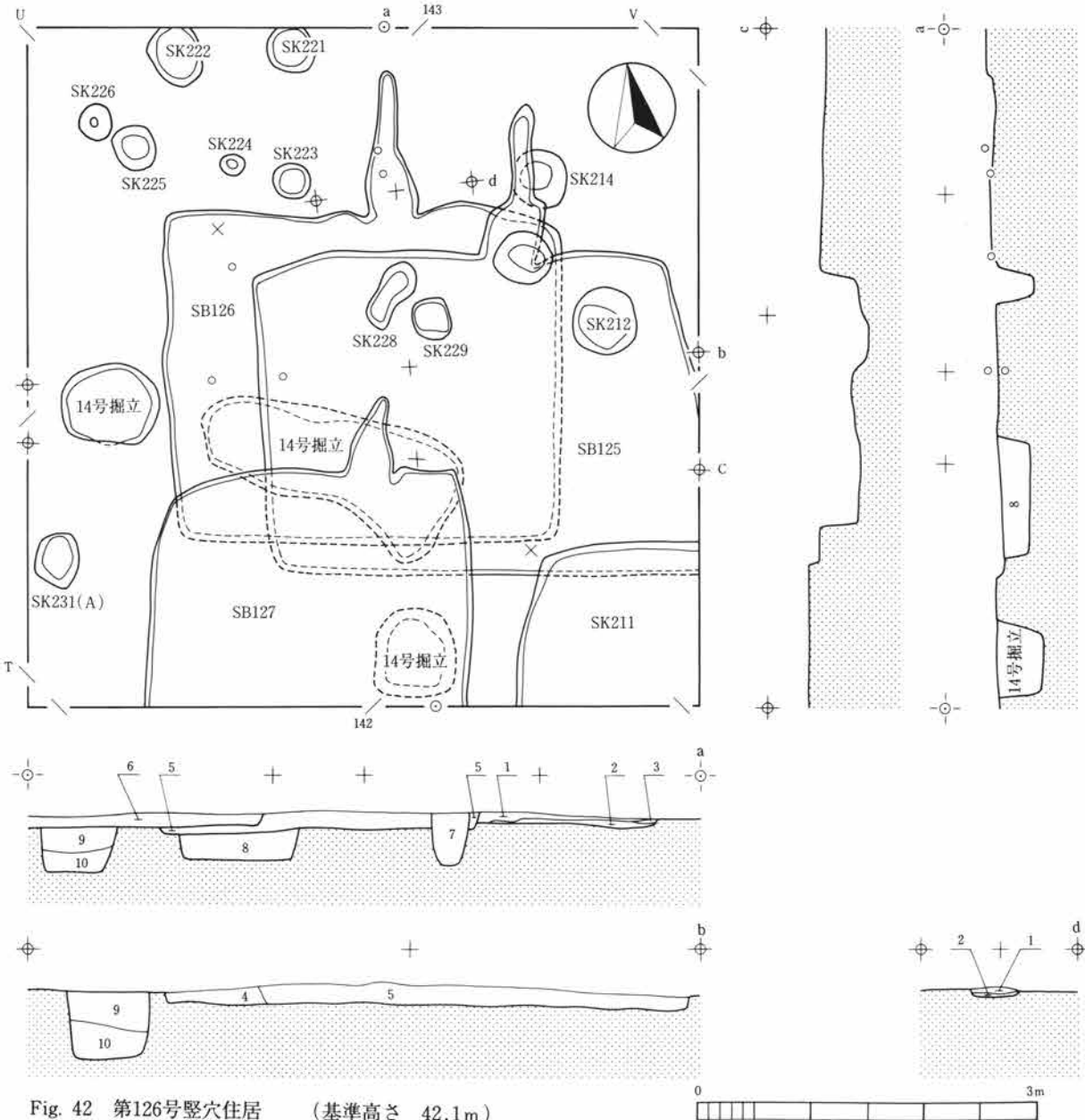


Fig. 42 第126号竪穴住居（基準高さ 42.1m）

127号住居 SB127 (遺構 PL. 16、遺物 Fig. 163)

発掘区IV区のT142に位置する。平面形は縦長形、縦3.54m、横2.87mを測り、面積は約10.2m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-3°-Eを取り、竈は北壁右寄りに付設される。確認された壁高は16cm、周溝はなく、床面高は41.65mである。覆土は10層に分けられた。1層は住居内覆土、2、3層は窯崩落土、4層は住居床面下のピット埋土、5層は125号住居内覆土、6層は14号掘立柱建物1、2、3号ピット埋土、7層は239号土壇埋土、8~10層は211号土壇埋土である。土質は1層褐色土層でわずかに炭化物、焼土の小粒子を含む層、2層焼土、炭化物を含む褐色土層、3層炭化物、灰を含む層、4、6層未確認、5層わずかに炭化物粒を含む褐色土層、7層焼土粒、炭化物をわずかに含む褐色土層、8、9層炭化物、粘土粒をわずかに混入する褐色土層、10層灰白色の粘土粒を多く含む灰褐色土層である。住居内2ヶ所にピットがある。本住居との重複関係は新しい順に127号住居、125号住居、126号住居、14号掘立柱建物である。土器は須恵器の碗が出土している。

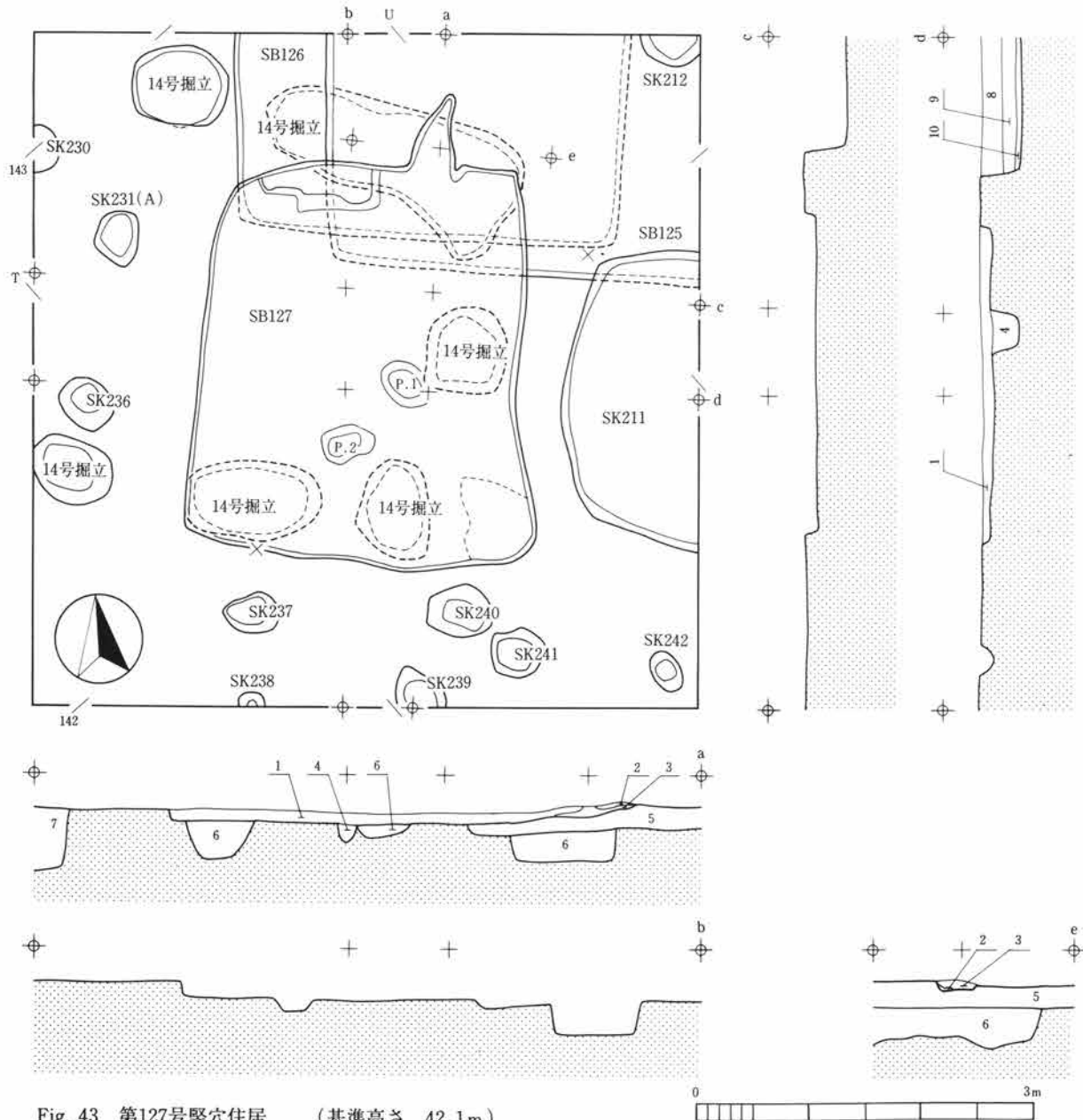


Fig. 43 第127号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

128号住居 SB128（遺構 PL. 16、遺物 Fig. 163）

発掘区Ⅳ区のT141に位置する。平面形は縦長形、縦4.19m、横3.22mを測り、面積は約13.5m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-107°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は24cm、周溝はなく、床面高は41.60mである。覆土は13層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3、4層は窯崩落土、5層は窯底面の土層、6層は129号住居内覆土、7層は129号住居に関連するピット埋土、8、9、11層は130号住居内覆土、10層は130号住居に関連するピット埋土、12、13層は133号住居内覆土である土質は、1、2、6、8、9、12、13層褐色土層、3層焼土ブロック層、4層灰の堆積層、5層灰及び焼土の小粒子堆積層、7、10、11層未確認である。住居中央寄りに床下のピットがあり、平面形は径27cmの円形を呈し、深さは29cmを測る。本住居との重複関係は新しい順に129号住居、128号住居そして古い住居に130号と133号がある。出土遺物は土師器甕、須恵器杯、椀、羽釜、甕、灰釉陶器の椀、皿それから砥石、羽口などである。

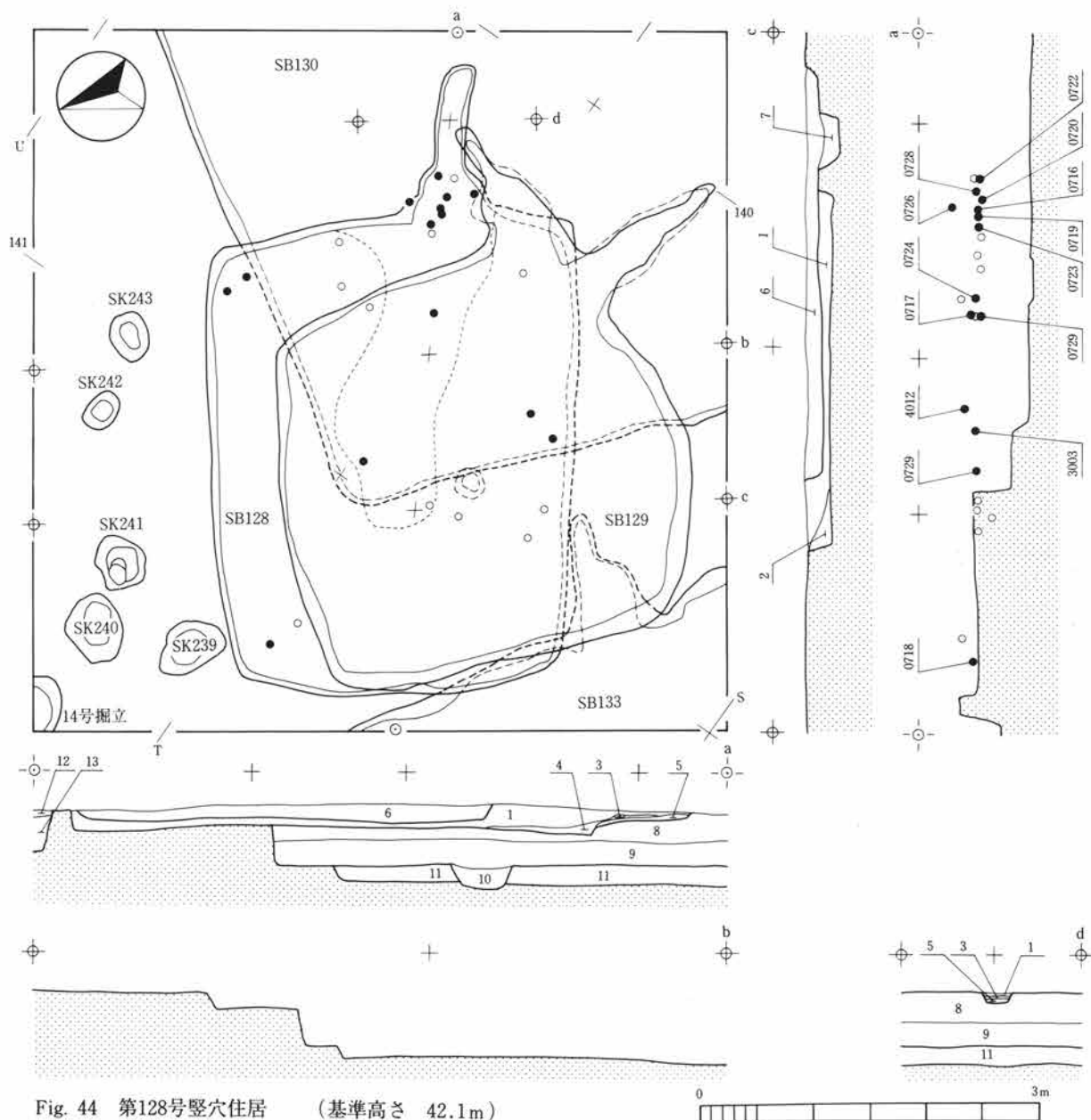


Fig. 44 第128号竪穴住居（基準高さ 42.1m）

129号住居 SB129 (遺構 PL. 16、遺物 PL. 52、Fig. 164)

発掘区IV区のT141に位置する。平面形は正方形、縦3.46m、横3.68mを測り、面積は約12.7m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-94°-Eを取り、竈は東壁右隅、南壁左隅に付設される。確認された壁高は18cm、周溝はなく、床面高は41.71mである。覆土は17層に分けられた。1層は住居内覆土、3層は窯崩落土、4～6層は窯体埋没土、2層は128号住居窯崩落土、7層は128号住居内覆土、8、9層は128号住居窯底面の土層、10、11層は130号住居内覆土、12層は130号住居床面整地土、13、14層は133号住居内覆土、15、16層は133号住居窯体埋没土、17層は133号住居窯底面の土層である。土質は1、3、4、7、10、11、13、14層褐色土層、2層暗褐色土層、5、8層焼土層、6層灰層、9層灰及び焼土の小粒子堆積層、15層灰と炭化物の堆積層、16層灰白色粘土ブロック層、12、17層未確認である。住居内6ヶ所にピットがある。出土遺物は、土師器甕2、須恵器椀3、足高椀1、高台杯1、羽釜5、土錘16、羽口1の合計29点である。

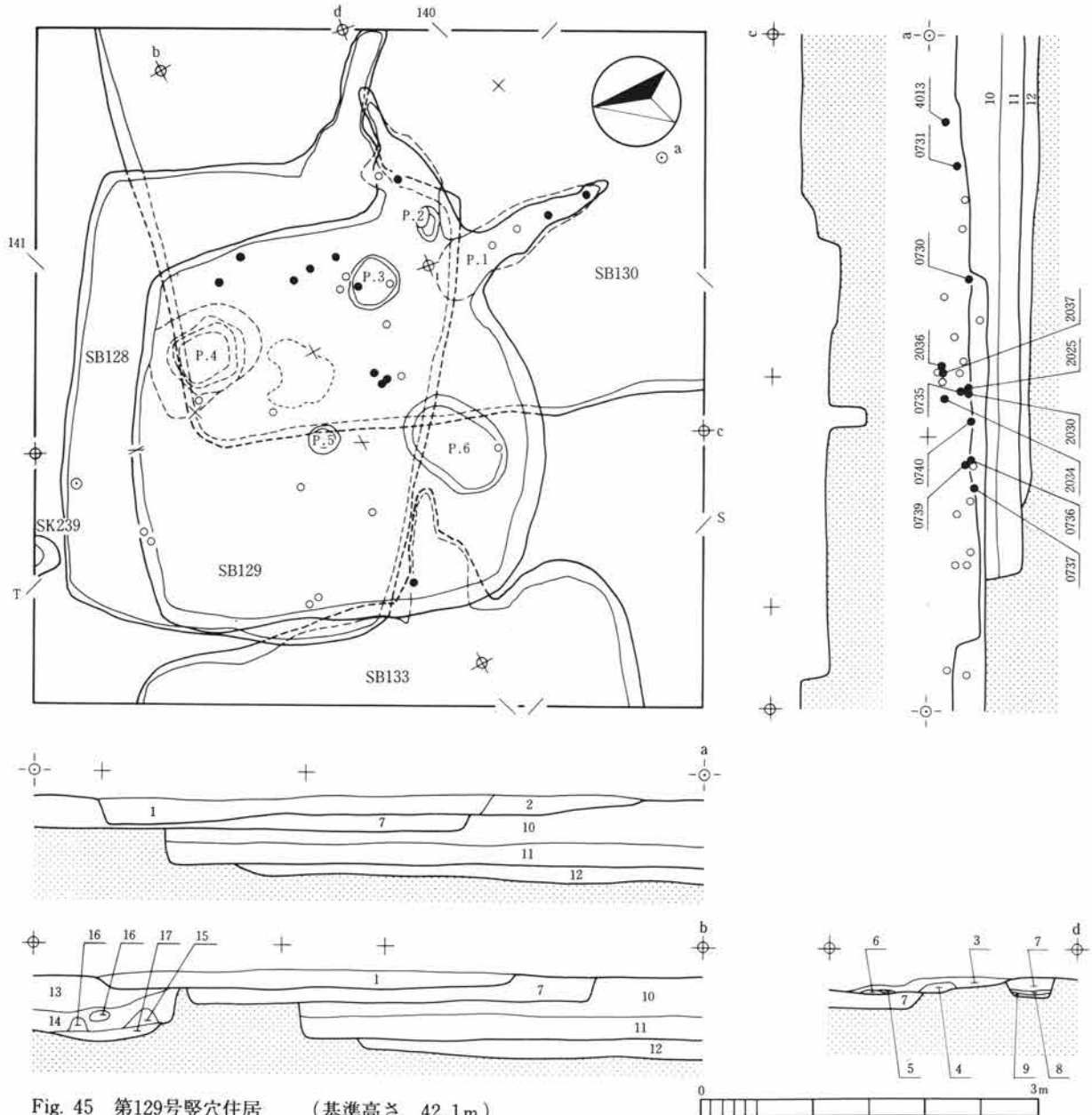


Fig. 45 第129号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

130号住居 SB130（遺構 PL. 16、遺物 PL. 52、Fig. 164）

発掘区Ⅳ区のT140に位置する。平面形は横長形、縦4.94m、横5.79mを測り、面積は約28.6㎡である。住居の方位はN-86°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は50cm、周溝はなく、床面高は41.28mである。覆土は13層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3、6層は窯崩落土、4層は窯体埋没土、5層は窯構築材、7、8層は住居に関連するピット埋土、9層は床面整地土、10、11層は132号住居内覆土、12、13層は129号住居内覆土である。土質は1、2、4、10、13層褐色土層、3層青灰色粘土層、5層焼土ブロック層、6、11、12層暗褐色土層、7~9層未確認である。5ヶ所にピットがあり、1号ピットは南壁寄りで深さ26cm、長方形を呈し、2号ピットは東壁寄りで深さ28cm、偏長方形を呈し、3号ピットは中央寄りで深さ14cm、偏長方形を呈し、4号ピットは南壁寄りで深さ13cm、偏楕円形を呈し、5号ピットは中央寄りで深さ53.5cm、偏楕円形を呈する。本住居に伴う遺物は、土師器椀3、須恵器碗1である。

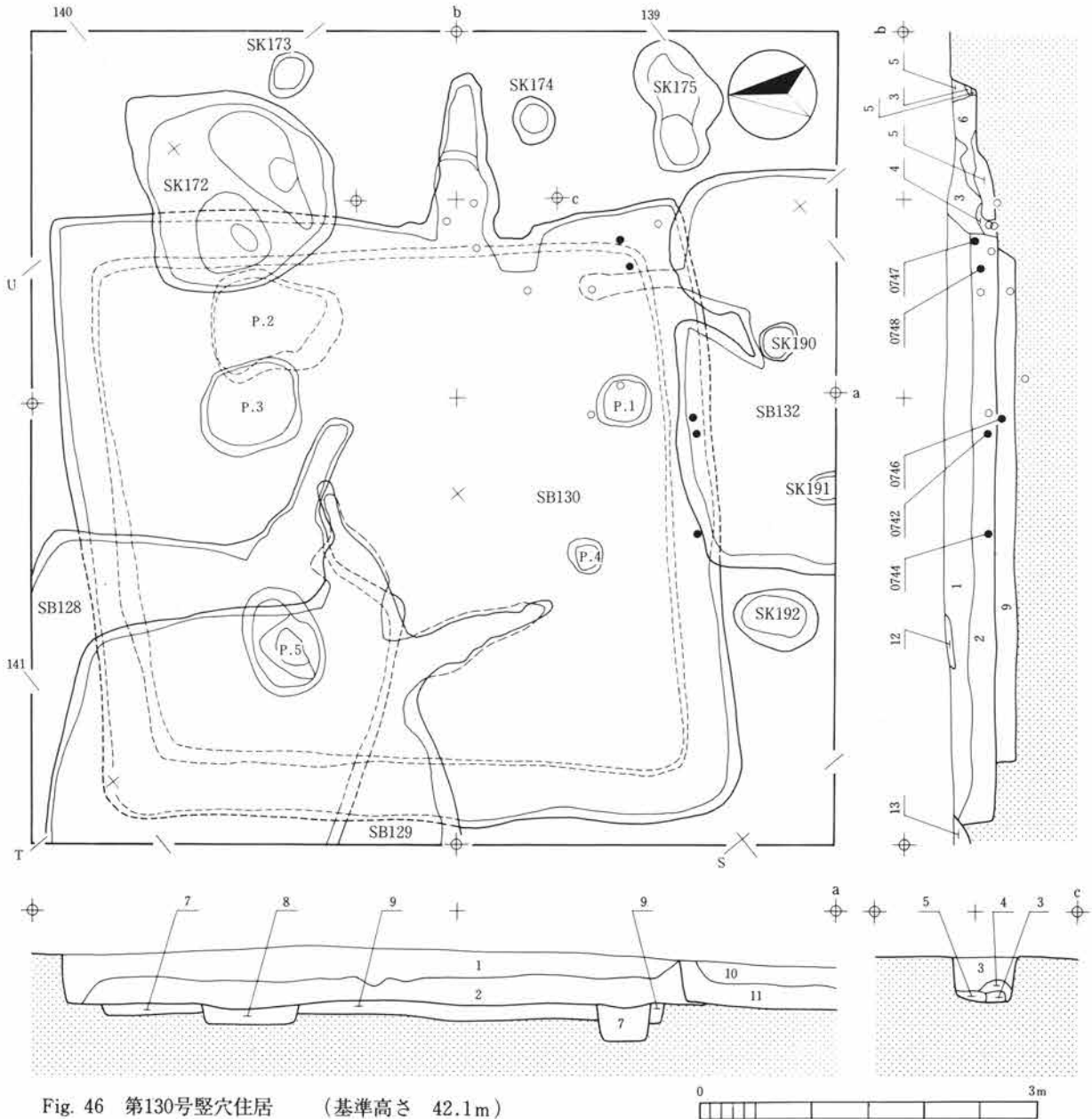


Fig. 46 第130号竪穴住居（基準高さ 42.1m）

131号住居 SB131 (遺構 PL. 17、遺物 Fig. 165)

発掘区IV区のU138に位置する。平面形は横長形、縦2.27m、横2.98mを測り、面積は約6.8㎡である。住居の方位はN-100°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は13cm、周溝はなく、床面高は41.60mである。覆土は6層に分けられた。1、2層は窯崩落土、3、4層は窯体埋没土、5、6層は住居床面下のピット埋土である。土質は1層サクサクした軟かい砂質土の褐色土層、2層焼土、灰白色の粘土の混土層、3層焼土層、4層灰層、5、6層未確認である。4ヶ所にピットがあり、1号ピットは竈前の床下ピットで径17cmの円形で深さ10cm、2号ピットは竈前左の床下ピットで楕円形を呈し長軸43cm×短軸36cm、深さ15cmを測り、3号ピットは中央寄りの床下ピットで径45cmの円形を呈し、深さ13cm、4号ピットは西壁寄りの床下ピットで楕円形を呈し長軸28cm×短軸21cm、深さ5.5cmを測る。本住居に伴う遺物は土師器長甕3、須恵器蓋1、須恵器杯1、須恵器足高椀1、須恵器羽釜4の合計10点である。

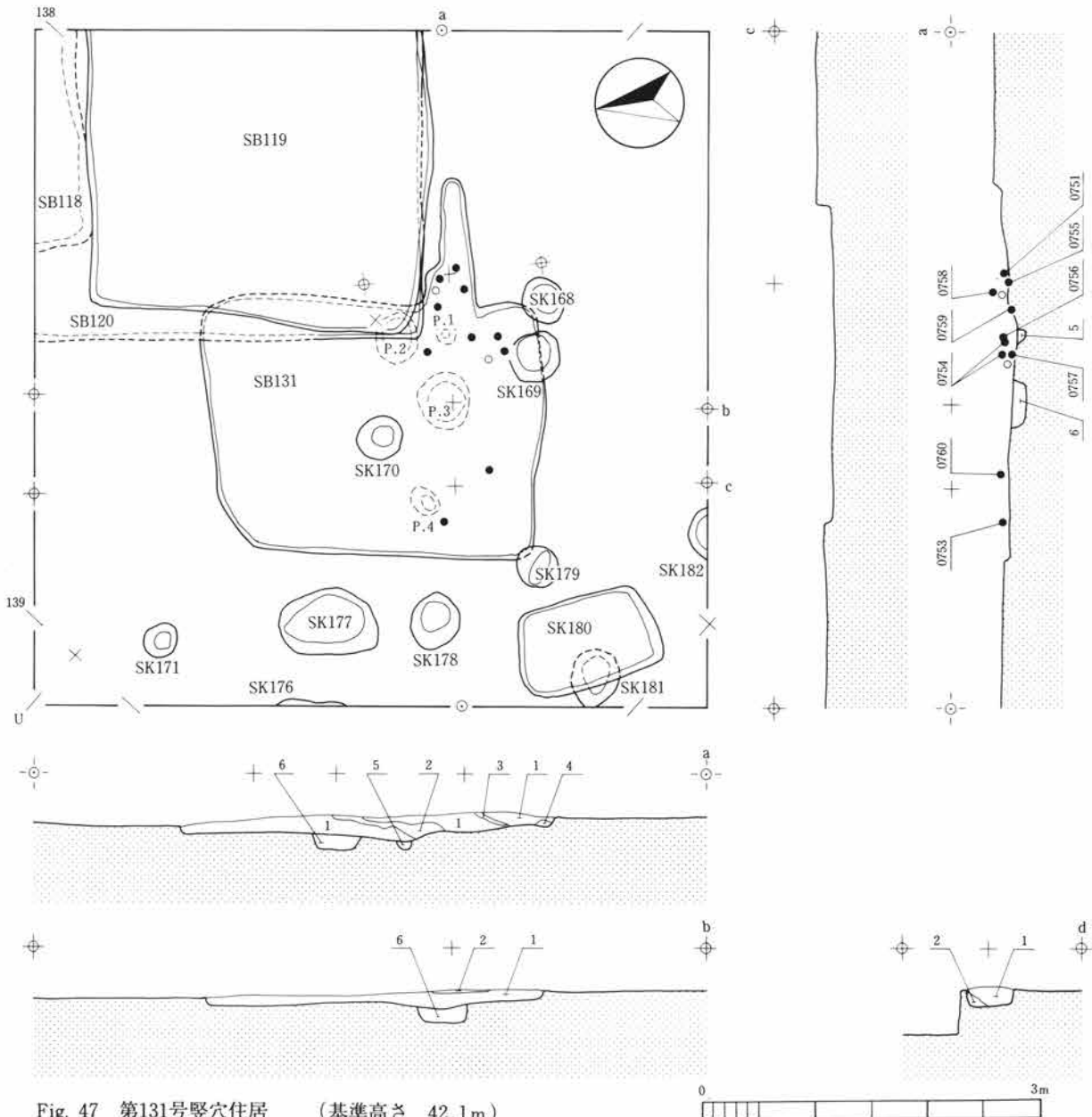


Fig. 47 第131号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)



132号住居 SB132（遺構 PL. 17、遺物 Fig. 165）

発掘区Ⅳ区のT139に位置する。平面形は正方形、縦3.84m、横3.58mを測り、面積は約13.7m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-4°-Eを取り、竈は北壁右寄りに付設される。確認された壁高は42cm、周溝はなく、床面高は41.22mである。覆土は10層に分けられた。1～3層は住居内覆土、4、5層は130号住居内覆土、6層は130号住居に関連するピット埋土、7層は130号住居床面整地土、8～10層は189号土壌埋土である。土質は1層褐色土層で焼土、炭化物をわずかに含む層、2層暗褐色土層で粘土、焼土、灰、炭化物を含む層、3層褐色土層でわずかに炭化物を含む層、4層褐色土層で粘土を含む層、5層褐色土層で鉄分を多く含む層、6、7層未確認、8層灰白色に近い粘質土層、9層茶褐色土層、10層褐色土層である。住居西壁寄りには1号ピットがあり楕円形を呈し、長軸16cm×短軸14cm、深さ25cm、南壁寄りに2号ピットがあり偏楕円形を呈し、長軸59cm×短軸55cm、深さ4cmを測る。

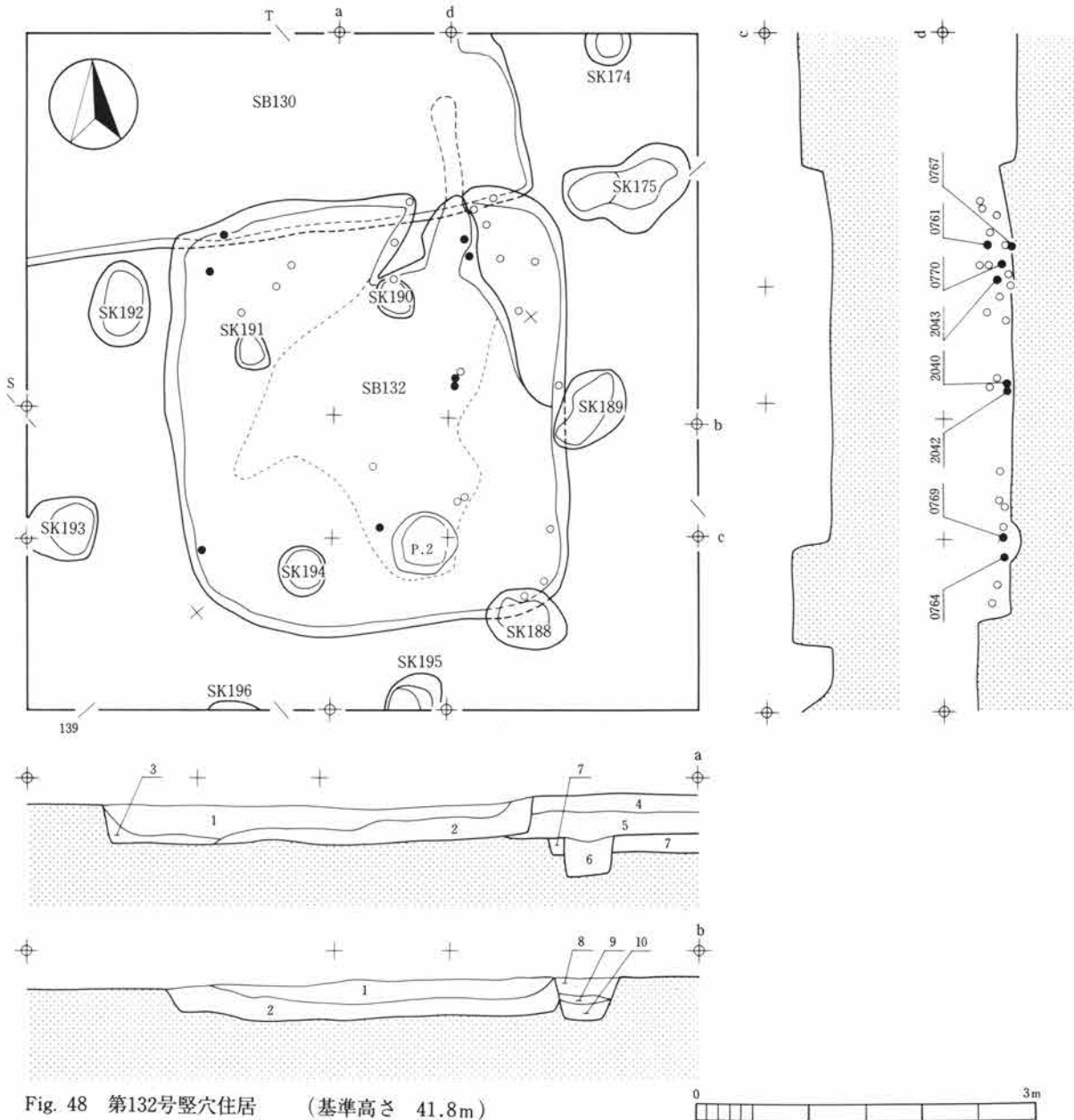


Fig. 48 第132号竪穴住居（基準高さ 41.8m）

133号住居 SB133 (遺構 PL. 17、遺物 Fig. 165)

発掘区IV区のS141に位置する。平面形は縦長形、縦5.35m、横4.39mを測り、面積は約23.5㎡である。住居の方位はN-88°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は42cm、周溝はなく、床面高は41、33mである。覆土は11層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3、4層は床面直上の土層、5層は窯崩落土、6層は窯底面の土層、7層は住居床面下のピット埋土、8、9層は134号住居内覆土、10層は129号住居内覆土、11層は128号住居内覆土である。土質は1、2、8~11層褐色土層、3層灰と炭化物の堆積層、4層灰白色粘土ブロック層、5層焼土層、6、7層未確認である。3ヶ所にピットがあり、1号ピットは住居竈中の窯前の床下ピットで深さ10cmを測り、2号ピットは竈前の床下ピットで楕円形を呈し長軸80cm×短軸50cm、深さ12cm、3号ピットは竈前の床下ピットで一辺55cmの方形を呈し深さ18.5cmを測る。本住居に重複する遺構の新旧関係は新しい順に129号住居、128号住居、133号住居となる。出土遺物は土師器碗、須恵器杯、蓋、羽釜などである。

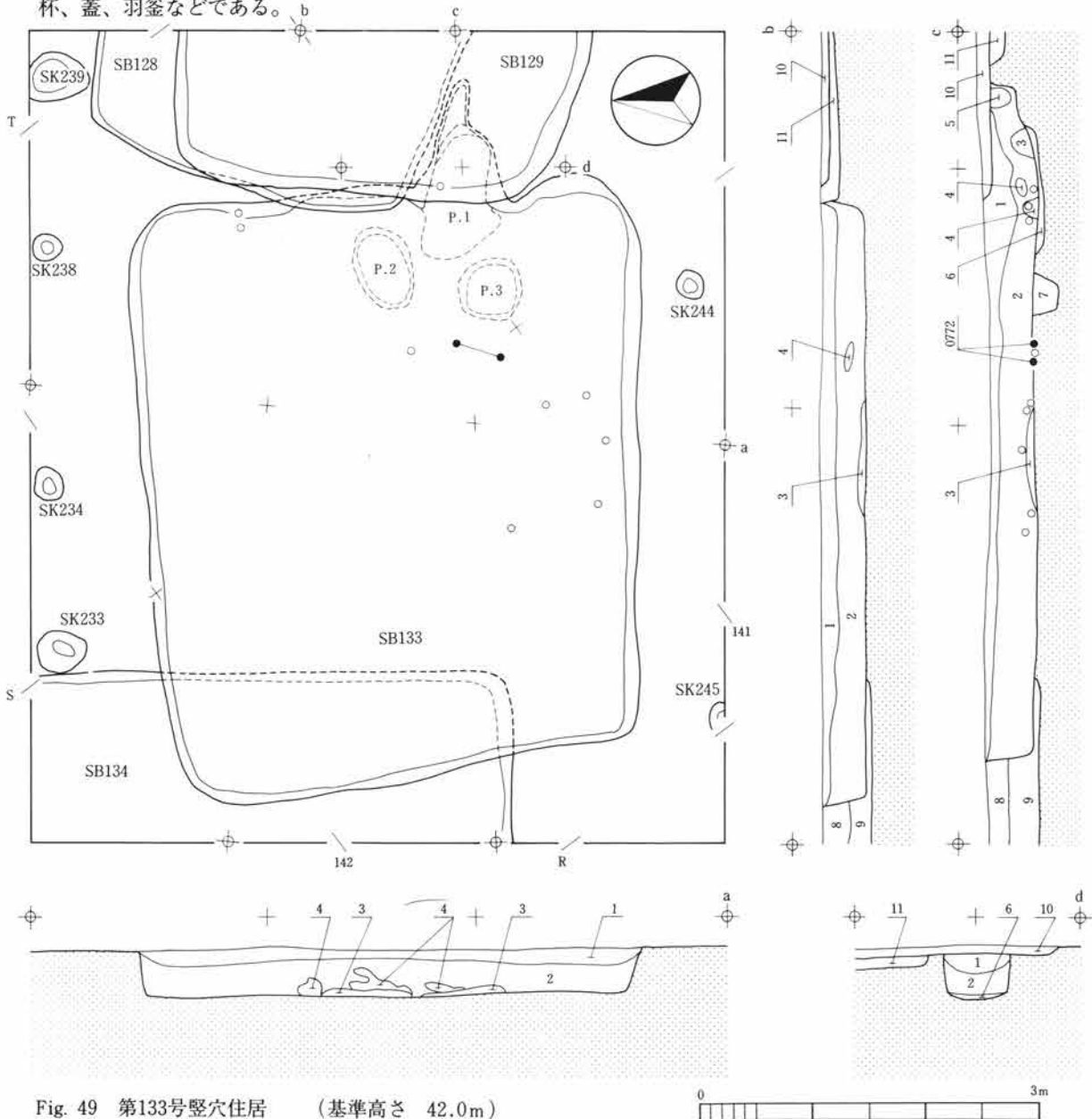


Fig. 49 第133号竪穴住居 (基準高さ 42.0m)

134号住居 SB134（遺構 PL. 17、遺物 Fig. 165）

発掘区Ⅳ区のR142に位置する。平面形は横長形、縦3.62m、横4.68mを測り、面積は約16.9㎡である。住居の方位はN-83°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は49cm、周溝はなく、床面高は41.31mである。覆土は8層に分けられる。1～3層は住居内覆土、4層は床面直上の土層、5層は住居床面下のピット埋土、6、7層は133号住居内覆土、8層は135号住居内覆土である。土質は1、3層褐色土層で青灰色粘土、焼土を含む層、2層炭化物、灰を含む褐色土層、4層青灰色粘土のブロック層、5層未確認、6層褐色土層でやや砂質を帯び鉄分の凝集が見られる層、7層褐色土層で灰白色の粘土、焼土小粒子を含む砂質土層8層暗褐色土層で焼土、炭化物を含む砂質土層である。住居南壁寄りには床下のピットがあり、平面形は偏楕円形を呈し長軸70cm×短軸58cm、深さ20cmを測る。本住居の竈はなかったものの東南壁の北寄りに焼土、灰のひろがり認められた。他の遺構との重複関係は本住居より、133号住居、135号住居ともに新しい。

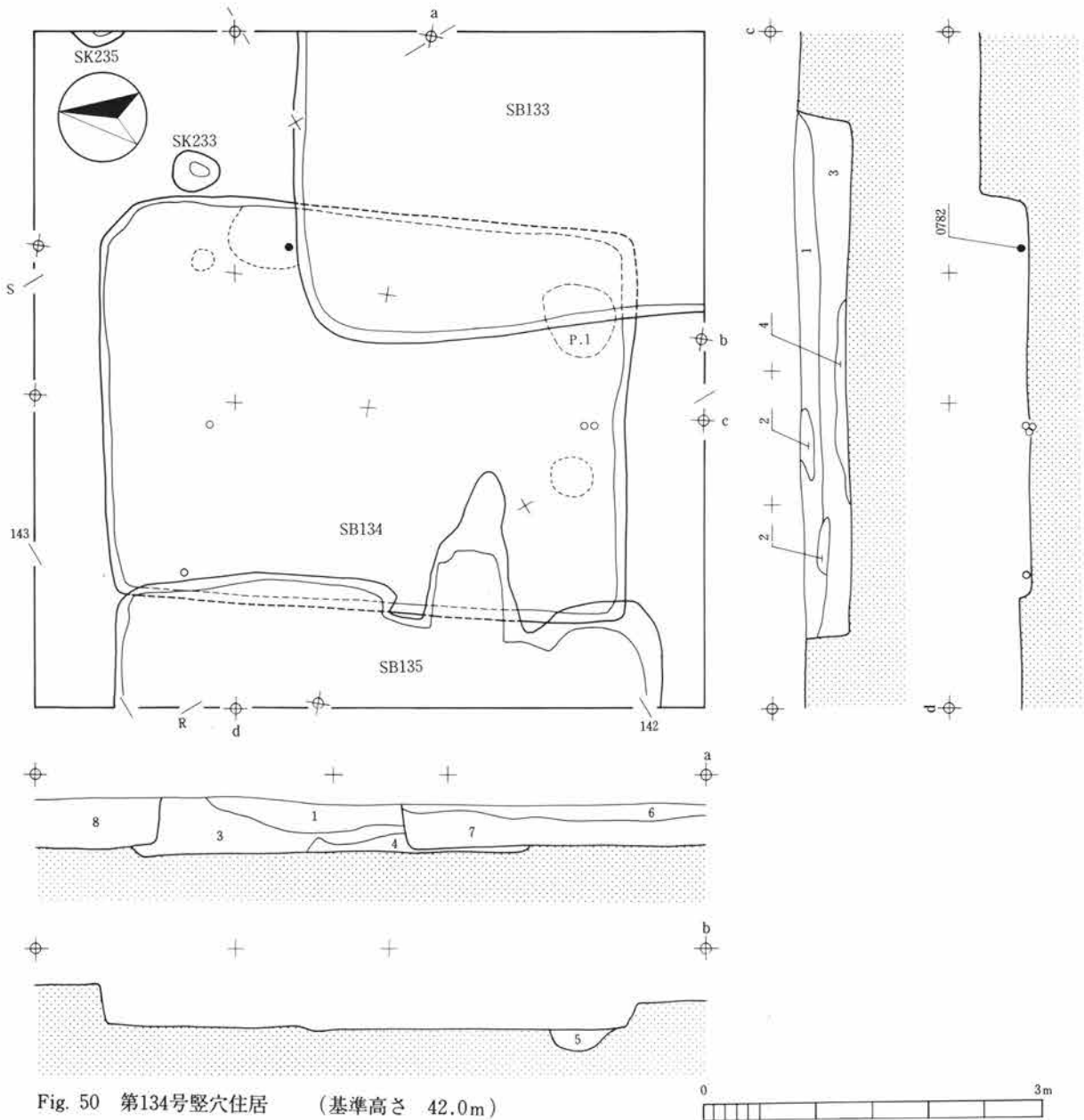


Fig. 50 第134号竪穴住居（基準高さ 42.0m）

135号住居 SB135 (遺構 PL. 17、18、遺物 PL. 52、Fig. 166)

発掘区IV区のR143に位置する。平面形は横長形、縦3.90m、横4.92mを測り、面積は約19.2m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-85°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は40cm、周溝はなく、床面高は41.34mである。覆土は14層に分けられた。1~8層は住居内覆土、9~11層は窯崩落土、12層は窯前の床下ピット埋土、13、14層は134号住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層、2層灰及び焼土層、3層粘土及び炭化物の混土層、4層青灰色粘土ブロック層、5層灰、粘土、炭化物の混土層、6層灰層、7層焼土、炭化物の混土層、8層は炭化物層、9層は焼土層、10層暗褐色土層で粘土、焼土がブロック状に見られる層、11層焼土のブロック及び灰の堆積層、12層未確認、13、14層褐色土層で青灰色粘土、焼土を含む層である。住居竈前には窯前の床下ピットがあり径46cmの円形を呈し、深さ30.5cmを測る。本住居に伴う遺物は、土師器碗4、長甕5、丸甕2、直線甕1、須恵器蓋1、碗1、盤1、高台杯1、土錘1の合計の17点である。

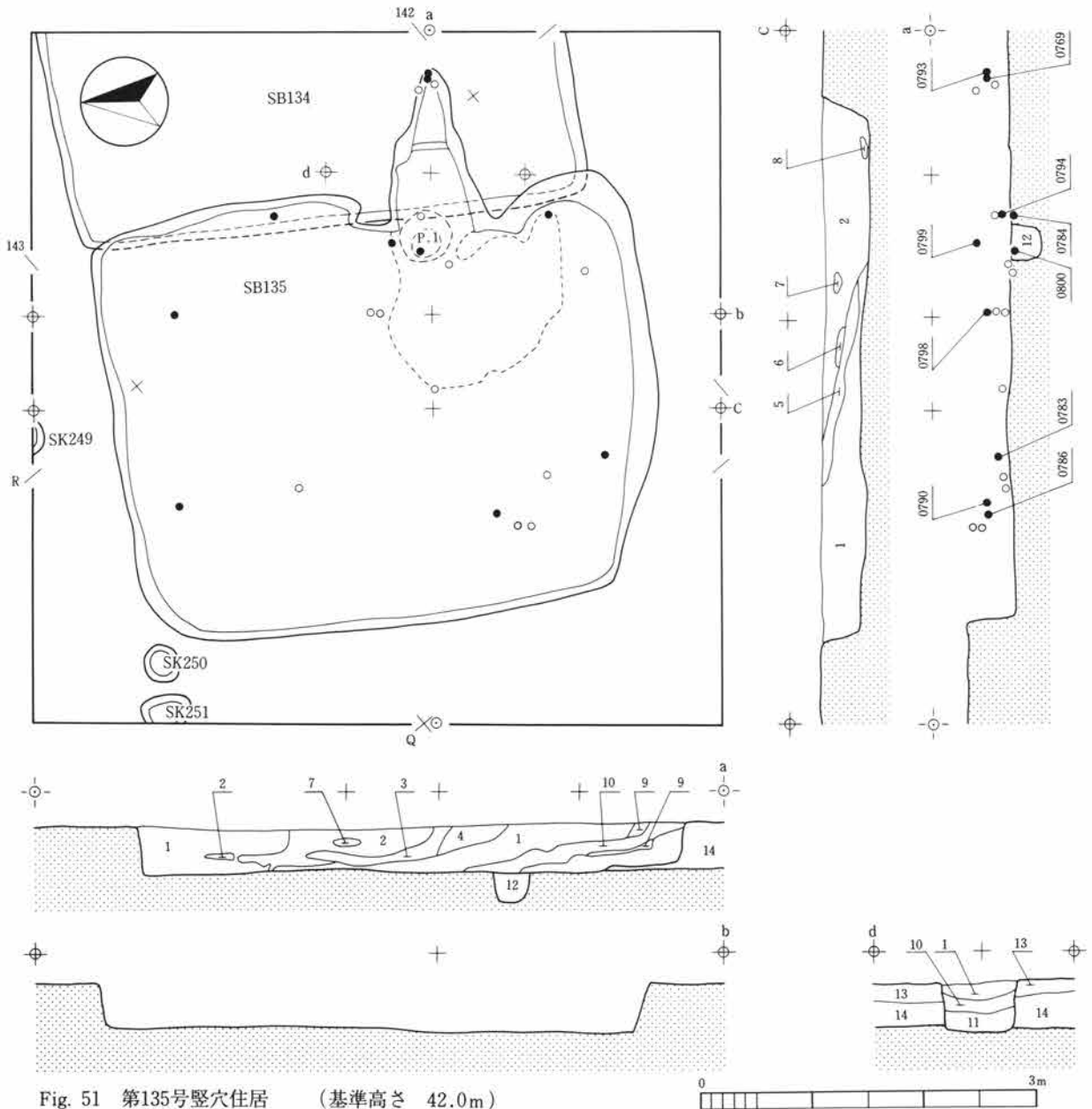


Fig. 51 第135号竪穴住居 (基準高さ 42.0m)

136号住居 SB136（遺構 PL. 18、遺物 Fig. 166）

発掘区Ⅳ区のR140に位置する。平面形は縦長形、縦4.94m、横3.88mを測り、面積は約19.2㎡である。住居の方位はN-80°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は45cm、周溝はなく、床面高は41.20mである。覆土は9層に分けられた。1～4層は住居内覆土、5層は窯崩落土、6層は窯構築材、7、8層は138号住居内覆土、9層は137号住居内覆土である。土質は1層砂質土で鉄分の凝集が見られる灰褐色土層、2層褐色土層で粘土粒、鉄分を含む層、3層灰褐色土層で粘土粒をわずかに含む砂質土層、4層褐色土層で炭化物粒を含む砂質土層、5層鉄分を含む青灰色粘土層、6層焼土ブロックと灰の混土層、7層褐色土層で粘土粒、炭化物、鉄分を含む層、8層暗灰褐色土層で炭化物、焼土を含む層、9層褐色土層で炭化物をわずかに含む層である。住居南壁寄りには床下ピットがあり径30cmの円形を呈し深さは27.5cmを測る。本住居に伴う遺物は、土師器碗1、土師器丸甕2、土師器長甕1、須恵器碗1、須恵器杯2、土錘1の合計8点である。

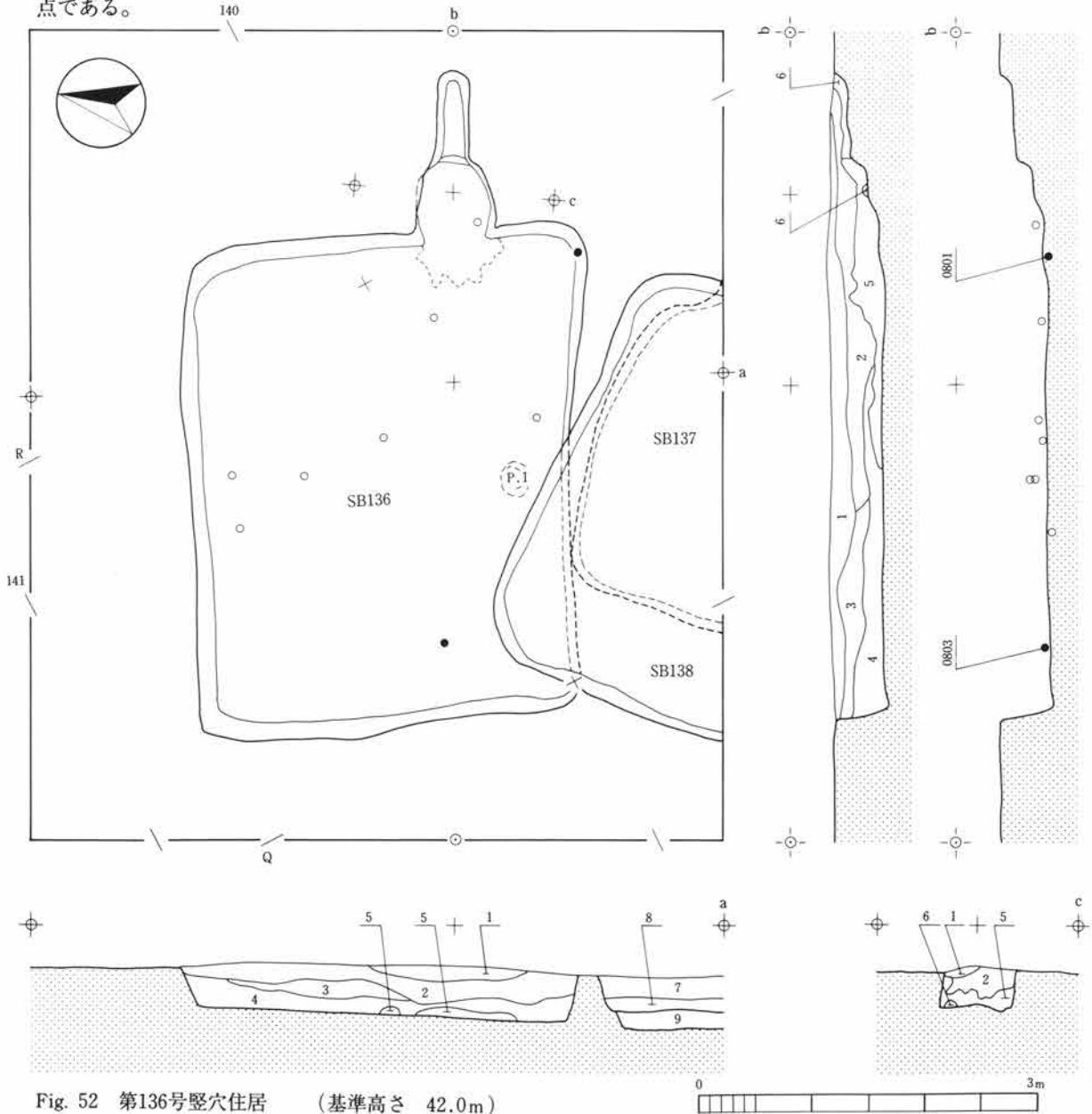


Fig. 52 第136号竪穴住居（基準高さ 42.0m）

137号住居 SB137 (遺構 PL. 18、遺物 PL. 52、Fig. 166、167)

発掘区IV区のQ139に位置する。平面形は横長形、縦2.73m、横4.90mを測り、面積は約13.4㎡である。住居の方位はN-100°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は46cm、周溝はなく、床面高は41.10mである。覆土は12層に分けられた。1層は住居内覆土、2～4層は窯崩落土、5層は窯体埋没土、6、7層は住居床面下のピット埋土、8、9層は138号住居内覆土、10層は138号住居床面下のピット埋土、11、12層は136号住居内覆土である。土質は1、2、8、11、12層褐色土層、3層灰と焼土と砂の混土層、4層暗褐色土層、5層焼土ブロックと炭化物をわずかに含む灰層、6、7層未確認、9層暗灰褐色土層、10層未確認である。3ヶ所にピットがあり、1号ピットは窯前の床下ピットで38cm×32cmの偏楕円形を呈し深さは12cm、2号ピットは竈前の床下ピットで90cm×70cmの偏楕円形を呈し深さ19cm、3号ピットは貯蔵穴で75cm×54cmの偏楕円形を呈し深さ31cmを測る。出土遺物は、土師器椀2、甕6、須恵器椀2、杯1、石錘1である。

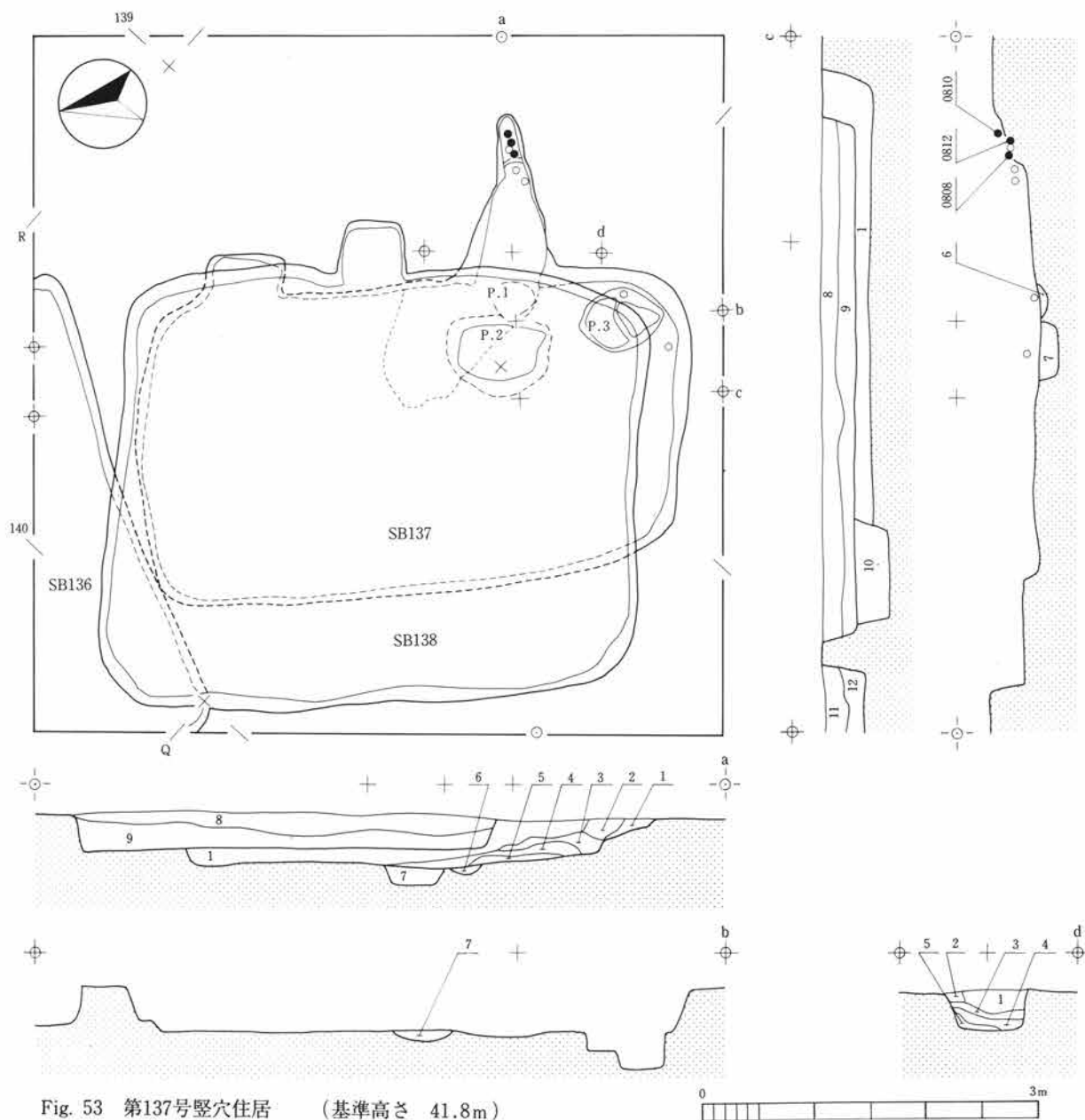


Fig. 53 第137号竪穴住居 (基準高さ 41.8m)

138号住居 SB138（遺構 PL. 18、遺物 PL. 52、Fig. 167）

発掘区Ⅵ区のQ139に位置する。平面形は横長形、縦3.98m、横4.69mを測り、面積は約18.7㎡である。住居の方位はN-104°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は34cm、周溝はなく、床面高は41.23mである。覆土は11層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3～5、7層は窯崩落土、6層は窯底面の土層、8層は住居床面下のピット埋土、9層は137号住居内覆土、10、11層は136号住居内覆土である。土質は1層褐色土層で粘土粒、炭化物を含み鉄分の凝集が多い層、2層暗灰褐色土層で炭化粒、焼土粒を含む層、3層青灰色土層、4層灰白色土層で砂層でサラサラしている層、5層焼土層、6層焼土をわずかに含む灰層、7層灰層、8層未確認、9、11層褐色土層で炭化物をわずかに含む層、10層褐色土層、粘土粒、鉄分を含む層である。3ヶ所に床下のピットがあり、深さは1号ピット7cm、2号ピット15cm、3号ピット4cmを測る。本住居と他の住居の新旧関係は新しい順に138号住居、137号住居、136号住居となる。

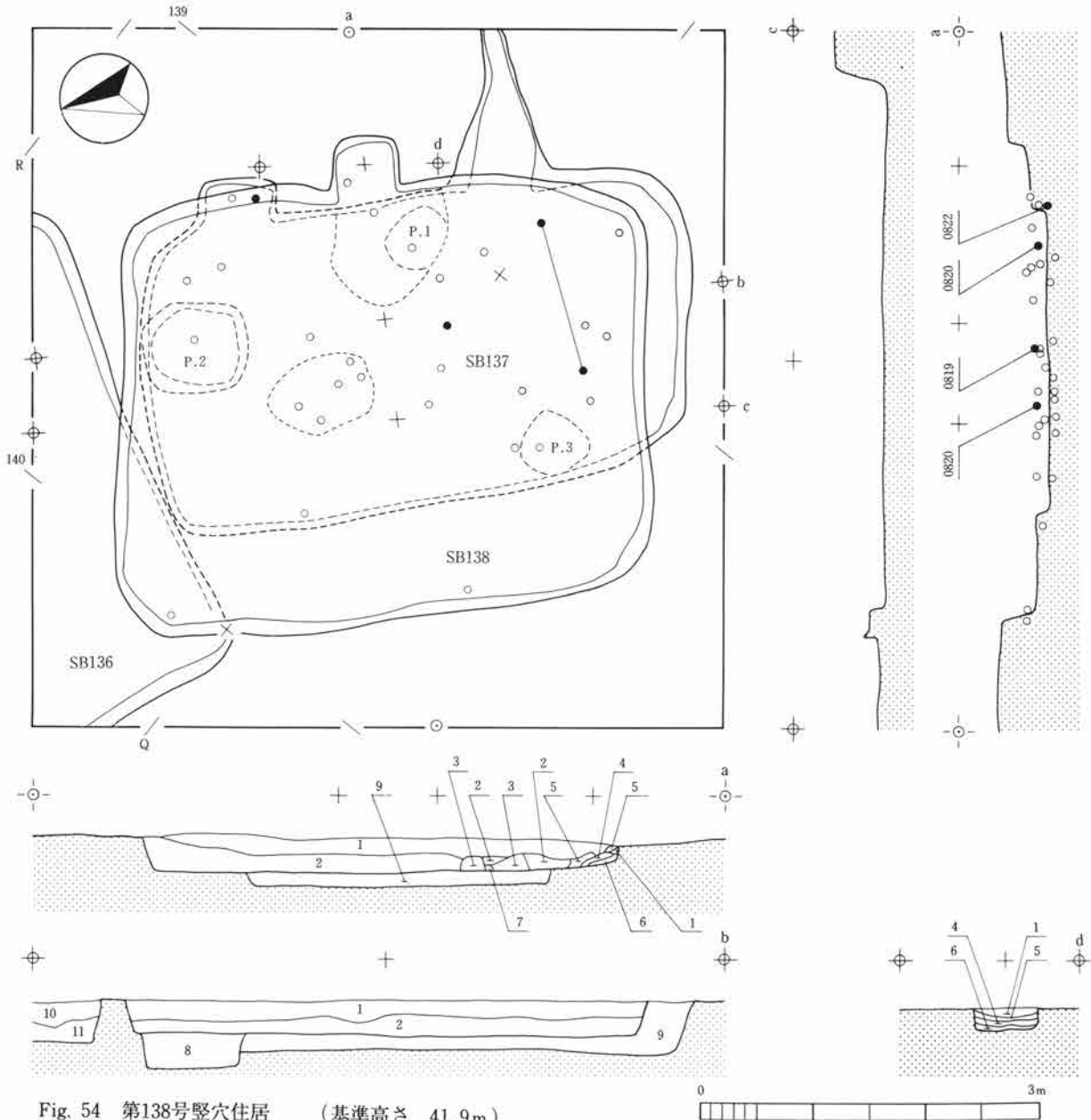


Fig. 54 第138号竪穴住居（基準高さ 41.9m）

139号住居 SB139 (遺構 PL. 18、遺物 PL. 53、Fig. 167)

発掘区IV区のO138に位置する。平面形は横長形、縦2.75m、横3.04mを測り、面積は約8.4m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-107°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は20cm、周溝はなく、床面高は41.50mである。覆土は4層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3、4層は窯崩落土である。土質は1層褐色土層で砂質土で炭化物を含む軟かい層、2層褐色土層で灰を含み軟かい層、3層焼土層、4層砂と灰の混土層である。2ヶ所にピットがあり、1号ピットは住居竈前右の貯蔵穴で平面形は不定形で深さは11.5cmを測る。2号ピットは竈前左の床下ピットで平面形は一辺34cmの方形を呈し、深さは7cmを測る。竈の構造は燃烧部と煙道から成る。燃烧部の前幅は50cm、奥行50cmで台形を呈してすぼまり、煙道部は15cm弱の幅をもち長さは45cmを測る。出土遺物は土師器杯1、土師器長甕1、土師器丸甕1、須恵器脚高椀3、須恵器碗1、須恵器高台杯3、須恵器羽釜1、砥石1である。

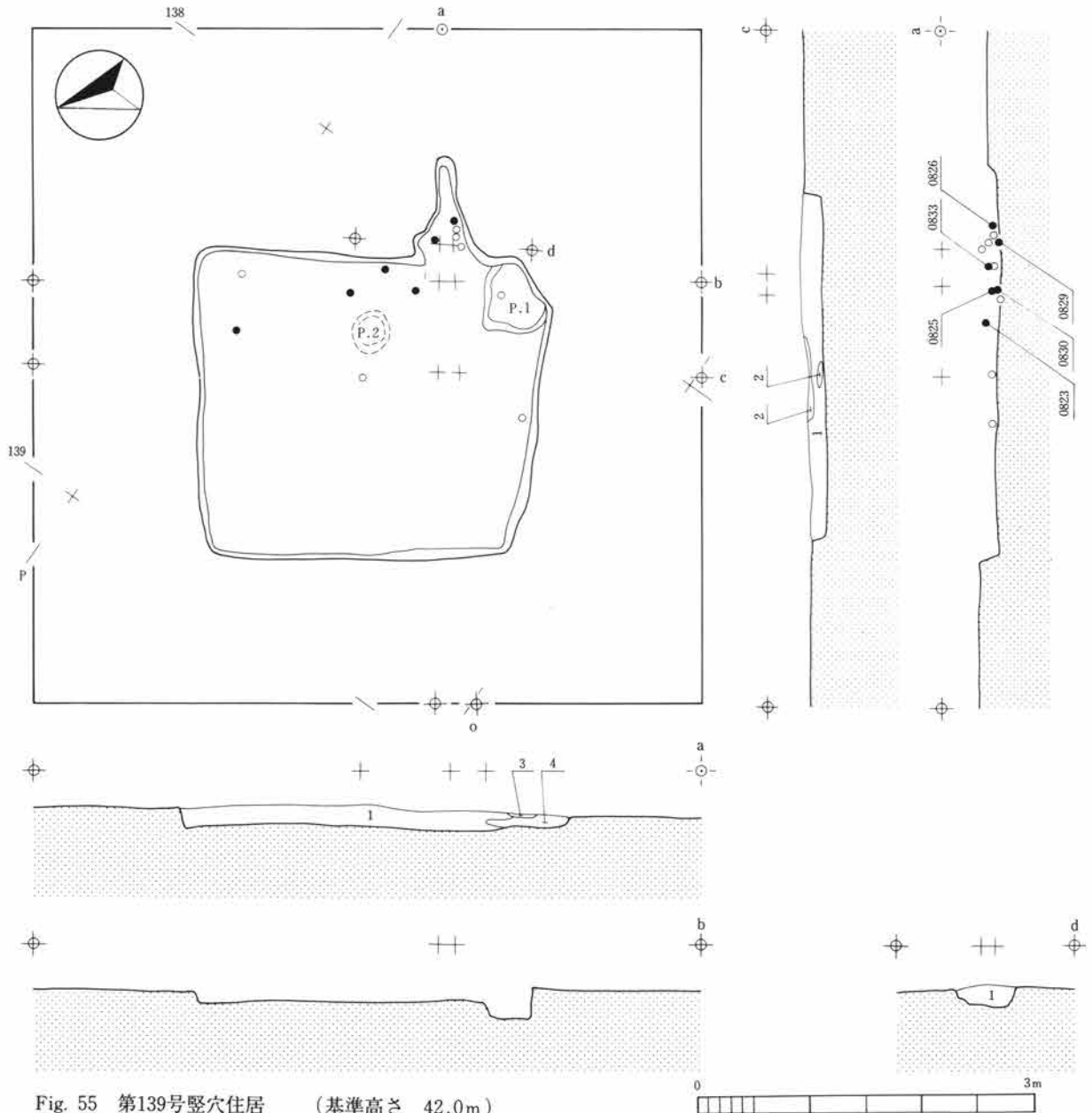


Fig. 55 第139号竪穴住居 (基準高さ 42.0m)



140号住居 SB140（遺構 PL. 19、遺物 PL. 53、Fig. 168）

発掘区Ⅳ区のN136に位置する。平面形は横長形、縦2.91m、横3.60mを測り、面積は約10.5m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-75°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は48cm、周溝はなく、床面高は41.20mである。覆土は4層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3層は窯体埋没土、4層は窯崩落土である。土質は1層褐色土層で暗灰色の粘土を含む砂質土層、2層は1層に見られる粘土がなく比較的軟かい砂質土層、3層茶褐色土層で焼土、灰、炭化物の堆積層、4層褐色土層で砂質土で軟かい層である。本住居の南壁、すなわち貯蔵穴にあたる竈の右側の部分はおとさく突出して歪む。竈は燃烧部と煙道に区分され、燃烧部前幅70cm、後幅45cm、奥行40cmである。煙道は幅20cm、長さ70cmを測る。窯底は燃烧部と煙道部に段差がある。出土遺物は竈前面の左右に広範囲に分布している。土師器椀6、土師器長甕5、土師器丸甕1、須恵器椀1、須恵器杯1、須恵器甕1、土錘2、砥石1である。

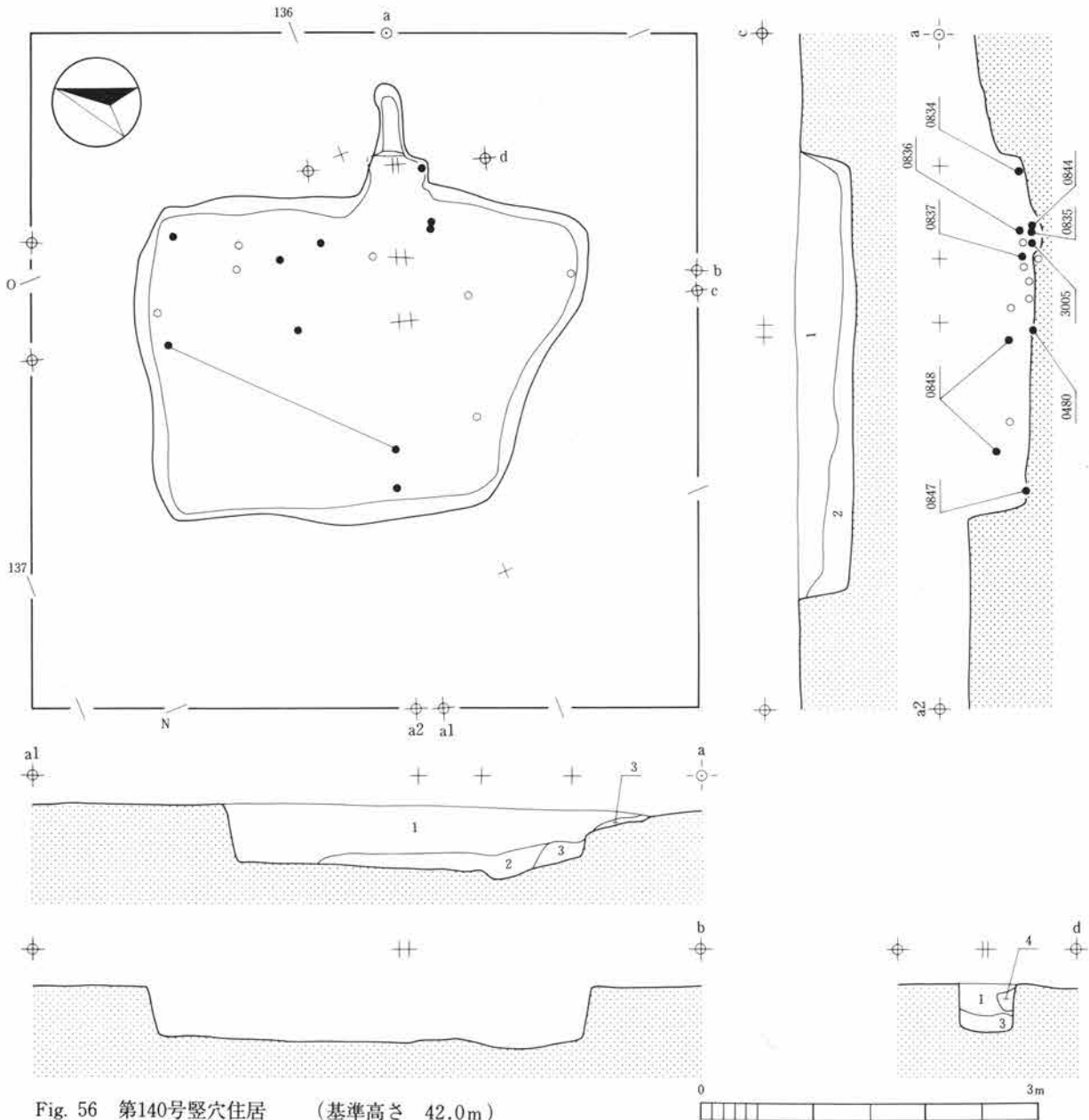


Fig. 56 第140号竪穴住居（基準高さ 42.0m）

141号住居 SB141 (遺構 PL. 18、19、遺物 Fig. 168)

発掘区IV区のN139に位置する。平面形は横長形、縦2.96m、横4.51mを測り、面積は約13.3m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-105°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は23cm、周溝はなく、床面高は41.51mである。覆土は7層に分けられた。1層は住居内覆土、2～4層は窯崩落土、5、6層は窯構築材、7層は住居床面下のピット埋土である。土質は1層褐色土層で砂質土で炭化物の小粒子を含む層、2層固い赤褐色の粘土ブロック層、3層暗褐色土層で比較的軟かで炭化物を含む層、4層暗褐色土層で軟かで粘土との混土層、5層暗褐色土層で灰及び砂の混土層、6層粘土層、7層未確認である。2ヶ所にピットがあり、1号ピットは北壁、東壁寄りの床上ピットで平面形は楕円形を呈し長軸39cm×短軸33cm、深さ9cm、2号ピットは中央寄りの床下ピットで楕円形を呈し長軸60cm×短軸51cm、深さ14cmを測る。遺物の土師器は、碗2、杯1、長甕1、丸甕1、直線甕1、須恵器高台碗5、碗1、羽釜4、杯1、灰釉碗1である。

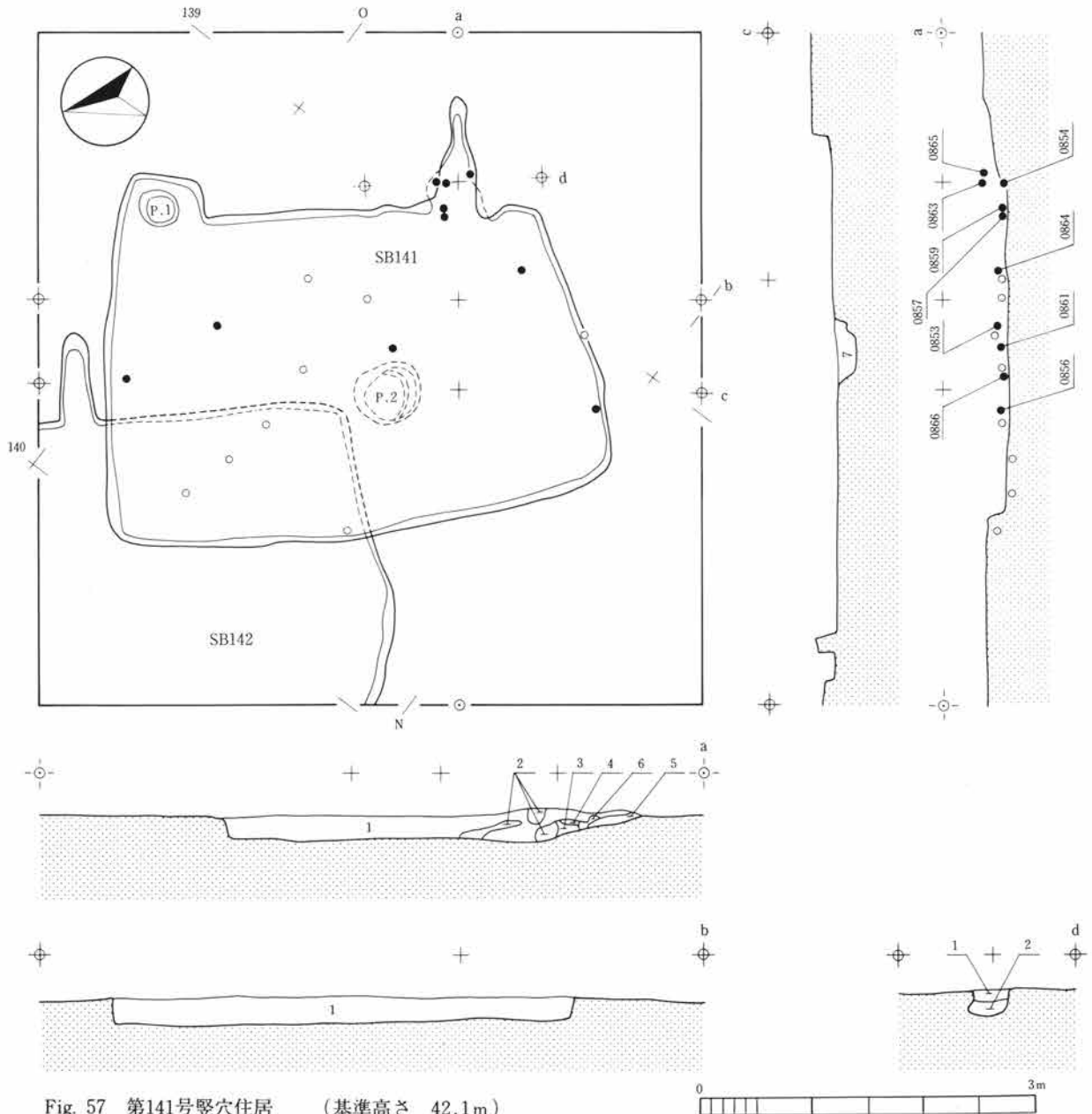


Fig. 57 第141号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

142号住居 SB142（遺構 PL. 19、遺物 Fig. 169）

発掘区Ⅳ区のO140に位置する。平面形は横長形、縦3.14m、横4.66mを測り、面積は約14.6m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-102°-Eを取り、竈は東壁左寄りに付設される。確認された壁高は20cm、周溝はなく、床面高は41.45mである。覆土は9層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は床面直上の土層、3、4層は窯崩落土、5～7層は住居床面下のピット埋土、8、9層は143号住居内覆土である。土質は1層暗灰褐色土層で焼土粒、炭化物粒を含む砂質土層、2層灰褐色土層で砂質土でサクサクして軟かい層、3層焼土層、4層暗褐色土層で竈前で灰と焼土がわずかに堆積している層、5～7層未確認、8層暗灰褐色土層で炭化物、焼土を多量に含む砂質土層、9層褐色土で青白色粘土粒と焼土粒を含む砂質土層である。5ヶ所にピットがあり、深さは1号ピット9.5cm、2号ピット19cm、3号ピット7cm、4号ピット47cm、5号ピット32.5cmを測る。遺物は、土師器杯1、椀1、高台杯1、須恵器椀1、高台杯3、灰釉椀3、皿4、土錘2である。



Fig. 58 第142号竪穴住居（基準高さ 42.1m）

**143号住居 S B 143** (遺構 PL. 19、遺物 Fig. 169)

発掘区Ⅳ区のN140に位置する。平面形は横長形、縦2.57m、横3.29mを測り、面積は約8.5㎡である。住居の方位はN-100°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は14cm、周溝はなく、床面高は41.56mである。覆土は3層に分けられ住居内覆土である。土質は1層暗灰褐色土層で炭化物、焼土を多量に含む砂質土層、2層褐色土層で青白色粘土粒と焼土粒を含む砂質土層、3層炭化物堆積層である。本住居は南東壁を142号住居と重複している。北東壁の西寄りでは344号土壙と切り合っている。北西壁の南寄りでは144号住居と重複している。調査の結果、これらの遺構の新旧関係は新しい順に344号土壙と144号住居が並び、143号住居が古いと考えられた。窯や貯蔵穴は検出されなかったものの南東壁寄り、142号住居によって切り落とされた付近の床面に焼土、灰の層が比較的多量に認められたことから、竈が南東壁に付設されていたことは推定される。住居の床面は中央部分は硬く叩き締められており、その直上からの遺物の検出は多くみられた。344号の土壙は長径115cm、短径98cmを測る楕円形を呈し深さは約40cm強である。住居覆土上から土壙は検出され新旧関係は明瞭であった。出土遺物は土師器杯、須恵器高台杯、砥石などである。

**144号住居 S B 144** (遺構 PL. 19、遺物 PL. 53、54、Fig. 169)

発掘区Ⅳ区のN141に位置する。平面形は横長形、縦2.91m、横3.95mを測り、面積は約11.5㎡である。住居の方位はN-100°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は23cm、周溝はなく、床面高は41.56mである。覆土は7層に分けられた。4、5層は住居内覆土、6層は窯崩落土、7層は窯前の床下ピット埋土、8層は住居床面下のピット埋土、9、10層は145号住居内覆土である。土質は4層灰褐色土層で炭化物、暗褐色粘土粒、焼土粒を含む層、5層暗褐色土層で炭化物を多量に含み、焼土粒、灰白色粘土粒を含む層、6層炭化物、灰を混入する層、7、8層未確認、9層暗褐色土層で粘土粒、焼土粒が多量に混じる層、10層灰褐色土層で鉄分の凝集の見られる砂質土層である。4ヶ所にピットがあり、1号ピットは住居竈前右の貯蔵穴で楕円形を呈し長軸41cm×短軸38cm、深さは14cm、2号ピットは竈前の床下ピットで楕円形を呈し長軸50cm×短軸45cm、深さ32.5cm、3号ピットは竈前左の床下ピットで偏長方形を呈し長軸51cm×短軸50cm、深さ16cm、4号ピットは西壁寄りの床下ピットで偏楕円形を呈し長軸103cm×短軸87cm、深さ14.5cmを測る。出土の遺物は土師器碗、杯、高台杯、甕、須恵器高台碗、碗、灰釉陶器碗、輪花碗、土錘などである。

**145号住居 S B 145** (遺構 PL. 19、遺物 Fig. 169)

発掘Ⅳ区のM141に位置する。平面形は横長形、縦2.42m、横2.88mを測り、面積は約6.9㎡である。住居の方位はN-100°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は23cm、周溝はなく、床面高は41.55mである。覆土は5層に分けられた。8層は住居床面下のピット埋土、9、10層は住居内覆土、4、5層は144号住居内覆土である。土質は4層灰褐色土層で炭化物、暗褐色粘土粒、焼土粒を含む層、5層暗褐色土層で炭化物を多量に含み、焼土粒、灰白色粘土粒を含む層、8層未確認、9層暗褐色土層で粘土粒、焼土粒が多量に混じる層、10層灰褐色土層で鉄分の凝集の見られる砂質土層である。本住居の平面形は横長形に区分したが、北西壁は南側は張り出し北側に向かって瘦せており不定形な部分を残している。住居は他の遺構と複雑に重なっておりその切り合い状態と新旧関係を追跡するのに難渋した。その重複関係を新しい遺構から順に並べると144号住居から145号住居となる。床面は南西壁寄りの突出部分周辺は軟らかく検出は凹凸が多く不安定であった。その他の住居中央部分は硬く締まる。遺物の出土は少なく図化できたものは須恵器碗である。

1 竪穴住居の調査（北地区）

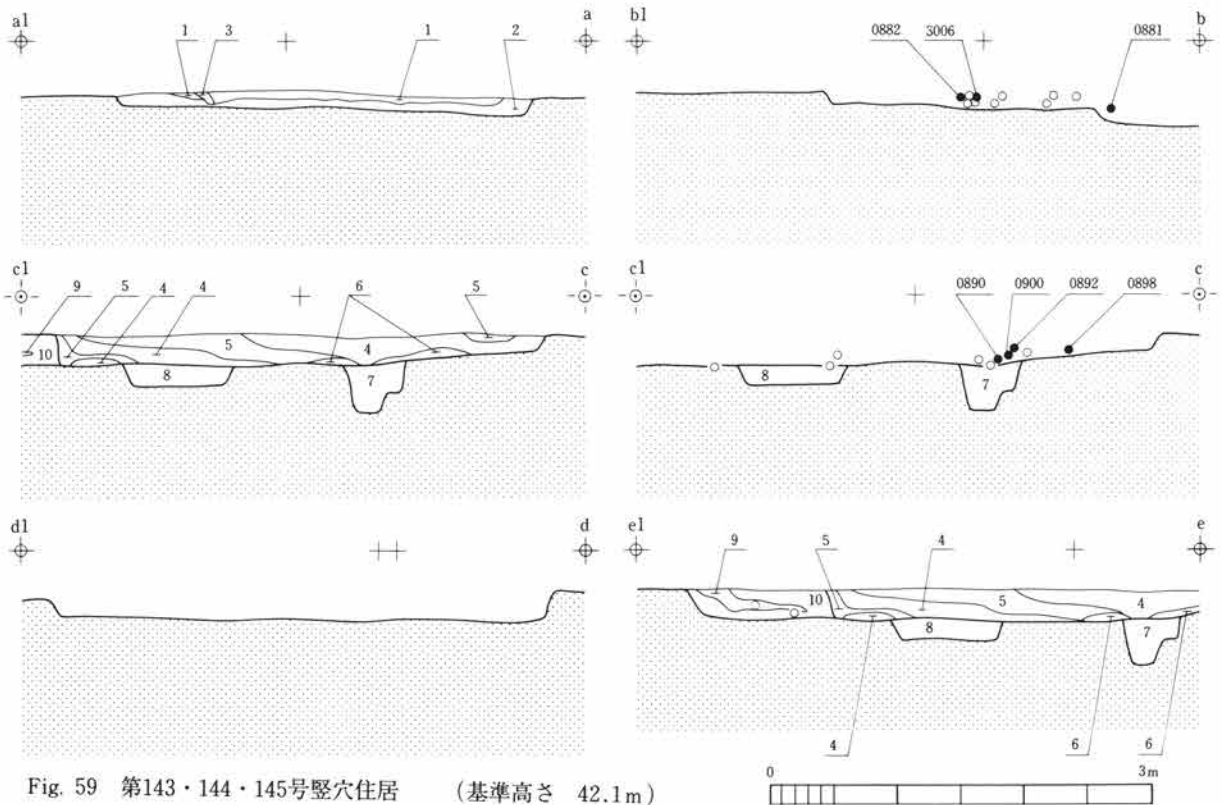
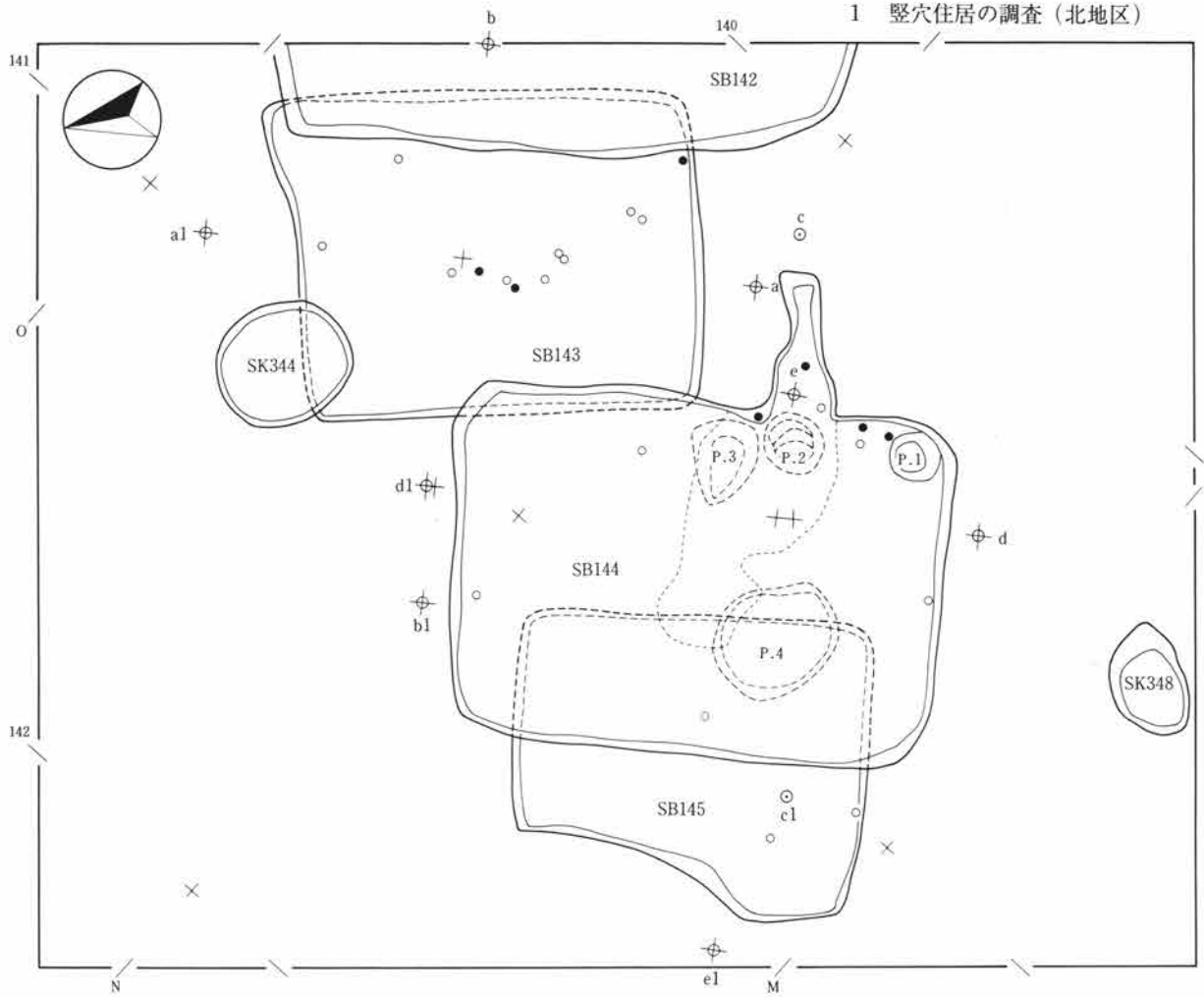


Fig. 59 第143・144・145号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

146号住居 SB146 (遺構 PL. 20、遺物 PL. 54、Fig. 169)

発掘区IV区のM138に位置する。平面形は正方形、縦3.20m、横3.48mを測り、面積は約11.1m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-95°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は11cm、周溝はなく、床面高は41.53mである。覆土は6層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3層は窯崩落土、4層は窯体埋没土、5層は住居床面下のピット埋土、6層は147号住居内覆土である。土質は1層灰褐色土層で黄褐色の粘土ブロックを含む砂質土層、2層褐色土層で茶黄色の粘土粒、炭化物粒を含む砂質土で軟かくサクサクしている層、3層青灰色粘土層、4層灰と焼土の堆積層、5、6層未確認である。2ヶ所にピットがあり、1号ピットは竈前の床下ピットで平面形は径25cmの円形を呈し深さ11cmを測り、2号ピットは住居南壁と西壁に接する床上ピットで平面形は偏楕円形で長軸64cm×短軸57cm、深さ34cmを測る。本住居は147号住居と重複しており、本住居の方が新しい。住居の南東壁の北寄りには平面形は丸く突出しており、貯蔵穴のような掘り込みはない。

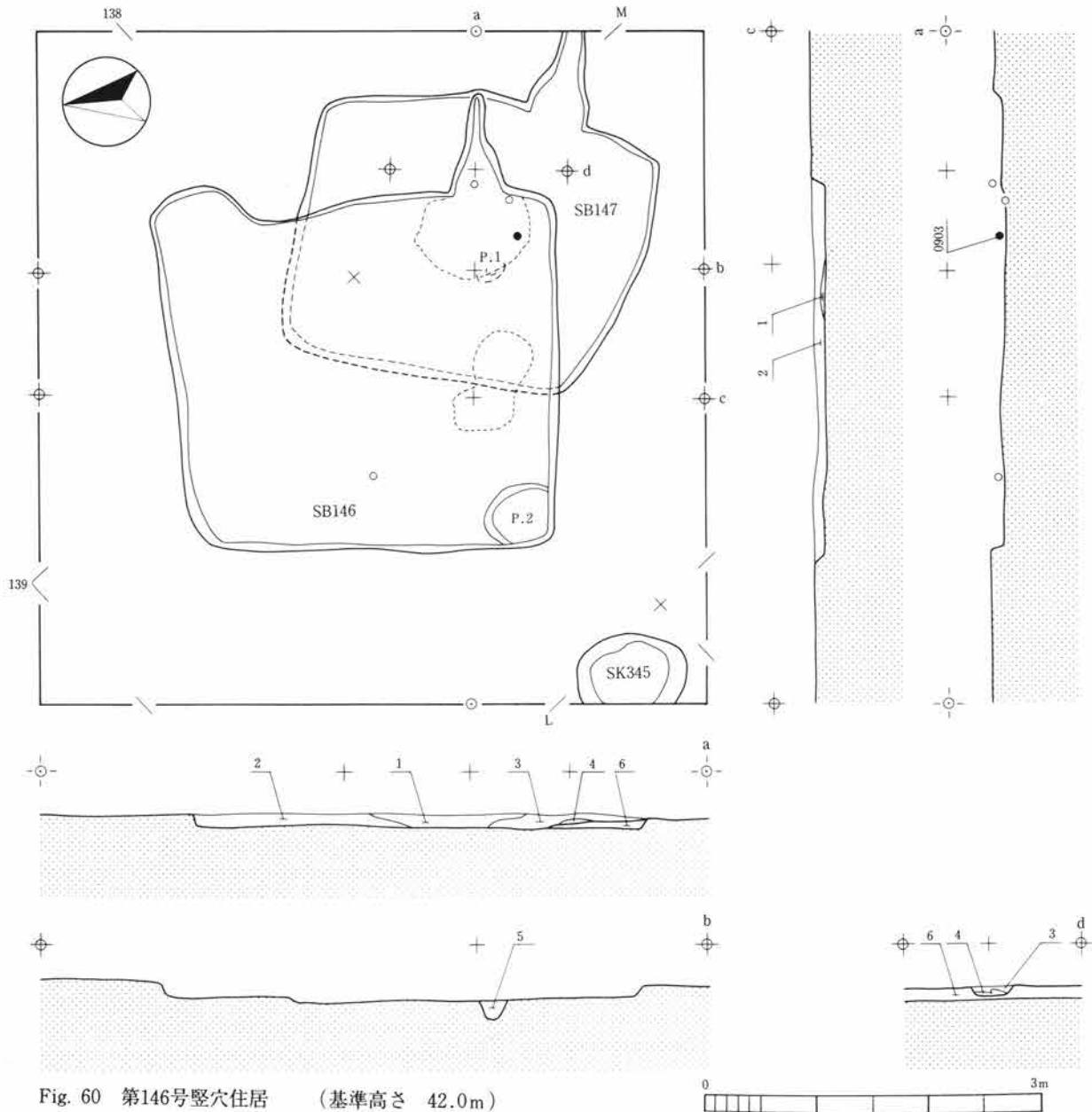


Fig. 60 第146号竪穴住居 (基準高さ 42.0m)

147号住居 SB147（遺構 PL. 20、遺物 PL. 54、Fig. 169、170）

発掘区IV区のM138に位置する。平面形は横長形、縦2.57m、横3.06mを測り、面積は約7.9m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-108°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は10cm、周溝はなく、床面高は41.51mである。覆土は7層に分けられた。1、6層は住居内覆土、2層は窯崩落土、3層は住居に関連するピット埋土、4、5層は146号住居内覆土、7層は146号住居床面下のピット埋土である。土質は1層灰褐色土層で鉄分の凝集の見られる砂質土層、2層褐色土層で灰、焼土、炭化物を含む砂質土層、3層未確認、4層灰褐色土層で黄褐色の粘土ブロックを含む砂質土層、5層褐色土層で黄褐色の粘土粒、炭化物粒を含む砂質土でサクサクしている層、6層青灰色粘土層、7層未確認である。住居竈前右に貯蔵穴があり、平面形は不定形で深さは19.5cmを測る。出土遺物は、土師器甕2、須恵器鉢1、須恵器足高椀1、須恵器高台杯1、須恵器椀1、須恵器羽釜4の合計10点である。竈の燃焼部分に川原石が支脚として2石立つ。

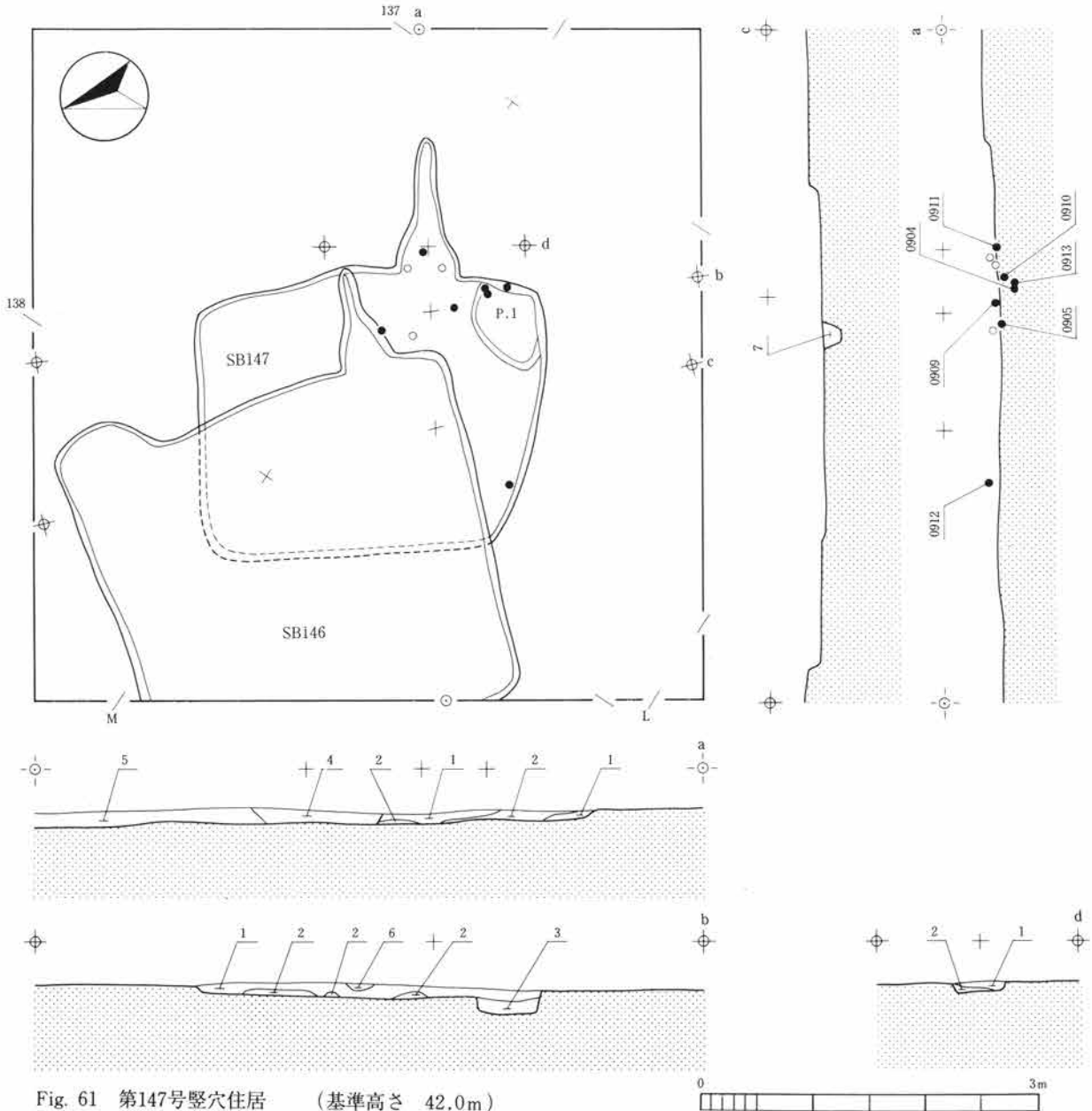


Fig. 61 第147号竪穴住居（基準高さ 42.0m）

148号住居 S B 148 (遺構 PL. 20、遺物 Fig. 170)

発掘区IV区のJ 137に位置する。平面形は縦長形、縦3.84m、横3.22mを測り、面積は約12.4m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-124°-Eを取り、竈は南東壁右寄りに付設される。確認された壁高は5cm、周溝はなく、床面高は41.52mである。覆土は住居床面下のピット埋土1層である。土質は未確認である。住居の竈前に竈前の床下ピットがあり、平面形は楕円形を呈し長軸61cm×短軸35cm、深さは19cmを測る。遺構検出面からの掘り込みは浅く調査上の不手際も否めない。他の遺構との切り合いはない。住居の西壁の南寄り、すなわち竈との接続部分は隅を形成することなくなだらかに竈の燃焼部分に遺構する。竈前の焼土の拡がりは不鮮明であるが、竈前の床下ピット付近まではあったと考えられる。貯蔵穴は検出されなかった。竈全長は90cmを測り、燃焼部分は前幅90cm、後幅40cm、奥行30cmである。煙道部との変換部分に特別な構造はみられず、なだらかに窯底は上がる。煙道前幅40cmで平均25cmの幅を持ち先端は丸い。出土遺物は灰釉陶器皿である。

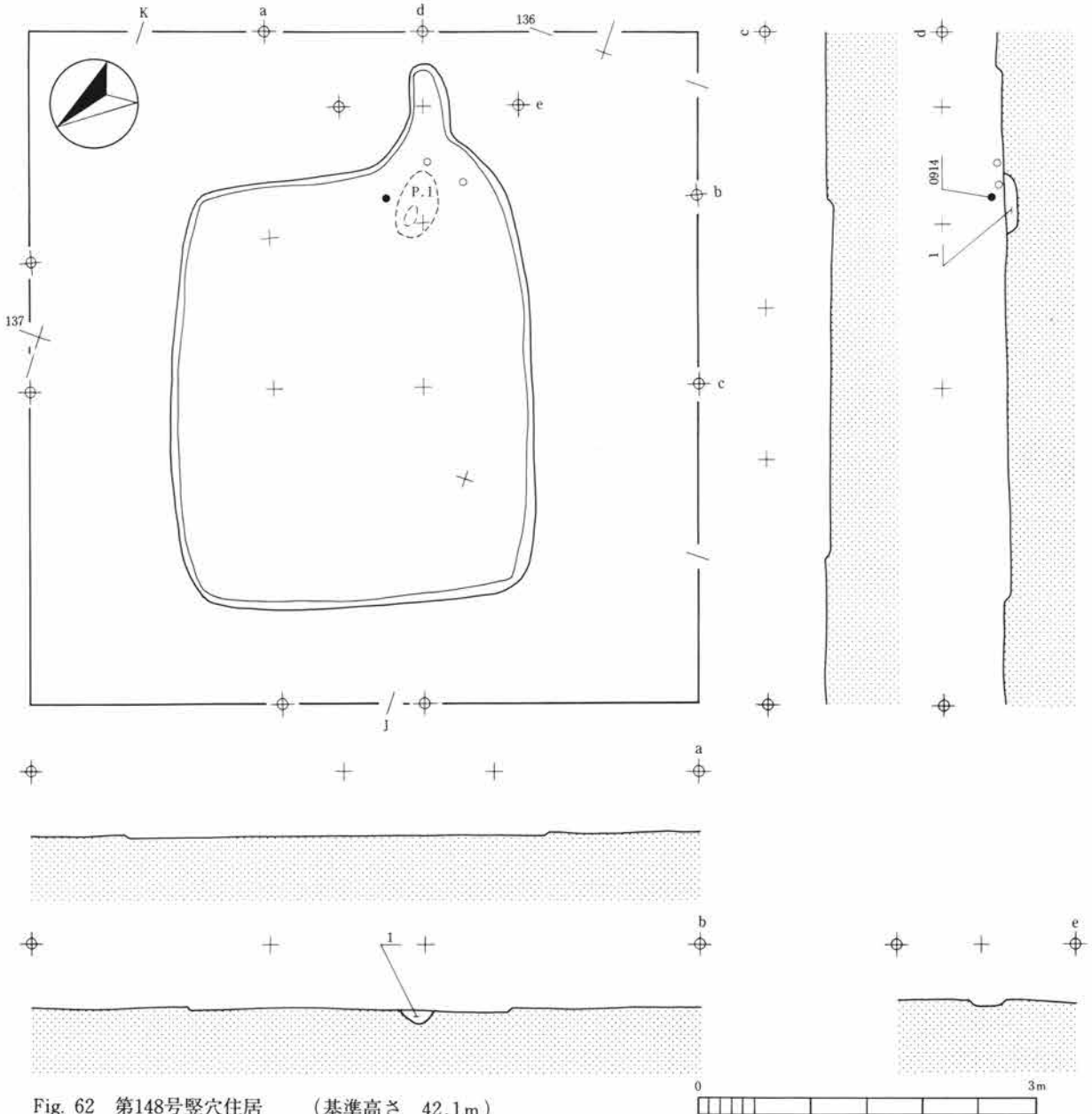


Fig. 62 第148号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)



149号住居 SB149（遺構 PL. 20、遺物 PL. 54、Fig. 171）

発掘区Ⅳ区のV145に位置する。平面形は縦長形、縦6.02m、横4.42mを測り、面積は約26.6m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-100°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は15cm、周溝はなく、床面高は41.62mである。覆土は3層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯崩落土、3層は150号住居内覆土である。土質は1層褐色土でややしまった砂質土で鉄分の凝集が見られる層、2層灰白色粘土、及び焼土の混土層、3層褐色土層でやや粘性のある砂質土層である。住居の竈前右には床上のピットがあり、平面形は一辺38cmの方形を呈し、深さは23.5cmを測る。住居の北東隅部分は調査区域外のために復元図化してある。そのため窯部分の調査も不十分で全体を記録できたか不安は残る。かまど周辺に炭化物が残り、窯壁内に白色の粘土を貼りつけている。床直上に砂の散布が部分的にみられた。床面の中央付近は硬く締めり周囲よりやや高い。出土遺物は土師器碗、杯、甕、須恵器碗、高台杯、足高碗、瓶、羽釜などである。

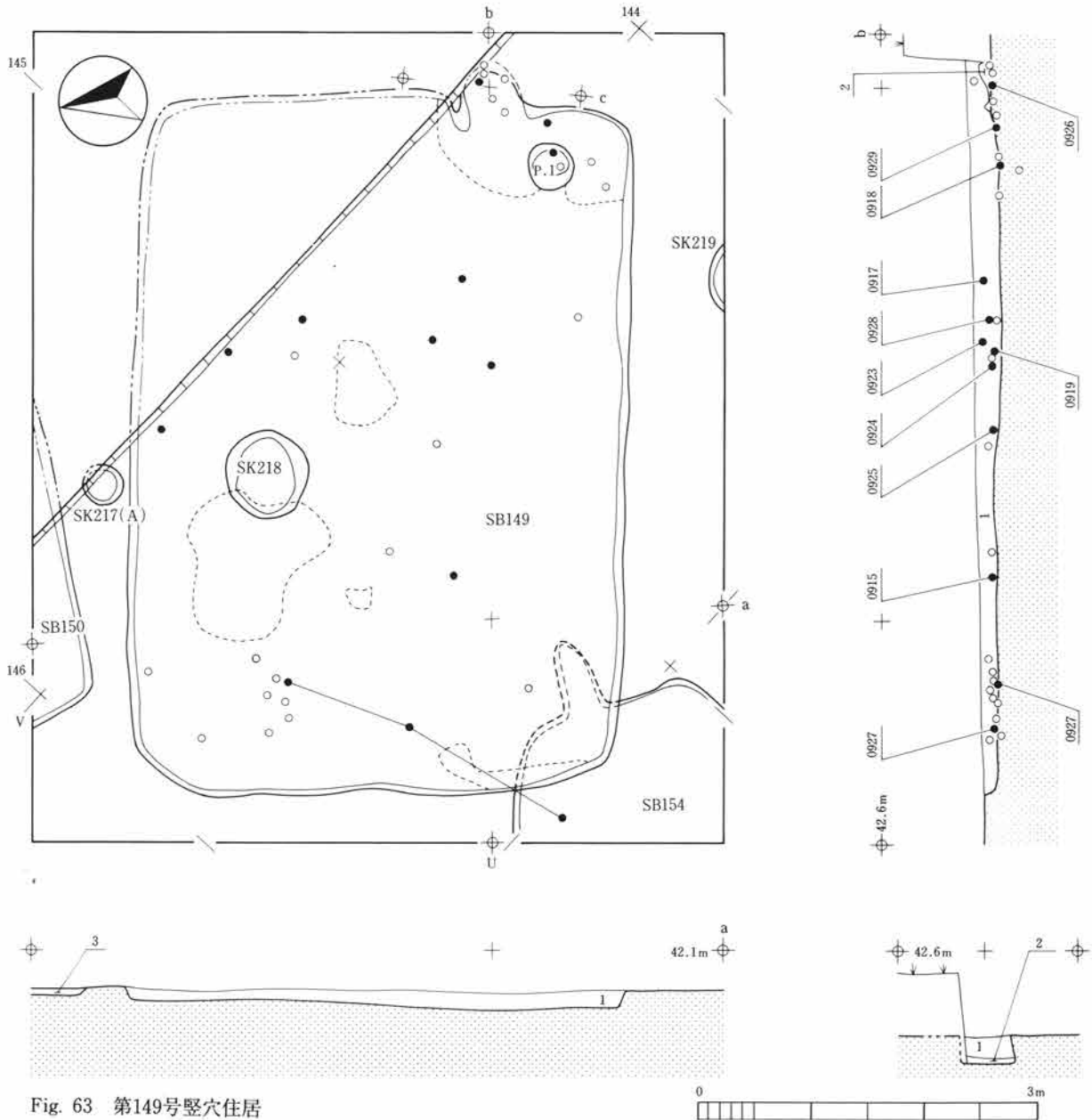


Fig. 63 第149号竪穴住居

150号住居 SB150 (遺構 PL. 20、土層 116p)

発掘区Ⅳ区のV146に位置する。平面形は横長形、縦3.70m、横4.51mを測り、面積は約16.7㎡である。住居の方位はN-86°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は31cm、周溝はなく、床面高は41.70mである。

151号住居 SB151 (遺構 PL. 21、土層 116p)

発掘区Ⅳ区のW147に位置する。平面形は正方形、縦2.98m、横3.03mを測り、面積は約9.0㎡である。住居の方位はN-96°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は33cm、周溝はなく、床面高は41.64mである。平面形はほとんど復元である。151号住居と151号住居との重複関係を明らかにすることができなかった。

152号住居 SB152 (遺構 PL. 21、土層 116p)

発掘区Ⅳ区のV148に位置する。平面形は横長形、縦2.32m、横3.23mを測り、面積は約7.5㎡である。住居の方位はN-105°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は24cm、周溝はなく、床面高は41.72mである。

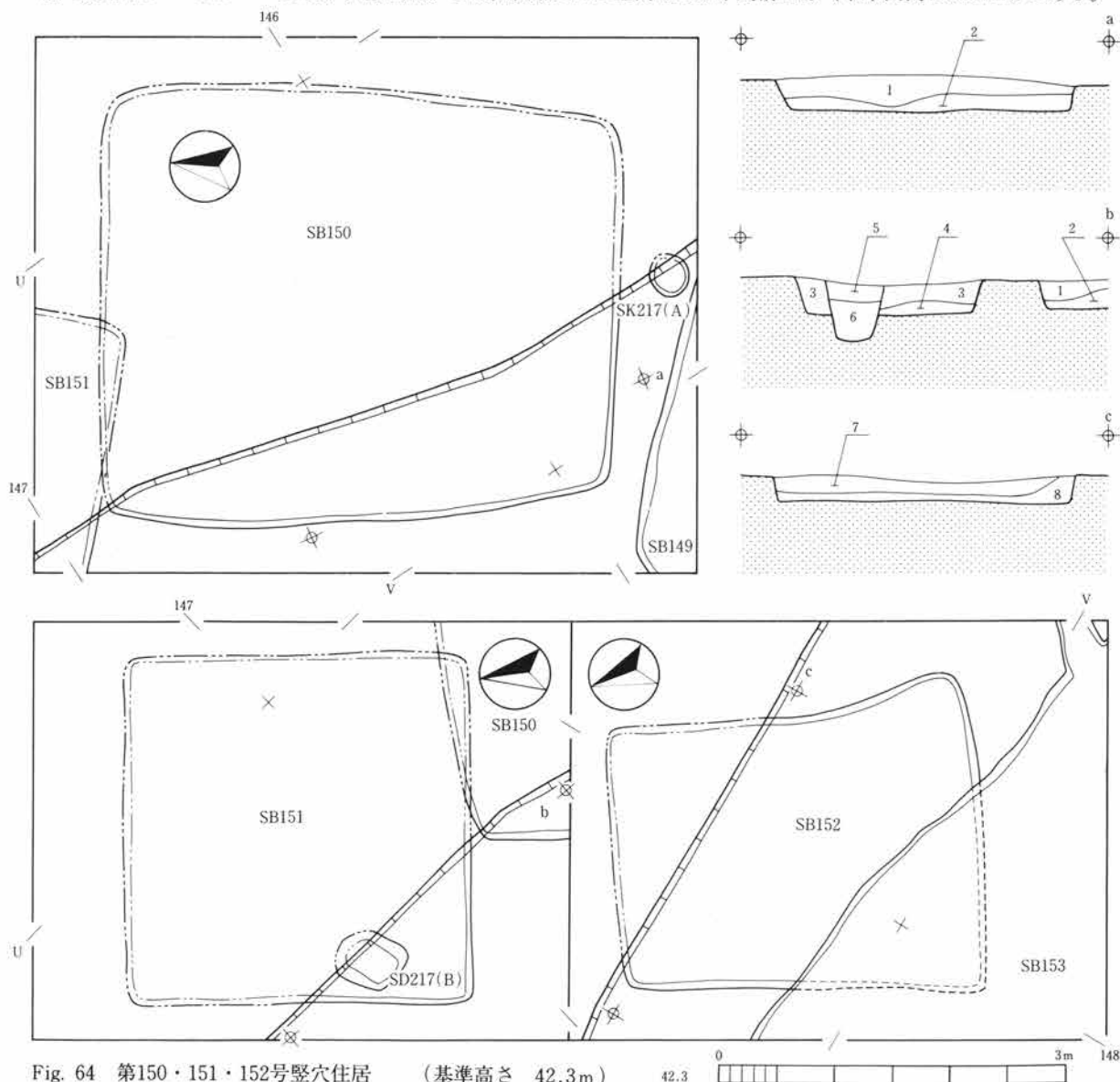


Fig. 64 第150・151・152号竪穴住居 (基準高さ 42.3m)

153号住居 SB153（遺構 PL. 21、遺物 Fig. 171）

発掘区Ⅳ区のU148に位置する。平面形は横長形、縦4.78m、横5.64mを測り、面積は約27.0m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-66°-Eを取り、竈は北東壁右寄りに付設される。確認された壁高は20cm、周溝はなく、床面高は41.80mである。覆土は3層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯崩落土、3層は床面直上の土層である。土質は1層褐色土層で砂質土でややしまっている層、2層灰と褐色砂質土の混土で焼土をも含む層、3層灰層である。本住居は152号住居と重複しており本住居が新しい。検出面を下げすぎたため、覆土は10cm内外となってしまった。住居の規模に比較すると竈は小さく思えるが煙道以上が削平していると考えれば不自然ではなかろう。竈は東壁に付設されるが長軸が右寄り20度傾斜している。竈は燃焼部分のみが残存していたと考えられ前幅35cm、二等辺三角形を呈するように尖り、全長60cmを測る。竈前面の焼土の拡がりは幅50cm、前方に40cmほどの範囲に認められる。床面北西寄りに3ヶ所の炭化物が認められた。

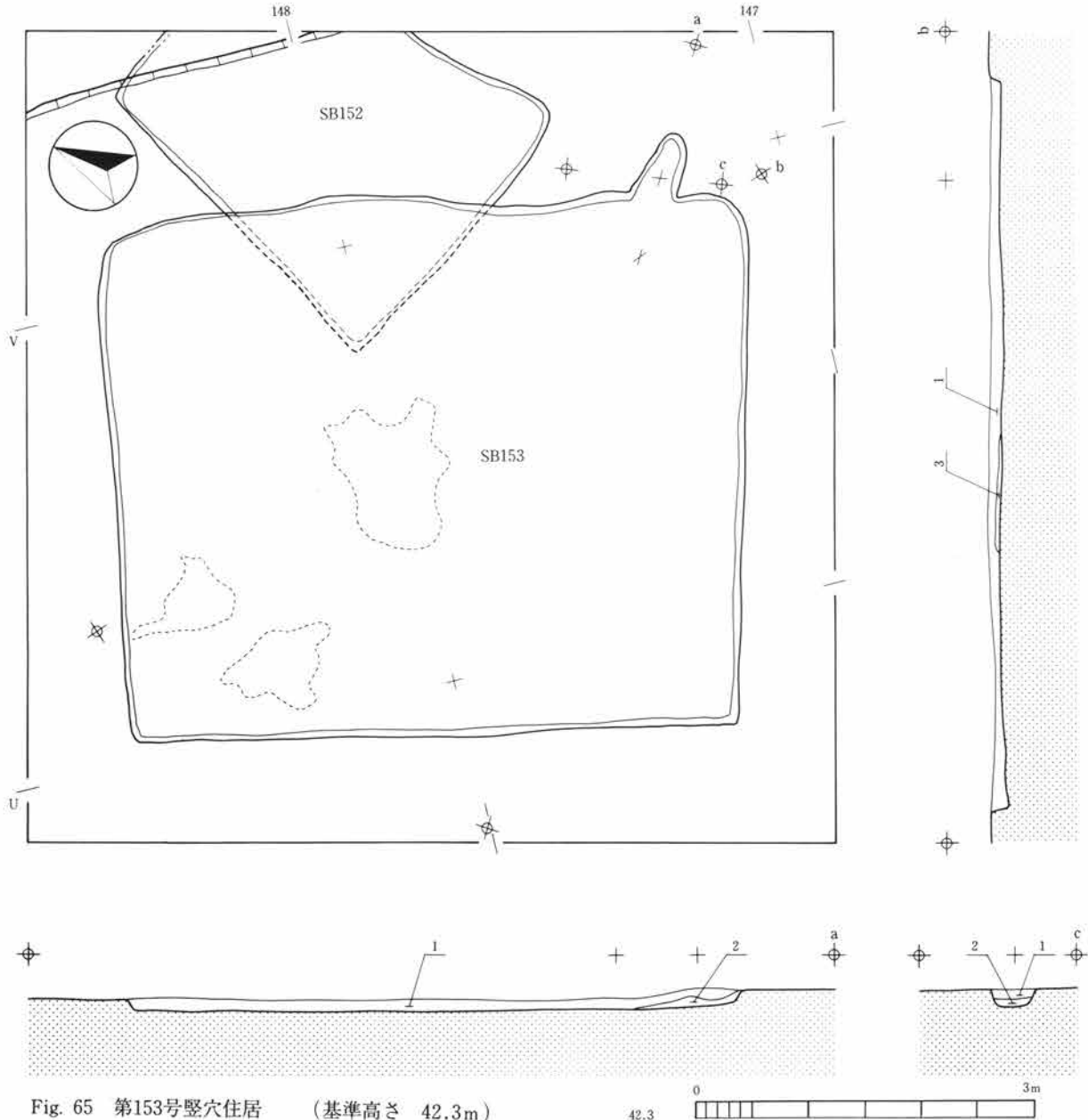


Fig. 65 第153号竪穴住居（基準高さ 42.3m）



154号住居 SB154 (遺構 PL. 21、遺物 Fig. 171)

発掘区IV区のT145に位置する。平面形は正方形、縦2.50m、横2.35mを測り、面積は約5.9m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-92°-Eを取り、竈は東壁左寄りに付設される。確認された壁高は9cm、周溝はなく、床面高は41.57mである。覆土は2層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は149号住居内覆土である。土質は1層褐色土層でややしまった砂質土でわずかに炭化物を含む層、2層褐色土層でややしまった砂質土で鉄分の凝集が見られる層である。住居の覆土は10cm弱と浅い。更に北東隅にあたる窯と考えた部分は本住居よりも新しい149号住居によって更に削平されており、この部分の復元は根拠は薄い。住居の西隅部分は156号住居と切り合い関係にあり、本住居が新しい。平面形は正方形に区分はしてあるものの、住居の北壁と南壁部分は胴張りである。床面の竈に復元した周辺は焼土、炭化物の拡がり認められ竈前面の可能性を強くしている。床面の中央部分は叩き締められたように硬化しているが周辺部分は凹凸が多く軟質である。

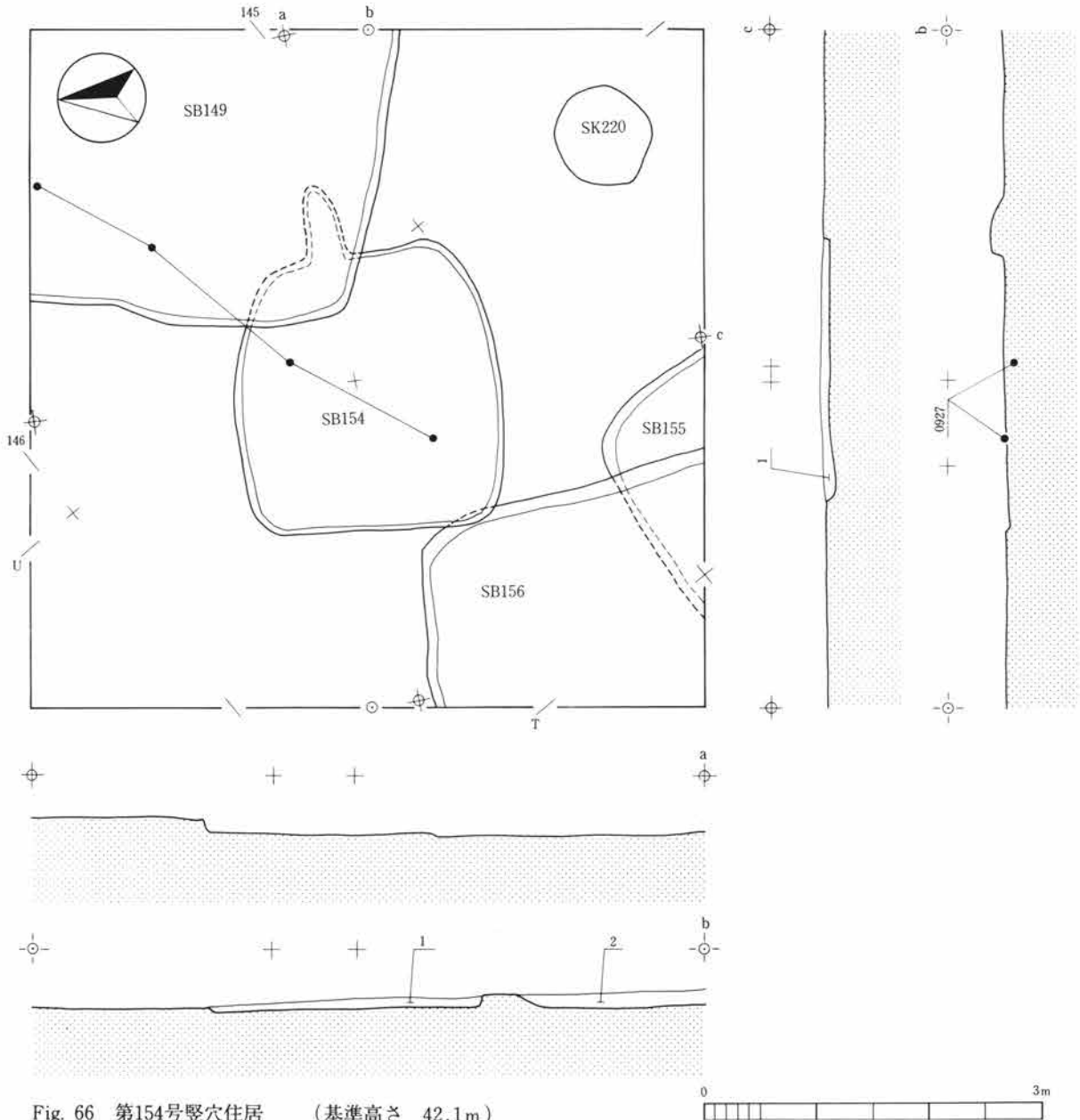


Fig. 66 第154号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

155号住居 SB155（遺構 PL. 21、遺物 Fig. 171）

発掘区Ⅳ区のT144に位置する。平面形は正方形、縦4.84m、横5.02mを測り、面積は約24.3㎡である。住居の方位はN-58°-Eを取り、竈は北東壁右寄りに付設される。確認された壁高は44cm、周溝はなく、床面高は41.33mである。覆土は16層に分けられた。1～4層は住居内覆土、5～13層は窯崩落土、14層は窯前の床下ピット埋土、15、16層は156号住居窯構築材である。土質は1、2層褐色土層、3、6、9、10層灰白色土層、4層暗褐色土層、5、8、11層灰褐色土層、7層淡灰褐色土層、12層青褐色土層、13層灰層、14層未確認、15層焼けた粘土層、16層焼けた褐色土層である。2ヶ所にピットがあり、1号ピットは竈前にある窯前の床下ピットで平面形は長方形を呈し長軸48cm×短軸33cm、深さ9cmを測り、2号ピットは竈前右の床上ピットで平面形は楕円形を呈し長軸62cm×短軸50cm、深さ12.5cmを測る。重複関係は新しい順に160号住居、159号住居、156号住居、155号住居となる。出土遺物は土師器碗、甕、須恵器杯、瓶などである。

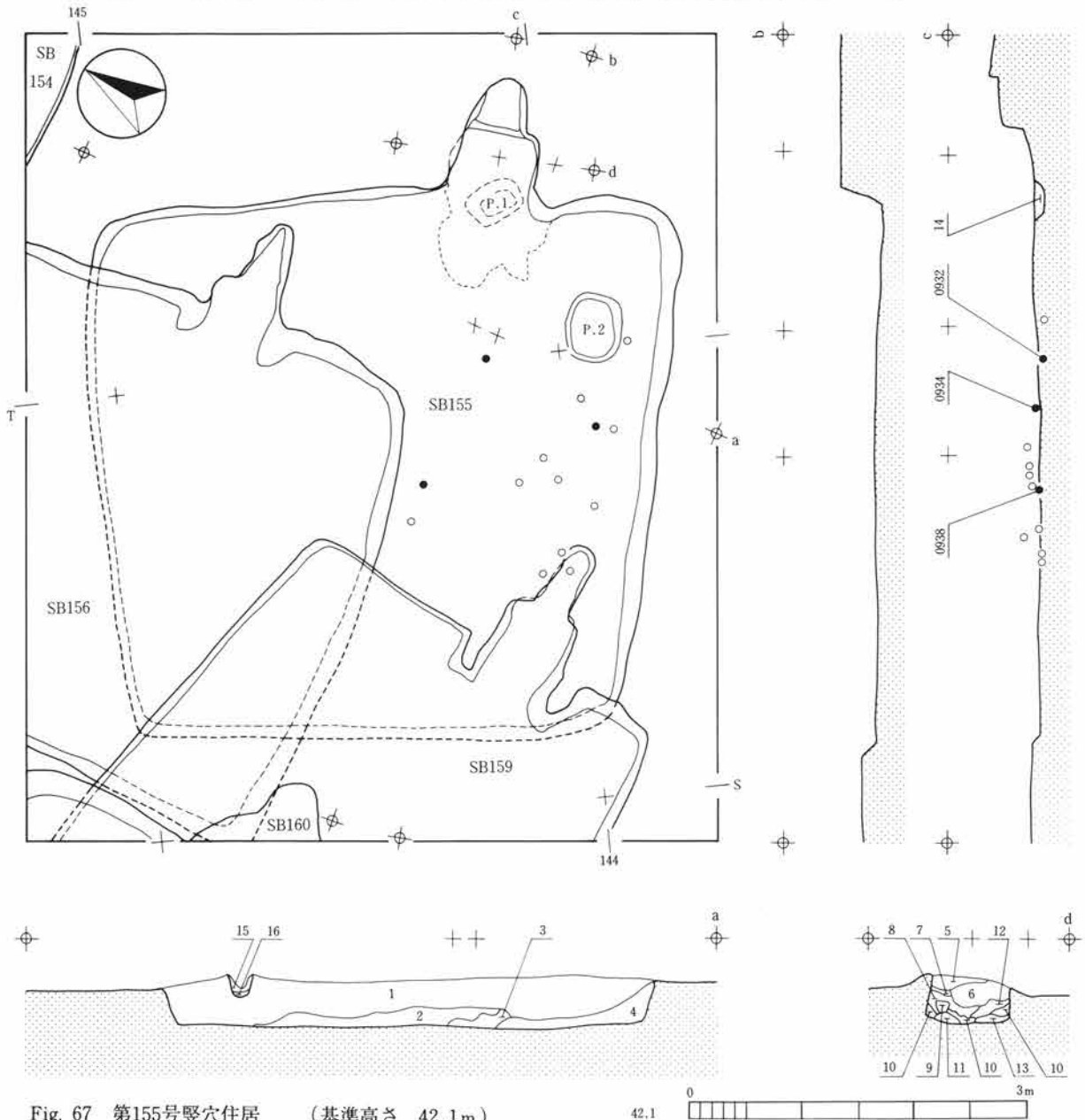
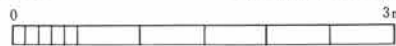


Fig. 67 第155号竪穴住居（基準高さ 42.1m）

42.1



156号住居 SB156 (遺構 PL. 21、遺物 PL. 54、Fig. 172)

発掘区Ⅳ区のT145に位置する。平面形は横長形、縦4.12m、横5.31mを測り、面積は約21.9m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-82°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は47cm、周溝はなく、床面高は41.35mである。覆土は16層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3~7、9層は窯崩落土、8層は窯体埋没土、10層は窯構築材、11層は窯前の床下ピット埋土、12層は住居床面下のピット埋土、13、14層は155号住居内覆土、15、16層は159号住居内覆土である。土質は1、2、13、14、15、16層褐色土層、3、7~9層灰褐色土層、4層暗褐色土層、5層焼土、灰の堆積層、6層淡褐色土層、10層黄灰層、11、12層未確認である。2ヶ所にピットがあり、1号ピットは竈前右の床下ピットで偏楕円形を呈し長軸40cm×短軸30cm、深さ16cm、2号ピットは窯前の床下ピットで偏楕円形を呈し長軸53cm×短軸44cm、深さ17cmを測る。重複関係は新しい順に160号住居、159号住居、156号住居、155号住居となっており、154号住居と157号住居は本住居よりも新しい。

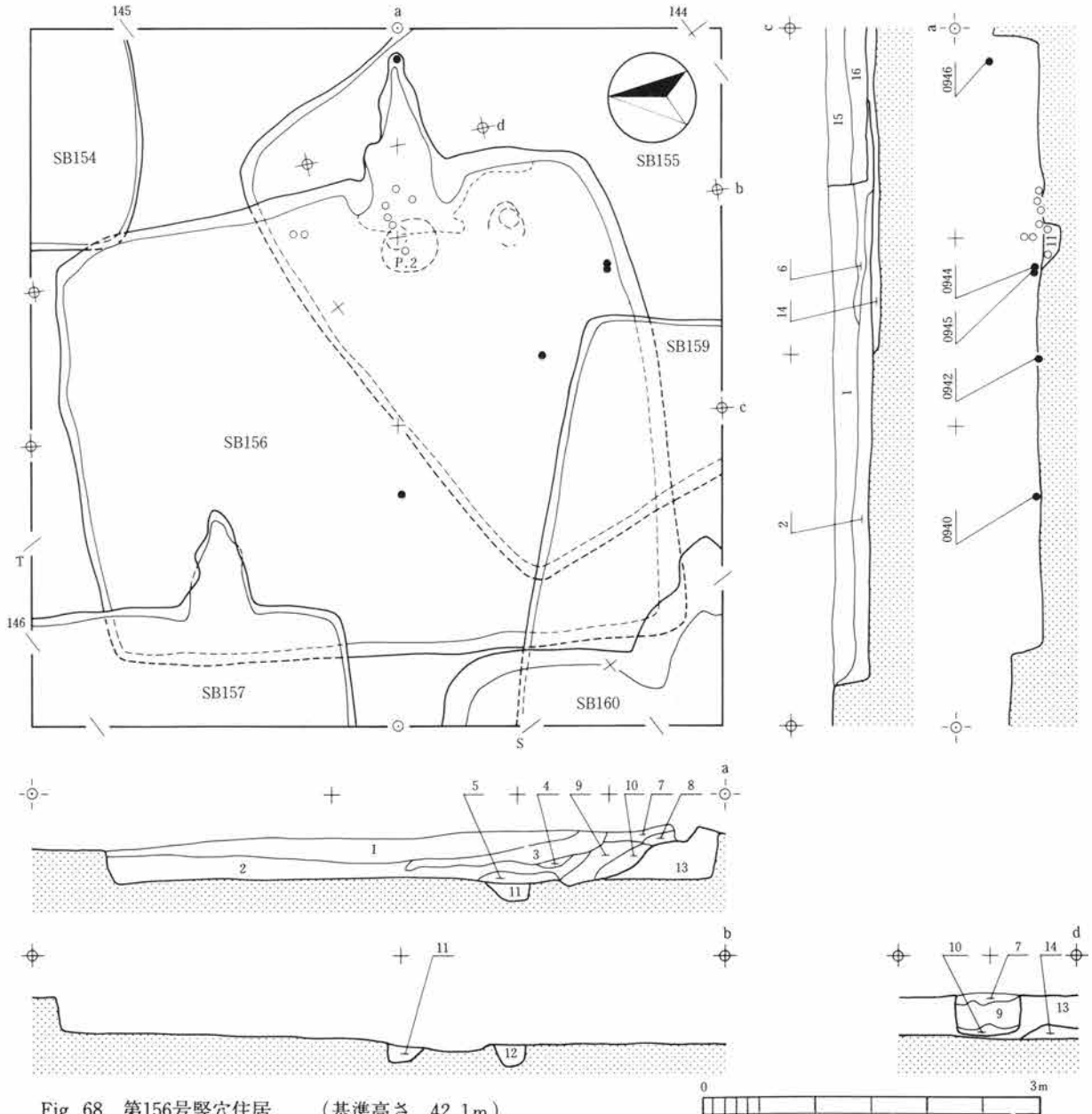


Fig. 68 第156号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

157号住居 SB157（遺構 PL. 21、遺物 PL. 54、Fig. 172）

発掘区Ⅳ区のS 146に位置する。平面形は横長形、縦2.93m、横4.23mを測り、面積は約12.4㎡である。住居の方位はN-90°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は34cm、周溝はなく、床面高は41.43mである。覆土は13層に分けられた。1層は住居内覆土、2～4層は窯崩落土、5、6層は窯体埋没土、7層は窯前の床下ピット埋土、8、9層は156号住居内覆土、10層は317号土壌埋土、11～13層は160号住居内覆土である。土質は1、2、4層暗褐色土層、3、8、9、11層褐色土層、5層焼土ブロック、非常に固い焼土層、6層焼土、炭化物、灰の堆積層、7、10層未確認、12、13層赤褐色土層である。4ヶ所にピットがあり、1号ピットは35cm×34cm、深さ22cm、2号ピットは57cm×45cm、深さ7cm、3号ピットは34cm×31cm、深さ12cm、4号ピットは47cm×34cm、深さ17cmを測る。重複は新しい順に317号土壌、157号住居、156号住居となる。北東隅にベツト状の10cm強の高まりが認められた。土師器甕、須恵器蓋、鉢が出土している。

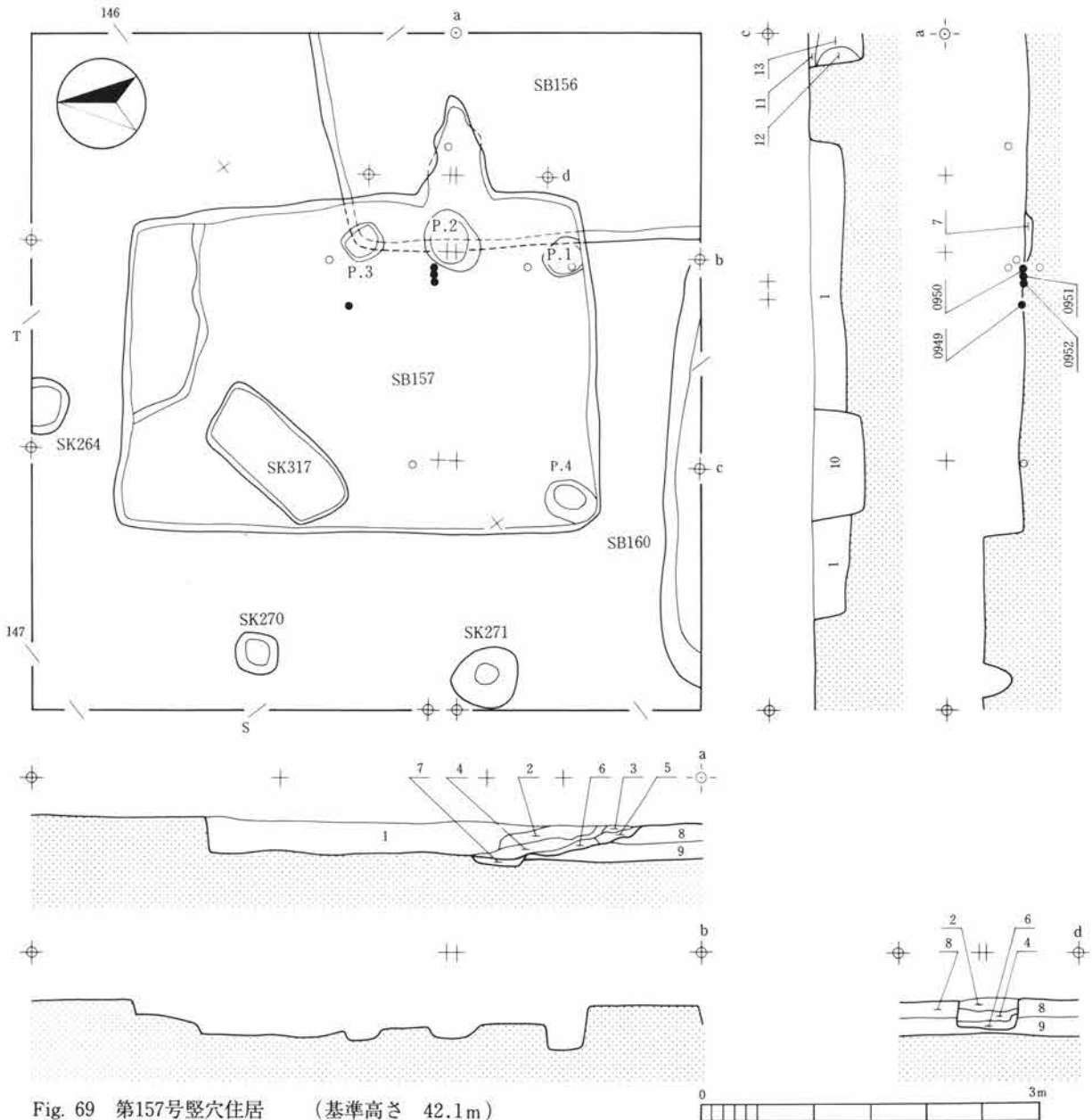
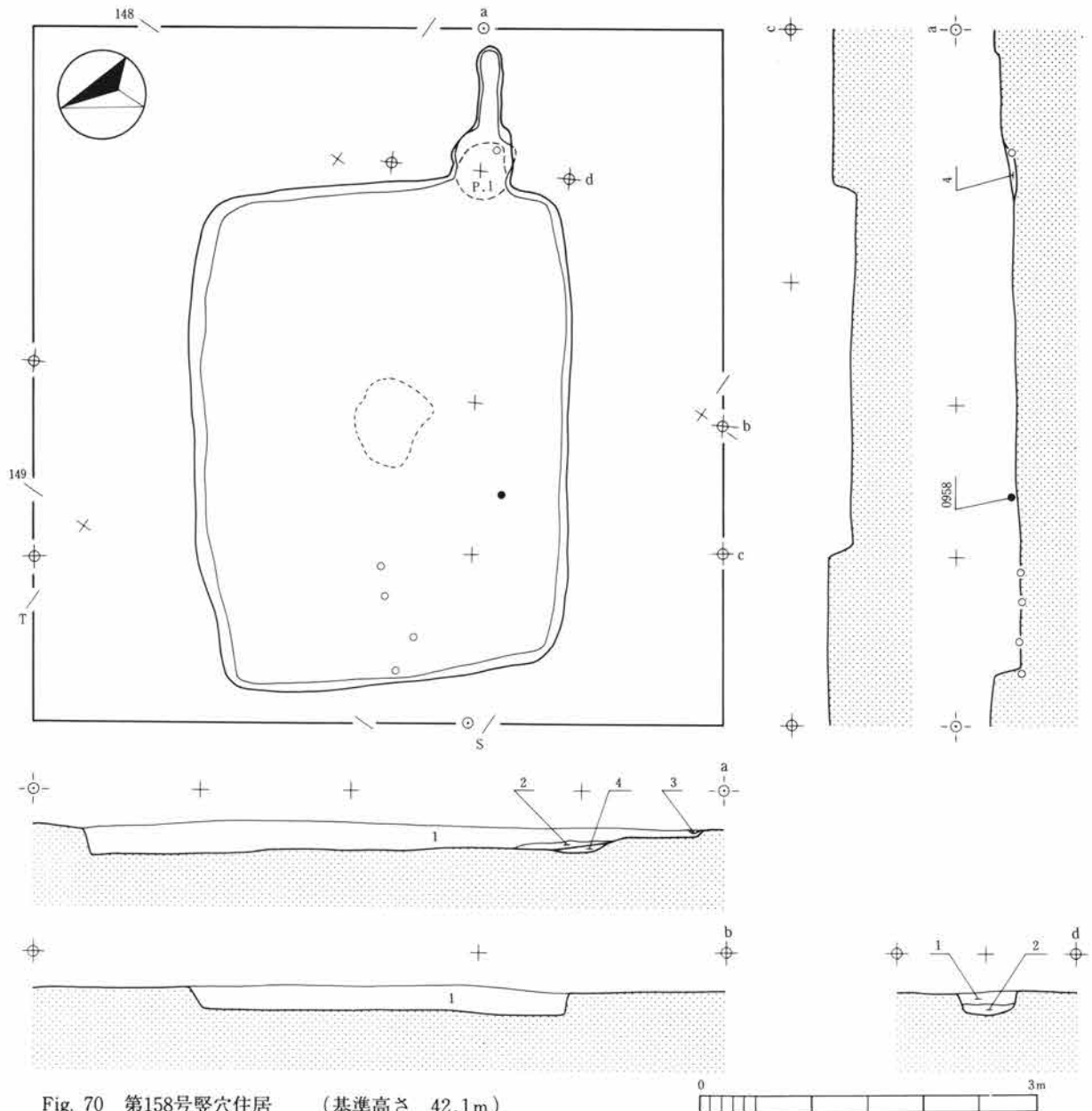


Fig. 69 第157号竪穴住居（基準高さ 42.1m）

158号住居 SB158 (遺構 PL. 22、遺物 Fig. 172)

発掘区IV区のS148に位置する。平面形は縦長形、縦4.98m、横3.85mを測り、面積は約19.2m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-107°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は25cm、周溝はなく、床面高は41.57mである。覆土は4層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯底面の土層、3層は窯崩落土、4層は窯前の床下ピット埋土である。土質は1層灰褐色土層で砂質土で軟らかで粘土粒子をわずかに含む層、2層灰と焼土の堆積層、3層焼土ブロック、灰を含む層、4層未確認である。住居の竈中には窯前の床下ピットがあり、平面形は偏楕円形を呈し長軸50cm×短軸44cm、深さ4cmを測る。住居の覆土の厚さは25cm前後であった。平面形もしっかりしており重複も無い。竈の前面の焼土、灰の拡がりは少なく範囲は不明瞭である。竈は燃焼部と煙道から成り、全長は130cmを測る。燃焼部前、後の幅は45cmと平行し、奥行は50cmを測る。一段高まる煙道は長さ80cm、幅は20cmを測る。床面中央部に灰層が認められた。





159号住居 SB159（遺構 PL. 22、遺物 PL. 54、Fig. 173）

発掘区Ⅳ区のS 145に位置する。平面形は正方形、縦4.27m、横4.20m測り、面積は約18.0㎡である。住居の方位はN-96°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は45cm、周溝はなく、床面高は41.37mである。覆土は17層に分けられる。1～6層は住居内覆土、7、8層は窯崩落土、9層は窯前の床下ピット埋土、10、11層は155号住居内覆土、12～14層は161号住居内覆土、15～17層は156号住居内覆土である。土質は1、2、10、11、15、17層褐色土層、3、13、16層淡褐色土層、4、5、7、12層灰褐色土層、6層青灰色粘土層、8層焼土と灰の混土層、9層未確認である。2ヶ所にピットがあり、1号ピットは竈前右の貯蔵穴で平面形は偏楕円形を呈し、長軸63cm×短軸50cm、深さ17cm、2号ピットは窯前の床下ピットで平面形は偏楕円形を呈し、長軸79cm×短軸48cm、深さ23cmを測る。本住居と他の遺構の重複関係を新しい順に並べると160号住居、159号住居、156号住居、155号住居である。161号住居は本住居よりも古い。

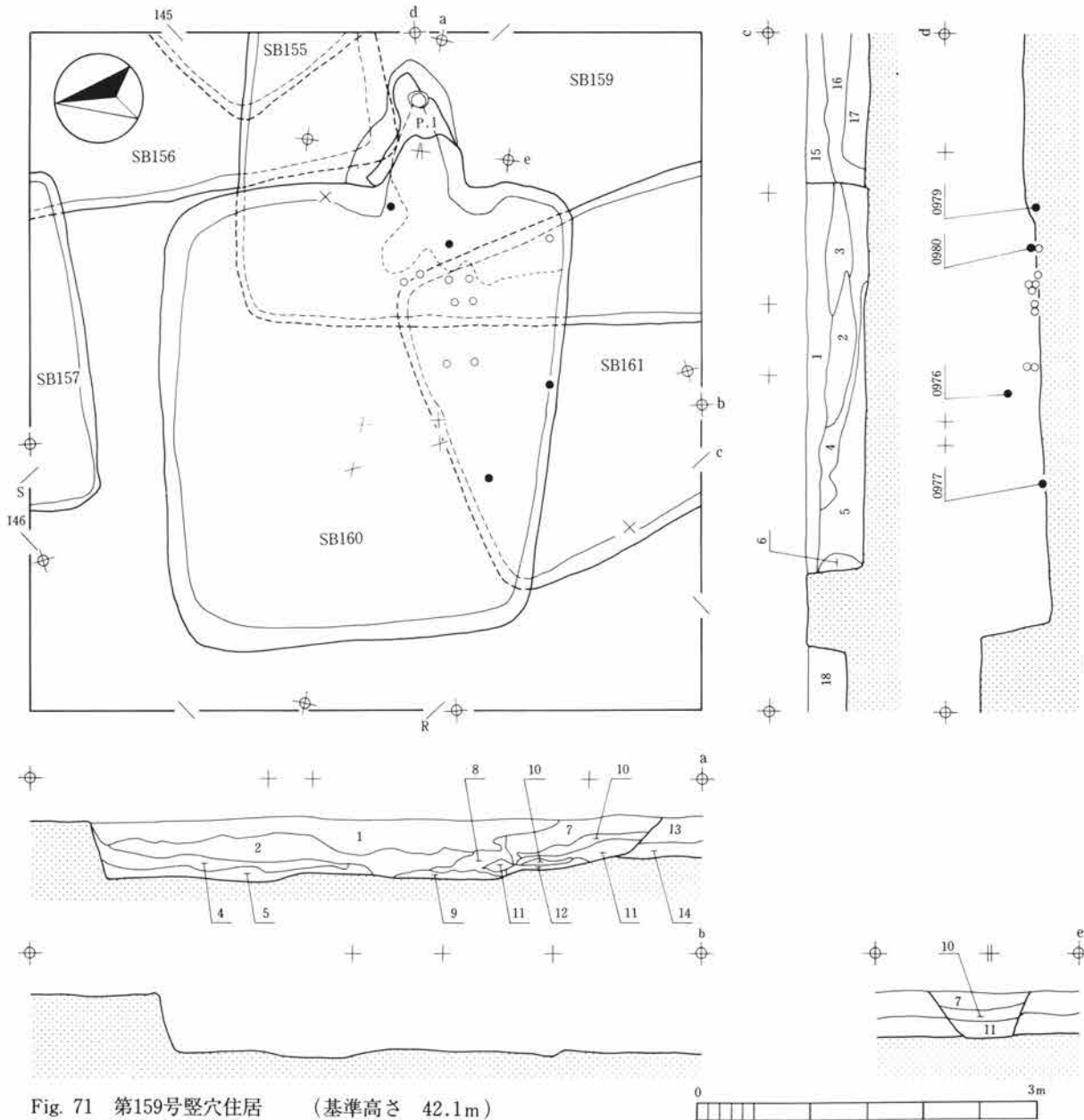


Fig. 71 第159号竪穴住居（基準高さ 42.1m）

160号住居 SB160 (遺構 PL. 22、遺物 Fig. 173)

発掘区IV区のS145に位置する。平面形は縦長形、縦4.10m、横3.49mを測り、面積は約14.3m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-95°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は55cm、周溝はなく、床面高は41.23mである。覆土は18層に分けられた。1~6、8、9層は住居内覆土、7層は窯崩落土、10、11層は窯体埋没土、12層は窯底面の土層、13、14層は159号住居内覆土、15~17層は161号住居内覆土、18層は157号住居内覆土である。土質は1~3、8、13層褐色土層、4、14、16層淡褐色土層、5、6層赤褐色土層、7層灰白色土層、9層暗灰褐色土層、10層赤茶色土層、11層暗灰色土層、12層灰の堆積層、15層灰褐色土層、17、18層暗褐色土層である。重複が多い。新しい順に並べると160号住居、159号住居、156号住居、155号住居となる。竈はしっかりとしており、両袖も残り全長は135cmを測る。竈前面から右側にかけて広範囲に焼土が分布している。床面中央は硬くしまっている。出土遺物は土師器碗、甕、須恵器杯などである。

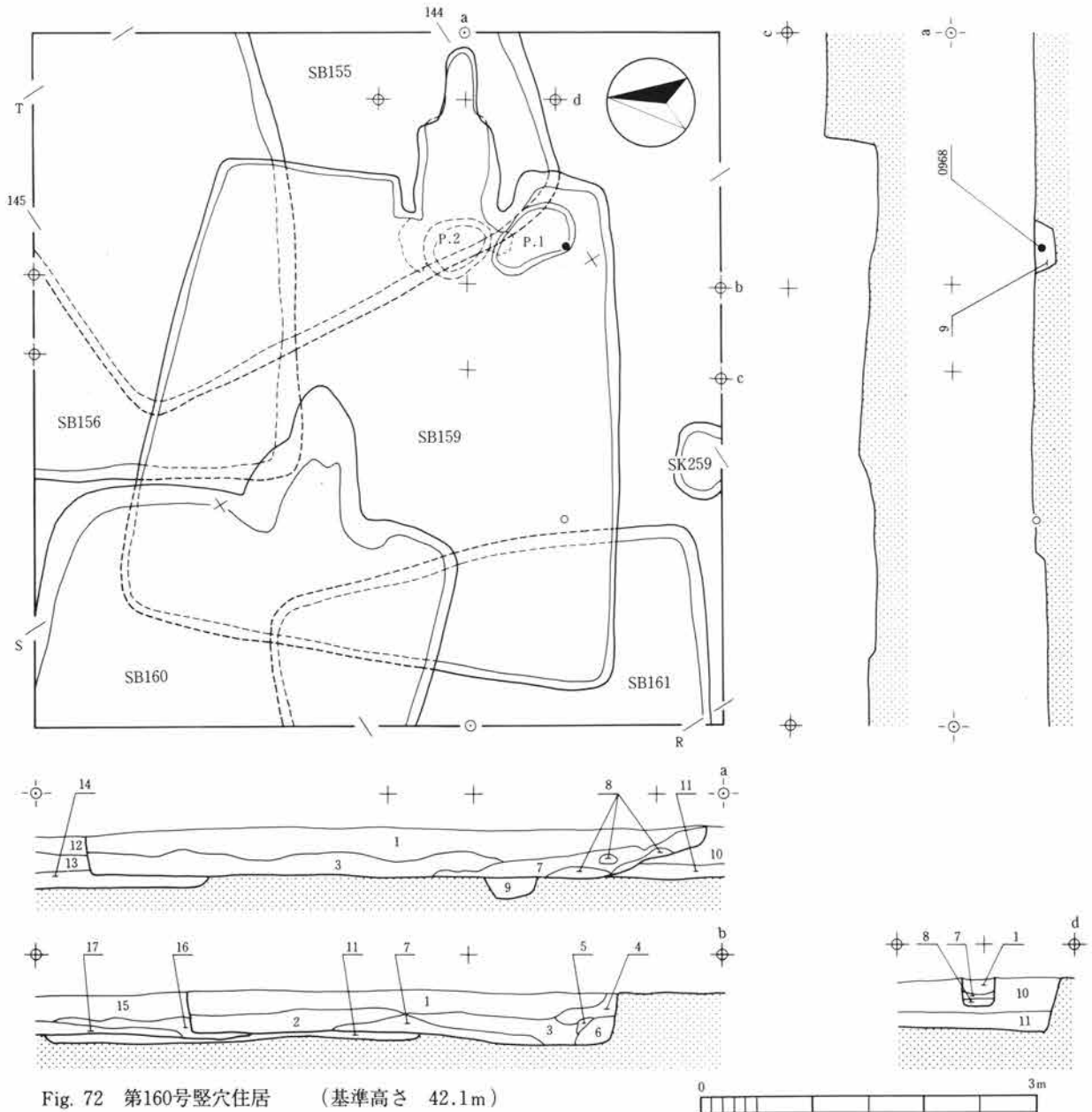


Fig. 72 第160号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

161号住居 SB161（遺構 PL. 22、遺物 Fig. 173）

発掘区Ⅳ区のR145に位置する。平面形は横長形、縦2.90m、横3.83mを測り、面積は約11.1㎡である。住居の方位はN-76°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は57cm、周溝はなく、床面高は41.24mである。覆土は11層に分けられた。1～4層は住居内覆土、5、6層は159号住居内覆土、7～11層は160号住居内覆土である。土質は1層灰褐色土層、2、6、10層淡褐色土層、3、4層暗褐色土層、5、7～9層褐色土層、11層赤褐色土層である。本住居は北東部分を他の遺構と切り合っている。北壁側を160号住居が、東壁側を159号住居が重複している。新旧関係を新しい順に示すと160号住居、159号住居、161号住居となる。住居の床面、中央部分は叩き締められたような硬化部分をもつ。また、西壁沿い、南壁沿いの部分は凹凸の多い軟質の床面で認定するのむずかしい。東壁側に竈及び貯蔵穴の存在を推定させる竈前方の焼土の散布範囲を示す資料は乏しい。出土の遺物は土師器碗、土師器長甕などである。

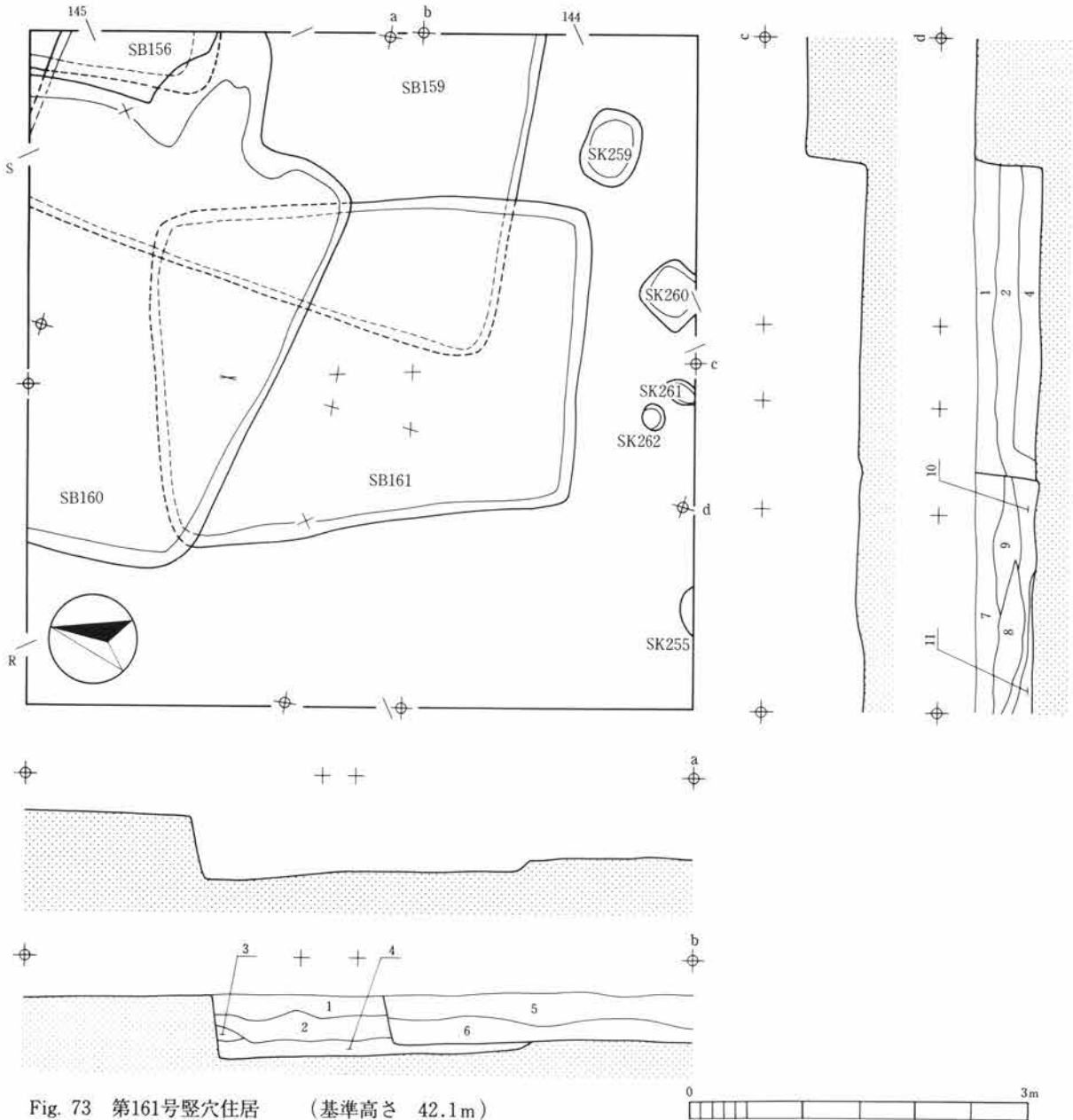


Fig. 73 第161号竪穴住居（基準高さ 42.1m）

162号住居 SB162 (遺構 PL. 22、遺物 PL. 55、Fig. 174)

発掘区IV区のP144に位置する。平面形は横長形、縦3.98m、横4.65mを測り、面積は約18.5㎡である。住居の方位はN-106°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は12cm、周溝はなく、床面高は41.58mである。覆土は4層に分けられ住居床面下のピット埋土である。土質は未確認である。7ヶ所にピットがあり、1号ピットは住居竈前左の床下ピットで楕円形を呈し47cm×40cm、深さ11cm、2号ピットは東壁に接する床下ピットで偏長方形を呈し53cm×45cm、深さ26.5cm、3号ピットは南壁寄りの床下ピットで不定形を呈し深さ21.5cm、4号ピットは中央床下ピットで偏楕円形を呈し77cm×53cm、深さ48.5cm、5号ピットは中央寄りの床下ピットで偏楕円形を呈し68cm×44cm、深さ7cm、6号ピットは南壁と西壁寄りの床下ピットで偏楕円形を呈し94cm×66cm、深さ46.5cm、7号ピットは北壁と西壁に接する床下ピットで不定形を呈し深さ14.5cmを測る。本住居に伴う遺物は、土師器碗3、丸甕1、高台杯2、灰釉輪花碗1、碗1である。

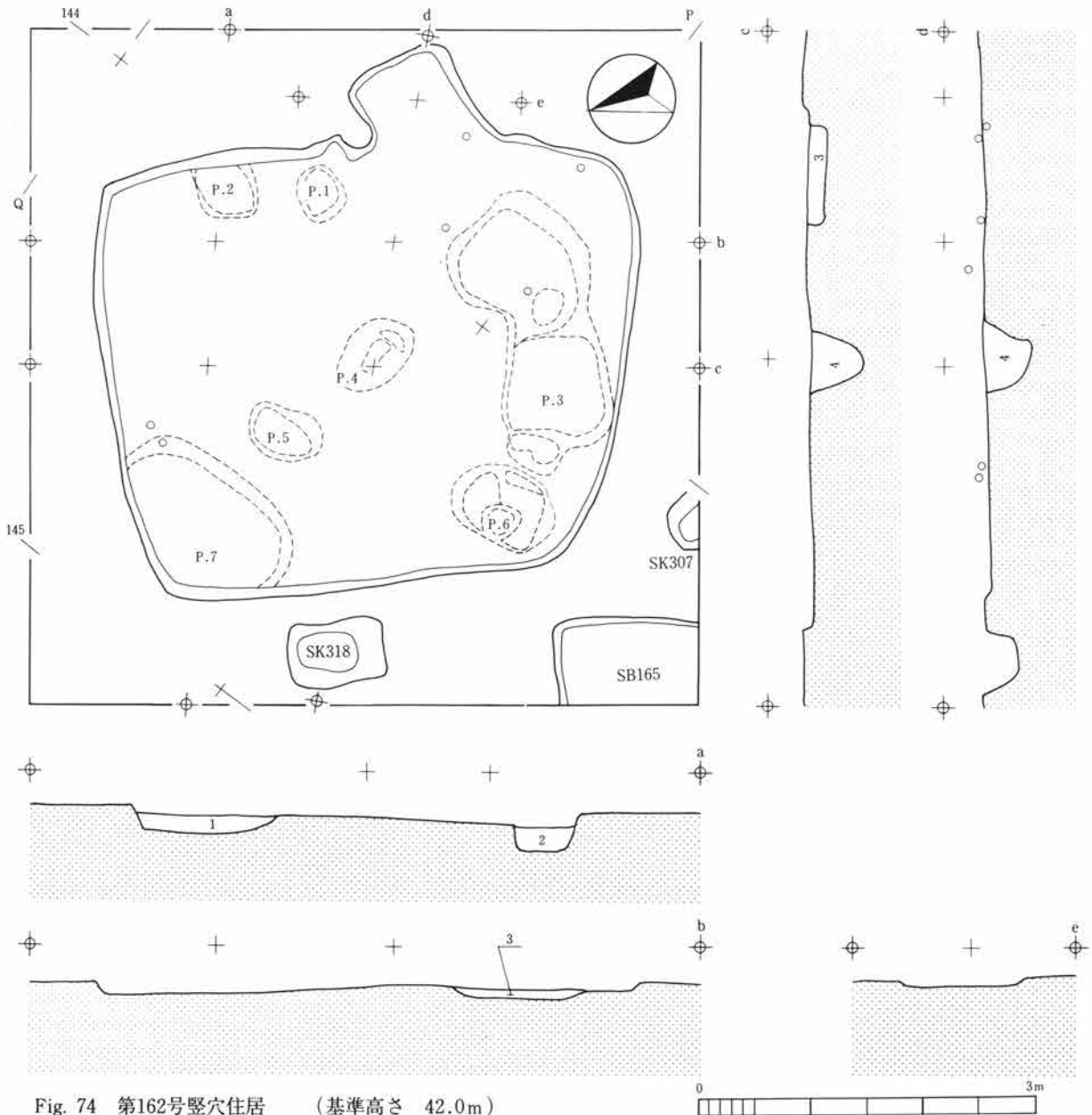


Fig. 74 第162号竪穴住居 (基準高さ 42.0m)

163号住居 SB163（遺構 PL. 22、遺物 PL. 55、Fig. 174）

発掘区Ⅳ区のO146に位置する。平面形は横長形、縦3.93m、横4.76mを測り、面積は約18.7㎡である。住居の方位はN-96°-Eを取り、竈は東壁右寄りに2箇所付設される。確認された壁高は17cm、周溝はなく、床面高は41.62mである。覆土は4層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯崩落土、3層は窯前の床下ピット埋土、4層は164号住居内覆土である。土質は1層褐色土層でわずかに炭化物を含む砂質土で、粘土粒も散見できる層、2層焼土、炭化物、灰の堆積層、3層未確認、4層灰褐色土層で砂質土でところどころ灰白色粘土粒を含む層である。2ヶ所にピットがあり、1号ピットは住居の右竈前の窯前床下ピットで平面形は径30cmの円形で深さは34.5cm、2号ピットは右竈右前の貯蔵穴で平面形は偏長方形を呈し長軸124cm×短軸117cm、深さ14.5cmを測る。東壁に2基の竈あり。どちらかの先後関係について調査では判然としなかった。床中央部と貯蔵穴内に多量の白色粘土が検出された。土師器杯、椀、須恵器椀、蓋、杯、瓶が出土している。

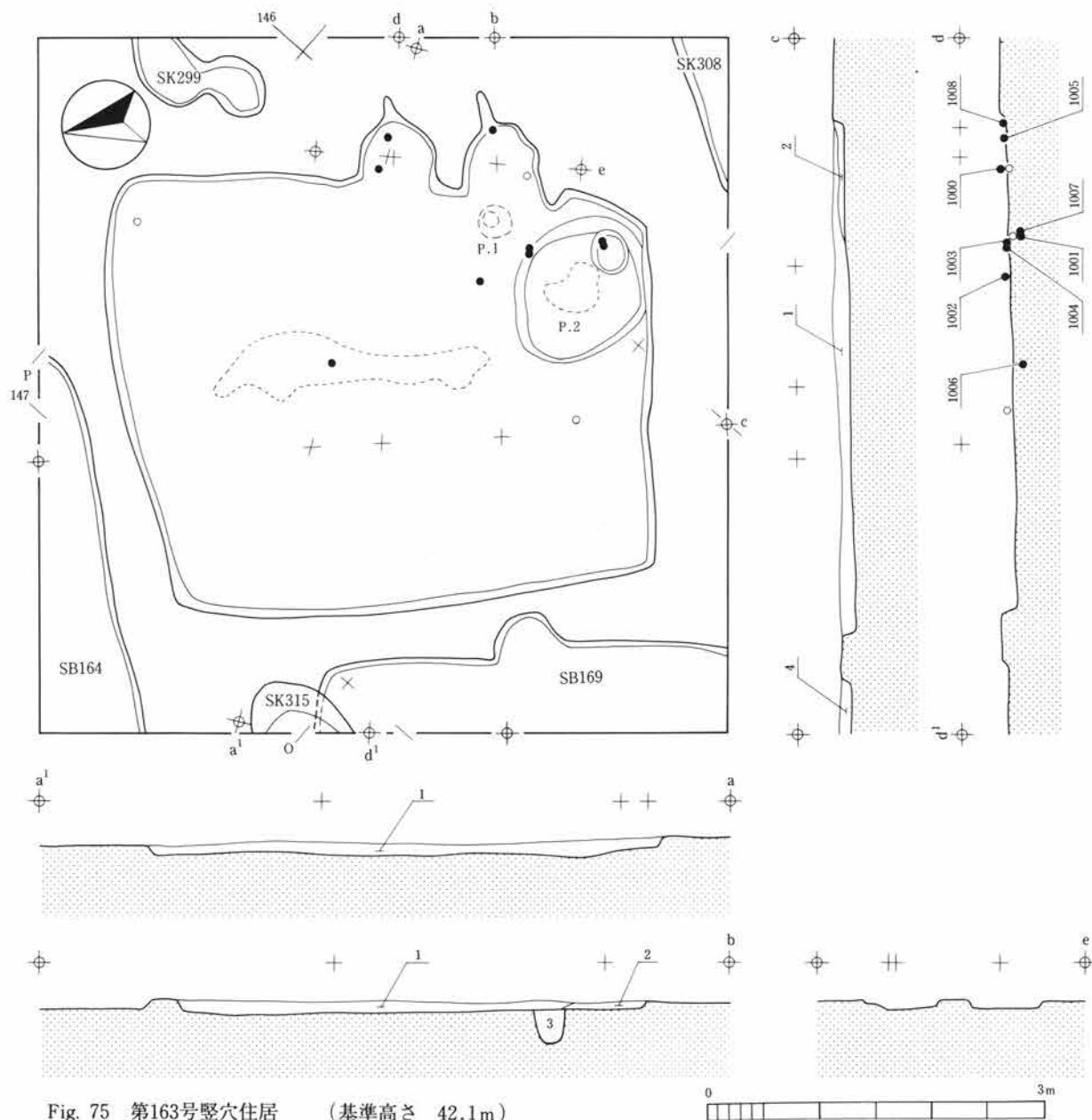


Fig. 75 第163号竪穴住居（基準高さ 42.1m）

164号住居 SB164 (遺構 PL. 23、遺物 Fig. 174)

発掘区IV区のP147に位置する。平面形は正方形、縦4.48m、横4.87mを測り、面積は約21.8<sup>2</sup>mである。住居の方位はN-92°-Eを取り、竈は東壁中央に付設される。確認された壁高は17cm、周溝はなく、床面高は41.68mである。覆土は5層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯崩落土、3層は窯体埋没土、4層は287号土壙埋土、5層は163号住居内覆土である。土質は1層灰褐色土層で砂質土でところどころ灰白色粘土粒を含む層、2層灰褐色土層で粘土粒、焼土の混土層、3層灰褐色土層でボロボロした状態の粘土粒と砂の混土層、4層褐色土層、5層褐色土層でわずかに炭化物を含む砂質土で粘土粒も散見できる層である。竈の両袖に細長い河原石を立て燃烧部分全体に白色粘土を貼りつけている。竈前面の幅230cm、前後150cmの広い範囲に白色粘土を主体に焼土、炭化物、灰の混土が認められた。出土遺物に土師器甕、須恵器蓋、杯、碗、甕それから土錘などがある。

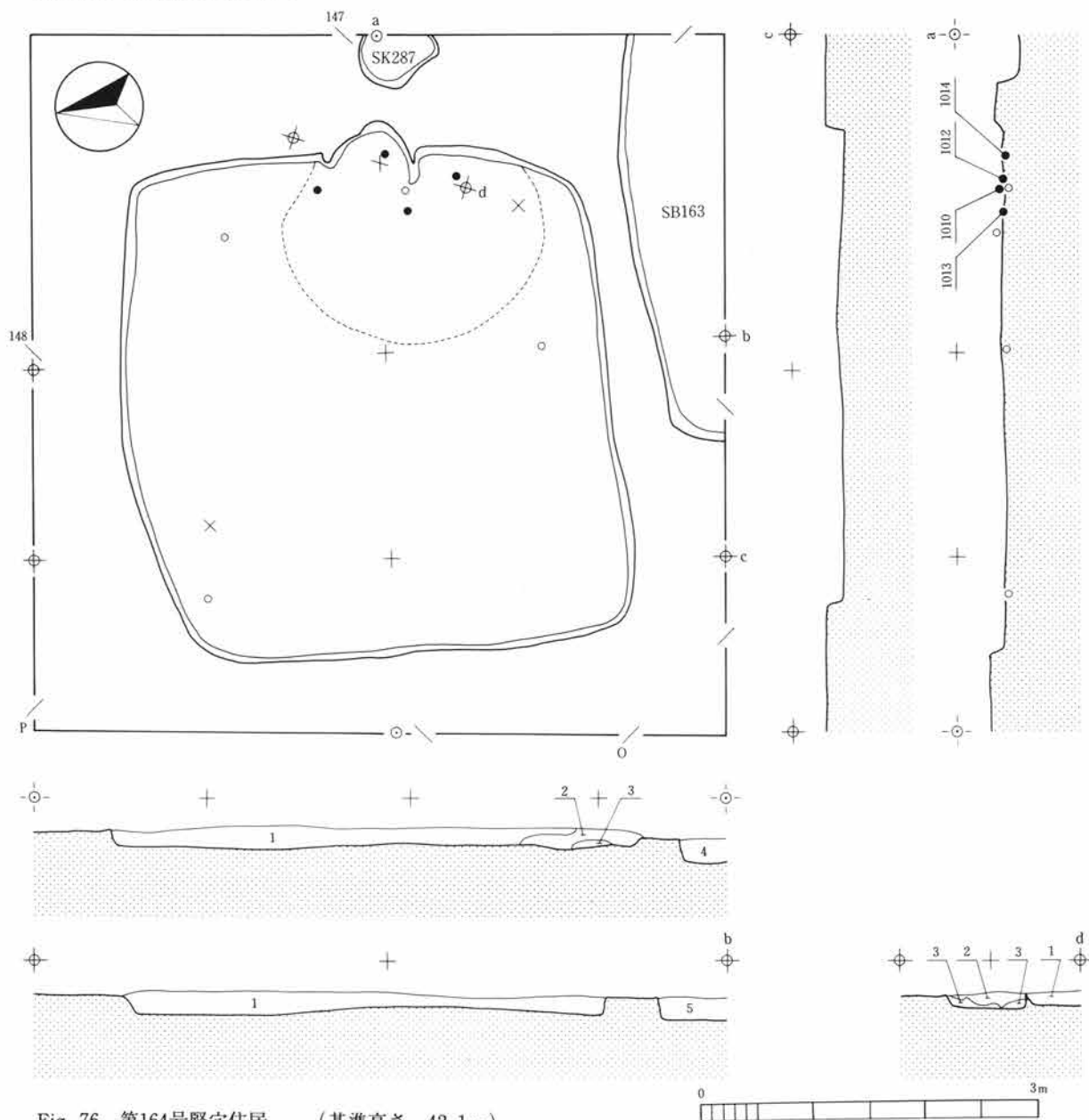


Fig. 76 第164号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

165号住居 SB165（遺構 PL. 25、遺物 PL. 55、Fig. 174）

発掘区Ⅳ区のN144に位置する。平面形は正方形、縦3.03m、横3.17mを測り、面積は約9.6m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-105°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は24cm、周溝はなく、床面高は41.35mである。覆土は6層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3層は窯崩落土、4層は窯底面の土層、5層は166号住居内覆土、6層は310号土塋埋土である。土質は1層褐色土層で砂質土で軟かく炭化物を含む層、2層褐色土層で砂質土で軟かく焼土、炭化物が1層より多く含まれる層、3層灰白色粘土層、4層灰と焼土の堆積層、5層灰褐色土層で炭化物粒を含む軟かい砂質土層、6層未確認である。本住居との重複関係は新しい遺構は310号土塋と166号住居があり、古い遺構として本住居がある。竈前面に焼土及び灰のひろがりがあり幅75cm、前面に60cmと広範囲に認められる。竈前幅は60cm、奥行は60cmを測る。床面の中央は叩き締め硬い。出土遺物は土師器椀、土師器甕、須恵器椀、須恵器蓋や紡錘車などである。

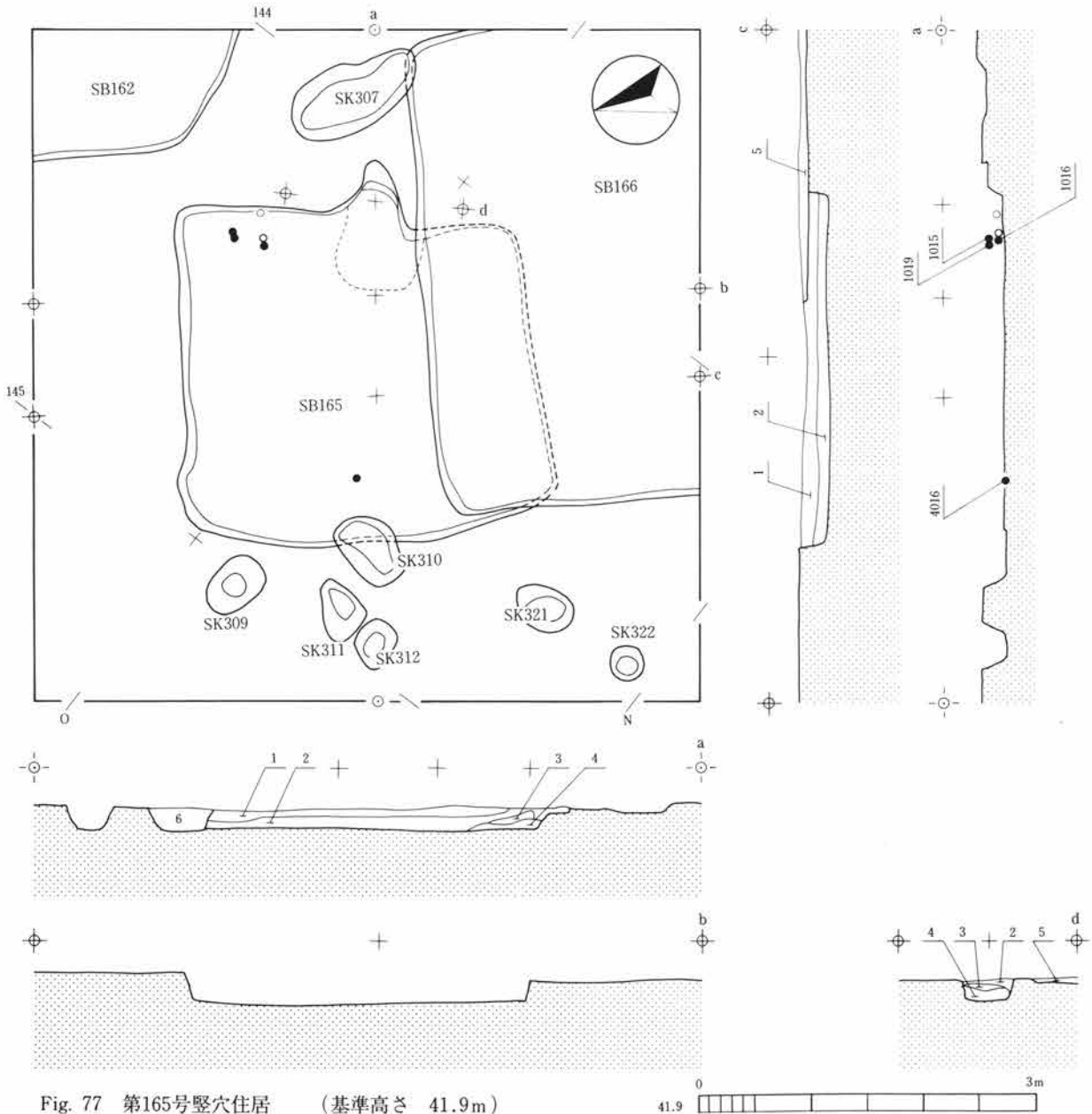


Fig. 77 第165号竪穴住居（基準高さ 41.9m）

166号住居 S B 166 (遺構 PL. 23、遺物 PL. 55、Fig. 175)

発掘区Ⅳ区のO144に位置する。平面形は縦長形、縦4.30m、横3.21mを測り、面積は約13.8㎡である。住居の方位はN-98°-Eを取り、竈は東壁中央に付設される。確認された壁高は15cm、周溝はなく、床面高は41.57mである。覆土は4層に分けられた。1層は住居内覆土、2～4層は窯崩落土である。土質は1層灰褐色土層で炭化物粒を含む軟かい砂質土層、2層灰白色土層で焼土粒を含む灰白色粒土層、3層炭化物と灰、焼土の堆積層、4層灰の堆積層である。住居の北壁に接して床上ピットがあり、平面形は楕円形を呈し長軸48cm×短軸40cm、深さ7cmを測る。本住居との重複関係にある遺構は新しい順に307号土坑、166号住居、165号住居となる。竈前面に幅100cm、前方に75cmの焼土、炭化物、灰がひろがる。竈の構造は燃烧部と煙道に分けられる。燃烧部の前幅は60cm、後幅も60cm、奥行50cmである。煙道部は幅25cm、長さ115cmを測る。窯底の燃烧部と煙道部との段差は認められずゆるやかに移行する。土師器、須恵器、灰釉陶器が出土する。

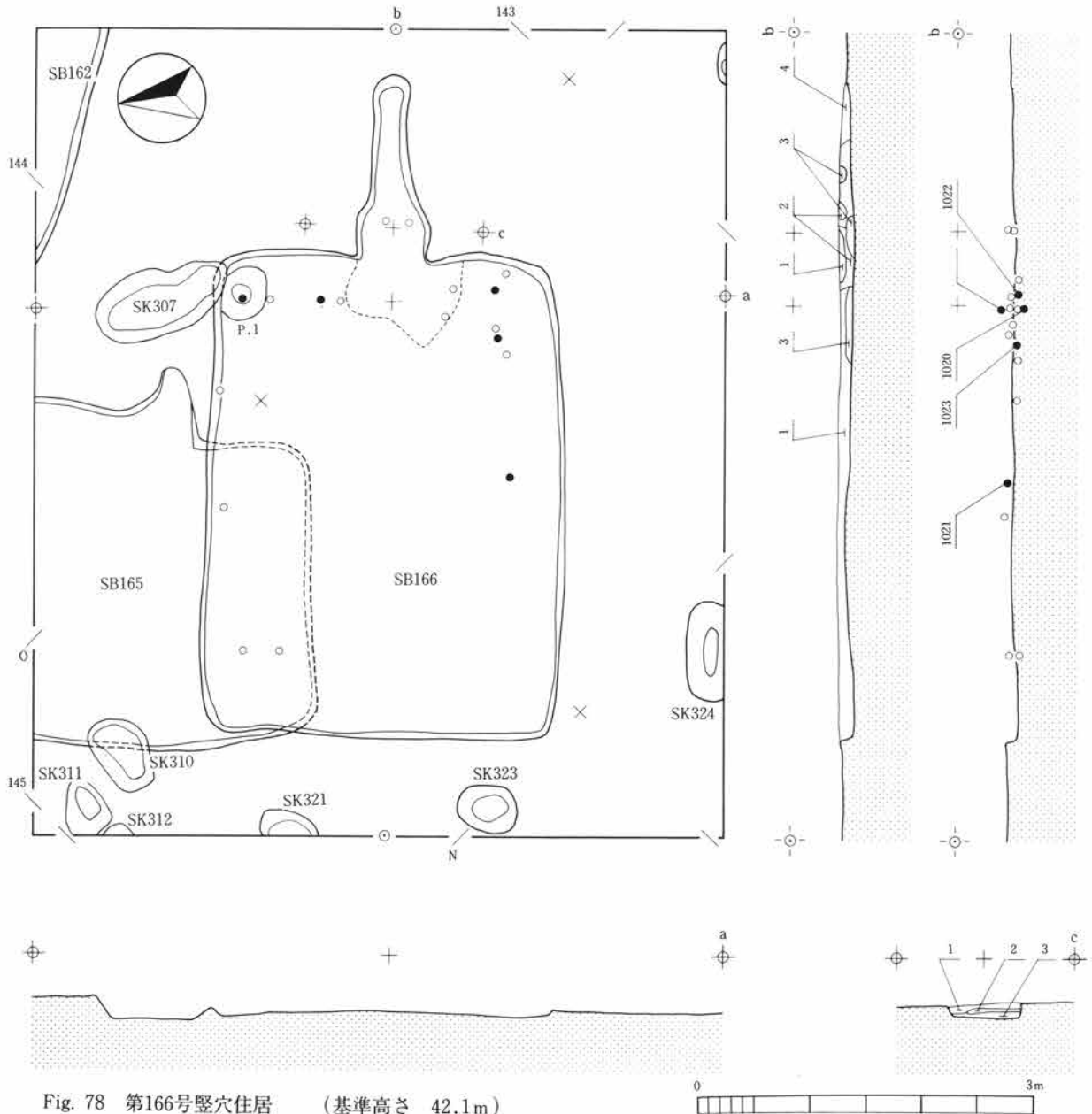


Fig. 78 第166号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)



167号住居 SB167（遺構 PL. 23、遺物 Fig. 175）

発掘区Ⅳ区のN145に位置する。平面形は横長形、縦3.48m、横4.00mを測り、面積は約13.9m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-86°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は10cm、周溝はなく、床面高は41.62mである。覆土は6層に分けられた。1層は住居内覆土、2～5層は窯崩落土、6層は住居床面下のピット埋土である。土質は1層灰褐色土層でわずかに焼土、炭化物を含む砂質土層、2層褐色土層でサクサクした軟かい砂質土層、3層褐色土層で焼土、炭化物、灰の見られる砂質土層、4層焼土ブロック層、5層褐色土層で灰と焼土の堆積層、6層未確認である。4ヶ所にピットがあり、1号ピットは竈前右の床上ピットで長方形を呈し37cm×26cm、深さ18.5cm、2号ピットは中央寄りの床下ピットで長方形を呈し50cm×38cm、深さ22cm、3号ピットは南壁と西壁寄りの床下ピットで偏楕円形を呈し101cm×44cm、深さ19.5cm、4号ピットは西壁に接する床下ピットで偏楕円形を呈し135cm×35cm、深さ15.5cmを測る。

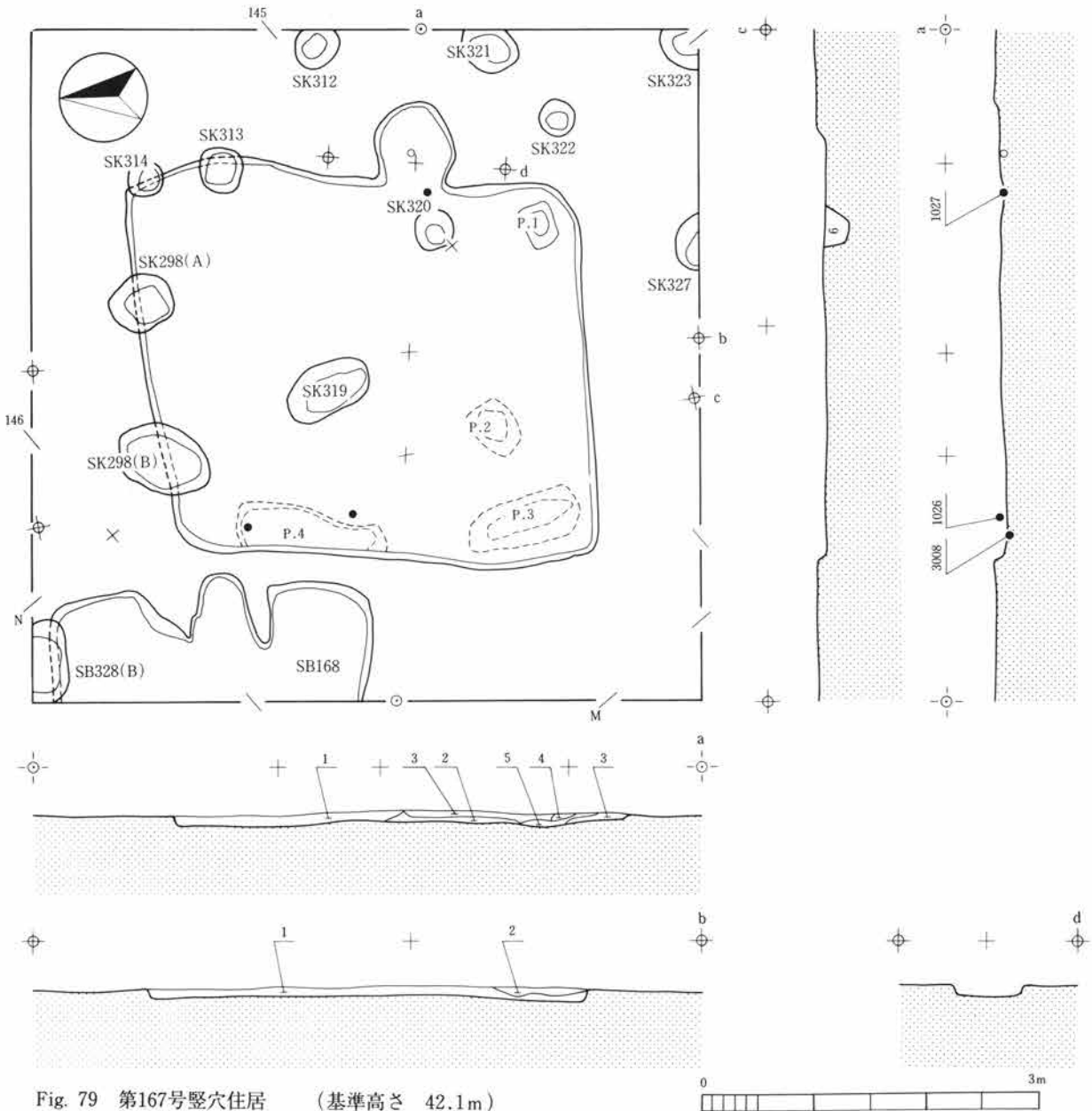


Fig. 79 第167号竪穴住居（基準高さ 42.1m）

168号住居 SB168 (遺構 PL. 23、遺物 Fig. 175)

発掘区IV区のM146に位置する。平面形は縦長形、縦4.44m、横2.62mを測り、面積は約11.6m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-94°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は17cm、周溝はなく、床面高は41.58mである。覆土は3層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯崩落土、3層は167号住居内覆土である。土質は1層灰褐色土層で炭化物を含む軟かな砂質土層、2層褐色土層で灰、焼土、粘土の堆積層、3層灰褐色土層でわずかに焼土、炭化物を含む砂質土層である。住居の竈前右に床上ピットがあり、平面形は一辺46cmの正方形で深さは6cmを測る。本住居よりも新しい遺構は328(A)土壇と328(B)土壇である。竈の前方や右寄りに焼土の拡がりが見とめられる。幅100cm、前方に50cmの範囲である。竈は燃焼部のみで煙道は検出されなかった。両袖をもつ焚口の幅は65cm、奥行は60cmを測る。なお、右袖前方に方形の土壇が検出されたが貯蔵穴ではない。出土の土器は土師器甕、須恵器杯、碗である。

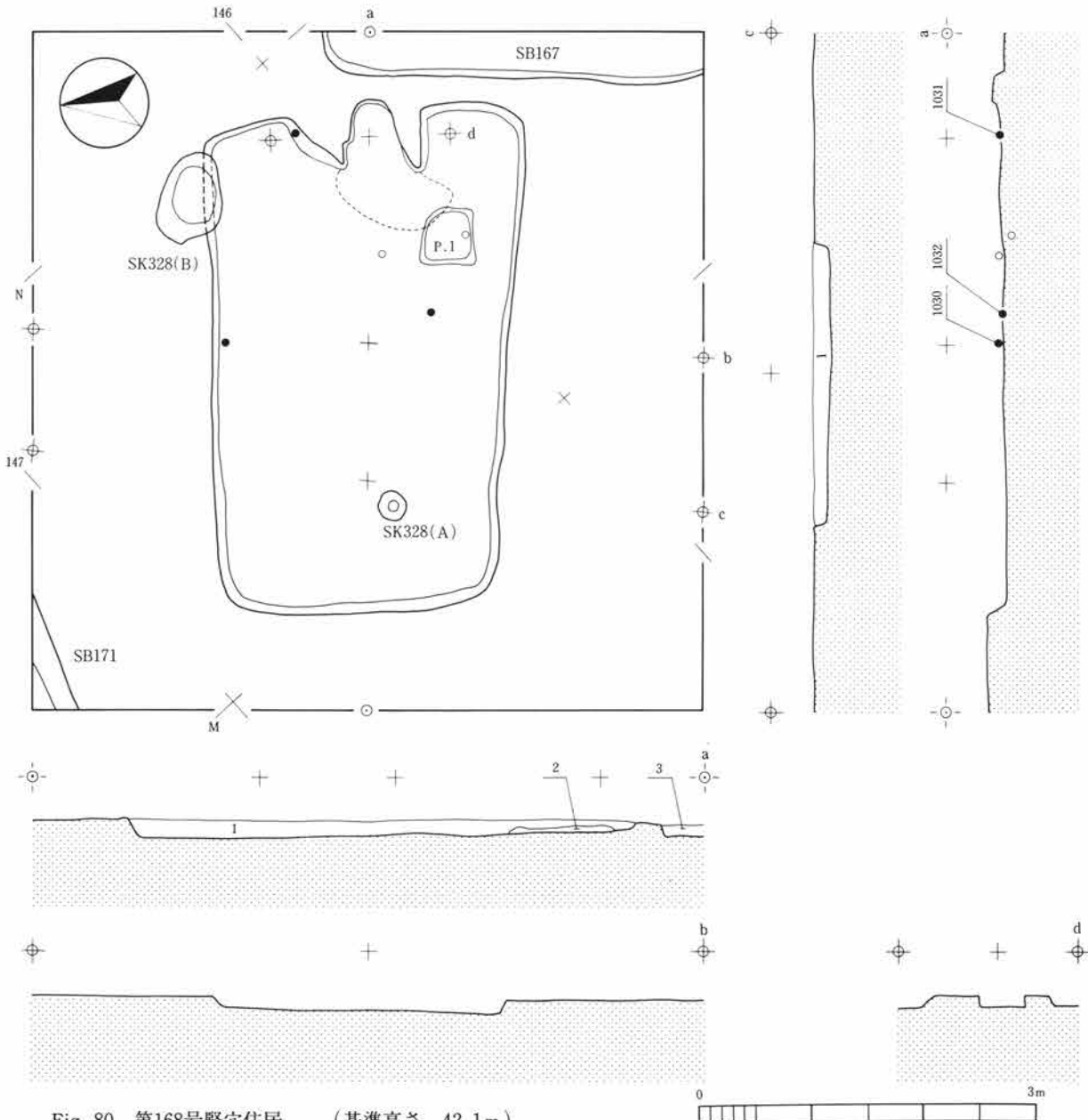


Fig. 80 第168号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

169号住居 SB169（遺物 Fig. 175）

発掘区Ⅳ区のN147に位置する。平面形は正方形、縦4.12m、横4.08mを測り、面積は約16.8㎡である。住居の方位はN-98°-Eを取り、竈は東壁中央に付設される。確認された壁高は5cm、周溝はなく、床面高は41.69mである。住居の北壁と東壁に接して床上ピットがあり、平面形は楕円形で長軸49cm×短軸41cm、深さは30cmを測る。本住居周辺は重複がはげしいにもかかわらず、遺構の覆土や調査技術の限界からその新旧関係を明瞭にできなかったことが悔やまれる。けれども315号土壙と316号土壙は本住居よりも新しい。竈の付設される南東壁の左隅に貯蔵穴状の土壙が穿たれている。竈の構造は燃烧部のみが検出されただけである。竈の焚口幅は60cm、奥行は35cmを測る。竈前面に幅100cm弱、前方に30cm弱の焼土、炭化物、灰層のひろがり認められた。床面中央部から焚口部分、南西壁の東寄りにかけて床面が叩き締められて硬い。壁周囲の床面は軟質で凹凸がある。重複のある北西壁周囲は調査が不充分であった。

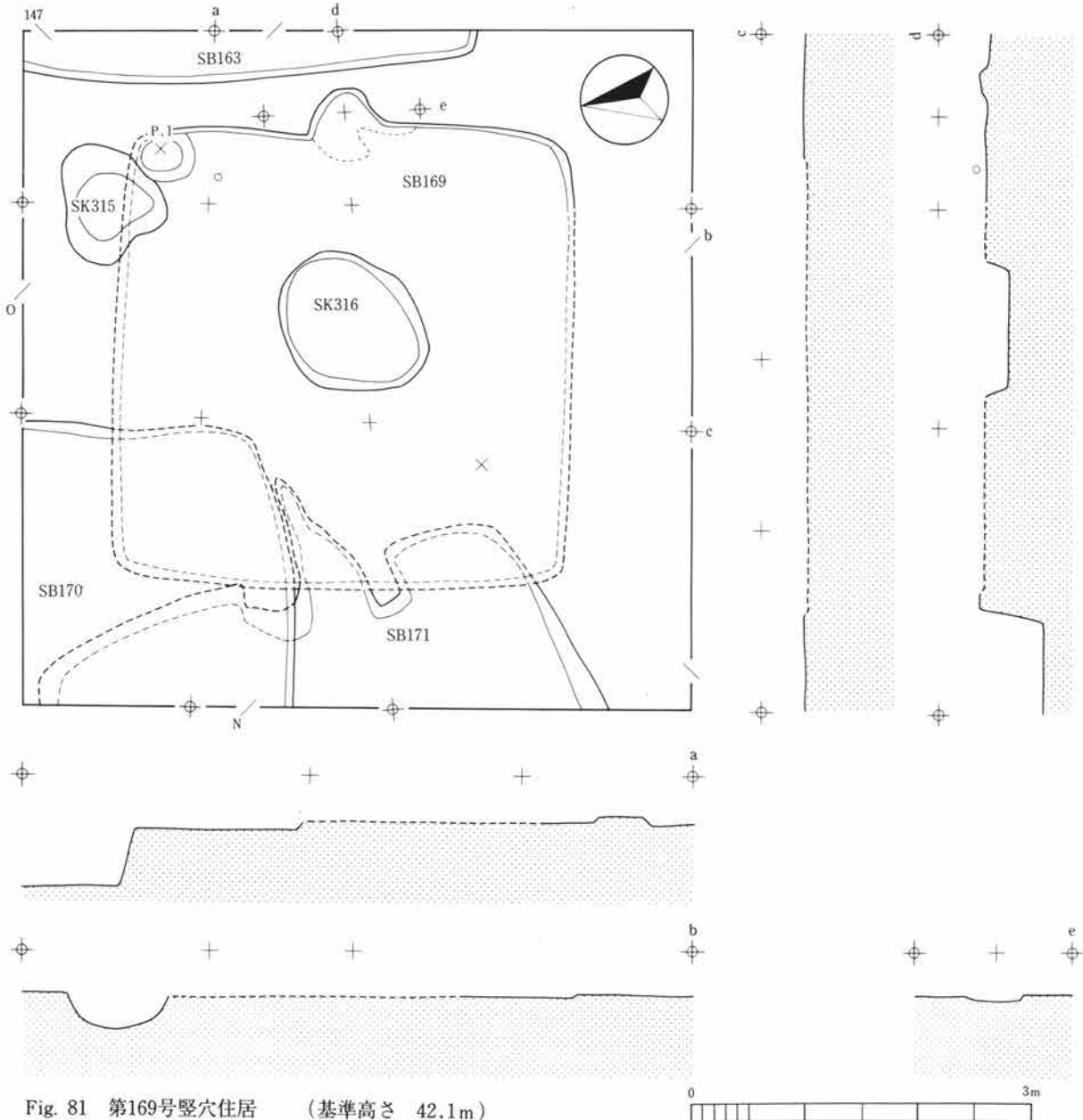


Fig. 81 第169号竪穴住居（基準高さ 42.1m）

170号住居 SB170 (遺構 PL. 24、遺物 PL. 55、Fig. 175)

発掘区IV区のN148に位置する。平面形は正方形、縦4.50m、横4.56mを測り、面積は約20.5m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-10°-Eを取り、竈は北壁右寄りに付設される。確認された壁高は15cm、周溝はなく、床面高は41.66mである。覆土は7層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3、4層は窯崩落土、5層は窯構築材、6層は169号住居内覆土、7層は171号住居窯崩落土である。土質は1層灰褐色土層で比較的軟かな砂質土層、2層褐色土層で炭化物を含む砂質土層、3層焼土及び灰、炭化物の堆積層、4層褐色土層で焼土を含む砂質土層、5層灰の堆積層、6層未確認である。本住居と169号住居との切り合いによる新旧関係は不明である。171号住居は本住居よりも古い。平面形は正方形に区分されるが、竈右隅の部分は肩が痩せて落ちて不整形である。竈の遺存は良好である。両袖は突出しており、左袖は壁面より70cmを測る。焚口幅は40cm、奥行55cmを測る。煙道部は幅20cm、長さ60cmを測る。窯底の変化は特段みられない。土器は土師器碗、甕、須恵器杯がある。

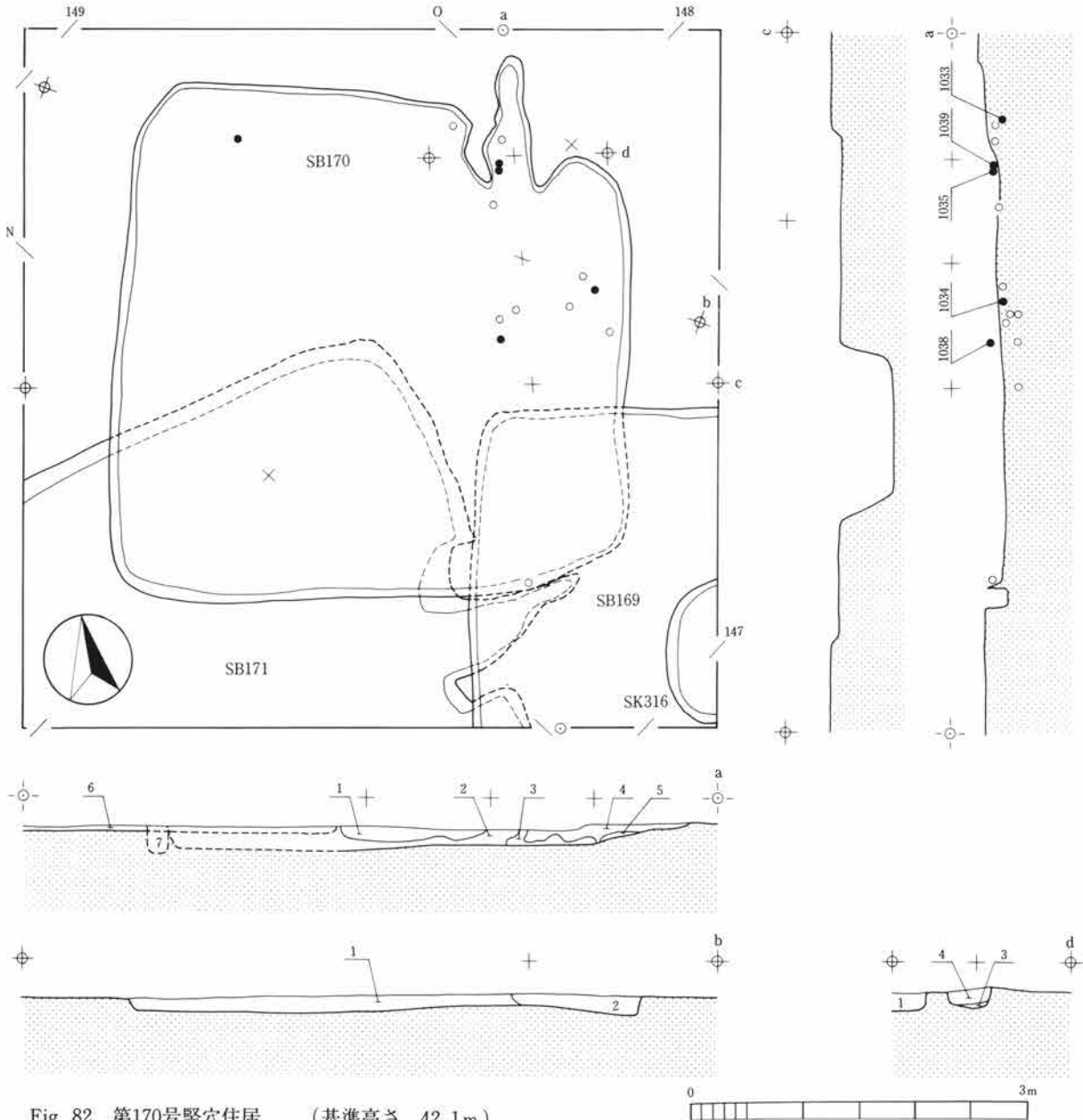


Fig. 82 第170号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

171号住居 SB171（遺構 PL. 24、遺物 PL. 56、Fig. 176）

発掘区Ⅳ区のN148に位置する。平面形は正方形、縦4.55m、横4.75mを測り、面積は約21.6m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-75°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は60cm、周溝はなく、床面高は41.16mである。覆土は11層に分けられた。2～5層は住居内覆土、1、6、8層は窯崩落土、7層は窯底面の土層、9層は住居に関連するピット埋土、10層は169号住居内覆土、11層は170号住居内覆土である。土質は1～3、5、11層灰褐色土層、4層褐色土層、6層灰色土で焼土粒、炭化物を含む粘土質土層、7層粘土粒と炭化物、灰、焼土粒の混合土層、8層焼土粒、炭化物粒を多く含むやや粘性な砂質土層、9、10層未確認である。3ヶ所にピットがあり、1号ピットは貯蔵穴で深さ25cm、2号ピットは深さ20.5cm、3号ピットは深さ24cmを測る。遺構の切り合いがはげしい。170号住居は本住居よりも新しい。164号住居と171号住居との新旧関係は明らかにすることができなかった。竈前方、床中央寄りに焼土塊が認められる。

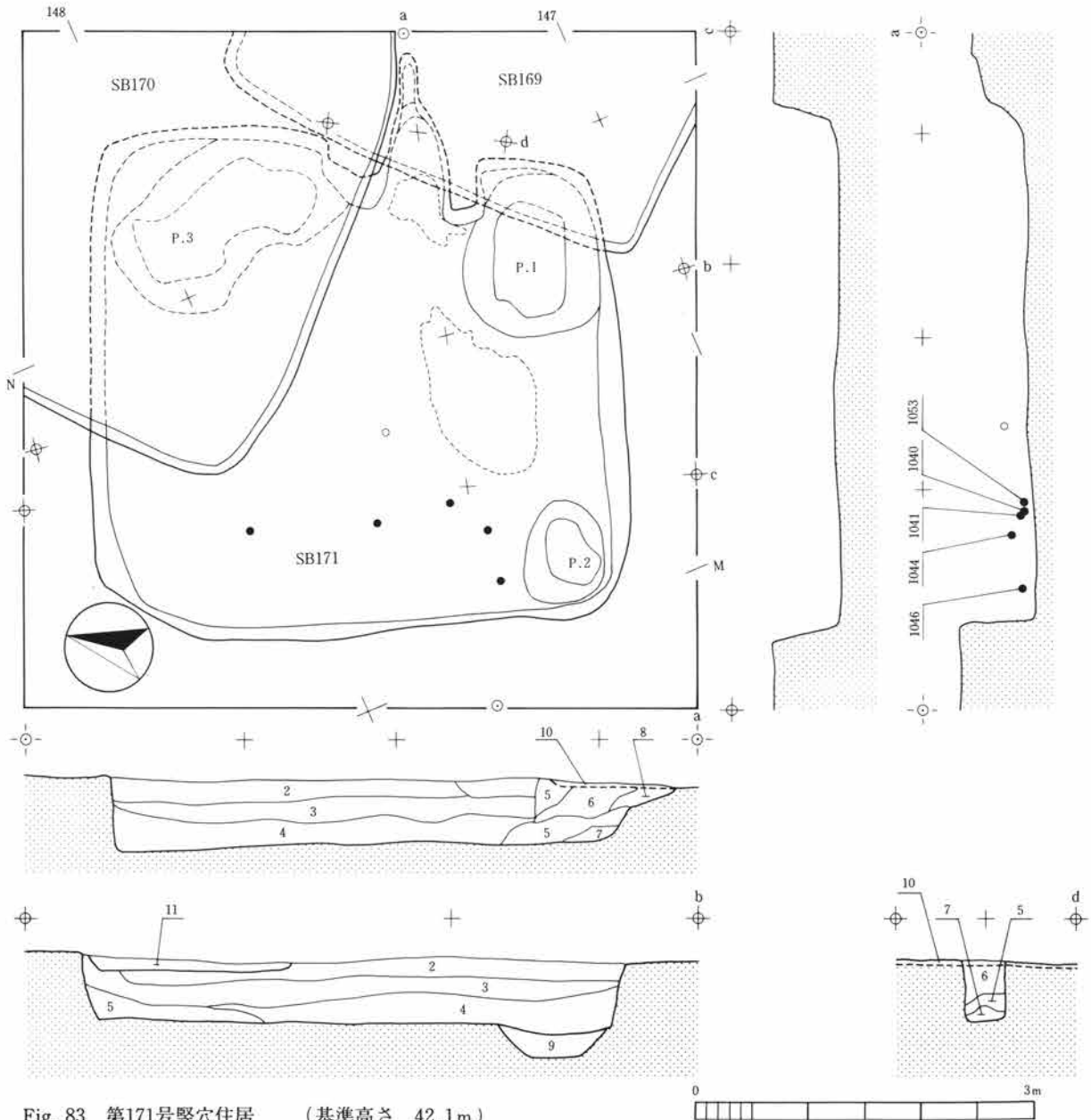


Fig. 83 第171号竪穴住居（基準高さ 42.1m）

第II章 遺 構

172号住居 SB172 (遺構 PL. 24、遺物 PL. 56、Fig. 176、土層 116p)

発掘区Ⅳ区のK144に位置する。平面形は横長形、縦2.58m、横3.05mを測り、面積は約7.9m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-94°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は42cm、周溝はなく、床面高は41.36mである。

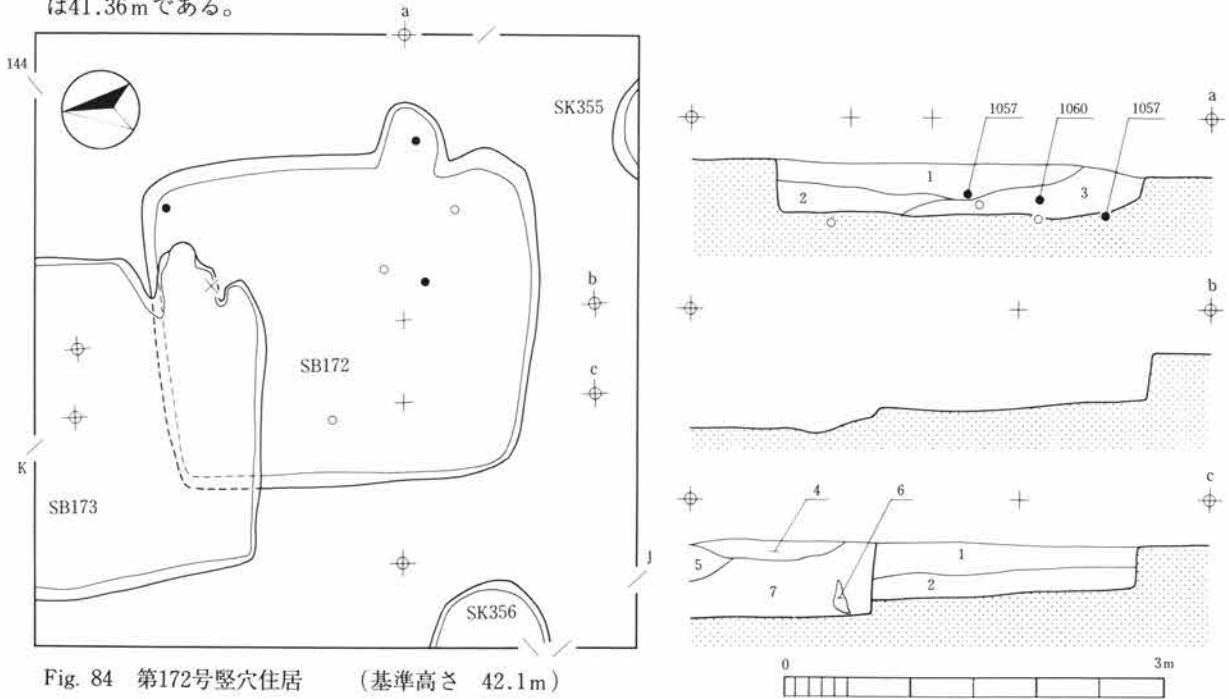


Fig. 84 第172号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

173号住居 SB173 (遺構 PL. 24、遺物 PL. 56、Fig. 176、土層 116p)

発掘区Ⅳ区のK144に位置する。平面形は縦長形、縦2.67m、横2.26mを測り、面積は約6.0m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-92°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は52cm、周溝はなく、床面高は41.26mである。

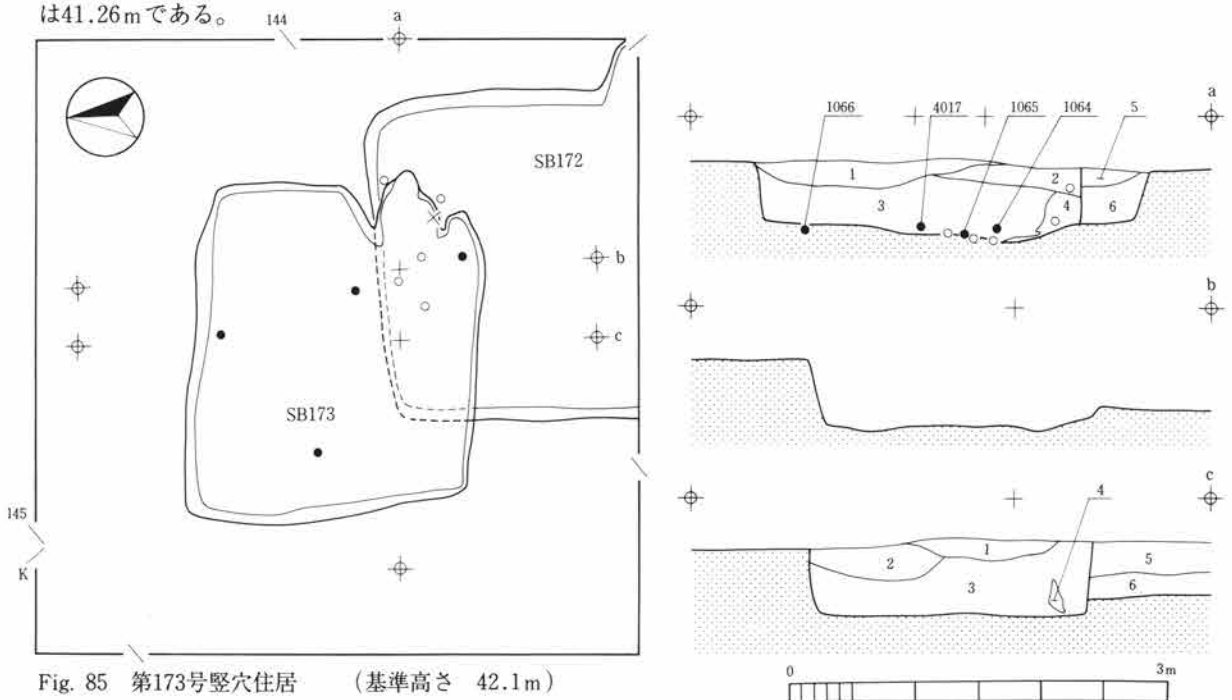


Fig. 85 第173号竪穴住居 (基準高さ 42.1m)

## 174号住居 SB174（遺構 PL. 24、遺物 PL. 56、Fig. 177）

発掘区Ⅳ区のV153に位置する。平面形は正方形、縦3.07m、横3.32mを測り、面積は約10.2㎡である。住居の方位はN-109°-Eを取り、竈は東壁中央に付設される。確認された壁高は10cm、周溝はなく、床面高は41.61mである。覆土は3層に分けられた。1層は住居内覆土、2、3層は175号住居窯崩落土である。土質は1層褐色土層で炭化物を含む砂質土層、2層褐色土層で軟かい灰色の粘土を含む砂質土層、3層灰、焼土の堆積層である。本住居の東壁は未調査区域のため一部分復元して図化した。平面形は正方形又は長方形を呈するが西壁の南寄りには貯蔵穴の位置が突出している。この部分がとりたてて深くもない。竈前方の焼土や灰のひろがりは少ないが、やや離れた位置で硬くしまった床直上に長辺135cm、短辺115cmの灰層が認められた。竈は住居規模に比較すると小ぶりな印象を与える。焚口幅40cm、奥行55cmを測り急にすぼまる。遺物は竈前面に集中する。土師器は少破片で復元できず、須恵器椀、高台杯などが出土している。

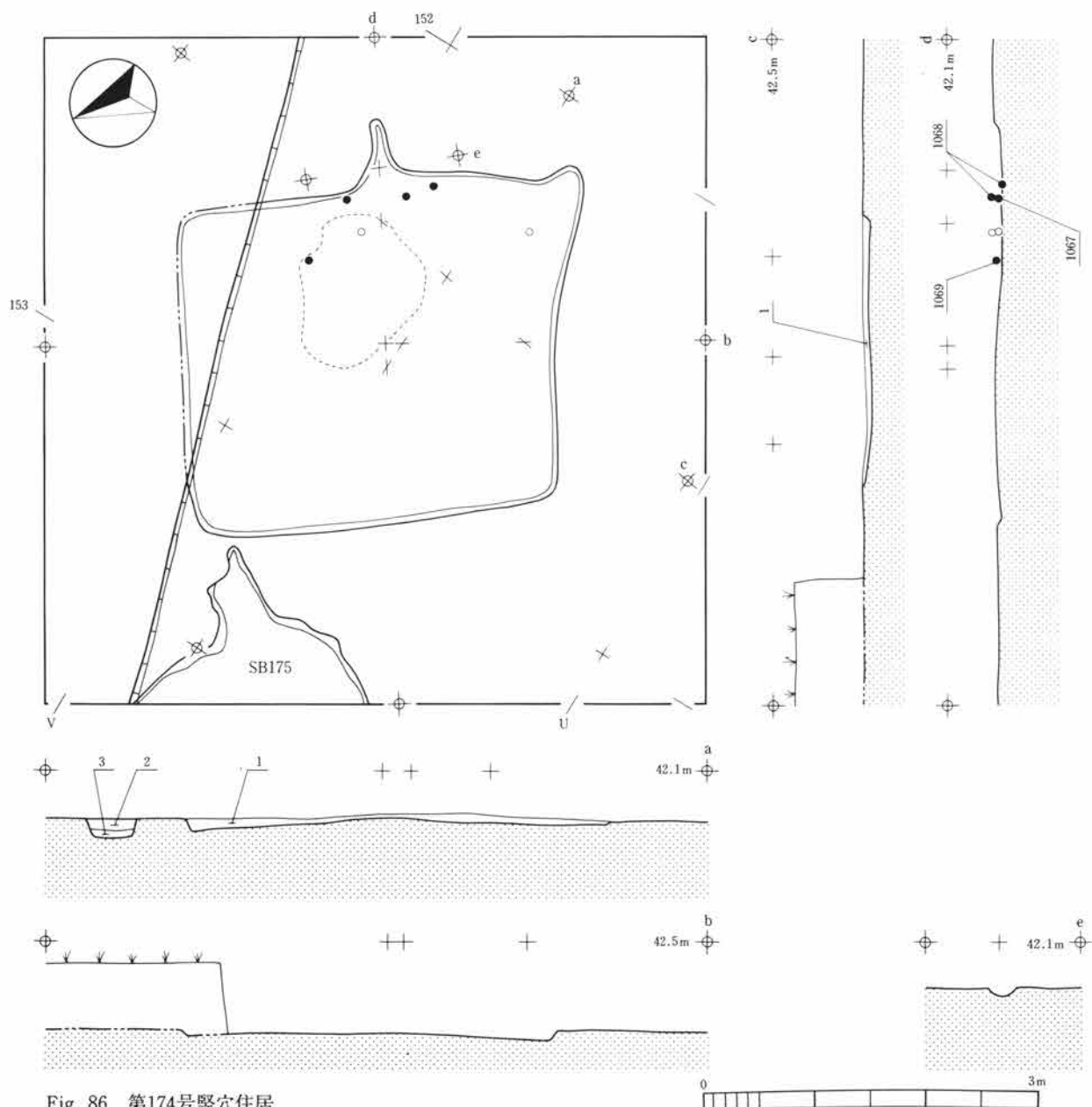


Fig. 86 第174号竪穴住居

175号住居 SB175 (遺構 PL. 25、遺物 Fig. 177)

発掘区IV区のU154に位置する。平面形は縦長形、縦4.59m、横3.30mを測り、面積は約15.1m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-90°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は8cm、周溝はなく、床面高は41.55mである。覆土は2層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は窯崩落土である。土質は1層褐色土層で砂質土で軟かく灰色の粘土を含む層、2層灰、焼土の堆積層である。本住居の竈の付設される東壁は南寄りの竈の位置に向かって大きく張り出している。竈の構造は燃烧部と一部分の煙道から成り立っている。燃烧部の中央に支脚を配する。焚口幅は40cm、奥行60cmを測る。煙道部の残存長は30cm、幅は10cm位である。竈前面の焼土の範囲は左右幅110cm、前面に70cmを測る。住居の東隅は調査区域外のために未調査である。床面の中央部分は炭化物と焼土が少量混土して叩き締められたように硬い。南壁の竈寄りの焼土範囲の延長上にも少量の灰や炭化物のひろがりが見られたが、特別に硬い床であるとの印象はうけなかった。

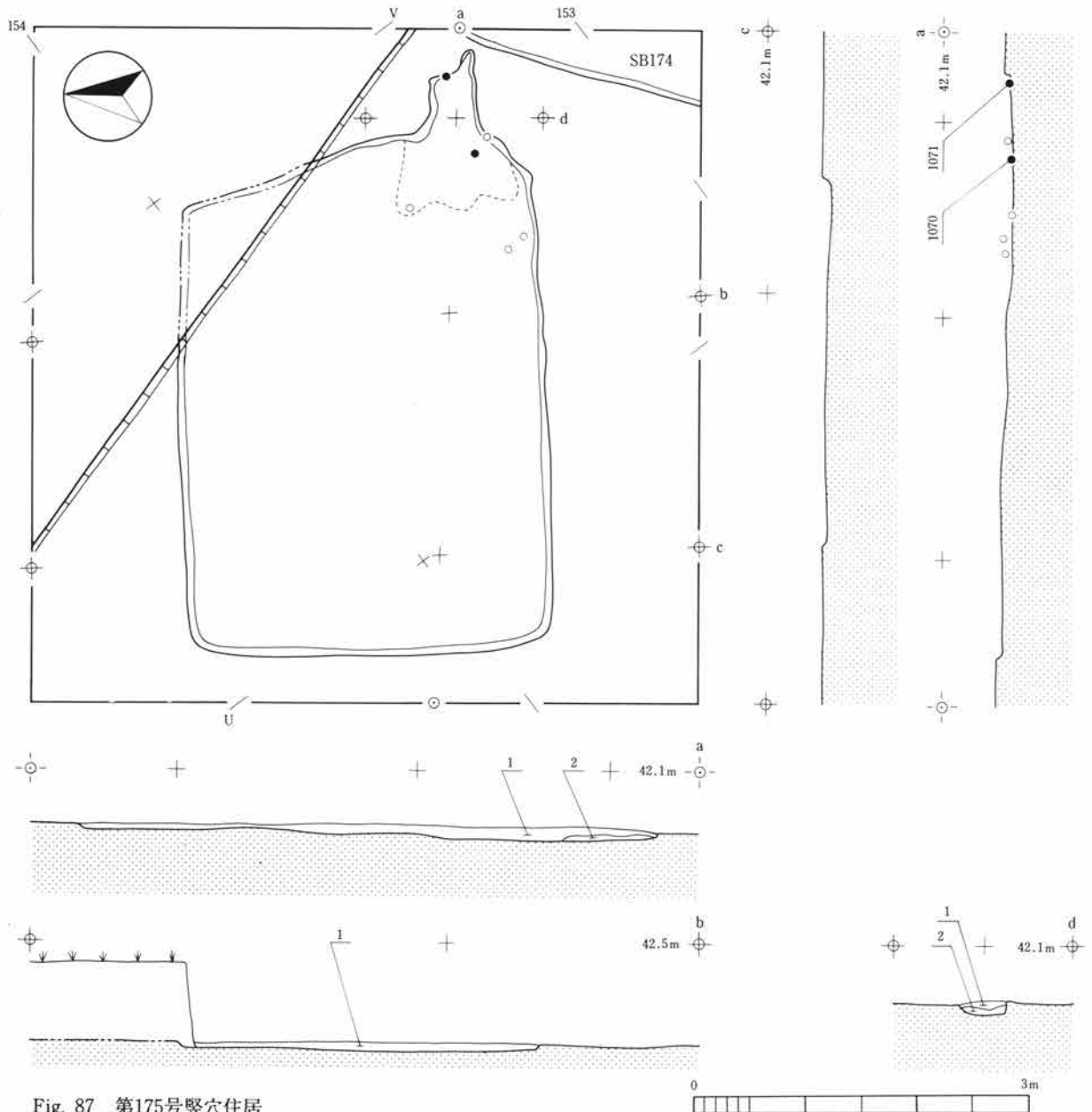


Fig. 87 第175号竈穴住居



176号住居 SB176 (遺構 PL. 25、遺物 PL. 56、Fig. 177)

発掘区Ⅳ区のR178に位置する。平面形は正方形、縦4.95m、横4.65mを測り、面積は約23.0㎡である。住居の方位はN-36°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は43cm、周溝はなく、床面高は42.1mである。覆土は5層に分けられた。1～3層は住居内覆土、4、5層は177号住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層で炭化物、焼土を混入する層、2層灰白色土層で砂質性を帯び、若干の炭化物を含む層、3層暗褐色土層で炭化物、焼土、多量の粘土粒を混入する層、4層暗褐色土層で炭化物、粘土粒、焼土を混入し、やや粘性をもつ層、5層灰色粘土層で粘土、焼土、炭化物粒を混入する層である。住居の北寄りには床上ピットがあり、平面形は偏楕円形を呈し長軸94cm×短軸74cm、深さは41cmを測る。本住居の北東半分の面積は調査区域外のために未調査であり平面形も復元である。南西壁は177号住居と重複しており本住居よりも古い。出土の遺物は多く、土師器杯、鉢、甕、須恵器碗、羽釜、杯、灰釉陶器碗や土錘などである。

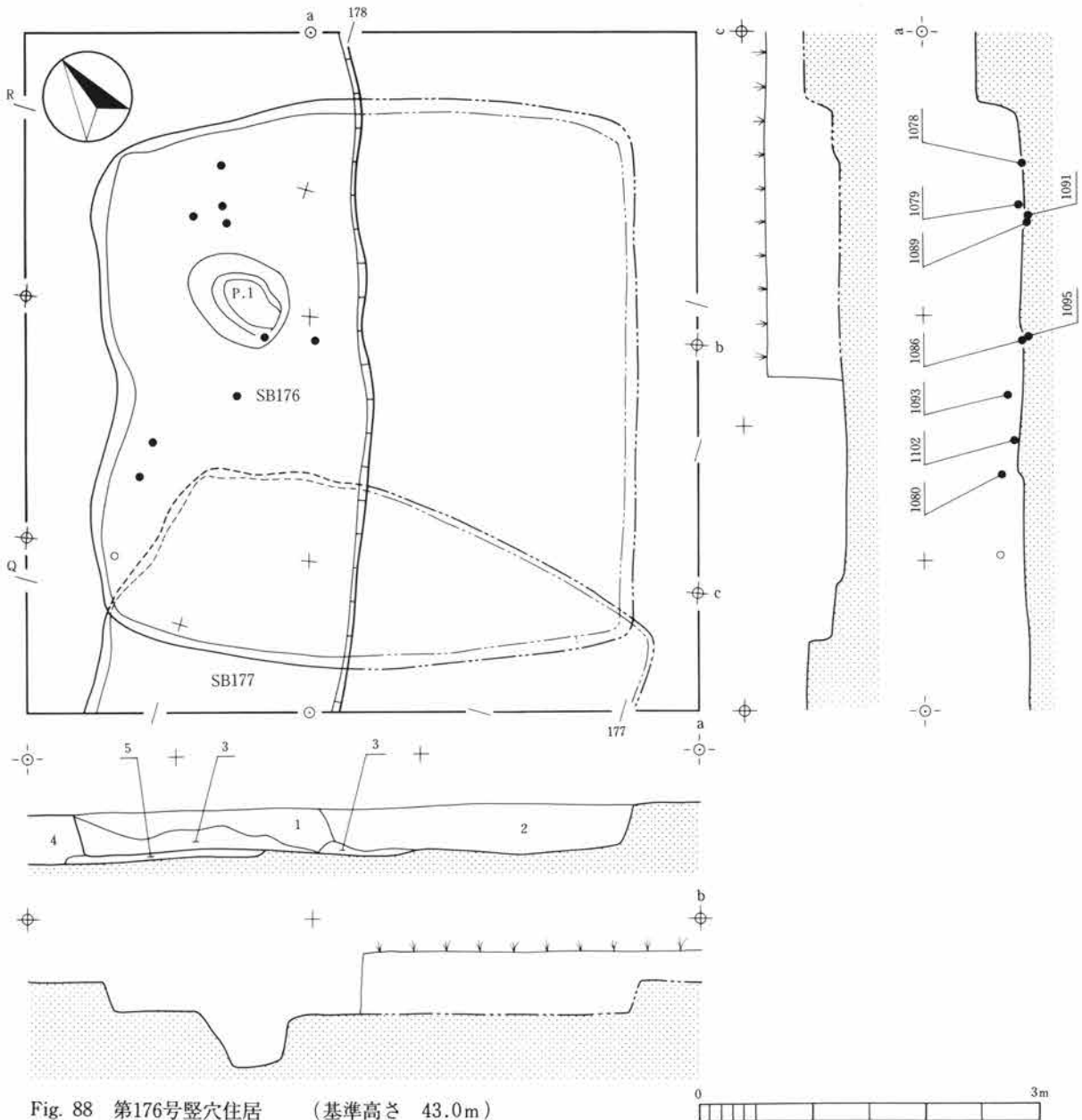


Fig. 88 第176号竪穴住居 (基準高さ 43.0m)

177号住居 SB177 (遺構 PL. 25、遺物 Fig. 178)

発掘区VI区のQ178に位置する。平面形は横長形、縦3.43m、横4.47mを測り、面積は約15.3m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-62°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は42cm、周溝はなく、床面高は42.13mである。覆土は6層に分けられた。1～3層は住居内覆土、4～6層は176号住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層で炭化物、粘土粒、焼土を混入し、やや粘質をもつ層、2層暗褐色土層で炭化物、多量の粘土粒、焼土を混入し砂質性をもつ層、3層灰色粘土層で焼土、炭化物粒を混入している層、4層暗褐色土層で炭化物、焼土を混入する層、5層灰白色土層で砂質性を帯び若干の炭化物を含む層、6層暗褐色土層で炭化物、焼土、多量の粘土を混入する層である。調査区域外、すなわち未調査部分はどういったイメージで描いておけるのかといったことが今回の図上復元の多用となっている。調査区域内では176号住居が新しいといったデータのみである。出土遺物には須恵器碗、杯、灰釉陶器瓶や土錘などである。

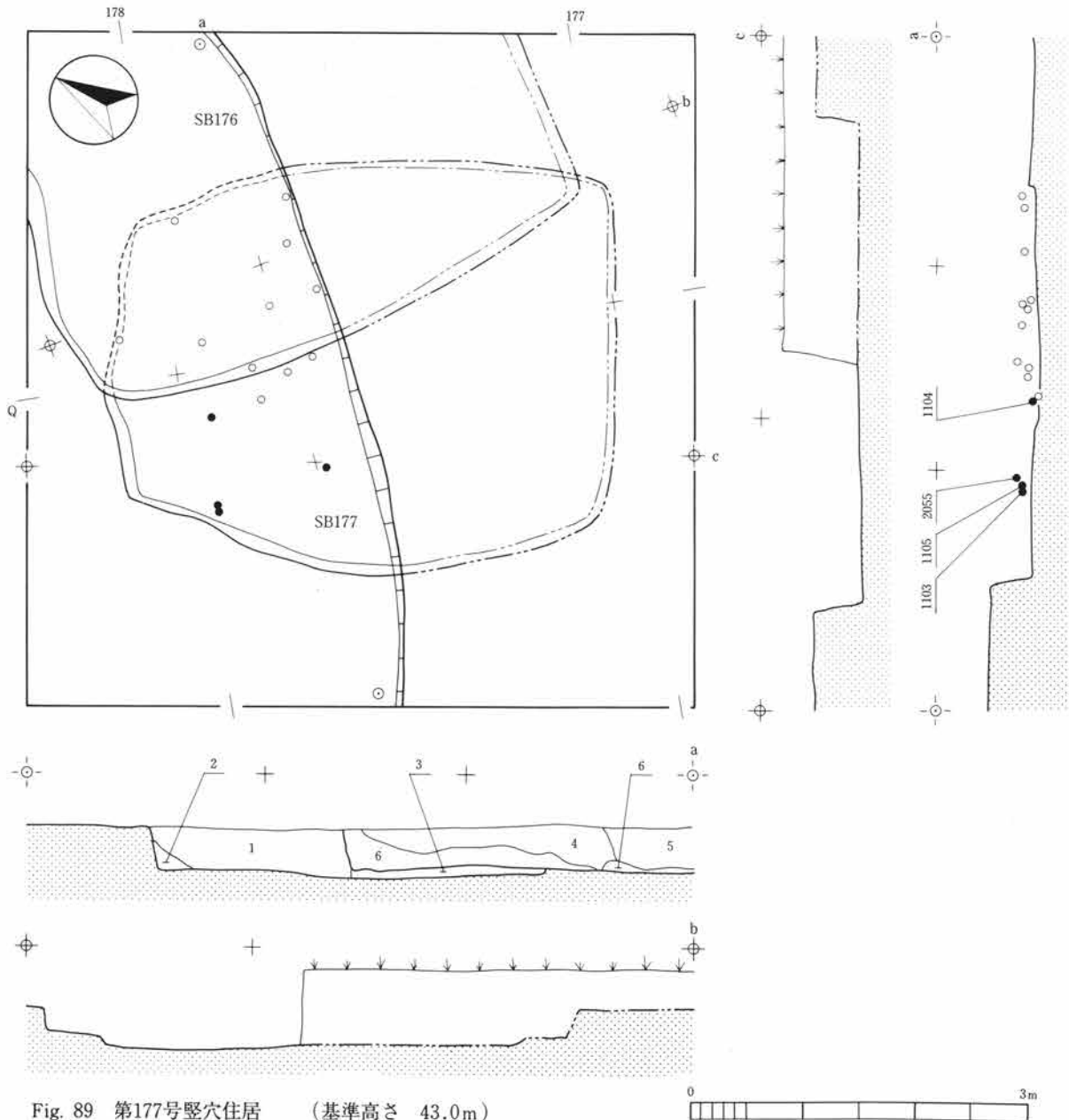


Fig. 89 第177号堅穴住居 (基準高さ 43.0m)

178号住居 SB178（遺構 PL. 25、遺物 PL. 57、Fig. 178）

発掘区Ⅵ区のP181に位置する。平面形は縦長形、縦4.27m、横3.57mを測り、面積は約15.2m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-107°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は53cm、周溝はなく、床面高は42.26mである。覆土は8層に分けられた。1～4層は住居内覆土、5～8層は179号住居内覆土である。土質は1、5層暗褐色土層、2層灰白色土層で若干の炭化物が見られる砂質ブロック層、3層灰褐色土層で砂質を帯びる層、4層暗灰色土層で炭化物粒、砂質ブロック、粘土ブロックを混入し軟質でサラサラしている層、6層黒色土層で多量純粋炭化物流れ込み層、7層暗褐色土層で砂質を帯び、炭化物粒、鉄分凝集が混入する層、8層暗灰色土層で砂質土層である。本住居との重複の新旧関係は新しい順に178号住居、179号住居、180号住居となる。竈は左袖が残り燃焼部が主体で焚口幅85cm、全長110cmを測る。窯壁には白色粘土が貼付けてある。出土遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、土錘などである。

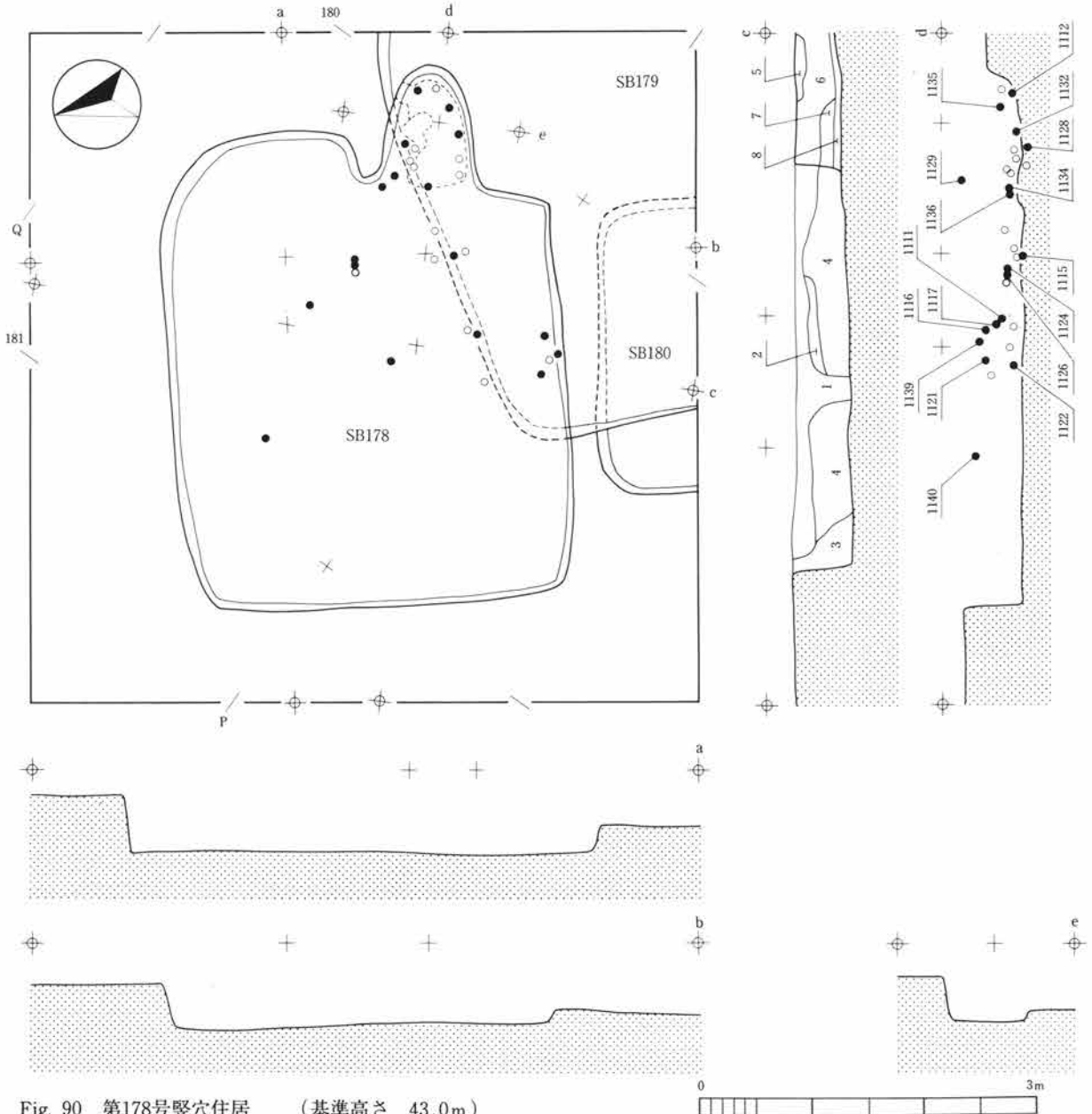


Fig. 90 第178号竪穴住居（基準高さ 43.0m）

179号住居 S B 179 (遺構 PL. 25、遺物 PL. 57、Fig. 179)

発掘区Ⅵ区のP 180に位置する。平面形は縦長形、縦4.25m、横3.63mを測り、面積は約15.4㎡である。住居の方位はN-87°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は39cm、周溝はなく、床面高は42.35mである。覆土は5層に分けられ住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層、2層暗灰色土層で炭化粒、鉄分、多量の砂を含む層、3層黒褐色土層で多量の炭化物と焼土が混入する層、4層暗褐色土層で砂質を帯び、炭化物、鉄分凝集を混入する層、5層灰褐色土層で砂質を帯びている層である。本住居の北東壁には178号住居が重複しており本住居が古い。北西壁には180号住居が重複しており本住居が新しい。北東壁は178号住居により削平されているためこの部分の施設、竈や貯蔵穴は未確認であったとおきたい。床面中央部分は硬く叩き締められたような検出時の感想であった。壁寄りの床面は軟質で凹凸がはげしい。出土遺物は土師器碗、甕、須恵器碗、杯、羽釜、灰釉陶器皿、碗、瓶、緑釉陶器、土錘などである。

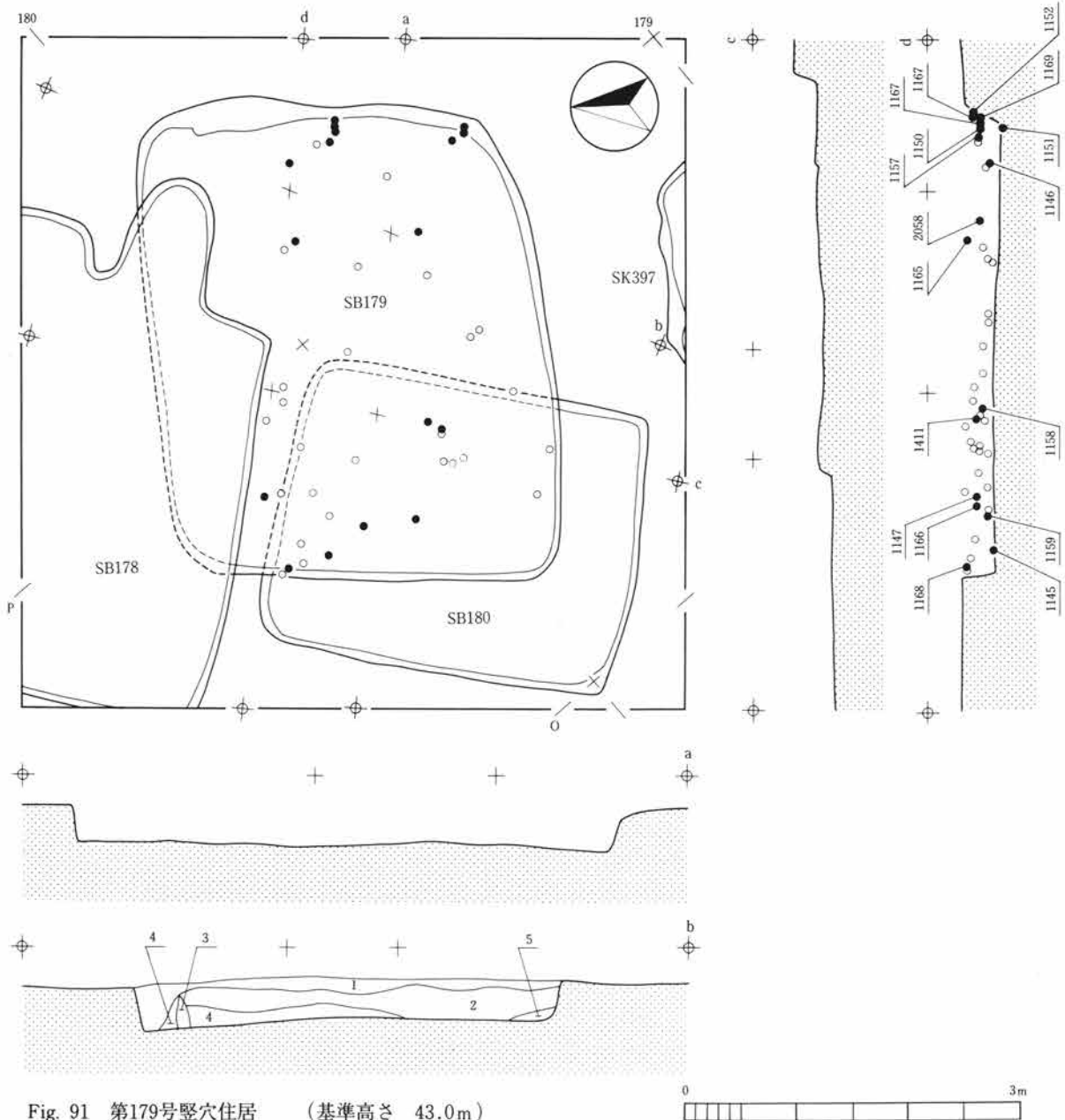


Fig. 91 第179号竪穴住居 (基準高さ 43.0m)

180号住居 SB180（遺構 PL. 25、遺物 Fig. 179）

発掘区Ⅵ区のO180に位置する。平面形は横長形、縦2.60m、横3.28mを測り、面積は約8.5㎡である。住居の方位はN-106°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は35cm、周溝はなく、床面高は42.39mである。覆土は9層に分けられた。1～3層は住居内覆土、4～6層は179号住居内覆土、7～9層は178号住居内覆土である。土質は1層暗灰色土層で粘土粒、炭化物、焼土を混入する層、2層暗灰色土層で砂質土層、3層焼土層、4層暗褐色土層、5、7層黒色土層で多量純粋炭化物流れ込み層、6層暗褐色土層で砂質を帯び炭化物、鉄分凝集を混入する層、8層暗灰色土層で炭化物粒、砂質ブロック、粘土ブロックを混入し軟質でサラサラしている層、9層灰白色土層で若干の炭化物を含む砂質ブロック層である。本住居の北東隅を中心に住居の%ほどが179号住居と重複しており、本住居の方が古い。このため竈や貯蔵穴の有無は決めかねる。床面は中央寄りには硬く締まる。出土遺物は須恵器の高台碗や須恵器の羽釜などである。



Fig. 92 第180号竪穴住居（基準高さ 43.0m）

181号住居 SB181 (遺構 PL. 25、遺物 PL. 57、58、Fig. 180)

発掘区Ⅵ区のR183に位置する。平面形は横長形、縦4.23m、横5.11mを測り、面積は約21.7㎡である。住居の方位はN-90°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は42cm、周溝はなく、床面高は42.49mである。覆土は10層に分けられた。1～5層は住居内覆土、6層は竈前の床下ピット埋土、10層は竈崩落土、7層は434号土壇埋土、8、9層は410号土壇埋土である。土質は1層暗褐色土層で炭化物、軽石を含む混土層、2、10層暗灰色土層で白い砂層中に炭化物粒、粘土粒を混入する層、3層暗褐色土層で多量の炭化物を混入する層、4層淡褐色土層、5層炭化物層、6層未確認、7層暗褐色土層で炭化物、焼土を混入する層、8、9層暗褐色土層で炭化物、粘土粒を混入する層である。5ヶ所にピットがあり、それぞれの深さは、1号ピット36cm、2号ピット9cm、3号ピット9cm、4号ピット8.5cm、5号ピット5cmを測る。出土遺物は土師器甕、須恵器の椀、杯、足高皿、羽釜、甕、瓶、灰釉陶器の椀、皿、長頸瓶、土錘などである。



Fig. 93 第181号竪穴住居 (基準高さ 43.1m)

182号住居 SB182（遺構 PL. 26、遺物 PL. 58、Fig. 181）

発掘区Ⅵ区のR184に位置する。平面形は縦長形、縦3.90m、横3.11mを測り、面積は約12.1m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-99°-Eを取り、竈は東壁中央に付設される。確認された壁高は28cm、周溝はなく、床面高は42.54mである。覆土は15層に分けられた。1～5層は住居内覆土、6層は竈崩落土、7、8層は竈体埋没土、9層は竈前の床下ピット埋土、10、15層は住居床面下のピット埋土、11層は184号住居内覆土、12、13層は185号住居内覆土、14層は183号住居竈崩落土である。土質は1、7、13層黒褐色土層、2、3、6、10、11層暗灰色土層、4、5、8、12、15層暗褐色土層、9、14層未確認である。2ヶ所にピットがあり、1号ピットは竈前の床下ピットで平面形は偏楕円形を呈し長軸122cm×短軸90cm、深さ33.5cmを測り、2号ピットは住居中央寄りの床下ピットで楕円形を呈し長軸62cm×短軸42cm、深さ31.5cmを測る。本住居に伴う遺物は、土師器鉢1、須恵器杯1、椀3、高台杯6、足高椀1、羽釜1、灰釉椀3、長頸瓶1、土錘1の合計18点である。

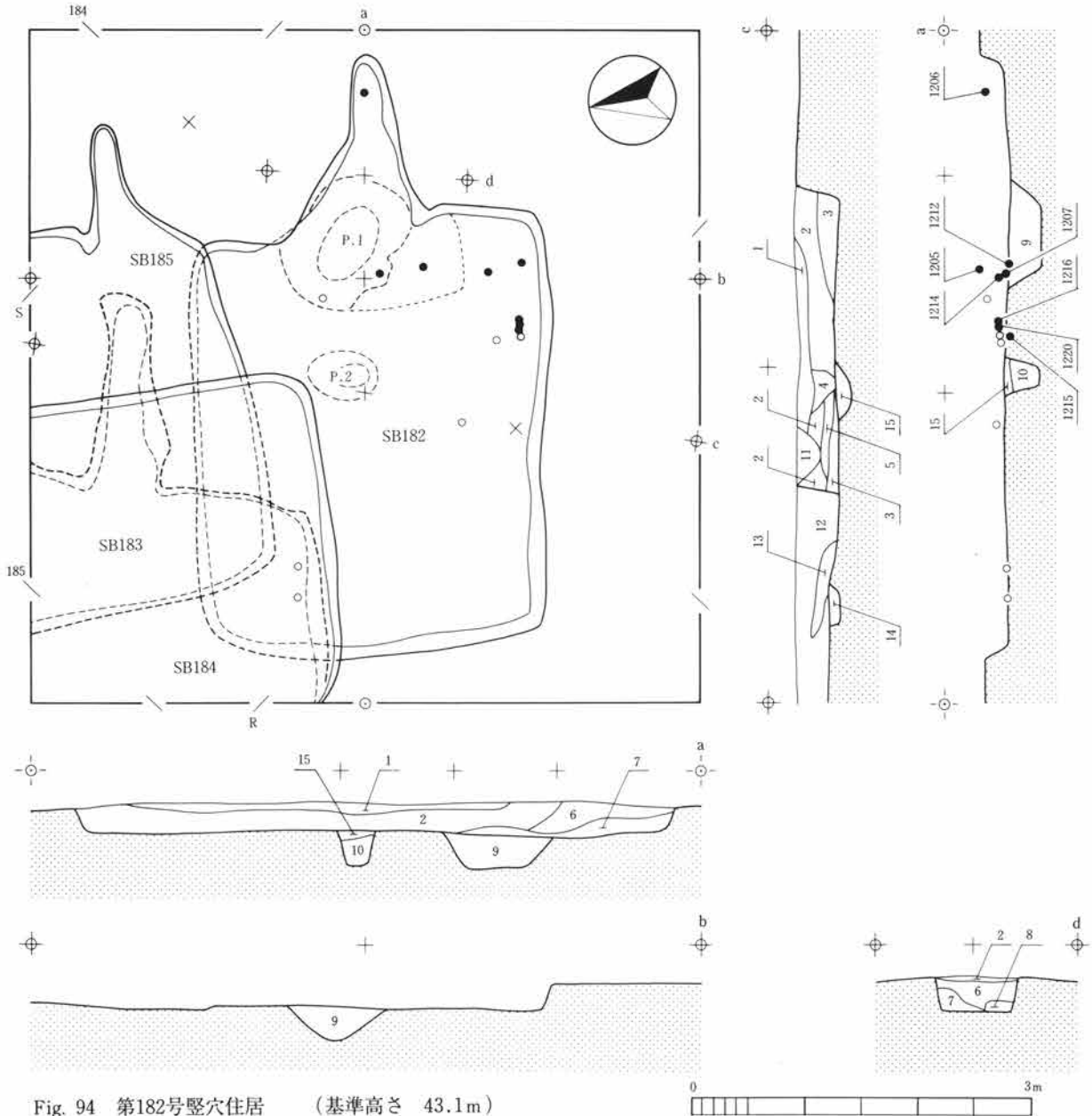


Fig. 94 第182号竪穴住居（基準高さ 43.1m）

183号住居 SB183 (遺構 PL. 26、遺物 Fig. 181)

発掘区VI区のR185に位置する。平面形は横長形、縦3.65m、横4.99mを測り、面積は約18.2m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-98°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は55cm、周溝はなく、床面高は42.33mである。覆土は11層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3層は窯崩落土、4層は窯体埋没土、5~7層は窯前の床下ピット、8、9層は184号住居内覆土、10、11層は185号住居内覆土である。土質は1、2層灰褐色土層、3層焼土、粘土粒を含む層、4層未確認、5層炭化物を含む焼土層、6層灰、炭化物を含む層、7層砂層、8、10層暗褐色土層、9層暗灰色土層、11層黒褐色土層である。2ヶ所にピットがあり、1号ピットは窯前の床下ピットで平面形は偏楕円形を呈し長軸120cm×短軸86cm、深さ20.5cm、2号ピットは竈前右の貯蔵穴で偏楕円形を呈し長軸94cm×短軸80cm、深さ24cmを測る。本住居との重複は新しい順に184号住居、185号住居、183号住居、更に186号住居や190号住居や182号住居など3軒の住居が古くなる。

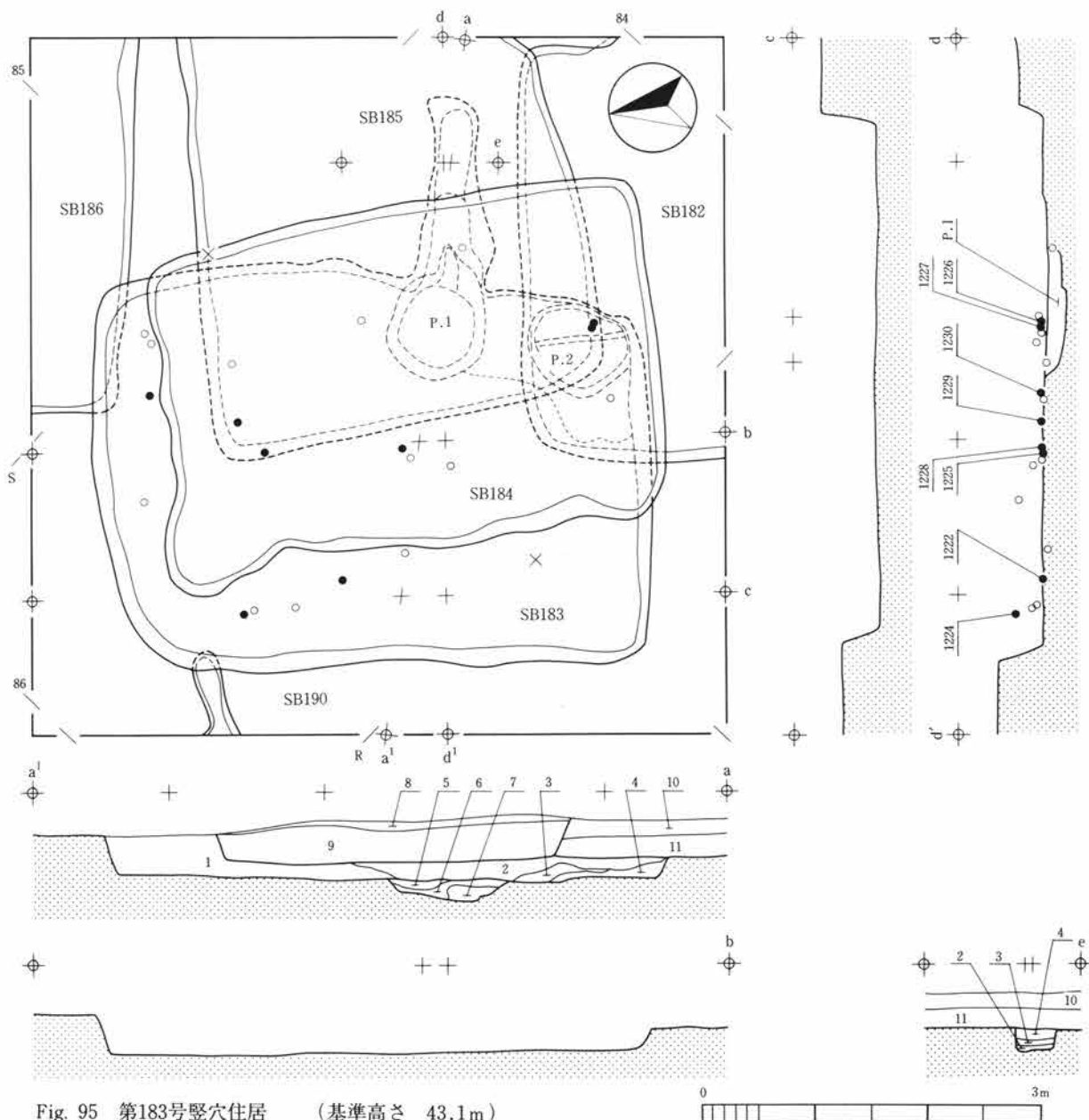


Fig. 95 第183号竪穴住居 (基準高さ 43.1m)



184号住居 SB184（遺物 PL. 58, Fig. 181）

発掘区Ⅵ区のS185に位置する。平面形は横長形、縦3.06m、横4.46mを測り、面積は約13.6㎡である。住居の方位はN-92°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は44cm、周溝はなく、床面高は42.53mである。覆土は7層に分けられた。1、2層は住居内覆土、3、4層は183号住居内覆土、5層は183号住居窯前床下ピット埋土、6、7層は185号住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層で炭化物粒、鉄分、軽石を混入し固い層、2層暗灰色土層で砂質土の中に炭化物粒、鉄分、軽石を混入する層、3層灰褐色土層で鉄分、炭化物、粘土を含む砂質土層、4層灰褐色土層で炭化物、粘土、焼土を含む砂質層、5層未確認、6層暗褐色土層で炭化物、粘土、焼土を混入する層、7層黒褐色土層で多量の炭化物を含む層である。本住居は重複関係が多い。新しい順に並べると184号住居、185号住居、182号住居と183号住居それから186号住居と190号住居となる。重複で遺構検出作業は困難を極め一部重複の先後に自信のない部分もある。須恵器、灰釉陶器が出土する。



Fig. 96 第184号竪穴住居（基準高さ 43.1m）

185号住居 SB185 (遺構 PL. 26、遺物 Fig. 182)

発掘区Ⅵ区のS185に位置する。平面形は正方形、縦3.52m、横3.46mを測り、面積は約12.2㎡である。住居の方位はN-92°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は34cm、周溝はなく、床面高は42.55mである。覆土は21層は分けられた。1～3層は住居内覆土、4、5層は184号住居内覆土、6、7層は183号住居内覆土、8、9層は183号住居窯崩落土、10～12層は183号住居窯前床下ピット埋土、13、14層は186号住居内覆土、15～19層は182号住居内覆土、20、21層は182号住居床下ピット埋土である。土質は1、4、14、17、18層暗褐色土層、2、15層黒褐色土層、3、5、16、19層暗灰色土層、6、7層灰褐色土層、8層焼土、粘土粒を含む層、9、20、21層未確認、10層焼土層、11層灰、炭化物層、12層砂層、13層青灰色粘土層である。住居北壁寄りには床上ピットがあり楕円形を呈し長軸89cm×短軸80cm、深さ3cmを測る。本住居の重複は新しい順に184号住居、185号住居、182号住居と183号住居となる。出土遺物に須恵器杯、碗がある。

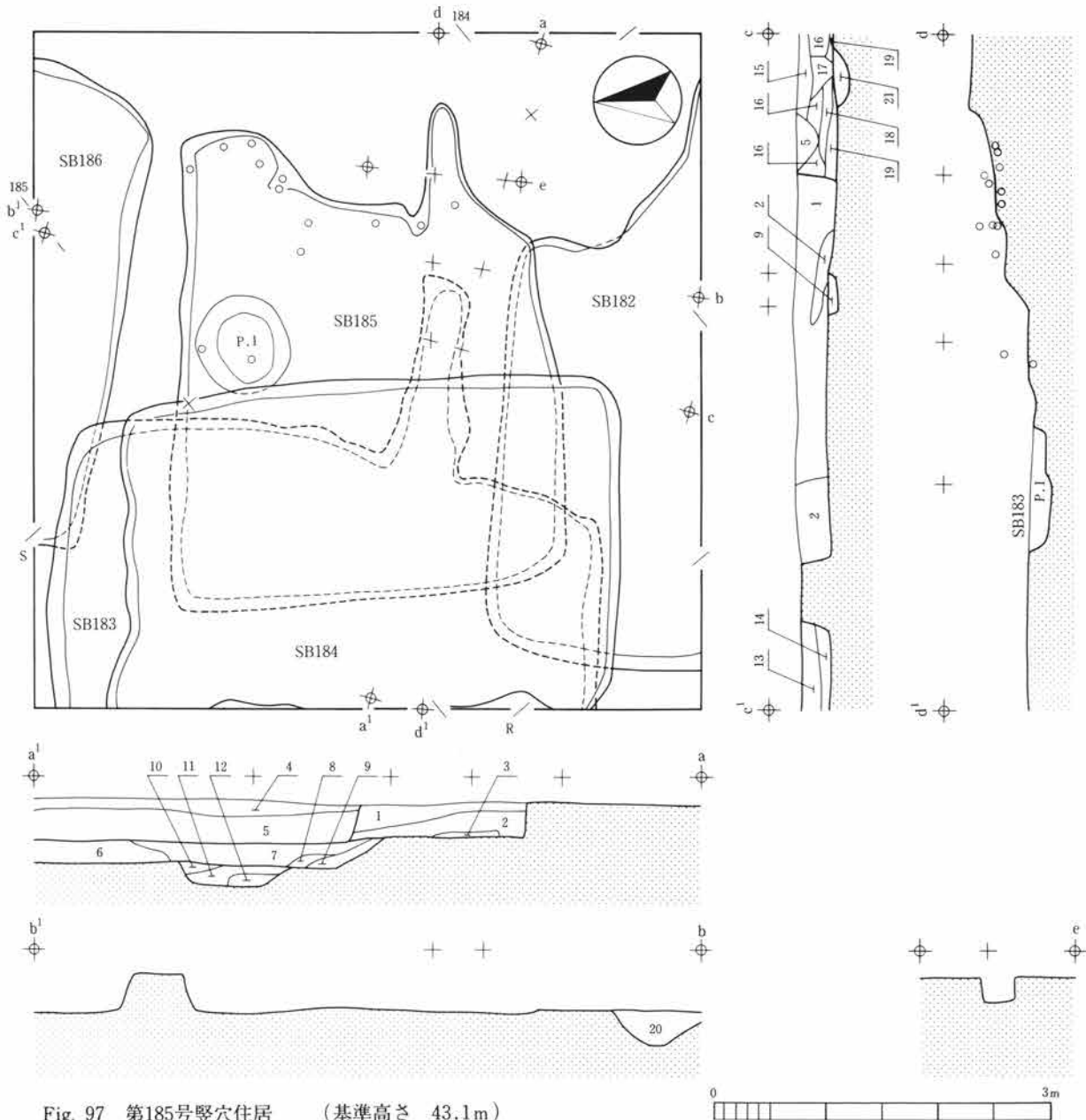


Fig. 97 第185号竪穴住居 (基準高さ 43.1m)

186号住居 SB186（遺構 PL. 26、遺物 PL. 58、Fig. 182）

発掘区Ⅵ区のT185に位置する。平面形は縦長形、縦4.35m、横3.48mを測り、面積は約15.1m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-91°-Eを取り、竈は東壁左寄りに付設される。確認された壁高は38cm、周溝はなく、床面高は42.52mである。覆土は8層に分けられた。1～4、6層は住居内覆土、5層は窯崩落土、7層は住居床面下のピット埋土、8層は185号住居内覆土である。土質は1層青灰色粘土層、2、3層炭化物を含む暗褐色土層、4層粘質土中に炭化物を含む層、5層砂質分の多い灰褐色土層、6層炭化物を柱状に含む層、7層未確認、8層黒褐色土層で多量の炭化物を含む層である。2ヶ所にピットがあり、1号ピットは住居東壁に接する床上ピットで平面形は楕円形を呈し長軸59cm×短軸53cm、深さ13.5cmを測り、2号ピットは住居中央寄りの床下ピットで平面形は不定形で深さは42cmを測る。本住居に伴う遺物は、須恵器碗1、須恵器杯2、須恵器高台杯2、須恵器足高碗2、須恵器羽釜3、灰釉皿1、杯釉碗1、土錘4の合計16点である。

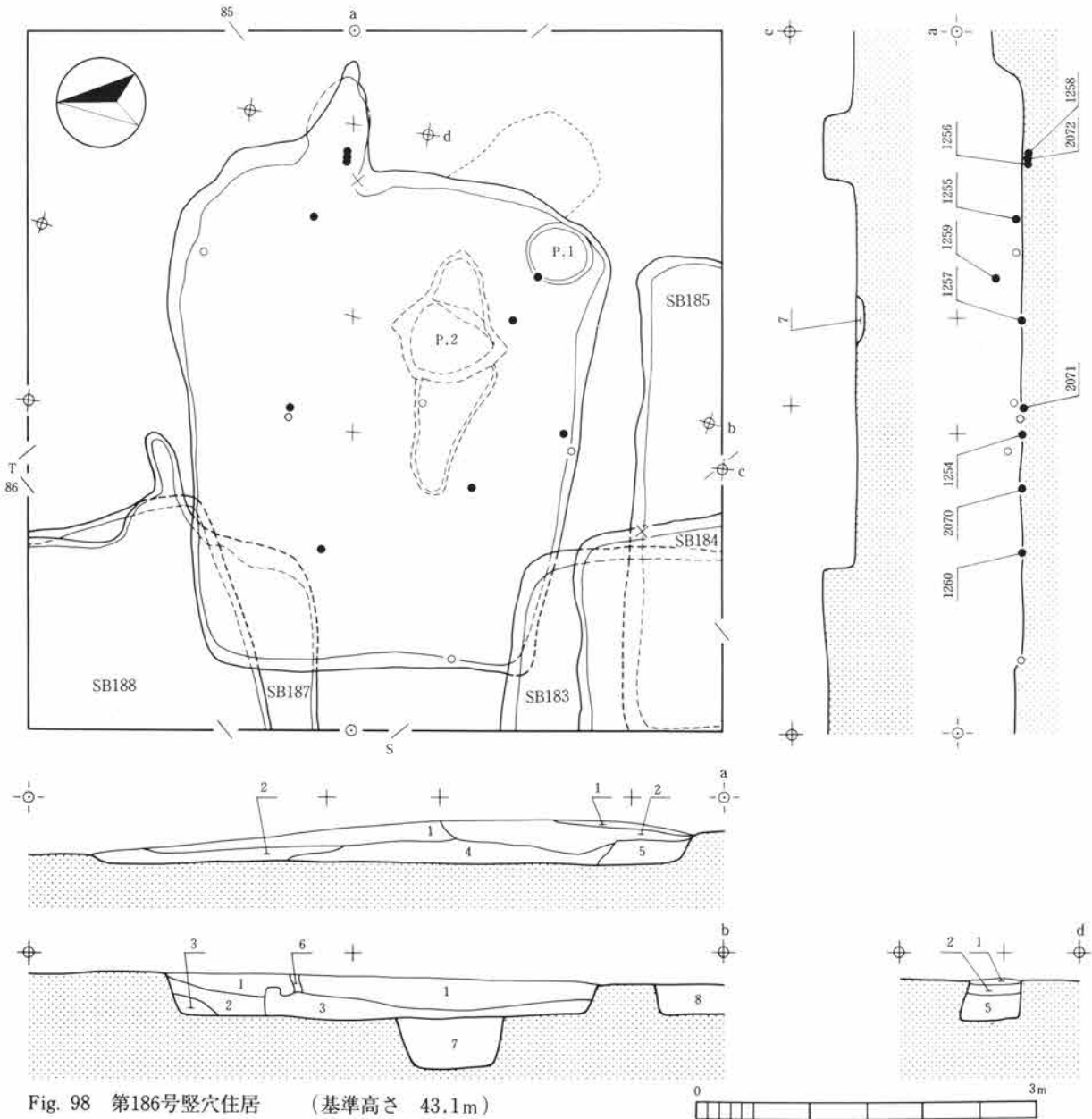


Fig. 98 第186号竪穴住居（基準高さ 43.1m）

187号住居 SB187 (遺構 PL. 26、遺物 PL. 58、Fig. 182)

発掘区Ⅵ区のS186に位置する。平面形は横長形、縦3.54m、横4.12mを測り、面積は約14.6㎡である。住居の方位はN-88°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は35cm、周溝はなく、床面高は42.44mである。覆土は9層に分けられた。1～3層は住居内覆土、4層は窯崩落土、5～7層は窯体埋没土、8層は窯前の床下ピット埋土、9層は188号住居内覆土である。土質は1層暗灰色土層で焼土、炭化物、若干の粘土を混入する層、2層暗灰色土層、3層暗褐色土層で若干の焼土を混入する層、4層黒色土層で多量の炭化物、焼土を含む層、5層暗灰色土層で焼土、炭化物を混入する層、6層暗褐色土層で焼土を混入する層、7層灰色土層、8層未確認、9層暗褐色土層、10層暗灰色土層である。住居の竈前には床下ピットがあり、平面形は偏楕円形を呈し長軸84cm×短軸70cm、深さは20cmを測る。本住居に伴う遺物は、土師器杯1、土師器長甕5、須恵器椀4、須恵器高台杯1、灰釉椀2、灰釉輪花椀1、土錘4の合計18点である。

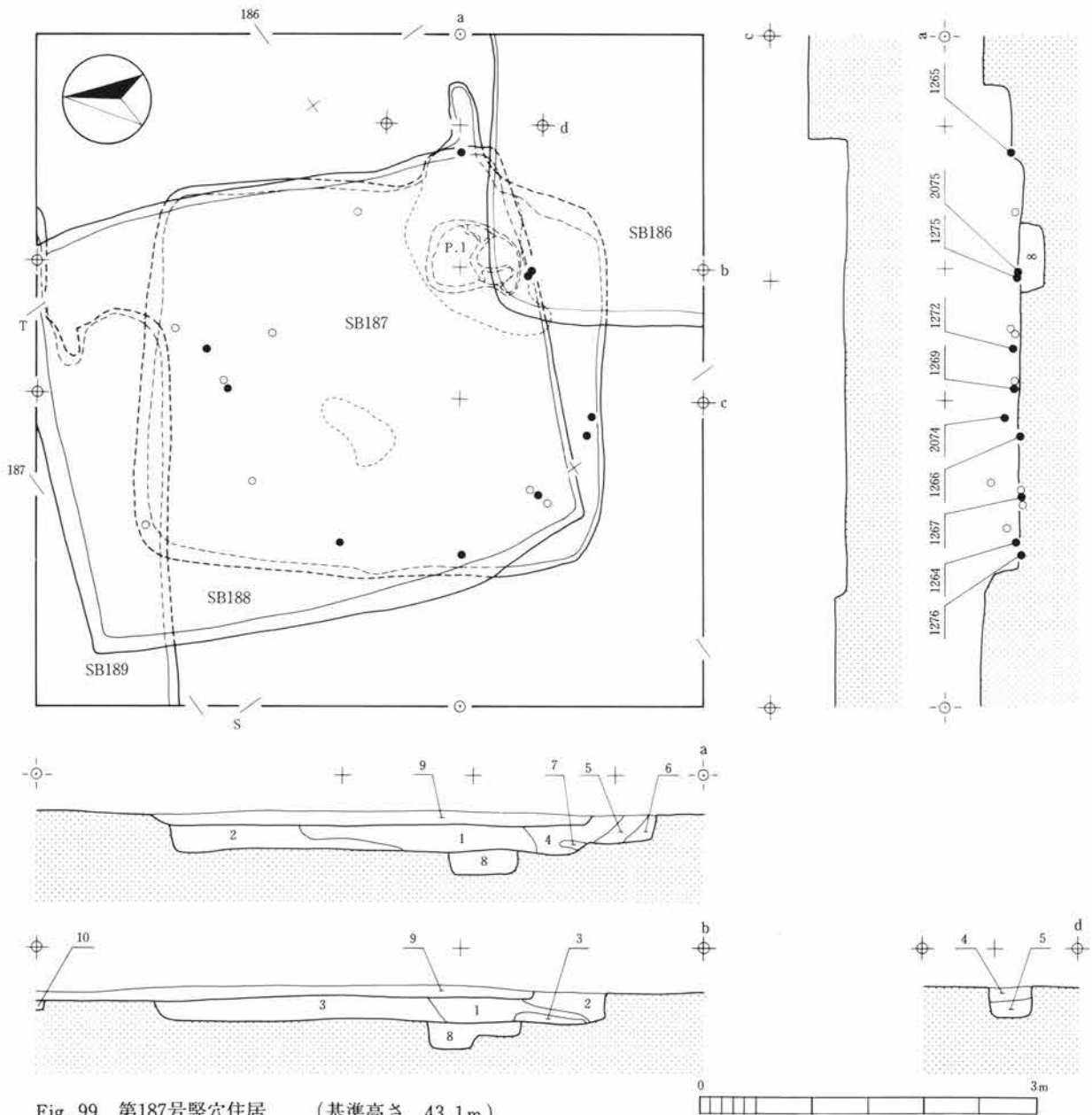


Fig. 99 第187号竪穴住居 (基準高さ 43.1m)

188号住居 SB188（遺構 PL. 26、遺物 Fig. 182）

発掘区Ⅵ区のS 186に位置する。平面形は正方形、縦4.43m、横4.65mを測り、面積は約20.6㎡である。住居の方位はN-76°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は13cm、周溝はなく、床面高は42.67mである。覆土は4層に分けられた。1層は住居内覆土、2、3層は187号住居内覆土、4層は189号住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層で炭化物、焼土、鉄分を含む層、2層暗灰色土層で焼土、炭化物を含む層、3層暗灰色土層、4層暗灰色土層で砂質を帯びサラサラしていて、若干の炭化物を混入し鉄分の凝集の見られる層である。本住居の重複関係は新しい順に186号住居、188号住居、187号住居、189号住居となる。特に本住居はほとんど187号住居との重複である。このためになるのか竈、貯蔵穴の有無は決定されなかった。床面は中央部分に焼土と炭化物の硬化面が認められただけで周辺になると検出は難しかった。出土遺物の分布は住居の床認定付近で全体に中央寄りに多い。須恵器碗、杯、羽釜、瓶、それから土錘などの遺物が出土している。

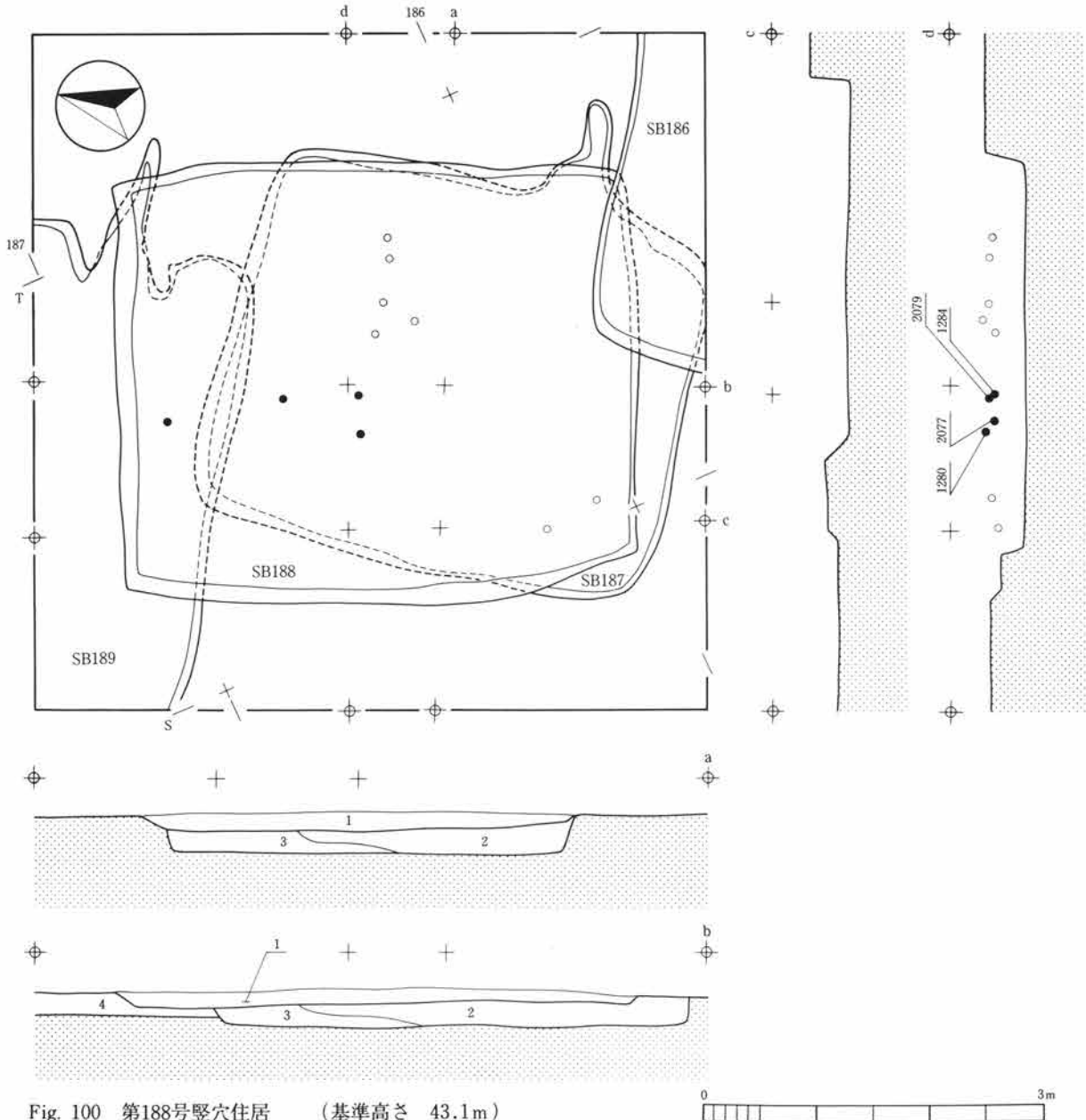


Fig. 100 第188号竪穴住居（基準高さ 43.1m）

189号住居 SB189 (遺構 PL. 27、遺物 PL. 59、Fig. 183)

発掘区Ⅵ区のT187に位置する。平面形は縦長形、縦4.54m、横2.95mを測り、面積は約13.4m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-90°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は24cm、周溝はなく、床面高は42.50mである。覆土は10層に分けられた。1、3層は住居内覆土、2層は攪乱、4、5層は窯体埋没土、6層は窯底面の土層、7層は窯前の床下ピット埋土、8層は188号住居内覆土、9、10層は187号住居内覆土である。土質は1、3、9、10層暗灰色土層、2層多量の炭化物混入層、4、8層暗褐色土層、5層純粹炭化物層、6層赤褐色土層、7層未確認である。3ヶ所にピットがあり、1号ピットは窯前の床下ピットで平面形は不定形で深さ18cm、2号ピットは竈前左の床下ピットで楕円形を呈し長軸46cm×短軸42cm、深さ20cm、3号ピットは竈前左の床下ピットで偏楕円形を呈し長軸54cm×短軸32cm、深さ7cmを測る。本住居に伴う遺物は、土師器杯3、甕3、須恵器碗1、高台杯1、灰釉碗2、皿1、長頸瓶1、土錘1、砥石1の合計14点である。

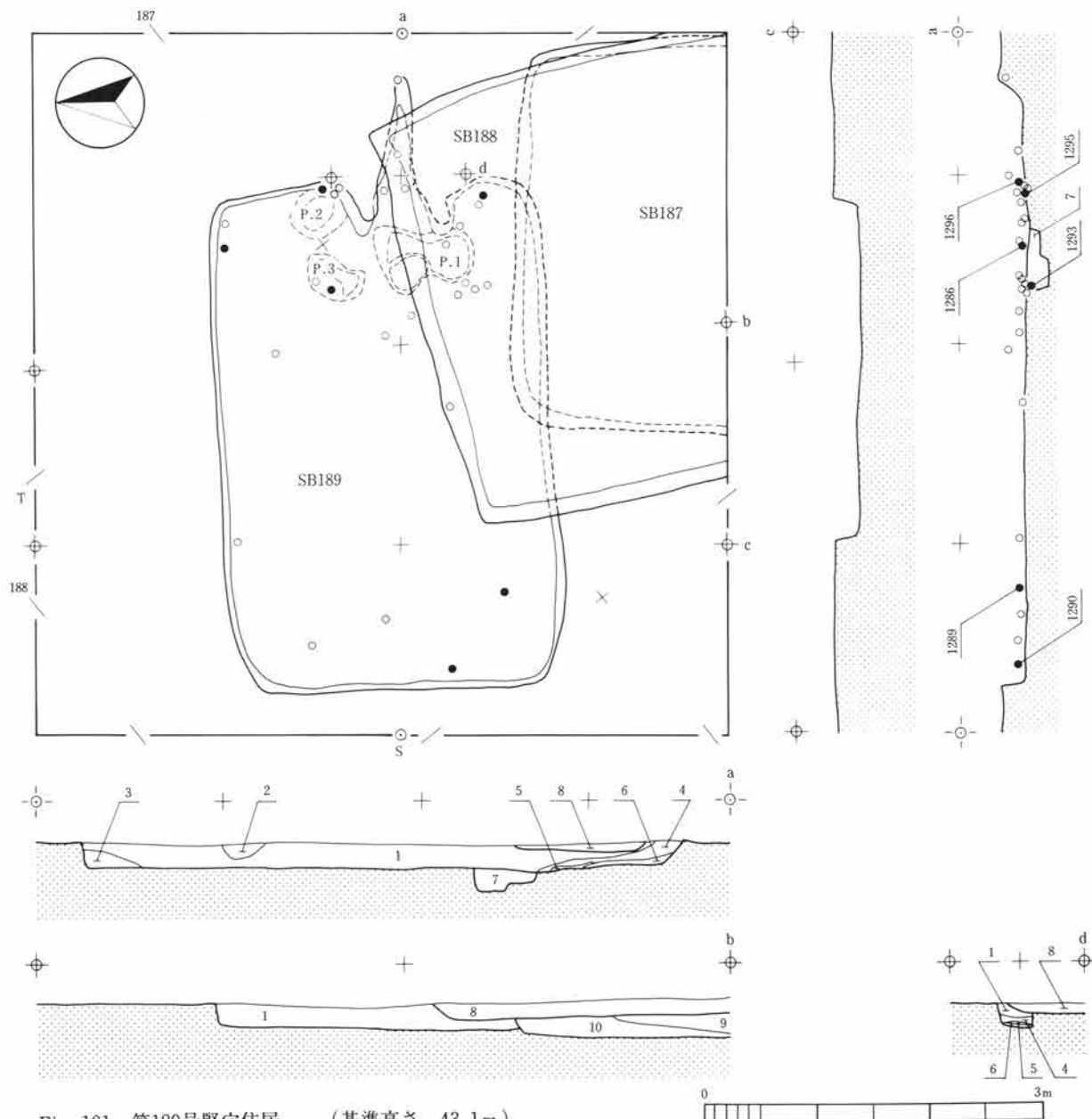


Fig. 101 第189号竪穴住居 (基準高さ 43.1m)

190号住居 SB190（遺構 PL. 27、遺物 PL. 59、Fig. 183）

発掘区Ⅵ区のR186に位置する。平面形は縦長形、縦4.17m、横3.35mを測り、面積は約14.0m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-97°-Eを取り、竈は東壁中央に付設される。確認された壁高は42cm、周溝はなく、床面高は42.54mである。覆土は13層に分けられた。1～4層は住居内覆土、5～7層は窯崩落土、8層は窯底面の土層、9、10層は191号住居内覆土、11層は183号住居内覆土、12、13層は143号土壌埋土である。土質は1、3、9、10、12層暗褐色土層、2、5層灰白色土層、4層黒褐色土層、6、13層暗灰色土層、7層赤褐色土層、8層黒色土層、11層灰褐色土層である。本住居の重複関係は新しい順に435号土壌、183号住居と191号住居それから190号住居と並ぶ。床面はあまり硬くない。短辺中央の竈は平面形が正面より左へ10度傾く。竈は燃烧部は焚口幅50cm、奥行45cmを測る。煙道部は幅20cm、長さ75cmが確認された。焚口前庭は幅90cm、前後50cmを測る。出土遺物は土師器甕、須恵器碗、杯などである。

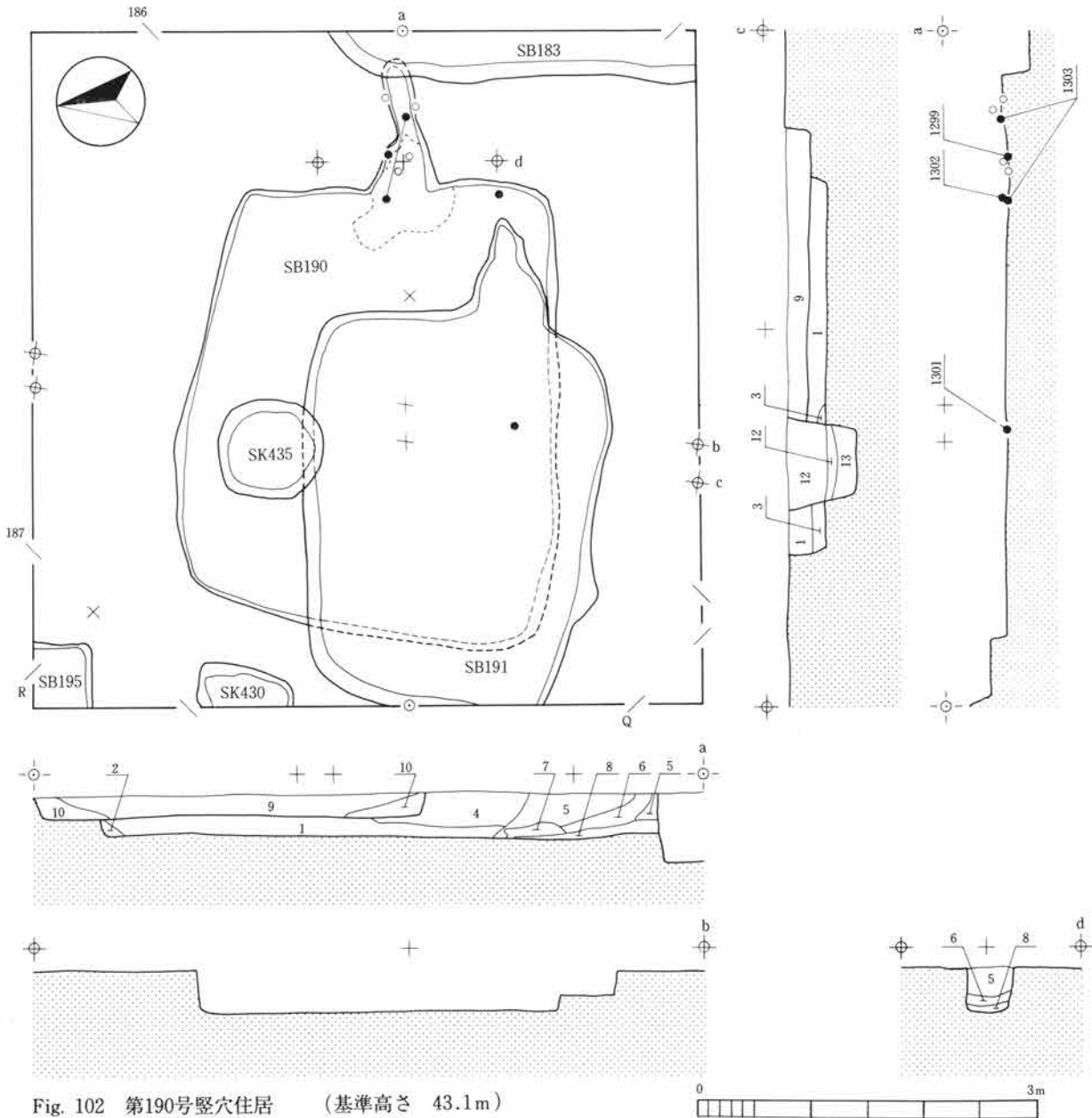


Fig. 102 第190号竪穴住居（基準高さ 43.1m）

191号住居 SB191 (遺構 PL. 27、遺物 PL. 59、Fig. 183、184)

発掘区VI区のQ186に位置する。平面形は縦長形、縦3.52m、横2.60mを測り、面積は約9.2m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-105°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は42cm、周溝はなく、床面高は42.53mである。覆土は12層に分けられた。1~3層は住居内覆土、4層は窯崩落土、5~8層は190号住居内覆土、9、10層は435号土壙埋土、11、12層は192号住居内覆土である。土質は1、3~5、7、9、12層は暗褐色土層、2、8層黒褐色土層、6層灰白色土層、10層暗灰色土層、11層黒色土層である。本住居と他の住居の重複関係は新しい順に435号土壙、191号住居、190号住居となる。床面は特に窯の前面あたりに炭化物、焼土が散布する硬化面で周囲にひろがると軟弱で不安定となる。焚口前庭は幅100cm、前方に50cmを測る。窯は燃焼部と煙道の一部である。焚口幅60cm、奥行50cmを測る燃焼部に幅20cm、長さ40cmの煙道が付設される。出土遺物は土師器甕、須恵器碗、羽釜、灰釉陶器の碗、瓶などである。

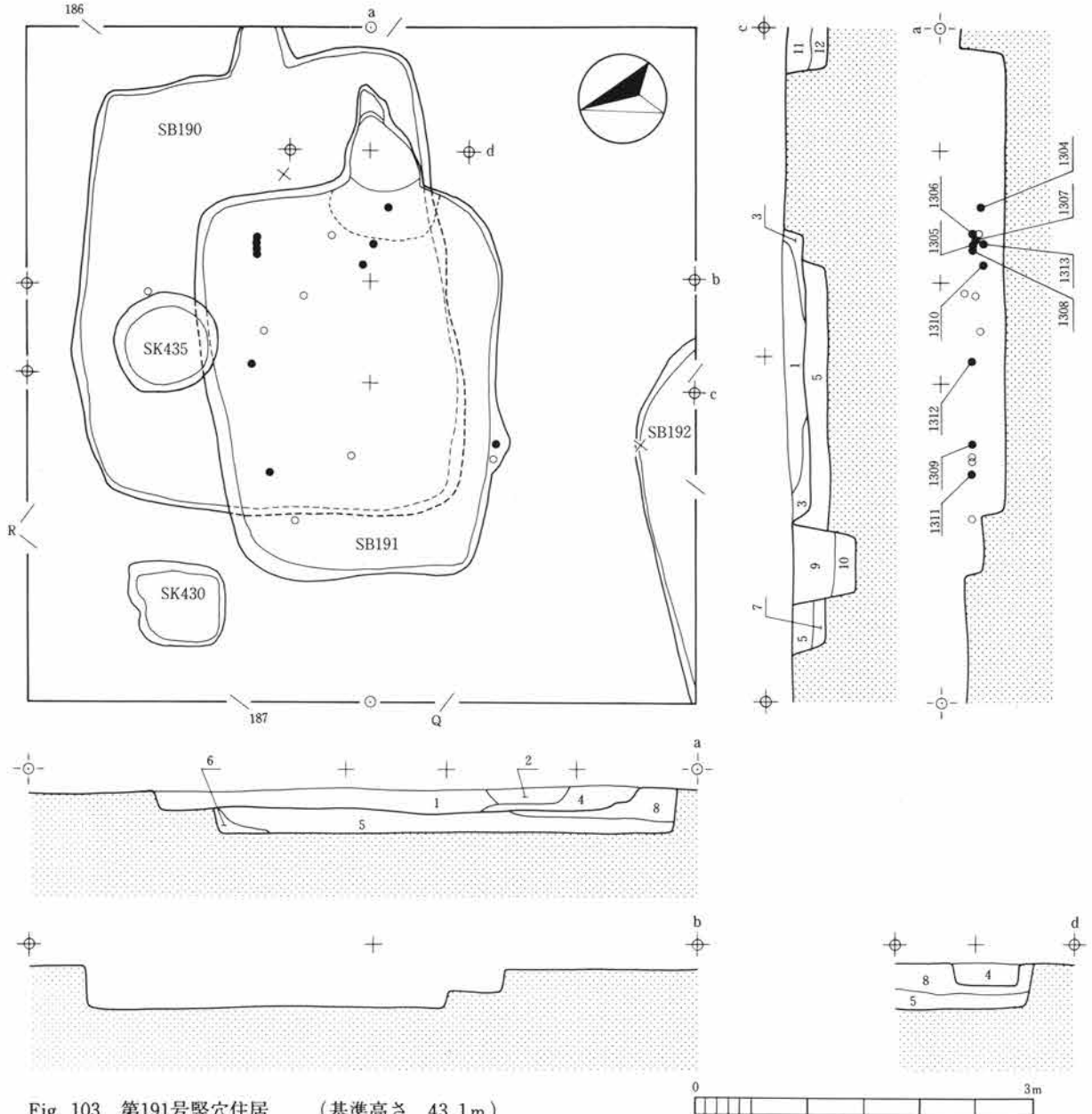


Fig. 103 第191号竪穴住居 (基準高さ 43.1m)



192号住居 SB192（遺構 PL. 27、遺物 PL. 59、60、Fig. 184、185）

発掘区Ⅵ区のP186に位置する。平面形は縦長形、縦6.14m、横3.93mを測り、面積は約24.1m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-94°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は31cm、周溝はなく、床面高は41.56mである。覆土は6層に分けられた。1～3層は住居内覆土、4、5層は窯崩落土、6層は窯底面の土層である。土質は1層黒色土層で多量の炭化物を含む層、2層暗灰色土層で多量の砂質分を含み軽石を混入する層、3層暗褐色土層で炭化物、若干の粘土を混入しやや粘質をもつ砂質土層、4層黒色土層で多量の炭化物を混入する層、5層褐色土層で若干の砂質分を含み軽石を混入する層、6層暗褐色土層で焼土、炭化物を含む層である。本住居の南壁の西隅は切り落とされたように直線的に痩せる。重複もなく覆土も厚いため本来の掘り方と考えるとよい。床面は竈前面から住居中央にかけてやや硬化面が認められ周囲は軟質である。焚口前庭は明瞭ではない。竈の燃焼部と煙道との区分はできない。焚口幅60cm、全長200cmを測る。

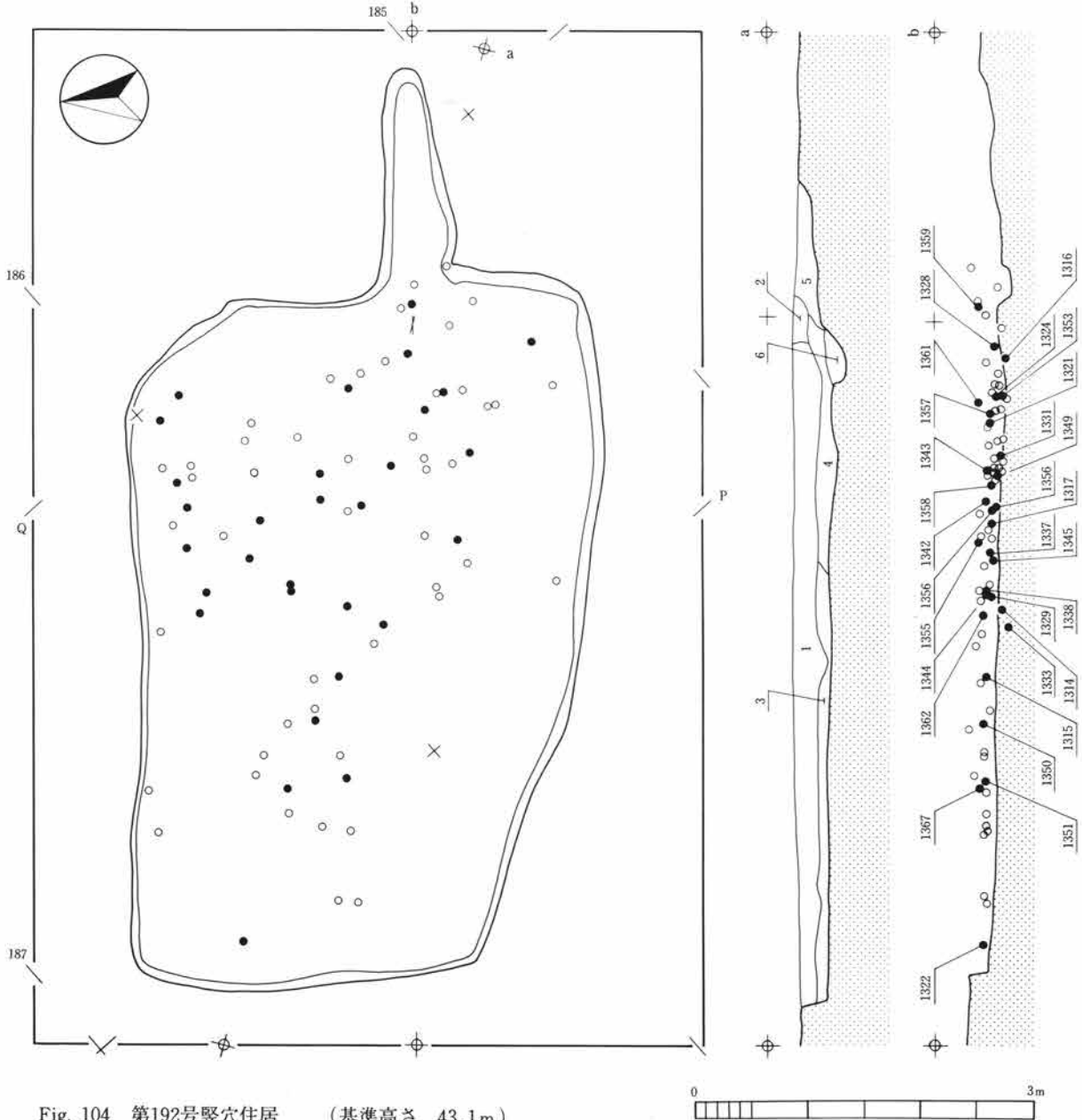


Fig. 104 第192号竪穴住居（基準高さ 43.1m）

193号住居 SB193 (遺構 PL. 28)

発掘区Ⅵ区のU188に位置する。平面形は横長形、縦3.02m、横3.55mを測り、面積は約10.7㎡である。住居の方位はN-81°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は7cm、周溝はなく、床面高は42.74mである。覆土は4層に分けられた。1層は住居内覆土、2層は194号住居内覆土、3層は194号住居窯崩落土、4層は194号住居窯前床下ピット埋土である。土質は1、4層未確認、2層暗灰色土層で若干の鉄分凝集があり炭化物を混入し砂質分を多量に帯びサラサラしている層、3層暗褐色土層で焼土及び炭化物の混入層である。本住居は194号住居と重複しており、本住居が新しい。平面形は直線的な壁で構成されるが竈の焚口右隅部分は抉れて外に出る。この位置に長軸50cm、短軸30cmの台形で10cmほどの地山の掘り残し部分がある。焚口前庭は右袖方向にひろがり幅115cm、前方に30cmほど広がる。竈の全長は左袖から60cm、幅25cmを測る。床面は194号住居との重複部分は軟弱であるがその他の中央部分は硬く締まる。

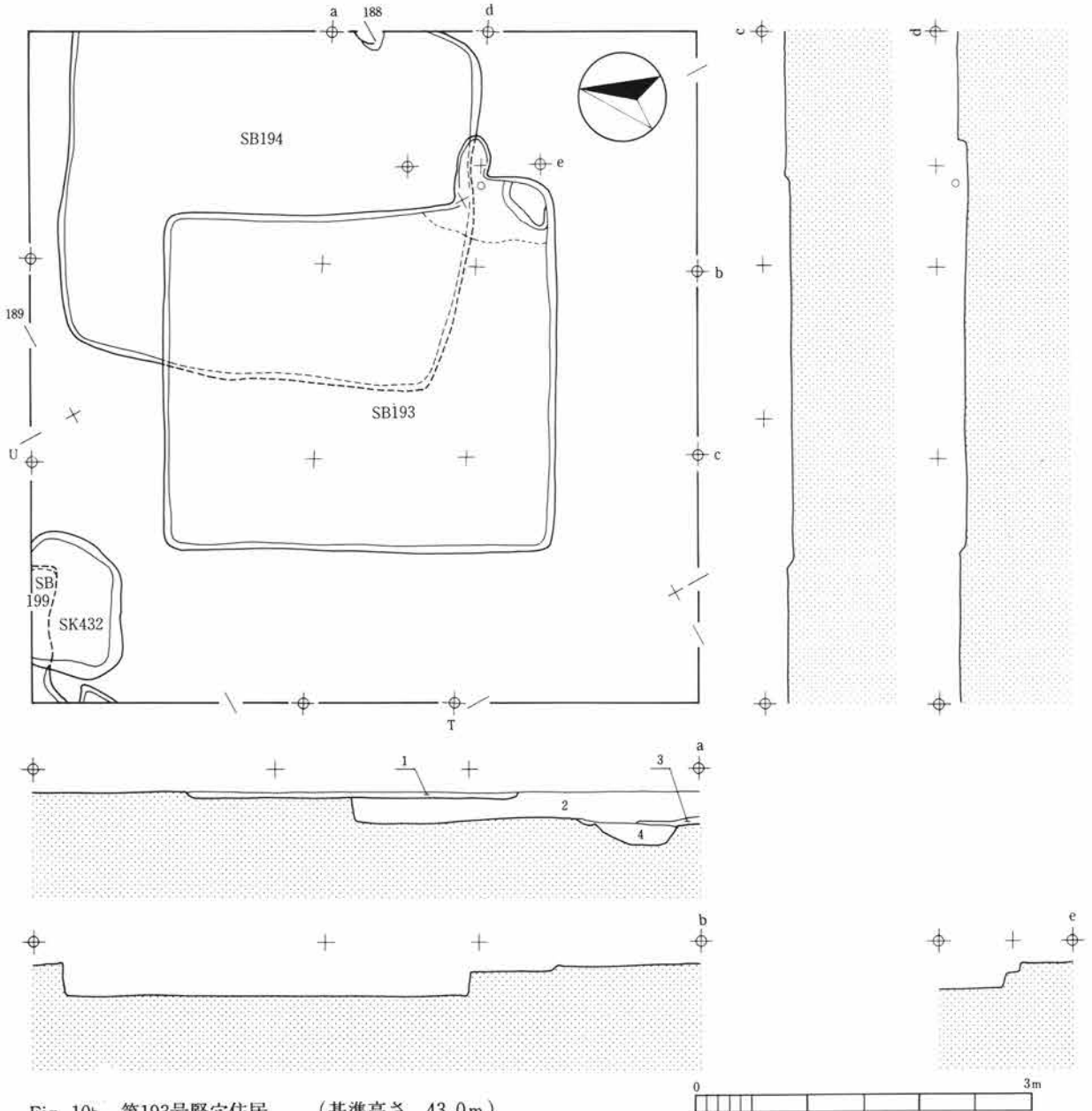


Fig. 10b 第193号竪穴住居 (基準高さ 43.0m)

194号住居 SB194（遺構 PL. 28、遺物 PL. 60、61、Fig. 185）

発掘区Ⅵ区のU188に位置する。平面形は横長形、縦3.16m、横3.68mを測り、面積は約11.6㎡である。住居の方位はN-88°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は27cm、周溝はなく、床面高は42.53mである。覆土は5層に分けられた。1層は住居内覆土、2、3層は窯崩落土、4層は窯前の床下ピット埋土、5層は193号住居内覆土である。土質は1層暗灰色土層で若干の鉄分凝集、炭化物を混入し、砂質分を多量に帯びサラサラしている層、2層焼土層、3層暗褐色土で焼土及び炭化物の混土層、4、5層未確認である。住居の竈前には床下ピットがあり、平面形は不定形で深さは23cmを測る。本住居との切り合いは193号住居で本住居よりも新しい。床下に検出された最深23cmの土壌は長辺160cm、短辺100cmで2箇の土壌の複合のようにも見える。この床下の遺構の上の焚口前庭部分焼土の拡がりは不明瞭である。焚口幅は50cm、右袖は25cmも住居内に突出しており、全長は125cmを測る。出土遺物は須恵器、灰釉陶器、砥石などである。

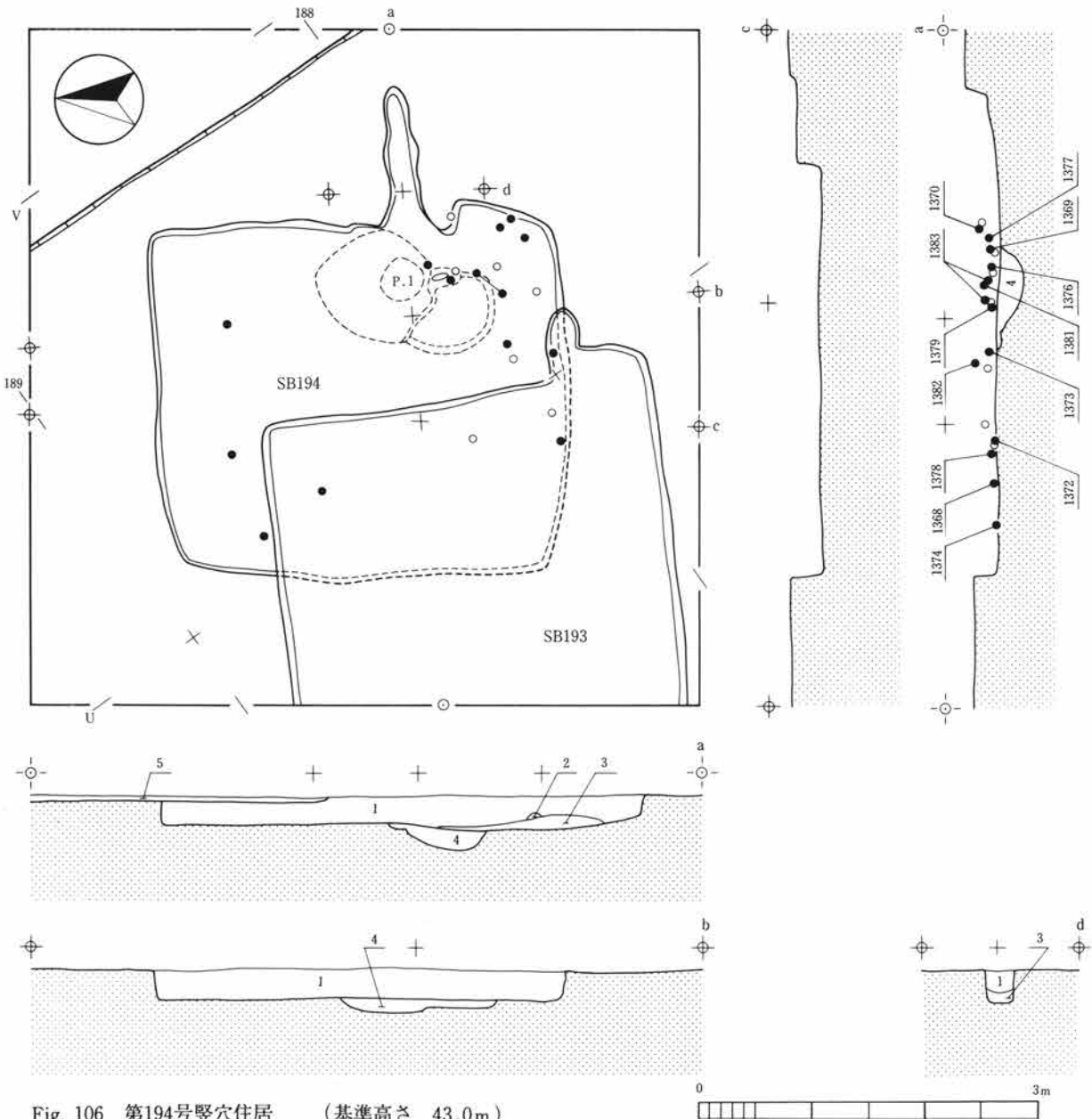


Fig. 106 第194号竪穴住居（基準高さ 43.0m）

195号住居 SB195 (遺構 PL. 28、遺物 PL. 61、Fig. 186、187)

発掘区Ⅵ区のR188に位置する。平面形は正方形、縦3.70m、横3.54mを測り、面積は約13.1m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-94°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は25cm、周溝はなく、床面高は42.61mである。覆土は6層に分けられた。1～4層は住居内覆土、5層は竈前の床下ピット埋土、6層は196号住居内覆土である。土質は1層灰白色土層で炭化物を混入する層、2層暗褐色土層で鉄分凝集、炭化物粒、砂質分を混入する層、3、4層褐色土層で多量の砂質分、炭化物を混入する層、5層未確認、6層暗褐色土層で若干の炭化物と多量の鉄分を混入する層である。2ヶ所にピットがあり、1号ピットは住居の竈前の床下ピットで平面形は不定形を呈し深さ10.5cmを測り、2号ピットは住居南壁寄りの床上ピットで平面形は不定形を呈し深さ6cmを測る。遺物は、土師器杯1、土師器長甕1、土師器丸甕1、須恵器椀17、須恵器高台杯16、須恵器足高椀5、須恵器長頸瓶1、須恵器羽釜2、土錘7の合計51点である。

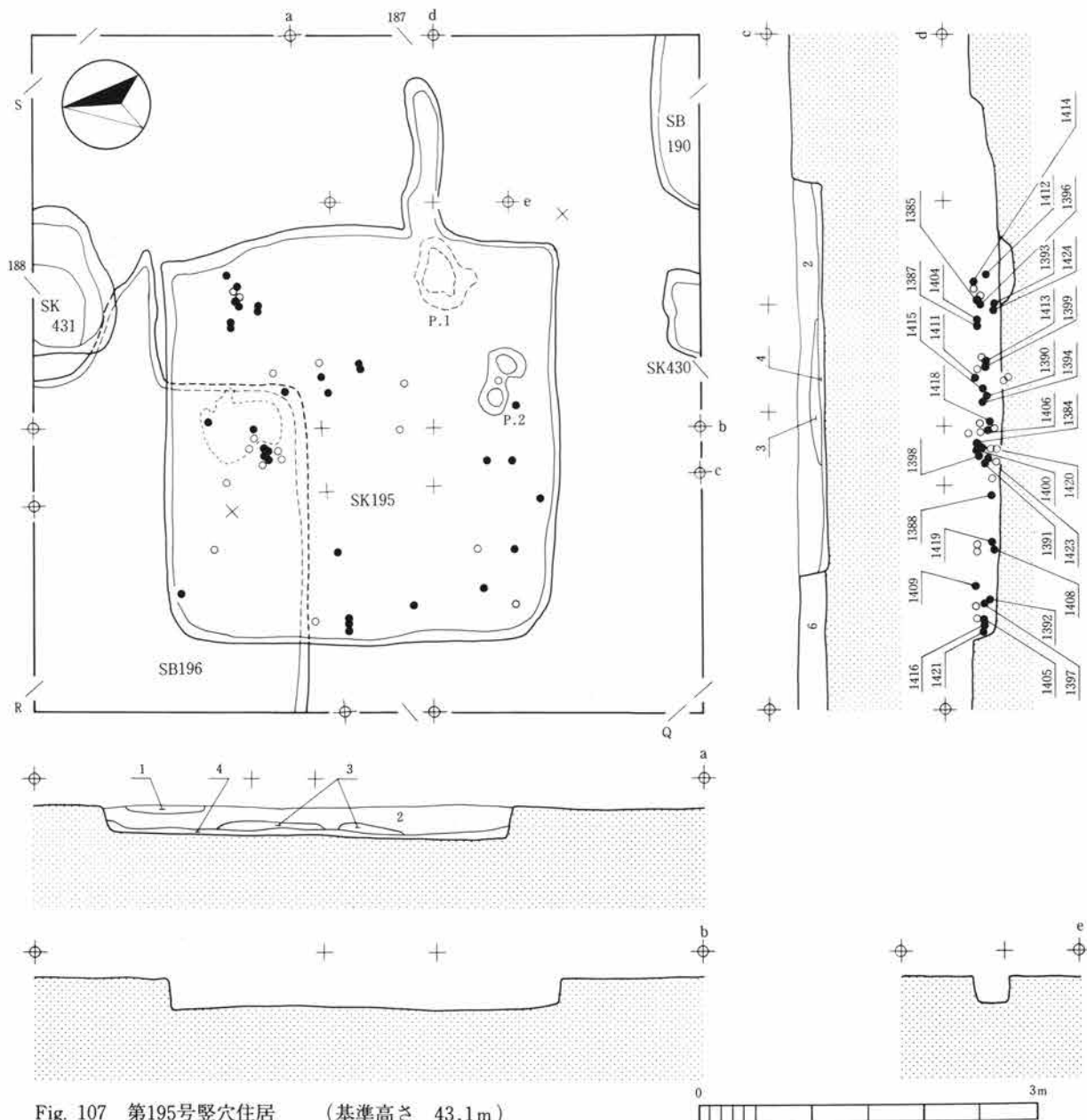


Fig. 107 第195号竪穴住居 (基準高さ 43.1m)

196号住居 SB196（遺構 PL. 28、遺物 PL. 61、Fig. 187）

発掘区Ⅵ区のR 188に位置する。平面形は横長形、縦3.87m、横5.20mを測り、面積は約20.1㎡である。住居の方位はN-93°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は28cm、周溝はなく、床面高は42.59mである。覆土は8層に分けられた。1～3層は住居内覆土、4、5層は窯崩落土、6～8層は195号住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層で若干の炭化物と多量の鉄分を混入する層、2層暗褐色土層で鉄分凝集、砂質分を含む層、3層灰白色土層で若干の炭化物、多量の砂質分を混入する層、4層暗褐色土層で多量の焼土を含む層、5層黒褐色土層で焼土、炭化物を含む層、6層暗褐色土層で鉄分凝集、炭化物、砂質分を混入する層、7、8層褐色土層で多量の砂質分、炭化物を混入する層である。本住居と他の遺構の重複順序は新しい方から195号住居と431号土塋、次に196号住居となる。竈の全長は125cm、焚口幅は70cmを測る。焚口前庭の拡がりは不明瞭である。土師器、須恵器、灰釉陶器や土錘などが出土している。

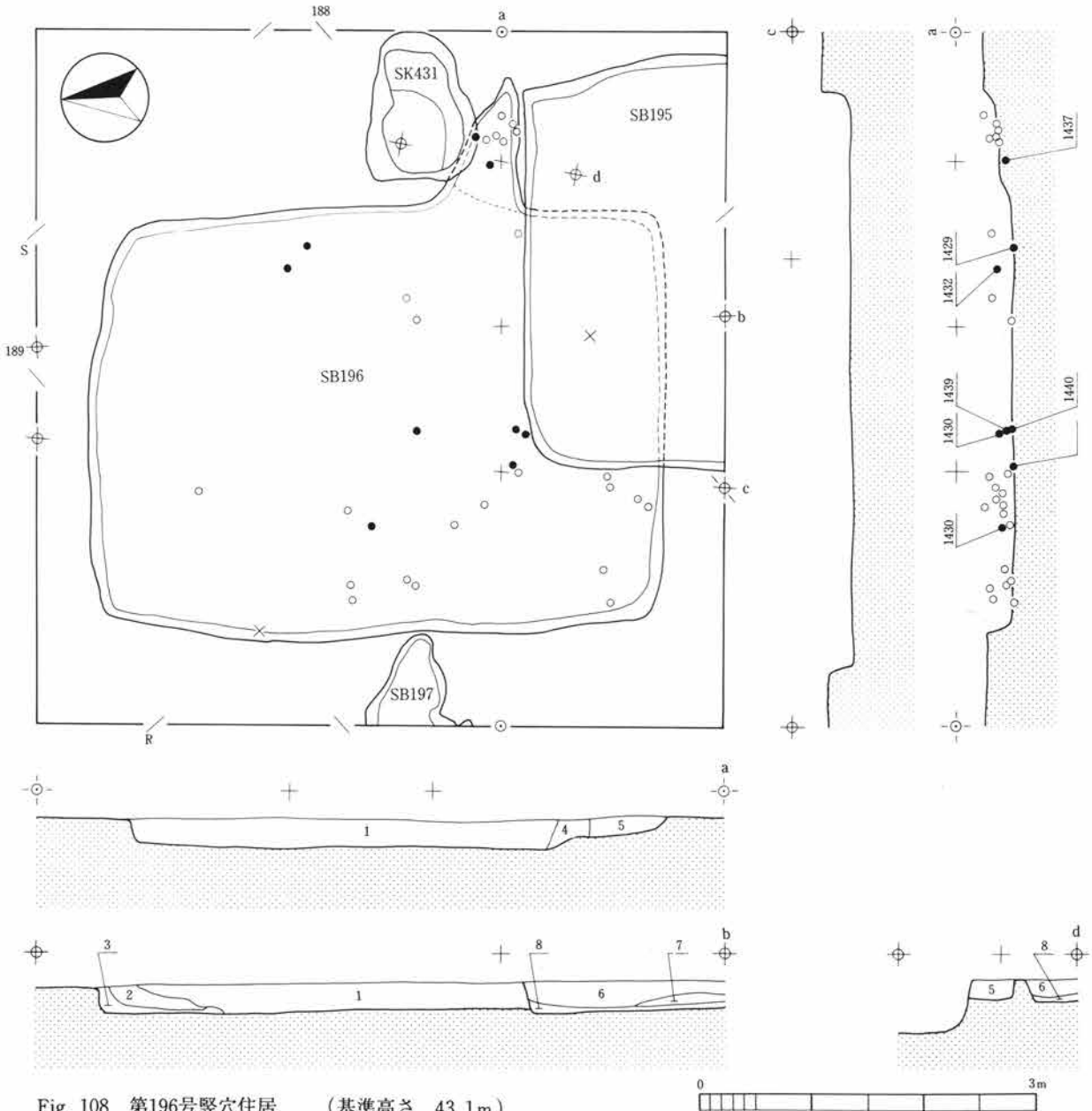


Fig. 108 第196号竖穴住居（基準高さ 43.1m）

197号住居 SB197 (遺構 PL. 28、遺物 PL. 62、Fig. 187、188)

発掘区VI区のQ189に位置する。平面形は正方形、縦2.91m、横2.75mを測り、面積は約8.0㎡である。住居の方位はN-99°-Eを取り、竈は東壁中央に付設される。確認された壁高は16cm、周溝はなく、床面高は42.65mである。覆土は7層に分けられた。1～3層は住居内覆土、4～6層は窯崩落土、7層は196号住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層で多量の炭化物を混入する層、2層灰褐色土層で多量の砂質土中に若干炭化物を混入する層、3層砂質ブロック層、4層焼土ブロック層、5、6層暗褐色土層で炭化物、焼土を混入する層、7層暗褐色土層で若干の炭化物、多量の鉄分が見られる層である。住居の南壁は西側に向かって直線的に瘦せてゆく。竈付設の東壁の右袖側と左袖側では35cmほどの段違いがみられる。焚口前庭部分に白色粘土の広がりが見られ、窯壁に貼付けるものと考えられる。竈の全長は左袖から115cm、焚口幅は45cmで奥にゆくと袋状にひろがる燃烧部である。出土遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器、土錘などである。

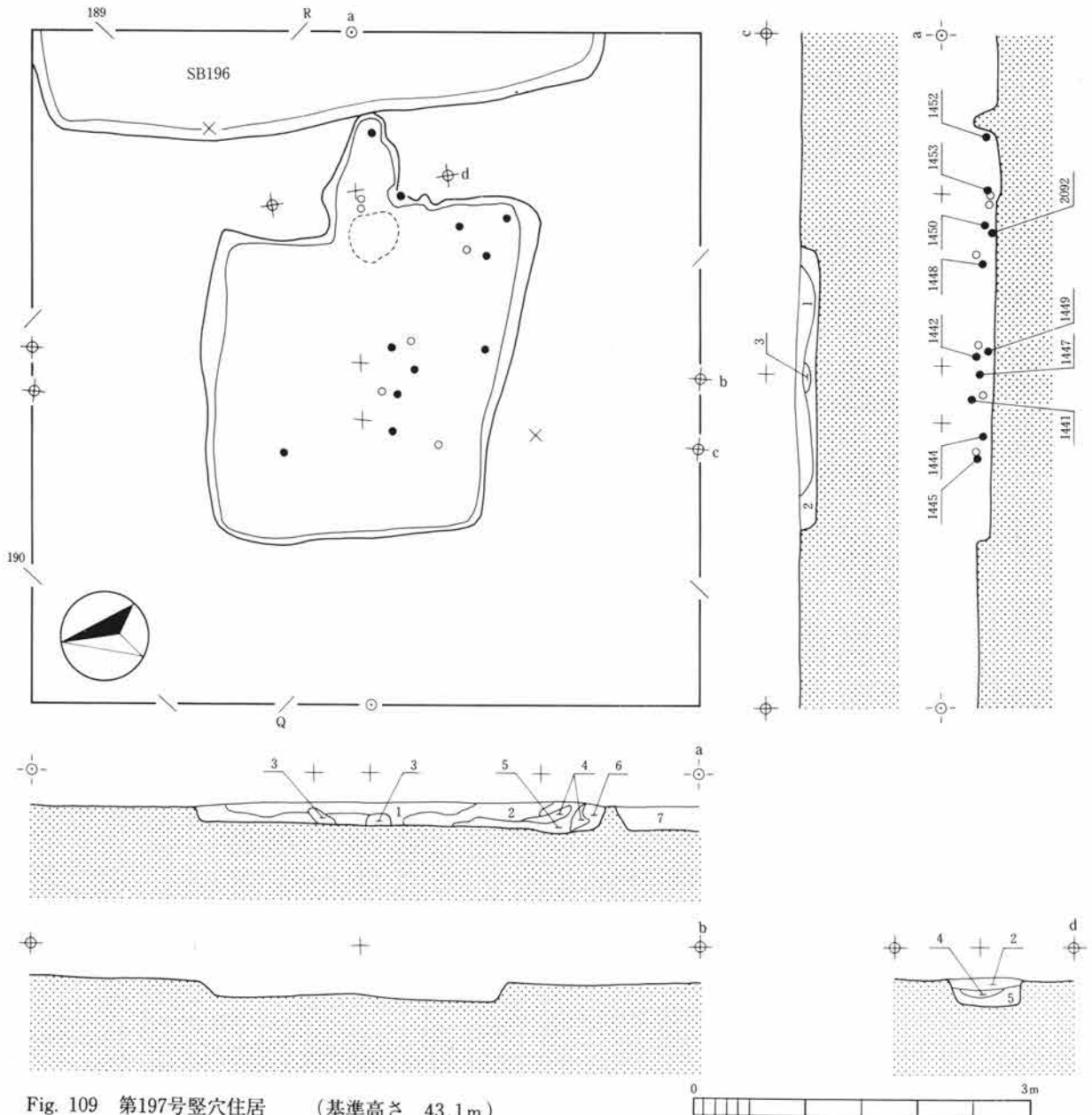


Fig. 109 第197号竪穴住居 (基準高さ 43.1m)

198号住居 SB198 (遺構 PL. 28)

発掘区Ⅵ区のU190に位置する。平面形は横長形、縦2.61m、横3.54mを測り、面積は約9.2㎡である。住居の方位はN-98°-Eを取り、竈は無かった。確認された壁高は20cm、周溝はなく、床面高は42.62mである。覆土は4層に分けられた。1層は住居内覆土、2、3層は199号住居内覆土、4層は436号土壌埋土である。土質は1層未確認、2層暗灰色土層で炭化物、鉄分凝集、軽石を含む層、3層暗灰色土層で鉄分凝集が少ない砂質層、4層暗灰色土層で砂質土中に多量の粘土ブロックを混入する層である。本住居は199号住居にスッポリと入り込むように重複している。他の遺構との新旧関係は新しい順に436号土壌、198号住居、199号住居となる。窯や貯蔵穴などの有無については重複を理由に決定できない。遺物の出土は土器少片のみである。

199号住居 SB199 (遺構 PL. 28、遺物 PL. 62、63、Fig. 188)

発掘区Ⅵ区のT189に位置する。平面形は横長形、縦3.14m、横4.00mを測り、面積は約12.6㎡である。住居の方位はN-99°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は20cm、周溝はなく、床面高は42.62mである。覆土は4層に分けられた。1層は198号住居内覆土、2、3層は住居内覆土、4層は436号土壌埋土である。土質は1層未確認、2層暗灰色土層で炭化物、鉄分凝集、軽石を含む層、3層暗灰色土層で鉄分凝集が少ない砂質層、4層暗灰色土層で砂質土中に多量の粘土ブロックを混入する層である。本住居の新旧関係は新しい順に436号土壌と432号土壌、次に198号住居、199号住居となる。竈の部分は432号土壌によって切られており復元図示である。出土遺物は須恵器椀、杯、灰釉陶器皿、椀、土錘などである。

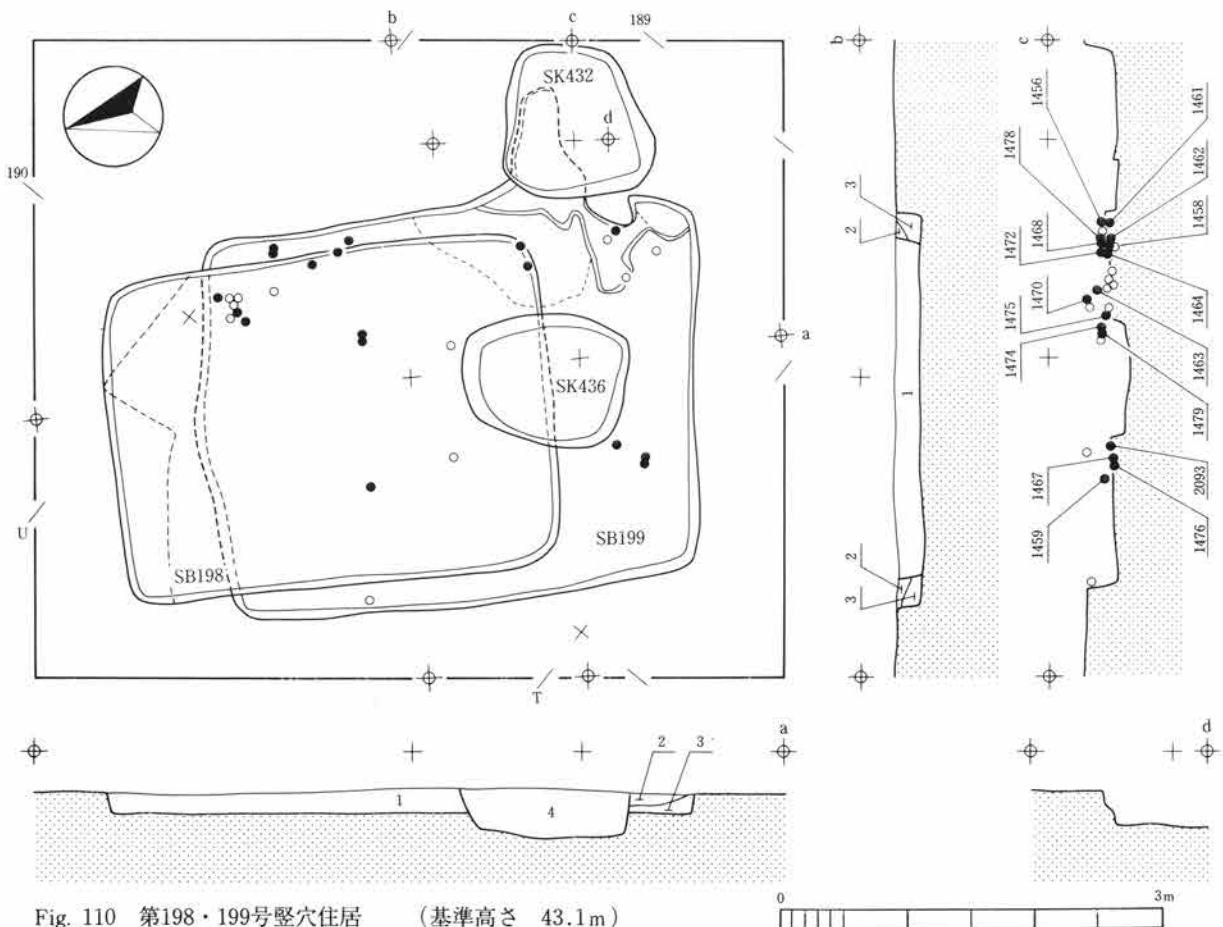


Fig. 110 第198・199号竪穴住居 (基準高さ 43.1m)

200号住居 SB200 (遺構 PL. 29、遺物 PL. 63、Fig. 189)

発掘区Ⅵ区のT191に位置する。平面形は横長形、縦2.45m、横3.08mを測り、面積は約7.5㎡である。住居の方位はN-103°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は25cm、周溝はなく、床面高は42.64mである。覆土は8層に分けられた。1～3、5層は住居内覆土、4層は窯崩落土、6、7層は199号住居内覆土、8層は198号住居内覆土である。土質は1層炭化物を多量に含む砂質土層、2層鉄分の凝集をわずかに含む層、3層暗褐色土層で粘土、炭化物を含む砂質土層、4層粘土、炭化物、灰を含む層、5層灰を多量に含む暗褐色土層、6層暗灰色土層で炭化物、鉄分凝集、軽石を含む層、7層暗灰色土層で鉄分凝集が少ない砂質層、8層未確認である。2ヶ所にピットがあり、1号ピットは竈前左の床下ピットで平面形は偏楕円形で35cm×25cm、2号ピット南壁と西壁寄りの床上ピットで偏楕円形を呈し38cm×30cm、深さ13cmを測る。出土遺物は、土師器甕2、須恵器碗2、高台杯1、高台碗1、羽釜1、灰釉陶器碗2、段皿2である。

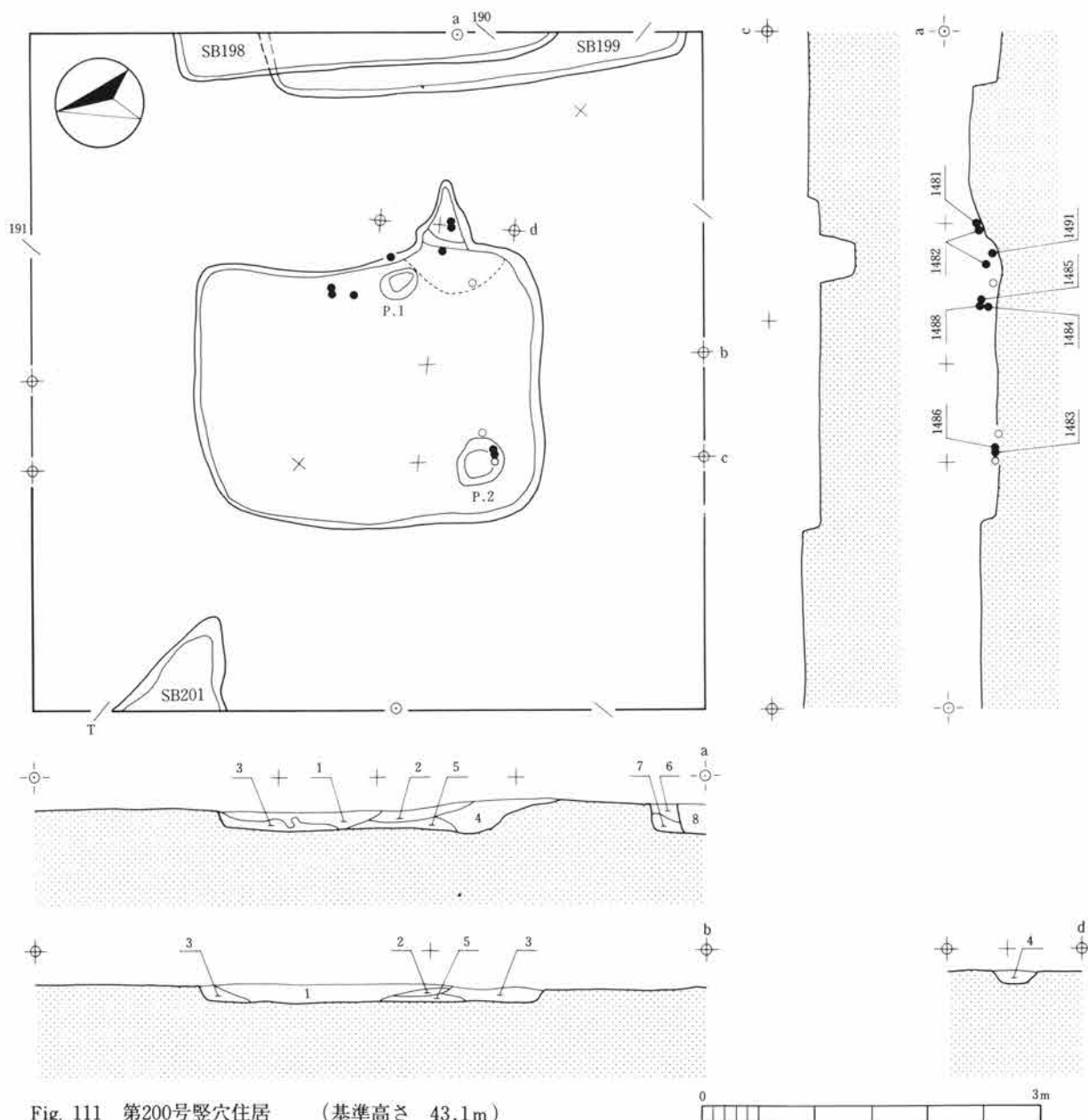


Fig. 111 第200号竪穴住居 (基準高さ 43.1m)



201号住居 SB201（遺構 PL. 29、遺物 PL. 63、Fig. 189）

発掘区Ⅵ区のT192に位置する。平面形は縦長形、縦3.10m、横2.70mを測り、面積は約8.4㎡である。住居の方位はN-107°-Eを取り、竈は東壁右隅に付設される。確認された壁高は32cm、周溝はなく、床面高は42.52mである。覆土は2層に分けられ、1、2層ともに住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層で砂質土に粘質土が混入し、鉄分凝集があり炭化物、焼土が含まれる層、2層灰褐色土層で1層より砂質分が多い層である。住居の北壁に接して床上ピットがあり、平面形は偏楕円形を呈し長軸38cm×短軸30cm、深さは13cmを測る。住居の西壁の南側、竈付設部分は焚口前庭状に一段と外へ送り出している。南壁の竈との接続部分のくびれを竈と考えると全長は65cmと短く焚口も50cm弱と小ぶりとなる。また竈の主軸は正面から右側へ25度ほど傾斜している。北東隅の床の上からのピットは遺物が集中するものの貯蔵穴とは考えなかった。出土遺物は土師器甕、須恵器羽釜、灰釉陶器長頸瓶などである。

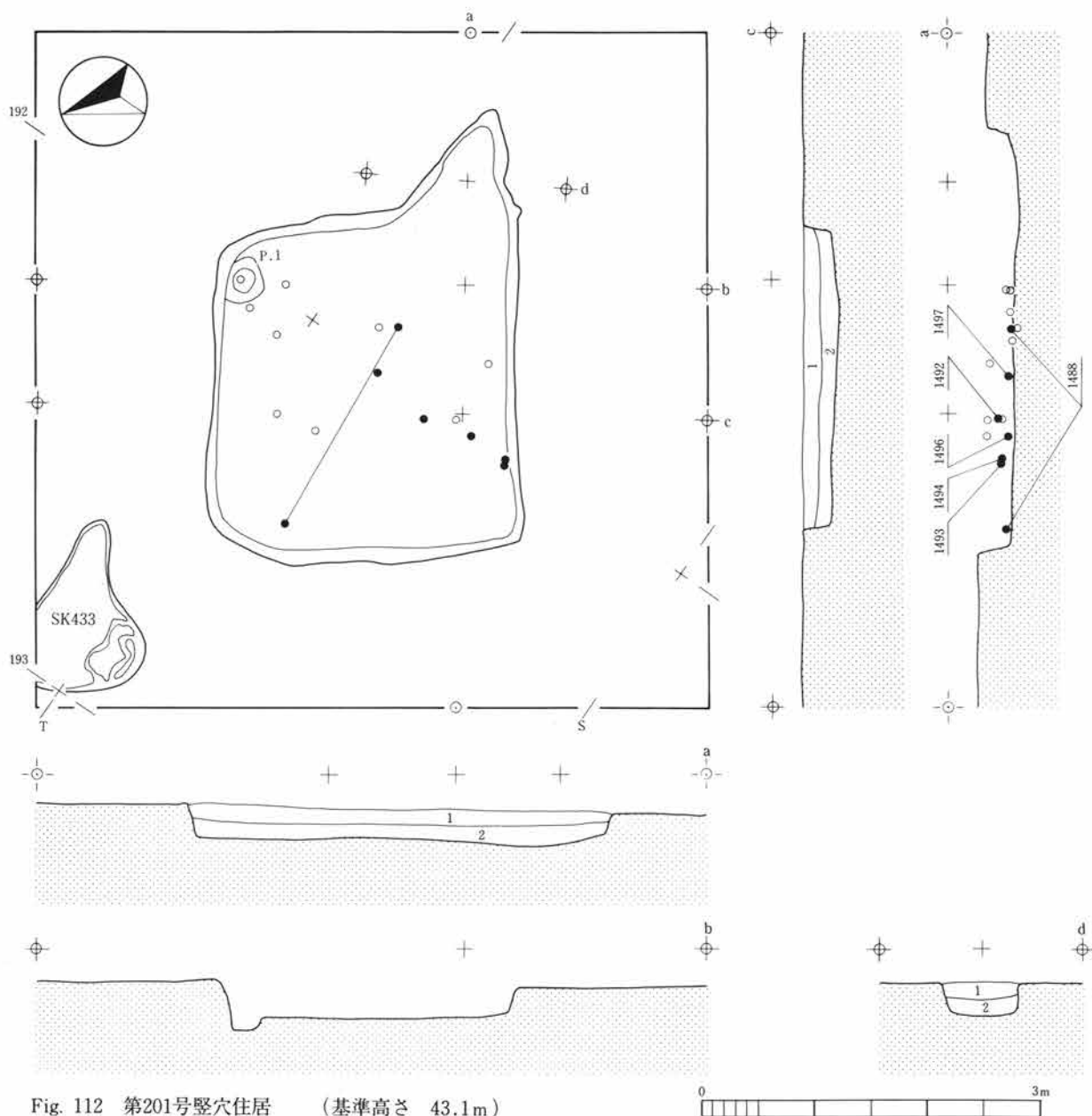


Fig. 112 第201号竪穴住居（基準高さ 43.1m）

202号住居 SB202 (遺構 PL. 29、遺物 Fig. 190)

発掘区VI区のU193に位置する。平面形は縦長形、縦4.06m、横2.63mを測り、面積は約10.7m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-125°-Eを取り、竈は南東壁右寄りに付設される。確認された壁高は25cm、周溝はなく、床面高は42.66mである。覆土は9層に分けられた。1～3層は住居内覆土、4、5層は窯崩落土、6、7層は203号住居内覆土、8、9層は433号土壙埋土である。土質は1、2層暗褐色土層で鉄分凝集、砂質分、炭化物、軽石を含む層、3層は1層に焼土が含まれる層、4層暗褐色土層で多量の焼土、炭化物を含む層、5層は4層に灰が含まれる層、6、7層暗褐色土層で多量の鉄分凝集のある層、8層褐色土層で鉄分凝集、砂を多量に含む層、9層暗褐色土層で砂、炭化物を含む層である。本住居は南壁の竈寄りの部分は丸く肩が落ちている。竈の主軸は正面から右側に10度弱傾いている。焚口幅は60cm、長さは65cmを測る。床面は中央部は硬化しており、周囲にゆくと軟化してゆく。出土遺物は土師器、須恵器、土錘、支脚などである。

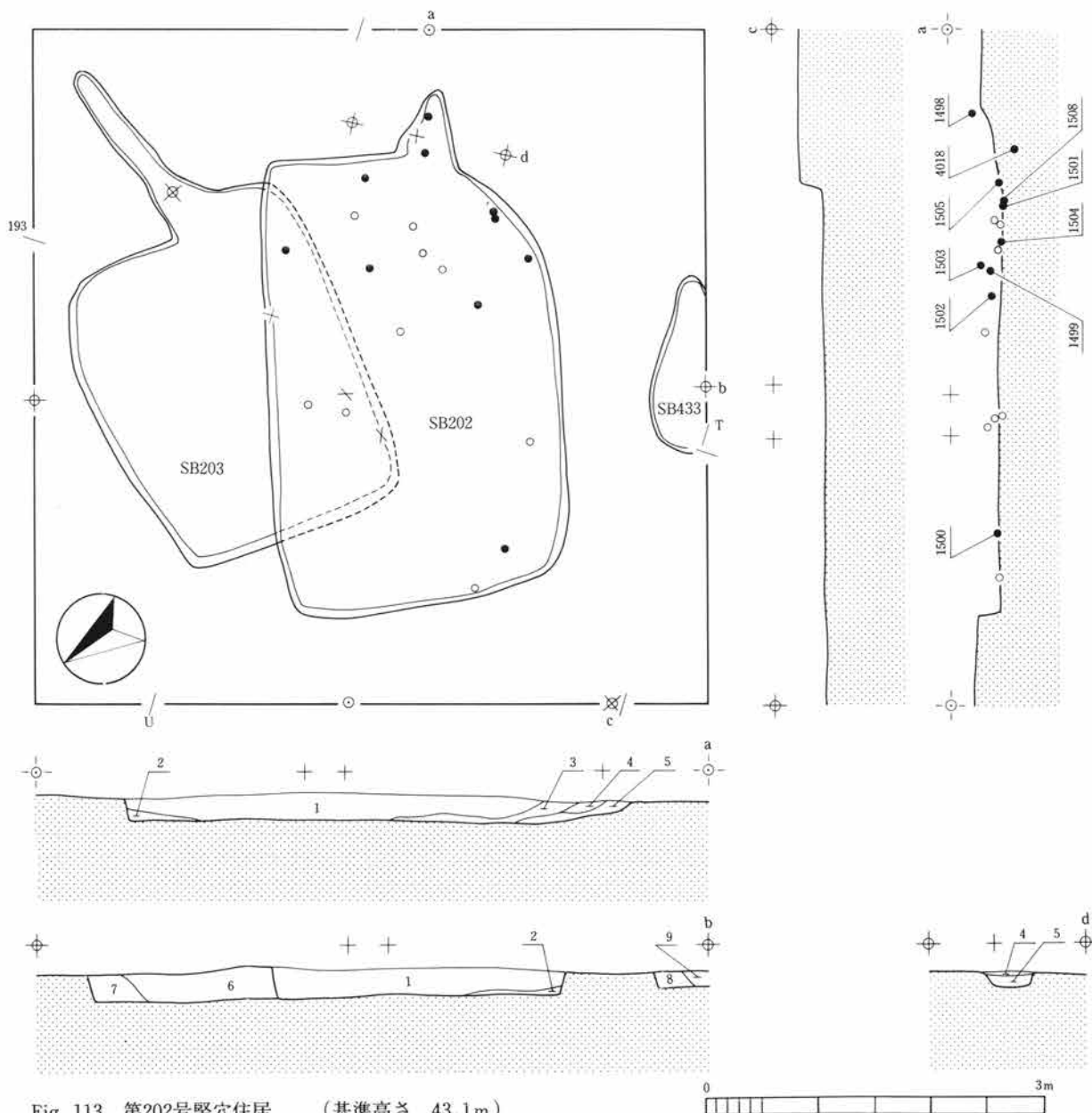


Fig. 113 第202号竪穴住居 (基準高さ 43.1m)

203号住居 SB203（遺構 PL. 29、遺物 PL. 63、Fig. 190）

発掘区Ⅵ区のU193に位置する。平面形は縦長形、縦2.87m、横2.40mを測り、面積は約6.9m<sup>2</sup>である。住居の方位はN-98°-Eを取り、竈は東壁右寄りに付設される。確認された壁高は24cm、周溝はなく、床面高は42.64mである。覆土は7層に分けられた。1、4、5層は住居内覆土、2、3層は窯崩落土、6、7層は202号住居内覆土である。土質は1層暗褐色土層で砂質、焼土、炭化物、鉄分凝集を含む層、2層黒褐色土層で多量の炭化物、焼土、粘土を混入する層、3層暗褐色土層で焼土を混入する層、4、5層暗褐色土層で多量の鉄分凝集の見られる層、6、7層暗褐色土層で鉄分凝集、砂質、炭化粒、軽石を含む層である。本住居は202号住居と切り合い関係があり、本住居が古い。竈付設の東壁は竈の左右袖で段違いをみせている。焚口前庭には明瞭な焼土の層は認められない。竈は住居主軸に対して左へ15度ほど傾いている。燃烧部分の焼土中に支脚が検出されている。出土遺物は須恵器杯、椀、羽釜、瓶、灰釉陶器瓶などがある。

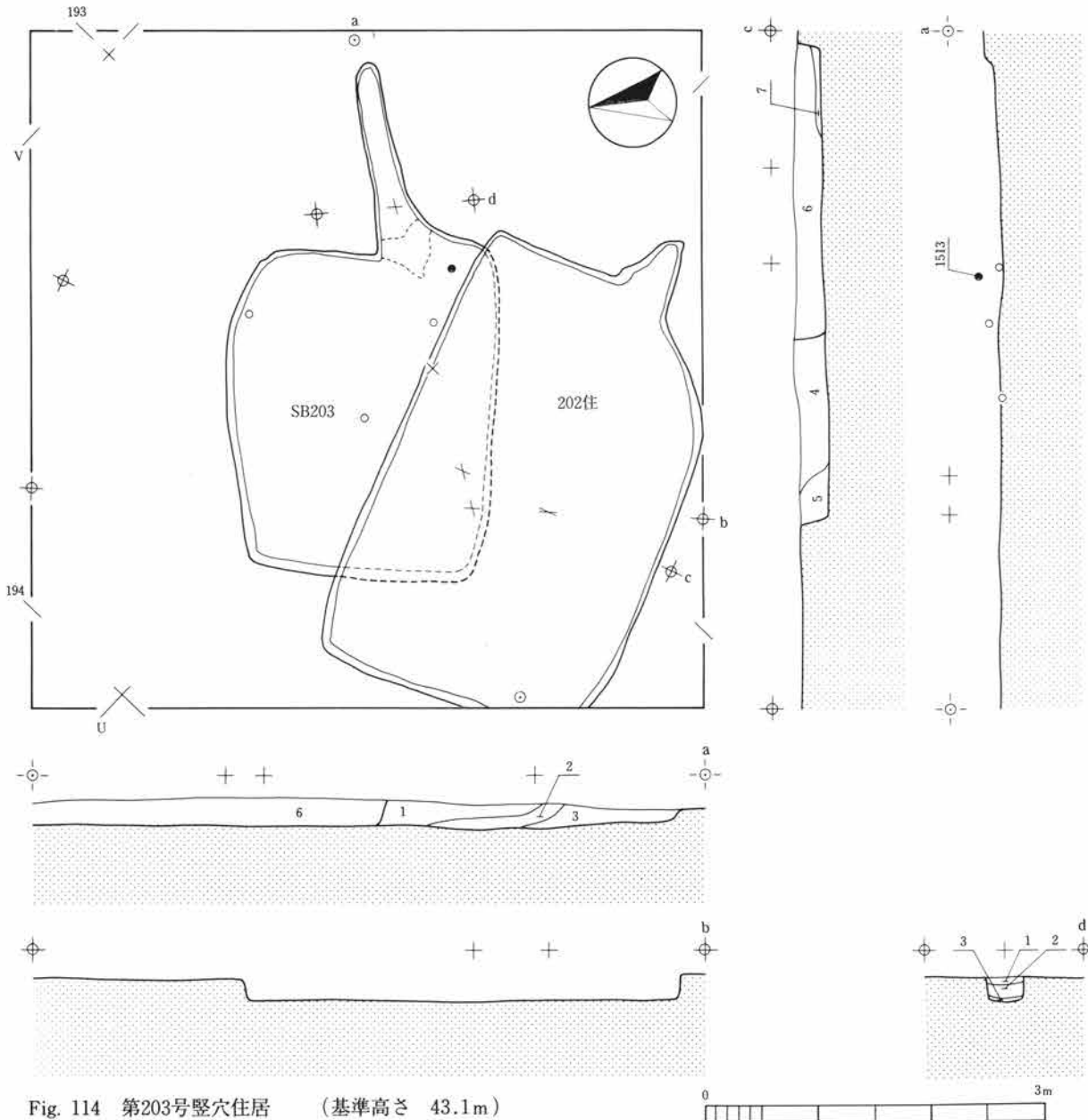


Fig. 114 第203号竪穴住居（基準高さ 43.1m）

第Ⅱ章 遺 構

〈補遺〉 住居の土層分類

住居番号	土層番号	分 類	観 察
SB084	1	住居内覆土	灰褐色土層 鉄分凝集が多く見られる固い粘質土。
	2	85号住覆土	暗褐色土層 軟質。
	3	85号住覆土	褐色土層 やや白味を帯び粘質性を持つ。
	4	85号住覆土	褐色土層 焼土 炭化物混入
	5	85号住覆土	黒色土層 炭層。
	6	窯構築材	焼土。
SB085	1	84号住覆土	灰褐色土層 鉄分凝集が多く見られる固い粘質土。
	2	住居内覆土	暗褐色土層 軟質。
	3	住居内覆土	褐色土層 やや白味を帯び粘質性を持つ。
	4	住居内覆土	褐色土層 焼土 炭化物混入
	5	住居内覆土	黒色土層 炭層。
	6	窯構築材	焼土。
SB095	1	住居内覆土	暗褐色土層。
	2	97号住覆土	暗褐色土層。
	3	96号住覆土	暗灰褐色粘土層 炭化物混入
SB096	1	住居内覆土	暗灰褐色粘土層 炭化物混入
	2	97号住覆土	暗褐色土層。
	3	95号住覆土	暗褐色土層。
SB099	1	住居内覆土	暗褐色土層 軽石 炭化粒を含み粘質性を帯びる。
	2	住居内覆土	暗褐色土層 軽石混入。
	3	攪 乱	
	4	住居内覆土	暗褐色土層 粘質を持つ。
	5	窯体埋没土	暗褐色土層 やや粘質を持ち炭化物粒を混入。
	6	窯構築材	軟らかい焼土。
	7	窯下構築材	炭化物、灰、焼土の混土層。
	8	窯構築材	焼土ブロック
	9	窯下構築材	若干の焼土と粘土粒の混土層
	10	167土壌埋土	暗褐色土層 炭化物、粘土、軽石を混入。
	11	167土壌埋土	黒褐色土層。
SB100	1	住居内覆土	褐色土層 軽石を多量に含むしまった層。
SB150	1	住居内覆土	褐色土層 若干の鉄分と炭化物を含む砂質土。
	2	住居内覆土	褐色土層 粘性のある砂質土。
	3	151号住覆土	褐色土層 炭化物を含む軟かい層。
	4	151号住覆土	暗褐色粘質土層。
	5	217(B)土壌埋土	褐色土層 炭化物粒を含む砂質土。
	6	217(B)土壌埋土	褐色土層 暗褐色粘質土の含まれる砂質土。
	7	152号住覆土	褐色土層 暗褐色粘土を帯状

住居番号	土層番号	分 類	観 察
	7	152号住覆土	に含む砂質土。
	8	152号住覆土	褐色土層 砂質土で焼土粒子をわずかに含む。
SB151	1	150号住覆土	褐色土層 若干の鉄分と炭化物を含む砂質土。
	2	150号住覆土	褐色土層 粘性のある砂質土。
	3	住居内覆土	褐色土層 炭化物を含む軟らかい層。
	4	住居内覆土	暗褐色粘質土層。
	5	217(B)土壌	褐色土層 炭化物粒を含む砂質土。
	6	217(B)土壌埋土	褐色土層 暗褐色粘質土の含まれる粘質土。
	7	152号住覆土	褐色土層 暗褐色粘土を帯状に含む砂質土。
	8	152号住覆土	褐色土層 砂質土で焼土粒子をわずかに含む。
SB152	1	150号住覆土	褐色土層 若干の鉄分と炭化物を含む砂質土。
	2	150号住覆土	褐色土層 粘性のある砂質土。
	3	151号住覆土	褐色土層 炭化物を含む軟かい層。
	4	151号住覆土	暗褐色粘質土層。
	5	217(B)土壌埋土	褐色土層 炭化物粒を含む砂質土。
	6	217(B)土壌埋土	褐色土層 暗褐色粘質土の含まれる砂質土。
	7	住居内覆土	褐色土層 暗褐色粘土を帯状に含む砂質土。
	8	住居内覆土	褐色土層 砂質土で焼土粒子をわずかに含む。
SB172	1	住居内覆土	褐色土層 砂質分を含む。
	2	住居内覆土	褐色土層 暗褐色粘質土が斑点状に見られる。
	3	窯崩落土	褐色土層 暗褐色粘質土粒と粘土、焼土の混土。
	4	173号住覆土	黄褐色土層 鉄分の凝集が見られるしまった層。
	5	173号住覆土	褐色土層 暗褐色土を斑点状に含む砂質土。
	6	173号住覆土	黒褐色土層 粘質土。
	7	173号柱覆土	褐色土層 暗褐色粘質土混入。
SB173	1	住居内覆土	黄褐色土層 鉄分の凝集が見られるしまった層。
	2	住居内覆土	褐色土層 暗褐色土を斑点状に含む砂質土。
	3	住居内覆土	褐色土層 暗褐色粘質土混入。
	4	窯崩落土	黒褐色土層 粘質土。
	5	172号住覆土	褐色土層 砂質分を含む。
	6	172号住覆土	褐色土層 暗褐色粘質土が斑点状に見られる。

## 2. 掘立柱建物の調査

本遺跡では14棟の掘立柱建物が検出されている。もちろん道路幅と河川幅を合計した約90m幅で、長さ540mの対象地域であり、それも多分に早川の蛇行による侵食の影響による集落立地の台地の減少や、西今井館跡への用水路の取水工事の結果による河道変化が与えた影響などが遺跡の景観復元を阻害していることは否めない。これらの条件を念頭に遺跡の立地を考えてみる。掘立柱建物は4ヶ所にその立地が分けられる。I区のF090周辺に1号掘立柱建物が、Ⅲ区のK125～K130周辺に2号～11号の掘立柱建物、Ⅳ区のC135の周辺に12、13号掘立柱建物が、Ⅳ区のU145周辺に14号掘立柱建物が位置する。これらの建物群の全てのグループは調査区域外にもその広がりが予測される。14棟の建物群は標高42mから42.5mの間に立地する。これらの建物の規模は柱穴間での積で比較すると5号掘立柱建物は8㎡と最小、2号掘立柱建物は49㎡で最大である。その他、2間×2間の総柱建物である3号、7号、11号掘立柱建物は約10mで、柱間3.5mということも近似しており、性格の共通性をうかがわせる。また2間×3間の4号、6号、8号、9号、10号掘立柱建物は平面積は約30㎡に近似しておりこれも共通性がうかがえる。また1号掘立柱建物は東辺と南辺に廂を持つことで注目される。規模は30㎡と小形で方形の身舎である。それでは建物群桁行には約束事が考えられるのであろうか。桁行又は、梁行を北により近い位置関係に置き換えてみると以下のようにまとめられる。北に対して西へ5度以内の建物は2号～9号、11号、12号掘立柱建物の10棟である。東に7度前後のものは10号、13号掘立柱建物である。東に15度前後のものは1号、14号掘立柱建物である。これらのまとまりを示す建物は発掘区域内ではどんな共通性を持つのであろうか。1号掘立柱建物と14号掘立柱建物は調査区域の北端と南端に約220mと隔たり孤立しているかのようにみえる。10棟の北に向く建物群は企画線上に並ぶようにみえる。例えば2号と4号の掘立柱建物の南辺と、3号掘立柱建物の中軸線が直線的である。同じように4号と8号の掘立柱建物の西辺と7号掘立柱建物の中軸線が直線的である。また6号と8号の掘立柱建物の南辺は直線的である。これらの建物の軸線が直交するように建て並べられることに何らかの約束事が存在するとみてよいのであろう。

### ＜補遺＞ 掘立柱建物の土層分類

掘立柱建物番号	土層番号	観 察	掘立柱建物番号	土層番号	観 察
1	1	黒色土層 炭化物、軽石を含む。	6	1	褐色土層 多量の鉄分凝集あり。
	2	暗褐色土層 ローム粒、焼土混入。		2	暗褐色土層 軟質で炭化物混入。
	3	黄褐色土層 ローム粒、褐色土混入。		3	暗褐色土層 砂質分を含み粘質あり。
	4	黄褐色土層 ローム粒混入。	7	1	灰色砂層 若干の鉄分凝集あり。
	5	粘土ブロック		2	灰色砂層 炭化物を含む。
	6	ローム粒。		8	1
2	1	暗褐色土層 若干の粘質を持つ。	2		暗褐色土層 砂質、炭化物混入。
	2	暗褐色土層 砂質を帯び軟質。	11	1	褐色土層 粘質で鉄分凝集あり。
	3	褐色土層 炭化物、焼土、粘土混入。		14	1
	4	暗褐色土層 黒味を帯び炭化物混入。	2		褐色土層 鉄分、炭化物を含む。
	5	焼土、粘土、炭化物のブロック層。	3		灰褐色土層 軟かな砂質土。
6	暗褐色土層 黒味を帯び軟質。	4	褐色土層 炭化物を含む。		
7	黒褐色土層。	3	1	灰色砂層。	
3	1		灰色砂層。	2	灰色砂層。
	2		灰色砂層。	3	未確認。
	3	未確認。			

第II章 遺 構

1号掘立柱建物 (遺構 PL. 30、土層 117p)

発掘区I区のE90に位置する、東辺、南辺に廂をもつ南北棟建物である。身舎の東西5.7m(2間)、南北5.58~5.85m(2間)に東西1.83~2.5m、南北1.88~2.42mの廂が付き、方位はN-15°-Eを取る。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴-2.75m-2号柱穴-2.95m-3号柱穴-2.9m-4号柱穴-2.95m-5号柱穴-3.0m-6号柱穴-2.7m-7号柱穴-2.83m-8号柱穴-2.75m-1号柱穴、3号柱穴-1.83m-9号柱穴-2.42m-10号柱穴-2.8m-11号柱穴-2.42m-12号

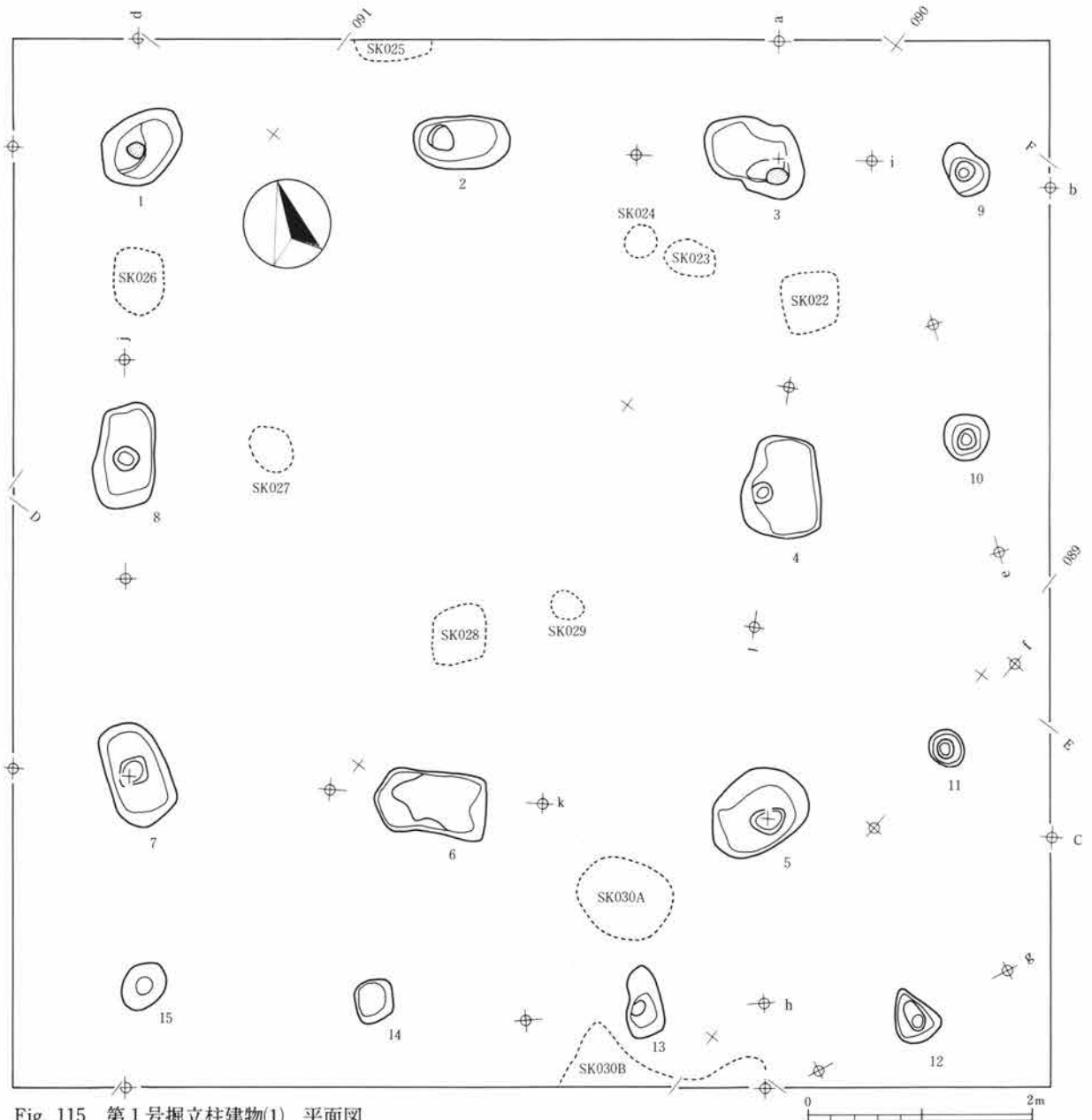
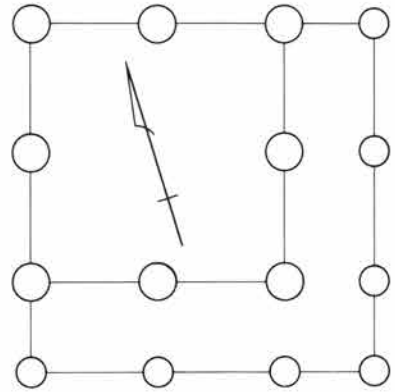


Fig. 115 第1号掘立柱建物(1) 平面図

2 掘立柱建物の調査

柱穴—2.5m—13号柱穴—2.4m—14号柱穴—2.12m—15号柱穴—1.88m—7号柱穴。1号柱穴—深さ44cm、短径60cm、長径83cm、2号柱穴—深さ43cm、短径49cm、長径87cm、3号柱穴—深さ57cm、短径56cm、長径98cm、4号柱穴—深さ60cm、短径71cm、長径90cm、5号柱穴—深さ50cm、短径71cm、長径94cm、6号柱穴—深さ34cm、短径55cm、長径1.01m、7号柱穴—深さ63cm、短径56cm、長径93cm、8号柱穴—深さ40cm、短径54cm、長径92cm、9号柱穴—深さ51cm、短径34cm、長径50cm、10号柱穴—深さ34cm、短径40cm、長径41cm、11号柱穴—深さ45cm、短径29cm、長径33cm、12号柱穴—深さ45cm、短径37cm、長径50cm、13号柱穴—深さ55cm、短径31cm、長径64cm、14号柱穴—深さ24cm、短径37cm、長径43cm、15号柱穴—深さ28cm、短径37cm、長径47cmを測る。

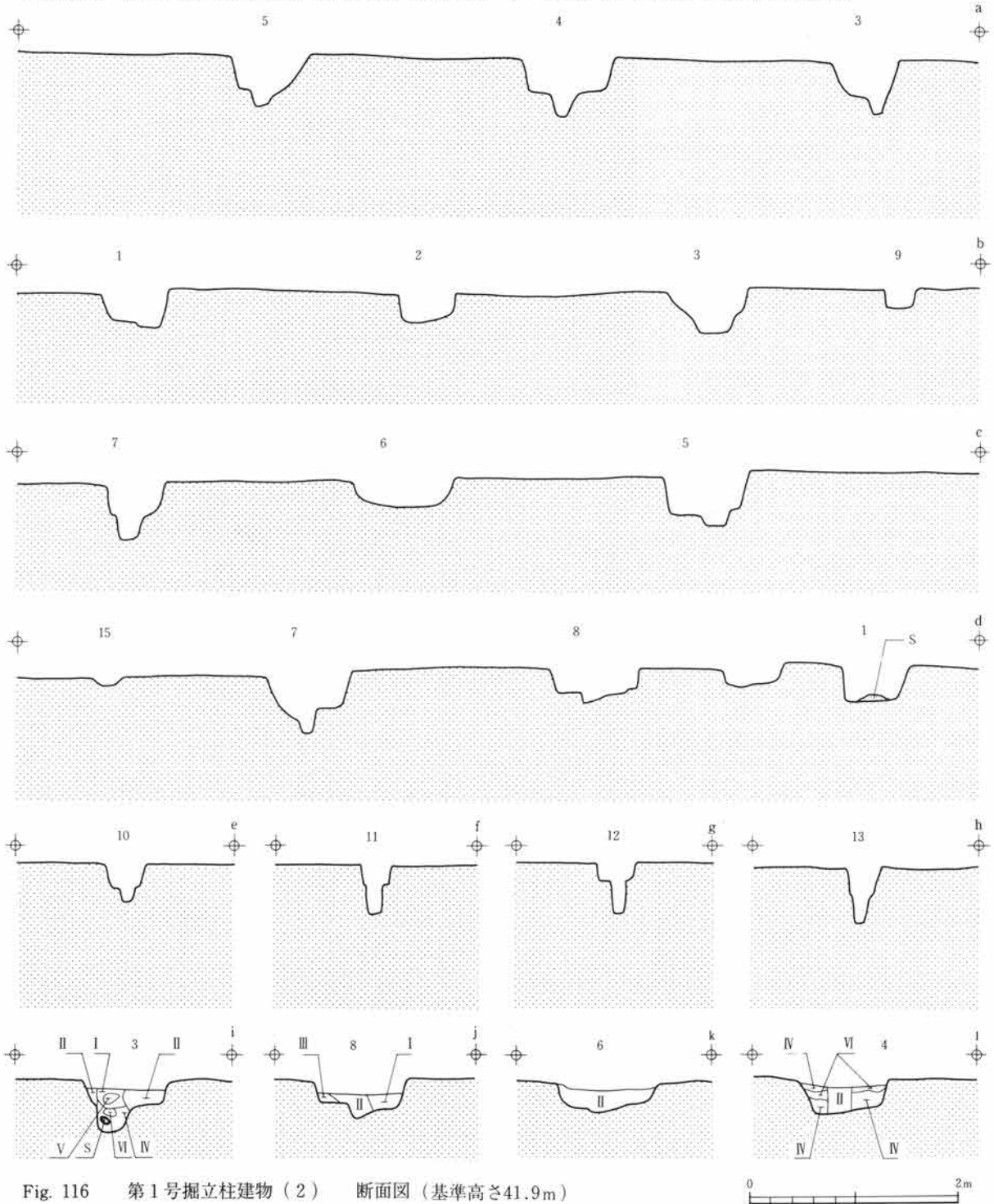


Fig. 116 第1号掘立柱建物(2) 断面図(基準高さ41.9m)

第Ⅱ章 遺 構

2号掘立柱建物 (遺構 PL. 30、遺物 Fig. 218、土層 117p)

発掘区Ⅲ区のO125に位置する南北棟建物である。南北9.66~10.03m(4間)、東西4.95~5.0m(3間)、方位はN-1°-Wを取る。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴-1.6m-2号柱穴-1.6m-3号柱穴-1.8m-4号柱穴-2.21m-5号柱穴-2.75m-6号柱穴-2.3m-7号柱穴-2.4m-8号柱穴-2.03m-9号柱穴-1.3m-10号柱穴-1.65m-11号柱穴-2.43m-12号柱穴-2.3m-13号柱穴-2.6m-14号柱穴2.7cm-1号柱穴。各柱穴の深さは1号柱穴59cm、2号柱穴49cm、3号柱穴51cm、4号柱穴77cm、5号柱穴63cm、6号柱穴63cm、7号柱穴62cm、8号柱穴72cm、9号柱穴61cm、10号柱穴66cm、11号柱穴57cm、12号柱穴62cm、13号柱穴63cm、14号柱穴65cmを測る。

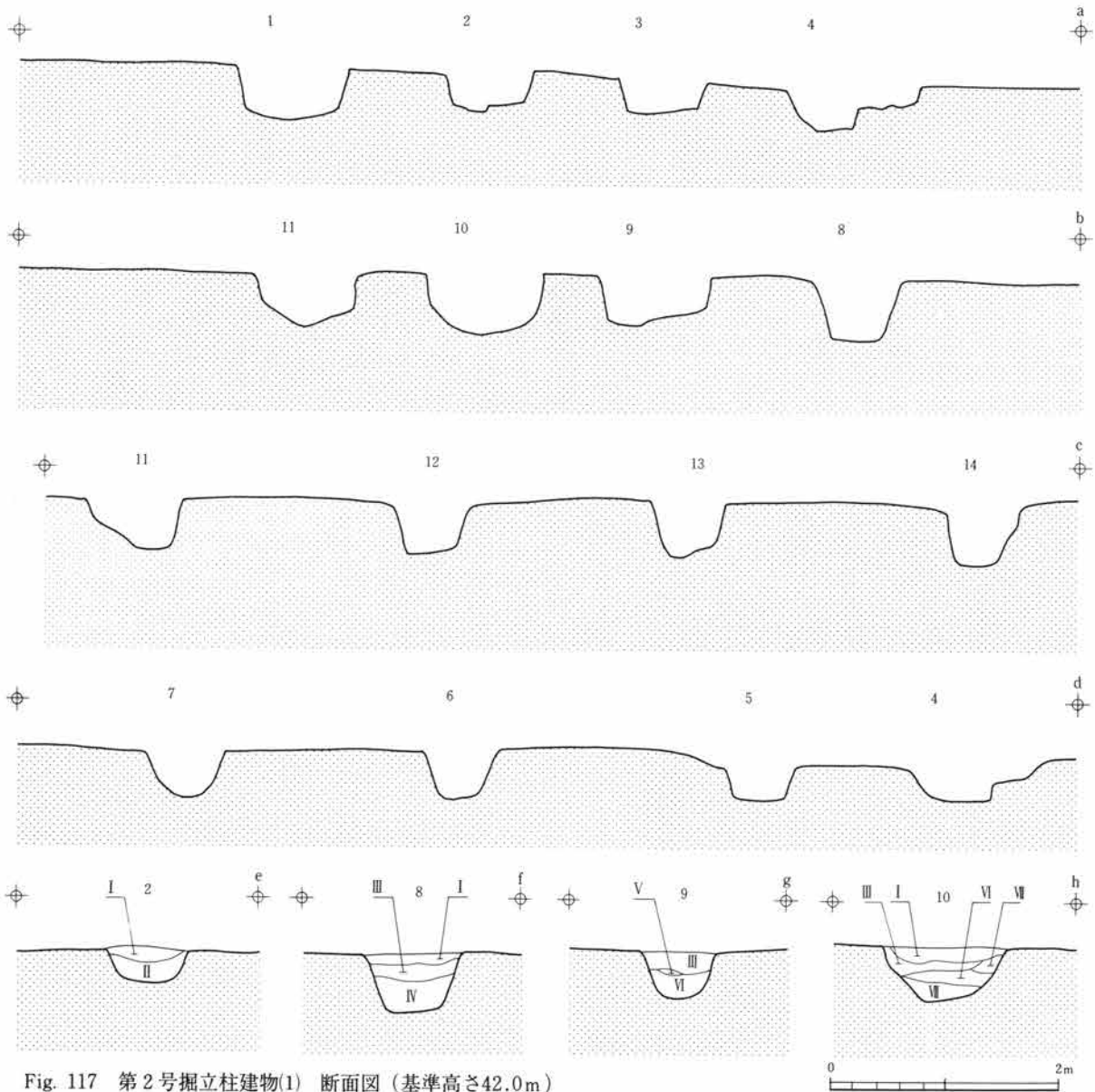
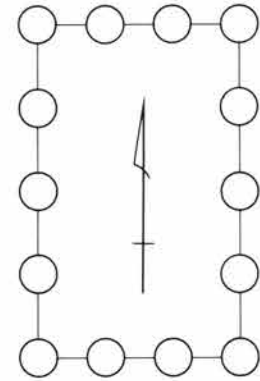


Fig. 117 第2号掘立柱建物(1) 断面図 (基準高さ42.0m)



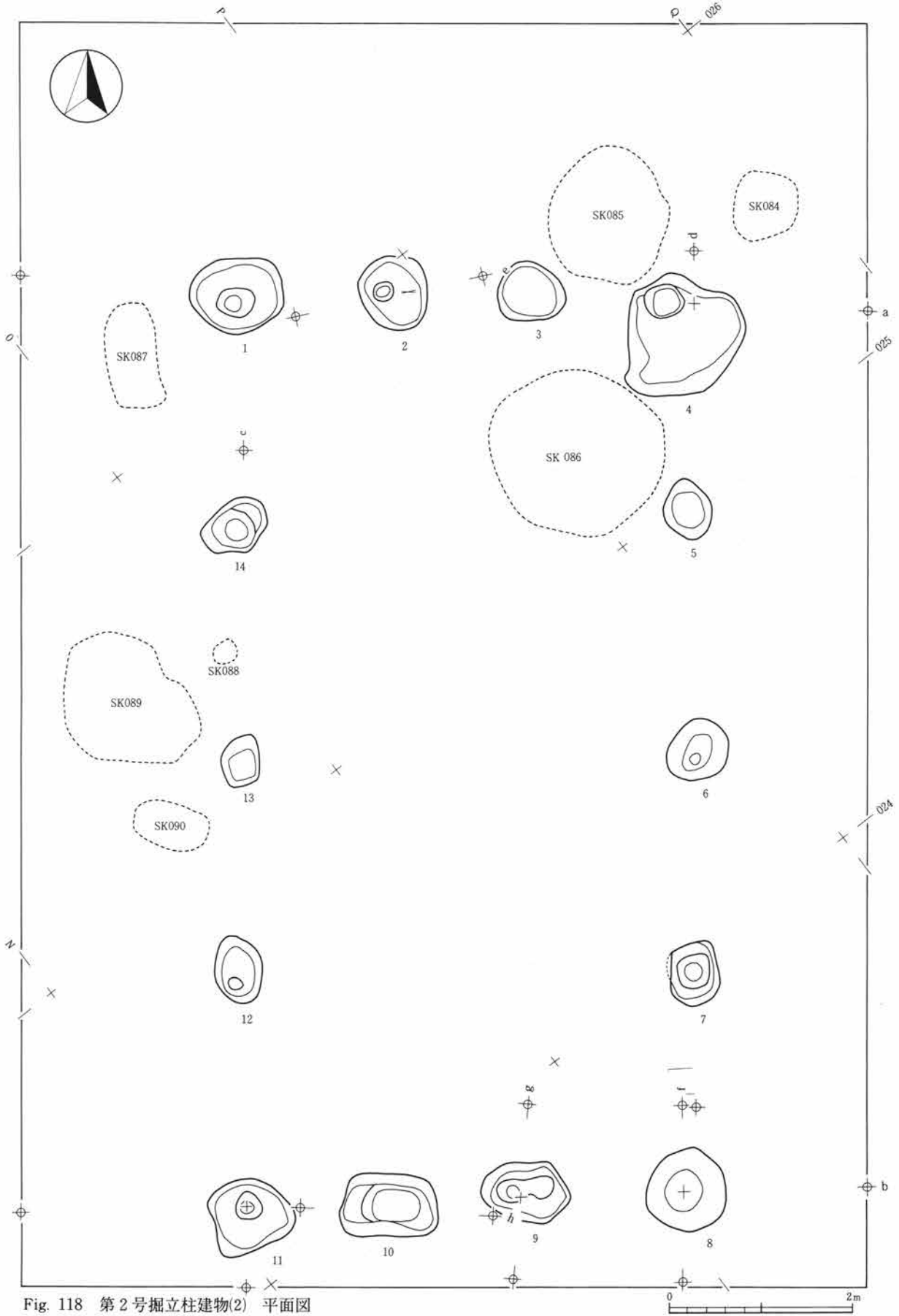


Fig. 118 第2号掘立柱建物(2) 平面図

第II章 遺 構

3号掘立柱建物 (遺構 PL. 30、遺物 Fig. 218、土層 117p)

発掘区Ⅲ区のJ 128に位置する東西棟建物である。東西3.59～3.61m(2間)、南北3.3～3.33m(2間)、方位はN—88.5°—Eを取る。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴—1.95m—2号柱穴—1.66m—3号柱穴、4号柱穴—1.94m—5号柱穴—1.65m—6号柱穴、7号柱穴—1.94m—8号柱穴—1.66m—9号柱穴、1号柱穴—1.78m—4号柱穴—1.55m—7号柱穴、2号柱穴—1.76m—5号柱穴—1.54m—8号柱穴、3号柱穴—1.74m—6号柱穴—1.56m—9号柱穴。各柱穴の深さは69～91cmを測り、平面形の短径は0.67～1.12m、長径は0.79～1.36mを測る。

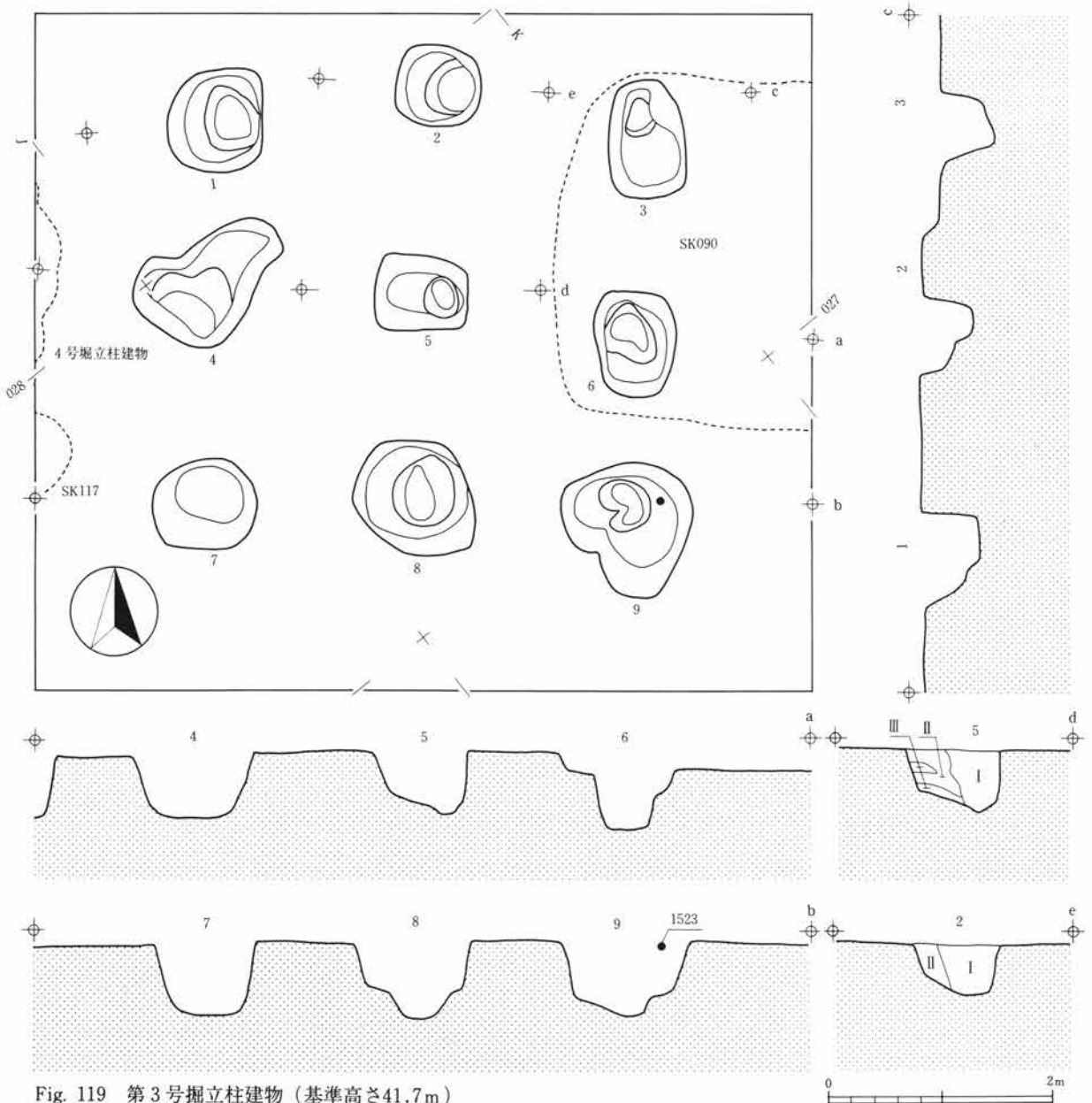
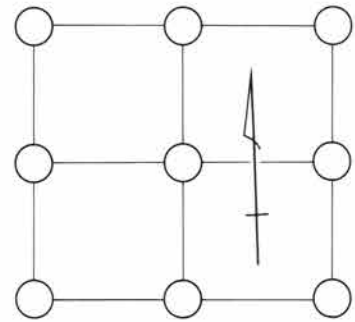


Fig. 119 第3号掘立柱建物 (基準高さ41.7m)

## 4号掘立柱建物 (遺構 PL. 30、遺物 Fig. 218)

発掘区Ⅲ区のI129に位置する東西棟建物である。東西6.35～6.64m(3間)、南北4.47～4.51m(2間)、方位はN-89°-Eを取る。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴-2.37m-2号柱穴-2.0m-3号柱穴-2.27m-4号柱穴-2.27m-5号柱穴-2.2m-6号柱穴-2.38m-7号柱穴-2.1m-8号柱穴-2.05m-9号柱穴-2.31m-10号柱穴-2.2m-1号柱穴。各柱穴の深さと径は、1号柱穴-深さ74cm、短径87cm、長径1.18m、2号柱穴-深さ71cm、短径84cm、長径93cm、3号柱穴-深さ69cm、短径87cm、長径99cm、4号柱穴-深さ83cm、短径1.01m、長径

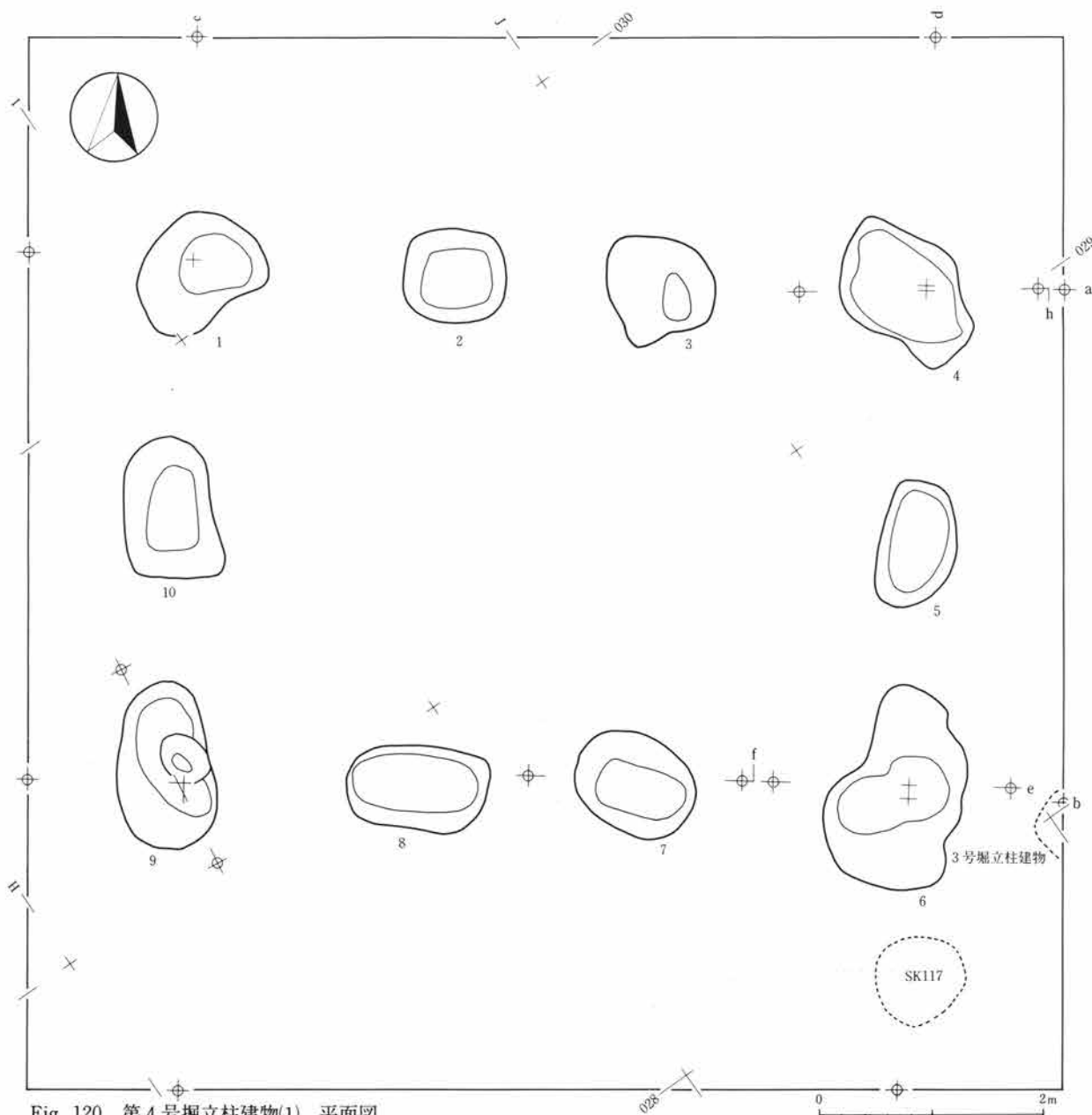
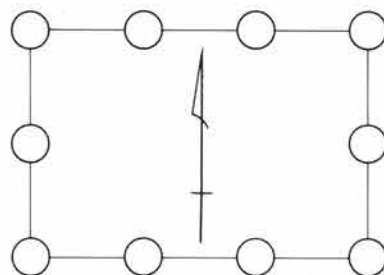


Fig. 120 第4号掘立柱建物(1) 平面図

## 第II章 遺 構

1.42m、5号柱穴—深さ73cm、短径69cm、長径1.14m、6号柱穴—深さ77cm、短径1.1m、長径1.8m、7号柱穴—深さ60cm、短径86cm、長径1.13m、8号柱穴—深さ67cm、短径75cm、長径1.28m、9号柱穴—深さ82cm、短径86、長径1.5m、10号柱穴—深さ67cm、短径81cm、長径1.26mを測る。覆土は5層に分けられた。土質は1層は暗灰色砂層と黑色ブロックの混土層、2層は灰色砂層、3層は少量の黑色ブロックを含む層、4層は多量の黑色ブロックを含む層、5層は黑色ブロック層である。遺構の検出面は標高41.8mである。この面からの柱穴の深さは浅いものは7号柱穴で60cm、深いもので4号柱穴で83cm、平均的には70cmほどである。柱穴の形は隅丸の長方形を呈し、平均的には長径120cm、短径85cmほどである。いずれも柱の軸線に沿って長径が並び柱穴の中心部を通り、極めて計画性の高い建物と考えられる。柱穴の埋土は5層に分類される。1層は暗灰色砂質土層と黑色ブロック細粒の混土、2層は灰色砂質土層に鉄分凝集が強くみられるもの、3層は黒褐色土ブロック細粒を少量含む暗褐色土層、4層は黑色粘質ブロックを多量に含む暗褐色土層、5層は黑色ブロック粒を含む暗灰褐色の砂質土層である。本遺構の東側に近接して3号掘立柱建物が位置する。3ヶ所の柱穴の底部から平たい河原石が出土していることから柱の沈下を防ぐ礎板の役割を果たしていたと考えられる。7号柱穴からNo1525、9号柱穴からNo1526の須恵器碗が出土している。

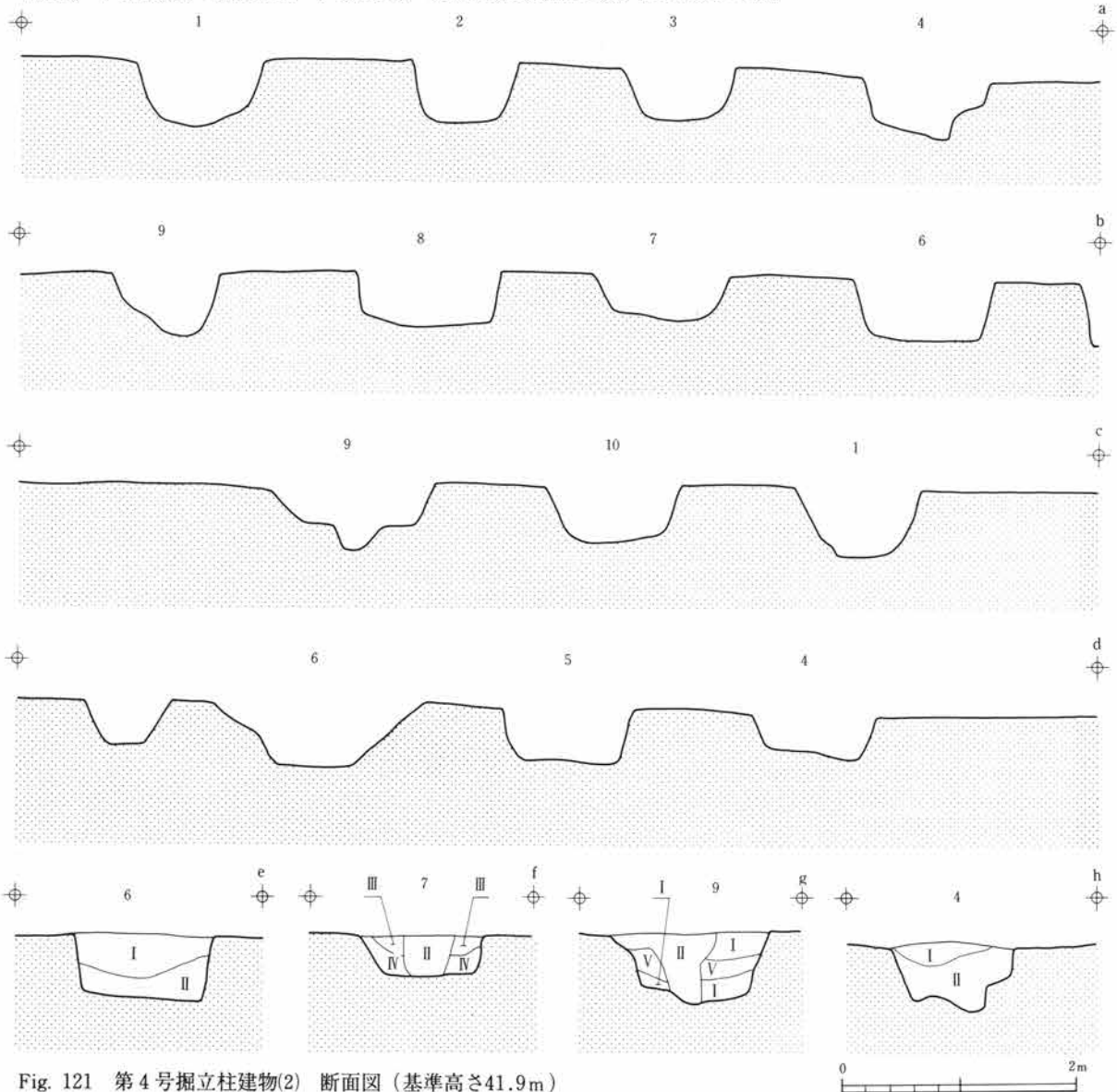


Fig. 121 第4号掘立柱建物(2) 断面図(基準高さ41.9m)

5号掘立柱建物 (遺構 PL. 30)

発掘区Ⅲ区のU127に位置する東西棟建物である。東西3.1~3.29m (2間)、南北2.48~2.57m(2間)、方位はN-85°-Eを取る。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴-1.71m-2号柱穴-1.58m-3号柱穴、4号柱穴-1.65m-5号柱穴-1.55m-6号柱穴、7号柱穴-1.57m-8号柱穴-1.53m-9号柱穴、1号柱穴-1.21m-4号柱穴-1.36m-7号柱穴、2号柱穴-1.24m-5号柱穴-1.28m-8号柱穴、3号柱穴-1.28m-6号柱穴-1.2m-9号柱穴。各柱穴の深さは18~39cmを測り、平面形の短径は27~39cm、長径は31~52cmを測る。

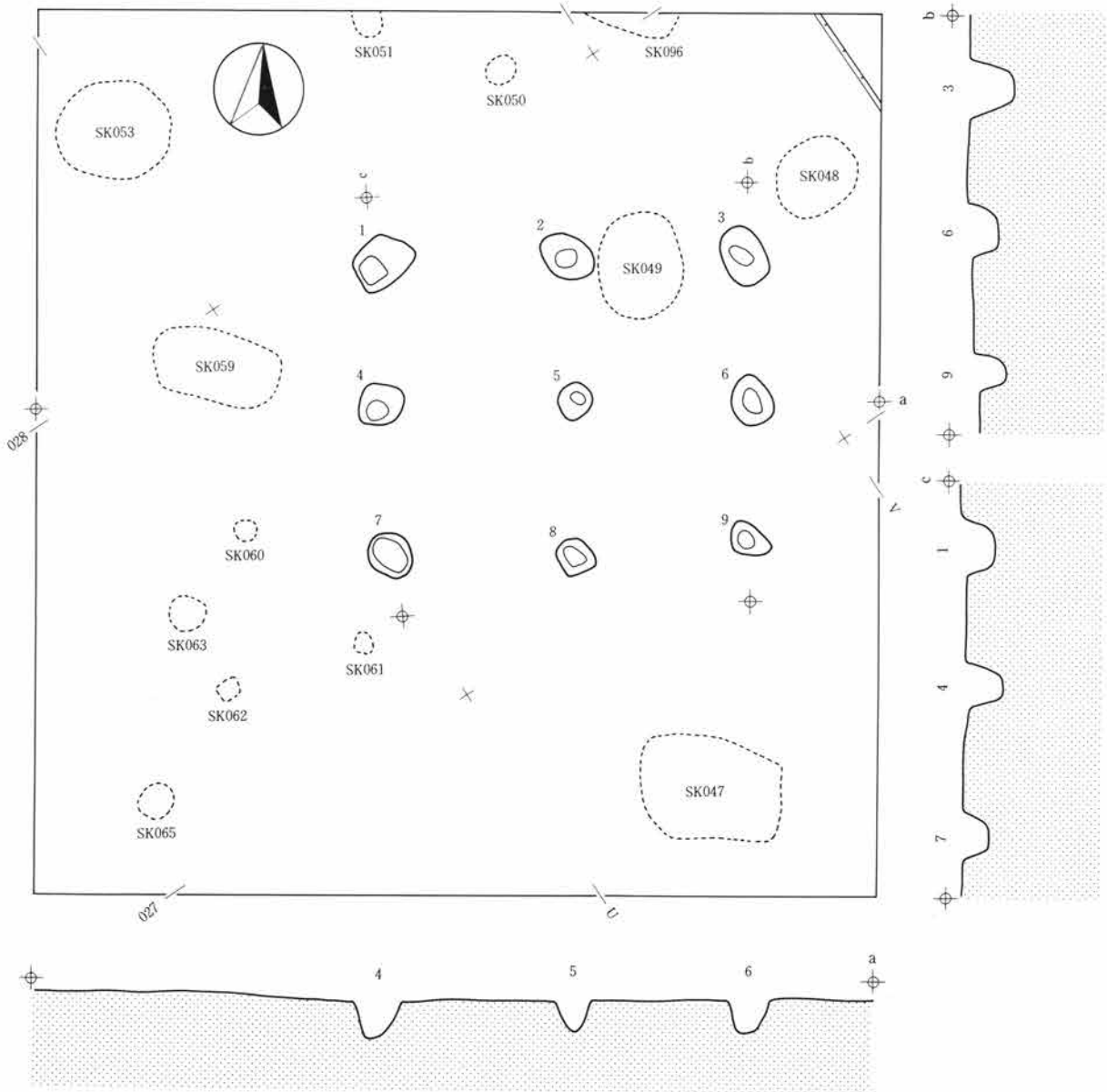
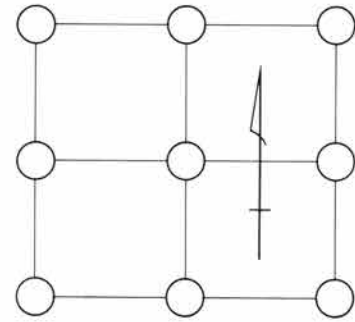


Fig. 122 第5号掘立柱建物 (基準高さ42.0m) 平面図

第II章 遺 構

6号掘立柱建物 (遺構 PL. 30、遺物 Fig. 218、土層 117p)

発掘区Ⅲ区のO130に位置する南北棟建物である。東西4.25~4.37m(2間)、南北6.05~6.17m(3間)、方位はN-1°-Eを取る。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴-2.25m-2号柱穴-2.0m-3号柱穴-1.92m-4号柱穴-2.4m-5号柱穴-1.85m-6号柱穴-2.42m-7号柱穴-1.95m-8号柱穴-2.05m-9号柱穴-1.85m-10号柱穴-2.15m-1号柱穴。各柱穴の深さは、1号柱穴1.03m、2号柱穴91cm、3号柱穴60cm、4号柱穴85cm、5号柱穴88cm、6号柱穴79cm、7号柱穴79cm、8号柱穴87cm、9号柱穴99cm、10号柱穴94cmを測り、平面形は短径0.53~1.21m、長径0.74~1.3mを測る。1層は褐色土層、2層は暗褐色土層、3層は地山の砂質土を含む暗褐色土。

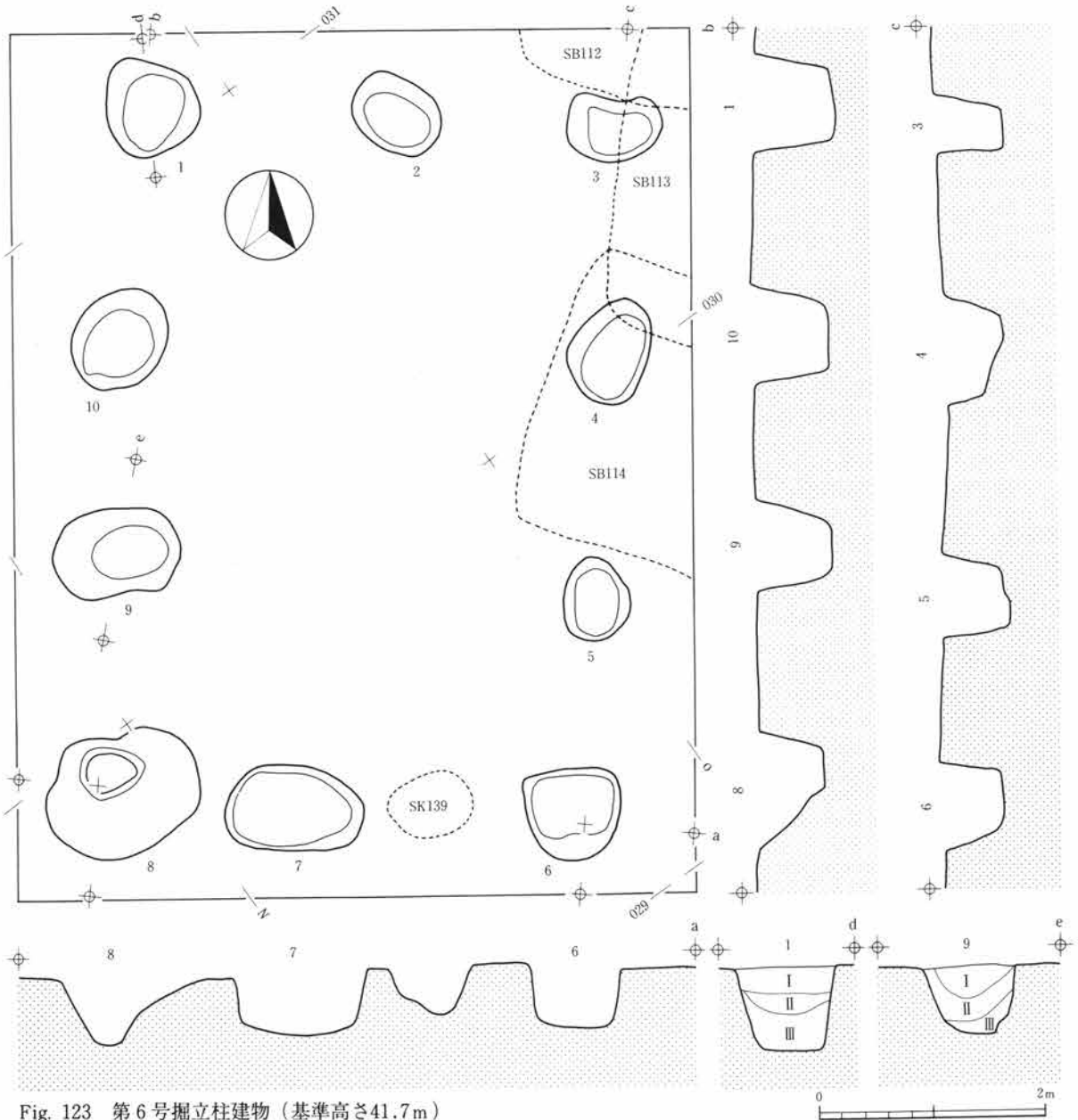
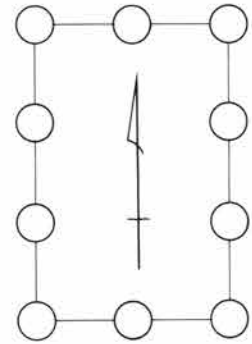


Fig. 123 第6号掘立柱建物 (基準高さ41.7m)

7号掘立柱建物 (遺構 PL. 30、31、土層 117p)

発掘区Ⅲ区のJ132に位置する南北棟建物である。東西3.26～3.59m(2間)、南北3.44～3.67m(2間)、方位はN-3.5°-Wを取る。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴-1.77m-2号柱穴-1.82m-3号柱穴、4号柱穴-1.68m-5号柱穴-1.75m-6号柱穴、7号柱穴-1.57m-8号柱穴-1.69m-9号柱穴、1号柱穴-1.69m-4号柱穴-1.75-7号柱穴、2号柱穴-1.9m-5号柱穴-1.65m-8号柱穴、3号柱穴-1.12m-6号柱穴-1.55m-9号柱穴。各柱穴の深さは67～95cmを測り、平面形は短径0.6～0.83m、長径0.77～1.13mを測る。

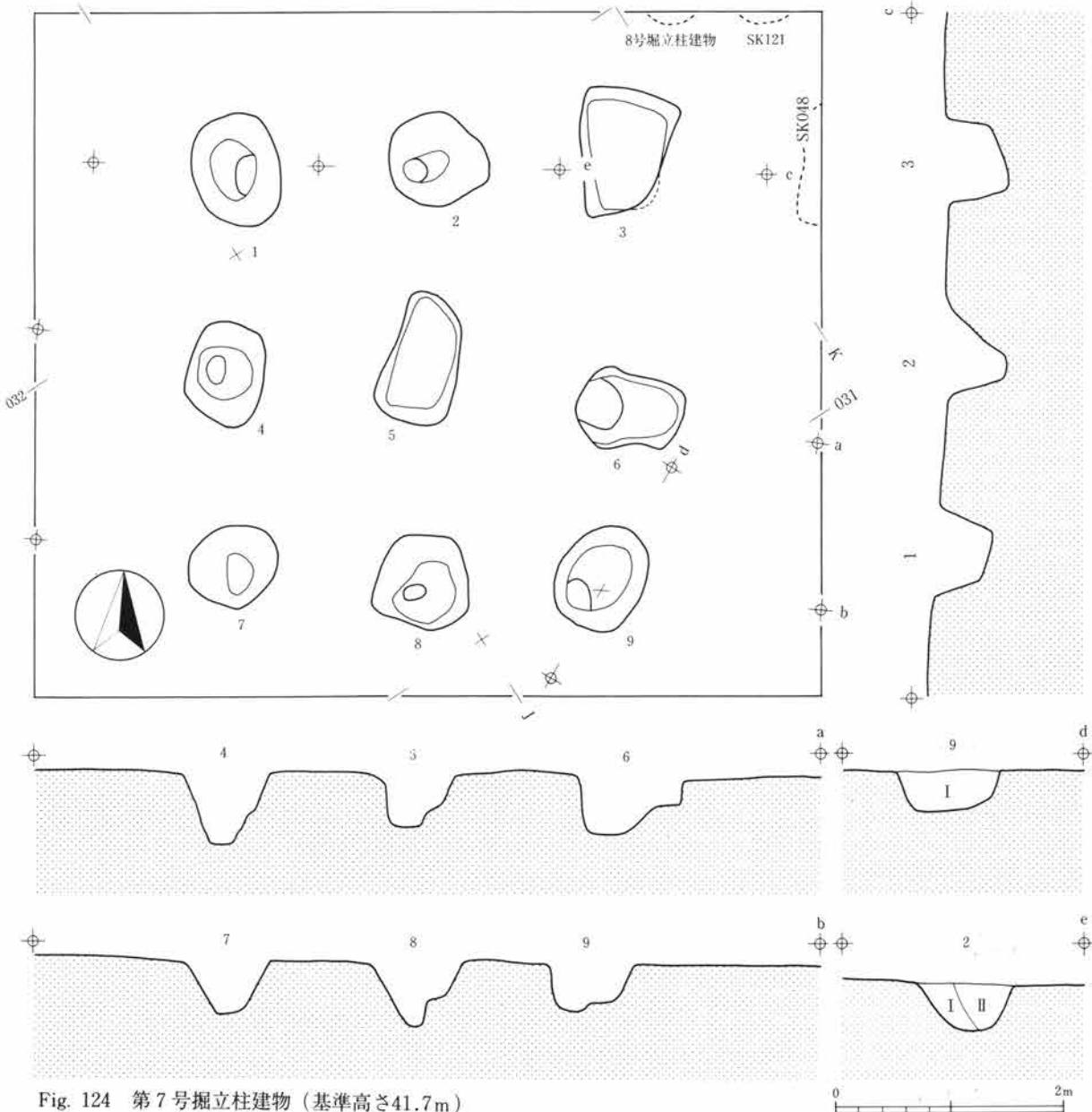
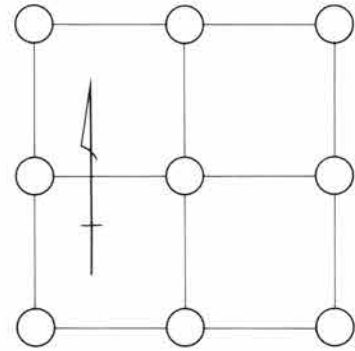


Fig. 124 第7号掘立柱建物 (基準高さ41.7m)

8号掘立柱建物 (遺構 PL. 30、31、土層 117p)

発掘区Ⅲ区のL133に位置する南北棟建物である。東西4.08～4.54m(2間)、南北7.8～8.2m(3間)、方位はN-2.5°-Wを取る。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴-2.04m-2号柱穴-2.04m-3号柱穴-2.55m-4号柱穴-2.85m-5号柱穴-2.7m-6号柱穴-2.27m-7号柱穴-2.27m-8号柱穴-2.3m-9号柱穴-2.7m-10号柱穴-2.8m-1号柱穴。各柱穴の深さは、1号柱穴87cm、2号柱穴81cm、3号柱穴70cm、4号柱穴81cm、5号柱穴1m、6号柱穴1.08m、7号柱穴1.2m、8号柱穴91cm、9号柱穴98cm、10号柱穴89cmを測る。平面形は短径60～73cm、長径67～95cmを測る。東に9号、西に11号、南に7号掘立柱建物が近接している。本遺構の上に116号住居が重複している。柱穴埋土は1層は炭化物、砂質土層、鉄分凝集層を多量に含む暗褐色、2層は鉄分を含まない暗褐色土層である。

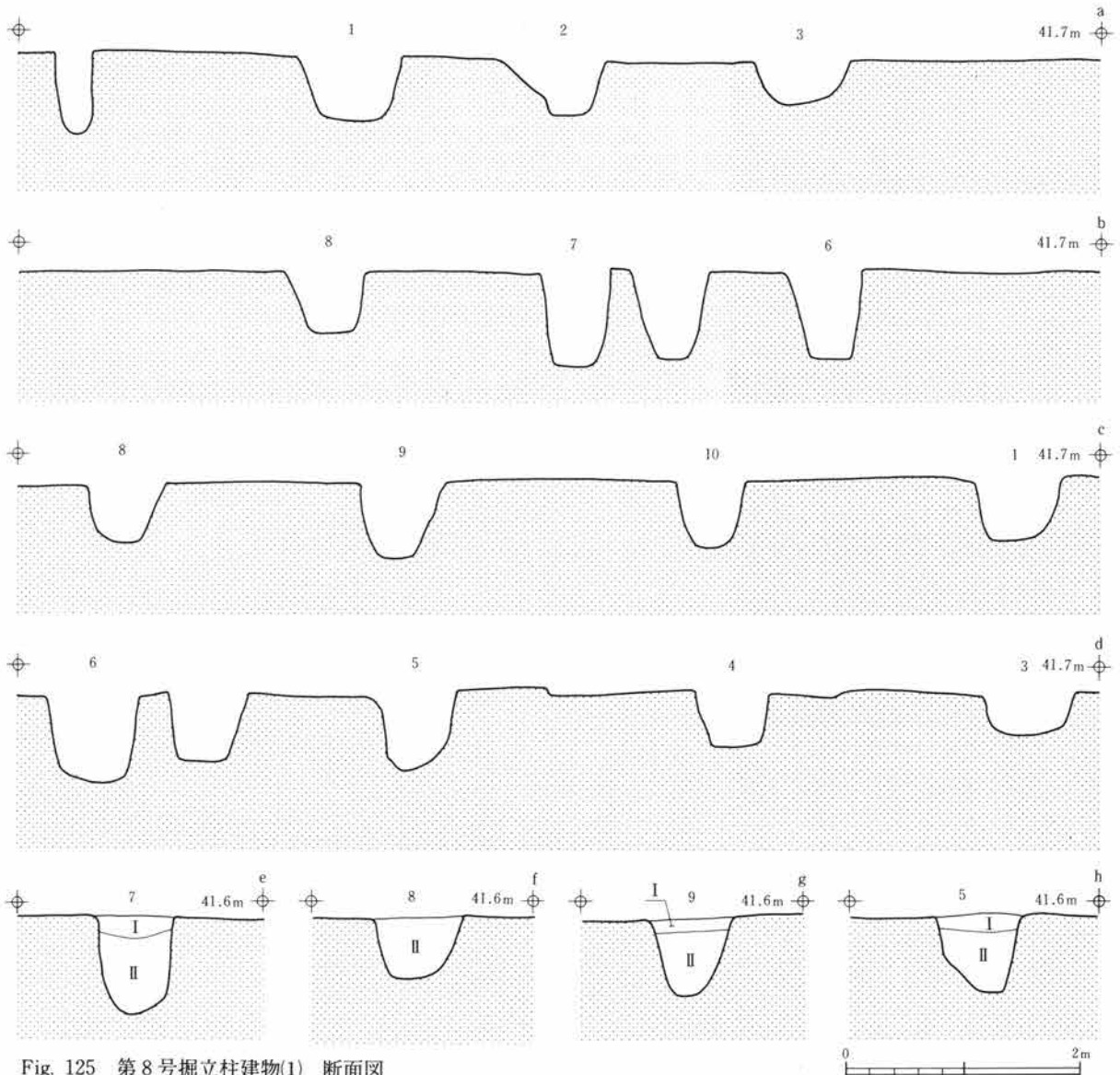
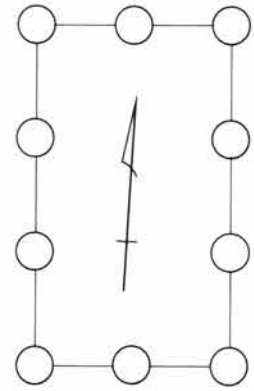


Fig. 125 第8号掘立柱建物(Ⅰ) 断面図





9号掘立柱建物 (遺構 PL. 30, 31)

発掘区Ⅲ区のN133に位置する東西棟建物である。東西6.53～6.56m(3間)、南北4.42～4.43m(2間)、方位はN-88°-Eを取る。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴-2.16m-2号柱穴-2.1m-3号柱穴-2.3m-4号柱穴-2.18m-5号柱穴-2.25m-6号柱穴-2.33m-7号柱穴-2.0m-8号柱穴-2.2m-9号柱穴-1.92m-10号柱穴-2.5m-1号柱穴。各柱穴の深さと径は、1号柱穴-深さ1.4m、短径65cm、長径70cm、2号柱穴-深さ83cm、短径70cm、長径81cm、3号柱穴-深さ69cm、短径67cm、長径73cm、4号柱穴-深さ71cm、短径69cm、長径71cm、

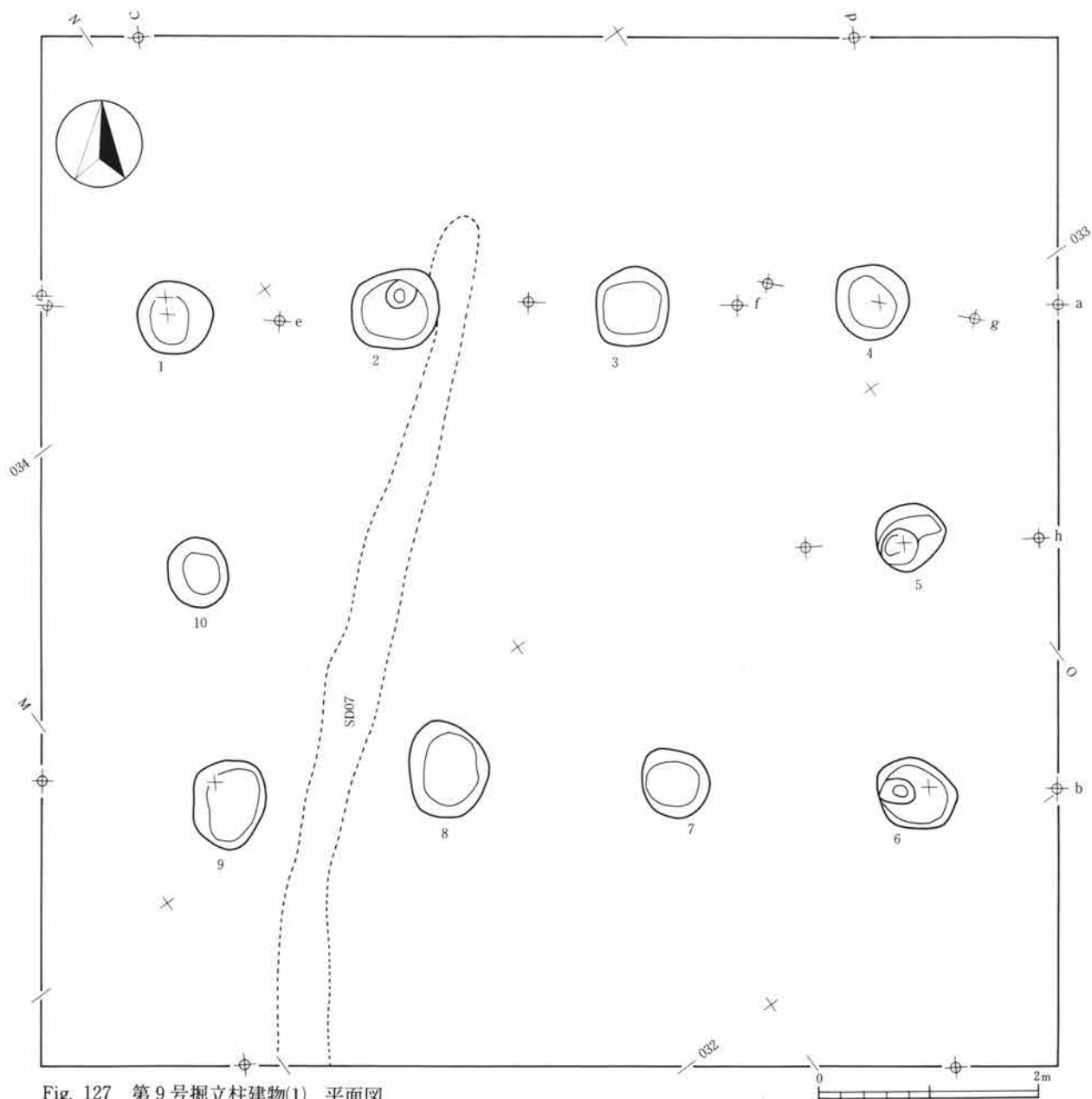
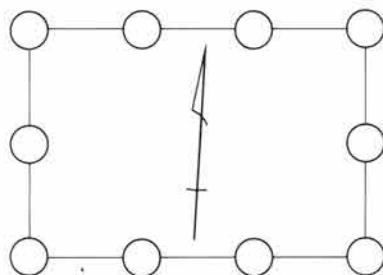


Fig. 127 第9号掘立柱建物(1) 平面図

2 掘立柱建物の調査

5号柱穴—深さ86cm、短径59cm、長径63cm、6号柱穴—深さ84cm、短径63cm、長径78cm、7号柱穴—深さ75cm、短径60cm、長径64cm、8号柱穴—深さ76cm、短径74cm、長径88cm、9号柱穴—深さ86cm、短径67cm、長径82cm、10号柱穴—深さ88cm、短径56cm、長径65cmを測る。覆土は4層に分けられた。土質は1層は暗褐色土層で砂質、炭化物、軽石を含み軟質でサラサラしている層。2層は暗褐色土層で砂質分は含まれない層、3層は暗褐色土層で若干の砂質を含みやや粘質をもつ層、4層は暗褐色土層で多量の鉄分を含み、軟質でサラサラしている層である。本遺構はⅢ区とⅣ区に集中する掘立柱建物群では中位の規模である。5号掘立柱建物、9号掘立柱建物、11号掘立柱建物の3棟は東西方向に50mの距離で3棟同一方向をとるかのようである。さらに南東方向に6号掘立柱建物が、また南西方向に8号掘立柱建物が位置する。柱穴は円形で掘り方は比較的しっかりしている。柱間の東辺と西辺は平行四辺形北に約30cmほど歪む。遺構検出面の標高は41.8mである。

3号柱穴は浅く69cm、1号柱穴は深く140cmを測り平均的には85cm位である。柱穴の大きさの最大は5号柱穴、最小は11号柱穴である。柱穴埋土の1層は暗褐色土の砂層、2層は暗褐色土で砂質分を含まない粘質土層、3層は暗褐色でやや砂質分を含む粘土層、4層は鉄分を多量に含む暗褐色土層である。

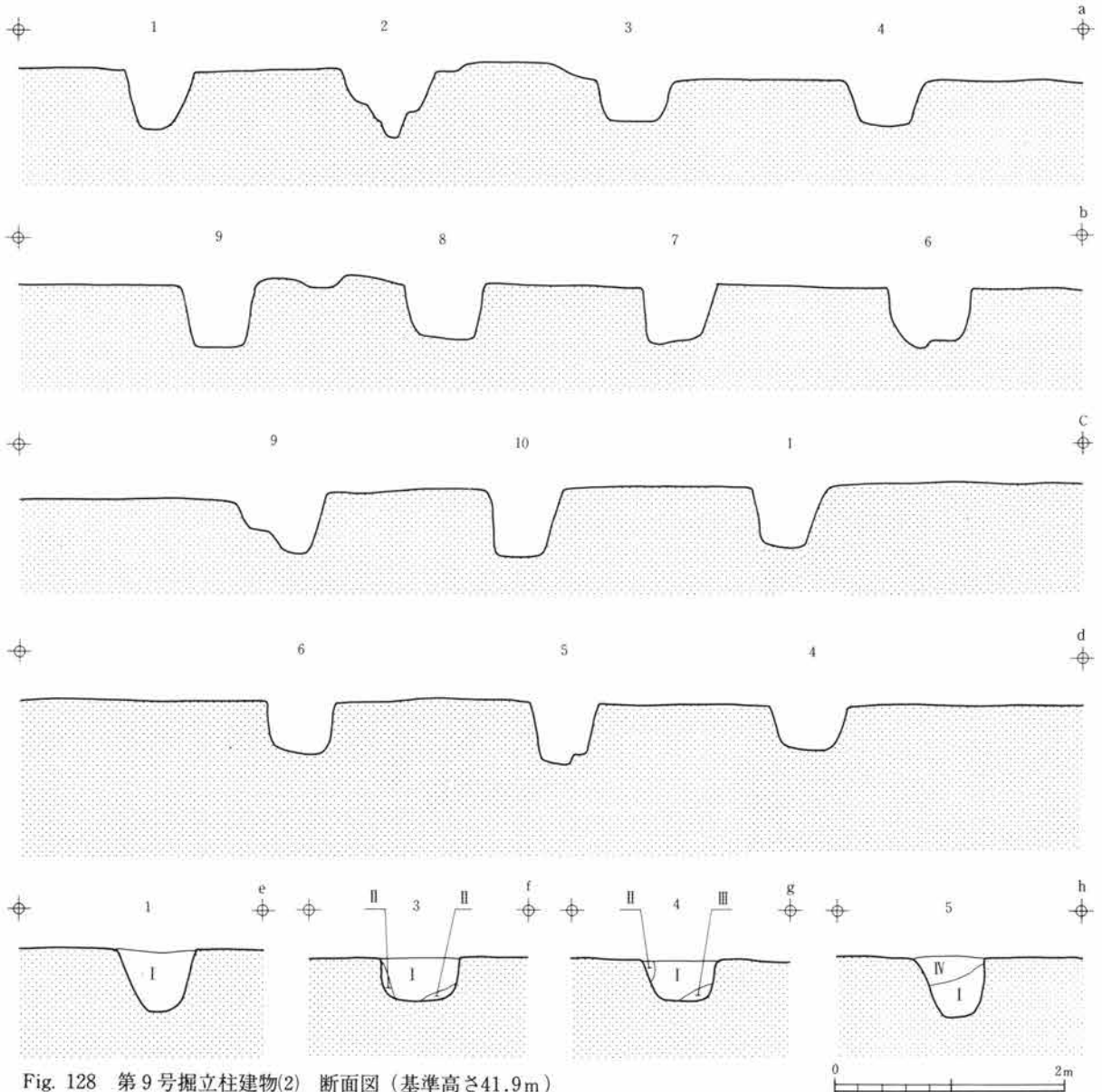


Fig. 128 第9号掘立柱建物(2) 断面図 (基準高さ41.9m)

10号掘立柱建物 (遺構 PL. 30、31、遺物 Fig. 206、218)

発掘区Ⅲ区のS 132に位置する東西棟建物である。東西6.27～6.36m(3間)、南北4.41～4.54m(2間)、方位はN-83°-Wを取る。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴-2.27m-2号柱穴-2.0m-3号柱穴-2.0m-4号柱穴-2.2m-5号柱穴-2.21m-6号柱穴-1.96m-7号柱穴-2.5m-8号柱穴-1.9m-9号柱穴-2.19m-10号柱穴-2.35m-1号柱穴。各柱穴の深さと径は、1号柱穴-深さ38cm、短径78cm、長径1.36cm、2号柱穴-深さ42cm、短径69cm、長径1.06cm、3号柱穴-深さ37cm、短径82cm、長径92cm、4号柱穴-深さ63cm、短径82cm、

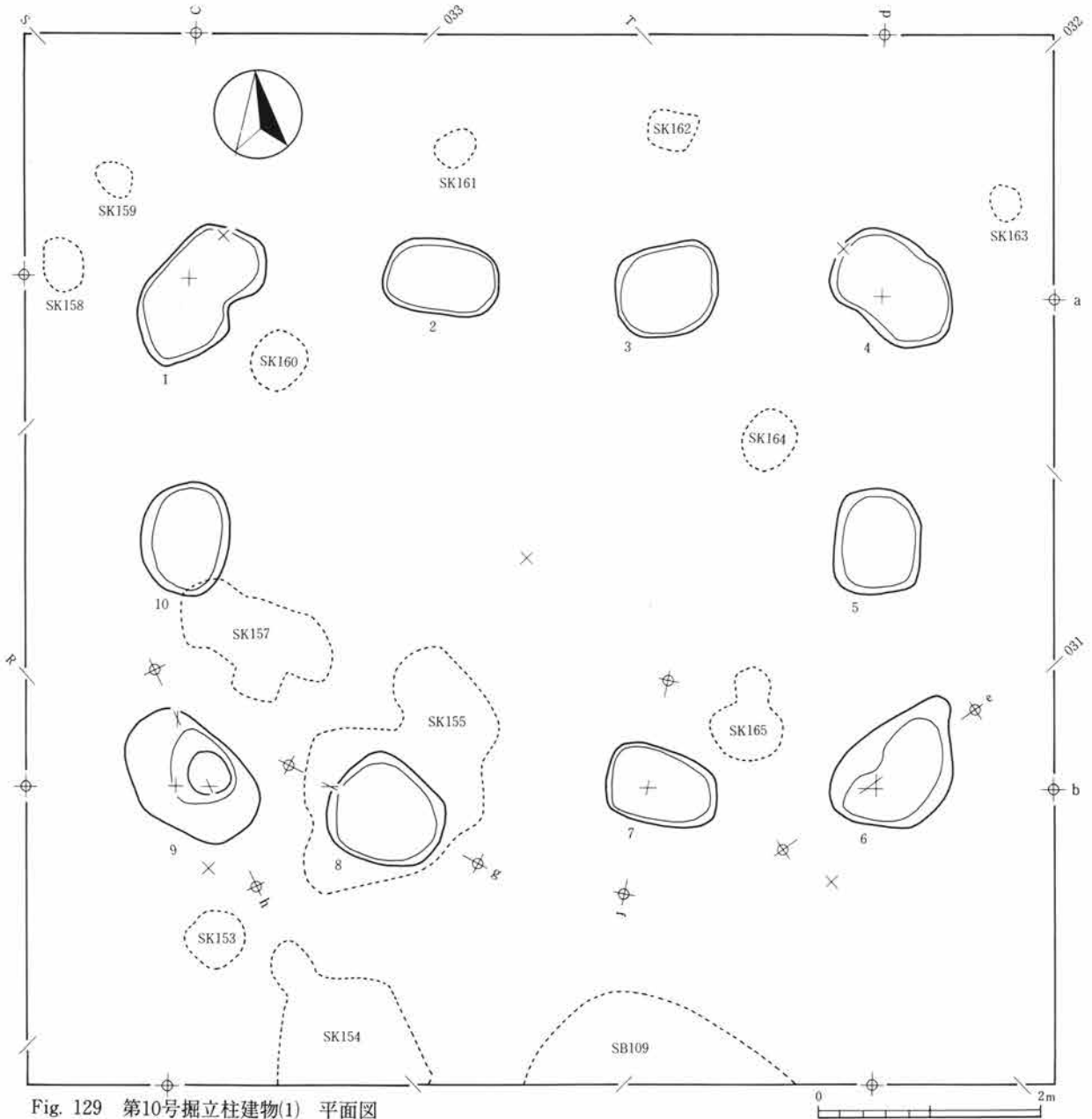
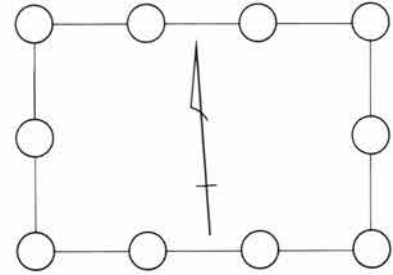


Fig. 129 第10号掘立柱建物(1) 平面図

2 掘立柱建物の調査

長径1.23m、5号柱穴一深さ56cm、短径79cm、長径94cm、6号柱穴一深さ64cm、短径93cm、長径1.33m、7号柱穴一深さ59cm、短径69cm、長径1.02m、8号柱穴一深さ40cm、短径94cm、長径1.07m、9号柱穴一深さ86cm、短径91cm、長径1.36m、10号柱穴一深さ36cm、短径81cm、長径1.02mを測る。覆土は12層に分けられた。土質は1層は暗黒色土層で黒色の粘質土層、2層は暗褐色土層で鉄分凝集を含み軽石、粘土ブロックを混入する層、3層は暗褐色土層で鉄分凝集を若干含み軽石を混入する層、4層は暗褐色土層で鉄分凝集、黒色ブロック粒を含む層、5層は褐色土層で粘質をもち軟らかい層、6層は暗褐色土層で鉄分凝集、黒色ブロック、軽石を含む粘土ブロック層、7層は黒褐色土層、8層は褐色土層で炭化物、粘土ブロック、鉄分凝集、軽石を含む層、9層は黒褐色土層で黒色ブロック、鉄分凝集、軽石を含む層、10層は暗褐色土層で軽石、炭化物粒、鉄分凝集、粘土ブロックを混入する層、11層は暗褐色土層で軽石、炭化物粒を含み砂質を帯び軟質な層、12層は黒褐色土層で黒色ブロックを混入しやや粘質をもつ層である。柱穴の埋土は以下のような層である。1層は黒褐色粘質土層、2層は鉄分凝集の暗褐色土層、3層も2層に近似、4層は黒色ブロックを含む暗褐色土層、5層は褐色土層、6層は鉄分凝集の褐色土層、7層は黒褐色土層、8層は褐色土層、9層は黒色ブロックを含む黒褐色土層、10層は暗褐色土層、11層は炭化物を含む暗褐色土層、12層は粘質の黒褐色土層である。

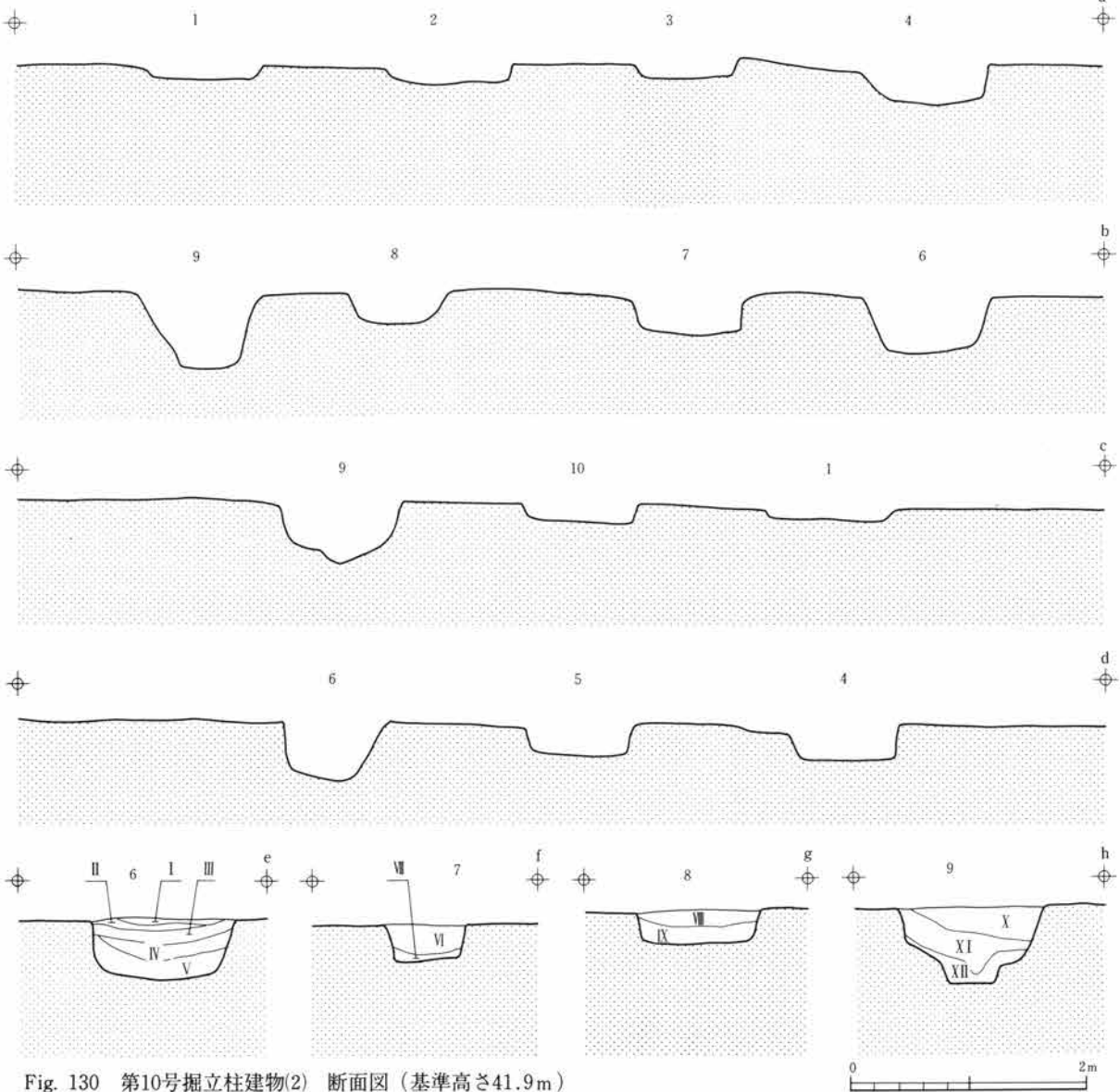


Fig. 130 第10号掘立柱建物(2) 断面図 (基準高さ41.9m)

11号掘立柱建物 (遺構 PL. 31、土層 117p)

発掘区IV区のK134に位置する南北棟建物である。東西2.89~2.98m(2間)、南北3.43~3.57m(2間)、方位はN-1°-Wを取る。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴-1.56m-2号柱穴-1.33m-3号柱穴、4号柱穴-1.52m-5号柱穴-1.41m-6号柱穴、7号柱穴-1.48m-8号柱穴-1.5m-9号柱穴、1号柱穴-1.7m-4号柱穴-1.73m-7号柱穴、2号柱穴-1.77m-5号柱穴-1.73m-8号柱穴、3号柱穴-1.83m-6号柱穴-1.74m-9号柱穴。各柱穴の深さは、1号柱穴90cm、2号柱穴89cm、3号柱穴78cm、4号柱穴1.05m、5号柱穴86cm、6号柱穴89cm、7号柱穴86cm、8号柱穴93cm、9号柱穴84cmを測る。

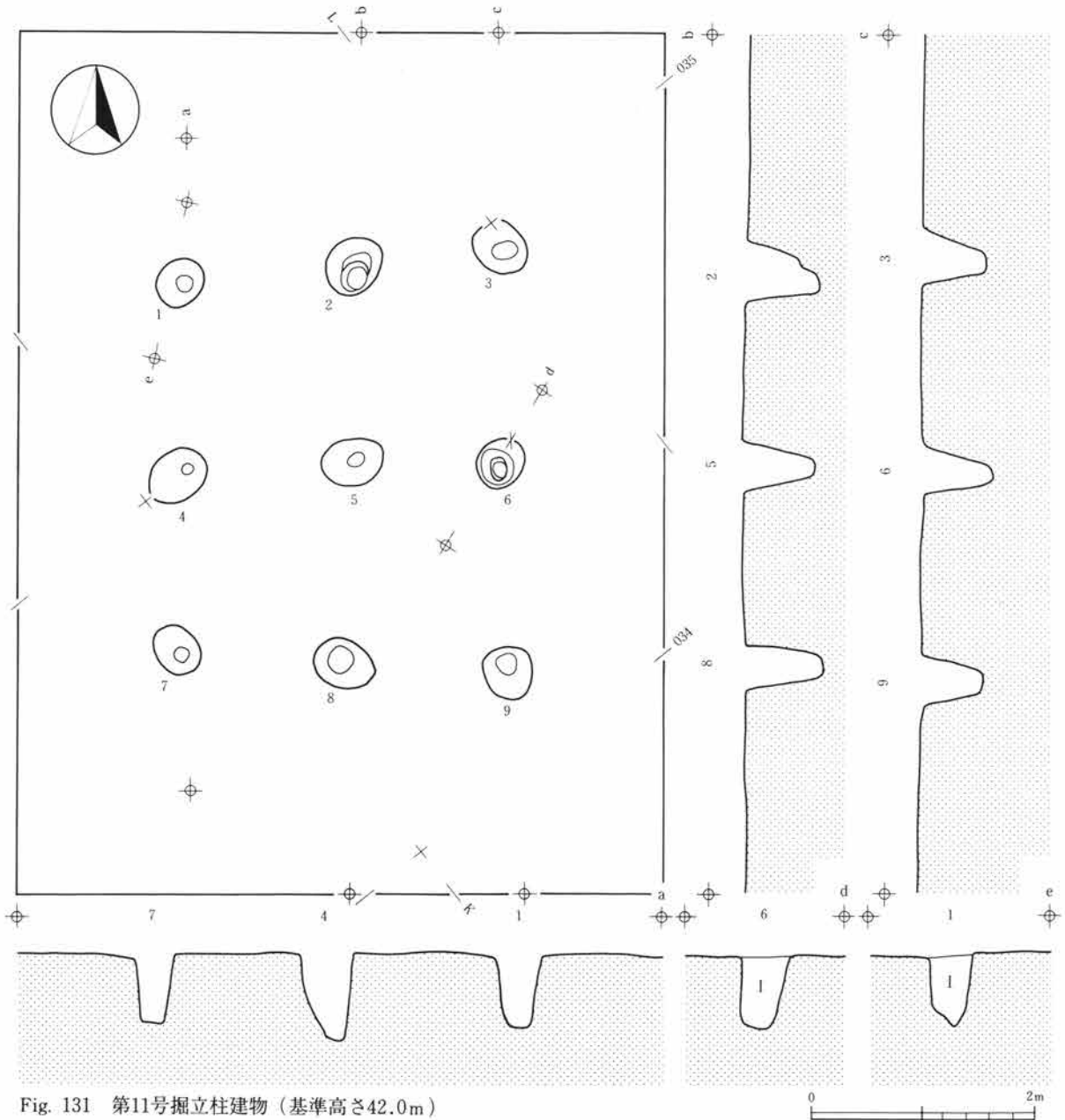
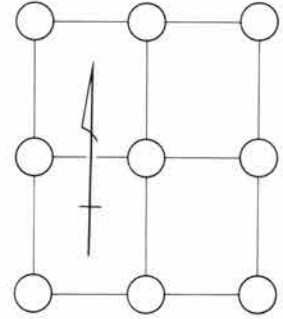


Fig. 131 第11号掘立柱建物 (基準高さ42.0m)

## 12号掘立柱建物 (遺構 PL. 31)

発掘区Ⅳ区のD133に位置する東西棟建物である。東西3.3~3.67m(2間)、南北3.3~3.43m(2間)、方位はN-1°-Eを取る。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴-1.6m-2号柱穴-1.7m-3号柱穴-1.68m-4号柱穴-1.75m-5号柱穴-1.97m-6号柱穴-1.7m-7号柱穴-1.55m-8号柱穴-1.75m-1号柱穴。各柱穴の深さは、1号柱穴34cm、2号柱穴39cm、3号柱穴31cm、4号柱穴31cm、5号柱穴40cm、6号柱穴27cm、7号柱穴40cm、8号柱穴41cmを測り、平面形の短径23~30cm、長径は24~33cmと小規模である。本遺構西方20mに13号掘立柱建物が全体確認ではないがある。

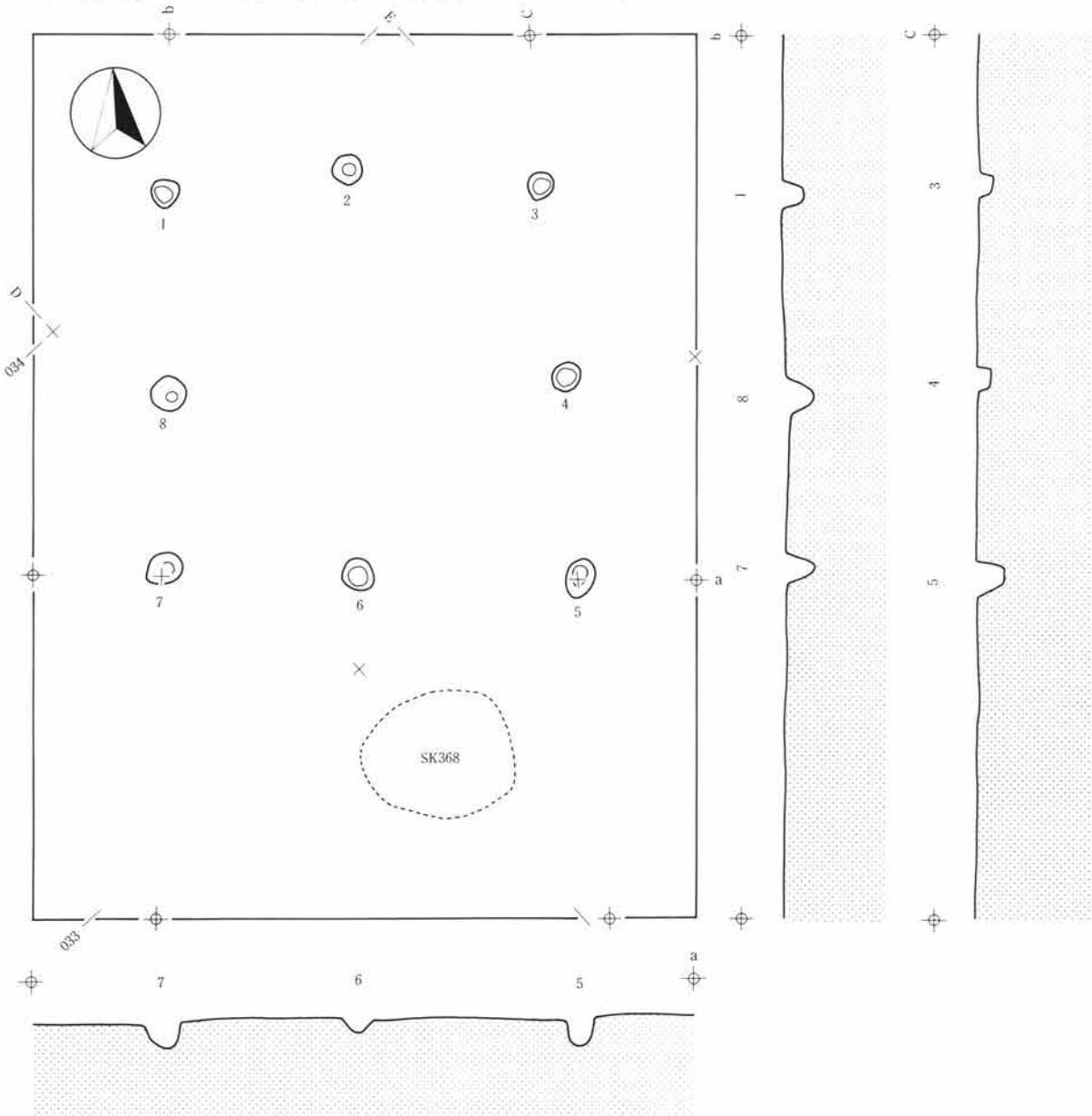
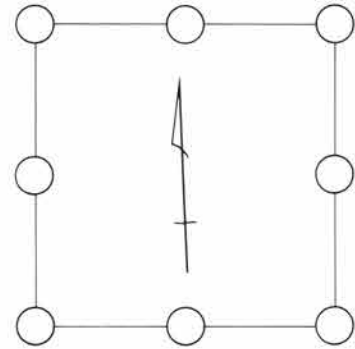


Fig. 132 第12号掘立柱建物 (基準高さ41.9m)

0 2m

13号掘立柱建物 (遺構 PL. 31)

発掘区IV区のA139に位置する東西棟建物である。東西4.11m(2間)、南北3.73m(2間)、方位はN-7°-Eを取り、南西地区は未発掘である。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴-2.11m-2号柱穴-2.0m-3号柱穴-1.98m-4号柱穴-1.75m-5号柱穴。各柱穴の深さは、1号柱穴31cm、2号柱穴27cm、3号柱穴52cm、4号柱穴19cm、5号柱穴10cmと全体的に浅く、各柱穴の平面形の径は1号柱穴43~64cm、2号柱穴36~39cm、3号柱穴41cm、4号柱穴41~44cm、5号柱穴49~56cmを測る。本遺構の南西側は発掘調査区域外であるため本報告では2間×2間の規模に復元してある。

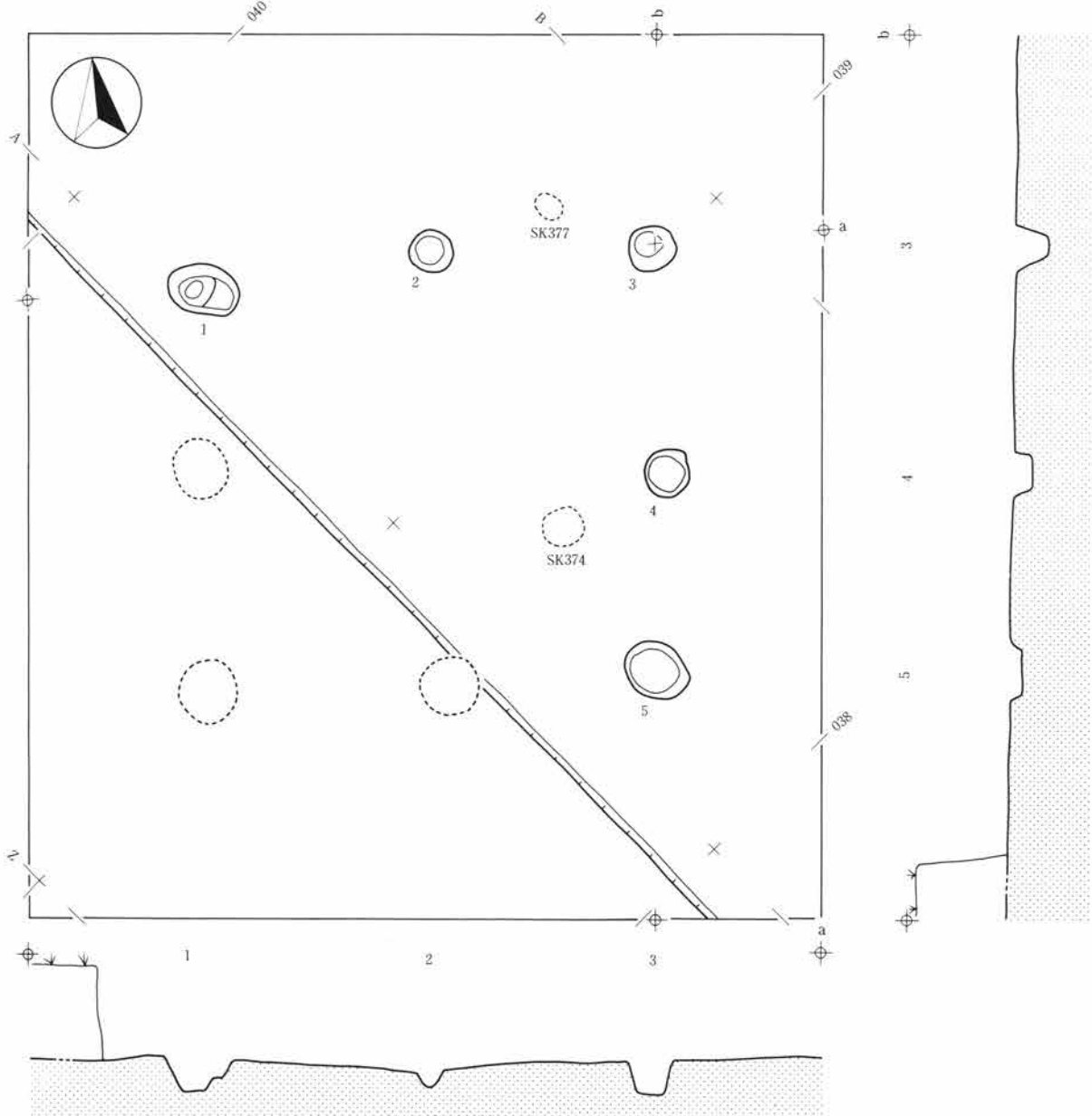
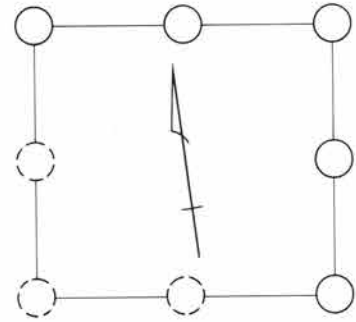


Fig. 133 第13号掘立柱建物 (基準高さ42.6m)



14号掘立柱建物 (遺構 PL. 31、遺物 Fig. 218、土層 117p)

発掘区Ⅳ区のT143に位置する東西棟建物である。東西4.8m(3間)、南北3.18~3.2m(2間)、方位はN-72°-Wを取る。柱穴間の距離は以下の通りである。1号柱穴-1.4m-2号柱穴-1.8m-3号柱穴-1.4m-4号柱穴-1.7m-5号柱穴-1.7m-6号柱穴-1.43m-7号柱穴-1.75m-8号柱穴-1.8m-9号柱穴-3.0m-1号柱穴。各柱穴の深さは、1号柱穴42cm、2号柱穴50cm、3号柱穴56cm、4号柱穴57cm、5号柱穴59cm、6号柱穴60cm、7号柱穴58cm、8号柱穴54cm、9号柱穴53cmを測り、平面形の短径は0.65~0.85m、長径は0.76~2.4mを測る。柱穴埋土の土層は1層は褐色土層で粘土ブロックを混土、2層は褐色土、3層は灰褐色土、4層は褐色土層。

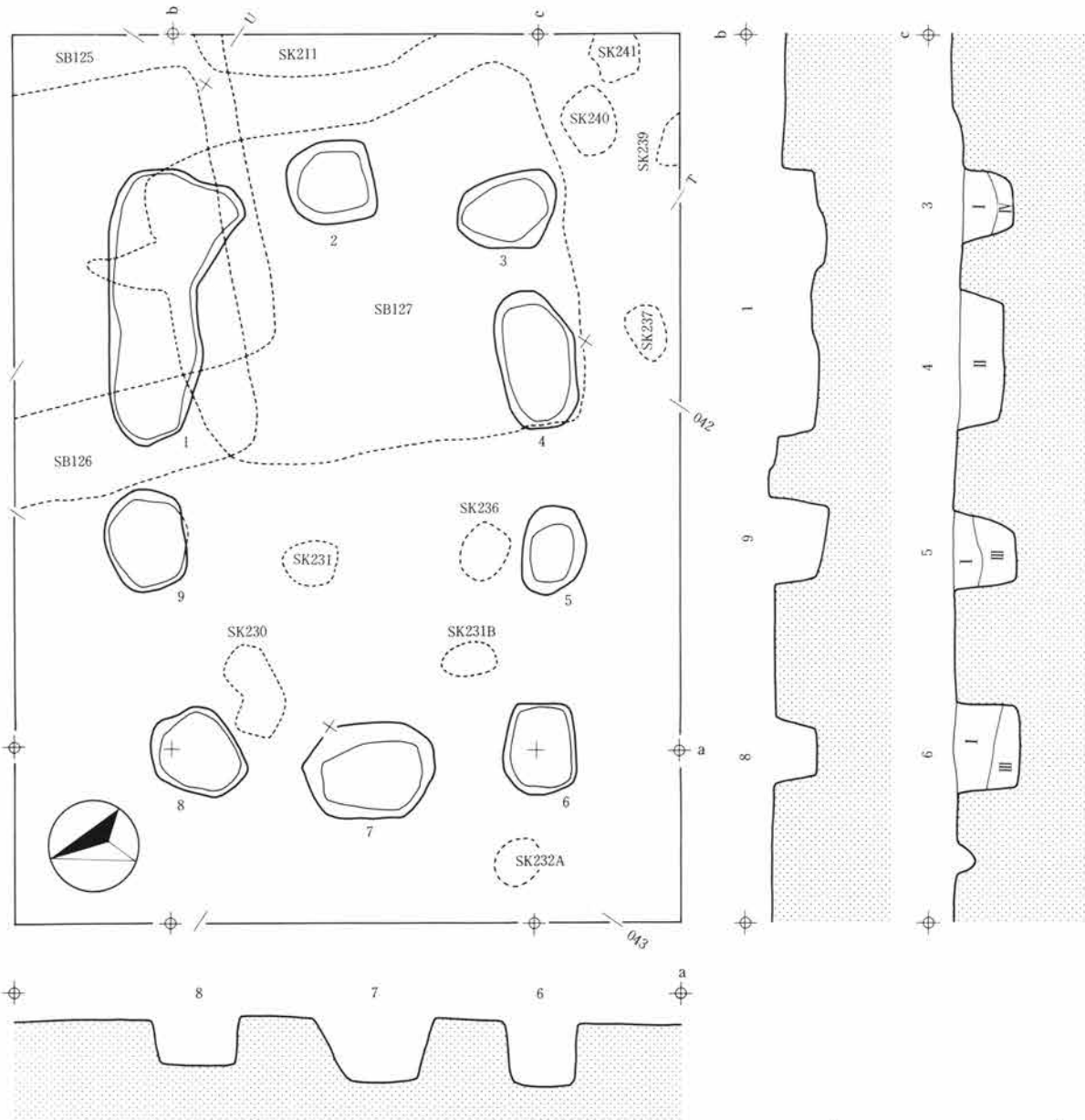
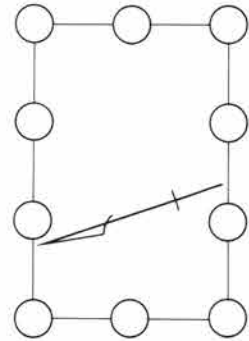


Fig. 134 第14号掘立柱建物 (基準高さ41.9m)

### 3. 溝の調査

1号溝は1区の中央、A～Fの075～080に位置する。断面形は逆台形を呈し上端幅160cm、下端幅80cmで深さは100cmである。検出された長さは30.6mで方向はN-60°-E、底面高は北東方向よりも南西方向が両端で10cm低いのみで総じて平坦である。C-077の位置で溝が切れることから水路というよりも区画線との考え方もできる。6号～9号住居の4軒がこの溝と重複関係にあるが溝が最も古い。出土遺物は11点ほど図示したが本溝が古墳時代前期の溝ということは考えられる。

2号溝は1区の1号溝の北西に位置する。上端幅180cm、下端幅90cm、深さ90cmを測り逆台形を呈する。溝の方向はN-26°-E、検出された長さは98.5mを測り北端より南端が約50cm低いのみである。本遺構は11号住居、12号住居、15号住居が重複するがこの溝が最も新しい。出土遺物に羽釜の胴部破片があるが後からの混入である。早川を利用した取水用の水路と考えるのが妥当であろうか。

3号溝はI区の西端に位置する。上端幅は70cm、下端幅は50cm、深さは17cmと浅く、逆台形を呈する。検出された溝の長さは42.5m、方向はN-111°-Eである。西側に比べて東側の溝の深さは2cm深いのみで、平坦であったと考えた方がよい。重複する遺構は無い。土師器と須恵器の出土がある。

4号溝はII区に位置する。上端幅120cm、下端幅80cm、深さは25cmである。検出された溝の長さは34.8m、方向はN-100°-Eである。東側に比べて西側は5cmほど深い。5号溝、6号溝よりも本溝が古い。3号溝と4号溝とは同方向に走り溝の芯々の距離は50mを測る。

5号溝は上端幅90cm、下端幅40cm、深さ25cmを測り検出長さは50.5mを測る。断面形は逆台形を呈する。

6号溝は上端幅50cm、下端幅30cm、深さは7cmと浅く、検出長さは36.0mを測る。断面形は逆台形を呈する。5号溝、6号溝の平面形は曲線を描く。重複は新しい順に4号溝、5号溝、6号溝となる。

7号溝は上端幅43cm、下端幅33cm、深さ12cmと浅く検出長さは11.6m、N-9°-Eの方向である。

8号溝は上端幅500cm、下端幅270cm、深さ63cmで新旧溝の重複である。検出された長さは22.5m、方向はN-25°-Eである。重複する76号住居よりも新しい。

#### <補遺> 溝の土層分類

溝番号	土層番号	観 察	溝番号	土層番号	観 察	
1	1	暗褐色土層 粘性があり固い。	2	12	黒褐色粘質土層 鉄分凝集塊あり。	
	2	暗灰褐色砂質層 黄味の強いローム粒混入。		13	黒褐色粘質土層	
	3	黒褐色粘質土層 粘性が非常に強い。		14	暗灰色土層 バミスを含まない。	
	4	黒粘質土層と灰褐色砂質層とローム粒の混土。	3	1	暗灰色土層 鉄分凝集があり粘性を持ち固い。	
	5	黄褐色ローム層 粘土や軽石粒を混土。		2	暗褐色土層 若干のローム粒を含む。	
	6	黒褐色粘質土層 ローム粒混土。		3	黄褐色土層 ロームブロック混土。	
	7	黒粘質土層 砂を混土。				
2	1	表土 浮石を含む暗灰色土層。	4.5.6	1	暗褐色土層 砂質分を含む。	
	2	黒褐色粘質土層 軽石を混土。		2	暗褐色土層 砂質分を含む。	
	3	暗褐色土層 全体的に砂質を含む。		3	暗褐色土層 若干砂質分を含み灰色を帯びる	
	4	暗灰褐色土層 バミス、ローム粒を含む。	7	1	灰褐色土層 鉄分凝集塊を含む粘土層。	
	5	暗灰褐色土層 バミスを含み粘質あり。				
	6	茶褐色粘質土層				
	7	暗褐色土層 浮石を含む。		8	1	褐色土層 軽石、炭化物を含む。
	8	暗褐色土層 浮石を含み砂質分が強い。			2	褐色土層 炭化物を含む粘性の強い灰色土。
	9	黒褐色粘質土層 ローム細粒を含む。			3	褐色土層 軽石、炭化物、焼土を含む。
	10	表土と軽石層の混土層。			4	暗褐色土層 炭化物、焼土を含む。
	11	黒味を帯びた軽石層。			5	暗灰褐色土層 鉄分を含む粘性の強い灰色土。

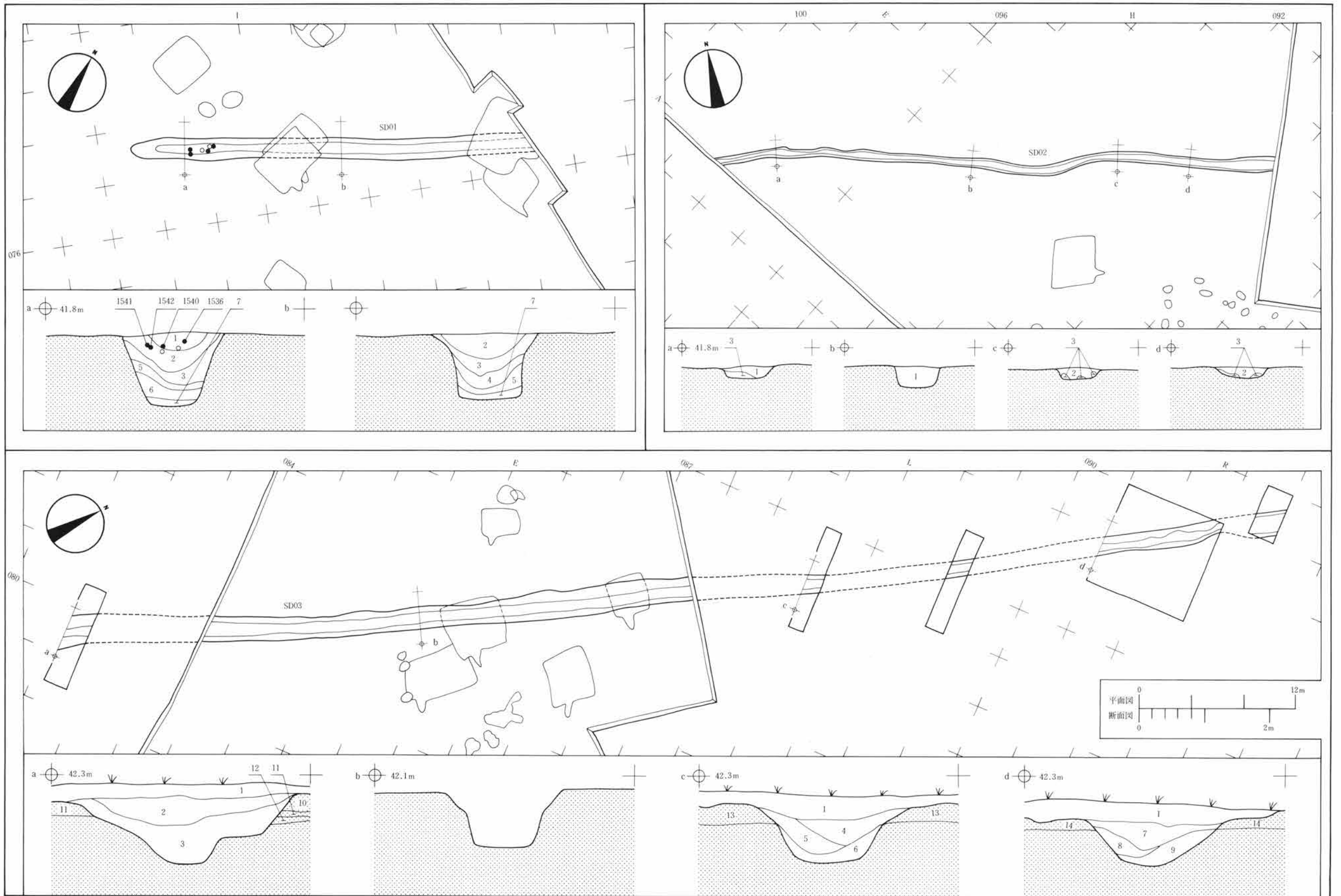


Fig. 135 第1. 2. 3号沟实测图



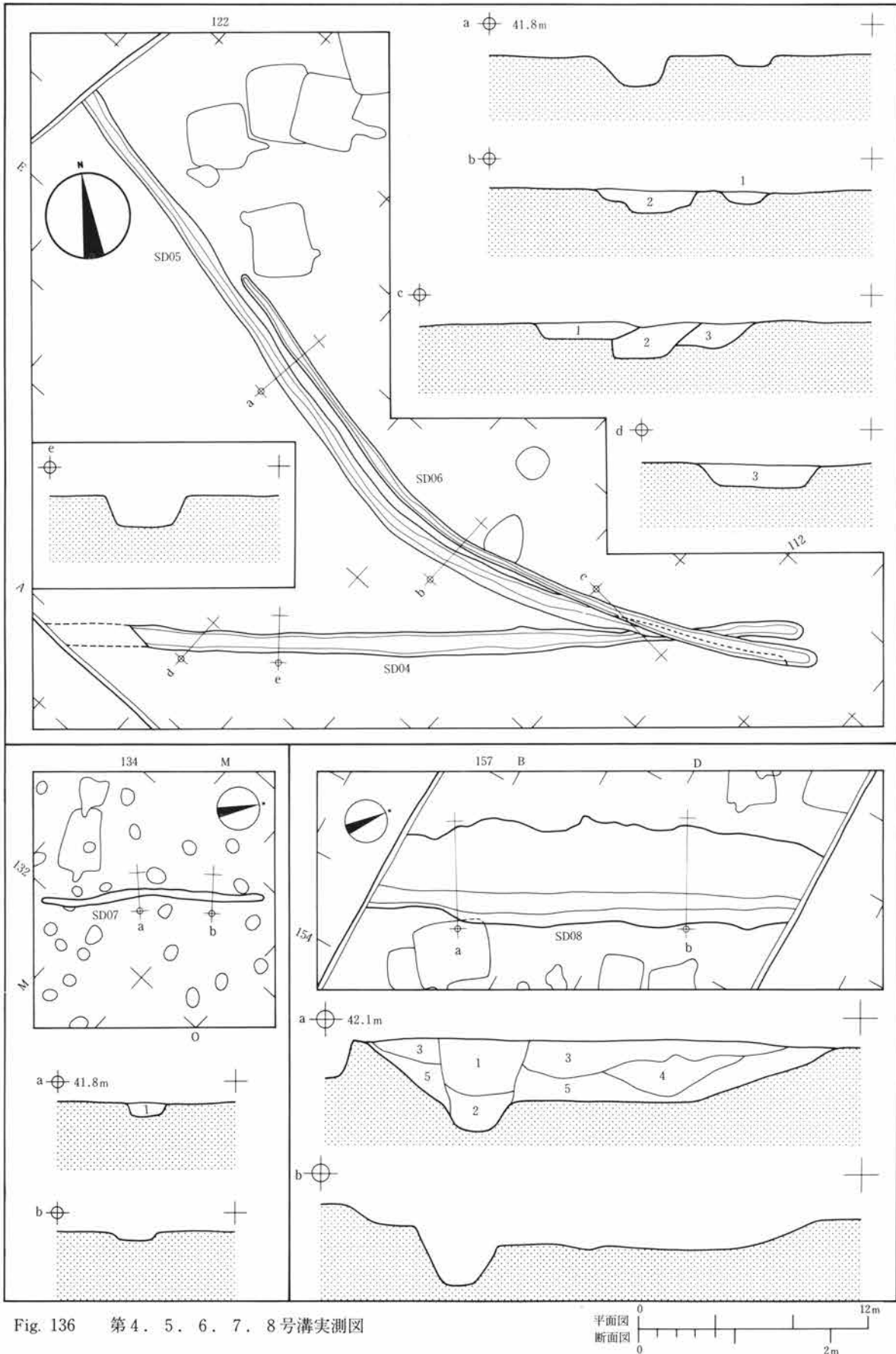


Fig. 136 第4. 5. 6. 7. 8号溝実測図

## 4. 土壌の調査

とにかく大量の436基の土壌の調査を実施した。これらの土壌の個々の年代、性格、また他の遺構群との関連について調査中及び整理段階で多面的に検討をしたが、結局のところ発掘に臨む担当者の積極的な問題意識なしでは解決しないということが今日に当然の帰結として実感させられた。土壌の平面形態を区分すると以下のものであった。楕円形146基（32.8%）円形148基（33.2%）不定形46基（10.3%）、その他に偏楕円形、偏長方形、方形、長方形などが20基前後（約5%）と続く。これらの土壌は明らかに何らかの意図のもとに穿たれておりその分布にも偏りがみられる。1区の第1土器集積周辺、1区の1号掘立柱建物周辺、Ⅲ区の2～11号掘立柱建物周辺、Ⅲ区の13号掘立柱建物周辺、Ⅳ区の14号掘立柱建物周辺、Ⅵ区の181号住居周辺の6箇所集中する。住居及び掘立柱建物の周辺に特にその集中傾向がみられる。これらの土壌の規模は面積1㎡以下のものは全体の77%、2㎡以下ともなると90%の数字となる。また土壌の深さは70cm以下のものは90%もある。すなわち大部分の土壌が小形のものであり、井戸は面積2㎡、深さ1m以上と他の土壌とは明らかに区別できた。

それでは性格の推定できた土壌について説明しておきたい。井戸は10基である。1区ではSK004、SK005、SK039、Ⅱ区ではSK041、Ⅲ区ではSK085、SK086、SK092、Ⅳ区ではSK200、SK201、SK369に分布している。揚水のための地下水位の変化が井戸の底面高さを規定するならば4つのグループに分けられる。標高39m付近はSK041、SK086のグループ、標高40m付近はSK004、SK039、SK092、SK201のグループ、標高40.5m付近はSK005、SK085、SK200のグループ、標高41.5mはSK369である。一般的な井戸としてSK086を紹介しておく。2号掘立柱建物の内側北寄りに位置しており東側に88号住居が位置している。検出時の平面形状は偏楕円形で197cm×175cm、深さは255cmを測る。井戸内に充填されていた埋土は最上層より粘性を持つ暗褐色乃至灰黒色土層で焼土、炭化物を含む。断面形は確認面より約1m付近までは搦鉢状に落ち込みそれ以下はほぼ垂直で砂層にいたる。井戸の下層部の地山は砂質土壌のため崩落がはげしい。崩れが地下水位より下の位置にあたると考えられる。遺物は土器、木材、干瓢などである。土器類の出土位置については発掘作業の安全を優先するため本土壌出土一括として取り上げてしまったものが多い。木材のほとんどは井戸枠の破損材が主体で部位は不明なものが多かった。その他に本土壌（井戸）も含む他の井戸、SK085、SK092、SK200、SK201の合計5つの井戸から干瓢が出土している。当時の保存技術の能力と報告期間の遅延のため、木材の材質鑑定や加工技術などの手続きをしないまま乾涸びてしまった。

土壌中に多量の土器が出土しているものがある。SK091(A)はSK092の井戸の東側に位置している。上幅222cm×174cmの楕円形で深さ56cmを測る。土師器の椀（A-14）を中心に須恵器杯などが出土している。SK155の土壌は10号掘立柱建物の8号柱穴と重複しており、本土壌が新しい。平面形状は不定形で233cm×165cmで深さ45cmを測る。土師器台付甕や、須恵器瓶、杯、灰釉陶器椀が出土している。SK394の土壌はその主体は調査区域外にのびると考えられ、調査区域内では長さ390cmを測り溝になるのかもしれない。土器の外に馬骨が多量に出土している。SK398は平面形状は偏長方形で上幅は275cm×138cmで深さ59cmを測る。出土遺物は全て須恵器の椀である。SK418の平面形状は楕円形を呈し上幅は68cm×53cmで深さ43cmと小型である。出土遺物の主体は須恵器の椀である。SK420は部分的に未調査部分が残ってしまった。残存部からは平面形状は確定されず長さ206cmで深さ39cmを測る。須恵器の甕や足高高台椀などの遺物が出土している。SK431は偏長方形で上幅131cm×91cmで深さ43cmを測る。出土遺物は須恵器椀、足高高台椀、灰釉陶器椀が出土している。

4 土壌の調査

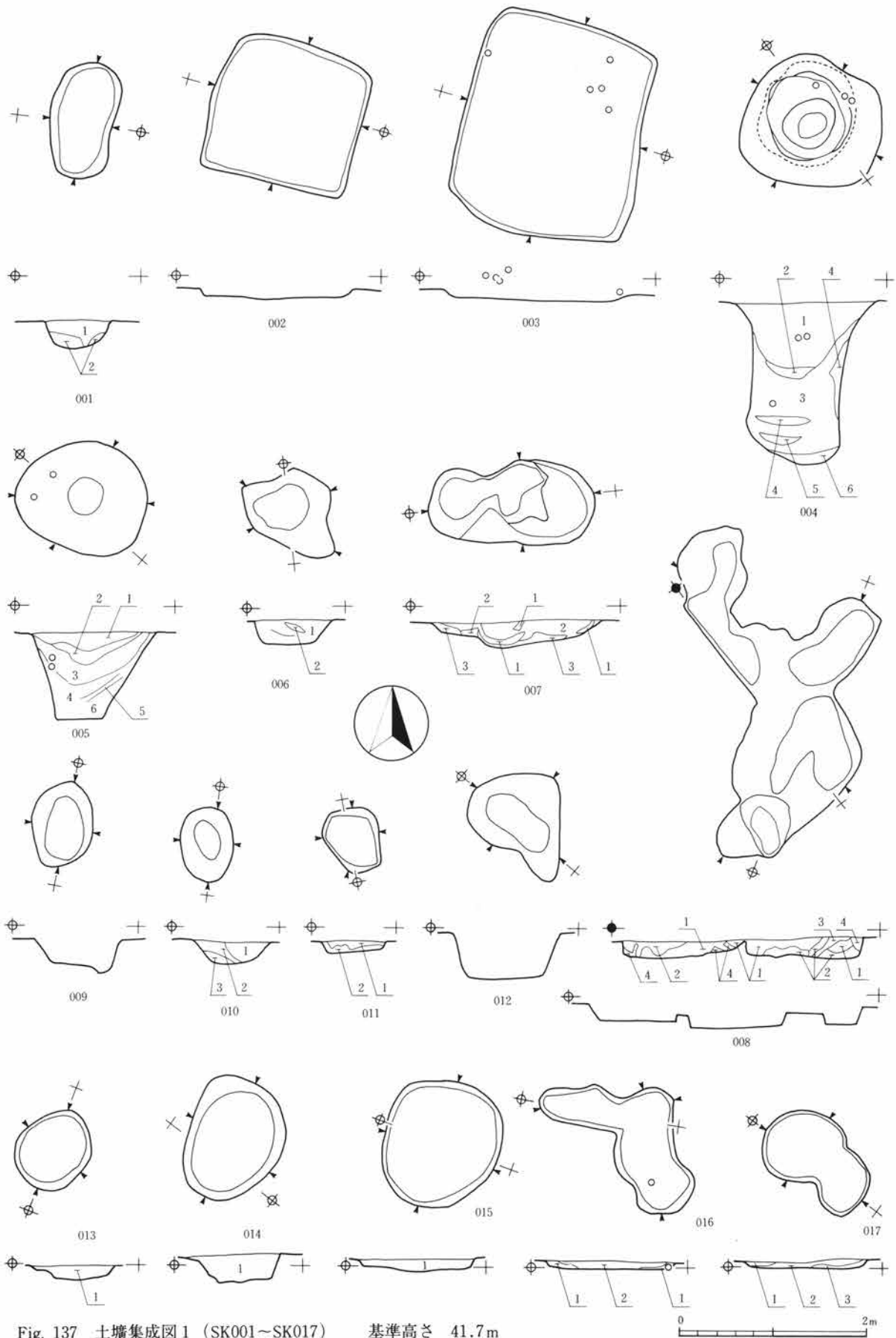


Fig. 137 土壌集成図1 (SK001~SK017) 基準高さ 41.7m

第II章 遺構

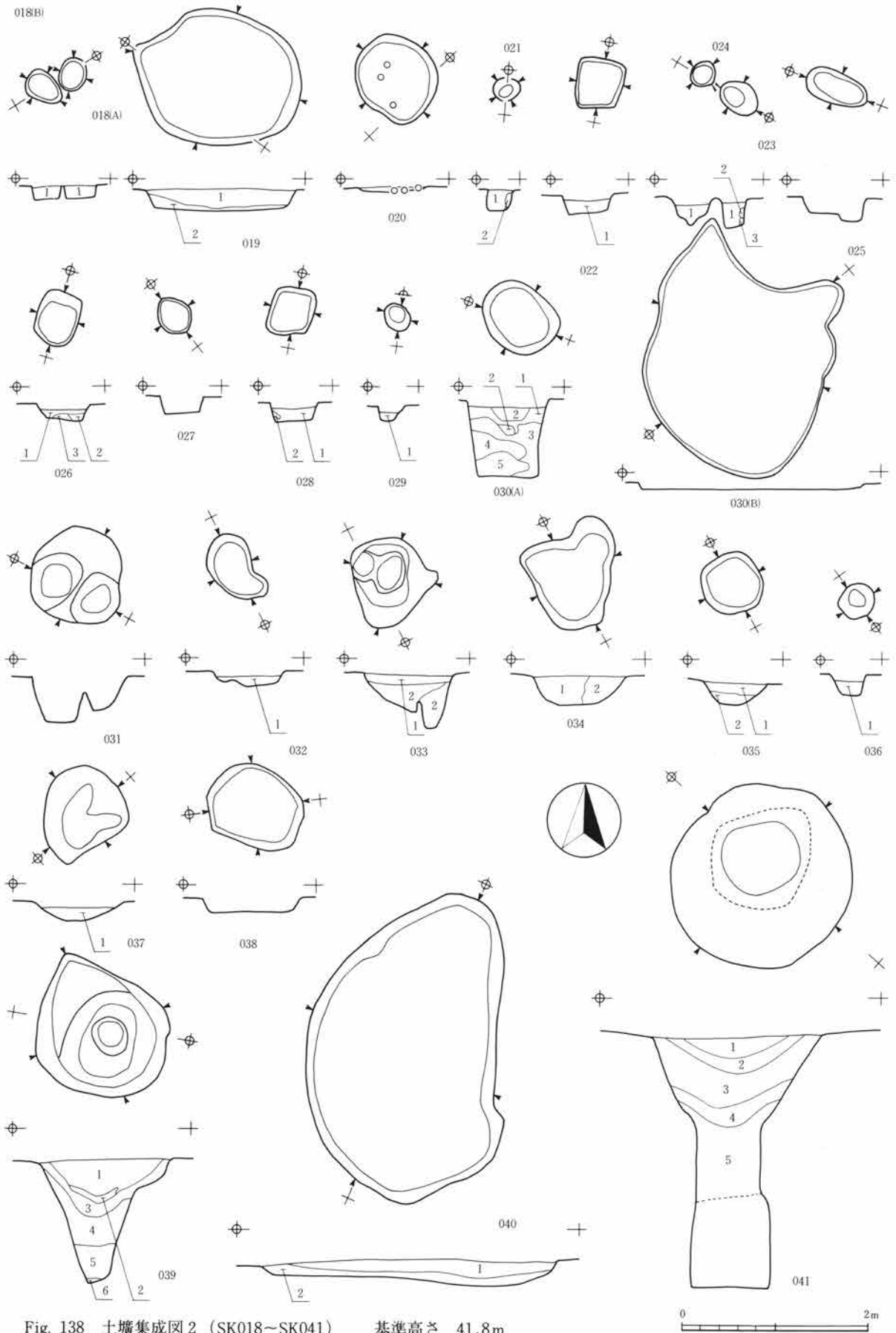


Fig. 138 土壙集成図2 (SK018~SK041) 基準高さ 41.8m



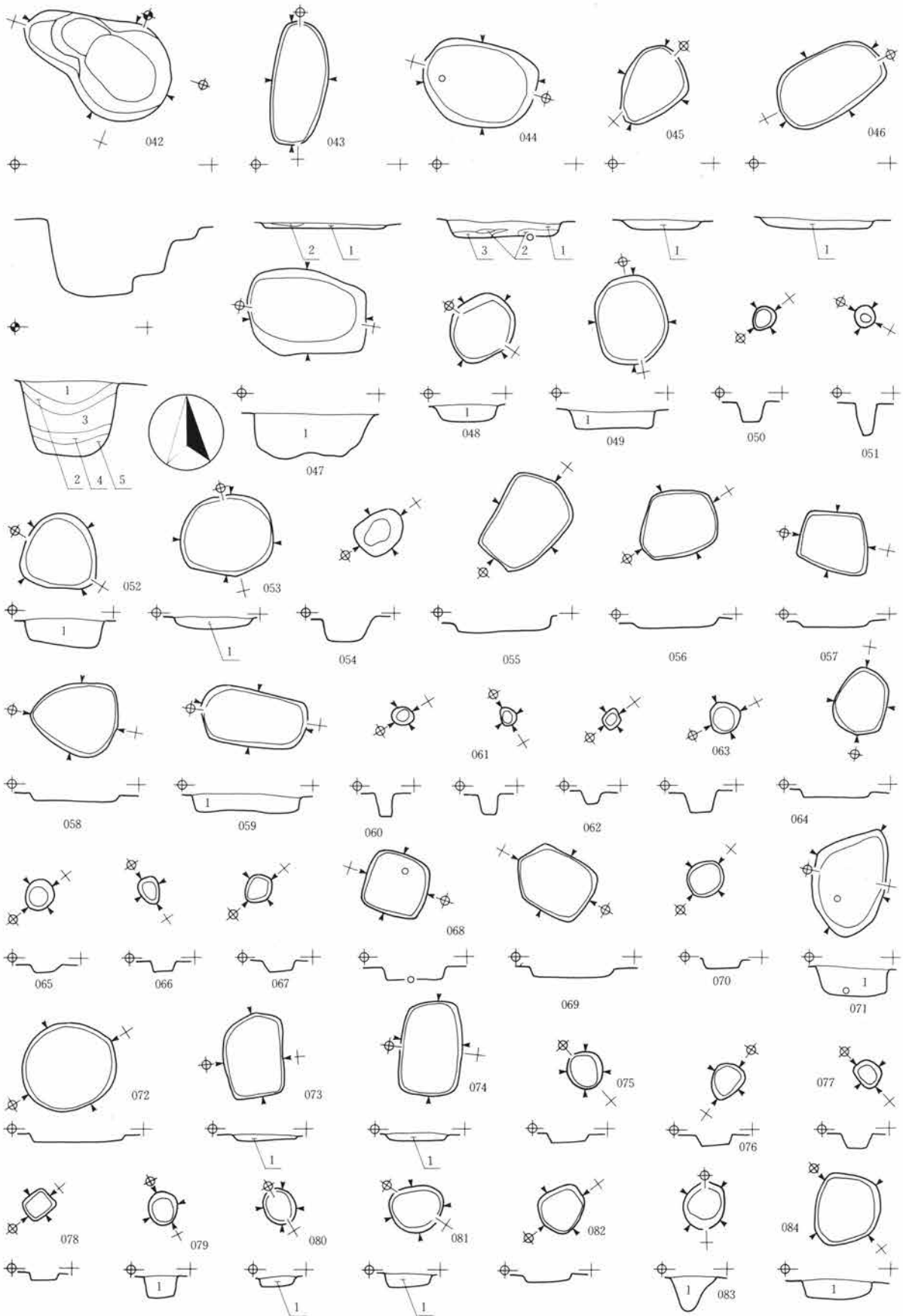


Fig. 139 土壌集成図3 (SK042~SK084)

基準高さ 42.0m



第II章 遺構

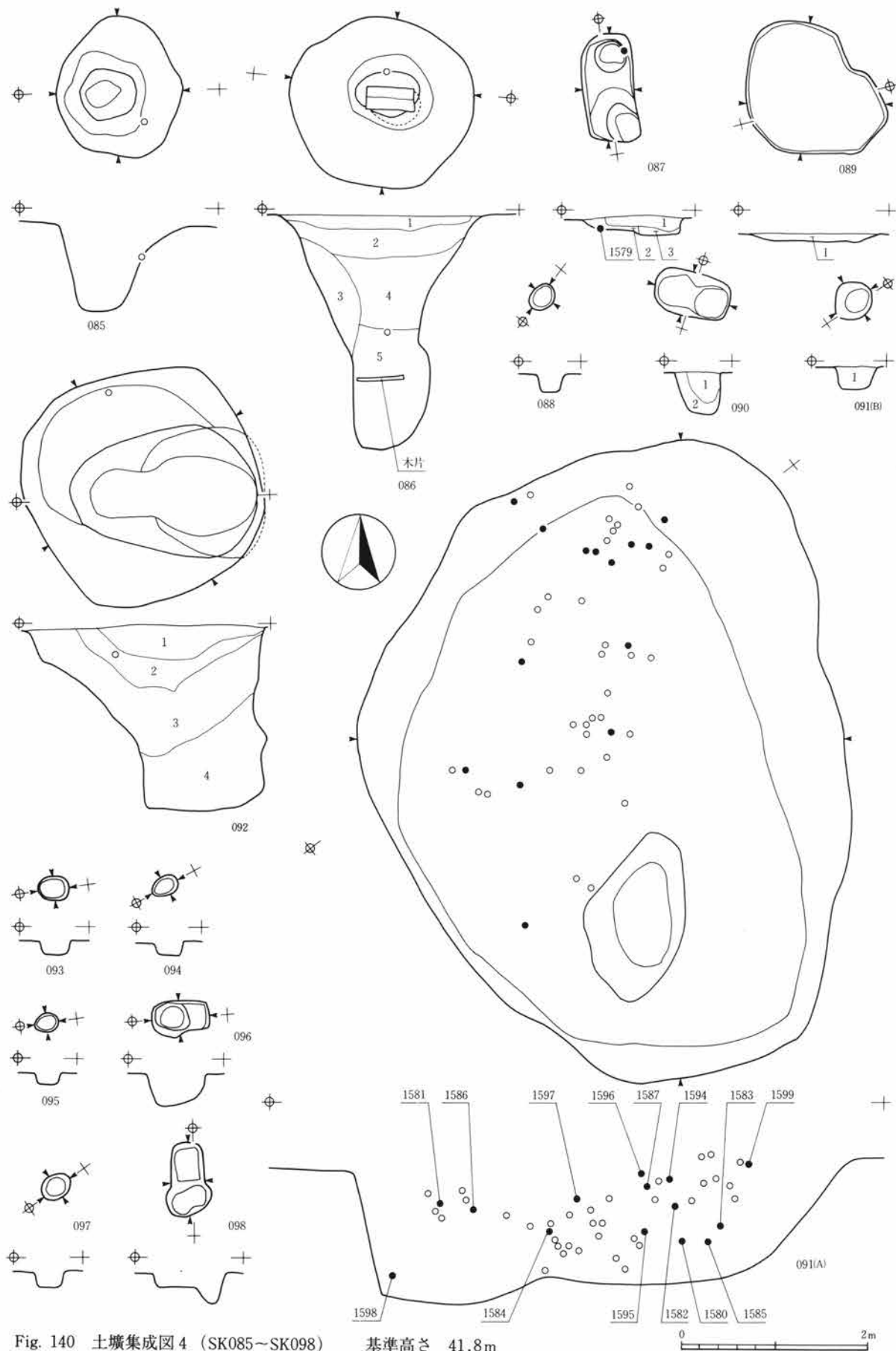


Fig. 140 土壙集成図4 (SK085~SK098) 基準高さ 41.8m

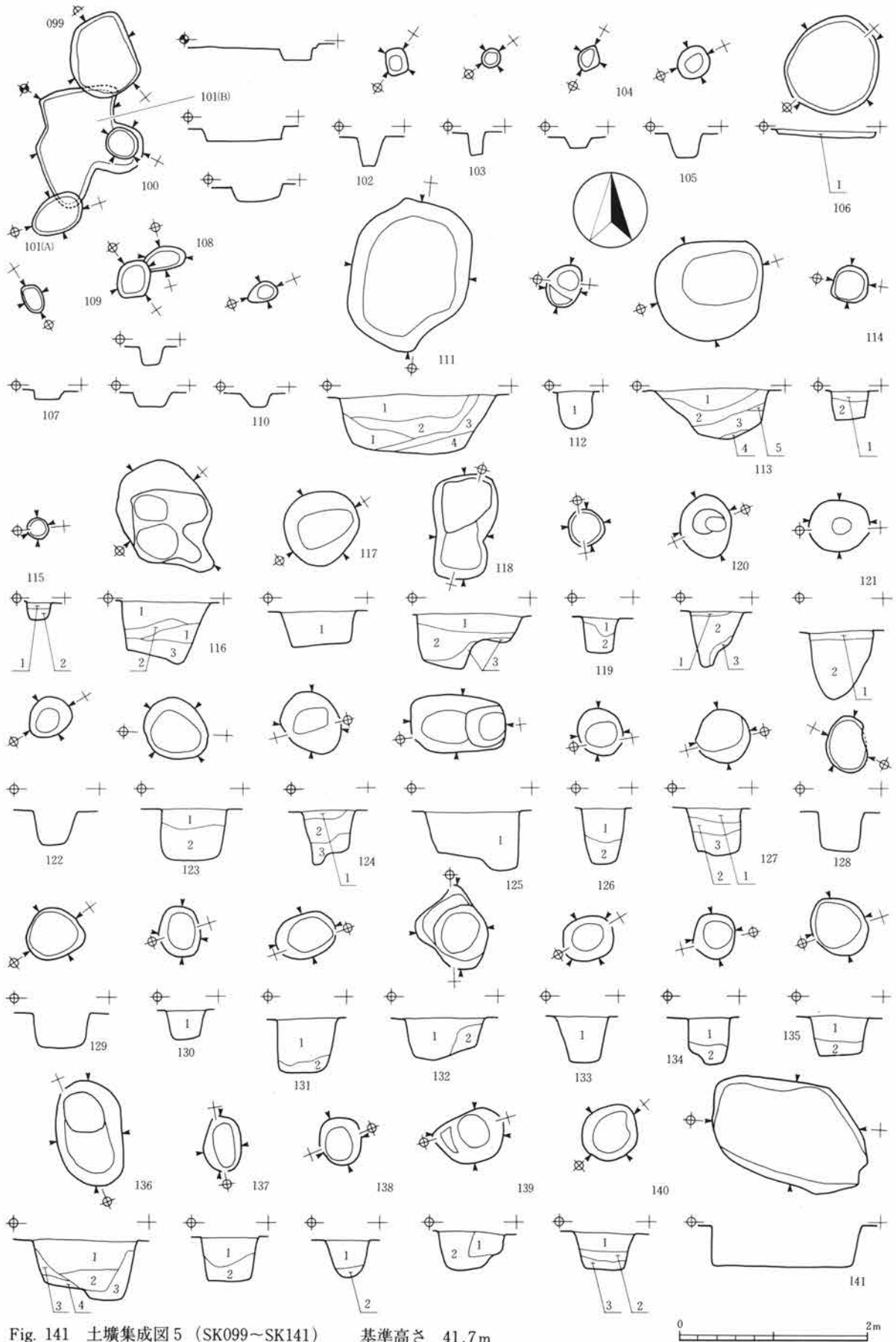


Fig. 141 土壌集成図5 (SK099~SK141) 基準高さ 41.7m

第II章 遺 構

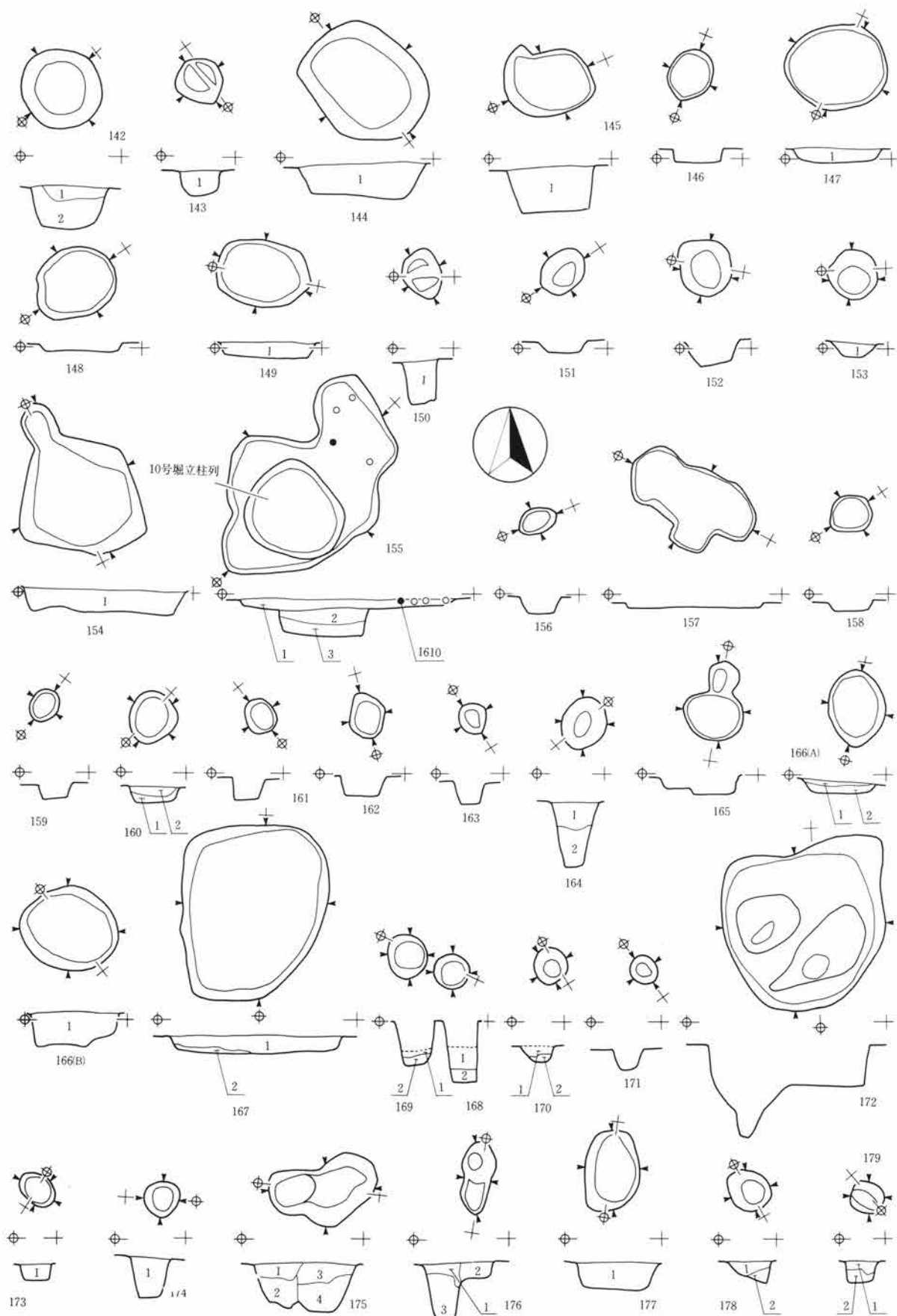


Fig. 142 土堀集成図6 (SK142~SK179) 基準高さ 41.8m

4 土壌の調査

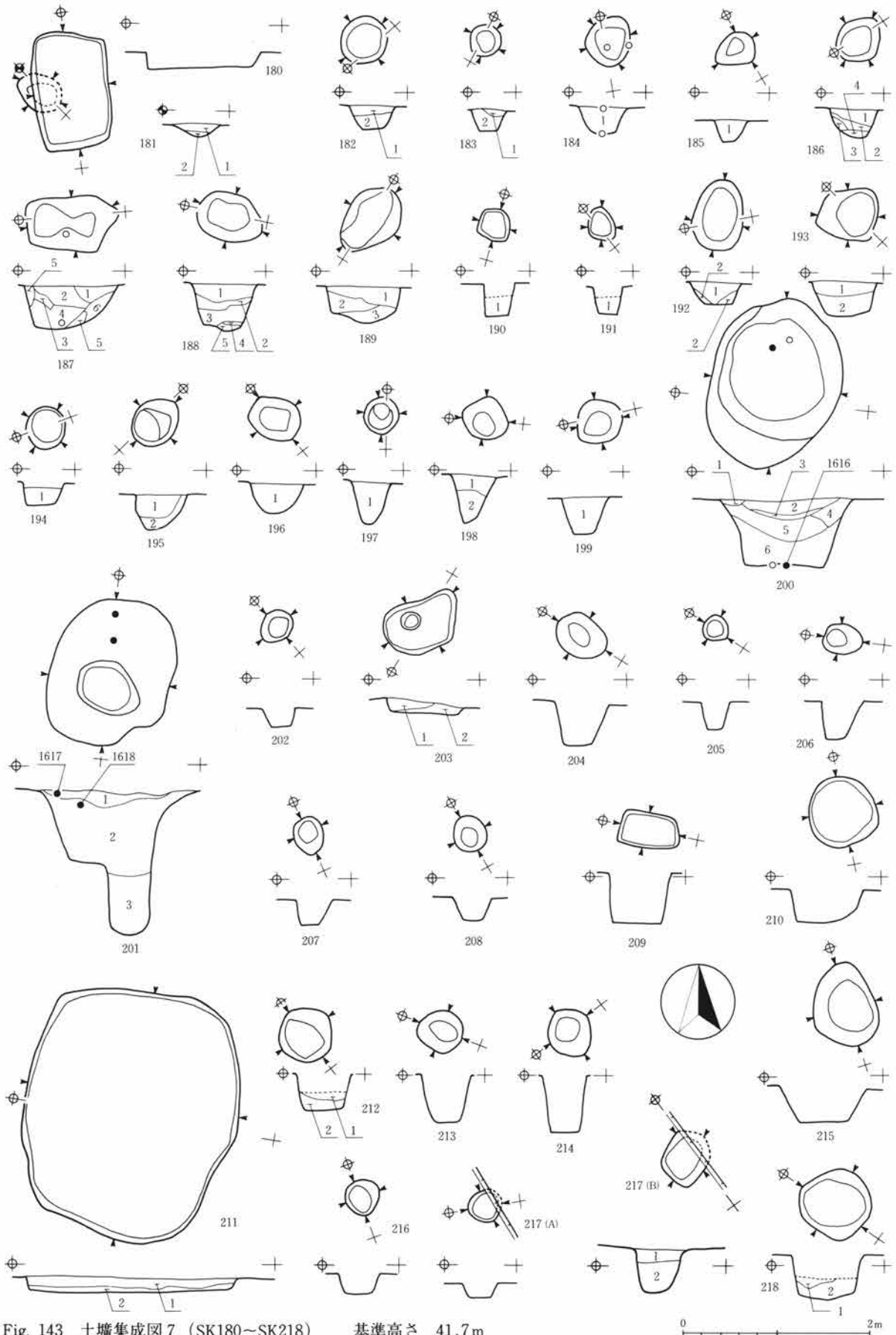


Fig. 143 土壌集成図7 (SK180~SK218) 基準高さ 41.7m

第II章 遺構

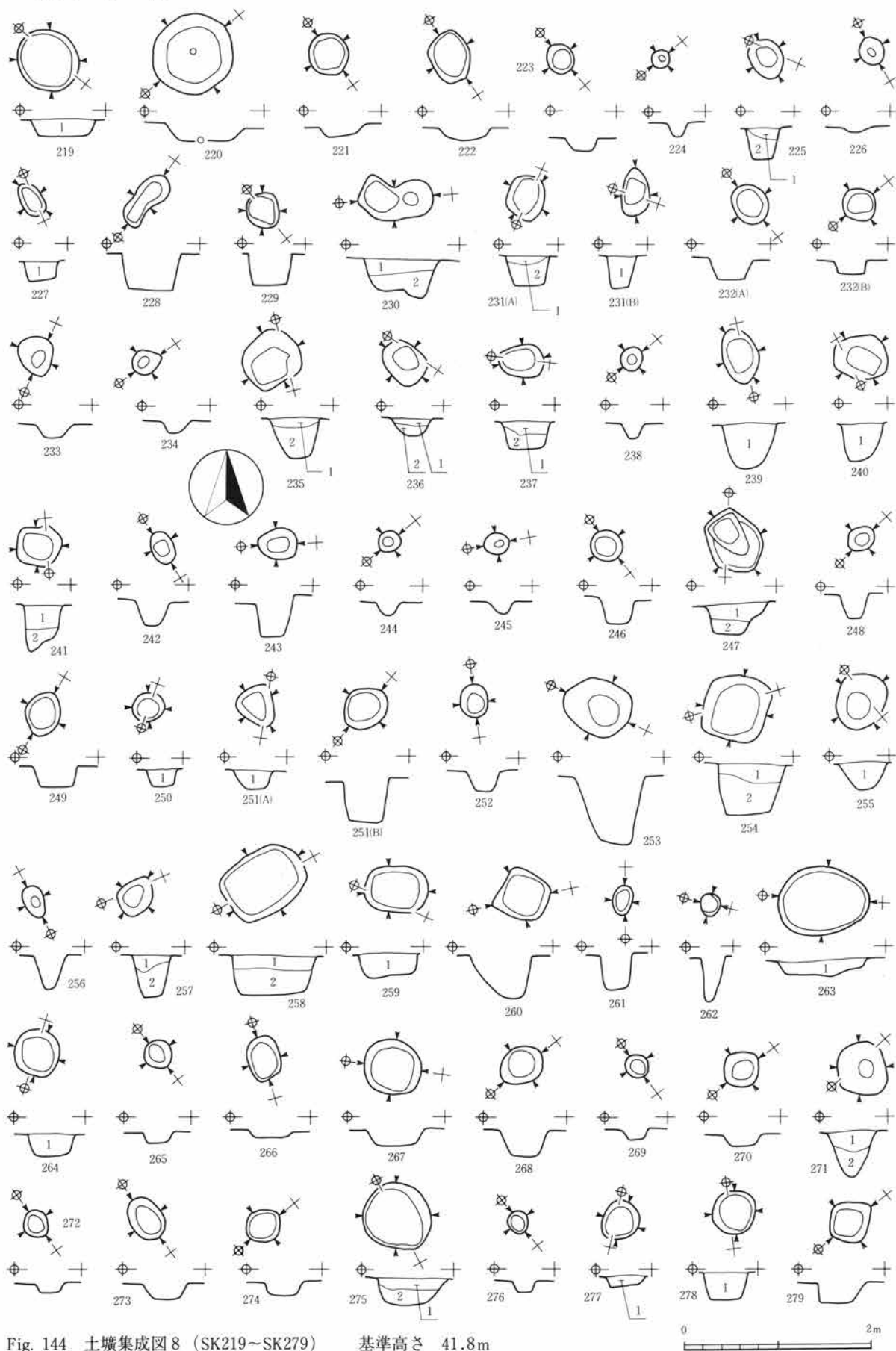


Fig. 144 土坑集成図8 (SK219~SK279) 基準高さ 41.8m

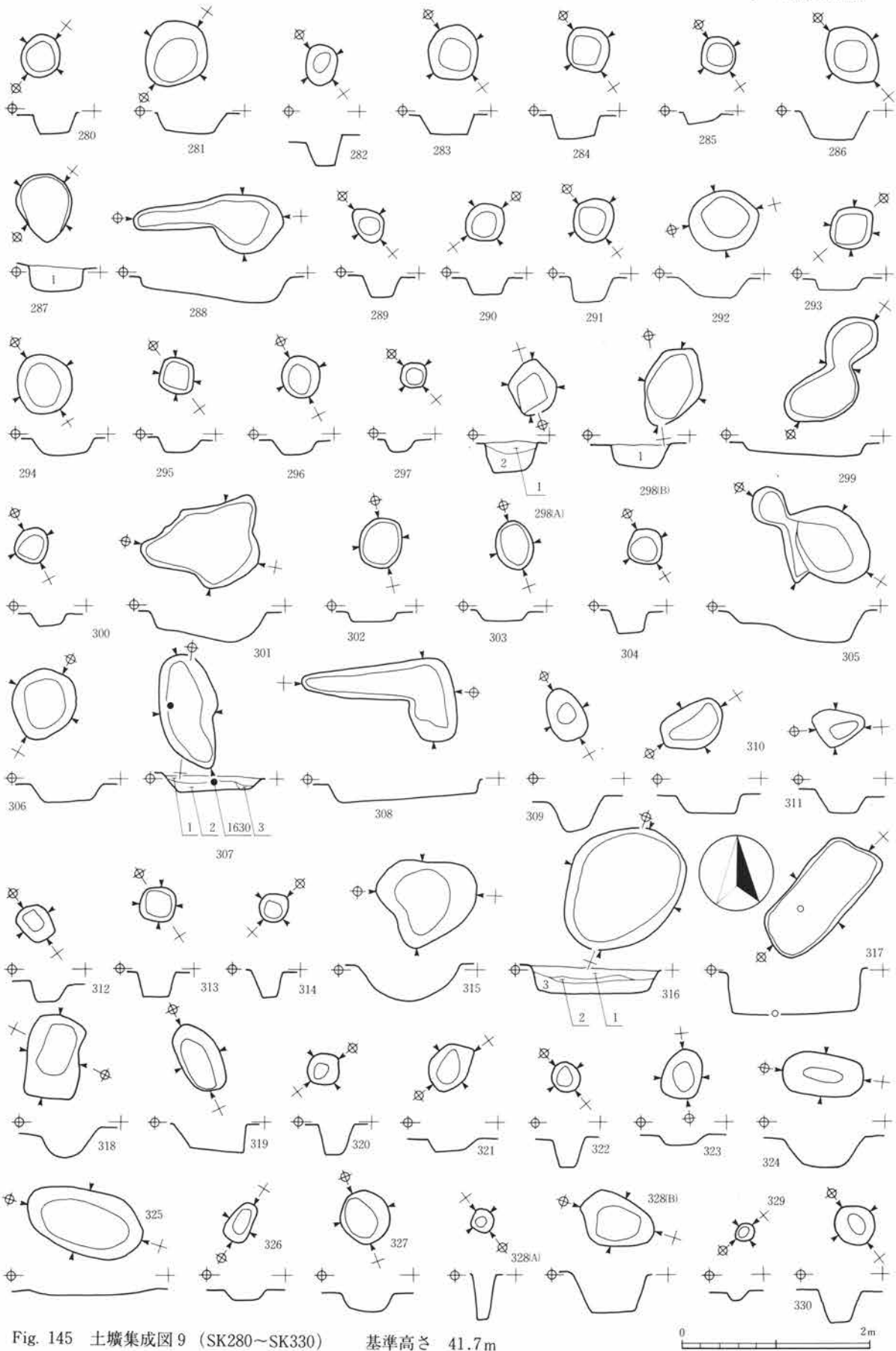


Fig. 145 土壌集成図9 (SK280~SK330) 基準高さ 41.7m

第II章 遺 構

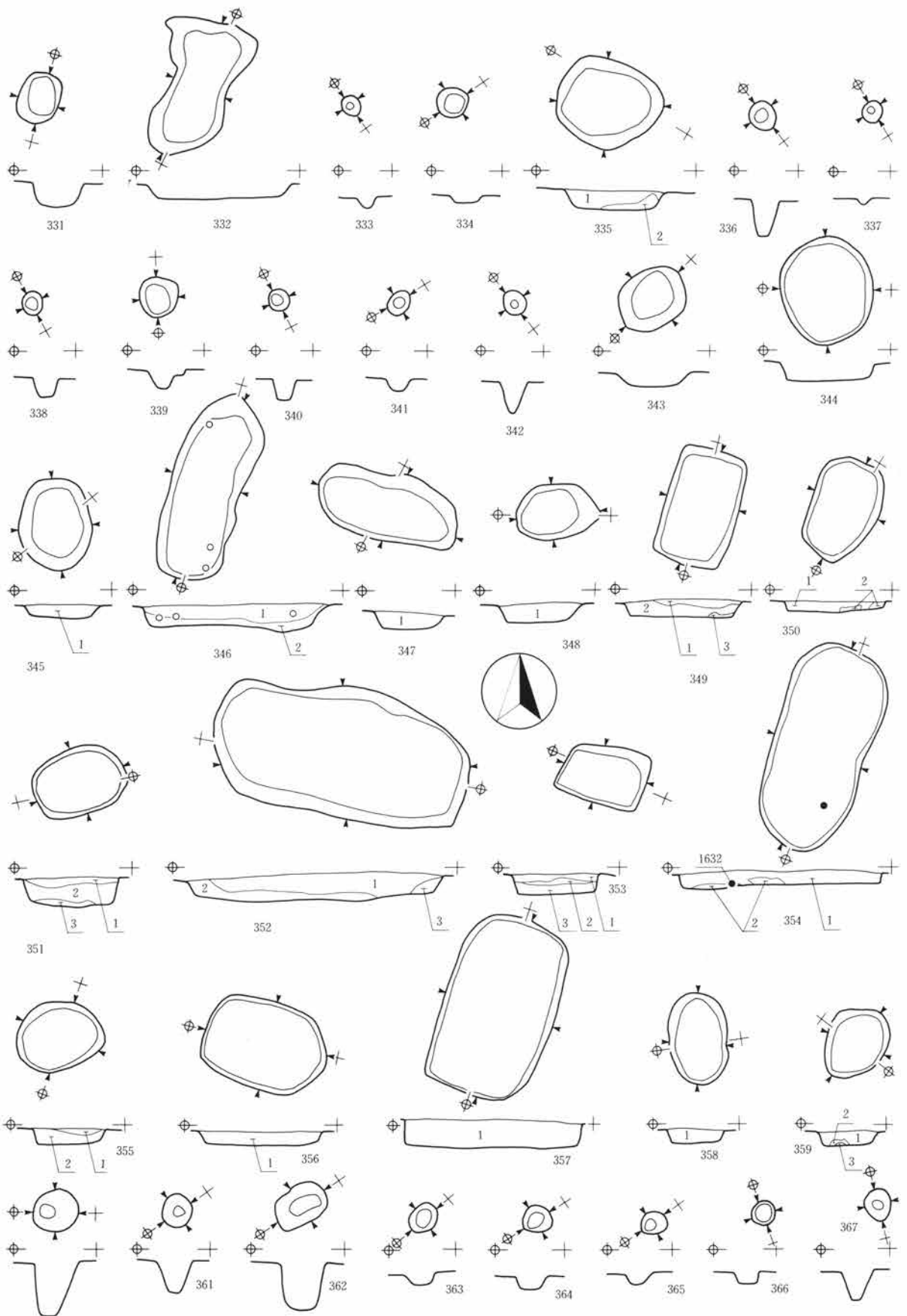


Fig. 146 土壙集成図10 (SK331~SK367) 基準高さ 41.8m



4 土壌の調査

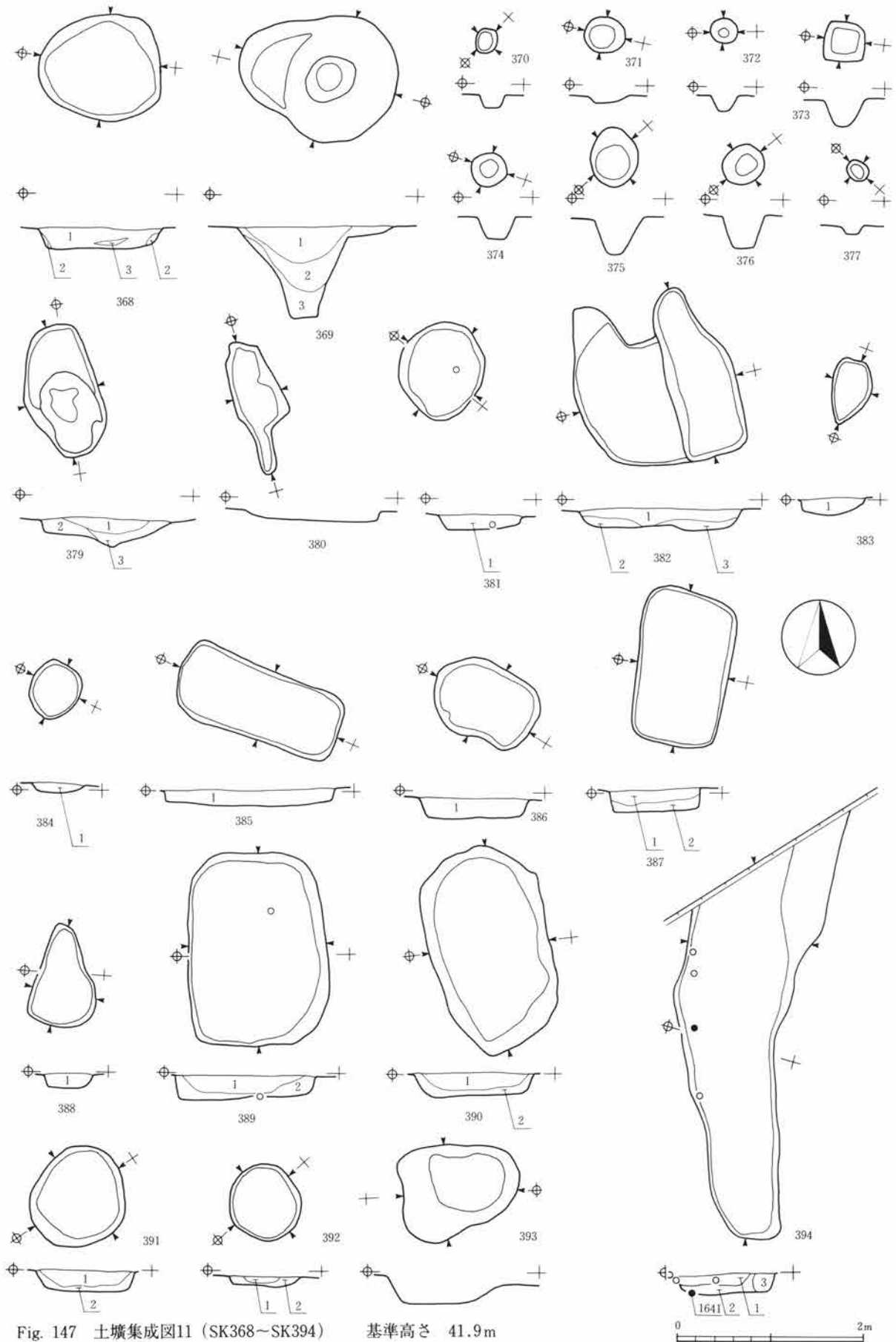


Fig. 147 土壌集成図11 (SK368~SK394)

基準高さ 41.9m

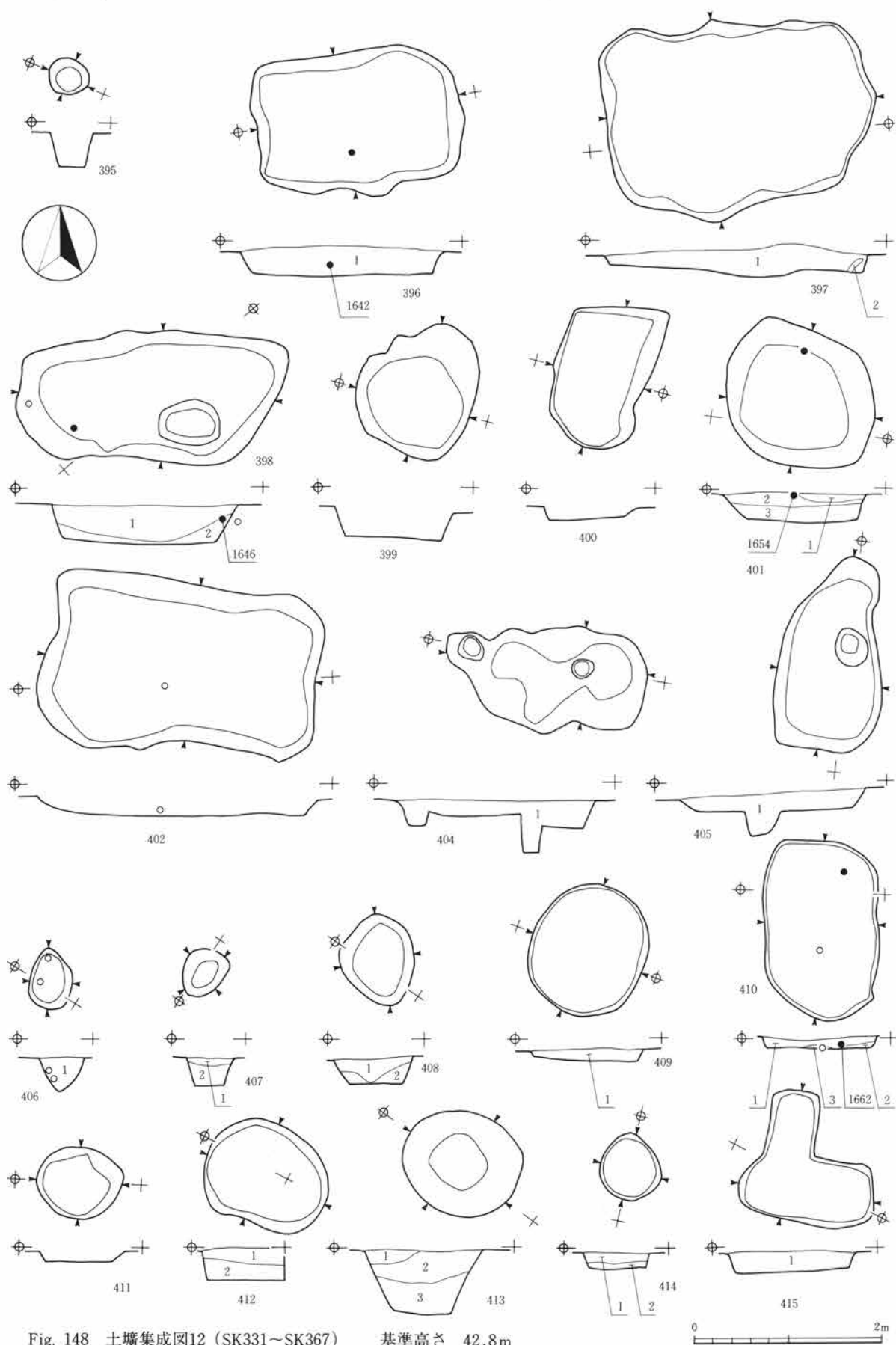


Fig. 148 土坑集成図12 (SK331~SK367) 基準高さ 42.8m  
(ただしSK395のみ42.0m)

4 土壌の調査

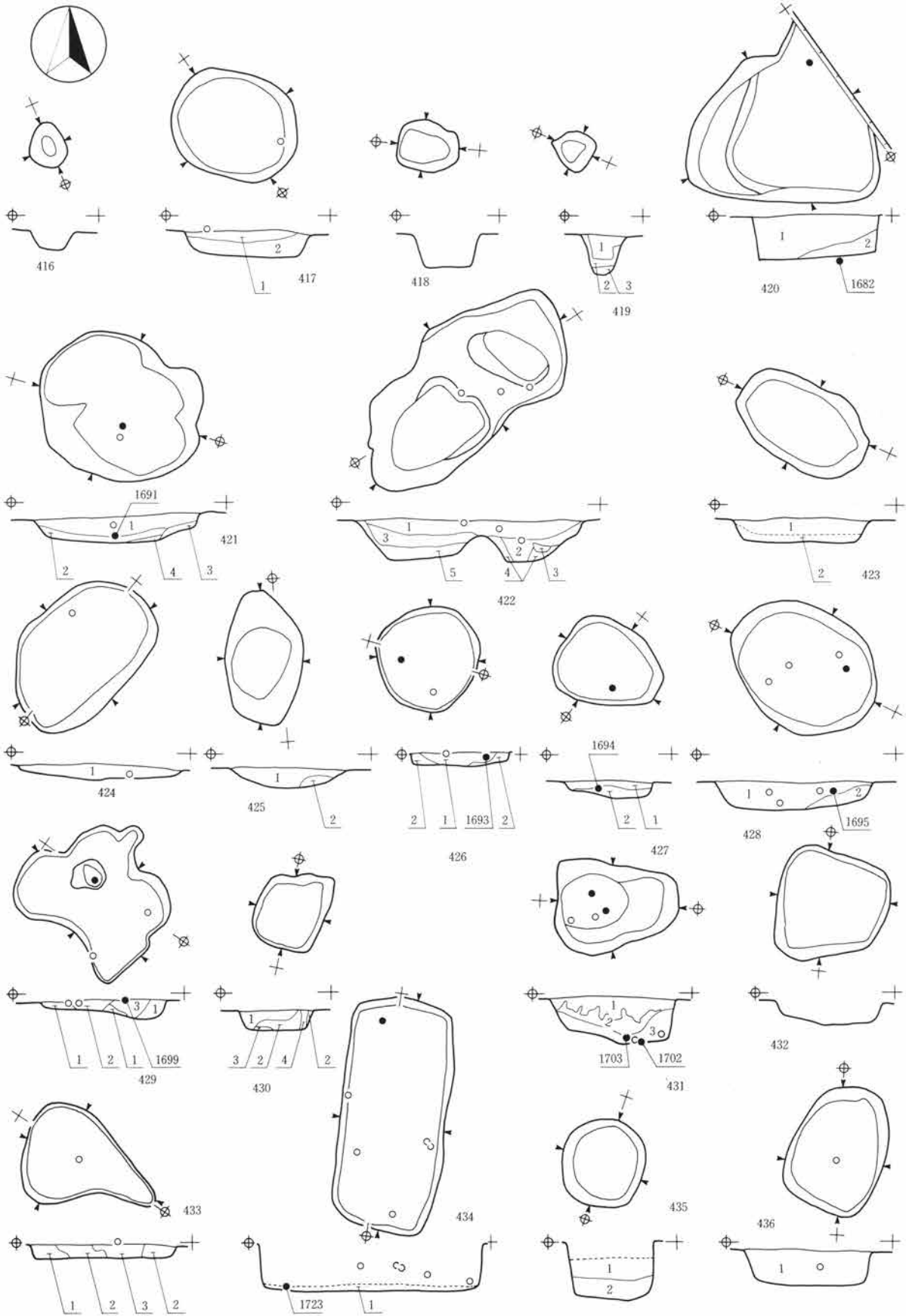
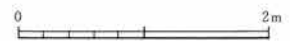


Fig. 149 土壙集成図13 (SK416~SK436) 基準高さ 42.9m



第Ⅱ章 遺 構

土壙形態一覧

土壙番号	位 置	平面形状	長径(cm)	短径(cm)	検出高(m)	底面高(m)	深さ(cm)	断面形状	その他 (方位、重複関係、遺物)
SK001	H-072	楕円形	126	68	41.3	40.95	35	曲 面	N-11.5°-E
SK002	G-078	方 形	164	150	41.7	41.47	23	平 面	1号土器集積との重複関係不明
SK003	F-079	方 形	232	192	41.7	41.45	25	平 面	須恵器1 1号土器集積との重複関係不明
SK004	E-078	円 形	186	147	41.7	39.74	196	曲 面	須恵器9、灰釉2、井戸
SK005	D-078	楕円形	145	120	41.7	40.52	118	平 面	井戸
SK006	F-080	不定形	116	90	41.7	41.39	39	平 面	須恵器2
SK007	F-080	複合形	182	91	41.7	41.26	44	不定形	N-83°-E
SK008	F-081	複合形	318	295	41.7	41.38	32	不定形	
SK009	D-080	楕円形	91	67	41.7	41.24	49	不定形	N-11°-E SB011→SK009
SK010	D-081	楕円形	81	59	41.7	41.3	40	曲 面	SB011→SK010
SK011	D-081	楕円形	70	61	41.7	41.45	25	平 面	
SK012	E-085	偏楕円形	118	98	41.7	41.15	55	平 面	N-50°-W SK012→3号土器集積
SK013	C-085	楕円形	92	75	41.7	41.55	15	平 面	
SK014	B-085	楕円形	134	98	41.7	41.52	18	不定形	
SK015	C-086	円 形	140	127	41.7	41.64	6	平 面	
SK016	E-088	不定形	141	133	41.7	41.67	3	平 面	土師器1
SK017	D-088	不定形	178	82	41.7	41.67	3	平 面	
SK018(A)	E-088	円 形	85	36	41.7	41.59	11	平 面	
SK018(B)	E-088	楕円形	44	32	41.7	41.59	11	平 面	
SK019	B-087	偏楕円形	188	145	41.7	41.47	23	平 面	
SK020	B-088	円 形	94	84	41.7	41.66	4	平 面	土師器2
SK021	E-089	円 形	29	26	41.7	41.46	24	曲 面	
SK022	E-089	方 形	52	52	41.7	41.43	27	平 面	
SK023	E-090	楕円形	46	33	41.7	41.29	41	曲 面	N-60°-W
SK024	E-090	円 形	30	28	41.7	41.32	38	不定形	
SK025	E-090	楕円形	70	33	41.7	41.37	33	不定形	N-20°-E
SK026	D-090	偏長方形	58	47	41.7	41.44	26	平 面	N-15°-E
SK027	D-090	楕円形	45	37	41.7	41.52	18	平 面	
SK028	D-089	方 形	50	48	41.7	41.42	28	平 面	
SK029	D-089	円 形	29	27	41.7	41.43	27	曲 面	
SK030(A)	D-089	楕円形	84	70	41.7	40.84	86	曲 面	N-50°-W
SK030(B)	C-088	不定形	243	197	41.7	41.62	8	平 面	
SK031	B-091	複合形	104	104	41.7	41.13	57	凹凸面	
SK032	A-090	不定形	76	47	41.7	41.48	22	平 面	N-27°-W
SK033	B-090	偏楕円形	97	92	41.7	41.07	63	不定形	
SK034	B-091	偏楕円形	103	98	41.7	41.28	42	平 面	
SK035	B-092	円 形	65	64	41.7	41.29	41	不定形	
SK036	A-090	円 形	42	37	41.7	41.43	27	曲 面	
SK037	A-091	偏楕円形	98	92	41.7	41.40	30	曲 面	
SK038	A-092	円 形	102	91	41.7	41.49	21	平 面	
SK039	F-101	偏楕円形	164	148	41.5	40.14	136	不定形	井戸
SK040	E-114	偏楕円形	323	214	41.4	41.2	20	平 面	N-24°-E
SK041	F-115	円 形	201	183	41.4	38.7	270	不定形	井戸
SK042	F-120	偏楕円形	165	104	41.4	40.63	77	不定形	N-71°-W
SK043	Q-122	楕円形	128	61	41.8	41.34	46	平 面	N-1°-E 土師器2

## 4 土壌の調査

土壌番号	位 置	平面形状	長径(cm)	短径(cm)	検出高(m)	底面高(m)	深さ(cm)	断面形状	その他 (方位、重複関係、遺物)
SK044	R-122	楕円形	124	91	41.8	41.23	57	不定形	N-75°-W
SK045	S-123	楕円形	90	63	41.8	41.32	48	平 面	
SK046	R-123	楕円形	118	68	41.8	41.33	47	平 面	N-64°-E
SK047	U-126	方 形	124	82	41.8	41.32	48	不定形	N-80°-W
SK048	V-127	円 形	77	64	41.8	41.69	11	曲 面	
SK049	U-127	円 形	92	78	41.8	41.62	18	平 面	
SK050	U-128	楕円形	28	24	41.8	41.70	10	曲 面	
SK051	U-128	円 形	23	22	41.8	41.56	24	曲 面	
SK052	U-128	偏楕円形	84	82	41.8	41.65	15	平 面	SB097→SK052
SK053	T-128	楕円形	101	85	41.8	41.84	+4	平 面	
SK054	T-128	楕円形	55	43	41.8	41.70	10	平 面	
SK055	T-128	偏長方形	103	72	41.8	41.78	2	平 面	N-39°-E
SK056	T-128	偏楕円形	89	72	41.8	41.82	+2	平 面	
SK057	T-128	偏長方形	73	59	41.8	41.84	+4	平 面	
SK058	T-128	偏楕円形	94	72	41.8	41.82	+2	平 面	N-79°-W
SK059	T-127	偏長方形	114	57	41.8	41.72	8	平 面	N-81°-W
SK060	T-127	円 形	20	18	41.8	41.66	14	曲 面	
SK061	T-127	楕円形	21	17	41.8	41.68	12	曲 面	
SK062	T-127	方 形	20	18	41.8	41.80	0	曲 面	
SK063	T-127	円 形	34	32	41.8	41.70	10	曲 面	
SK064	T-127	楕円形	72	56	41.8	41.88	+8	平 面	
SK065	T-127	円 形	32	30	41.8	41.85	+5	曲 面	
SK066	T-126	楕円形	28	23	41.8	41.83	+3	曲 面	
SK067	T-126	不定形	34	28	41.8	41.82	+2	曲 面	
SK068	R-125	方 形	68	68	41.8	41.75	5	平 面	
SK069	R-125	偏長方形	88	68	41.8	41.80	0	平 面	N-60°-W
SK070	R-127	円 形	41	38	41.8	41.88	+8	平 面	
SK071	R-125	偏楕円形	118	82	41.8	41.61	19	平 面	
SK072	Q-127	円 形	102	92	41.8	41.87	+7	平 面	
SK073	Q-126	偏長方形	87	62	41.8	41.86	+6	平 面	N-9°-W
SK074	Q-126	長方形	101	66	41.8	41.86	+6	平 面	N-5°-E
SK075	Q-127	円 形	42	37	41.8	41.84	+4	平 面	
SK076	Q-127	楕円形	42	35	41.8	41.81	+1	平 面	
SK077	Q-127	楕円形	31	26	41.8	41.79	1	曲 面	
SK078	R-127	方 形	30	28	41.8	41.87	+7	平 面	
SK079	Q-127	円 形	36	34	41.8	41.68	12	曲 面	
SK080	Q-127	円 形	41	34	41.8	41.81	+1	平 面	
SK081	P-126	楕円形	57	45	41.8	41.8	0	平 面	土師器 1
SK082	Q-126	偏長方形	51	46	41.8	41.88	+8	平 面	
SK083	Q-125	円 形	51	47	41.8	41.53	27	曲 面	
SK084	Q-125	楕円形	82	74	41.8	41.66	14	平 面	須恵器 1
SK085	P-125	楕円形	147	135	41.8	40.71	109	曲 面	井戸
SK086	O-125	偏楕円形	197	175	41.8	39.25	255	不定形	須恵器 3、井戸
SK087	O-126	複合形	114	57	41.8	41.55	25	不定形	N-9°-W 土師器 1
SK088	N-125	円 形	30	25	41.8	41.48	32	曲 面	

第Ⅱ章 遺 構

土壌番号	位 置	平面形状	長径(cm)	短径(cm)	検出高(m)	底面高(m)	深さ(cm)	断面形状	その他 (方位、重複関係、遺物)
SK089	N-125	不定形	146	140	41.8	41.55	25	平 面	
SK090	N-125	複合形	84	50	41.8	41.23	57	曲 面	N-75°-W
SK091(A)	M-123	楕円形	222	174	41.8	41.24	56	不定形	N-7.5°-E 土師器15、須恵器 5
SK091(B)	M-123	円 形	45	43	41.8	41.51	29	曲 面	
SK092	N-124	楕円形	251	246	41.8	39.88	192	不定形	井戸
SK093	M-125	楕円形	33	26	41.8	41.5	30	曲 面	
SK094	N-126	楕円形	30	20	41.8	41.49	31	曲 面	
SK095	N-126	楕円形	25	20	41.8	41.52	28	曲 面	
SK096	M-126	長方形	62	37	41.8	41.29	51	曲 面	N-85°-E
SK097	M-126	楕円形	33	27	41.8	41.48	32	曲 面	
SK098	M-125	偏長方形	78	34	41.8	41.30	50	不定形	N-4°-W
SK099	M-125	偏楕円形	86	72	41.8	41.48	32	平 面	SK101(B)→SK099
SK100	M-125	円 形	37	33	41.8	41.5	30	曲 面	SK100→SK101(B)
SK101(A)	M-125	楕円形	58	39	41.8	41.48	32	曲 面	SK101(A)→SK101(B) 須恵器 2、灰釉 1
SK101(B)	M-125	不定形	124	94	41.8	41.62	18	不定形	
SK102	M-125	円 形	30	29	41.8	41.28	52	曲 面	
SK103	M-126	円 形	19	18	41.8	41.40	40	曲 面	
SK104	L-126	楕円形	28	22	41.8	41.49	31	曲 面	
SK105	L-125	円 形	33	32	41.8	41.37	43	曲 面	
SK106	L-125	円 形	105	99	41.8	41.61	19	平 面	
SK107	L-125	楕円形	33	22	41.8	41.56	24	平 面	
SK108	L-125	楕円形	47	23	41.8	41.44	36	曲 面	N-77°-E SK108→SK109
SK109	L-125	円 形	42	38	41.8	41.47	33	平 面	SK108→SK109
SK110	L-125	楕円形	33	19	41.8	41.49	31	曲 面	N-67°-E
SK111	T-131	楕円形	160	128	41.8	40.97	83	不定形	N-6°-E SB106 SB107→SK111 SB108
SK112	K-126	楕円形	47	38	41.8	41.23	57	曲 面	土師器 2
SK113	K-127	偏楕円形	119	108	41.8	41.14	66	曲 面	
SK114	K-128	円 形	38	38	41.8	41.34	46	曲 面	
SK115	K-128	円 形	22	22	41.8	41.46	34	曲 面	
SK116	K-127	不定形	134	94	41.8	41.01	79	不定形	
SK117	I-127	円 形	82	57	41.8	41.20	60	平 面	
SK118	K-131	偏長方形	114	67	41.8	40.96	84	不定形	N-15°-E
SK119	K-131	円 形	40	41	41.8	41.10	70	曲 面	
SK120	K-131	楕円形	65	58	41.8	40.98	82	不定形	
SK121	K-131	楕円形	67	55	41.8	40.64	116	曲 面	
SK122	K-132	円 形	48	45	41.8	41.10	70	曲 面	
SK123	K-131	楕円形	72	53	41.8	40.90	90	曲 面	
SK124	K-130	楕円形	65	61	41.8	40.89	91	不定形	
SK125	L-130	長方形	103	62	41.8	40.83	97	不定形	N-88°-W
SK126	L-130	円 形	51	47	41.8	40.88	92	曲 面	
SK127	L-131	円 形	60	57	41.8	40.97	83	曲 面	
SK128	L-132	円 形	46	55	41.8	41.05	75	曲 面	SD07→SK128
SK129	L-132	楕円形	59	55	41.8	41.14	66	曲 面	
SK130	L-132	円 形	56	45	41.8	41.24	56	曲 面	
SK131	L-131	楕円形	68	50	41.8	40.86	94	曲 面	N-71°-E

## 4 土壌の調査

土壌番号	位 置	平面形状	長径(cm)	短径(cm)	検出高(m)	底面高(m)	深さ(cm)	断面形状	その他 (方位、重複関係、遺物)
SK132	M-131	偏楕円形	86	76	41.8	41.01	79	不定形	
SK133	M-131	円形	56	50	41.8	40.99	81	曲面	
SK134	M-131	円形	50	48	41.8	40.94	86	不定形	
SK135	M-130	円形	65	60	41.8	41.06	74	平面	
SK136	M-130	楕円形	114	72	41.8	40.86	94	不定形	N-8°-W
SK137	M-130	円形	53	46	41.8	41.08	72	曲面	N-10°-W
SK138	N-130	円形	60	42	41.8	41.10	70	曲面	
SK139	N-129	偏楕円形	78	60	41.8	41.18	62	不定形	
SK140	L-128	楕円形	62	58	41.8	41.18	62	平面	
SK141	M-127	偏長方形	159	108	41.8	41.23	57	平面	N-86°-W SB092→SK141
SK142	O-131	円形	88	83	41.8	41.01	79	曲面	
SK143	P-131	円形	49	46	41.8	41.37	43	曲面	
SK144	P-131	偏楕円形	136	109	41.8	41.37	43	平面	N-38°-W
SK145	P-131	不定形	92	70	41.8	41.22	58	平面	
SK146	Q-129	円形	55	50	41.8	41.74	6	平面	
SK147	Q-129	楕円形	106	94	41.8	41.75	5	平面	
SK148	Q-131	楕円形	89	75	41.8	41.75	5	平面	
SK149	Q-132	楕円形	103	70	41.8	41.70	10	平面	N-4°-E
SK150	Q-132	楕円形	52	42	41.8	41.21	59	曲面	
SK151	Q-131	偏楕円形	54	43	41.8	41.75	5	平面	
SK152	Q-131	円形	60	60	41.8	41.62	18	平面	
SK153	Q-131	円形	55	53	41.8	41.70	10	曲面	須恵器 1、石垂 1
SK154	Q-131	不定形	174	133	41.8	41.58	22	不定形	
SK155	R-131	不定形	233	165	41.8	41.35	45	不定形	10号掘立柱建物→SK155 土師器 1、 須恵器 3、灰軸 1
SK156	R-132	楕円形	43	28	41.8	41.60	20	曲面	
SK157	R-132	不定形	148	86	41.8	41.66	14	平面	N-62°-W
SK158	R-133	楕円形	50	44	41.8	41.63	17	平面	
SK159	R-133	円形	46	30	41.8	41.52	28	平面	
SK160	R-132	円形	54	50	41.8	41.48	32	平面	須恵器 1
SK161	S-132	円形	38	34	41.8	41.51	29	曲面	
SK162	S-132	楕円形	50	40	41.8	41.57	23	平面	
SK163	S-131	楕円形	34	30	41.8	41.49	31	曲面	SB106 SB108→SK163
SK164	S-131	円形	53	49	41.8	40.82	98	曲面	
SK165	S-131	複合形	85	67	41.8	41.58	22	凹凸面	
SK166(A)	T-129	楕円形	78	62	41.8	41.59	21	曲面	
SK166(B)	T-130	円形	105	90	41.8	41.50	30	凹凸面	SB107→SK166(B)
SK167	U-130	偏長方形	181	157	41.8	41.44	36	平面	N-3°-E SB099→SK167
SK168	T-137	円形	40	38	41.7	41.12	58	平面	SB131→SK168
SK169	T-137	円形	45	44	41.7	41.32	38	平面	SB131→SK169
SK170	T-138	円形	40	37	41.7	41.35	35	平面	SB131→SK170 須恵器 1
SK171	T-138	円形	32	28	41.7	41.26	44	曲面	
SK172	U-139	複合形	175	173	41.7	40.58	112	凹凸面	SB130→SK172
SK173	T-139	楕円形	43	33	41.7	41.34	36	曲面	
SK174	T-139	円形	40	38	41.7	41.17	53	曲面	土錘 1
SK175	T-138	複合形	112	76	41.7	41.01	68	凹凸面	

第Ⅱ章 遺 構

土壌番号	位 置	平面形状	長径(cm)	短径(cm)	検出高(m)	底面高(m)	深さ(cm)	断面形状	その他 (方位、重複関係、遺物)
SK176	T-138	複合形	77	27	41.7	40.89	81	凹凸面	N-10°-E
SK177	T-138	楕円形	88	60	41.7	41.25	45	平 面	N-10°-E 須恵器 1
SK178	T-138	円 形	46	43	41.7	41.32	38	不定形	
SK179	T-138	円 形	36	36	41.7	41.33	37	曲 面	N-8°-W SB131→SK179
SK180	T-138	長方形	125	83	41.7	41.24	46	平 面	SK181→SK180
SK181	T-138	楕円形	55	43	41.7	41.42	28	曲 面	SK181→SK180
SK182	S-137	円 形	54	52	41.7	41.32	38	平 面	
SK183	T-137	円 形	36	33	41.7	41.29	41	曲 面	
SK184	S-137	楕円形	52	48	41.7	41.26	44	曲 面	
SK185	S-137	偏楕円形	47	37	41.7	41.18	52	曲 面	
SK186	S-137	楕円形	54	44	41.7	41.21	49	曲 面	
SK187	S-138	不定形	100	57	41.7	41.10	60	曲 面	N-85°-E
SK188	S-138	楕円形	70	52	41.7	41.07	63	不定形	N-80°-W SB132→SK188
SK189	S-138	楕円形	78	56	41.7	41.16	54	不定形	N-31°-E SB132→SK189
SK190	S-139	不定形	37	33	41.7	41.24	46	平 面	SB132→SK190
SK191	S-139	偏楕円形	40	28	41.7	41.25	45	曲 面	SB132→SK191
SK192	S-139	楕円形	77	53	41.7	41.38	32	曲 面	須恵器 1
SK193	R-139	方 形	63	58	41.7	41.23	47	曲 面	
SK194	S-138	円 形	44	43	41.7	41.32	38	平 面	SB132→SK194
SK195	S-138	楕円形	57	47	41.7	41.06	64	不定形	
SK196	R-138	楕円形	58	50	41.7	41.24	46	曲 面	
SK197	R-138	円 形	39	38	41.7	41.12	58	曲 面	
SK198	R-138	偏楕円形	50	46	41.7	41.12	58	不定形	土師器 1
SK199	R-138	円 形	51	48	41.7	41.01	69	不定形	
SK200	R-137	楕円形	182	140	41.7	40.67	103	平 面	須恵器 1、井戸
SK201	R-136	不定形	155	130	41.7	39.90	180	凹凸面	土師器 4、井戸
SK202	R-137	楕円形	39	33	41.7	41.18	52	曲 面	
SK203	Q-137	不定形	88	57	41.7	41.34	36	平 面	
SK204	P-137	楕円形	58	45	41.7	40.99	71	曲 面	
SK205	P-137	円 形	30	28	41.7	41.05	65	曲 面	
SK206	P-137	楕円形	42	32	41.7	41.22	48	曲 面	
SK207	P-137	円 形	38	33	41.7	41.19	51	曲 面	
SK208	O-137	円 形	38	37	41.7	41.22	48	曲 面	
SK209	U-141	方 形	63	38	41.7	41.20	50	平 面	N-79°-W SB124→SK209
SK210	U-141	円 形	75	73	41.7	41.20	50	曲 面	
SK211	T-141	長方形	264	231	41.7	41.39	31	平 面	SB125→SK211
SK212	U-142	円 形	61	62	41.7	41.33	37	曲 面	SB125→SK212
SK213	U-142	円 形	50	45	41.7	41.18	52	曲 面	SB125→SK213
SK214	U-142	円 形	56	50	41.7	41.09	61	曲 面	SB125→SK214
SK215	V-143	楕円形	91	67	41.7	41.19	51	平 面	
SK216	U-143	円 形	39	38	41.7	41.36	34	曲 面	
SK217(A)	V-145	円 形	36	36	41.7	41.34	36	平 面	
SK217(B)	V-147	長方形	57	50	41.7	41.40	30	曲 面	SB151→SK217(B)
SK218	U-145	円 形	75	73	41.7	41.32	38	凹凸面	SB149→SK218
SK219	U-144	円 形	68	66	41.7	41.54	16	平 面	



## 4 土壌の調査

土壌番号	位 置	平面形状	長径(cm)	短径(cm)	検出高(m)	底面高(m)	深さ(m)	断面形状	その他 (方位、重複関係、遺物)
SK220	T-144	円形	88	84	41.7	41.49	21	平面	
SK221	U-143	円形	44	46	41.7	41.53	17	平面	
SK222	U-143	偏楕円形	54	45	41.7	41.49	21	曲面	
SK223	U-142	円形	35	33	41.7	41.38	32	曲面	
SK224	U-143	円形	19	19	41.7	41.52	18	曲面	
SK225	T-143	楕円形	42	36	41.7	41.30	40	曲面	土師器 1
SK226	T-143	円形	32	26	41.7	41.56	14	曲面	
SK227	T-143	楕円形	38	23	41.7	41.40	30	平面	
SK228	U-142	不定形	62	21	41.7	41.29	41	平面	N-38°-E SB125 SB126→SK228
SK229	U-142	偏楕円形	36	34	41.7	41.36	34	平面	SB125→SK229 SB126
SK230	T-142	複合形	80	33	41.7	41.24	46	凹凸面	N-85°-E 須恵器 1
SK231(A)	T-142	偏長方形	47	41	41.7	41.38	32	曲面	
SK231(B)	S-142	楕円形	48	31	41.7	41.34	36	曲面	
SK232(A)	S-142	楕円形	47	38	41.7	41.44	26	曲面	
SK232(B)	S-142	円形	39	36	41.7	41.48	22	平面	
SK233	R-142	偏楕円形	40	40	41.7	41.46	24	曲面	
SK234	S-142	楕円形	31	27	41.7	41.51	19	曲面	
SK235	S-142	偏長方形	62	57	41.7	41.24	46	曲面	須恵器 1、灰釉 1
SK236	S-142	楕円形	52	42	41.7	41.49	21	曲面	
SK237	S-141	偏長方形	52	36	41.7	41.35	35	曲面	
SK238	S-141	円形	24	23	41.7	41.44	26	曲面	
SK239	S-141	楕円形	62	42	45.5	41.11	59	曲面	N-19°-W
SK240	T-141	偏楕円形	52	51	41.7	41.19	51	曲面	
SK241	T-141	不定形	48	41	41.7	41.09	61	不定形	
SK242	T-141	楕円形	35	27	41.7	41.36	34	曲面	
SK243	T-140	楕円形	42	33	41.7	41.24	46	曲面	
SK244	R-140	円形	26	24	41.7	41.47	23	曲面	
SK245	R-141	円形	27	23	41.7	41.49	21	曲面	
SK246	R-143	円形	35	33	41.7	41.39	31	曲面	
SK247	R-143	偏長方形	72	58	41.7	41.26	44	不定形	
SK248	U-143	円形	29	27	41.7	41.44	26	曲面	
SK249	R-143	楕円形	47	38	41.7	41.48	22	平面	
SK250	Q-143	円形	33	32	41.7	41.49	21	曲面	
SK251(A)	R-143	偏長方形	44	37	41.7	41.47	23	曲面	
SK251(B)	R-143	円形	49	46	41.7	41.10	60	曲面	N-40°-E
SK252	P-143	楕円形	36	30	41.7	41.44	26	曲面	
SK253	P-143	楕円形	73	56	41.7	40.85	85	曲面	
SK254	P-144	方形	68	65	41.7	41.19	51	曲面	
SK255	P-144	楕円形	60	57	41.7	41.45	25	曲面	土師器 2
SK256	Q-143	楕円形	35	22	41.7	41.34	36	曲面	
SK257	R-143	楕円形	43	35	41.7	41.25	45	曲面	
SK258	R-143	長方形	90	67	41.7	41.29	41	平面	N-59°-E 灰釉 1
SK259	R-143	長方形	67	51	41.7	41.44	26	平面	
SK260	R-143	方形	66	57	41.7	41.24	46	不定形	
SK261	Q-144	楕円形	33	21	41.7	41.32	38	曲面	

第II章 遺 構

土壌番号	位 置	平面形状	長径(cm)	短径(cm)	検出高(m)	底面高(m)	深さ(cm)	断面形状	その他 (方位、重複関係、遺物)	
SK262	Q-144	円形	23	22	41.7	41.20	50	曲面	N-87°-W 土師器1	
SK263	S-146	楕円形	97	74	41.7	41.45	25	不定形		
SK264	S-146	円形	50	48	41.7	41.40	30	平面		
SK265	S-147	円形	32	30	41.7	41.51	19	曲面		
SK266	S-147	楕円形	46	36	41.7	41.57	13	平面		
SK267	R-147	円形	64	60	41.7	41.46	24	曲面		
SK268	R-147	円形	50	40	41.7	41.36	34	曲面		
SK269	S-147	円形	26	24	41.7	41.54	16	曲面		
SK270	S-146	円形	43	40	41.7	41.46	24	曲面		
SK271	R-146	円形	62	55	41.7	41.14	56	曲面		
SK272	R-146	円形	31	28	41.7	41.54	16	曲面		
SK273	R-146	楕円形	47	35	41.7	41.47	23	平面		N-37°-W
SK274	R-146	円形	41	38	41.7	41.51	19	平面		
SK275	R-146	楕円形	73	71	41.7	41.43	27	曲面		
SK276	Q-146	円形	23	23	41.7	41.54	16	曲面		
SK277	Q-145	円形	43	39	41.7	41.62	8	平面		
SK278	Q-145	円形	46	46	41.7	41.46	24	曲面		
SK279	Q-146	方形	51	46	41.7	41.42	28	平面		
SK280	Q-146	円形	45	41	41.7	41.46	24	平面		
SK281	Q-147	円形	73	65	41.7	41.46	24	平面		
SK282	Q-148	円形	40	35	41.7	41.12	58	曲面		
SK283	Q-146	円形	58	57	41.7	41.44	26	平面		
SK284	Q-146	方形	53	48	41.7	41.42	28	平面		
SK285	P-146	円形	40	40	41.7	41.56	14	平面		
SK286	P-146	楕円形	70	56	41.7	41.38	32	平面		
SK287	P-146	偏楕円形	63	57	41.7	41.50	20	曲面		N-40°-E 須恵器1
SK288	P-146	不定形	160	64	41.7	41.38	32	不定形		
SK289	Q-146	楕円形	41	31	41.7	41.44	26	曲面		
SK290	Q-146	円形	46	42	41.7	41.46	24	平面		
SK291	Q-145	円形	47	46	41.7	41.40	30	平面		
SK292	Q-145	楕円形	72	64	41.7	41.45	25	曲面		
SK293	Q-145	方形	45	44	41.7	41.54	16	平面		
SK294	Q-145	楕円形	66	58	41.7	41.48	22	平面		
SK295	P-145	方形	37	37	41.7	41.50	20	曲面		
SK296	P-145	円形	46	43	41.7	41.48	22	曲面		
SK297	P-146	円形	38	30	41.7	41.51	19	曲面		
SK298(A)	N-145	偏長方形	58	52	41.7	41.30	40	曲面	SB167→SK298(A)	
SK298(B)	N-145	楕円形	88	59	41.7	41.35	35	曲面	SB167→SK298(B)	
SK299	P-146	不定形	130	32	41.7	41.50	20	平面	N-37°-E	
SK300	P-145	円形	38	37	41.7	41.50	20	平面		
SK301	P-145	不定形	127	93	41.7	41.32	38	不定形		
SK302	O-145	楕円形	52	47	41.7	41.54	16	平面		
SK303	O-145	楕円形	52	42	41.7	41.55	15	平面		
SK304	O-145	円形	42	40	41.7	41.42	28	曲面		
SK305	O-145	不定形	142	92	41.7	41.32	38	不定形		

## 4 土壌の調査

土壌番号	位 置	平面形状	長径(cm)	短径(cm)	検出高(m)	底面高(m)	深さ(cm)	断面形状	その他 (方位、重複関係、遺物)
SK306	O-145	円形	74	68	41.7	41.45	25	平面	
SK307	O-145	不定形	126	58	41.7	41.55	15	平面	N-17°-W SB166→SK307 須恵器2
SK308	O-145	不定形	164	88	41.7	41.40	30	不定形	
SK309	N-145	楕円形	56	38	41.7	41.13	57	曲面	N-30°-W
SK310	N-144	不定形	70	48	41.7	41.32	38	平面	SB165→SK310
SK311	N-144	偏長方形	53	42	41.7	41.33	37	曲面	N-55°-E
SK312	N-144	楕円形	39	34	41.7	41.34	36	曲面	
SK313	N-145	円形	38	38	41.7	41.41	29	平面	SB167→SK313
SK314	N-145	円形	33	32	41.7	41.39	31	曲面	SB167→SK314
SK315	N-147	不定形	107	90	41.7	41.37	33	曲面	SB169→SK315
SK316	N-146	楕円形	138	118	41.7	41.47	23	平面	N-20°-E SB169→SK316
SK317	S-146	長方形	140	64	41.7	41.24	46	平面	N-46°-E SB157→SK317
SK318	O-144	長方形	88	58	41.7	41.29	41	曲面	N-12°-E
SK319	M-145	楕円形	75	43	41.7	41.37	33	不定形	N-25°-W SB167→SK319
SK320	N-145	円形	37	36	41.7	41.34	36	曲面	SB167→SK320
SK321	N-144	楕円形	53	41	41.7	41.39	31	平面	
SK322	N-144	円形	33	29	41.7	41.22	48	曲面	
SK323	M-144	楕円形	52	44	41.7	41.46	24	平面	
SK324	M-143	楕円形	87	45	41.7	41.21	49	曲面	N-82°-W
SK325	M-143	楕円形	128	70	41.7	41.48	22	平面	N-72°-W
SK326	M-144	楕円形	44	28	41.7	41.43	27	曲面	N-31°-E
SK327	M-144	円形	56	55	41.7	41.30	40	平面	
SK328(A)	M-146	円形	26	25	41.7	41.22	48	曲面	SB168→SK328
SK328(B)	M-146	円形	83	54	41.7	41.30	40	平面	N-71°-W SB168→SK328
SK329	L-145	円形	22	20	41.7	41.42	28	曲面	
SK330	K-145	円形	45	42	41.7	41.18	52	曲面	
SK331	K-145	楕円形	54	45	41.7	41.42	28	曲面	
SK332	K-145	不定形	154	58	41.7	41.50	20	平面	N-28°-E
SK333	K-144	円形	20	20	41.7	41.42	28	曲面	
SK334	K-144	円形	35	34	41.7	41.47	23	平面	
SK335	K-145	楕円形	113	96	41.7	41.38	32	平面	
SK336	L-145	円形	31	28	41.7	41.10	60	曲面	
SK337	L-145	円形	22	20	41.7	41.44	26	曲面	
SK338	L-144	円形	24	22	41.7	41.32	38	曲面	
SK339	L-144	方形	42	41	41.7	41.40	30	不定形	
SK340	L-144	円形	23	22	41.7	41.30	40	曲面	
SK341	L-143	楕円形	27	23	41.7	41.40	30	曲面	
SK342	M-143	円形	27	25	41.7	41.15	55	曲面	
SK343	N-142	楕円形	77	62	41.7	41.44	26	平面	
SK344	N-141	楕円形	115	98	41.7	41.48	22	平面	SB143→SK344
SK345	K-138	楕円形	100	79	41.7	41.51	19	平面	
SK346	K-138	不定形	202	76	41.7	41.36	34	平面	N-17°-E
SK347	L-139	楕円形	158	75	41.7	41.40	30	平面	N-19°-E
SK348	L-140	楕円形	92	58	41.7	41.47	23	平面	W-E
SK349	K-140	長方形	125	78	41.7	41.50	20	平面	N-14°-E

第Ⅱ章 遺 構

土壌番号	位 置	平面形状	長径(cm)	短径(cm)	検出高(m)	底面高(m)	深さ(m)	断面形状	その他 (方位、重複関係、遺物)
SK350	K-140	不定形	108	74	41.7	41.57	13	平 面	N-25°-E
SK351	K-139	長方形	101	70	41.7	41.37	33	平 面	N-62°-E
SK352	K-139	長方形	264	140	41.7	41.46	24	平 面	N-90°-W SK350→SK352
SK353	J-140	長方形	93	62	41.7	41.50	20	平 面	N-71°-W
SK354	J-142	楕円形	119	100	41.7	41.58	12	平 面	N-18°-E 土師器 1
SK355	J-143	楕円形	87	77	41.7	41.60	10	平 面	
SK356	J-143	楕円形	133	94	41.7	41.58	12	平 面	N-78°-W
SK357	H-141	長方形	192	118	41.7	41.56	14	平 面	N-18°-E
SK358	F-136	楕円形	96	62	41.7	41.59	11	平 面	N-8°-E
SK359	F-136	楕円形	85	66	41.7	41.58	12	平 面	
SK360	E-136	楕円形	47	44	41.7	41.09	61	曲 面	
SK361	E-136	円 形	36	35	41.7	41.33	37	曲 面	
SK362	E-136	不定形	57	42	41.7	41.14	56	曲 面	N-57°-E
SK363	D-134	楕円形	33	28	41.7	41.43	27	曲 面	
SK364	C-134	円 形	32	30	41.7	41.36	34	曲 面	
SK365	C-133	円 形	28	25	41.7	41.42	28	曲 面	
SK366	E-132	円 形	25	25	41.7	41.42	28	曲 面	
SK367	E-132	楕円形	32	29	41.7	41.25	45	曲 面	
SK368	C-132	楕円形	132	114	41.7	41.32	38	平 面	
SK369	B-134	複合形	170	138	41.7	40.61	109	凹凸面	井戸
SK370	A-135	円 形	28	25	41.7	41.45	25	曲 面	
SK371	A-136	円 形	45	40	41.7	41.53	17	平 面	
SK372	A-136	円 形	28	28	41.7	41.44	26	曲 面	
SK373	A-136	方 形	44	44	41.7	41.30	40	曲 面	
SK374	A-138	円 形	41	37	41.7	41.46	24	曲 面	
SK375	A-138	円 形	56	55	41.7	41.31	39	曲 面	土師器 3
SK376	B-138	円 形	46	41	41.7	41.37	33	曲 面	
SK377	A-139	円 形	24	20	41.7	41.56	14	曲 面	
SK379	B-140	不定形	140	80	41.7	41.35	35	凹凸面	N-12°-W
SK380	D-138	不定形	145	53	41.7	41.67	3	平 面	N-16°-W
SK381	F-138	円 形	99	93	41.7	41.59	11	平 面	須恵器 1
SK382	E-140	複合形	185	175	41.7	41.57	13	不定形	土師器 2、須恵器 1
SK383	E-141	偏楕円形	70	45	41.7	41.75	+5	平 面	N-20°-E
SK384	E-141	楕円形	61	56	41.7	41.86	+16	平 面	
SK385	E-142	長方形	186	75	41.7	41.72	+2	平 面	N-67°-W
SK386	D-142	不定形	116	82	41.7	41.60	10	凹凸面	N-60°-W
SK387	D-144	長方形	168	99	41.7	41.68	2	平 面	N-5°-E
SK388	D-152	不定形	107	68	41.9	41.71	19	凹凸面	N-10°-E
SK389	A-152	楕円形	203	150	41.9	41.61	29	平 面	N-4°-W
SK390	A-153	不定形	219	132	41.9	41.66	24	平 面	N-8°-W
SK391	A-153	円 形	108	102	41.9	41.66	24	平 面	
SK392	C-154	円 形	80	75	41.9	41.72	18	平 面	
SK393	C-154	偏楕円形	130	101	41.9	41.58	32	平 面	N-86°-E
SK394	F-154	不定形	(390)	82	41.9	41.67	23	平 面	N-S SB074→SK394 土師器 1、須恵器 1、馬骨
SK395	C-158	楕円形	44	40	41.9	41.53	37	曲 面	SK395→5号土集

## 4 土壌の調査

土壌番号	位 置	平面形状	長径(cm)	短径(cm)	検出高(m)	底面高(m)	深さ(cm)	断面形状	その他 (方位、重複関係、遺物)
SK396	O-178	不定形	140	118	42.8	42.45	35	平 面	N-80°-E 土師器 2、須恵器 2
SK397	O-178	不定形	240	212	42.8	42.42	38	不定形	N-85°-E
SK398	P-178	偏長方形	275	138	42.8	42.21	59	平 面	W-E 須恵器 7
SK399	Q-178	不定形	143	127	42.8	42.25	55	平 面	須恵器 1、土錘 1
SK400	R-178	偏長方形	155	100	42.8	42.48	32	平 面	N-18°-E
SK401	R-179	楕円形	161	145	42.8	42.44	36	平 面	土師器 1
SK402	Q-179	長方形	293	167	42.8	42.44	36	平 面	N-84°-W
SK404	Q-179	複合形	218	102	42.8	42.06	74	凹凸面	N-84°-W 須恵器 3
SK405	Q-179	複合形	205	112	42.8	42.23	57	凹凸面	N-11°-E 須恵器 3、土錘 1
SK406	R-180	楕円形	66	48	42.8	42.23	57	曲 面	土錘器 1
SK407	R-180	楕円形	55	45	42.8	42.30	50	曲 面	
SK408	Q-181	楕円形	98	78	42.8	42.31	49	平 面	
SK409	R-180	楕円形	141	122	42.8	42.55	25	平 面	
SK410	R-181	偏長方形	188	123	42.8	42.67	13	平 面	N-4°-E 土師器 1
SK411	R-181	楕円形	94	77	42.8	42.64	16	平 面	
SK412	S-181	楕円形	138	106	42.8	42.45	35	平 面	N-65°-W 土師器 1
SK413	S-181	楕円形	125	113	42.8	42.08	72	曲 面	須恵器 2
SK414	S-181	楕円形	70	67	42.8	42.56	24	平 面	
SK415	T-181	不定形	144	138	42.8	42.50	30	平 面	
SK416	T-180	楕円形	45	37	42.8	42.53	27	曲 面	
SK417	T-181	楕円形	133	123	42.8	42.50	30	平 面	
SK418	T-182	楕円形	68	53	42.8	42.37	43	平 面	N-5°-W 須恵器 6
SK419	T-182	不定形	46	40	42.8	42.30	50	曲 面	須恵器 2
SK420	T-183	不定形	206	166	42.8	42.41	39	平 面	土師器 2、須恵器 12、灰軸 2、炭化物 1
SK421	T-182	不定形	172	145	42.8	42.47	33	曲 面	須恵器 3
SK422	S-182	複合形	258	128	42.8	42.31	49	凹凸面	N-49°-E
SK423	S-182	楕円形	146	85	42.8	42.50	30	平 面	N-67°-W
SK424	R-182	楕円形	168	115	42.8	42.61	19	平 面	N-38°-E 土錘 1
SK425	R-182	楕円形	137	85	42.8	42.54	26	曲 面	N-S
SK426	R-183	円 形	111	108	42.8	42.77	3	平 面	須恵器 1
SK427	P-182	楕円形	113	94	42.8	42.44	36	不定形	須恵器 1
SK428	P-182	楕円形	168	128	42.8	42.31	49	平 面	N-64°-W 須恵器 4
SK429	Q-186	不定形	152	92	42.8	42.54	26	不定形	土師器 2、須恵器 1
SK430	Q-186	方 形	75	75	42.8	42.52	28	平 面	
SK431	R-187	偏長方形	131	91	42.8	42.37	43	不定形	N-87°-W SB196→SK431 須恵器 17、灰軸 2、土錘 1
SK432	T-189	偏長方形	121	112	42.8	42.56	24	不定形	SB199→SK432
SK433	T-192	不定形	151	111	42.8	42.72	8	平 面	須恵器 2
SK434	Q-181	長方形	244	107	42.8	42.39	41	平 面	N-8°-E SB181→SK434、須恵器 1
SK435	Q-186	円 形	93	90	42.8	42.27	53	曲 面	N-4°-E SB190→SK435
SK436	T-189	楕円形	133	105	42.8	42.44	36	平 面	SB198→SK436 SB199→SK436

第Ⅱ章 遺 構

土層番号	土層番号	土 色	土 質 観 察
SK001	1	黒褐色土層	軽石粘土を含む土層、固くしまっている。地山を覆う黒色土層。
	2	暗褐色土層	1層と近似して粘土ブロックを混入しない層。
004	1	黒色土層	ローム粒、炭化物を混入する。若干粘質を持つ。
	2	黒色土層	1層中に特にロームのみえる処がある層。
	3	黒色土層	1層と近似しているが、ローム粒がだんだん下層に従い多くなる、だが量としては若干である。
	4	暗褐色土層	黒色土層中にロームブロックがやや多くみられる。地山ローム崩れがある。
	5	暗灰色土層	粘土質を含む層でやや粘質を持つ。
	6	灰白色土層	粘土層と褐色土層との混土層、粘質を非常に持ち水分を多量に含む。
005	1	灰黒色土層	柔らかい。
	2	灰白色土層	粒子細かく柔らかい。
	3	暗(黒)褐色土層	粘質があり固い。
	4	黒褐色土層	左半分はロームが多量に混じる。
	5	黒褐色土層	砂質が多くなる、層の上下面に砂質のローム入る。
	6		ロームと5層の混土層、斜に走る。
006	1	暗褐色土層	黒色土層中にローム粒混入。
	2		ロームブロック
007	1	黄褐色土層	黒色土とローム粒との混合土層。
	2	黒褐色土層	地黒色土層中にわずかなローム粒が混入。
	3	暗褐色土層	黒色土層中にローム粒混入。
008	1	暗褐色土層	黒色土層中にローム粒混入。
	2	黒褐色土層	地黒色土層中にわずかなローム粒が混入。
	3	黄褐色土層	黒色土とローム粒との混合土層。
	4		ロームブロック
010	1	黄褐色土層	黒色土とローム粒との混合土層。
	2	暗褐色土層	黒色土層中にローム粒混入。
	3	黒褐色土層	地黒色土層中にわずかなローム粒が混入。
011	1	暗褐色土層	黒色土層中にローム粒混入。
	2		ロームブロック
013	1		ロームブロック (径で2~3cm大)
014	1	黒色土層	黒色土の混土層を主体とした黒色土層、下層部分に若干のロームブロック粒を含む。
015	1		ロームブロック
016	1	褐色土層	黒褐色土層と黄褐色土層との中間のローム含有層、同質的には黒褐色土層と同じ。
	2	黄褐色土層	褐色土層とロームとの混土層。
017	1	黒褐色土層	ローム粒が若干みられ、炭化物がわずかにみられる。
	2	黒褐色土層	ロームブロック細粒を若干含む。
	3	黄褐色土層	褐色土層とロームとの混土層。
018(A)	1	黒褐色土層	ローム粒が若干みられ、炭化物がわずかにみられる。
018(B)	1	黒褐色土層	ローム粒が若干みられる。炭化物がわずかにみられる。
019	1	黒褐色土層	ローム粒が若干みられ、炭化物がわずかにみられる。
	2		ロームブロック
021	1	黒褐色土層	ローム粒が若干みられる。炭化物がわずかにみられる。
	2	黄褐色土層	褐色土層とロームとの混入層。
022	1	黒褐色土層	ローム粒が若干みられる。炭化物がわずかにみられる。
023	1	黒褐色土層	
024	1	黒褐色土層	
	2		ロームブロック
	3	黄褐色土層	褐色土層とロームとの混土層。
026	1	黒褐色土層	ローム粒が若干みられる。炭化物がわずかにみられる。
	2	黄褐色土層	褐色土層とロームとの混土層。
	3		ロームブロック
028	1	黒褐色土層	ローム粒が若干みられる。炭化物がわずかにみられる。
	2		ロームブロック
029	1	黒褐色土層	ローム粒が若干みられる。炭化物がわずかにみられる。
030(A)	1	黒褐色土層	
	2	褐色土層	黒褐色土層と黄褐色土層との中間のローム含有層。同質的には黒褐色土層と同じ。
	3	黄褐色土層	褐色土層とロームとの混土層。
	4		ロームブロック
	5	白色土層	白色系で若干粘土質である。
032	1	暗褐色土層	黒褐色土層よりロームの量が多い、軟質、炭化物混入する。
033	1	黒褐色土層	ローム粒を若干混入する。炭化物を混入する。
	2	暗褐色土層	黒褐色土層よりロームの量が多い、軟質、炭化物混入する。
034	1	暗褐色土層	黒褐色土層よりロームの量が多い、軟質、炭化物混入する。

## 4 土壌の調査

土壌番号	土層番号	土 色	土 質 観 察
034	2	黄褐色土層	ロームと褐色土との混土層。
035	1	黒褐色土層	ローム粒を若干混入する。炭化物が混入する。
	2	暗褐色土層	黒褐色土層よりロームの量が多い、軟質、炭化物混入する。
036	1	黒褐色土層	ローム粒を若干混入する。炭化物が混入する。
037	1	暗褐色土層	黒褐色土層よりロームの量が多い、軟質、炭化物混入する。
039	1	暗灰色土層	軽石、炭化物を含む砂っぽい土層。
	2	灰白色土層	純粋粘土層
	3	黒褐色土層	若干粘質を持ち、暗灰色土層より多量の炭化物を含む。
	4	黒色土層	粘質を持つ土層。井戸などに見られる層。
	5	灰黒色土層	若干砂っぽい粘質をもち、幾分シルトに近い感じ。炭化物混入。
	6		純粋砂層
040	1	灰褐色土層	粒子の非常に細かい粘性土
	2	灰褐色土層	地山
041	1	暗灰色シルト層	比較的多孔質で暗灰色シルト（黄褐色味強い）より若干くらい。
	2	暗灰色シルト層	黄褐色味強い。
	3	暗灰色シルト層	
	4	暗灰色シルト層	腐植質で浮石質のロームブロック含む。
	5		未確認
042	1	暗灰色シルト層	黄色味の強い層
	2	暗灰色シルト層	分層可能、黒色味があり炭化物を包含。
	3	暗灰色シルト層	分層可能、黒色味があり炭化物を包含。
	4	暗灰色シルト層	分層可能、黒色味があり炭化物を包含。
	5	暗灰色シルト層	分層可能、黒色味があり炭化物を包含。
043	1	灰褐色土層	炭化物、鉄分凝集がみられ、土質は壁に比較し軟質で、色調は壁と同様であるが壁よりは黒味をもつ。
	2		炭化物、焼土を多量に混入する層
044	1	灰褐色土層	炭化物、鉄分凝集がみられる。土質は壁に比較し軟質、又壁と色調は同じ様であるが壁よりは黒味をもつ。
	2		炭化物、焼土を多量に混入する層
	3		白色系の砂質粘土
045	1	灰褐色土層	炭化物、鉄分凝集がみられる。土質は壁に比較し軟質で、色調は壁と同様であるが壁よりは黒味をもつ。
046	1	灰褐色土層	
047	1	暗褐色土層	褐色土、炭化物及び粘土、暗褐色粘質土の混土層。
048	1	褐色土層	浮石を含む、ややしまった層。
049	1	暗褐色土層	浮石、焼土粒をわずかに含むしまった層。
052	1	暗褐色土層	焼土、炭化物、浮石、小粒子を含む、ややしまった層。
053	1	褐色土層	浮石を含む、ややしまった層。
059	1	暗褐色土層	浮石、焼土粒をわずかに含むしまった層。
071	1	褐色土層	焼土及び炭化物を含むややしまった層。
073	1	褐色土層	しまったやや粘性のある黒みかかった層、浮石もわずかに見られる。
074	1	褐色土層	浮石がわずかに見られる、しまったやや粘性のある黒みかかった層。
079	1	褐色土層	やや軟かで土器片を多数含む。
080	1	暗褐色土層	ややしまっており焼土を含む。
081	1	褐色土層	焼土、炭化物を含みしまっている、浮石を含む。
083	1	褐色土層	比較的軟かで焼土粉をわずかに含む。
084	1	褐色土層	炭化物、浮石を含む層でしまっている。
086	1	暗褐色土層	焼土細粒、炭化物等を含み粘質をおび、固くしまっている層。鉄分凝集の筋が走る。
	2	暗褐色土層	焼土細粒、炭化物等を含み、少し砂っぽい。①層より灰色味を帯びる。下底部に砂が少量入る。
	3	暗褐色土層	砂が斜の筋になって入る。
	4	暗褐色土層	焼土粒、炭等入る。②層より粘性を持つ。
	5	灰黒色土層	粘性を持ち、井泥状をなす。
087	1	黒褐色土層	（若干の粘土粒を含む砂質）より多量の粘土粒を含む褐色土層。
	2	暗褐色土層	若干のネズミ色を呈するが砂質を帯びる。
	3	黒褐色土層	若干の粘土粒を含む砂質。
089	1	黒褐色土層	焼土、ローム粒（地山）を含む。
090	1	黒褐色土層	炭化物粒、焼土と多量の粘土粒を含む。
	2	黒褐色土層	粘土粒を含む層。粒子が細かく粘質性を持つ（黒色のみ）
091(B)	1	粘質黒褐色土層	
092	1	暗茶褐色土層	焼土を含む。
	2	暗灰色粘土層	

第Ⅱ章 遺 構

土層番号	土層番号	土 色	土 質 観 察
092	3	黒褐色土層	黒土ブロックと焼土と炭化物を含む。
	4	黒色土層	粘質
106	1	黒褐色土層	白色粘土を若干、鉄分と砂を含む。
111	1	暗褐色土層	粘土粒、炭化物、遺物、若干の焼土を混入し、住居の覆土。
	2	灰褐色土層	粘土粒、砂質を含む。①層よりは白味を帯びる。
	3	黒色土層	地山の黒色土がブロックとして混入。
	4	黒褐色土層	焼土、炭化物が見られ良く焼けている。
112	1	粘質黒褐色土層	
113	1	褐色土層	若干の砂、および鉄分凝集検出。
	2	暗褐色土層	砂と褐色土層を1対1の割合で含む層。ネズミ色を呈す。
	3		砂層
	4	暗褐色土層	粘質と軽石を含む層。若干の砂をみる。
	5	黒褐色土層	黒色ブロックが混在する層。
114	1	褐色土層	多量の砂を含む層。鉄分凝集がみられる。
	2	暗褐色土層	砂は混在しない。若干の粘質をおびる。軽石を含む。
115	1	褐色土層	多量の砂を含む層。鉄分凝集がみられる。
	2	暗褐色土層	砂は混在しない。若干の粘質をおびる。軽石を含む。
116	1	黒褐色土層	黒色土のブロックが混在する。若干の粘土粒を含む。
	2		砂層
	3	褐色土層	多量の砂を含む。軟質。ザラザラしている。
117	1	灰色砂層	
118	1	灰褐色砂質土層	黒色粘質土ブロック含む。鉄分凝集あり。
	2	灰褐色砂質土層	黒色粘質土ブロック含む。鉄分凝集少ない。
	3	灰褐色砂質土層	黒色ブロックなし。
119	1	灰褐色砂質土層	粘質土を含む。鉄分凝集。
	2	灰褐色砂質土層	粘質土の方が多くなる。
120	1	灰褐色砂質土層	粘質土ほとんどない。鉄分凝集。
	2	灰褐色砂質土層	粘質土ほとんどない。鉄分凝集少ない。
	3	灰褐色砂質土層	地山
121	1	黒褐色土層	多量の鉄分凝集を持つ。
	2	黒褐色土層	多量の砂分を含む。炭化物混入土層、軟質。
123	1	暗褐色土層	若干地山土層を混入する砂層土壌。鉄分凝集が若干みられる。
	2	暗褐色土層	粘質を持つ粘土ブロック混入。
124	1	灰褐色砂質土層	粘質土ほとんどない、鉄分凝集。
	2	灰褐色砂質土層	粘質土ほとんどない、鉄分凝集少ない。
	3	灰褐色砂質土層	地山
125	1	灰褐色砂質土層	粘質土を含む。鉄分凝集少ない、左の壁外に広がる。
126	1	灰褐色砂質土層	
	2	灰褐色粘質土層	少し砂っぽく地山に比較して柔らかい。
127	1	灰褐色砂質土層	粘質土を含む、鉄分凝集あり。
	2	灰褐色砂質土層	粘質土を含む、鉄分凝集少ない。
	3	灰褐色砂質土層	粘質土多くなる。
130	1	灰褐色砂層	
131	1	灰褐色砂質土層	上部10cm程に鉄分凝集
	2	灰褐色砂質土層	灰褐色砂質土層暗くなる。
132	1	灰褐色砂質土層	粘質土を含む。鉄分凝集あり。
	2	灰褐色粘質土層	壁くずれ?鉄分凝集あり。
133	1	灰褐色砂質土層	地山の砂層に比しやや粘性をもち鉄分凝集も強く、掘り方が判明する。
134	1	灰褐色砂質土層	粘質土が砂質土の中に混じる、鉄分凝集あり。
	2	灰褐色砂質土層	鉄分凝集がなくなる。
135	1	灰褐色砂質土層	粘質土が砂質土の中に混じる、鉄分凝集あり。
	2	灰褐色土層	砂質分が少なくなる。
136	1	灰褐色砂質土層	粘質土が混じる青灰色粘土細粒で上半分に強い鉄分凝集あり。
	2	灰褐色砂質土層	鉄分凝集がなくなる。
	3	灰褐色砂質土層	粘質土なくなる、上部にわずかに鉄分凝集あり。壁くずれ
	4	灰褐色粘質土層	地山
137	1	灰褐色砂質土層	弱い鉄分凝集あり。
	2	灰褐色粘質土層	地山
138	1	灰褐色砂質土層	他のピットに比して鉄分凝集小さく少ない。
	2	灰褐色砂質土層	地山
139	1	褐色土層	多量の鉄分を含む、暗褐色土層(砂質を含む、軟質、炭化物の混入)
	2	暗褐色土層	砂質を含む、軟質、炭化物を混入。



## 4 土壌の調査

土壌番号	土層番号	土 色	土 質 観 察
140	1	褐色土層	多量の鉄分を含む暗褐色土層（砂質を含む、軟質、炭化物を混入）
	2	暗褐色土層	砂質を含む、軟質、炭化物を混入。
	3	黒褐色土層	地山の崩れ、やや粘質を持つがやわらかい。
142	1	灰褐色砂質土層	粘質土を含む、鉄分凝集の強い固まり。
	2	灰褐色砂質土層	粘質土を含む、鉄分凝集少なくなる。
143	1	灰褐色土層	やわらかな砂質土わずかに暗褐色土粒を含む。
144	1	灰褐色土層	わずかに炭化物を含む砂質土。
145	1	灰褐色土層	やわらかな砂質土。
147	1		
149	1	褐色土層	暗褐色粘土、灰色粘土、混土層。炭化物及び鉄分の凝集も見られる。
150	1	暗褐色土層	鉄分、砂、軽石を含む土層。地山、黒色土、砂質味を帯びる覆土。
153	1	褐色土層	焼土ブロックを含むややしまった層。
154	1	褐色土層	炭化物粒を多く含む焼土粒が見られるややしまった層。
155	1		未確認
	2	褐色土層	炭化物粘土ブロック、鉄分凝集、軽石を含む。
	3	黒褐色土層	黒色ブロック鉄分凝集、軽石を含む層。
160	1	褐色土層	軽石、鉄分凝集を含む褐色土層。砂質を帯びる。遺物包含層。
	2	黒褐色土層	軽石を含む、黒褐色土層。粘質性。
164	1	暗褐色土層	鉄分黒色ブロック、軽石を含む、若干の粘土ブロック。軽質でサラサラした感じがある。
	2	黒褐色土層	粘質を帯びる。若干の炭化粒を混入。
166(A)	1	暗褐色土層	軽石粒、炭化物及び炭化粒を含む。この範囲まで鉄分凝集層がみられる。
	2	黒褐色土層	若干の軽石を含む層で粘質を持つ。
166(A)	1	暗褐色土層	焼土、炭化物、浮石、小粒子を含む、ややしまった層。
167	1	暗褐色土層	若干の炭化物、及び粘土軽石を混入する土層、比較的軟質。
	2	黒褐色土層	地山である黒褐色土層が南方より多量に流れ込んだ形態がある。
168	1	灰褐色土層	灰白粘土を含み比較的しまった層。
	2	褐色土層	わずかに粘性を有する、しまった層。
169	1	褐色土層	炭化物を含む軟らかな層。
	2	灰褐色土層	灰白粘土を含み比較的しまった層。
170	1	灰白色土層	灰白色に近い粘質土層だが砂質を帯びる。
	2		1層に近く鉄分凝集が見られる。
173	1	褐色土層	暗褐色粘土粒を含むやや粘性のある層。灰白粘土がボロボロした状態で入る。
174	1	褐色土層	灰白色粘土、炭化物粒を霜降り状に混在させる比較的しまった層。底面は暗褐色粘質土でしまっている。
175	1	褐色土層	青灰白粘土粒及び黄色かかった粘土の小粒子を含む。
	2	褐色土層	青灰白粘土粒及び黄色かかった粘土の小粒子を含む。砂質土。
	3	褐色土層	1層に比べ青灰白粘土がブロック状に大きく入る。
	4	褐色土層	暗褐色粘質土粒を含む。他は1層と同様。
176	1		1層に比較し軟質。
	2		初期のPit硬質。
	3	黒褐色土層	黒味（チョコレート色）で軟質ボロボロ。
177	1	灰白色土層	灰白色に近い粘質土層だが砂質を帯びる。
178	1	灰白色土層	灰白色に近い粘質土層。炭化粒混入。
	2		1層より黒味を帯びる砂質。地山は水成堆積土。
179	1	灰白色土層	灰白色に近い粘質土層だが砂質を帯びる。
	2	淡褐色土層	淡いチョコレート色、軟質、鉄分凝集。
181	1	灰白色土層	砂質味を帯び軟質。
	2	灰白色土層	粘質をもつ地山水成堆積。
182	1		粘土ブロックを含む、炭化物混入、砂質を帯びる。
	2	灰白色土層	粘質を持つ地山水成堆積。
183	1	褐色土層	砂質土で軟らかい。
	2	褐色土層	灰白色の粘土粒をわずかに含む砂質土。
184	1	灰白色土層	粘質土層。炭化粒混入。
185	1	褐色土層	鉄分を含むややしまった層。
186	1	灰白色土層	灰白色に近い粘質土層だが砂質を帯びる。
	2	淡褐色土層	淡いチョコレート色、軟質、鉄分凝集、焼土混入。
	3		地山崩れ
	4	淡褐色土層	淡いチョコレート色、軟質、鉄分凝集、焼土混入。

第Ⅱ章 遺 構

土層番号	土層番号	土 色	土 質 観 察
187	1		炭化物焼土混合土層
	2	灰白色土層	灰白色に近い粘質土層。炭化粒混入。
	3		炭化物、焼土混合土層。
	4	黒褐色土層	黒味（チョコレート色）で軟質ボロボロ。土器、粘土混入。
	5	黒褐色土層	黒味（チョコレート色）で軟質ボロボロ。
	6		地山の崩れ。
188	1	灰白色土層	灰白色に近い粘質土層。炭化物、焼土、土器片。
	2	褐色土層	若干の黒色を持つ。
	3	褐色土層	若干の焼土混入。
	4		湿りけを持つ砂質。
	5	黒褐色土層	黒味（チョコレート色）で軟質ボロボロ。
189	1	灰白色土層	灰白色に近い粘質土層。炭化粒混入、焼土。
	2	淡褐色土層	淡いチョコレート色、軟質、鉄分凝集。
	3	黒褐色土層	黒味（チョコレート色）で軟質ボロボロ。
190	1	褐色土層	炭化物、焼土粒を含む砂質土。
191	1	褐色土層	炭化物、焼土粒を含む砂質土。焼土を含む層。
192	1	褐色土層	比較的しまり、炭化物の小粒を含む。焼土粒子をも含む。
	2	灰褐色土層	ボロボロした層で、鉄分の凝集も見られる。
193	1	灰白色土層	灰白色に近い粘質土層だが砂質を帯びる。
	2		1層と同じだが若干黒味を帯びる。
194	1	灰褐色土層	暗褐色粘土粒と灰白色粘質土の混土。鉄分もいく分見られる。
195	1	褐色土層	炭化物、焼土粒を含む砂質土。
	2	褐色土層	炭化物、焼土粒を含む砂質土。褐色粘土粒が含まれる。
196	1	灰白色土層	灰白色に近い粘質土層だが砂質を帯びる。粘土粒混入。
197	1	灰白色土層	砂質を帯びた灰白色に近い粘質土層。粘土粒混入。
198	1	灰白色土層	灰白色に近い粘質土層。炭化粒混入。
	2	灰白色土層	灰白色に近い粘質土層。炭化粒混入。砂質を帯びる。
199	1	褐色土層	灰白色粘土と炭化物を含むややしまった層。
200	1	暗灰色土層	壁のまわりに全体に見られる。粘質を持つ砂層。炭化物、木材、竹、木葉を多量に含む。
	2	灰褐色土層	砂層で軟らかい。
	3	褐色土層	粘性をわずかに持つ鉄分を含む層。
	4	暗褐色土層	ところどころ砂を含み、暗褐色粘土粒が見られる。
	5	黄褐色土層	粘質土でわずかに鉄分を含む。
	6	暗褐色土層	鉄分凝集が見られ、わずかに炭化物を含む。遺物がこの層中より多く見られる。
201	1	褐色土層	粘土粒、炭化粒を含む軟かな砂質土層。わずかに焼土も見られる。
	2	灰褐色土層	わずかに鉄分の凝集の見られる砂質土層。
	3	灰褐色土層	粘性をもつ砂質土層。
203	1		鉄分の凝集の著しい層で炭化物が多量に含まれる。
	2		粘性を持つ層で砂を含む。
211	1	褐色土層	炭化物粒、粘土粒が混入し、やや軟らかい。
	2	灰褐色土層	灰白色の粘土粒を多く含む、粘性のある層。
212	1	黒褐色粘質土層	
	2	灰褐色土層	粘性を持つ灰褐色土。
217(B)	1	褐色土層	炭化物を含む砂質土。
	2	褐色土層	暗褐色粘質土の含まれる砂質土。
218	1	褐色土層	炭化物を含む砂質土。
	2	暗褐色土層	青白色粘土粒を含む粘質土。焼土炭を多量に含む。
219	1	灰褐色土層	灰白色粘土粒をわずかに含む、炭化物粒も見られる。
225	1	褐色土層	青灰褐色粘土と炭化物粒をわずかに含む。
	2	褐色土層	砂質土でやや粘質を有する。
227	1	灰褐色土層	灰白色粘土粒をわずかに含む、ややしまった層。
230	1	灰褐色土層	ややしまった砂質粘土粒を含む。炭化物わずかに含む。
	2	灰褐色土層	灰白色粘土粒を含みボロボロした感じの層。やや砂っぽい。
231(A)	1	灰褐色土層	砂質土で炭化物粒を含む。
	2	灰褐色土層	炭化物粒を含みボロボロした感じの層。
231(B)	1	灰褐色土層	灰白色粘土粒をわずかに含む、ややしまった層。
235	1	褐色土層	焼土、炭化物粒子を含む、ややしまった層。
	2	褐色土層	暗褐色粘土粒、灰白色粘土粒を含みボロボロした感じの層。
236	1	灰褐色土層	砂質土で炭化物を含む。
	2	灰褐色土層	炭化物粒を含みボロボロした感じの層。
237	1	灰褐色土層	砂質土で炭化物粒を含む。

## 4 土壌の調査

土壌番号	土層番号	土 色	土 質 観 察
237	2	灰褐色土層	炭化物粒を含みボロボロした感じの層。
239	1	褐色土層	焼土粒、炭化物粒をわずかに含む比較的しまった層。
240	1	褐色土層	炭化物、灰白粘土粒を含む。
	2	褐色土層	炭化物粒を含みボロボロした感じの層。
241	1	褐色土層	比較的しまっており、わずかに粘土粒を含む。
	2	灰褐色土層	灰白色粘土が1層に比較し多い、やや粘性を持つ。
247	1		
	2		
250	1	灰褐色土層	炭化物、灰白色粘土粒を含む砂質土。
251(A)	1	灰褐色土層	砂質土で、炭化物、灰白色粘土粒を含む。
254	1	褐色土層	粘土粒、炭化物粒を混じえる砂質土。
	2	褐色土層	1層に比して灰白色粘土粒が多量に見られる。
255	1	灰褐色土層	炭化物、灰白色粘土粒を含む砂質土。
257	1	褐色土層	ボロボロした感じの炭化物を含む層。
	2	褐色土層	1層よりやや粘性を有する層。
258	1	褐色土層	炭化物、焼土粒を含む砂質土。サラサラして軟らかい。
	2	褐色土層	1層と今有されるものは同様であるが、灰白色土と暗褐色粘質土が混じる。
259	1	褐色土層	ボロボロした感じの炭化物を含む。
263	1	褐色土層	暗褐色粘土を含む粘性を有する砂質土。
264	1	褐色土層	粘性を有する砂質土で暗褐色粘土を含む。
271	1	褐色土層	青灰褐色粘土と炭化物粒をわずかに含む。
	2	褐色土層	砂質土でやや粘性を有する。
275	1	褐色土層	青灰色の粘土粒をまだらに含む砂質土。
	2	褐色土層	炭化物を含む、砂質土でわずかに粘性を有する。サラサラして軟らかい。
278	1	褐色土層	砂質土でわずかに粘性を有する。サラサラして軟らかい。
287	1	灰褐色砂質土層	
298(A)	1	灰褐色砂質土層	
	2	褐色砂質土層	サラサラした褐色砂質土。
298(B)	1	褐色土層	粘性を有する褐色土。
307	1	褐色土層	炭化物を含み、焼土粒子をも含む砂質。
	2	灰褐色土層	わずかに粘性を持つ砂質土。
	3		炭化物含有層
316	1	褐色土層	やや粘性をもつ層で炭化物を含む。
	2	灰褐色土層	炭化物を含む砂質土。
	3	灰褐色土層	灰白色の砂質土を①の中に混じる。
335	1	褐色土層	炭化物を含む砂質土。
	2	灰褐色土層	1層に比較してややあかるい砂層。
345	1	灰褐色土層	灰白色の砂質層。軟らかい、底面は砂質土で軟らかい。
346	1	灰褐色土層	灰白色粘土粒を含む砂質土。軟らかい。
	2	灰褐色土層	1層に比較して灰白色土粒が少ない。
347	1	褐色土層	炭化物、焼土を含む砂質土。
348	1	褐色土層	炭化物粒、灰白色粘土粒を含む軟らかな砂質土。
349	1	褐色土層	灰白色の粘土粒をわずかに含む、軟らかい砂質土。
	2	暗褐色土層	灰状の炭化物と砂との混土層。軟らかな層。
	3	褐色土層	粘性のわずかに見られる層。
350	1	灰褐色土層	炭化物を含む。砂質土で軟らかい。
	2	暗褐色土層	灰状の炭化物と焼土粒を含む砂質土。
351	1	灰褐色土層	わずかに炭化物粒を含む砂質土。
	2	褐色土層	炭化物を含む粘性を有する砂質土。
	3	褐色土層	比較的しまった砂質土。
352	1	褐色土層	灰白色の粘土粒をわずかに含む軟らかな砂質土。鉄分の凝集も見られる。
	2	褐色土層	やや粘性の見られる砂質土。炭化物粒も見られる。
	3	褐色土層	2層より暗みがある層。
353	1	褐色土層	軟らかな砂質土層。焼土粒を含む。
	2		炭化物の堆積層。
	3	褐色土層	やや粘性を持つ砂質土。1層に比して暗い。
354	1	褐色土層	炭化物の小粒子を含む砂質土。

第Ⅱ章 遺 構

土層番号	土層番号	土 色	土 質 観 察
354	2	暗灰褐色土層	灰及び暗褐色粘土の混入。
355	1	褐色土層	青灰色粘土、炭化物の小粒子を含む。
	2	褐色土層	砂質土でザクザクしている。
356	1	褐色土層	比較的良好にしまっている砂質土。中に暗褐色粘質土ブロックがまじる。
357	1	褐色土層	比較的砂質分の多い土で、鉄分の凝集が明確に見られる。
358	1	褐色土層	鉄分の凝集が見られる。
359	1	褐色土層	鉄分の凝集が見られる。
	2	白色粘土層	
	3	黒色粘土層	
368	1	暗灰色土層	黒色ブロック、焼土を混入する。緻密である。フカフカしている。地山崩れ、固くしまっている。焼土を混入している、軟質土層。腐植土を含む。
	2	黒色土層	
	3	暗褐色土層	
369	1	灰白色土層	灰白色の細粒の土。柔らかい（井戸によく見られる土） 灰白色の粒子の細かい土。1層よりやや暗い。 2層の上に黒色粘質土のブロックが入る。
	2	灰白色土層	
	3	灰白色土層	
379	1	灰褐色土層	砂質土で軟かい、炭化物を含む。 灰褐色土と暗褐色粘質土の混土層。 焼土の大ブロックを含む砂質土。
	2	暗褐色土層	
	3	褐色土層	
381	1	褐色土層	鉄分の凝集が見られる。
382	1	褐色土層	やや砂質分の多い軟らかい層。 焼土の小粒子をわずかに含む。 灰、炭化物と焼土の堆積層。
	2	褐色土層	
	3	褐色土層	
383	1	褐色土層	やや砂質で鉄分の凝集が見られる。
384	1	灰褐色土層	比較的粘性を持った灰褐色土。
385	1	灰褐色土層	わずかに鉄分の凝集が見られる砂質土。
386	1	灰褐色土層	砂質土でわずかに鉄分の凝集が見られる。
387	1	褐色土層	ややしまった褐色土。鉄分の凝集が見られる。 暗灰色の粘性のある小ブロックを含む。
	2	暗褐色土層	
388	1	褐色土層	ややしまっている。鉄分の凝集もわずかに見られる。
389	1	褐色土層	炭化物を含み、鉄分の凝集が多く見られる。 粘土の灰色のはん点が見られる。鉄分は1層に比較が少ない。
	2	褐色土層	
390	1	褐色土層	焼土、炭化物をわずかに含む。鉄分の凝集も見られる。 粒子が細かく、1層に比較して砂質分をます。
	2	灰褐色土層	
391	1	褐色土層	鉄分の凝集によるはん点がたてじま状に走る。 1層に比較してやや黄色かった層。粘質土がはん点状に見られる。
	2	褐色土層	
392	1	褐色土層	ややしまった粘質土。 砂質土でふわふわした軟らかい層。
	2	灰褐色土層	
394	1	褐色土層	砂質土であるがややしまっている。土器片が見られる。 ややしまっているが砂質土であり1層より砂質分多し。 砂層
	2	褐色土層	
	3	褐色土層	
396	1	黒褐色土層	軟質の土壤に多量の炭化物が混入している。遺物も見られる（特に上層部ほど多い）
397	1	黒褐色土層	多量の炭化物が軟質の土壤に混入している。遺物も見られる（特に上層部ほど多い） 砂層ブロック
	2	黒褐色土層	
398	1	暗灰色土層	砂質土壤、炭化物、若干の鉄分凝集、砂ブロックとの混合土層、一時に埋った可能性がある。 砂質土壤中に若干の炭化粒がみられる。サラサラし軟質。
	2	灰褐色土層	
401	1	暗灰色土層	砂質土壤、炭化物、若干の鉄分凝集、砂ブロックとの混合土層。 砂質土壤中に炭化物混入、鉄分凝集がみられる。1、3層との中間の炭化物。 砂質土壤中に若干の炭化粒がみられる。サラサラし軟質。
	2	暗褐色土層	
	3	灰褐色土層	
404	1	暗褐色土層	砂質土壤中に多量の炭化物粘土粒がみられる。軟質。
405	1	暗褐色土層	多量の炭化物粘土粒が砂質土壤中にみられる。軟質。
406	1	暗灰色土層	若干の炭化物と遺物混入土層。軟質。
407	1	暗褐色土層	軽石と鉄分凝集と炭化物がみられる。 若干の炭化物と遺物混入土層。軟質。
	2	暗灰色土層	
408	1	暗褐色土層	木根の痕跡があり、そのまわりに鉄分が凝集している。 砂質分を多量に含む。地山。
	2	暗灰色土層	
409	1	暗灰色土層	砂質土壤中に炭化粒、軽石、焼土を含む層。やや固い。
410	1	暗褐色土層	炭化物、粘土粒を混入する層。

## 4 土壌の調査

土壌番号	土層番号	土 色	土 質 観 察
410	2	褐色土層	地山の壁崩れた砂質分を多量に持つ。 1層より砂質分が多く明るいネズミ色を呈する。
	3	暗褐色土層	
412	1	暗褐色土層	砂質土壌中に若干の粘土粒、炭化物、鉄分凝集混入。 1層より黒く、炭化物、粘土粒混入。1層と非常に近い。
	2	暗褐色土層	
413	1	暗灰色土層	2層と同じであるが多量の炭化物がある。2層より多い。 砂質土壌中に炭化粒、軽石、焼土を含む層。やや固い。 炭化物等は含まない、砂質土壌、遺物混入。
	2	暗灰色土層	
	3	暗灰色土層	
414	1	暗灰色土層	砂質土壌中に若干の炭化物を混入する。又砂層ブロックがところどころにみられる。 砂質土壌ところどころに鉄分凝集が見受けられる。
	2	暗灰色土層	
415	1	暗灰色土層	若干炭化物を混入。やや砂質を帯び、軟質な層。
417	1	暗灰色土層	砂質土壌中に多量の炭化粒を混入する。ところどころに鉄分凝集。 砂質土壌、ところどころに鉄分凝集。
	2	暗灰色土層	
419	1	暗灰色土層	砂質土壌中に多量の炭化粒を混入する。ところどころに鉄分凝集。 砂質土壌中に若干の炭化物混入。砂層ブロックところどころ見られる。 灰色を呈する砂質土壌で一切の混合物が見受けられない。地山。
	2	暗灰色土層	
	3	灰色土層	
420	1	暗灰色土層	砂質土壌中に多量の炭化粒、軽石、焼土を含む層。やや固い。 砂質土壌中に炭化粒、軽石、焼土を含む層。やや固い。
	2	暗灰色土層	
421	1	暗灰色土層	砂質土壌中に多量の炭化粒を混入する。処々に鉄分凝集が見受けられる。 砂質土壌中に若干の炭化物を混入する。砂層ブロックを混入。 砂質土壌中に多量の炭化粒を混入する。鉄分凝集見受けられる。 灰色を呈する砂質土壌。
	2	暗灰色土層	
	3	暗灰色土層	
	4	灰色土層	
422	1	暗灰色土層	砂質土壌中に多量の炭化粒を混入する。処々に鉄分凝集が見受けられる。 1層と近似しているが炭化粒含まない層。 砂層と炭化物の混土層で炭化物の方が量が多い。 灰色を呈する砂質土壌で一切の混合物が見受けられない地山である。 砂質土壌中に若干の炭化物を混入する。砂層ブロック処々みられる。
	2	暗灰色土層	
	3	黒色土層	
	4	灰色土層	
	5	暗灰色土層	
423	1	暗灰色土層	砂質土壌中に若干の鉄分凝集みられる。 砂層
	2	暗褐色土層	
424	1	暗灰色土層	砂質土壌中に若干の鉄分凝集みられる。
425	1	暗褐色土層	砂質土壌中に炭化物粒と鉄分凝集が検出できる。 砂質土壌。若干の炭化物がみられる。
	2	暗灰色土層	
426	1	暗褐色土層	黒味を帯びる砂質土壌。炭化物混入。 ネズミ色を呈する。砂質土壌が混入。
	2	暗灰色土層	
427	1	暗灰色土層	砂質土壌。若干の炭化物がみられる。 砂質土壌中に炭化物粒と鉄分凝集が検出できる。
	2	暗褐色土層	
428	1	暗灰色土層	ネズミ色を呈する砂質土壌が混入。
429	1	暗褐色土層	若干の炭化物、粘土混入。やや粘質を持つ。 炭化物粘土、焼土混入。 焼土、炭化物、粘土ブロックの混入土層。幾分ガリガリしている。
	2	暗褐色土層	
430	1	暗褐色土層	粘土粒、炭化物を混入する層で砂質を帯びる。 1層と近似しているが粘土粒が少なくなる。 若干の炭化物粒が検出され1、2層より明るい。 砂層ブロックで木痕等による砂の流れ込み。
	2	暗褐色土層	
	3	暗灰色土層	
	4	暗灰色土層	
431	1	黒褐色土層	炭化物、炭化粒と若干の粘土を含む黒褐色土層。遺物混入。 多量の砂を含む層でサラサラしている。 2層と同じであるが、黒味を増す(ネズミ色を持つ土層)土器出土。
	2	灰褐色土層	
	3	暗褐色土層	
433	1	黒褐色土層	黒味を帯びる砂質土壌と粘土粒を含む層。 鉄分凝集、砂を多量に含む層。 砂、炭化物を含む層。
	2	褐色土層	
	3	暗褐色土層	
434	1	暗褐色土層	炭化物、軽石を含む混土層。土質は良くしまり硬質。
435	1	暗褐色土層	若干の炭化物粒を含む。砂質土壌。 砂質土壌で微少の炭化物がみられる。
	2	暗灰色土層	
436	1	暗灰色土層	多量の砂質分の土壌中に炭化粒、鉄分凝集、軽石を含む。軟質、多量の粘土ブロック混入。

## 5. 土器集積の調査

遺構を検出する面が当時の生活面であろうか。今回の発掘調査時にはいつも試掘溝を穿ちながら、土層断面を引きながら、断面図を描きながら検討を重ねた。けれども砂質土層、粘質土層が調査区域全体に複雑にからみあっている現状では共通する検出面を重機を導入しながら静止させることは不可能であった。結局のところ基準土層でいうところのⅣ層の灰褐色砂質土層で止めて遺構を検出することになった。(土層観察については『上武道路』報告書の第Ⅱ章の3、地形の調査を参照願いたい) 遺構の大半は堅穴住居であったが、遺構検出作業時に特に遺物の集中する箇所や又は焼土、炭化物の分布する箇所が数ヶ所確認された。この範囲をここでは土器集積遺構と考えた。たぶん断片的な遺存状態のみであろう当時の生活面の検出による集落の復元作業は今後とも試掘溝による断面の検討にもとづき、当初からの問題意識(生活面の検出)を深化させてゆくこと以外には考えられないのではなかろうか。

1号土器集積は1号溝と2号溝に囲まれた範囲で検出された。7基ほどの土壙が集中する一角に位置している。北側に14号住居、南側には8、9号住居が近接している。土器集積の範囲の認定は土器の分布の限界と、薄い土層堆積のみである。特に南寄りに2ヶ所の土器集中部分がある。出土した土器のうち図化できたものは17点であった。土師器では椀1、長甕3、台付甕1である。須恵器では高台付椀1、椀2、足高椀1、羽釜1である。灰釉陶器は輪花皿1、椀4である。

2号土器集積は1号土器集積の北北西約23mに位置する。遺構の東側には2号溝、15号住居、南側には16号住居、西側には17号住居、18号住居がある。特に東側の15号住居とは近接しており、切り合いの関係について調査を進めたが判然としなかった。遺物の分布は全体に及んでいるが、北西寄りのグループ、東寄りのグループ、南寄りのグループに大別される。これらの遺物について出土点数が多かったが図化できたのは4点であった。土師器の鉢1点、須恵器の高台杯1、椀1の他に古式土師器のS字状口縁台付甕(遺物No.1744)が出土している。南東方向30mの位置に穿たれた1号溝の開削時期に近い。

3号土器集積は2号土器集積の南西8mに位置する。北側には18号住居、南東には近接して16号住居がある。また南西側には数基の土壙が検出されている。遺構下層の状態については後述するが、本遺構が最も新しいと考えられる。それは遺物分布状態からも支持できる。西寄りの焼土塊中には小礫と土器の小片が検出されたのみであった。大多数の土器は南東部に集中するが図化できたのは5点であった。須恵器の椀2、高台杯1、羽釜2であった。東寄りに接合関係のある土器片は土師器の甕と考えられたが復元できなかった。

4号土器集積の周辺には多数の遺跡が重複している。74号住居が切り合うように近接している。北側には馬骨を出土した394号土壙が位置する。西側には78、177号住居が約5mの距離にある。南約5mの位置にも171号住居がある。これらの遺構の近接するなかでは小礫を主体に土師器の小破片を混入する落ち込みが一番新しい時期のものと考えられた。けれども出土した土師器の甕の破片は復元、図化できなかった。

5号土器集積はⅣ区の北西端に位置する。北寄りには4軒の住居が重複して近接していた。又、395号土壙が本遺構の下層より検出された。約5m<sup>2</sup>弱の少範囲より検出された土器は破片は少なく大部分が定形品であった。復元図化されたものは22点である。これらの土器は所謂、中世以降の土師器と考えられるもので遺物No.1771の須恵器椀を除外すると3つの杯類に分けられる。1つはNo.1750を代表とする径6cm大の土師器杯で皿でもよいグループである。2つはNo.1756の須恵器椀で径10cm大のグループである。3つ目はNo.1757を代表とする径90cm大の須恵器椀のグループで口唇端部のまとめ方に特徴がある。判出する陶磁器などもないが、15世紀前半頃を考えるとすれば『今井館』との関連もでてくる貴重な資料となろう。

1号土器集積 (遺構 PL. 46)

発掘区I区のG080に位置する。平面形は偏五角形である。規模は長軸5.74m、短軸4.55mを測り面積は約23.2㎡である。検出面の標高は41.7mである。土器集積とした範囲はやや褐色粘質土の浅い土層が堆積(最深部は中央で約3cmと浅い)する。SK002とSK003の2箇の土塼と重複関係にあるものの切り合い関係については確認することができなかった。

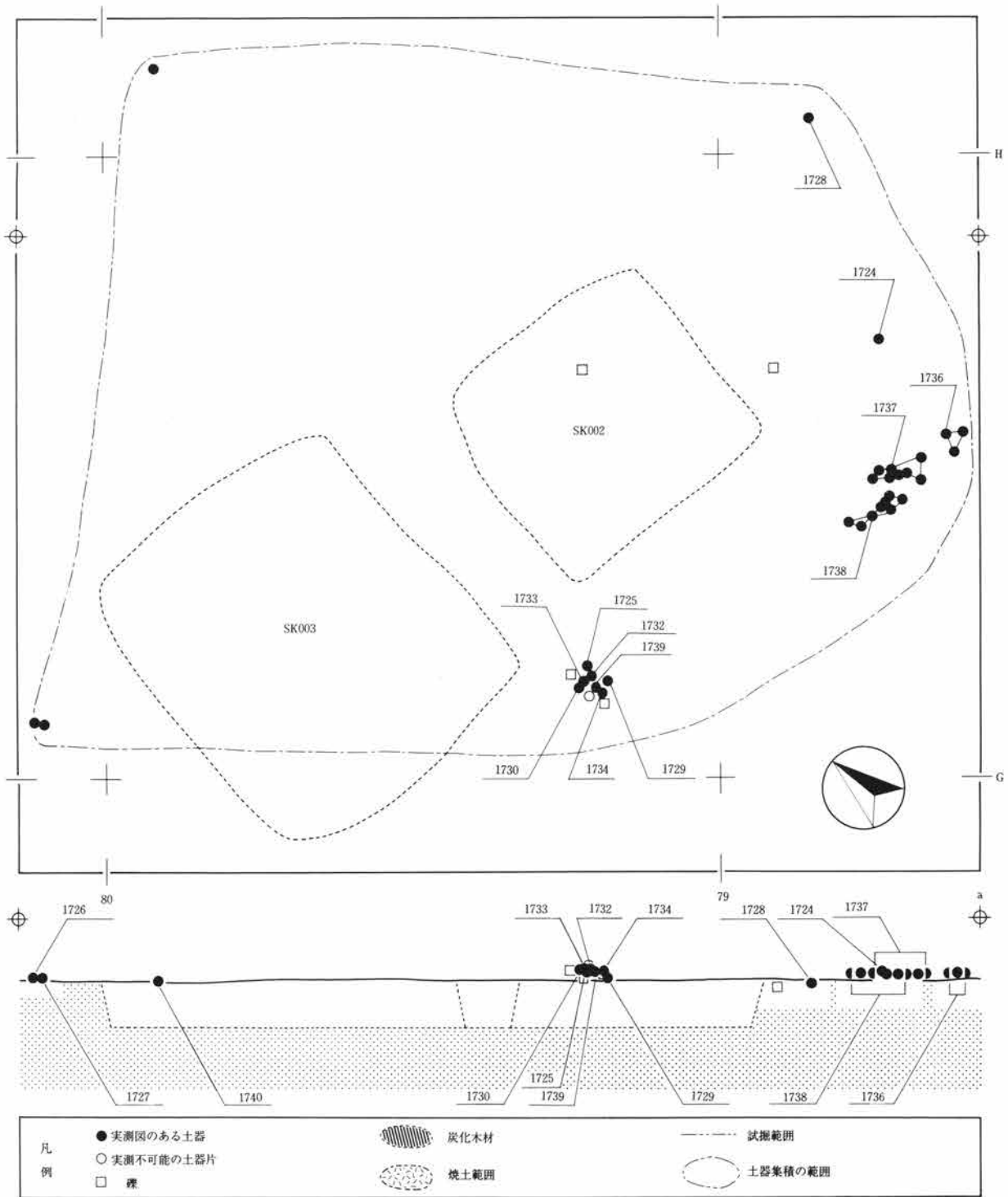


Fig. 150 第1号土器集積 (基準高さ42.1m)

第Ⅱ章 遺 構

2号土器集積 (遺構 PL. 46、遺物 PL. 67)

発掘区Ⅰ区のG 085に位置する。遺構は標高41.8mで検出された。平面形は南東部分が直線的に、北方部分がやや尖る偏楕円形を呈する。規模は長軸で6.15m、短軸で3.42mを測り、面積は約18.5㎡である。南寄りに焼土のひろがり有一部分認められ、淡褐色土中に土器片が混んでいる状態で検出され、掘り下げた結果、特別な落ち込みや覆土は確認することはできなかった。

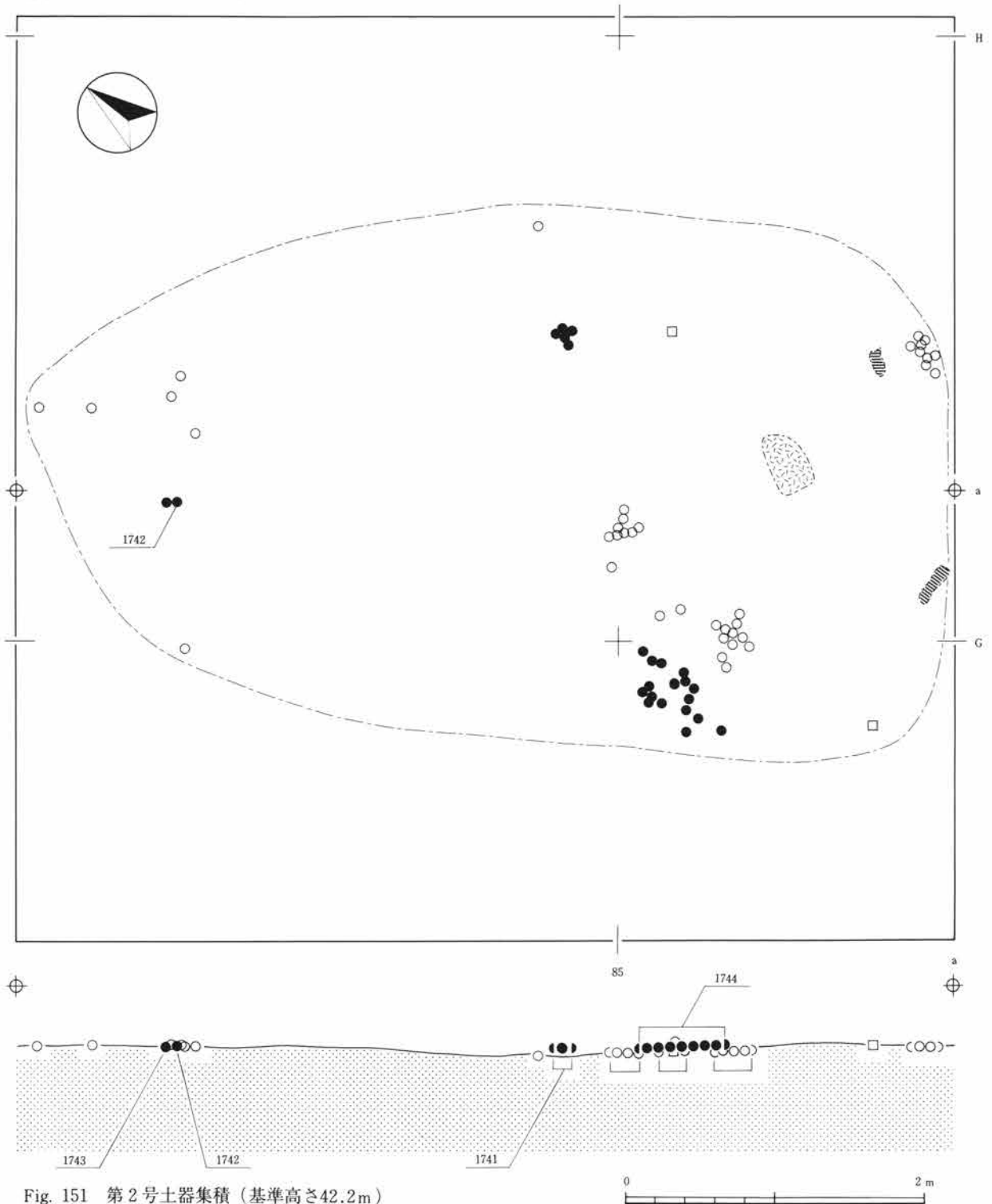


Fig. 151 第2号土器集積 (基準高さ42.2m)



## 3号土器集積 (遺構 PL. 46、遺物 PL. 67)

発掘区はI区でE085に位置する。本遺構はSK012の土壌の上に乗っていて新しい。東側に近接して16号住居がある。検出高は標高41.7mである。遺構の平面形は円形を呈しており、長軸は1.70m、短軸は1.65mを測り、面積は約10.9m<sup>2</sup>である。西寄りに焼土のひろがりが見られた。東寄りには瓢形の落ち込みが認められたが本遺構以前の土壌のようであるが、その性格は不明のままである。

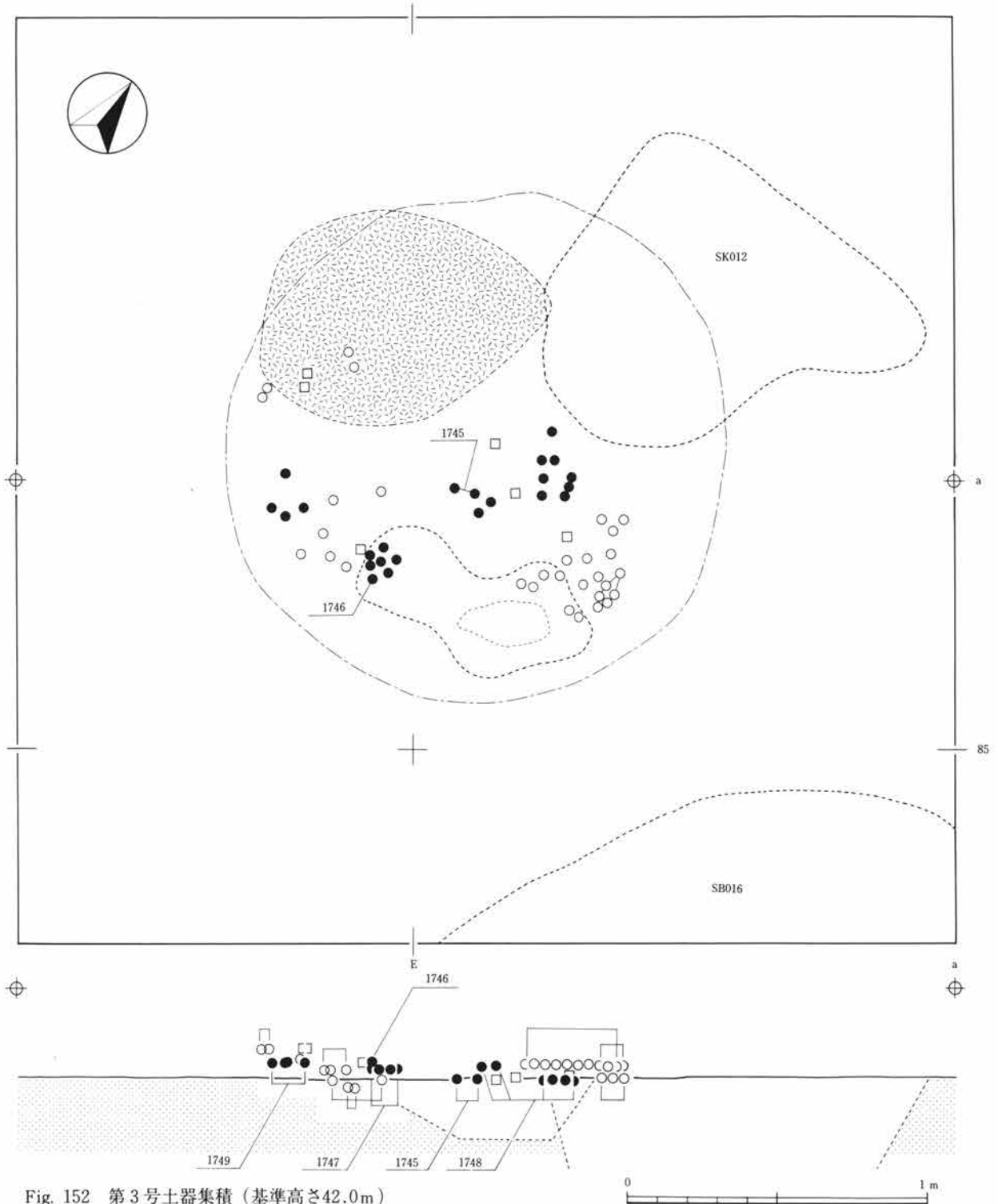


Fig. 152 第3号土器集積 (基準高さ42.0m)

4号土器集積 (遺構 PL. 46)

発掘区はIV区でE154に位置する。74号住居の北西寄りに接している。検出高は標高41.9mである。平面形は南方が尖りその他の角は隅丸を呈する偏四角形である。規模は長軸は3.70m、短軸は3.17mを測り、面積は約10.9㎡である。輪郭は約20cmほどの落ち込みにより判定され、2層に分類できる。I層は少量の炭化物を含む暗褐色土層、II層は少量のロームブロックと焼土細粒、炭化物を含む褐色土層である。

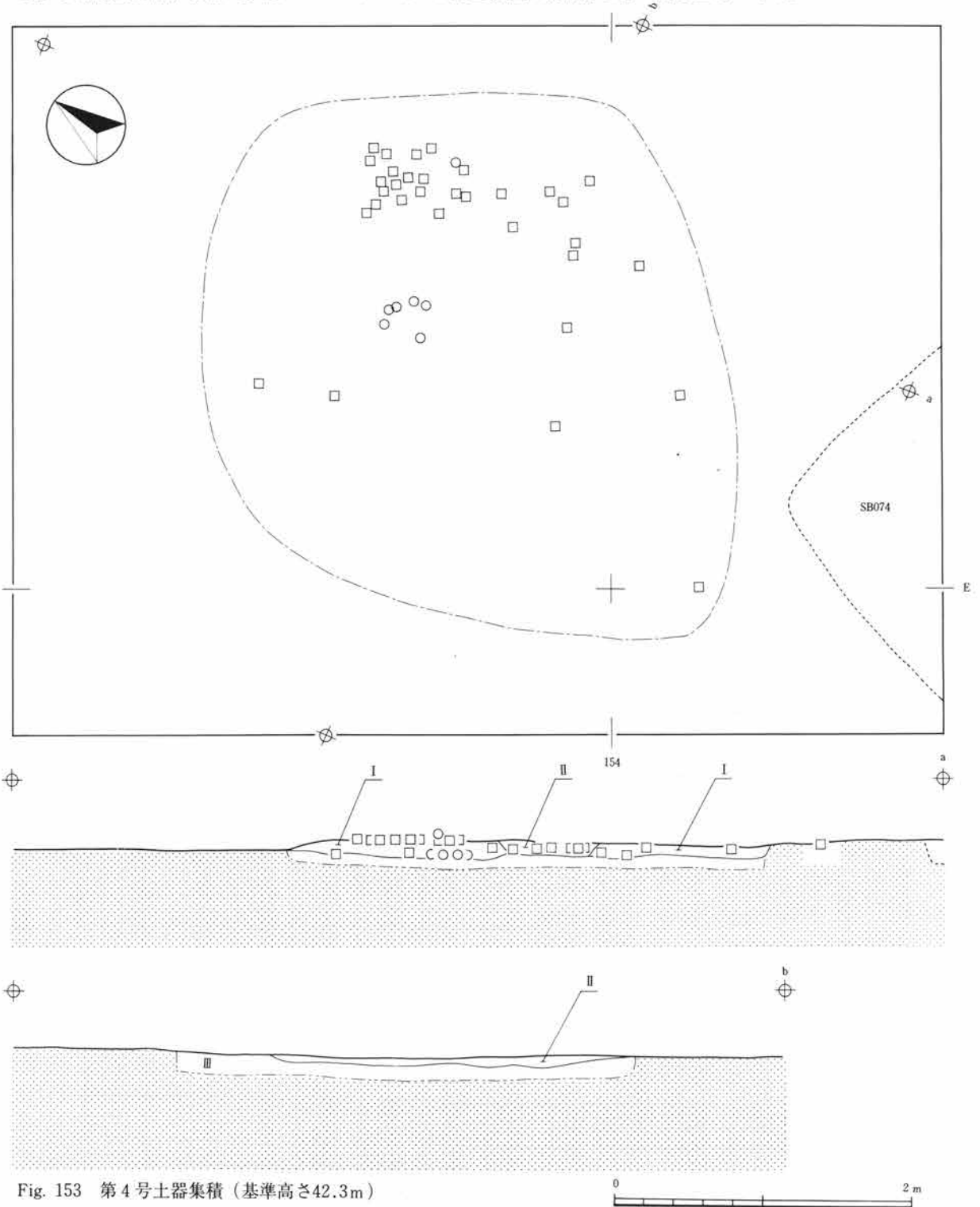


Fig. 153 第4号土器集積 (基準高さ42.3m)

## 5号土器集積 (遺構 PL. 46、遺物 PL. 67、68)

発掘区はⅣ区でC-158に位置する。周辺79、80、82、83号住居がとりまく。395号土塙の上に本遺構が乗り新しい。検出面は標高41.9mである。規模は長軸1.29m、短軸1.23mを測る円形を呈する。下層で検出の土塙は中央南寄りに位置する。遺構での輪郭が検出されたのではなくて、遺物の集中範囲を土器集積としたのである。特に土器を埋めていた土層に変化が認められたわけではない。

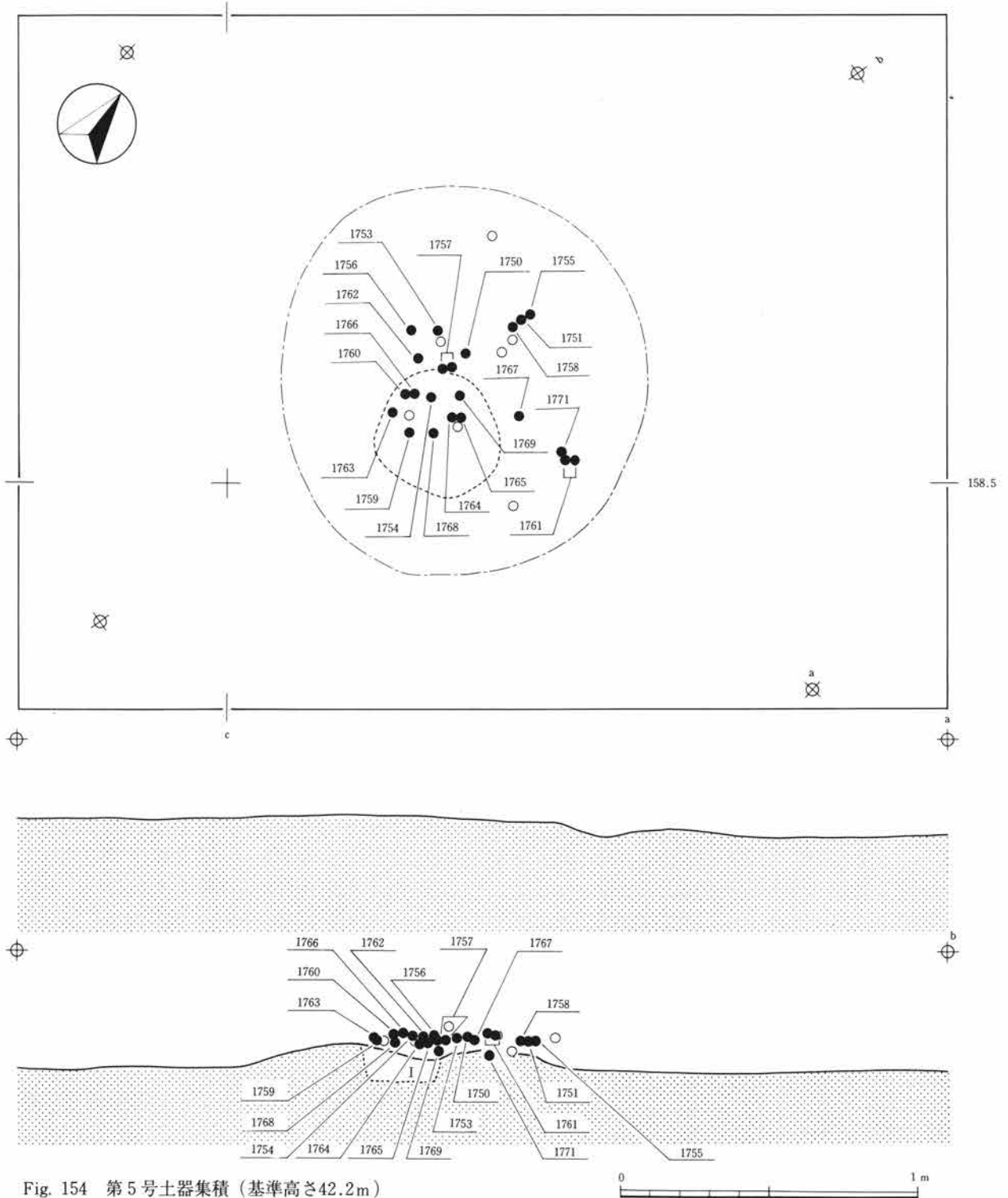


Fig. 154 第5号土器集積 (基準高さ42.2m)

## 第Ⅲ章 遺 物

### 1. 土 器

西今井遺跡出土の土器は土師器、須恵器、施釉陶器に大別される。土師器区分のうち「須恵質」とした甕の一群は非ロクロ使用、還元焰焼成のものを指す。須恵器区分のうち「土師質」とした杯の一群はロクロ使用、酸化焰焼成のものを指す。土師器の器種には長胴の甕、丸胴の甕がある。杯は手持ち筥ケズリのものと手捏手法のものがある。椀は内湾する薄手のもの、鉢は大型である。須恵質甕は長胴、丸胴、直線胴に分類される。須恵器の器種には短頸壺、長頸瓶、平瓶、横瓶、甕は大型、中型、小型、羽釜には甕型と甕型とがある。杯には有蓋、無蓋、高台の有無、内黒土器がある。椀には高台のあるもの、ないもの、内黒土器のもの、足高高台のものがある。皿には高台のあるもの、ないもの、足高のものがある。鉢、盤は大型である。土師質の杯は須恵器であるが焼成の甘いものがこの区分に入る。施釉陶器は灰釉陶器と緑釉陶器に区分される。瓶は大型、中型、小型、長頸瓶がある。椀、輪花椀、皿には段皿や耳皿もある。緑釉陶器には皿足壺、椀、皿などがある。これらの土器群の器種の器種構成の変化とその要点は杯、椀類などの供膳具は須恵器から、土師質須恵器、そしてカワラケまでの変化がみられること。煮沸具の主流である土師器の長甕は「く」の字状口縁から「コ」の字状口縁、それから須恵質土師器の甕へと変化がみられること。また還元焰焼成から酸化焰焼成に変化する羽釜の変化が多様であること。内面黒色処理の土器や灰釉陶器の出現と共伴がみられること。

土師器 器種分類基準

分類番号	器種	器 種 説 明	代 表 例
A-1	甕	短くひろがる口縁部を持つ長甕である。器高は約25～35cmくらいの大型の甕で内面は丁寧な筥ナデ、口縁部は横ナデ、体部外面は上半部は斜行、下半部は縦方向の筥ケズリで薄く仕上げている。	1632
A-2		「コ」の字形の口縁部を持つ長甕である。器高は約20～25cmくらいの大型品で肩は丸く底部はすはまる。口縁部は横ナデ、胴部外面の上半部は横筥ケズリ、下半部は縦筥ケズリ、底面も小さくケズリ落とす。	0927
A-3		口縁部から胴上半部が欠損した長甕である。内面は横筥ナデ、外面は縦方向筥ケズリで薄く仕上げている。胴下半部のすはまり方で、丸い胴、細長い胴であることがわかる。A-1かA-2のどちらかであろう。	1019
A-4		短く急に外反する口縁と丸く張る胴部からなる丸甕である。器高は25cm、口径は15cmくらいである。	0566
A-5		A-4に脚台がついたもの。胴部外面の調整に筥ケズリを使用し、器壁の薄いもの、厚いものあり。	0847
A-6		A-4の「く」の字状口縁の甕と同じ大きさで口縁部は「コ」の字状を呈する。胴部外面は斜方向の筥ケズリ。胴部内面は丁寧な筥ナデ、口縁部は横ナデである。口縁部の形状、成形も多様で区分に苦慮する。	0249
A-7		直立気味の「コ」の字状口縁の丸甕に胴部がつく。大きさはA-4と同じくらいで脚は「ハ」の字状に開く。	0129
A-8		直立する口縁の端部は内湾して丸い。胴部は欠損するが球胴である。A-18に近似している。	0425
A-9		「く」の字状、又は「コ」の字状口縁を持つ丸甕である。大きさに大、中、小がある。	0008
A-10		A-5又はA-7の丸甕の胴下半部から脚台にかけて残存する。胴部は薄くケズリ、脚は「ハ」の字である。	0188
A-11	杯	ずんぐりとした厚手の杯で口径は12cm前後である。色調は褐色を呈して重い感じがする。内面はナデ、外面口縁部は横ナデ、体部上半部は指頭痕を荒く残す。体部下半部は手持ち筥ケズリである。	0823
A-12		丸底気味の底部は緩やかに内湾して口縁部にいたる。手捏の手法で内面はナデ、外面に指頭痕を残す。	1754
A-13		A-11に近似した土器である。にぶい褐色を呈し胎土は軟質で筥ケズリによる砂粒がめだつ。	0346
A-14	椀	浅い丸底は明瞭な稜線をもたずに内湾、または外方に、または直立気味に口縁部にいたる。内面は丁寧なナデ、外面の上半部には指頭痕が残る。下半部から底部にかけては手持ちによる筥ケズリが多用される。	0169
A-15	鉢	口径16cm～20cmの大型の鉢である。口縁部には変化が多く体部外面は横方向の筥ケズリあり。	0451
A-16	甕	須恵質の長胴の甕である。土器の大きさは大が30cm、中が20cm、小が10cm前後となる。口縁部、肩部、胴部の変化が多様で集約できない。胴部内面は筥ナデ、外面の下半部は縦、横方向の筥ケズリが多い。	0903
A-17		須恵質で長胴の甕である。胴部から口縁までは内湾して無頸である。器高は大きいものは30cmを測る。	0417
A-18		須恵質の甕である。短い口縁は直立又は外反して丸い胴にいたる。成形は不良のものが多く巻き上げ痕が残る。胴部内面は横方向の筥ナデ、外面の上半部はナデを残し、下半部は縦、横方向筥ケズリ。	0085
A-19		須恵質の甕である。短く外反する口縁部から直線的な胴部にいたる。指ナデが残る筥ケズリも荒い。	1492
A-20		須恵質の甕の胴下半部から底部である。大、中、小の大きさがあり外面は縦、斜方向の筥ケズリがある。	1491

## 須恵器 器種分類基準

分類番号	器種	器 種 説 明	代 表 例
B-1	壺	短頸壺の蓋である。つまみは輪状を呈している。肩部とその内側に稜をもつものとなだらかなものあり。	0533
B-2		短頸壺である。口径は約10cmを測り、肩部は強く張る。口縁部が内傾するものと丸いものがある。	0791
B-3	瓶	口径25cmほどで肩部は丸く底部も大きくどっしりとした長胴瓶である。口縁部は複口縁である。	1610
B-4		暗灰色で硬質の胎土である。外面は釉がかかり灰釉陶器を思わせる。肩部の張った大型甕の把手部分。	1687
B-5		肩部の張る長胴の瓶で底部に低い脚がつく。底径が7cm、10cm、13cmに集約され大、中、小に分けられる。	0564
B-6		肩部の張った扁平な胴体に直線的にひろがる頸部を持つ瓶の底部である。大きな脚は外れ落ちている。	Ⅲ区-P132G
B-7		胴上半と下半部は強く屈曲し、直線的にすぼまり平底の底部にいたる。内外とも丁寧な仕上げである。	0792
B-8		口縁部と両端部が欠損した瓶である。内面は握拳状の当て具痕跡、外面は平行タタキ痕が残る。	Ⅲ区-O121G
B-9		小型の長頸瓶で肩部は張ってすぼまりながら平底の底部にいたる。胴に長、短あり。底部に糸切り痕残。	0179
B-10	甕	胴径が60cmほどの大型甕である。頸部に波状文を施す。胴部外面は平行タタキ、内面は握拳状の当て痕。	1613
B-11		口縁部は複口縁を呈する。釉が流れ灰釉を思わせる。胴部外面は平行タタキ、内面は青海波文を残す。	1688
B-12		小型甕の胴部径は20cmほどである。口縁部は折り返し口縁、胴部は球形を呈する。外面に釉が流れる。	0264
B-13	羽	「八」の字状に開く脚部の先端は折り返し状で終る。口頸部分は直立して立ち上がる。胴部はゆるやかにすぼまる。全体的に丁寧なナデを施し、胴部下半部は縦方向の籠ケズリする。口径は15～30cmである。	1427
B-14	釜	B-13の甕と甕との区別は鑿の部分で区別することはむずかしく、底部の形のみでの判断である。口縁部から鑿までの距離と内湾、直立する口縁部分の形態で器形が多様に区別されるがそれが何によるのか不明。	0399
B-15	蓋	口径は15cm、25cmに区分される。つまみ部分は環状、宝珠状、つまみの無いものがある。基本的には天井を逆転させて成形し、糸切り後、反転させてつまみをつける。ほとんどが、かえりは消失している。	0459
B-16	杯	底部の切り離し技法に糸切り後縁による2次調整を加えたものである。口径は13cmから14cmに集中する。底部は平底で平坦、ロクロによる回転籠ケズリと、手持ちによる籠ケズリに分類される。	0211
B-17		底部は広く平坦で体部は屈曲して直線的に口縁部にいたる。胎土は良好、調整も良好で内面黒色籠ミガキ。	0819
B-18		広い底部に直立する高い高台がつく。体部は屈曲して直線的に外方にひろく。胎土は良好で焼成も良好。硬質である。口径は11cmから18cmまで、底径は7cmから14cmまで。底部の切り離し技法は不明である。	0110
B-19	碗	糸切りの切り離し技法が残る。器形は杯にくらべると腰の部分は丸みが強い。カワラケに類するもの、褐色を呈して内湾気味のもの、杯に近く、底部から体部の屈曲が強いものなど分類はむずかしい。	0402
B-20		底部に糸切りを残す。体部は内湾して丸い。調整は丁寧で、内面は黒色処理、棒状籠ミガキを施す。	1186
B-21		底部から体部にかけてはゆるやかに丸く立上る。口径は10cmから18cmまでと多様で特に13cmが多い。高台は外反してふんばるものと短いものがある。底部の切り離し技法は残さない。内面黒色処理。	1484
B-22		須恵器の杯と碗とは不明ではあるがロクロ成形によること、橙色の色調で硬質、胎土も良好な一群である。足高高台といっても高台杯との区別がむずかしいものもある。足高に対する口径比20%以上を指す。	1341
B-23		カワラケと共存する高台の中実のものである。底径は6cm弱で突出しており、内面に指オサエが残る。	表面採集品
B-24	皿	高台のつかない皿である。底部は糸切り痕を残す。器高に対する口径比が20%のものを指す。	0506
B-25		B-22の足高碗とは明らかに区別される。体部欠損。外反する高台の端部は平坦で、内面に沈線あり。	1184
B-26	鉢	器高に対する口径比50%のものを指す。口径は14cmから19cmの大型のものまで。口縁部変化多様である。	0904
B-27	盤	直立する高台を持つ。口径は17cmから21cmと大型である。焼成は良好、胎土も良好で堅緻である。	0673
B-28	高杯	口縁部、胴部を欠損。脚柱部分である。巻き上げ痕はゆるやかである。杯との接合は屈曲が強く剥落。	Ⅳ区-F149G
B-29	杯	底部切り離し技法は静止糸切りである口径は8cmと12cmに分けられる。胎土は甘く土師質である。	1205
B-30		高台のあるもの。ロクロ使用のもの。胎土の精選されたものから雑なものまで多様であること。色調は灰白色糸から橙色まで焼成にもばらつきがみられること。口径は12cmから14cmまでが全体の7割を占める。	1375

## 灰釉陶器 器種分類基準

分類番号	器種	器 種 説 明	代 表 例
C-1	瓶	口縁は複合する。口径は30cmである。別個体の底径はやや上げ底用で17cmである。口縁部に施釉。	1602
C-2		胴上半部は欠損する。底径は12cmである。胎土は精選され、色調は青灰色が基調で釉が流れ落ちる。	Ⅲ区-S133G
C-3		器高は15cmくらいの小瓶である。口縁部、胴下半部は欠損、などで肩で口縁内面、内面に釉が施される。	0059
C-4		複合口縁の長頸瓶である。口径は8.5cmから26cmまで5段階に集中する。底部は高台が低く巡る。	0096
C-5		底部は直線的に下がり、強く屈曲して胴部となる。胎土は良好である。灰白色の色調に施釉される。	1531
C-6	碗	ゆるやかに丸い体部である。口径は13cmと15cmに集中する。底径は7cmから9cmに集中する。ほとんどのものは重ね焼き痕を残す。施釉は漬がけが多い。型式は虎渓山のものが多い。	0893
C-7		4ヶ所の輪花である。口径14cmの皿に近いもの、17cm前後で碗に近いものがある。釉は漬がけが多い。	1192
C-8	皿	明らかに碗とは区別できる。口径は12cmと13cmに集中する。体部は平坦面から屈曲するものと、ゆるやかに立ち上がるものに分けられる。施釉は漬がけ、重ね焼き痕を残す。高台は短く、直立又は外反する。	0443
C-9		底面から口縁の屈曲点に段が巡る。口径は13cmに集中する。色調は灰白色で釉調は良好。高台は低く丸い。	1488
C-10		中実の高台部は糸切り痕を残す。耳の屈曲は強い。施釉は内外面におよぶ。	0389
C-11		小破片であるが貴重品である。胎土はやや甘い精選されている。外面に緑釉が、内面は黒色塗料残る。	1164
C-12		直角で直立する高台は低いがしっかりしている。口縁部は欠損しているか体部は丸くゆるやかに立上る。	1138
C-13		高台は削り出すものと低く外反するものに区分される。口縁は外湾するように張り出す。	Ⅵ区-T183G

第三章 遺物

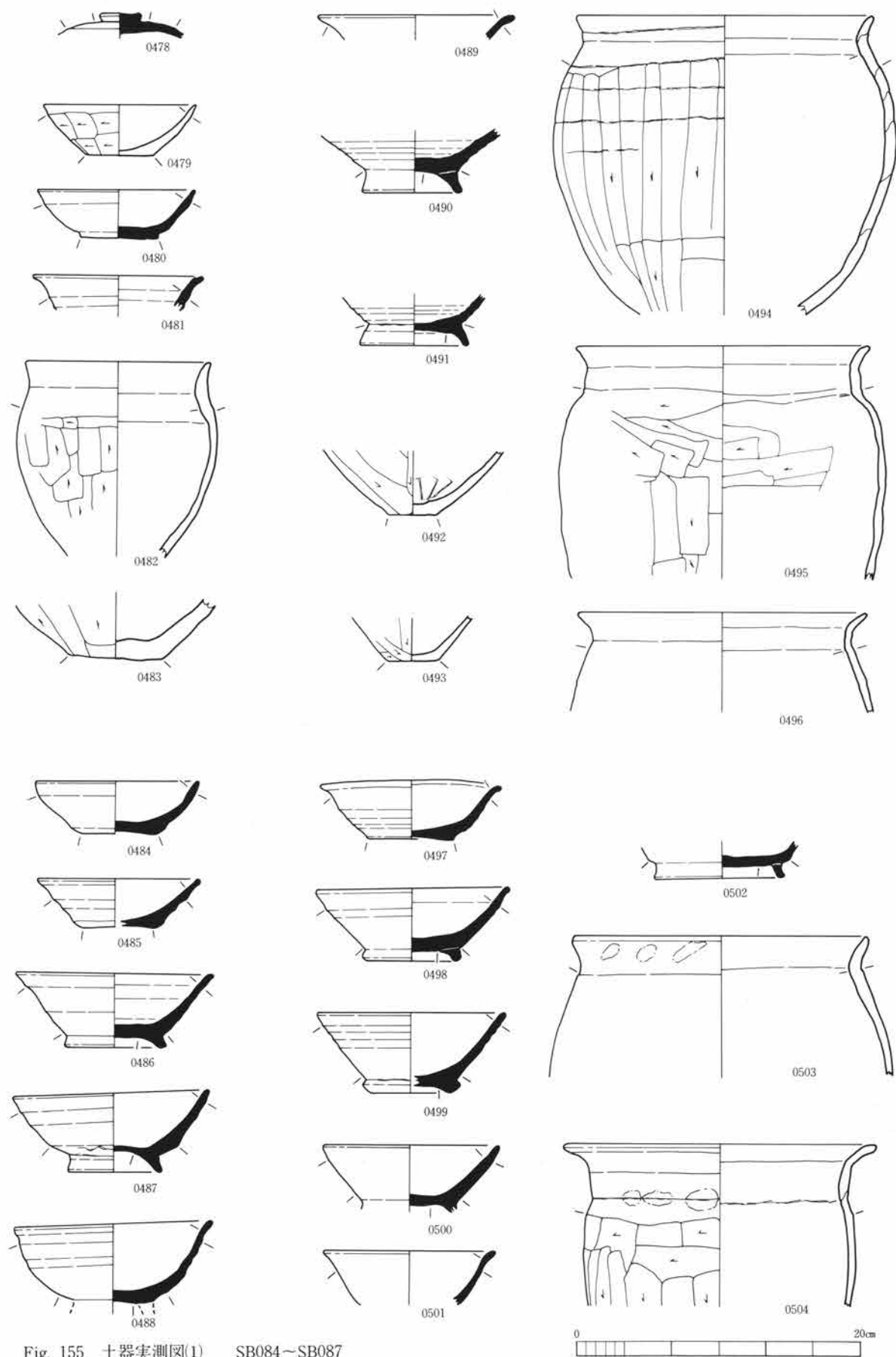


Fig. 155 土器実測図(1) SB084~SB087

1 土 器

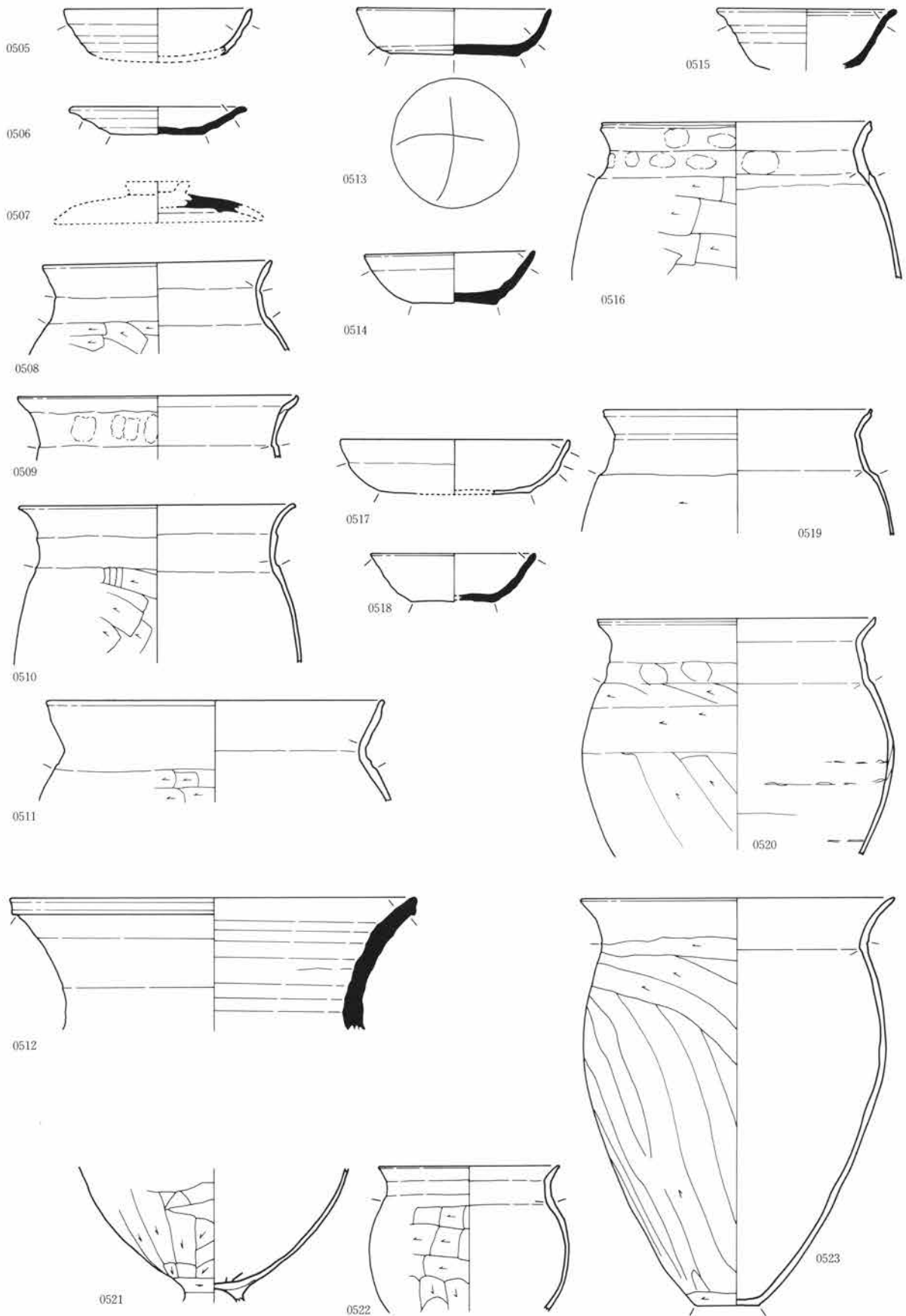


Fig. 156 土器実測図(2) SB088~SB091

第三章 遺物

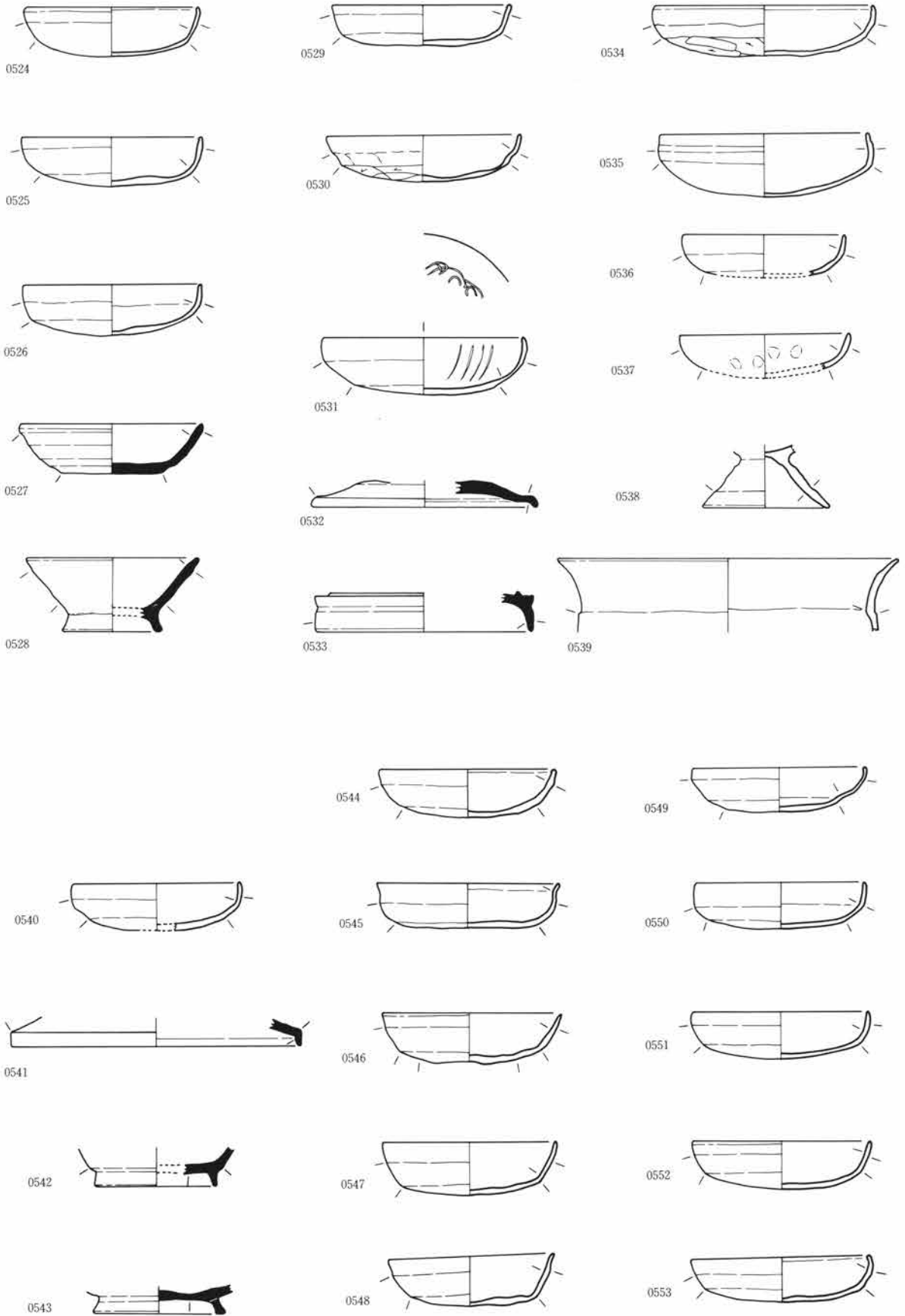


Fig. 157 土器実測図(3) SB092~SB094



1 土 器

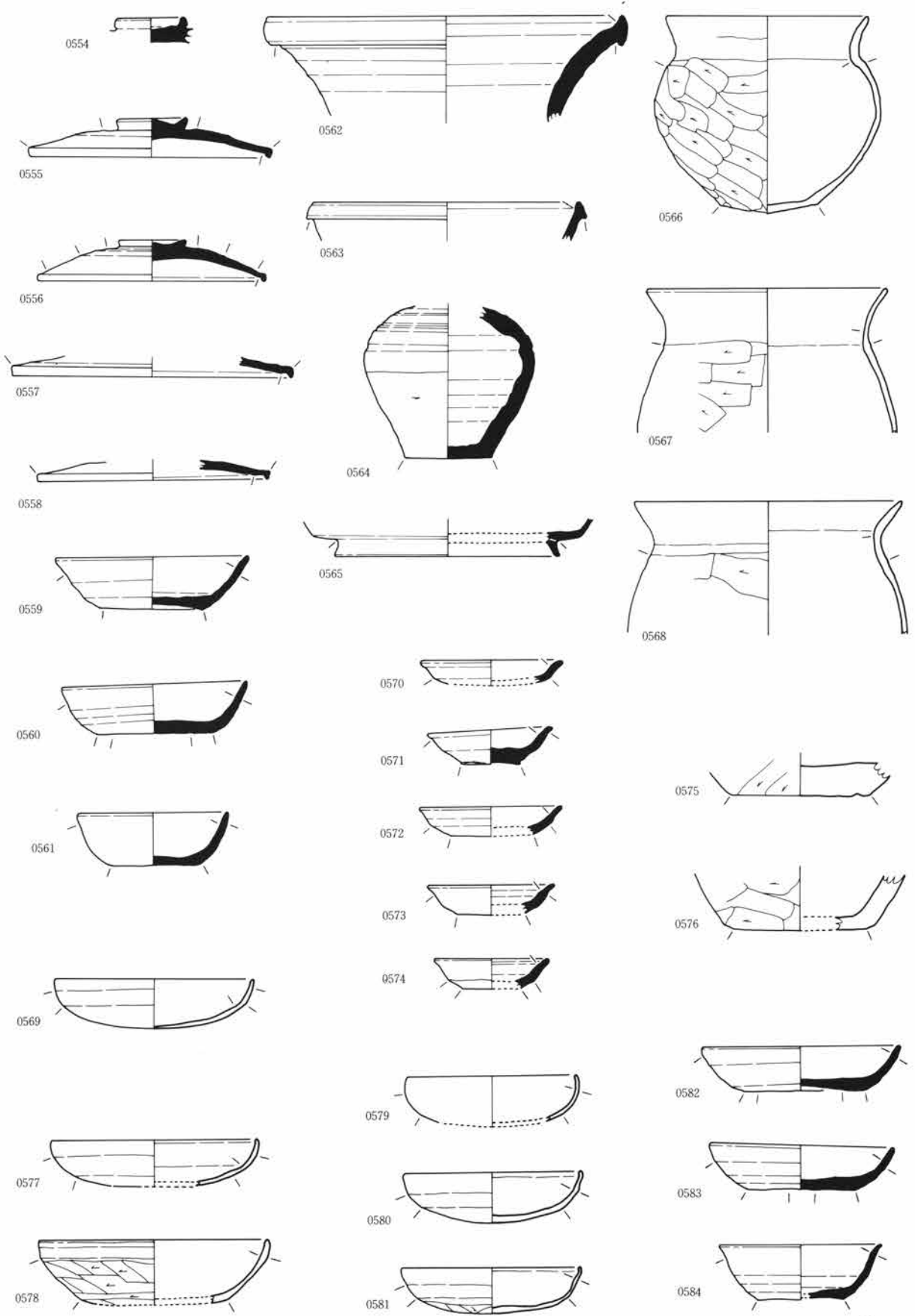


Fig. 158 土器実測図(4) SB094~SB098

第三章 遺物

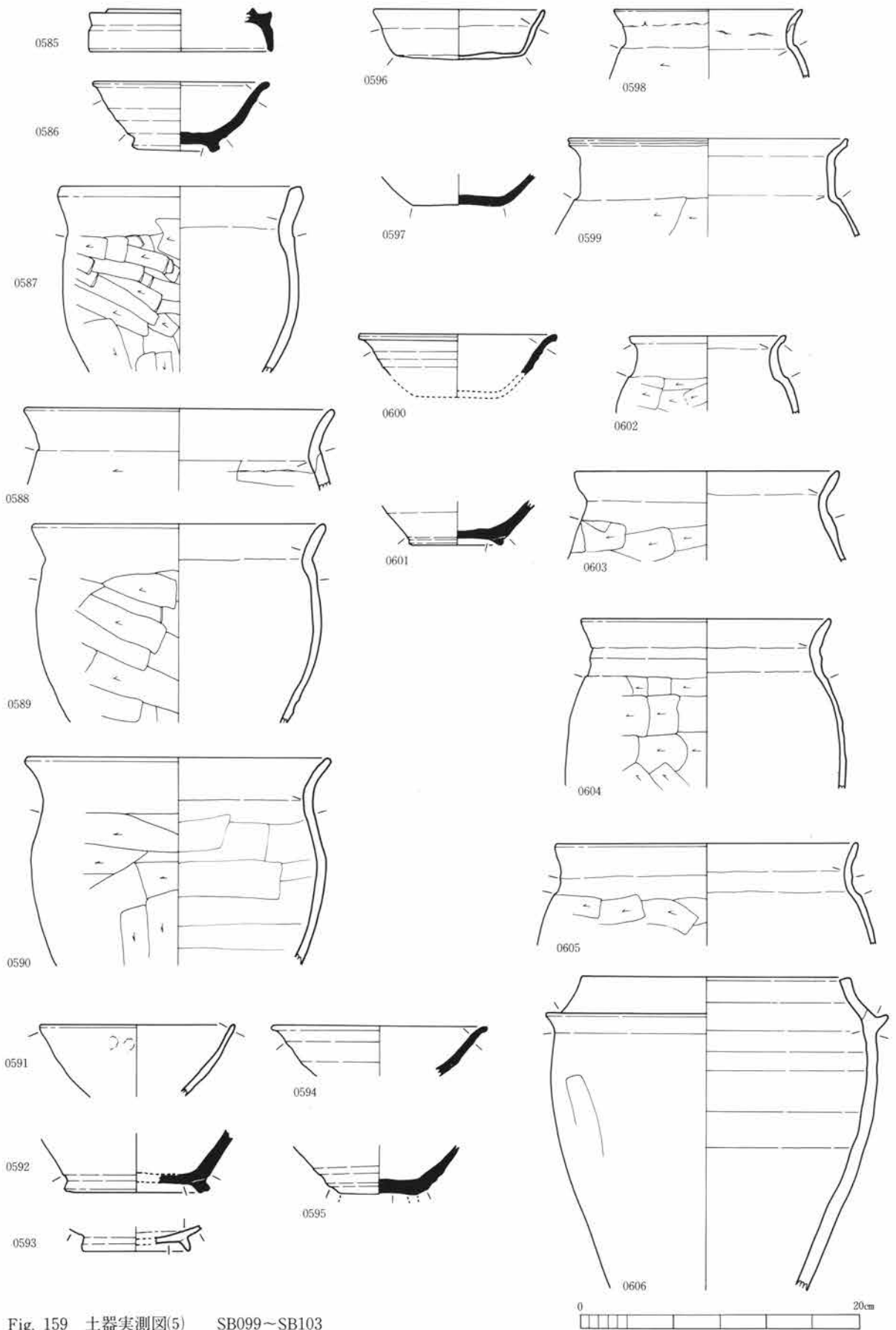


Fig. 159 土器実測図(5) SB099~SB103

1 土 器

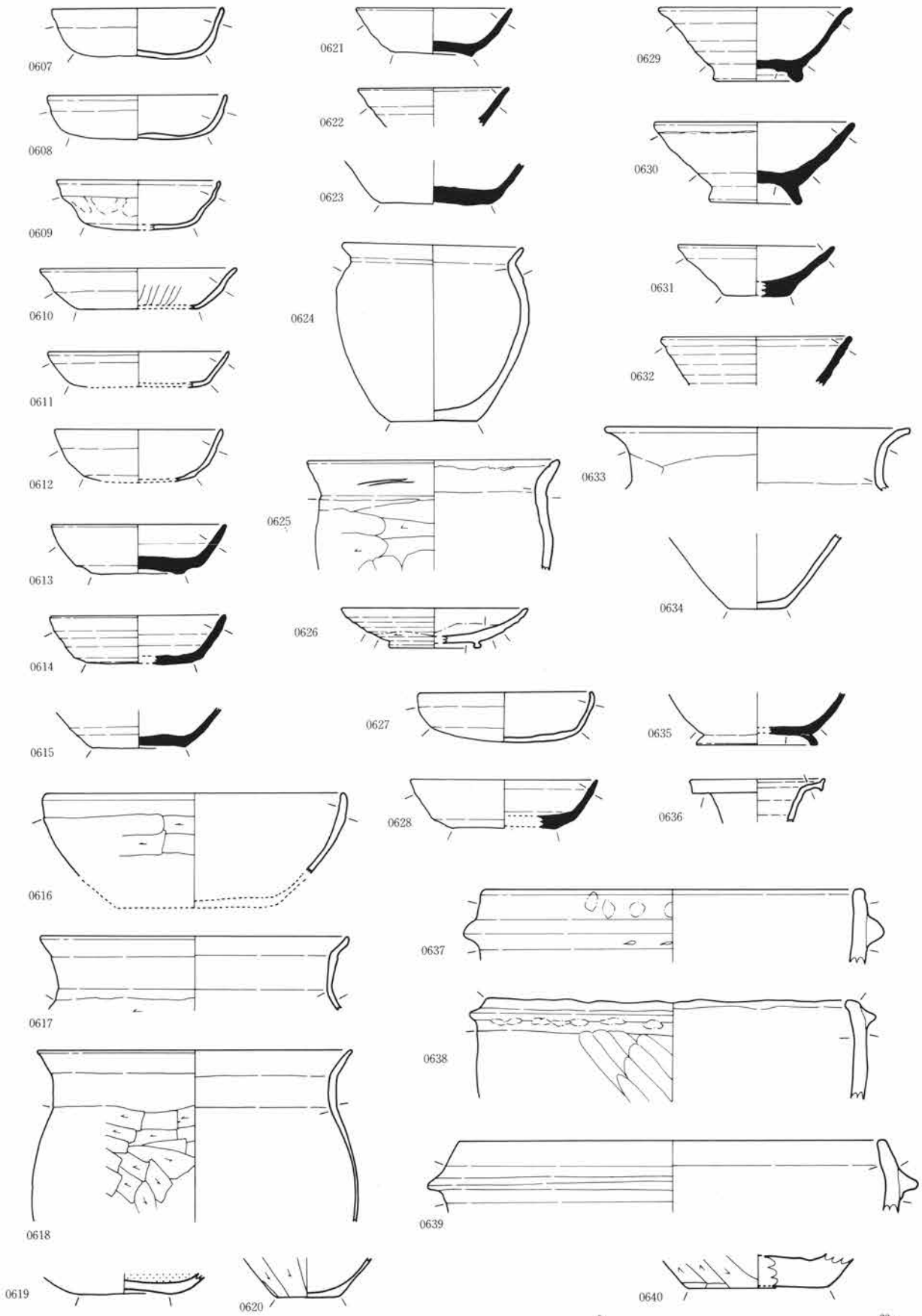


Fig. 160 土器実測図(6)

SB104~SB109

第三章 遺物

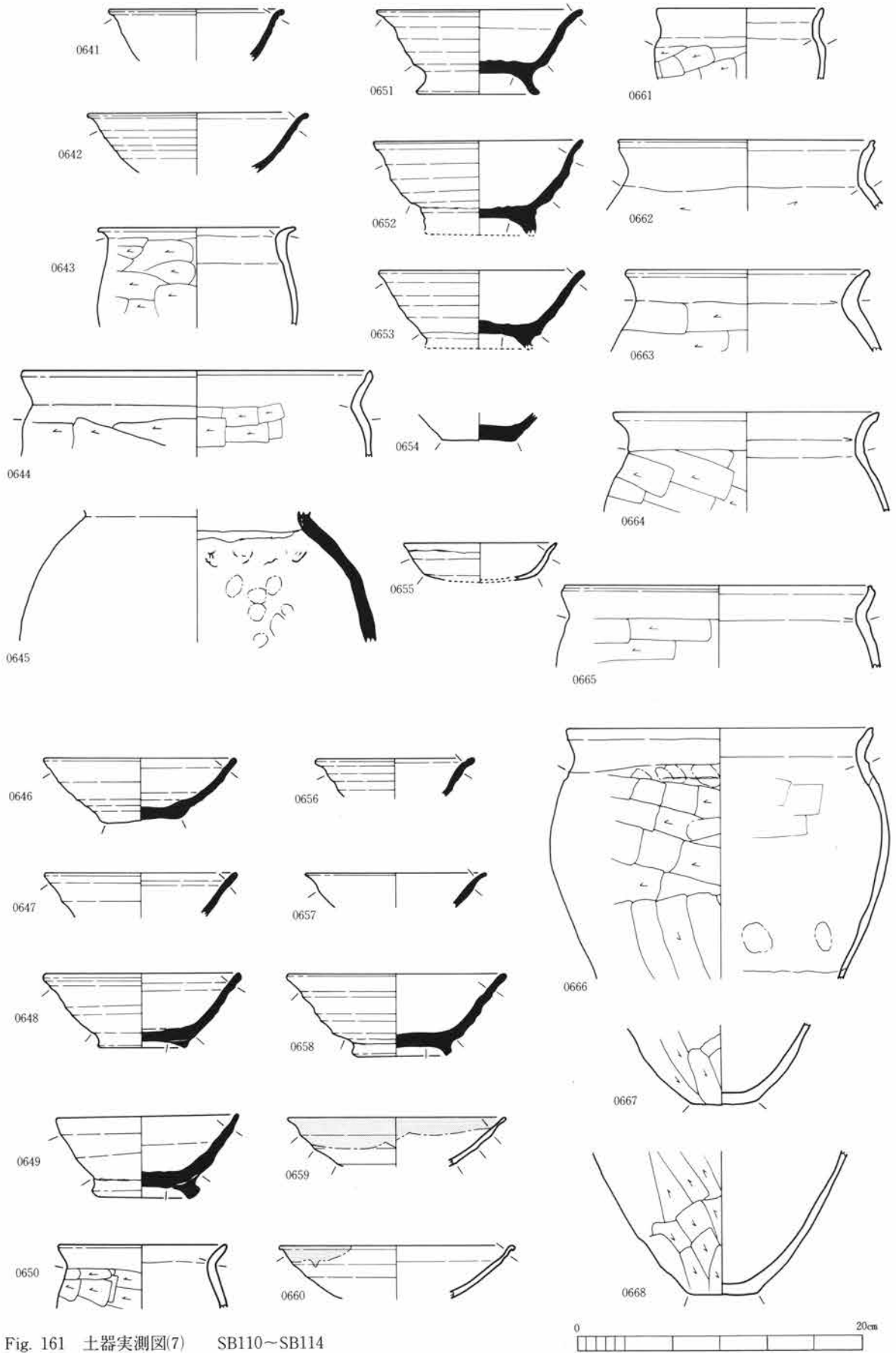


Fig. 161 土器実測図(7) SB110~SB114

1 土 器

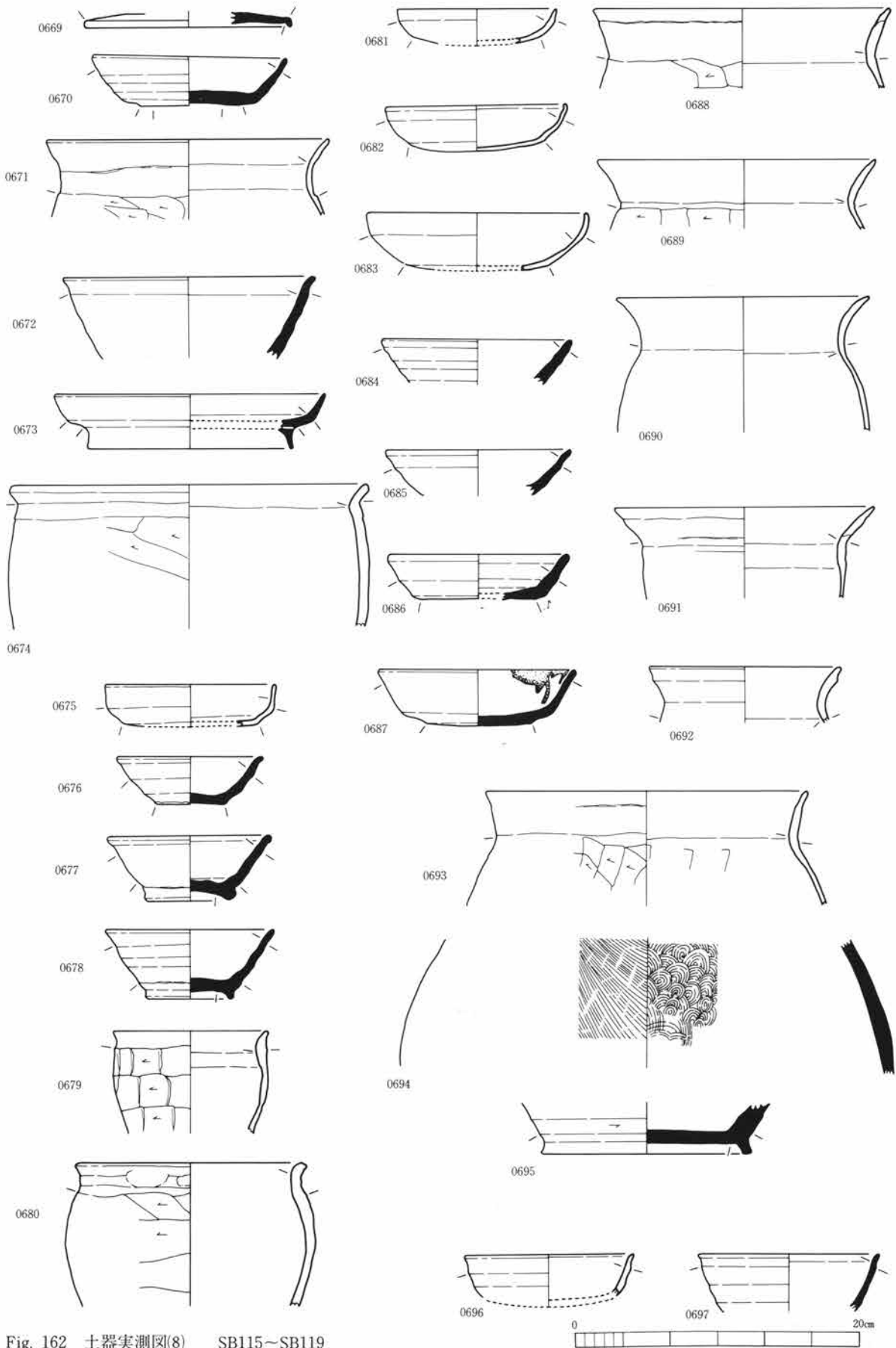


Fig. 162 土器実測図(8) SB115~SB119

第三章 遺物

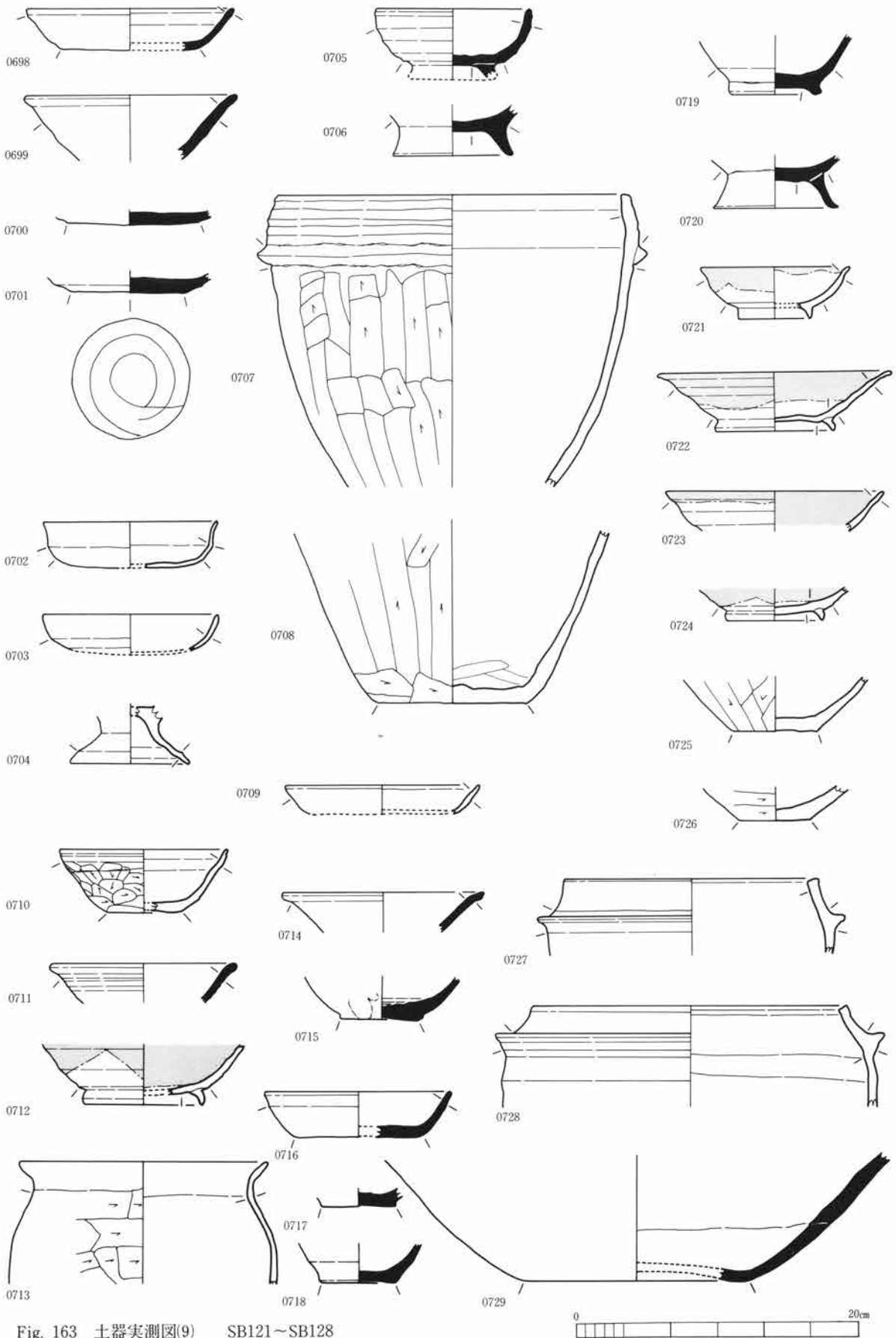


Fig. 163 土器実測図(9) SB121~SB128

1 土 器

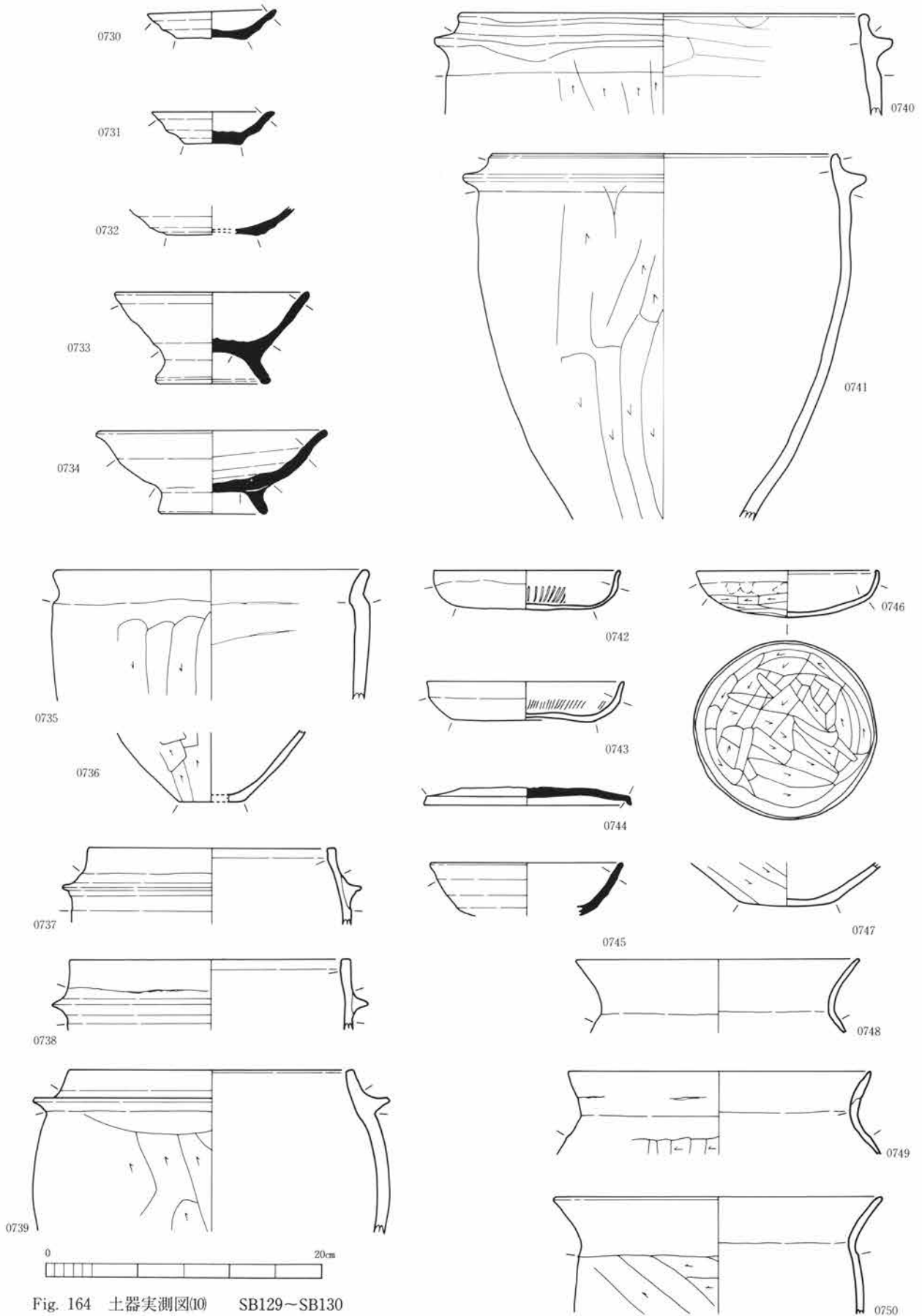


Fig. 164 土器実測図(10) SB129~SB130

第三章 遺物

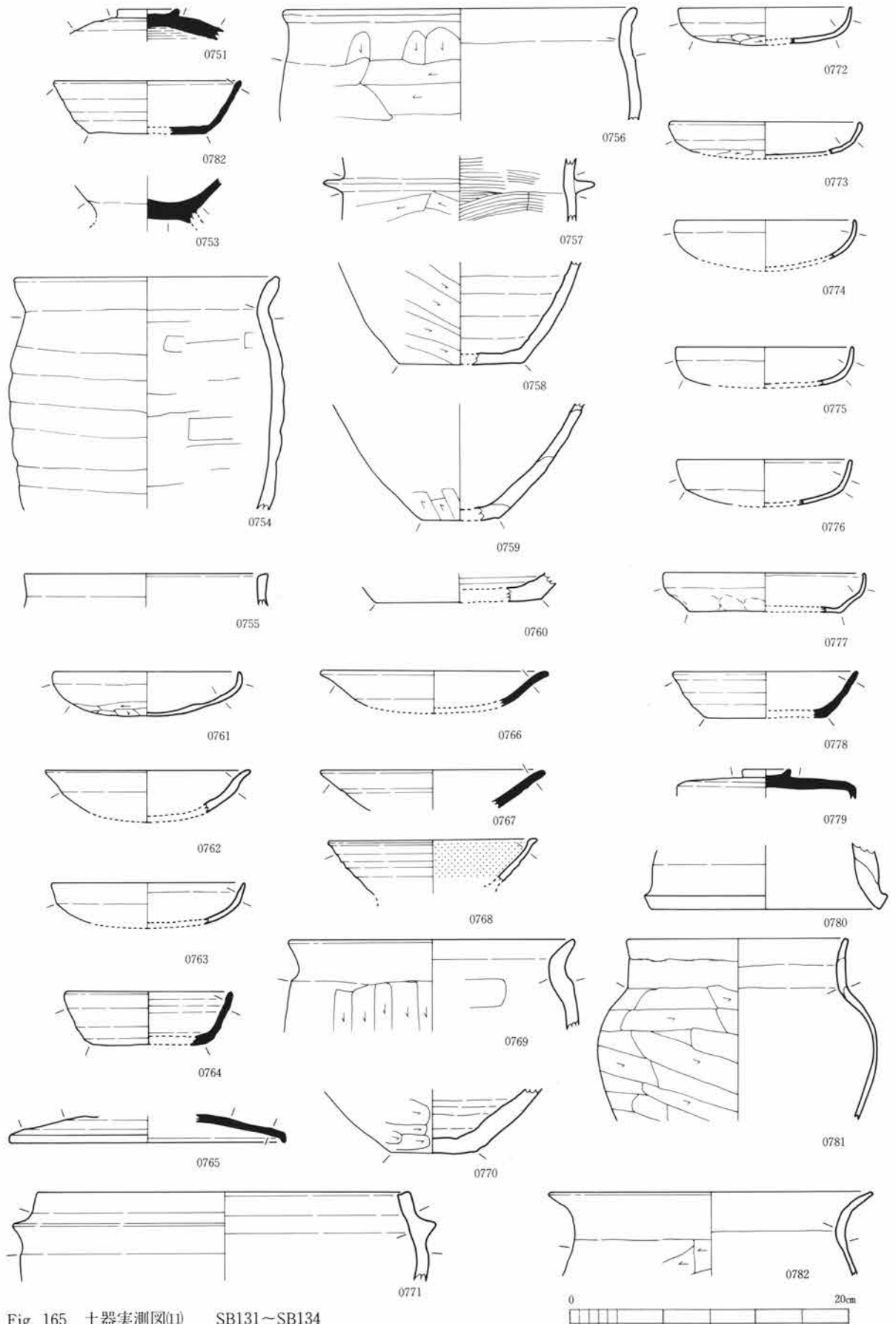


Fig. 165 土器実測図(1) SB131~SB134



1 土 器

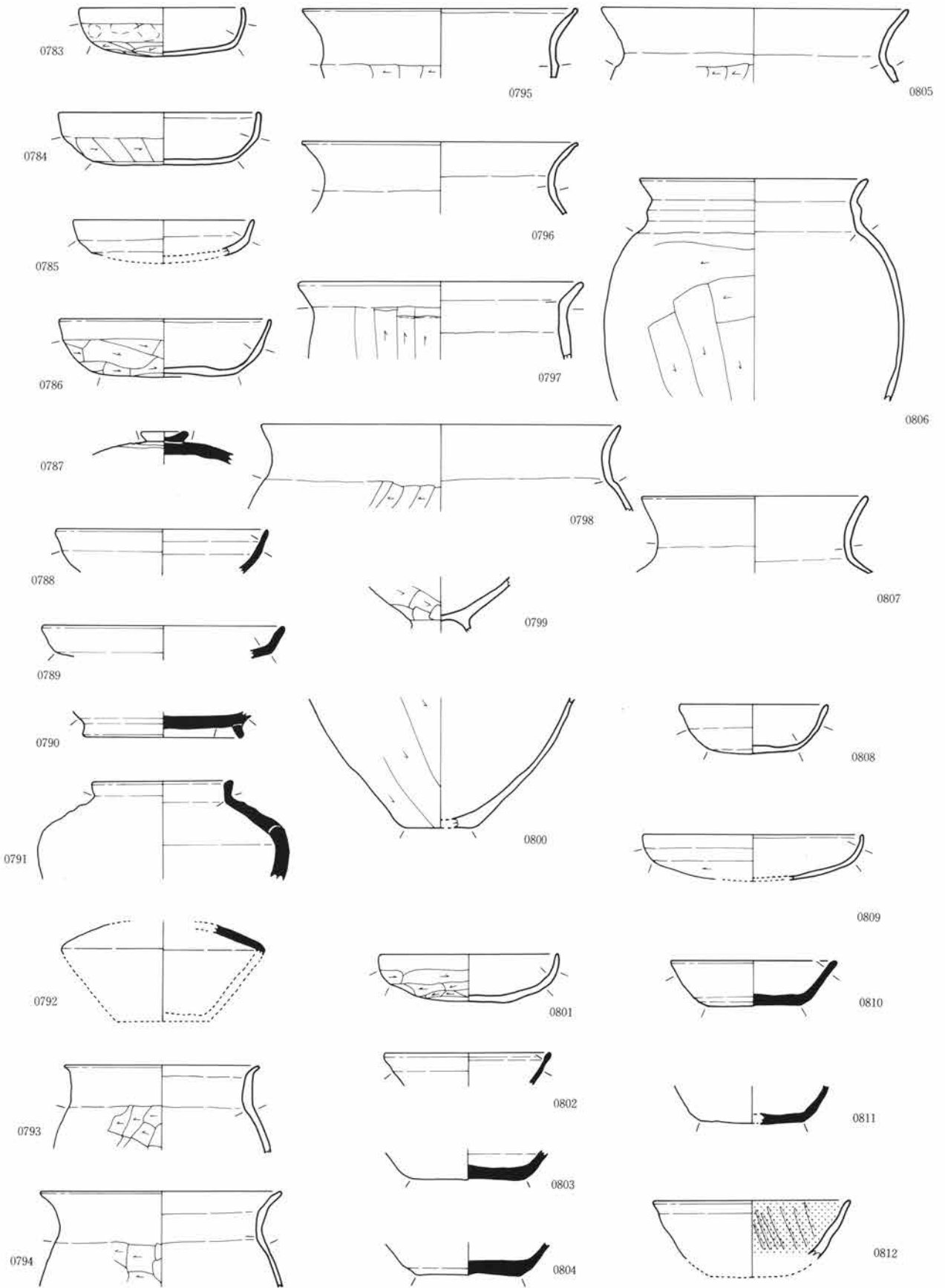


Fig. 166 土器実測図(12) SB135~SB137

第三章 遺物

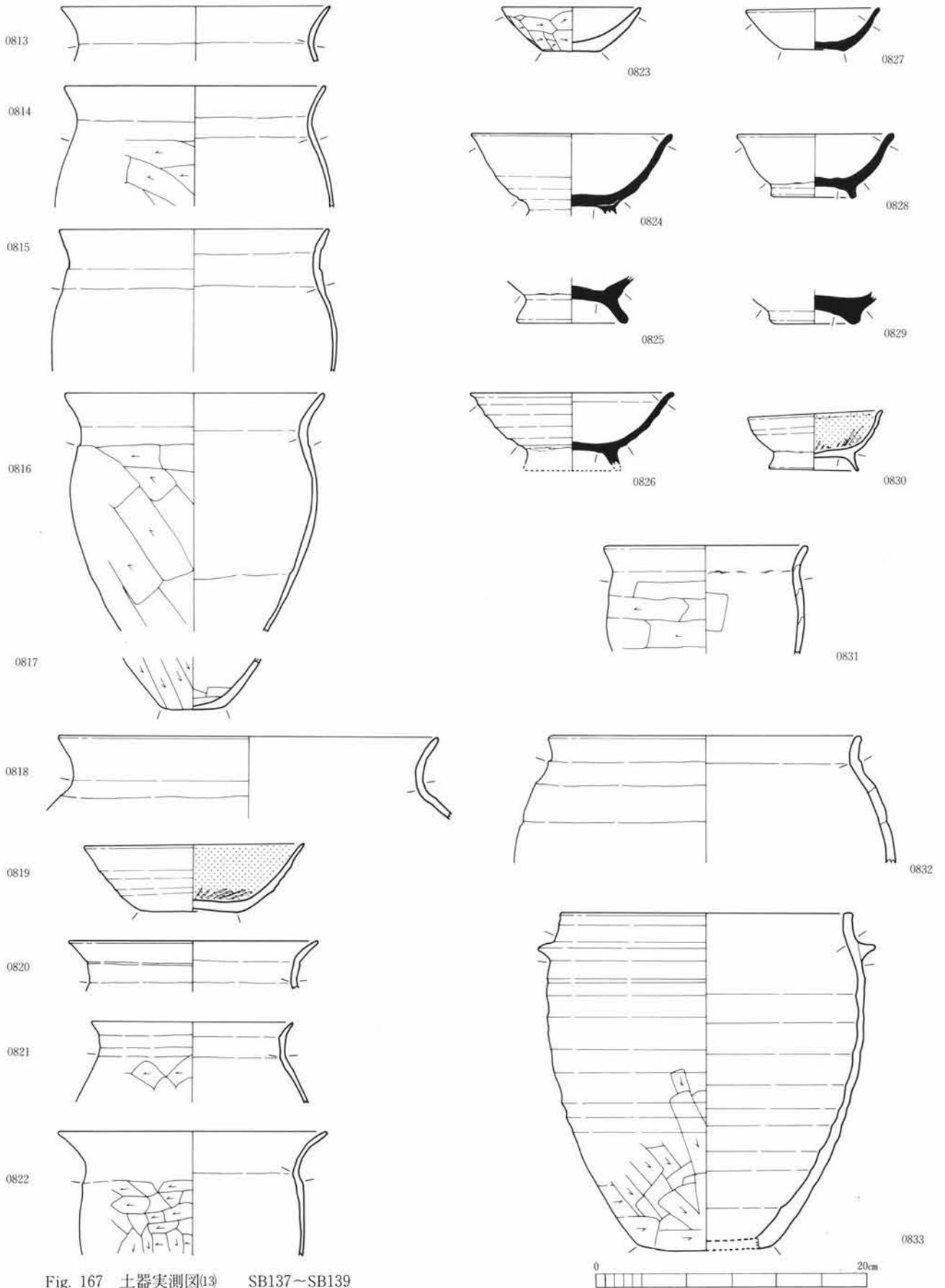


Fig. 167 土器実測図(13) SB137~SB139

I 土器

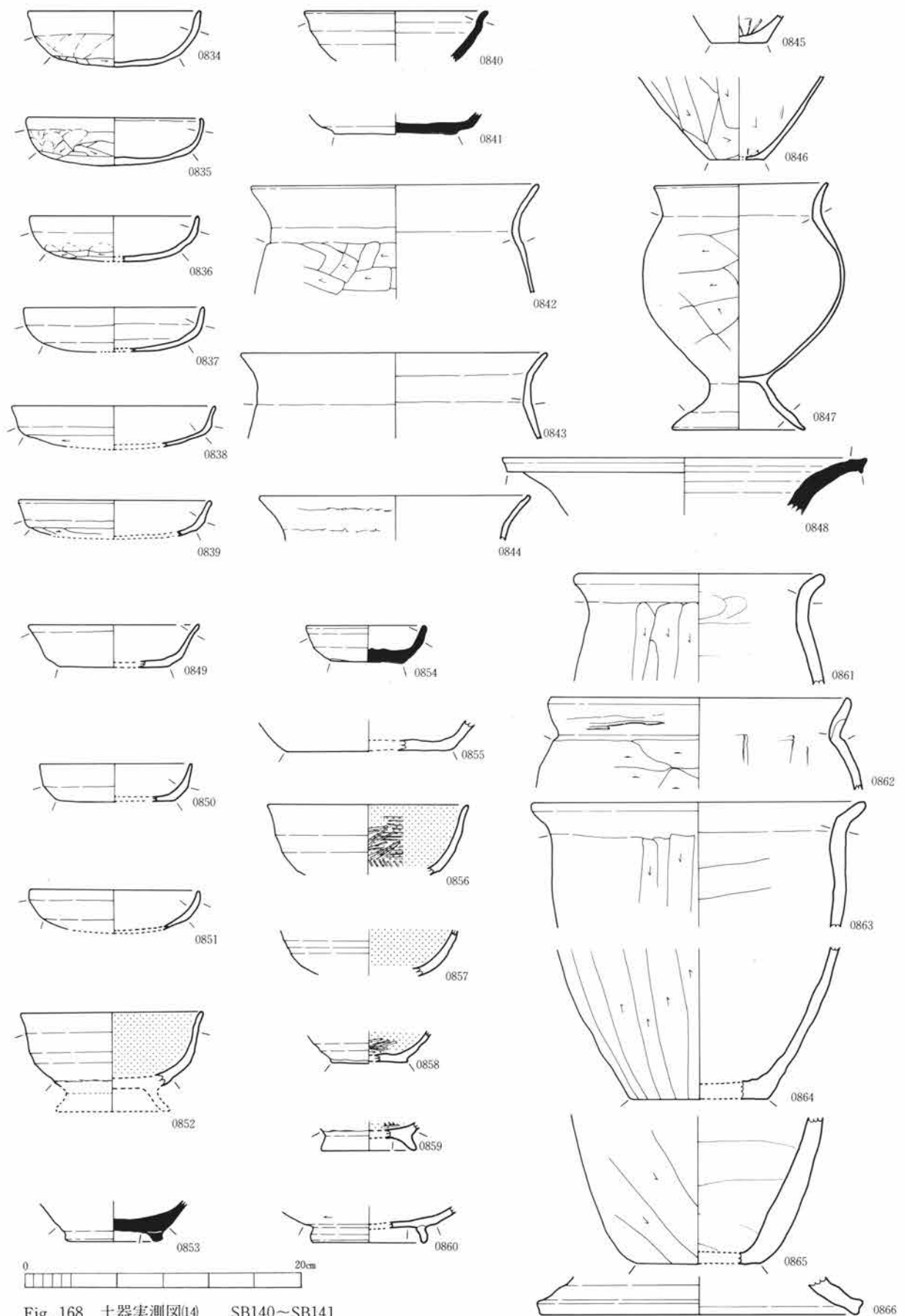


Fig. 168 土器実測図(14) SB140~SB141

第三章 遺物

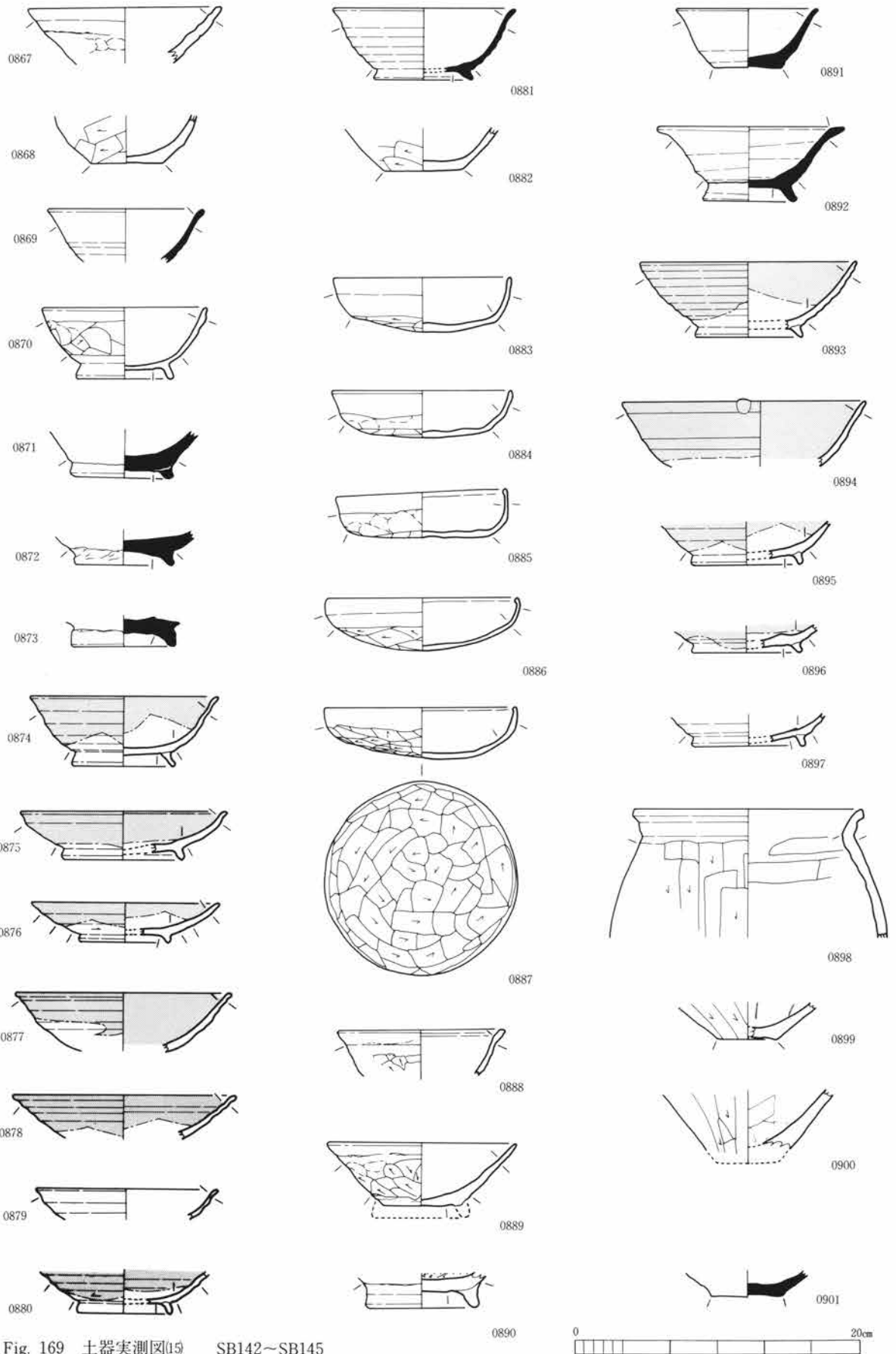


Fig. 169 土器実測図(15) SB142~SB145

1 土 器

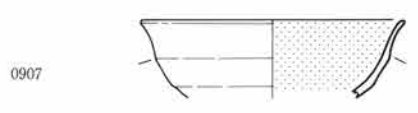
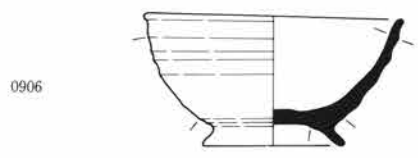
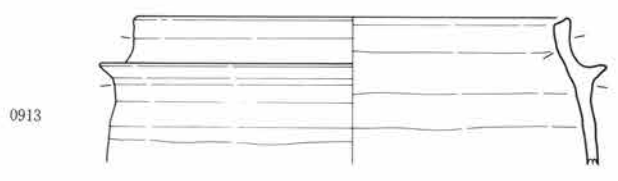
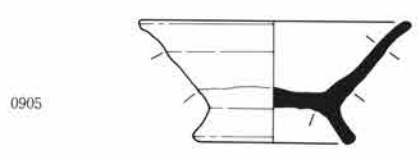
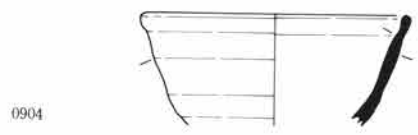
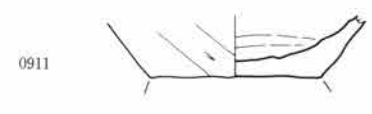
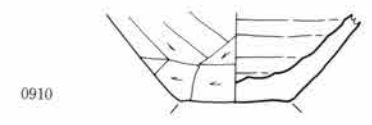
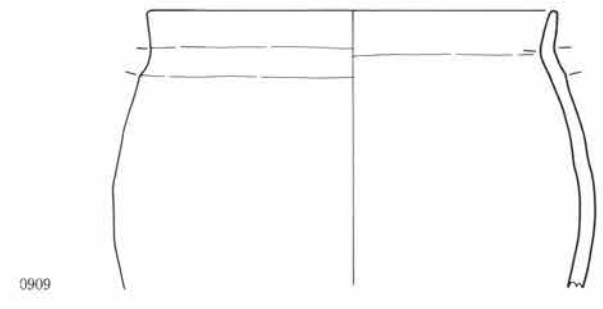
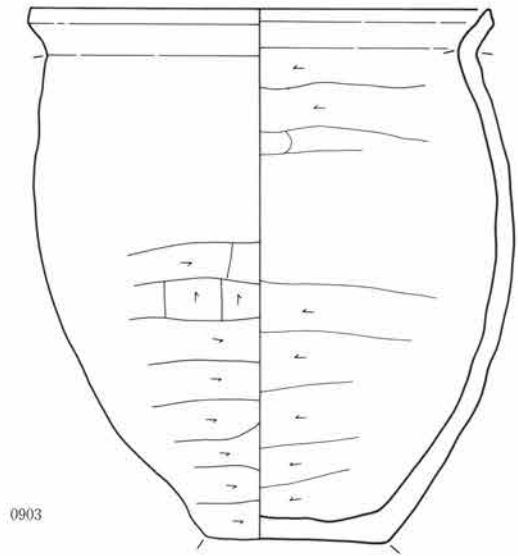
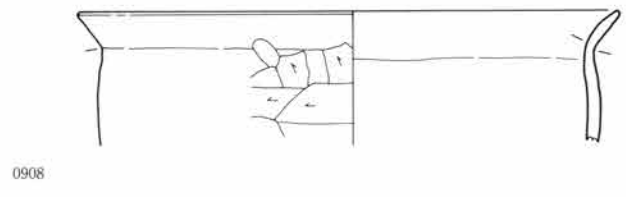
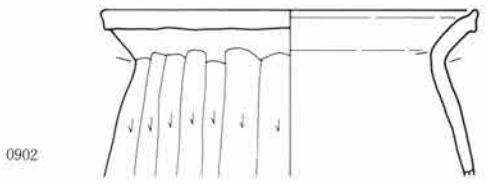


Fig. 170 土器実測図(6) SB146~SB148



第三章 遺物

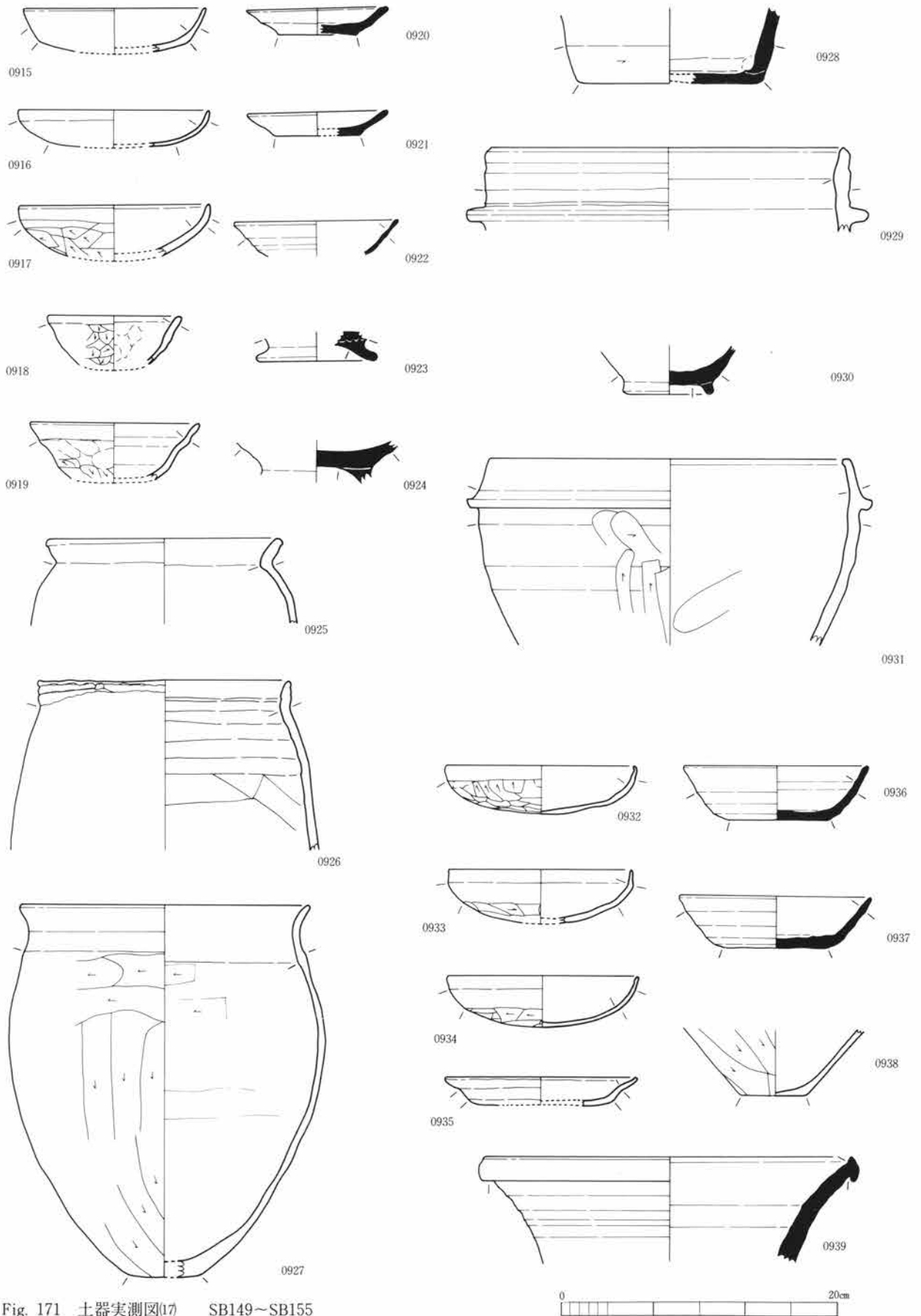


Fig. 171 土器実測図(17) SB149~SB155

1 土 器

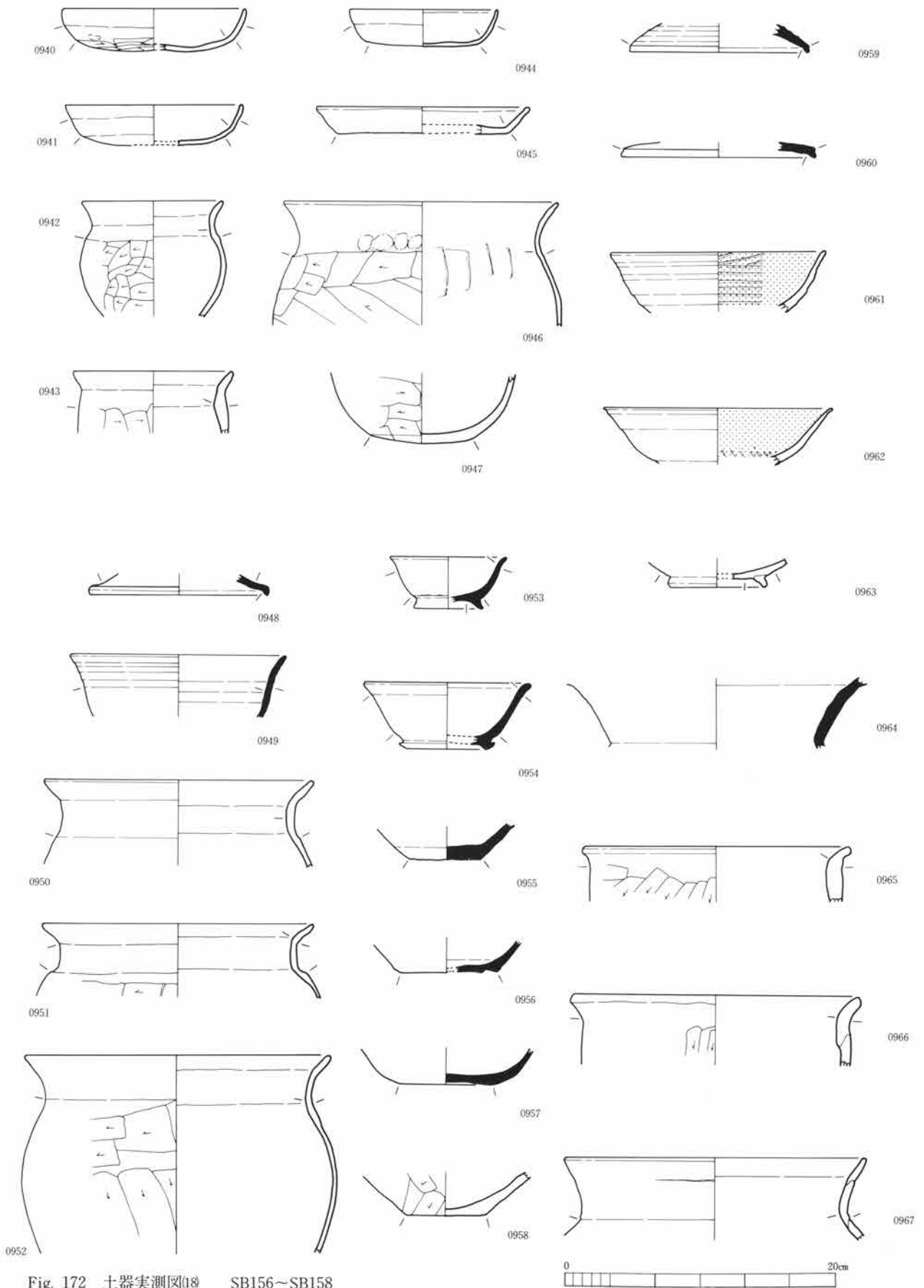


Fig. 172 土器実測図(18) SB156~SB158

第三章 遺物

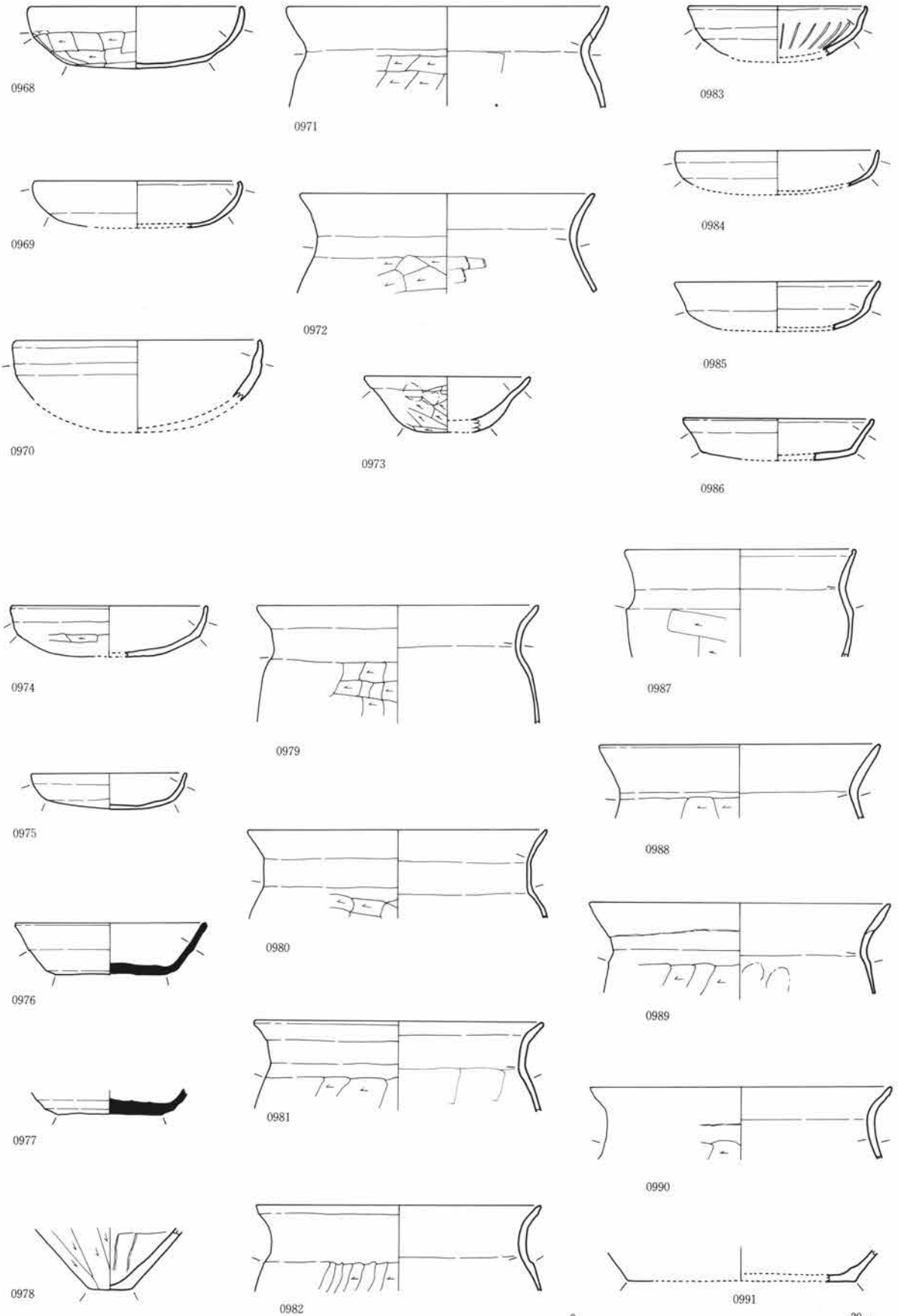


Fig. 173 土器実測図(19) SB159~SB161



1 土 器

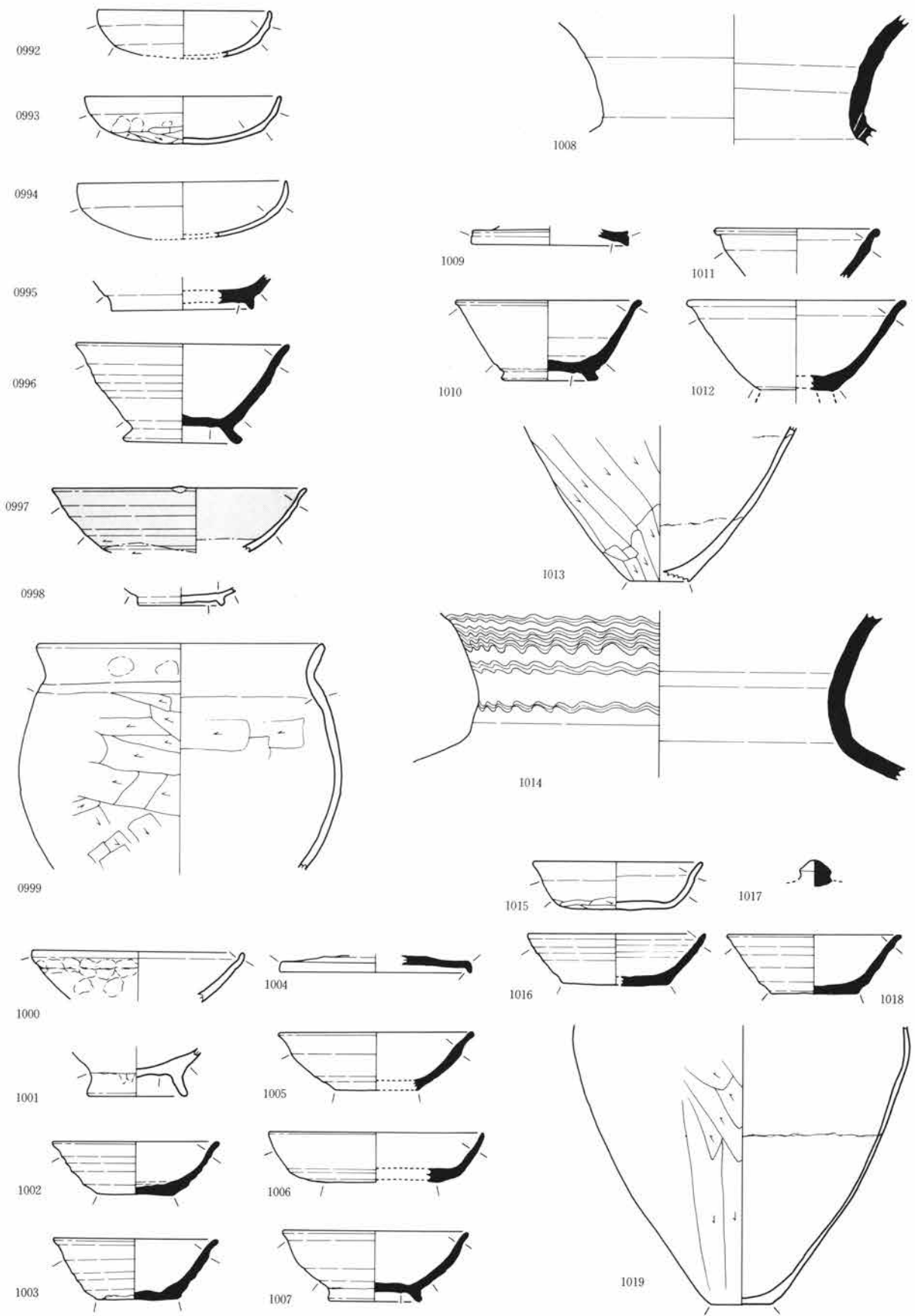


Fig. 174 土器実測図(20) SB162~SB165

第三章 遺物

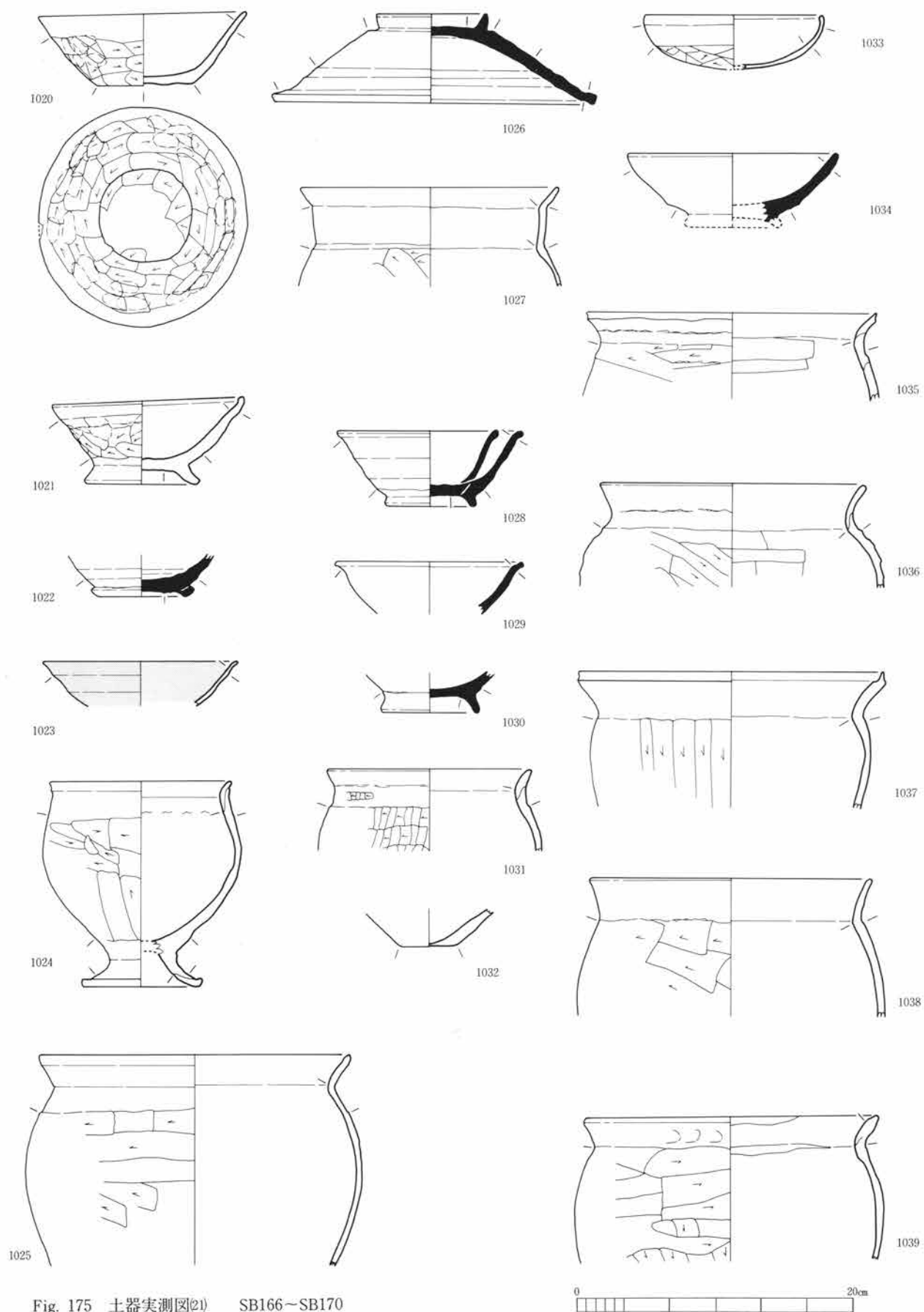
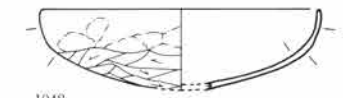


Fig. 175 土器実測図(21) SB166~SB170

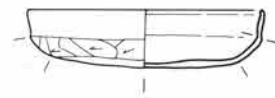
1 土 器



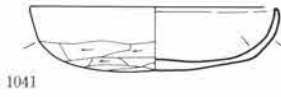
1040



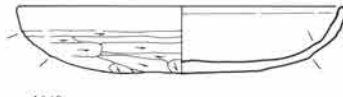
1048



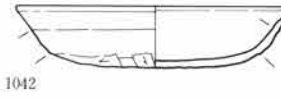
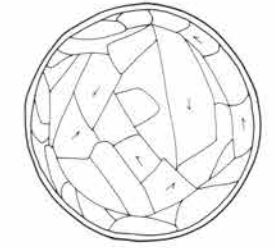
1057



1041



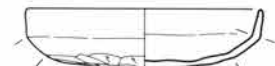
1049



1042



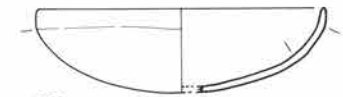
1050



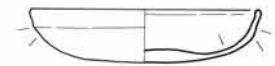
1058



1043



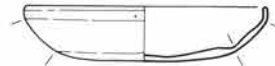
1051



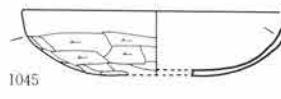
1059



1044



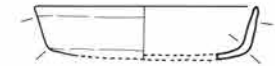
1060



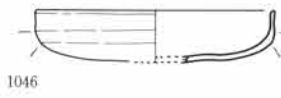
1045



1052



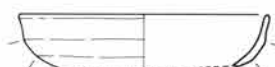
1061



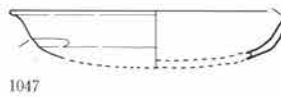
1046



1053



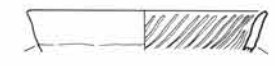
1062



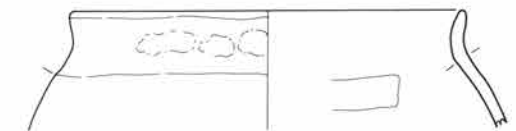
1047



1054



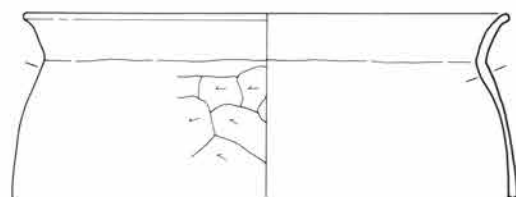
1063



1055



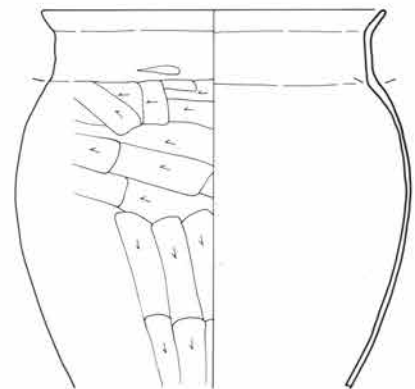
1064



1056



1065



1066



Fig. 176 土器実測図(22) SB171~SB173

第三章 遺物

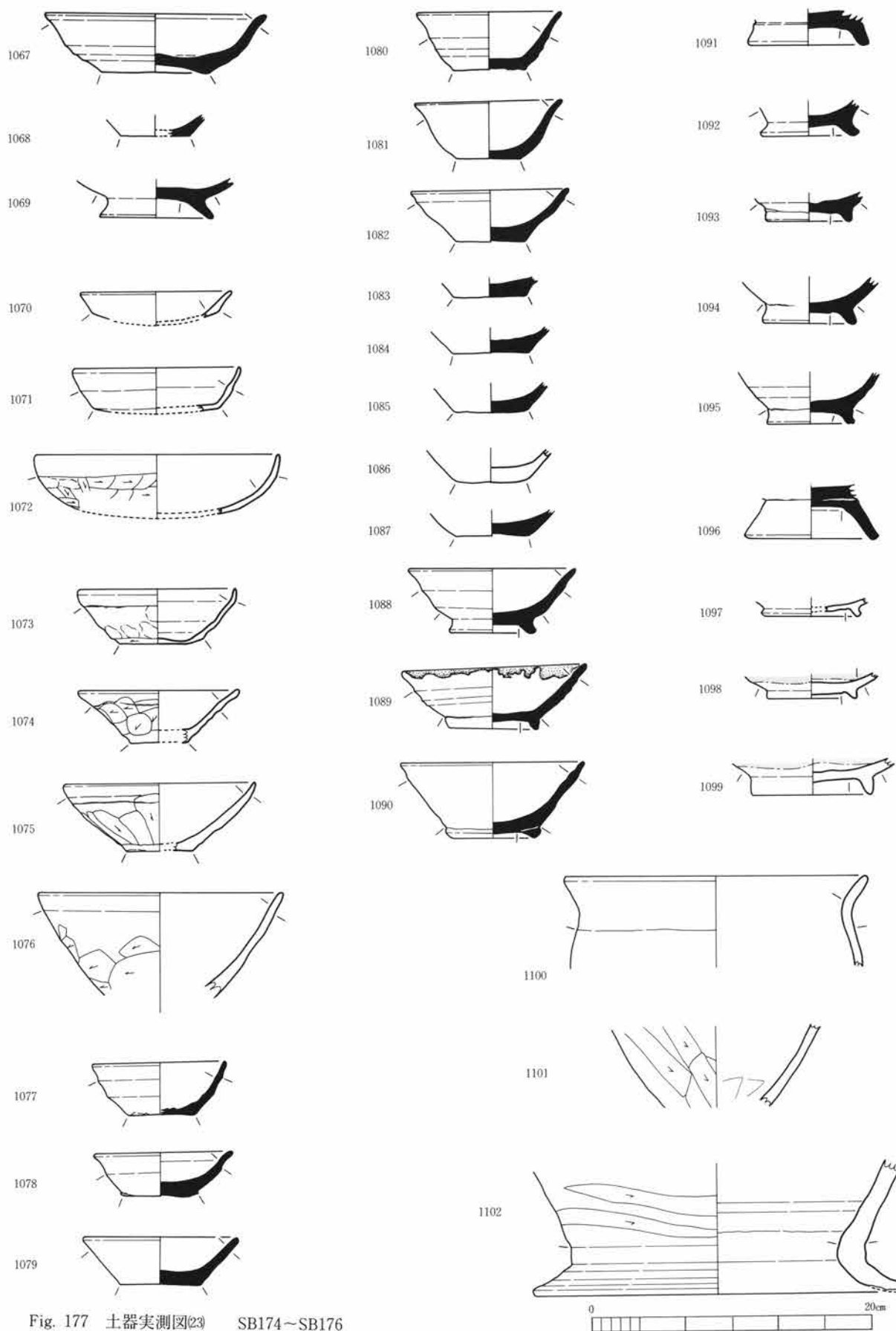


Fig. 177 土器実測図(23) SB174~SB176

1 土 器

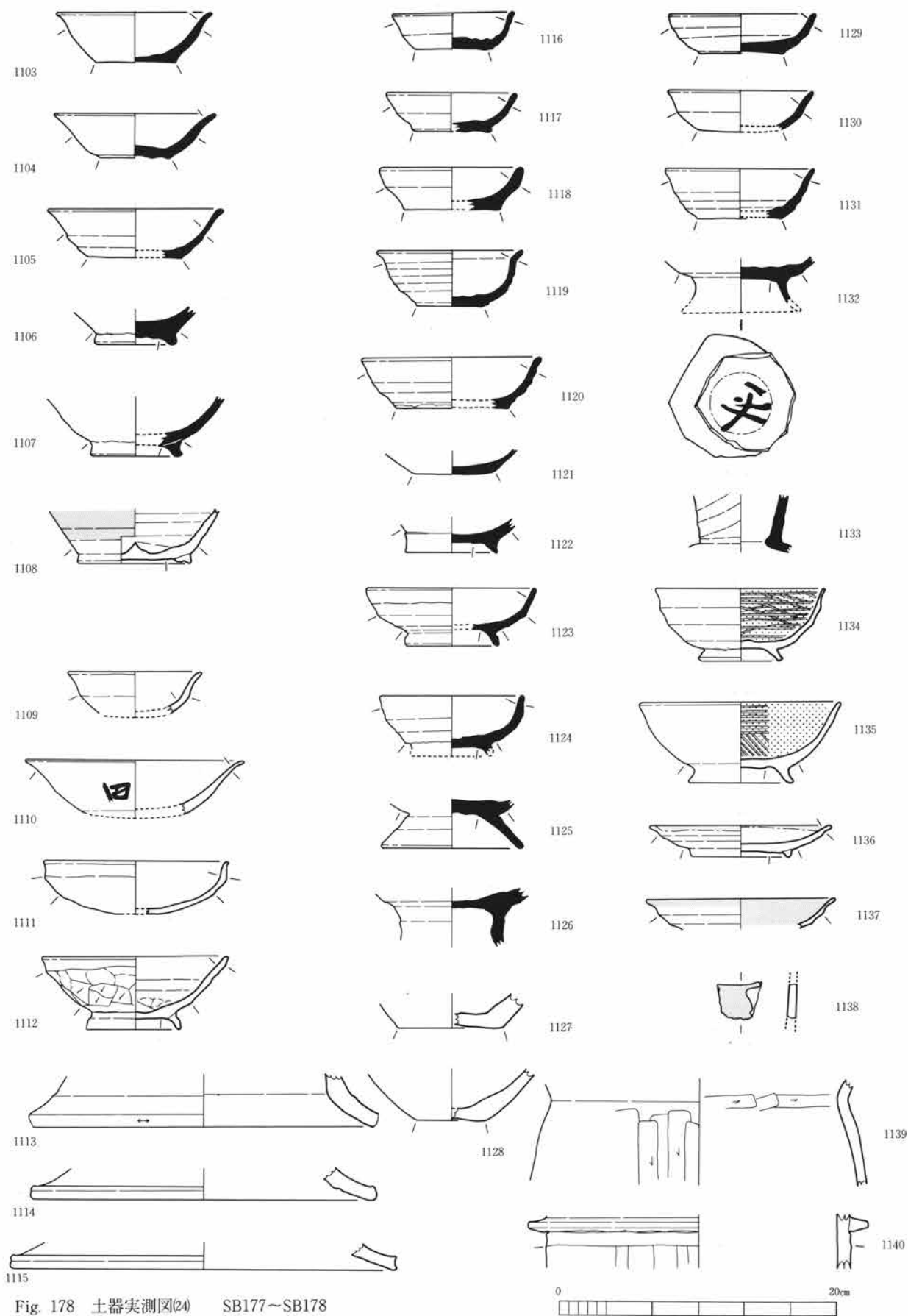


Fig. 178 土器実測図(24) SB177~SB178

第三章 遺物

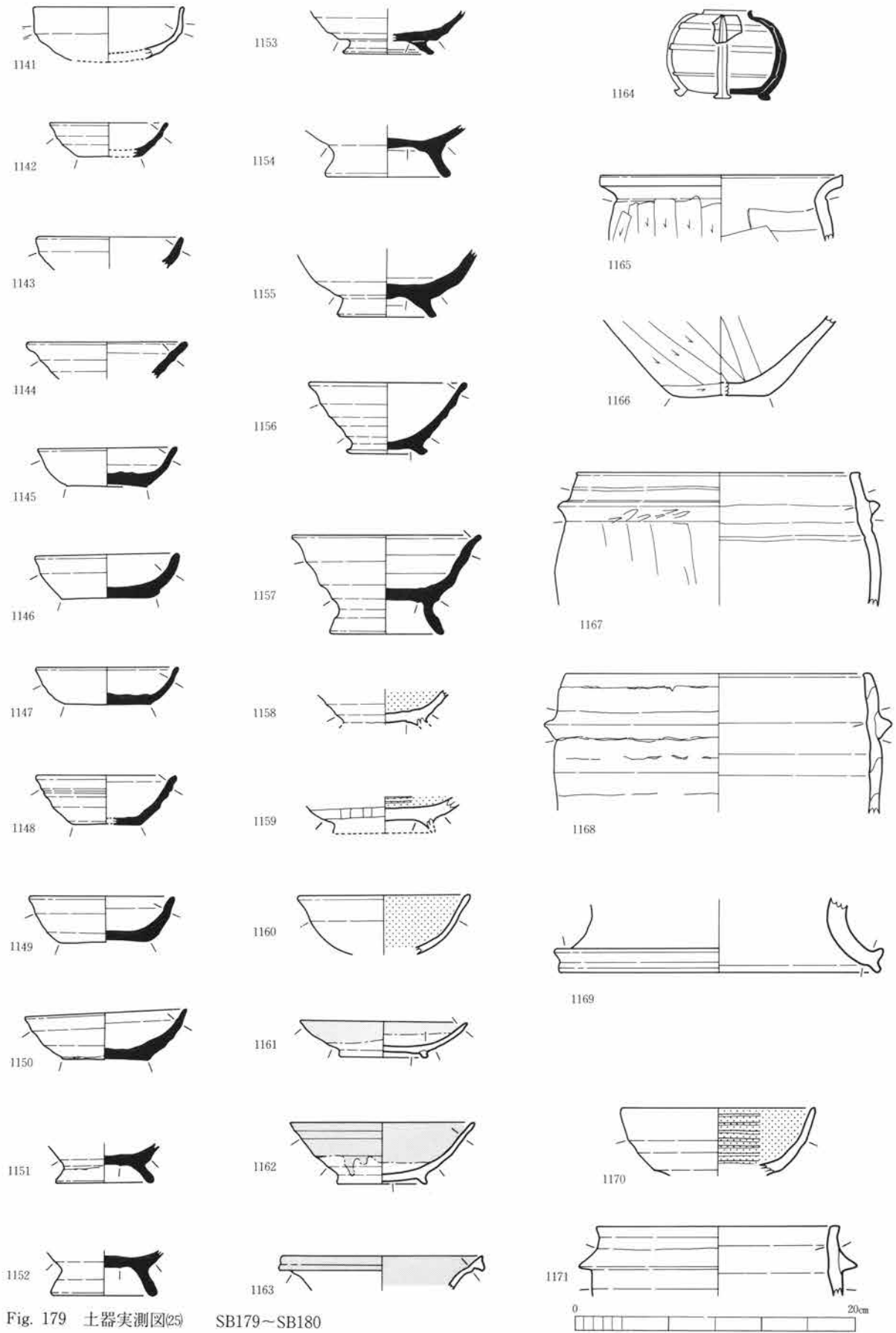


Fig. 179 土器実測図(25)

SB179~SB180

1 土 器

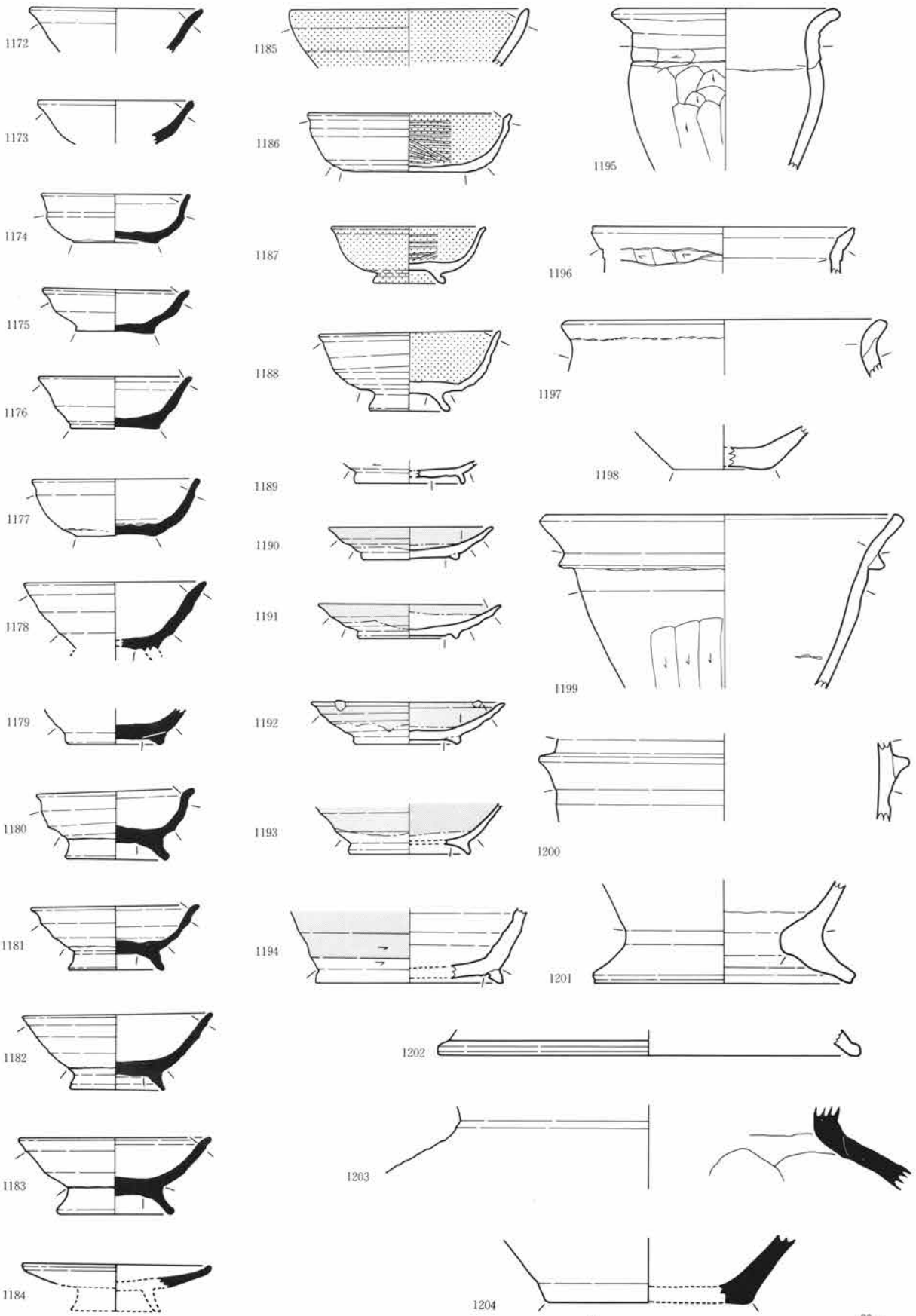


Fig. 180 土器実測図(26)

SB181~SB181

第三章 遺物

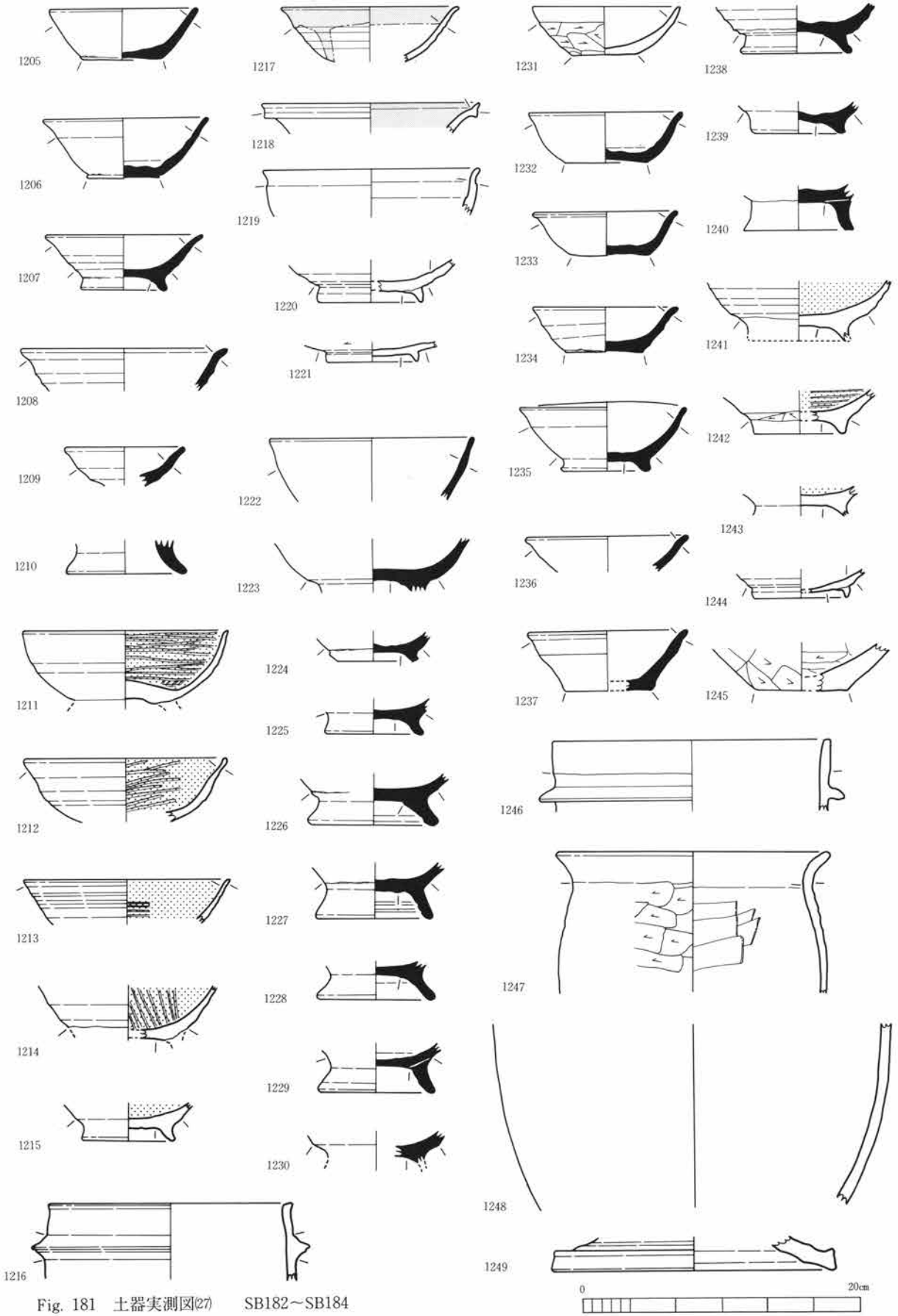


Fig. 181 土器実測図(27) SB182~SB184



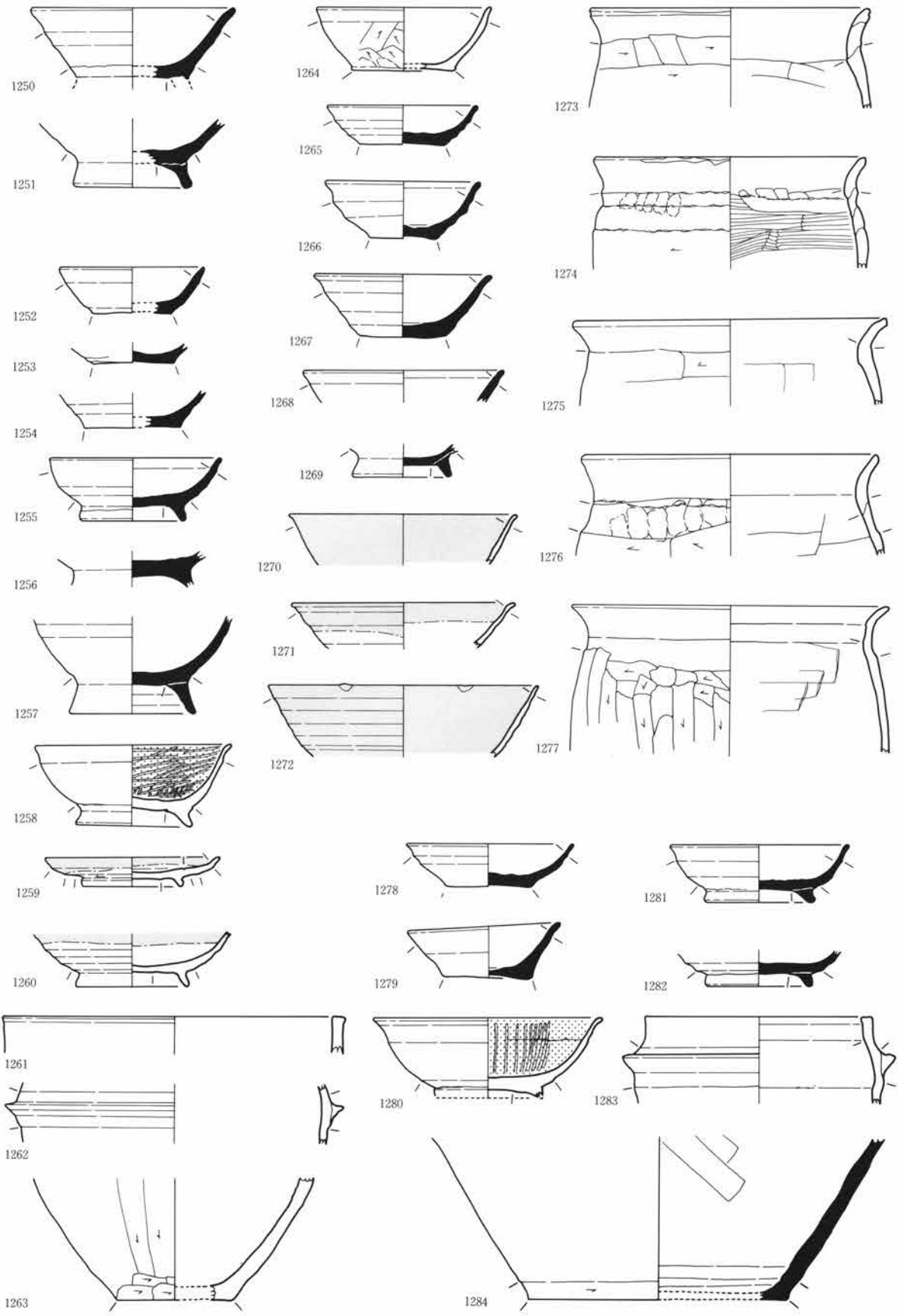


Fig. 182 土器実測図(28) SB185~SB188

第三章 遺物

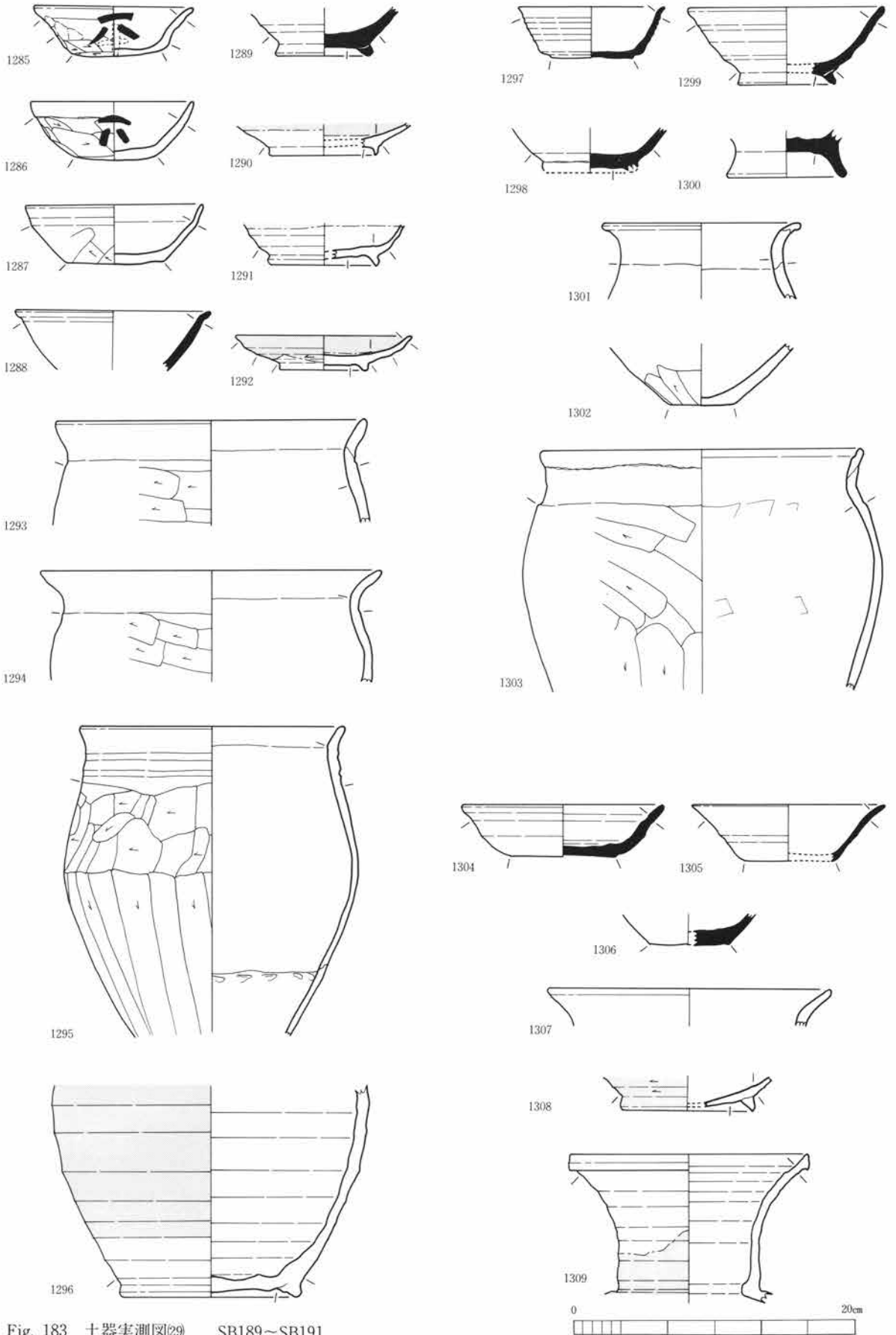


Fig. 183 土器実測図(29) SB189~SB191

1 土 器

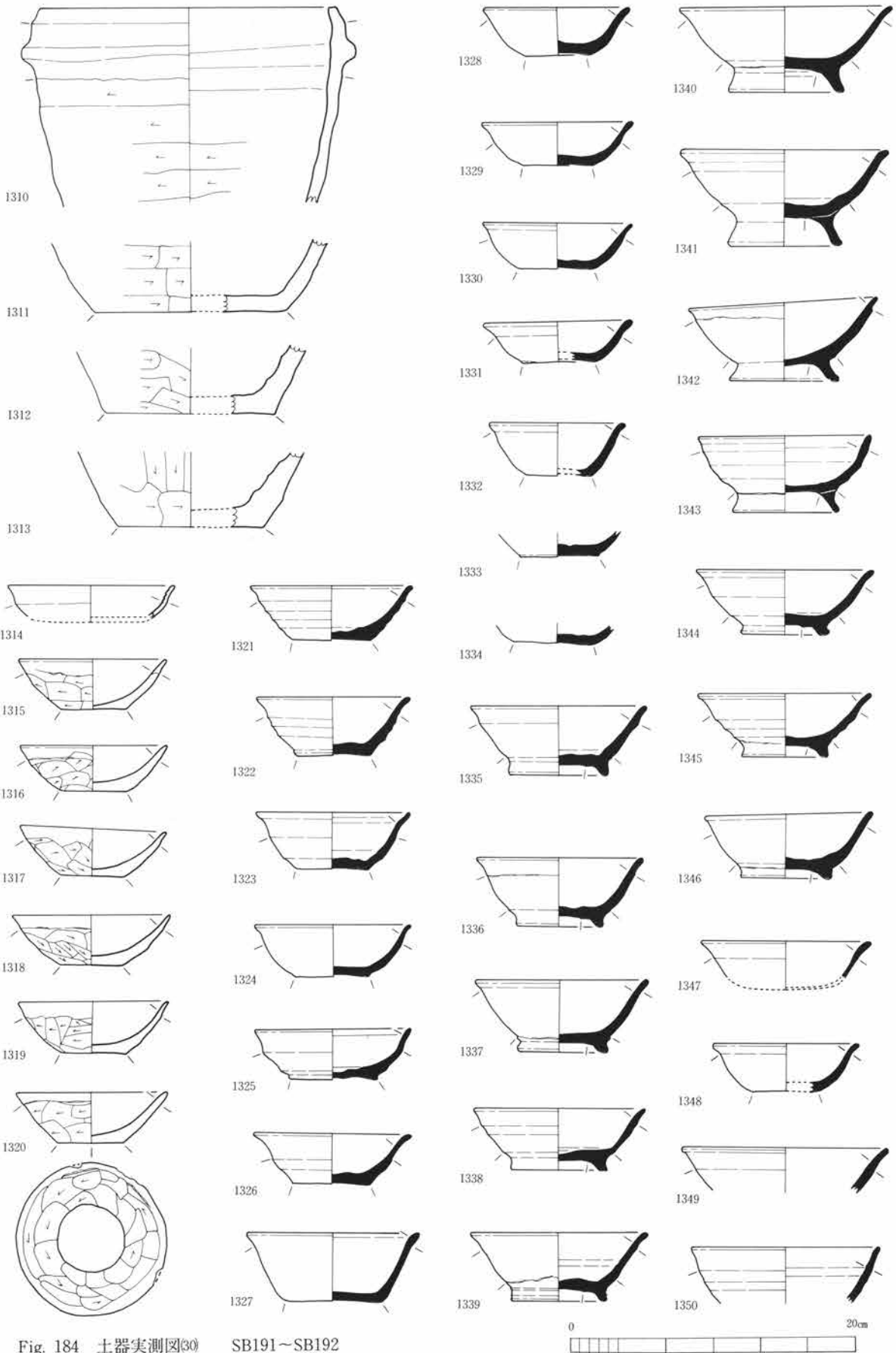


Fig. 184 土器実測図(30)

SB191~SB192

第三章 遺物

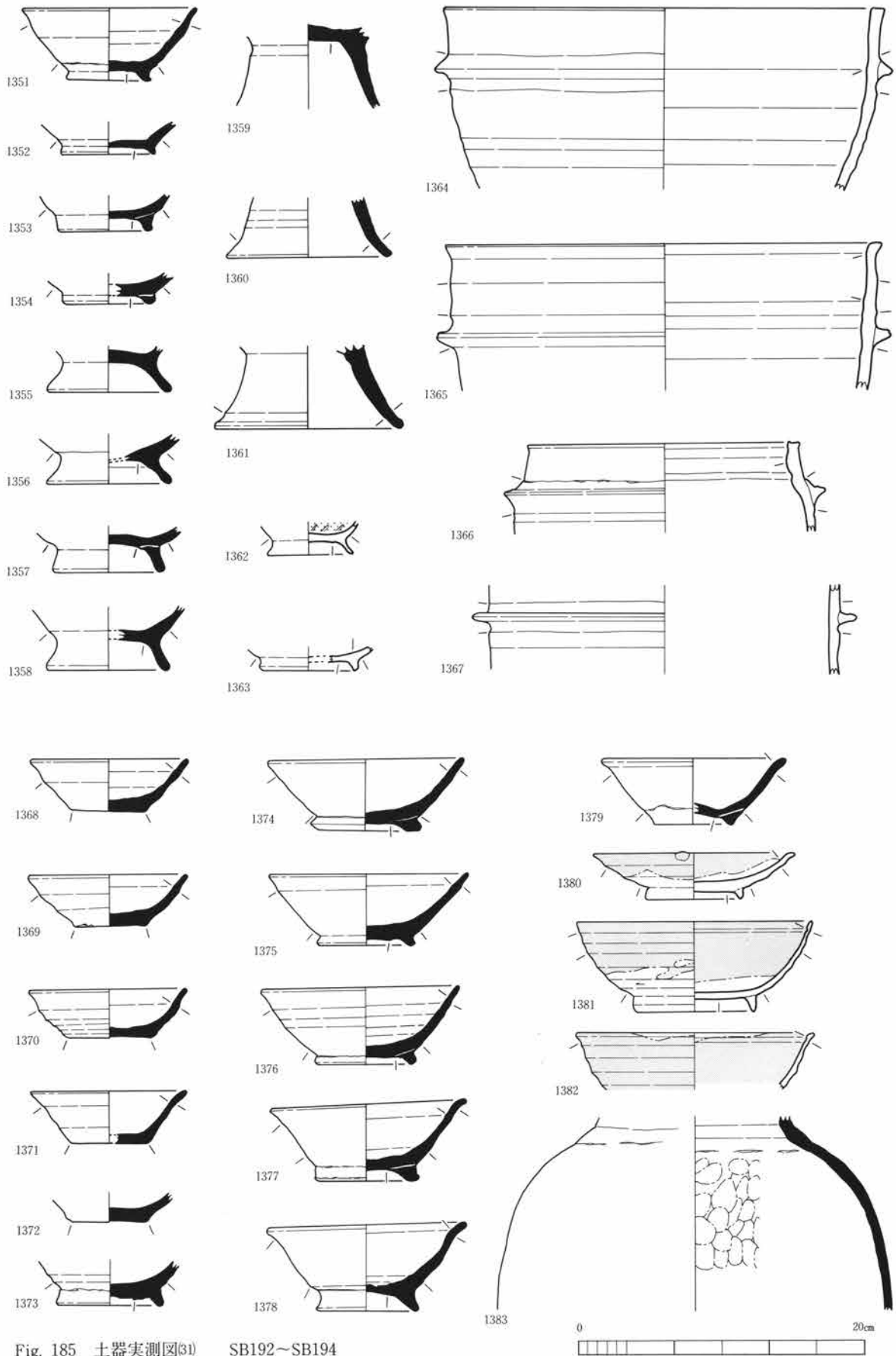


Fig. 185 土器実測図(31)

SB192~SB194

1 土 器

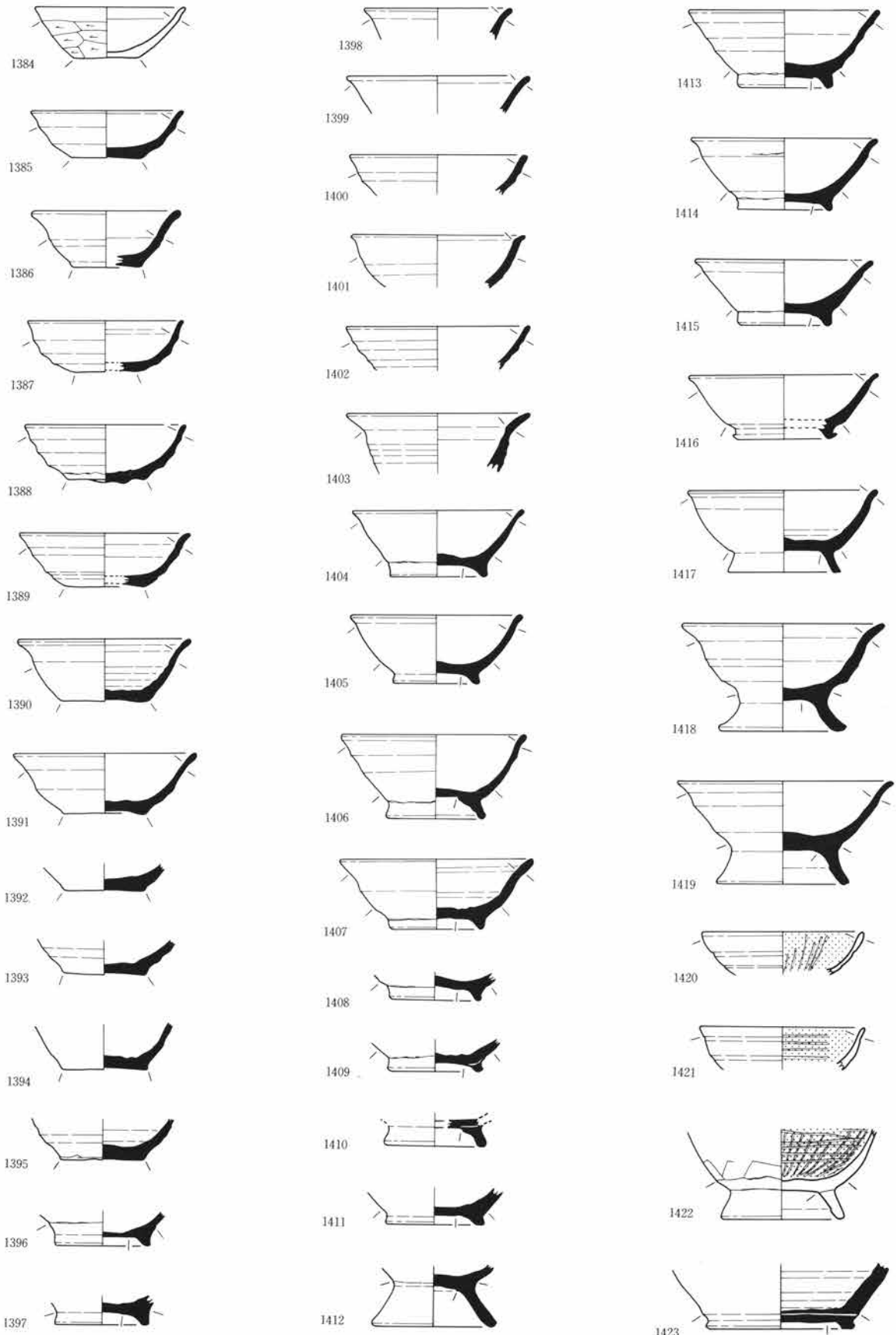


Fig. 186 土器実測図(32) SB195~SB195

第三章 遺物

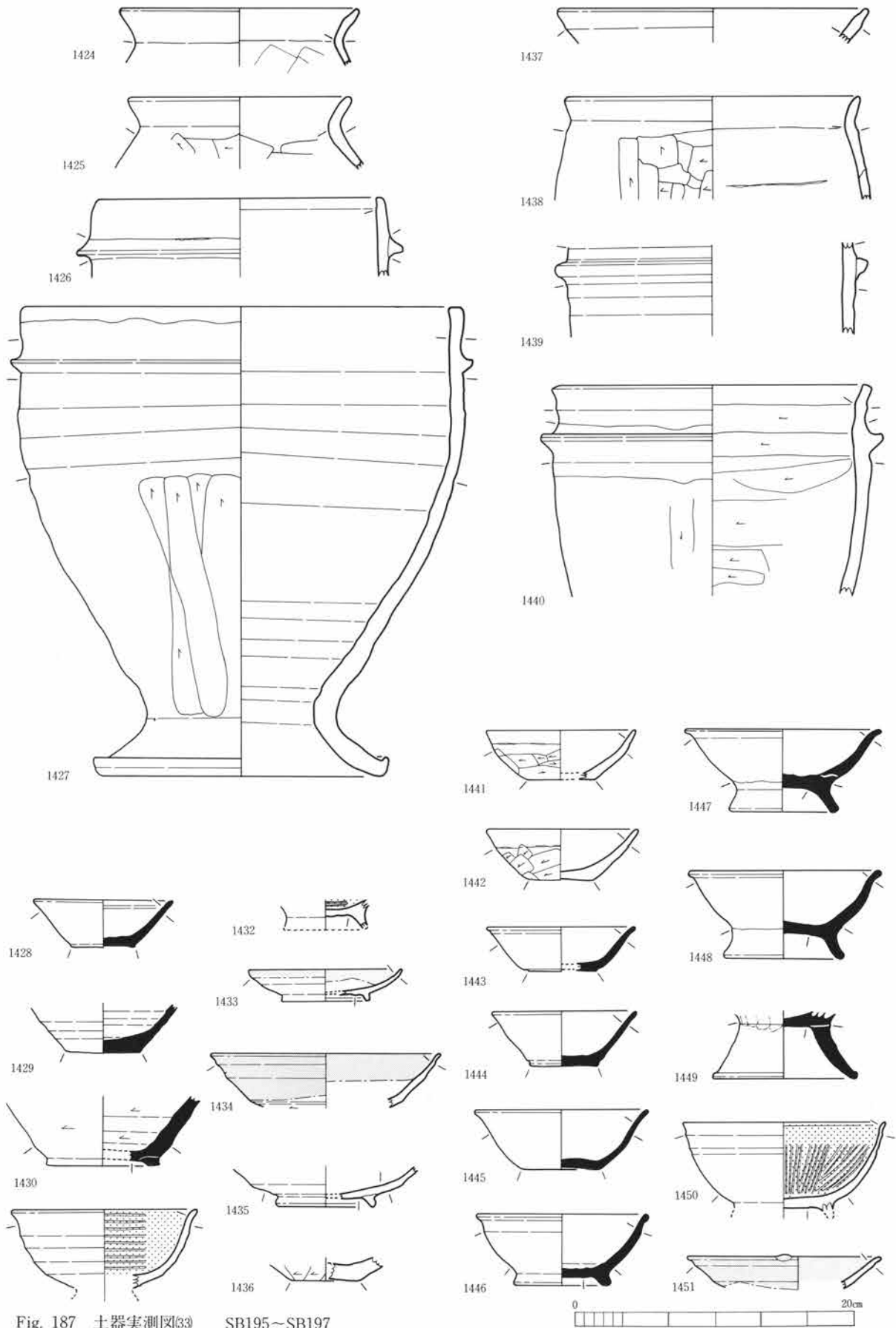


Fig. 187 土器実測図(33) SB195~SB197

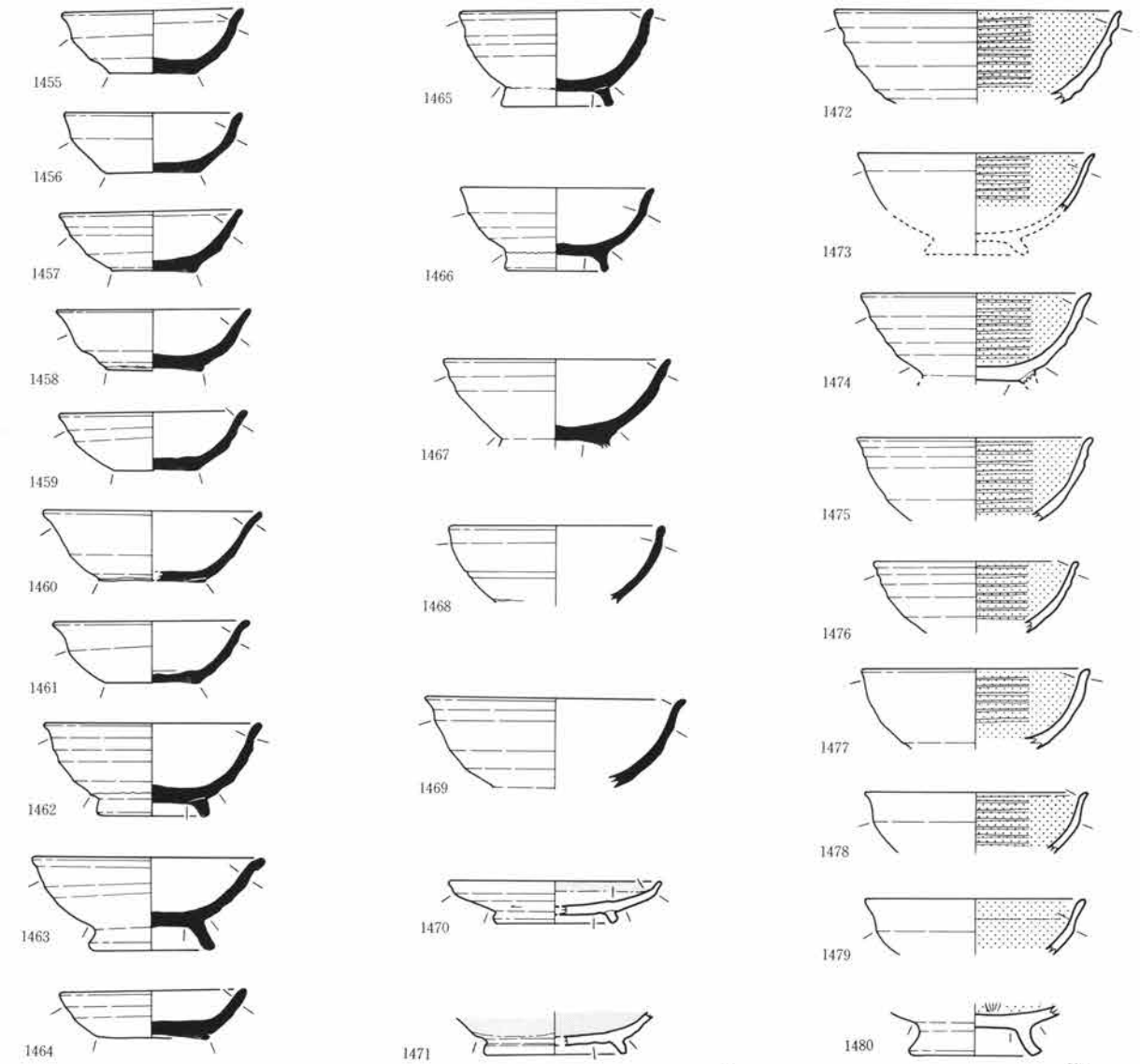
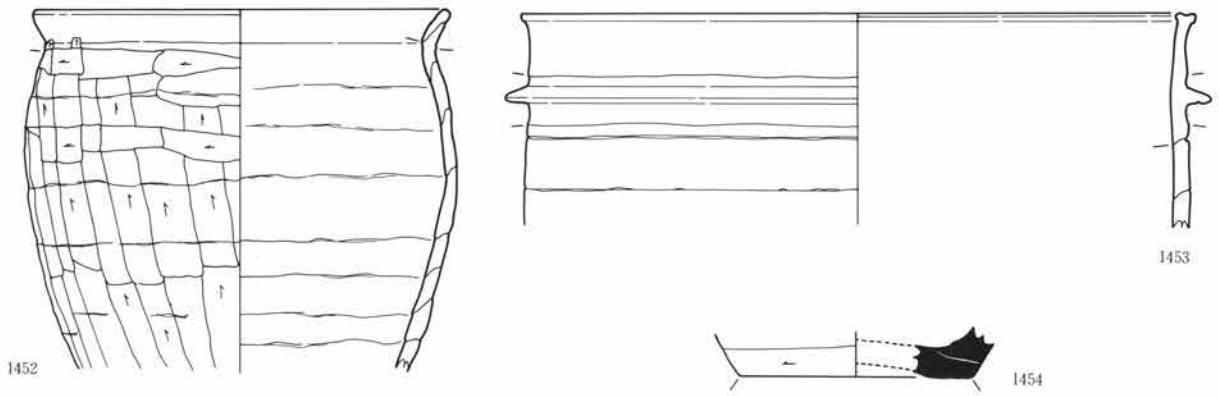


Fig. 188 土器実測図(34) SB197~SB199



第三章 遺物

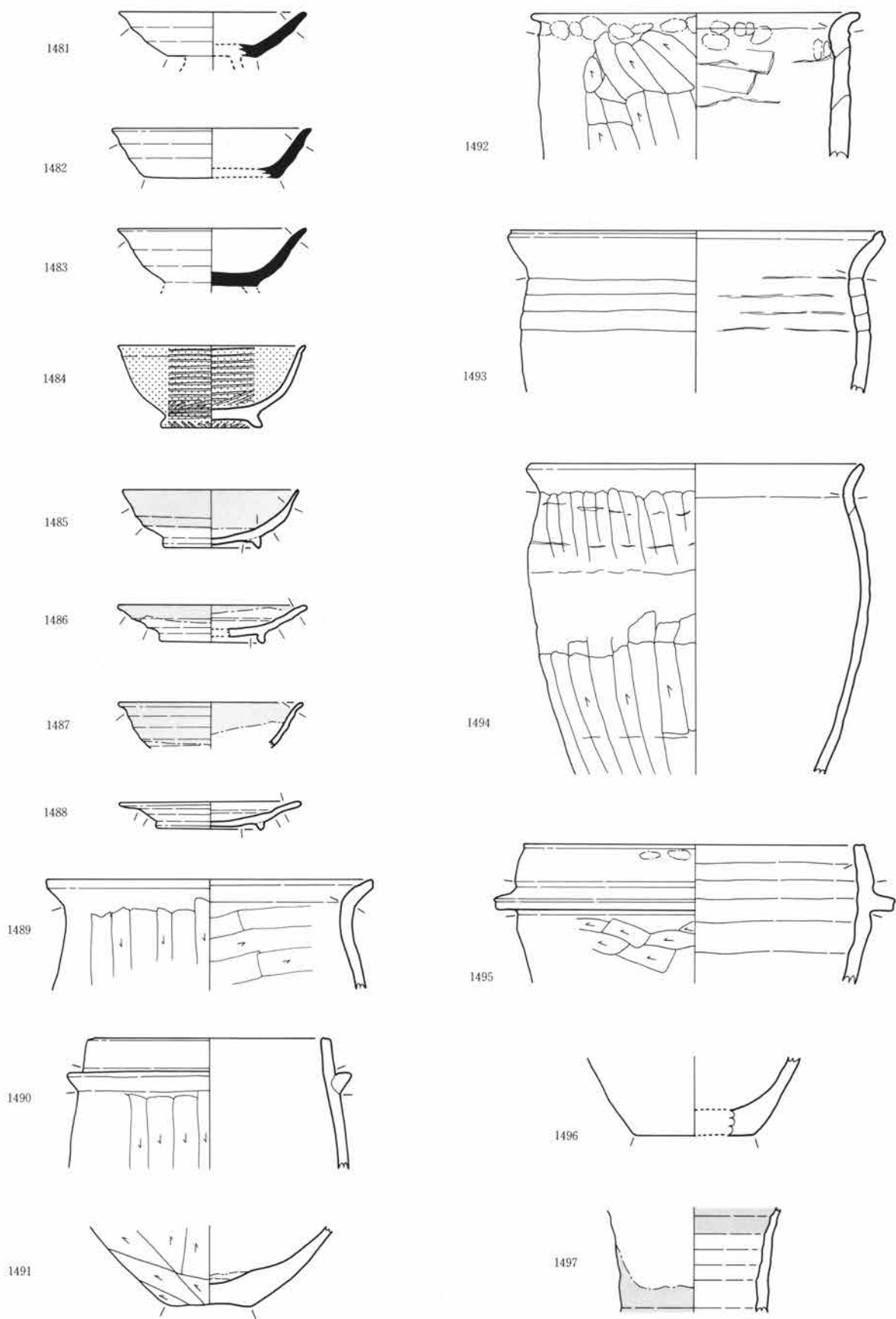


Fig. 189 土器実測図(35) SB200~SB201



1 土 器

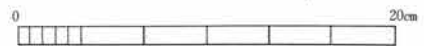
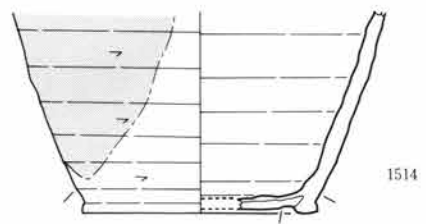
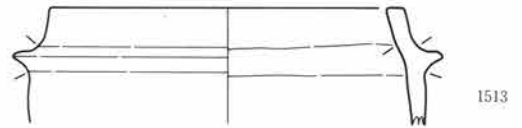
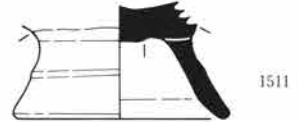
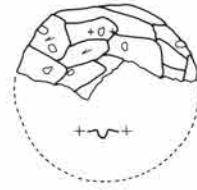
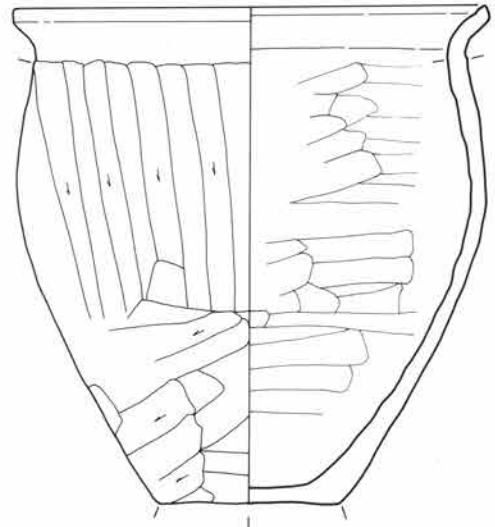
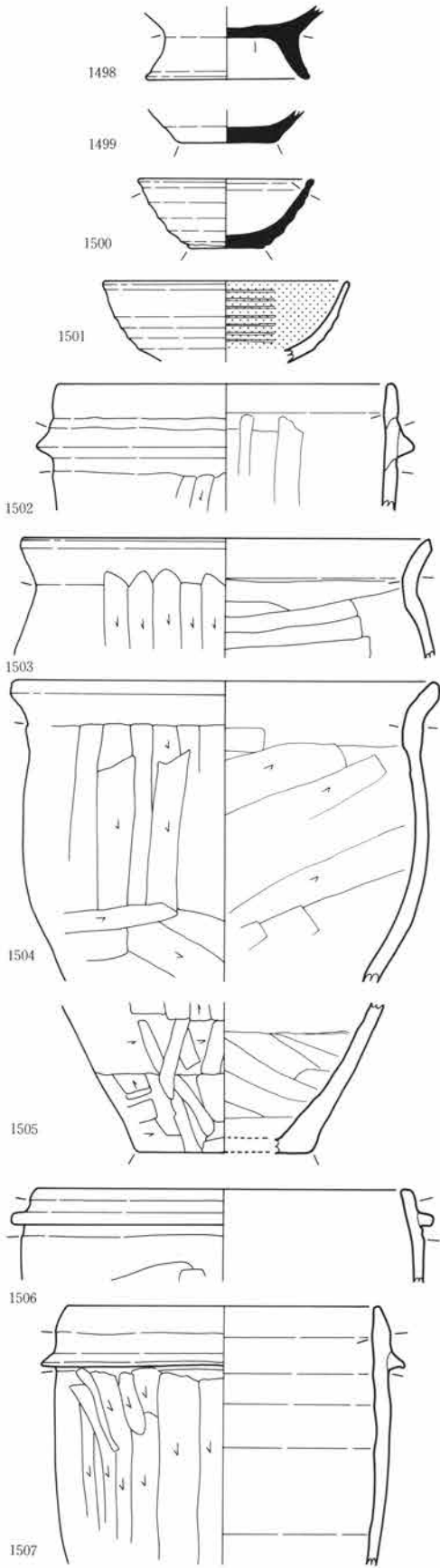


Fig. 190 土器実測図(36) SB202~SB203

第三章 遺物

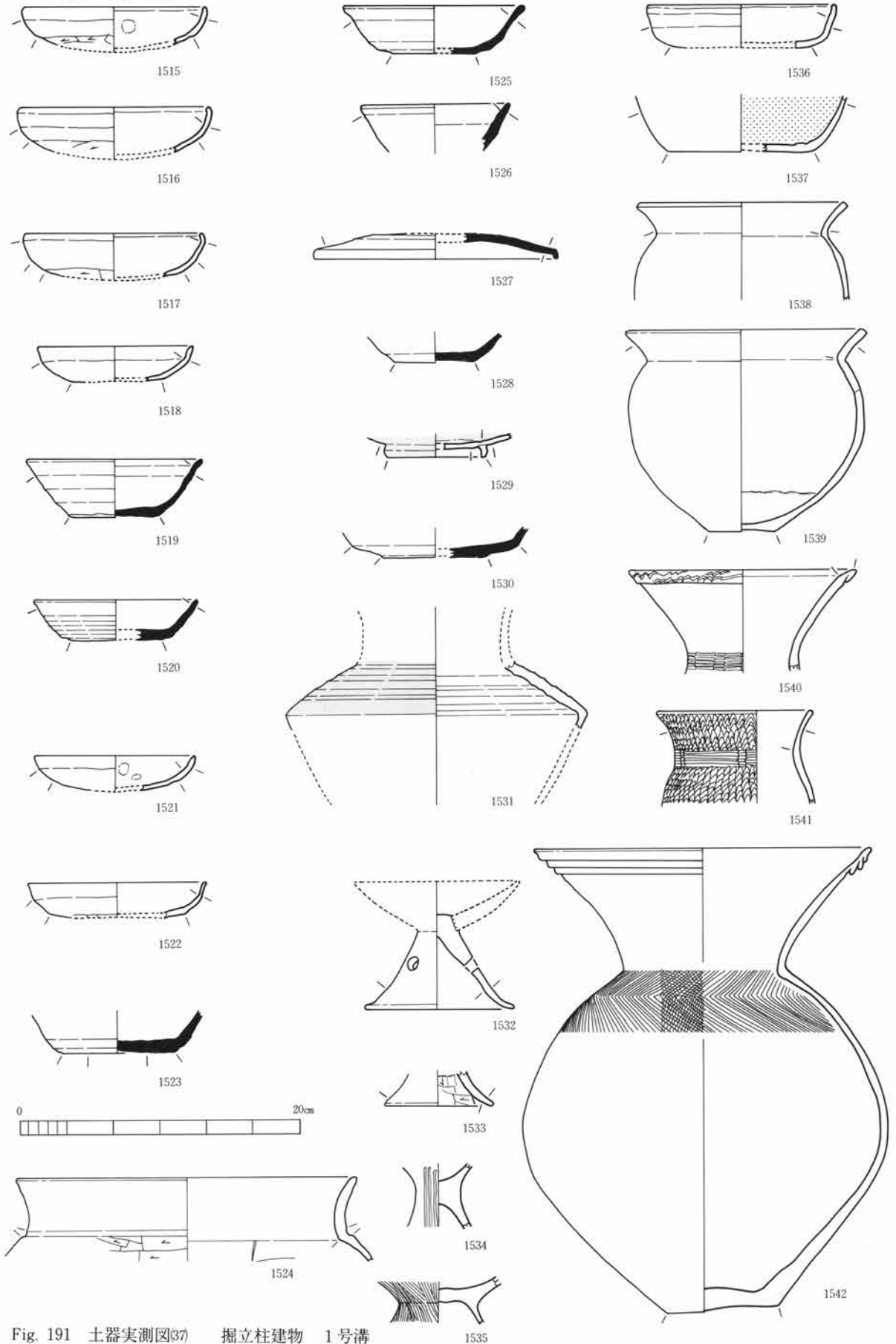


Fig. 191 土器実測図(37) 掘立柱建物 1号溝

1 土 器

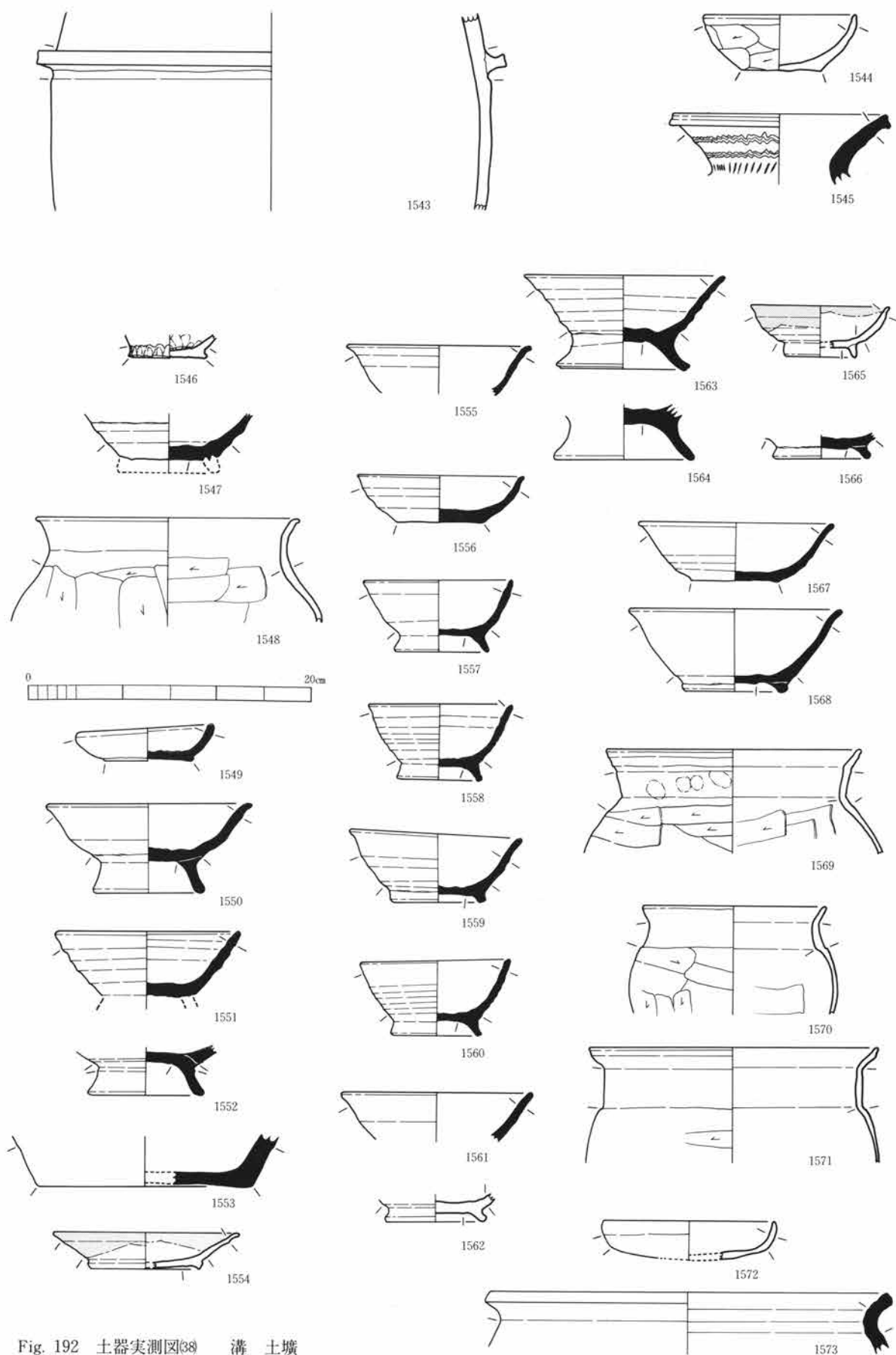


Fig. 192 土器実測図(38) 溝 土 城

第三章 遺物

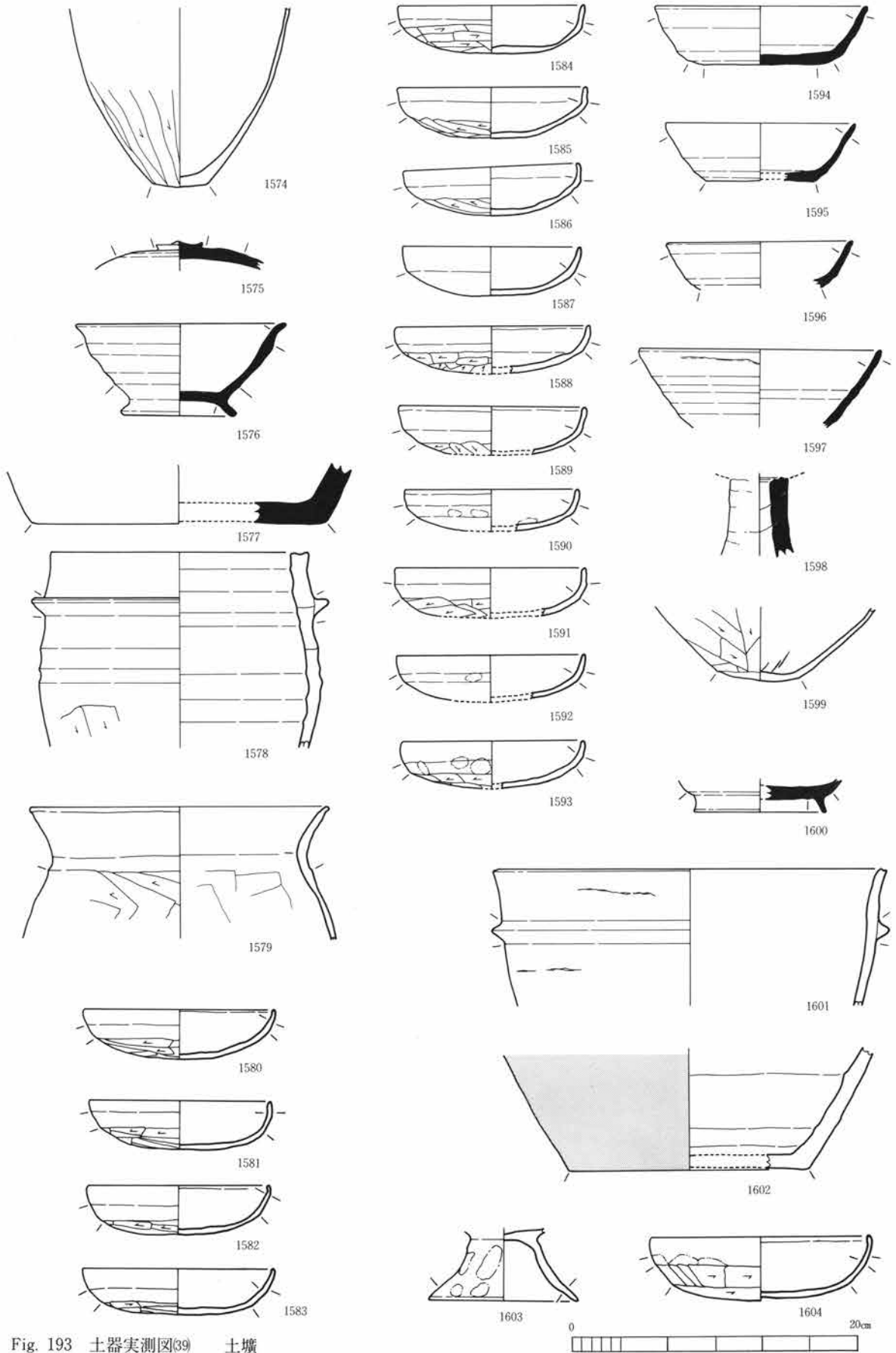


Fig. 193 土器実測図(39) 土壙

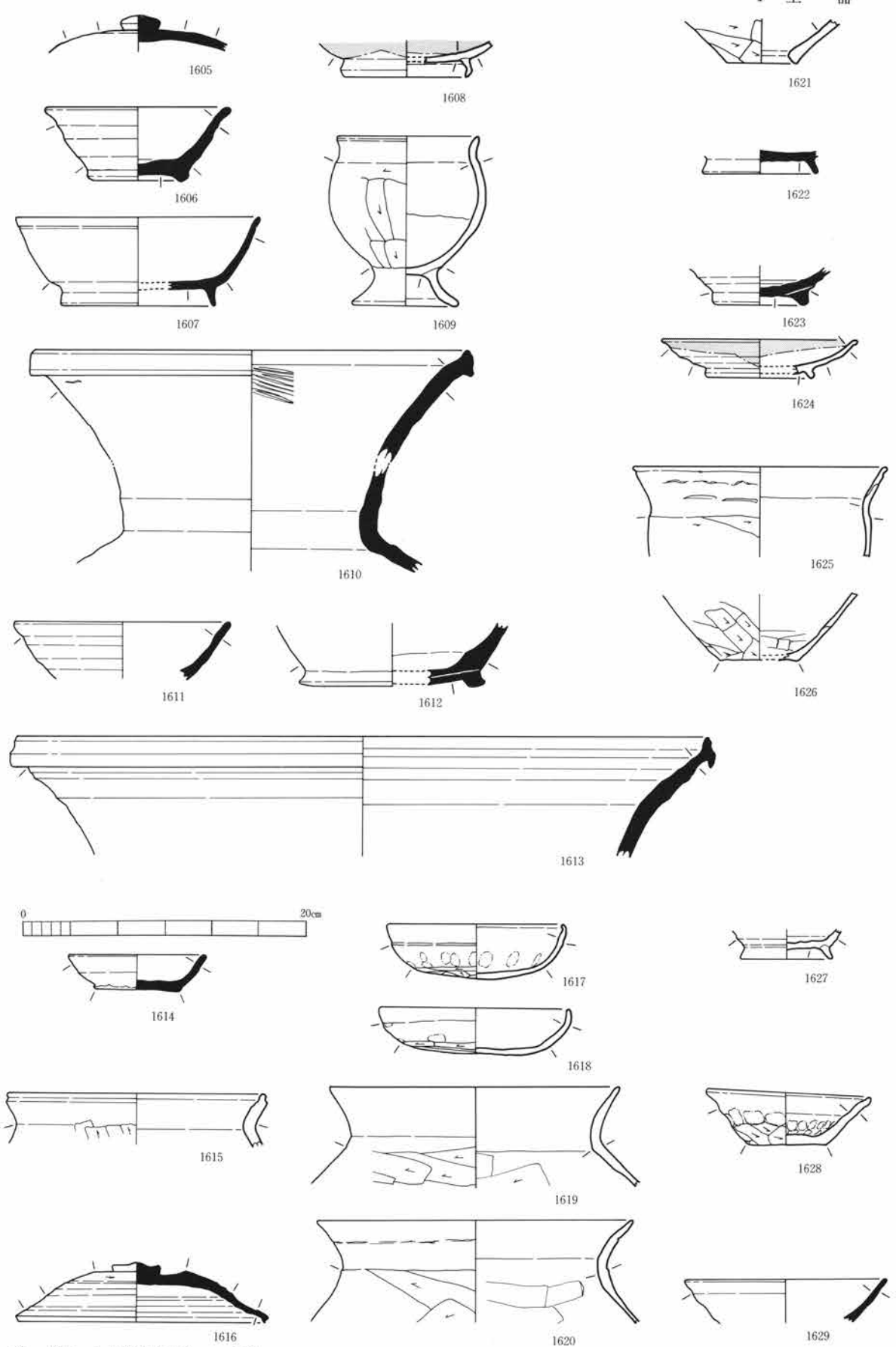


Fig. 194 土器実測図(40) 土壙

第三章 遺物

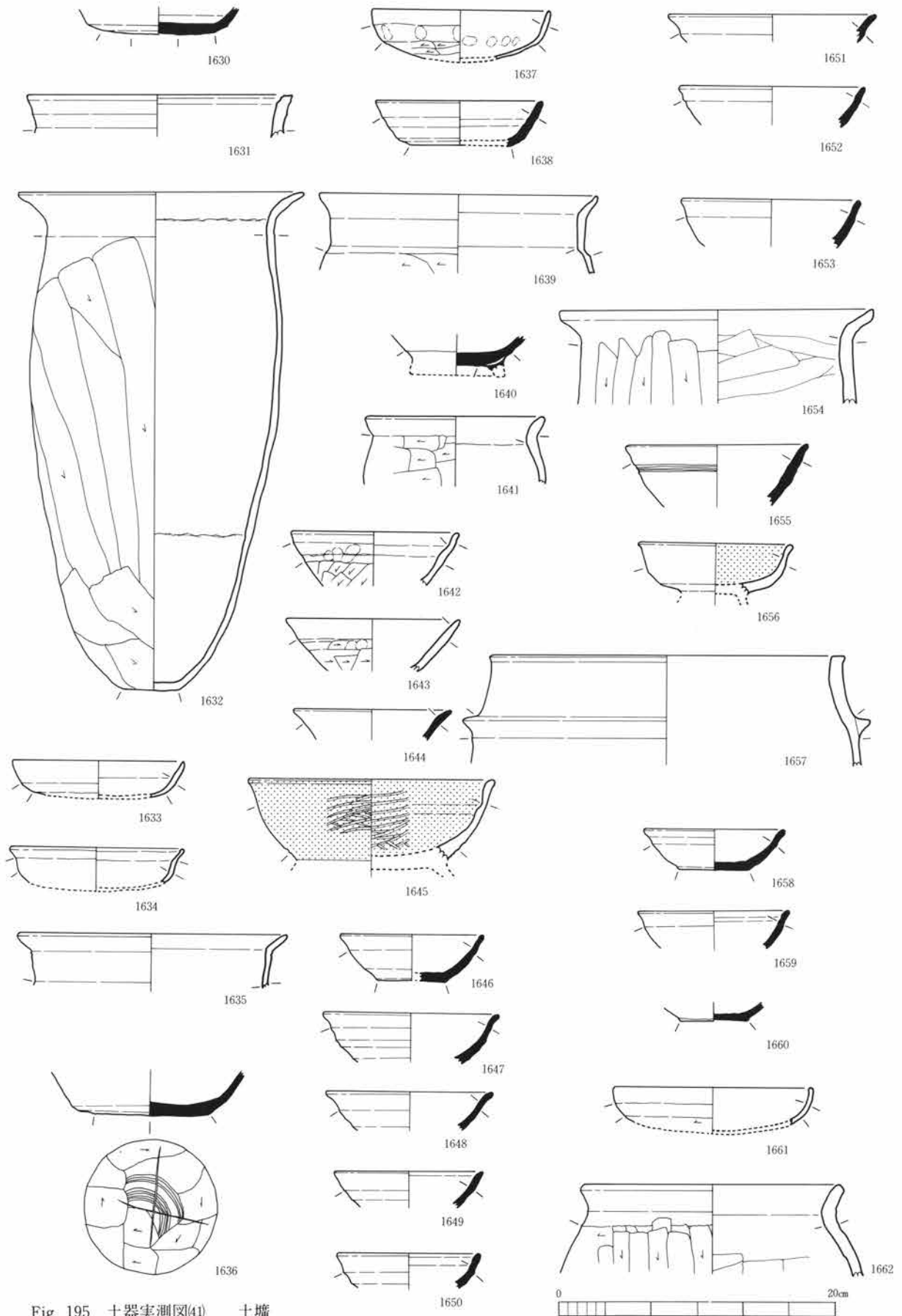


Fig. 195 土器実測図(41) 土壙

1 土 器

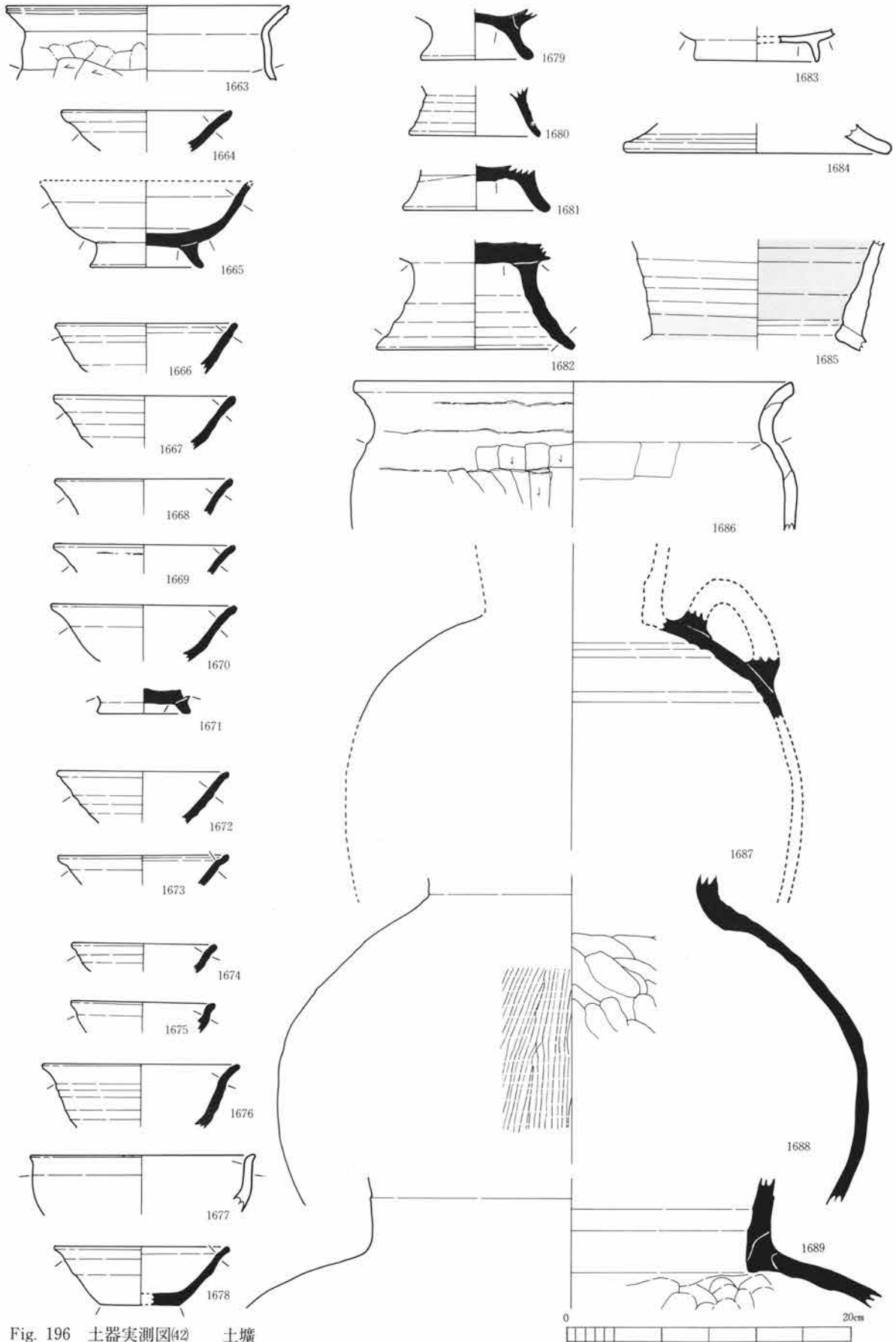


Fig. 196 土器実測図(42) 土壙

第三章 遺物

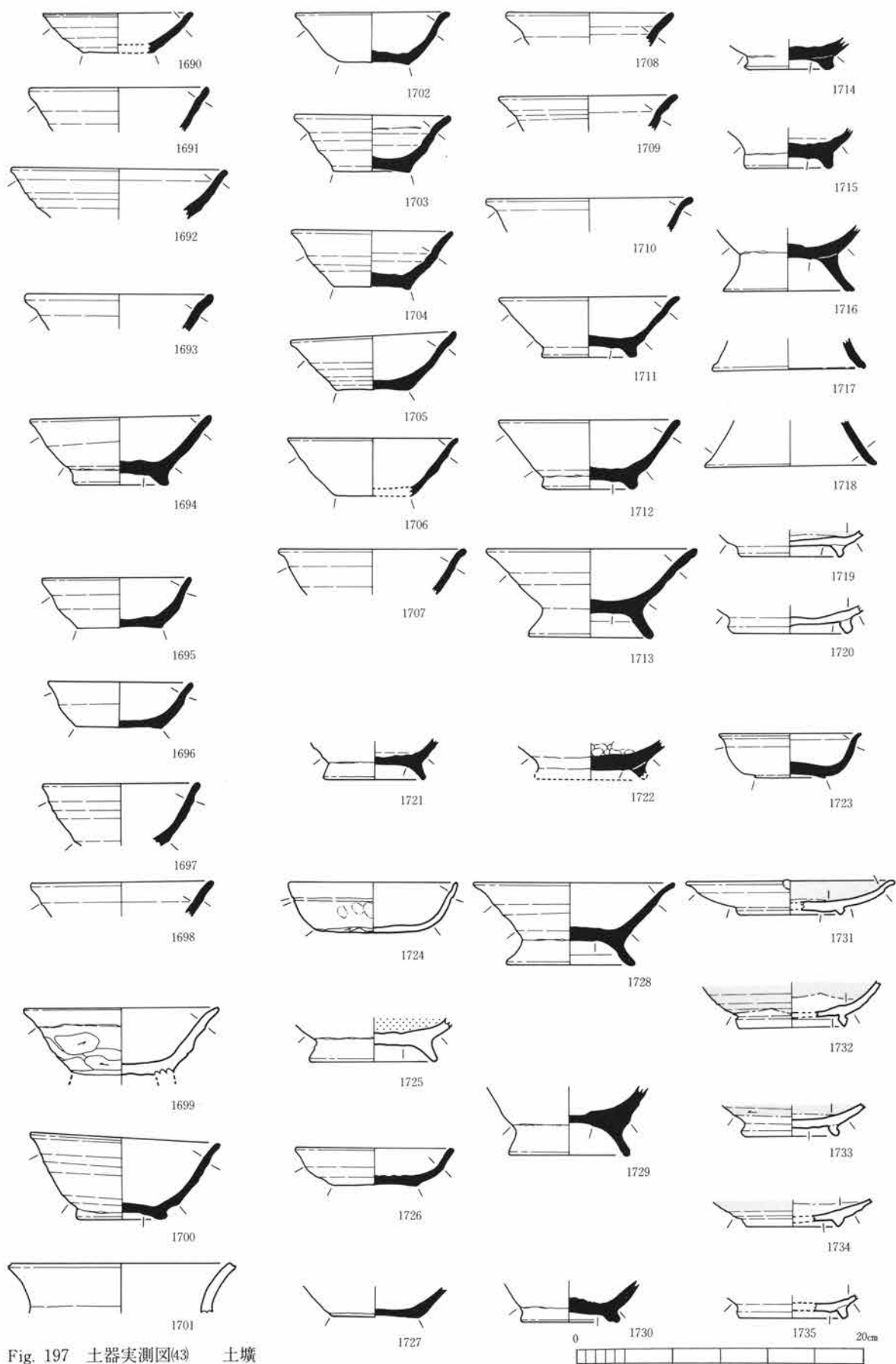


Fig. 197 土器実測図(43) 土壙



1 土 器

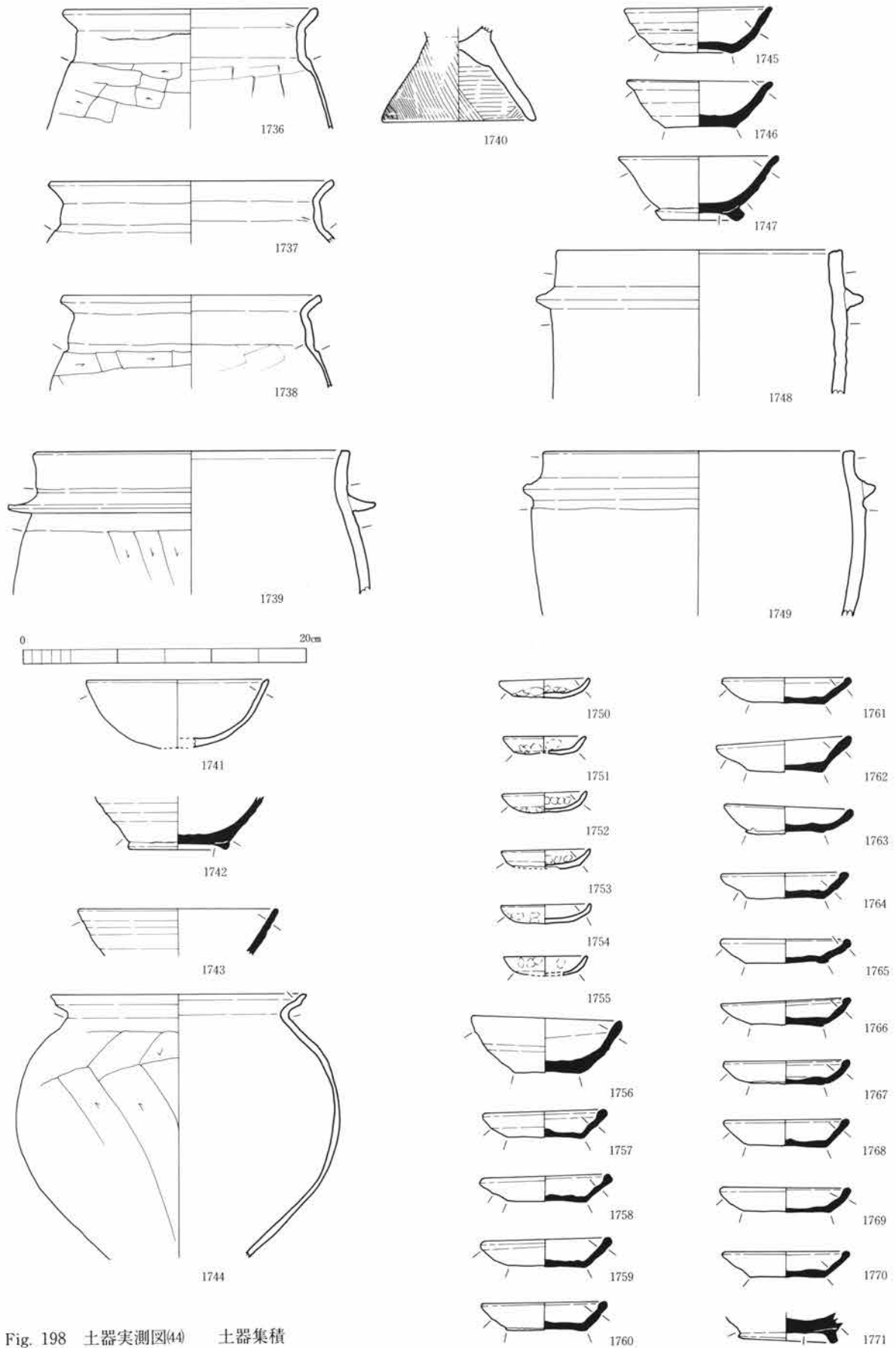


Fig. 198 土器実測図(44) 土器集積

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0478 S B 084 ●	蓋 須恵器	— つまみ2.9 —	環状つまみ 頭頂部が退化したつまみから緩やかに開く。	天井部 外面 横ナデ 体部 回転糸切り	細砂含む	灰白 良好	天井部以残存
0479 S B 085 ●	杯 土師器	3.6 10.8 4.8	平底の底部は、緩やかに屈曲して立ち上がり、尖る口縁部に到る。	底部 外面 砂底 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ	軽石・黒雲母・赤褐色粒を含む	灰黄褐 良好	ほぼ完形
0480 S B 085 ●	碗 須恵器	3.4 11.2 5.6	厚くしっかりした底部は、しめを行って立ち上がり、薄い口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 口縁部 横ナデ	黒雲母・軽石・砂粒	にぶい橙 良好	口縁の一部欠損
0481 S B 085 ●	碗 須恵器	— (12.2) —	直立気味に外反する杯の口縁部。口唇端部は1条の沈線が巡る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	砂粒含む	外面にぶい橙 内面淡橙	良好 口縁部以残存
0482 S B 085 ●	長 甕 土師器	— (13.1) —	球形の胴部から、緩やかに外反するくの字状口縁。	胴部 外面 ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒 砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部以、 体部以残存 須恵質
0483 S B 085 ●	羽釜 須恵器	— — 6.5	厚くしっかりした底部から、肥厚して立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	赤褐色土を含む	灰黄褐 良好	底部完形 甕
0484 S B 086 ●	杯 須恵器	4.0 11.6 5.5	僅かに凹面をなす底部から緩やかに立ち上がり、直立気味に尖る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 糸切り後底部周辺 ヘラ調整	砂粒含む	にぶい橙 良好	ほぼ完形
0485 S B 086 ●	杯 須恵器	3.7 (11.5) 5.2	中央より器厚を増す底部から、立ち上がり丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 静止糸切り 糸切り後底部周辺ヘラ調整 胴部 外面 ロクロ目痕	少量の砂粒含む	外面 灰白 内面 橙	良好 口縁～底部以残存
0486 S B 086 ●	高台杯 須恵器	5.2 14.0 7.2	低い高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、肥厚して丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面・内面 ナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～高台部以残存
0487 S B 086 ●	足高碗 須恵器	5.8 14.0 6.7	外反する高台を貼付する底部は器肉が薄く、腰部で器厚を増して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ目痕 (小石の痕が沈線状に見える)	赤褐色粒・多量に含む 軽石	にぶい黄橙 良好	口縁部以残存
0488 S B 086 ●	高台杯 須恵器	— (14.1) —	高台の欠損する底部は、強く内湾して立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	高台部 高台脱落 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ナデ	赤褐色粒	にぶい橙 良好	口縁～体部以残存
0489 S B 086 ●	碗 須恵器	— (14.0) —	口縁部は強く外反し、丸く肥厚して終る。	口縁部 横ナデ	赤褐色粒・軽石・砂粒	にぶい橙 良好	口縁部以残存
0490 S B 086 ●	足高碗 須恵器	— — 7.1	直線的に外に張る高台を貼付する底部は、屈曲して立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 内面 ナデ 胴部 ロクロ目痕	細砂を含む	灰白 良好	底部残存
0491 S B 086 ●	高台杯 須恵器	— — 7.7	やや粗雑だがしっかりした高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ロクロ目痕	赤褐色粒含む	にぶい褐 良好	体部～底部にかけて残存
0492 S B 086 ●	丸 甕 土師器	— — ( 3.5)	小さい平底の底部から、やや内湾気味に緩やかに立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	砂粒含む	浅黄橙 良好	底部以残存
0493 S B 086 ●	長 甕 土師器	— — ( 3.7)	小さい平底から、直線的に立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	1mmの砂粒を含む	橙 良好	底部完形
0494 S B 086 ●	丸 甕 土師器	— (21.0) —	緩やかに内湾して立ち上がり、短く外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ハケナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土・1mmの砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁～胴部以残存 須恵質
0495 S B 086 ●	長 甕 土師器	— (20.8) —	丸みのある胴部から、コの字状の口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁部以 体部小片
0496 S B 086 ○	長 甕 土師器	— (20.6) —	張りのある胴部から、強く外反するコの字状の口縁部に到る。	胴部 外面 横ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部以残存
0497 S B 087 ●	碗 須恵器	4.8 12.9 6.1	僅かに凹面をなす底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、強く外反する口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部以欠損

## 1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0498 S B 087 ●	高台杯 須恵器	5.1 13.6 6.9	短くやや粗雑な高台を貼付する底部は、厚くしっかりし緩やかに立ち上がり、丸く終る口縁部。	高台部 付高台 底部 外面 糸切り後ナデ 胴部 外面・内面 回転ナデ	細砂を含む	淡黄 良好	口縁一部欠損
0499 S B 087 ●	高台杯 須恵器	5.65 (13.3) (7.0)	低い粗雑な高台を貼付する底部は、直線的に立ち上がり口縁に到る。	底部 外面 切り離し後ナデ 外面 ロクロ目痕 底部・胴部 内面 ナデ	赤褐色粒・砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	1/2残存
0500 S B 087 ●	高台杯 須恵器	— 12.5 —	高台を貼付する底部は、屈曲して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ	小石・砂粒含む	にぶい黄橙 良好	高台部半分欠損、ほぼ完形
0501 S B 087 ●	碗 須恵器	— (12.2) —	緩やかに内湾する胴部は、肥厚して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	灰白 良好	口縁部1/2残存
0502 S B 087 ●	高台杯 須恵器	— — 9.2	外反する丁寧な高台を貼付する底部は、屈曲して立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 ナデ 内面 ロクロ目痕	細砂を含む	灰白 良好 硬質	底部残存
0503 S B 087 ●	長 甕 土師器	— 21.0 —	胴部は僅かに丸味を持ち、短く外反するくの字状口縁。	胴部 外面 ヘラケズリ後ナデ 内面 ナデ 口縁部 外面 指オサエ後横ナデ	軽石を含む	黒褐 良好	口縁部1/2 体部小片 須恵質
0504 S B 087 ●	長 甕 土師器	— (22.0) —	僅かに丸味を持つ胴部から、コの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁～胴部 1/2残存
0505 S B 088 ○	碗 土師器	— (13.3) —	胴部は僅かな内湾傾向を持ち、尖り気味の口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0506 S B 088 ○	皿 須恵器	1.9 12.6 6.6	凹凸面を持つ底部から、緩やかに内湾して立ち上がり胴部は直線的に外方へ開き口縁部は強く外反。	底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ目痕 胴部 ロクロ目痕	小石を含む	灰 良好	口縁～底部 1/2残存
0507 S B 088 ○	蓋 須恵器	— — —	口径が蓋内面のかえりに比較して大きいと考えられる。	体部 外面 ナデ 内面 ナデ	細砂含む	灰白 良好	小破片 裏側にかえりがある
0508 S B 088 ●	丸 甕 土師器	— 16.3 —	やや張りのある胴部から、緩やかに外反するコの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	軽石を含む	にぶい赤褐 良好	口縁～体部 1/2残存
0509 S B 088 ●	長 甕 土師器	— 20.0 —	器内の薄いコの字状の口縁部で、端部が尖る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	赤褐色土を含む	赤 良好	口縁部1/2残存
0510 S B 088 ●	長 甕 土師器	— (19.6) —	器肉が薄丸味のある胴部から、緩やかに外反するコの字状口縁部。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒 砂粒を含む	赤橙 良好	口縁部1/2、 胴部小片残存
0511 S B 088 ●	長 甕 土師器	— (24.0) —	丸味のある胴部から、くの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	軽石・細砂を含む	明赤褐 良好	口縁部1/2残存
0512 S B 089 ○	瓶 須恵器	— (27.2) —	頸部先端に縁帯が巡る。縁帯上端部は厚みがあり、下端部は薄い。	頸部 内外面 ロクロ回転ナデ 口縁部 横ナデ	小石を含む	オリーブ灰 良好	口縁部1/2残存
0513 S B 090 ●	杯 須恵器	3.2 13.7 9.0	しっかりした底部から腰部に絞り込みを持ちながら強く内湾して立ち上がる。底部外面に×印あり。	底部 外面 回転ヘラ調整 内面 ロクロ目不明瞭 胴部 ロクロ目不明瞭	長石・小石を含む	灰白 良好	口縁部1/2欠損、 内外面鉄分付着
0514 S B 090 ●	碗 須恵器	3.7 12.1 6.0	一定した器厚の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、素直に口縁部に到る。	底部 外面 糸切り後ナデ 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	軽石を含む	橙 良好	口縁部1/2欠損
0515 S B 090 ○	高台杯 須恵器	— (12.7) —	内湾して立ち上がり、僅かに外反して丸く肥厚する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	浅黄橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0516 S B 090 ○	長 甕 土師器	— (19.2) —	丸味のある胴部から、外反した端部に沈線を持つくの字状口縁。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 指オサエ後横ナデ	赤褐色土粒 砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部1/2残存 須恵質
0517 S B 091 ○	碗 土師器	— (16.2) (10.5)	薄い丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	内面 ナデ 底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	軽石・砂粒を含む	橙 良好	口縁～底部 1/2残存

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0518 S B 091 ●	椀 須恵器	3.3 (11.7) ( 5.6)	肥厚する底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、胴部は直線的に開き、口縁部は僅かに外反する。	底部 外面 回転糸切り 内面 ロクロ目不明瞭 胴部 ロクロ目不明瞭	長石・小石を多量に含む	青灰 良好	口縁～底部 %残存
0519 S B 091 ●	長 甕 土師器	— (19.0) —	僅かに肩部を持つ丸味のある胴部から、コの字状の口縁部に致り、端部で短く立ち上がる。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土を含む	橙 良好	口縁～胴部 %残存
0520 S B 091 ●	長 甕 土師器	— (19.5) —	丸味のある胴部から、コの字状の口縁部に到り、端部に沈線を巡る。	胴部 外面 下半縦ヘラケズリ 上半横ヘラケズリ 内面 ナデ	細砂を含む	明赤褐色 良好	口縁～底部 中位%残存
0521 S B 091 ○	丸 甕 土師器	— — —	台部を持つ底部は内湾して立ち上がり、胴部は球形を呈す。	台部 横ナデ 胴部 外面 横ナデ 内面 ナデ	1mmの砂粒を含む	にぶい赤褐色 良好	台部～胴部 小片
0522 S B 091 ●	丸 甕 土師器	— (12.9) —	球状形の器内の薄い胴部は、コの字状をし、端部で短く外反する口縁部に到る。	胴部 外面 下半縦ヘラケズリ 上半横ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	赤褐色土粒砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部%残存
0523 S B 091 ●	長 甕 土師器	28.2 (22.0) 4.4	平底の小さい底部から、胴部上位に僅かな張りをもち、くの字状の口縁部に到る。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ	細砂を多量に含む	赤褐色 良好	胴部～底部 外面煤附着
0524 S B 092 ●	椀 土師器	3.4 12.3 —	扁平な丸底の底部から、屈曲気味に立ち上がり、短く内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 内面 ナデ	黒雲母・軽石・赤褐色粒・砂粒	橙 良好	ほぼ完形
0525 S B 092 ●	椀 土師器	3.4 12.8 —	扁平な丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	ほぼ完形
0526 S B 092 ●	椀 土師器	3.5 12.6 —	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 %残存
0527 S B 092 ●	杯 須恵器	3.5 (13.0) ( 7.2)	底部に一定した器厚をもち屈曲気味に強く内湾して立ち上がる、胴部外面に凹凸をもつ。	底部 外面 回転ヘラ削り調整 内面 ロクロ目痕 胴部 ロクロ目不明瞭	長石を含む	緑灰 良好	口縁～底部 %残存
0528 S B 092 ○	高台杯 須恵器	5.2 (12.2) ( 7.2)	直線的に外に張り出す高台を貼付する底部は、屈曲して立ち上がり直線的に口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁～底部 の一部残存
0529 S B 092 ●	椀 土師器	3.9 12.7 —	扁平な丸底の底部は、屈曲気味に内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	黒雲母・砂粒含む	橙 良好	ほぼ完形
0530 S B 092 ●	椀 土師器	3.5 13.8 —	丸底の底部は、外面に僅かな段を持って立ち上がり、端部で内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	軽石・砂粒	橙 良好	ほぼ完形 灯明皿に使 か
0531 S B 092 ●	椀 土師器	4.0 14.3 —	丸底の底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 内面 金属棒状ミガキ 外面 ヘラケズリ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 %残存
0532 S B 092 ○	蓋 須恵器	1.8 (16.0) —	緩やかに開いた天井部から、短い口縁端部に到る。	体部 外面 回転ヘラ切り 内面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	長石を含む	灰白 良好	少片の為、 傾きと径は 確認難しい
0533 S B 092 ○	蓋 須恵器	( 2.6) (11.2) —	張りのある肩部から、やや直立気味に口縁部へ折れる。	肩部 内外面 横ナデ 体部 内外面ロクロによるナデ 口縁部 横ナデ	細砂を含む	暗緑灰 良好	口縁～肩部 %残存 短頸壺の蓋
0534 S B 092 ○	椀 土師器	— (15.7) —	丸底の底部から内湾して立ち上がり、僅かに内傾する口縁部に到る。	底部 ヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 内面 ナデ	細砂粒・砂粒含む	外面にぶい橙 内面明赤褐	完形
0535 S B 092 ●	椀 土師器	4.4 14.3 —	丸底の底部から、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	黒雲母・軽石・赤褐色粒・砂粒	橙 良好	口縁～底部 %残存
0536 S B 092 ●	椀 土師器	— (11.5) —	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、直立する薄い口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	石英・2mm大の石含む	橙 良好	口縁～底部 %残存
0537 S B 092 ●	椀 土師器	— (12.0) —	丸底と思われる底部から、内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	胴部 外面 指オサエ後ナデ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を含む	橙 良好	口縁～体部 %残存

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特 徴	成 形・調整の特 徴	胎 土	色 調・焼 成	備 考
0538 S B 092 ●	丸 甕 土師器	— ( 9.0) —	台部は、ハの字状に開く。	台部 横ナデ 底部 外面 横ナデ	赤褐色土粒 砂粒を多量 に含む	橙 良好	高台部が残 存
0539 S B 092 ○	長 甕 土師器	— (24.0) —	くの字状口縁部は、緩やかに外反する。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒 砂粒を多量 に含む	橙 良好	口縁部が残 存
0540 S B 093 ○	椀 土師器	( 3.3) (12.0) —	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整	砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 約が残存
0541 S B 093 ○	蓋 須恵器	— 20.4 —	胴部は外方へ大きく開き、直に折れる口縁部に到る。	胴部 外面 回転のナデ 内面 回転のナデ 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰白 良好	口縁～胴部 が残存
0542 S B 093 ○	高台杯 須恵器	— ( 8.6) —	直線的に外に張る端部の丸い丁寧な高台を貼付する底部はやや強く屈曲して立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整 内面 ロクロ目不明瞭	細砂を含む	にぶい黄橙 良好 硬質	底部が残存
0543 S B 093 ○	高台杯 須恵器	— ( 9.3) —	丁寧な高台を貼付する。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整 内面 ロクロ目不明瞭	長石を含む	灰 良好 硬質	外面、自然 釉付着 底部が残存
0544 S B 094 ●	椀 土師器	3.3 12.5 —	丸底の底部から、強く内湾して立ち上がり、端部で僅かに内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 内面 ナデ	細砂を含む	橙 良好	口縁～底部 が残存
0545 S B 094 ●	椀 土師器	3.1 (12.8) —	扁平な底部は、腰部で強く張りを持って、端部で短く外反する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 が残存
0546 S B 094 ●	椀 土師器	3.5 12.7 —	凹凸を持つ丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 部分的に指頭痕の こす 胴部 外面 無調整	細砂を含む	淡橙 良好	完形
0547 S B 094 ●	椀 土師器	3.7 12.2 —	丸底の底部から、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、直立して尖る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	細砂を含む	淡橙 良好	ほぼ完形
0548 S B 094 ●	椀 土師器	3.5 11.7 —	丸底の底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 指ナデ 胴部 外面 無調整	細砂を含む	橙 良好	完形
0549 S B 094 ●	椀 土師器	3.1 12.3 —	凹凸を持つ丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、短く内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 内面 ナデ	細砂を含む	にぶい橙 良好	完形
0550 S B 094 ●	椀 土師器	3.3 12.0 —	丸底の底部から、強く内湾して立ち上がり、短く内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 指ナデ	細砂を含む	淡赤橙 良好	口縁部が欠 損
0551 S B 094 ●	椀 土師器	3.4 (12.5) —	扁平な丸底の底部から、強く内湾して立ち上がり、内傾気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整	細かい赤褐 色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 が残存
0552 S B 094 ●	椀 土師器	3.4 12.6 —	一定した器厚の丸底の底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、端部で尖る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	細粒を含む	にぶい橙 良好	口縁部一部 欠損
0553 S B 094 ●	椀 土師器	3.1 12.7 —	丸底の底部は強く内湾して立ち上がり、内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	細砂を含む	にぶい橙 良好	完形
0554 S B 094 ○	蓋 須恵器	— ( 5.0) —	環状つまみで、中央部がへこんでいる。	つまみ 横ナデ	軽石砂粒・ 細砂を含む	灰 良好	つまみ部の み残存 つまみ(環状)
0555 S B 094 ●	蓋 須恵器	( 2.8) 17.0 —	環状つまみを貼付する天井部は、緩やかに開き、短く直に折れる口縁部に到る。	天井部 ナデ 体部 外面 回転によるナデ 内面 回転によるナデ	細砂を含む	灰白 良好	環状つまみ 頭頂部が低 い
0556 S B 094 ●	蓋 須恵器	2.8 (15.9) ( 4.5)	環状つまみを貼付する天井部は、緩やかに開き、短く直に折れる。口縁部に到る。	天井部 ナデ 体部 外面 回転ヘラケズリ 内面 横ナデ	細砂を含む	灰白 良好	口縁～天井 が残存 内 面鉄分付着
0557 S B 094 ●	蓋 須恵器	— (20.0) —	体部は外方へ大きく開き、直に折れる口縁部に到る。	体部 外面 横方向回転ナデ 内面 横方向回転ナデ 口縁部 横ナデ	軽石砂粒・ 小石を含む	灰白 良好	口縁～体部 が残存

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0558 S B 094 ○ 須恵器	蓋	— (16.5)	平たい体部から、直に折れる口縁部に到る。	体部 横方向回転ナデ 口縁部 横方向回転ナデ	軽石砂粒・小石を含む	灰白 良好	少片の為、傾き定かでない
0559 S B 094 ● 須恵器	椀	3.6 13.7 7.2	肥厚する底部から、緩やかに屈曲して立ち上がり、内湾傾向をつづけながら口縁に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ロクロ目の横ナデ	長石・小石を含む	灰白 良好	完形 糸切りははっきりしている
0560 S B 094 ● 須恵器	杯	3.4 13.2 8.0	厚く、しっかりした底部から、緩やかに内湾して立ち上がり外方へ開く。	底部 外面 回転糸切り後、周 辺手持ちヘラ削り調整 胴部 ロクロ目痕	細砂を含む	灰白 良好	1/2残存
0561 S B 094 ○ 須恵器	杯	3.7 10.7 6.5	ほぼ一定した器厚の底部から緩やかに内湾して立ち上がり口縁に到る。	底部 外面 回転ヘラ調整 内面 ロクロ目痕 胴部 ロクロ目痕	細砂を含む	灰白 良好	完形
0562 S B 094 ● 須恵器	瓶	— (26.2)	頸部の先端に縁帯が巡り、上端部は上方に高く延びて、下端部近くに浅い沈線が巡る。	頸部 外面 ロクロ成形横ナデ 内面 ロクロ成形横ナデ 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰白 良好	口縁部1/2残存
0563 S B 094 ○ 須恵器	小型甕	— (18.6)	頸部の先端に縁帯が巡り、薄手の土器である。	頸部 内外面 横方向ナデ 口縁部 横ナデ	細砂を含む	明オリブ灰 良好	口縁部1/2残存
0564 S B 094 ● 須恵器	長頸瓶	— 12.1 6.2	肩部は強く張り、最大幅を胴上位に持ちながら、すぼまる。	底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ成形 胴部 外面 横方向ナデ	細砂を含む	灰白 良好	指紋の跡あり。小型瓶
0565 S B 094 ○ 須恵器	盤	— (16.0)	外反する丁寧な高台を貼付する底部は腰部に張りを持って、やや強く屈曲して立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 胴部 ロクロ目不明瞭	長石・細砂を含む	青灰 良好	体部欠損
0566 S B 094 ● 土師器	丸甕	13.7 14.3 6.9	丸底気味の底部から、球形を呈する胴部に到り、口縁部はくの字状に外反する。	底部 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ナデ	細砂を含む	淡赤橙 良好	ほぼ完形
0567 S B 094 ○ 土師器	長甕	— (17.1)	やや丸味を持つ胴部は、くの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ナデ	細砂を含む	橙 良好	口縁～胴上半 1/2残存
0568 S B 094 ● 土師器	長甕	— (19.0)	僅かに丸味のある胴部は、くの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 横方向ナデ 口縁部 横ナデ	細砂を含む	にぶい橙 良好	口縁～胴上半 1/2残存
0569 S B 095 ● 土師器	椀	3.4 (14.2)	器肉の薄い丸底は、強く内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色色粒・黒雲母・砂粒	橙 良好	1/2残存
0570 S B 096 ○ 須恵器	椀	— (10.2)	丸底気味の底部は、段を持って立ち上がり、外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 横ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	灰褐 良好	底部欠損
0571 S B 096 ● 須恵器	椀	2.7 (9.0) 4.6	厚くしっかりした底部から、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り(右) 胴部 外面 横ナデ 内面 横ナデ	赤褐色色粒・砂粒含む	明褐灰 良好	底部完形他は1/2残存
0572 S B 096 ○ 須恵器	椀	— (10.2)	緩やかに立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 沈線状のロクロ目痕 口縁部 横ナデ	赤褐色色粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部1/2残存
0573 S B 096 ○ 須恵器	椀	— (9.2)	緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する薄い口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～体部1/2残存
0574 S B 096 ○ 須恵器	椀	— (8.2)	緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部1/2残存
0575 S B 096 ○ 土師器	甕	— 9.6	平底の器肉の厚い底部は、直線的に立ち上がる。	胴部 ヘラケズリ	小石を多量に含む	にぶい黄橙 良好	底部1/2残存 須恵質
0576 S B 096 ○ 須恵器	羽釜	— (9.5)	しっかりした底部から、肥厚して立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 横位ヘラケズリ 内面 ナデ	軽石・赤褐色粘土粒	橙 良好	底部小片 甕
0577 S B 098 ● 土師器	椀	— (14.8)	丸底の底部は強く内湾して立ち上がり、端部で内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	赤褐色色粒含む	にぶい橙 良好	底部内面、凹凸している

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0578 S B 098 ●	碗 土師器	( 4.5) (16.4) —	丸底気味の底部は、内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 胴部 ヘラケズリ後ヘラナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 1/2残存
0579 S B 098 ○	碗 土師器	( 3.6) 12.2 —	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒・ 砂粒含む	橙 良好	口縁1/2残存
0580 S B 098 ●	碗 土師器	3.5 12.8 —	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、端部で内傾する口縁部に到る。	内面 指ナデ 底部 外面 手持ちヘラケズリ 外面 指オサエ後指ナデ	細赤褐色粒 含む	橙 良好	完形
0581 S B 098 ●	碗 土師器	3.2 12.9 —	丸底の底部は、内湾して立ち上がり、端部で内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラ削り 胴部 外面 指オサエ後ナデ	白色砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 1/2残存
0582 S B 098 ●	杯 須恵器	3.1 14.0 8.4	中央より器厚を増す底部から緩やかに内湾して立ち上がり外方へ開き口縁で少し内湾する。	底部 外面 回転糸切り、周辺 手持ちヘラケズリ 胴部 ロクロ目不明瞭	細砂を含む	明緑灰 良好	ほぼ完形 内外面鉄分 付着
0583 S B 098 ●	杯 須恵器	3.1 13.1 7.6	厚く一定した底部から僅かに内湾して立ち上がり胴部上半は直線的に開き口縁部で少し内湾する。	底部 回転糸切り後周辺手持ち ヘラケズリ 胴部 ロクロ目痕	小石を含む	灰白 良好	完形 外面鉄分付 着
0584 S B 098 ○	碗 須恵器	( 3.8) (11.5) ( 6.0)	肥厚する底部から強く屈曲して立ち上がり、胴部上半まで内湾傾向を保ち口縁部で外反する。	底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ目不明瞭 胴部 ロクロ目痕	細砂を含む	灰 良好	口縁～底部 1/2残存
0585 S B 099 ○	蓋 須恵器	( 3.0) 13.2 —	肩部は張りを持ち、直線的に折れる口縁部に到る。	肩部 横方向ナデ 体部 内外面 横方向ナデ 口縁部 横ナデ	細砂含む	青灰 良好	口縁～肩部 1/2残存 短頸壺の蓋
0586 S B 099 ●	高台杯 須恵器	4.9 12.8 6.2	低い高台を貼付する、底部は緩やかに内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	軽石・白色 石を含む	灰白 良好	完形 口縁ゆがん でいる
0587 S B 099 ●	長 甕 土師器	— (17.4) —	胴部は僅かに丸味を持ち、ややくの字状の口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ←↓ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土 粒・軽石	外面褐灰 内面橙	良好 口縁～体部 1/2残存 須恵質
0588 S B 099 ●	長 甕 土師器	— (22.4) —	口縁部は緩やかに、くの字状に外反する。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土を 含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 須恵質
0589 S B 099 ●	長 甕 土師器	— (21.1) —	丸味のある胴部から、くの字状の口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ←↓ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	軽石含む	淡橙 良好	口縁～胴部 上半を残す 須恵質
0590 S B 099 ●	長 甕 土師器	— (22.0) —	僅かに丸味のある胴部から、くの字状の口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ハケナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土 粒・軽石	浅黄橙 良好	口縁～胴部 1/2残存
0591 S B 101 ●	杯 土師器	— (14.0) —	僅かに内湾する胴部は、丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐 色粒・砂粒 を含む	にぶい橙 良好	底部欠損
0592 S B 101 ○	長頸瓶 須恵器	— — (12.5)	しっかりした高台から、直線的に立ち上がる。	高台部 付高台 胴部 外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	長石・赤褐 色粘土粒を 含む	緑灰 良好	底部 1/2残存 中型瓶
0593 S B 101 ○	碗 灰釉	— — ( 7.9)	三日月高台を貼付する底部から、直線的に立ち上がる胴部。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 切り離し技法不明 のちナデ消し	精選された 胎土	灰 良好	底部1/2残存 漬け掛け 重ね焼き痕
0594 S B 101 ○	碗 須恵器	— (15.4) —	内湾傾向を持つ胴部は、僅かに外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ロクロ成形 口縁部 横ナデ	細砂を含む	明オリブ灰 良好	口縁部1/2残 存
0595 S B 101 ●	高台杯 須恵器	— — —	高台の欠損する厚い底部は、屈曲して立ち上がる。	高台部 剥落 底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	細砂を含む	灰白 良好	底部残存
0596 S B 102 ●	碗 土師器	3.5 (12.3) —	平底気味の底部は、強く内湾して立ち上がり、端部で僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	完形
0597 S B 102 ●	碗 須恵器	— — ( 6.6)	一定した器厚の底部から胴部は、緩やかに立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒・ 砂粒含む	橙 良好	底部のみ完 形

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0598 S B 102 ○	丸甕 土師器	— (13.6) —	やや丸味を持つ胴部から、コの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を含む	橙 良好	口縁部 1/4残存
0599 S B 102 ●	長甕 土師器	— (20.2) —	器肉の薄い胴部から、コの字状口縁部に到る。端部外面に沈線巡る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒砂量を多量に含む	橙 良好	口縁部1/4残存
0600 S B 103 ●	碗 須恵器	— 13.8 —	一定した器厚の胴部から強く外反する口縁部に到る。口縁部は丸く終る。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	軽石・砂粒を含む	灰白 良好	口縁部約1/2残存
0601 S B 103 ●	高台杯 須恵器	— — 6.8	短い高台を貼付する底部から、直線的に立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 回転によるナデ 内面 回転によるナデ	軽石を含む	外面黒褐 内面褐灰	良好 底部一休部 残存
0602 S B 103 ●	丸甕 土師器	— 11.4 —	丸味を持つ胴部から、緩やかなコの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒・軽石を含む	橙 良好	口縁部1/4残存
0603 S B 103 ●	長甕 土師器	— 19.1 —	口縁部は、くの字状を呈する。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 横方向ナデ 口縁部 横ナデ	小石・砂粒を含む	灰白 良好	口縁部残存
0604 S B 103 ●	長甕 土師器	— (18.0) —	丸味のある胴部は、緩やかに外反するコの字状の口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	暗赤褐 良好	口縁部1/4残存
0605 S B 103 ●	長甕 土師器	— 22.0 —	くの字状口縁部は、緩やかに外反する。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 横方向ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒・軽石を含む	浅黄橙 良好	口縁部1/4残存
0606 S B 103 ●	羽釜 須恵器	— 20.9 —	肩の張る胴部上方に、上向きの鑄を巡らせる。	外面 上方 横ナデ 下方 縦ヘラケズリ 内面 横方向の強いナデ	砂粒含む	淡褐色 良好	底部欠損 甕
0607 S B 104 ●	碗 土師器	3.4 12.2 —	中央部に凹みを持つ丸底気味の底部は、内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 内面 ナデ	砂粒含む	茶褐色 良好	完形
0608 S B 104 ●	碗 土師器	3.1 (12.8) —	扁平な丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 1/4欠損
0609 S B 104 ●	碗 土師器	3.5 (11.6) —	丸底気味の底部から強く屈曲して立ち上がり、端部で短く立つ口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁～休部 1/4残存
0610 S B 104 ○	碗 土師器	( 2.9) (14.0) —	丸底気味の底部は、屈曲気味に立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 棒状ヘラミガキ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部1/4残存
0611 S B 104 ○	碗 土師器	( 2.4) (13.0) —	扁平な丸底の底部から、屈曲気味に立ち上がり、端部で僅かに直立する口縁部に到る。	胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部1/4残存
0612 S B 104 ○	碗 土師器	( 5.7) (12.0) —	丸底の薄い底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 内面 丁寧なナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 1/4残存
0613 S B 104 ●	碗 須恵器	3.4 (12.4) 6.0	凹面をなす厚い底部から絞り込みを持ちながら強く内湾して立ち上がり、口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ目不明瞭 胴部 ロクロ目不明瞭	細砂を含む	青灰 良好	口縁～底部 1/4残存
0614 S B 104 ○	杯 須恵器	3.3 (12.4) ( 7.5)	全体に凹凸面を持ちながらも一定した器厚を保ち、強く内湾して立ち上がり口縁部まで内湾傾向保つ。	底部 外面 回転糸切り後、周縁回転ヘラ調整 胴部 ロクロ目痕	細砂を含む	青灰 良好	口縁～底部 1/4残存
0615 S B 104 ○	碗 須恵器	— — 6.5	底部外面に凹面を持ち、屈曲して立ち上がり凹凸をもちながら直線的に開く。	底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ目不明瞭 胴部 ロクロ目痕	小石を含む	灰白 良好	底部残存
0616 S B 104 ○	鉢 土師器	— (21.6) —	僅かに内湾傾向を持つ胴部は、尖り気味の口縁部に到る。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部小片
0617 S B 104 ●	長甕 土師器	— (21.9) —	器肉の薄いコの字状の口縁部で、端部が尖る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土を含む	赤褐 良好	口縁部1/4残存



1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0618 S B 104 ●	長 甕 土師器	— (22.4) —	丸味のある胴部から、コの字状の口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒 砂粒を多量 に含む	橙 良好	口縁部 残存
0619 S B 104 ○	碗 須恵器	— — ( 6.4)	凹面をなす底部は、内湾して立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り 内面 ヘラミガキ	軽石・黒雲 母・砂粒	橙 良好	底部残存 内黒土器
0620 S B 104 ●	長 甕 土師器	— — 4.8	平底の底部は、直線的に立ち上がる。器肉が薄い。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	1mmの砂粒 を含む	にぶい橙 良好	底部完形
0621 S B 105 ●	碗 須恵器	3.3 (11.2) —	僅かに凹面をなす底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、素直に口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 口縁部 横ナデ	石英を含む 赤褐色粒多 量に含む	にぶい橙 良好	残存
0622 S B 105 ○	碗 須恵器	— (10.8) —	やや直線的に立ち上がる胴部	胴部 外面 緩いロクロ目 内面 横方向のナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部残 存
0623 S B 105 ●	碗 須恵器	— — ( 7.7)	外面に凹面、内面に凸面を持つ厚い底部から緩やかに内湾して立ち上がり、胴部は直線的に開く。	底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ目痕 胴部 ロクロ目不明瞭	細砂を含む	明緑灰 良好	底部残存
0624 S B 105 ○	長 甕 土師器	12.5 12.85 6.3	平底の底部から、緩やかに立ち上がり、くの字状に外反する口縁部に到る。	底部 外面 ヘラナデ 胴部 外面 ヘラナデ 内面 ナデ	赤褐色土粒 砂粒を多量 に含む	橙 良好	口縁～底部 残存 須恵質
0625 S B 105 ●	長 甕 土師器	— (18.0) —	胴部は僅かに丸味を持ち、外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ←↓ 口縁部 横ナデ	細砂を含む	外面にぶい橙 内面灰白	良好 口縁～胴部 ～残存 須恵質
0626 S B 105 ●	皿 灰 釉	( 2.8) (13.1) ( 6.6)	丸く短い高台を貼付する底部は、緩やかに開いて立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 切り離し技法不明 胴部 下半 回転ヘラケズリ	精選された 胎土	灰白 良好	約残存 漬け掛け 重ね焼き痕
0627 S B 106 ●	碗 土師器	3.6 12.5 —	丸底の底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ	砂粒を含む	橙 良好	完形
0628 S B 106 ○	杯 須恵器	3.4 (13.3) ( 7.2)	底部は厚く、腰部は緩やかに屈曲して立ち上がり、直線的に開く、器厚は口縁に近づくにつれ減る。	底部 外面 回転ヘラ調整 内面 ロクロ目不明瞭 胴部 ロクロ目不明瞭	細砂を含む	灰白 良好	口縁～底部 残存
0629 S B 107 ●	高台杯 須恵器	5.2 13.8 6.4	低い高台を貼付する。底部は緩やかに立ち上がり、僅かに外反する丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目不明瞭	細砂を含む	灰白 良好	口縁～底部 残存
0630 S B 107 ●	足高碗 須恵器	5.7 (14.1) ( 6.5)	僅かに開く高台を貼付する底部は、内湾して立ち上がり、口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 内面 ロクロ目痕 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粘土 粒・軽石砂 粒を含む	淡橙 良好	残存 内外面、磨 減している
0631 S B 107 ●	碗 須恵器	3.5 (11.0) 4.7	厚くしっかりした底部は、やや強く屈曲して立ち上がり丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロによるナデ 内面 ロクロによるナデ	軽石を含む	明オリブ灰 良好	口縁～底部 残存
0632 S B 107 ●	碗 須恵器	— (13.5) —	胴部は、直線的に開き、内面に凹みを持って丸く終る口縁部に到る。	胴部 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	細砂を含む	緑灰 良好	口縁部残 存
0633 S B 107 ●	長 甕 土師器	— (21.6) —	コの字状口縁部は、直線的に立ち上がり、上部で強く外反する。	口縁部 下位 ヘラケズリ 上位 横ナデ	細砂を含む	赤橙 良好	口縁部残 存
0634 S B 107 ○	長 甕 土師器	— — ( 4.2)	小さい平底の底部から、直線的に立ち上がる。	底部 ヘラケズリ↓ 胴部 外面 ヘラケズリ	1mmの砂粒 を多量に含 む	橙 良好	底部～胴部 残存
0635 S B 108 ●	高台杯 須恵器	— — ( 8.6)	内湾気味の薄い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り 内面 ロクロ目不明瞭 胴部 ロクロ目不明瞭	長石を含む	灰白 良好	内外面に、 鉄分付着 底部残存
0636 S B 108 ●	長頸瓶 灰 釉	— ( 9.6) —	頸部は直線的に立ち上がり、口縁部で強く外反して縁帯を持つ。	頸部 内外面 緩やかなロクロ 目痕	精選された 胎土	黒褐 良好	口縁部少片
0637 S B 109 ●	羽 釜 須恵器	— (27.3) —	最大径が口縁にくる。鑄は緩くのろい。	口縁部 指頭痕、指ナデ	赤褐色・小 石を含む	淡橙 良好	口縁部残 存 甌

第III章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0638 S B 109 ●	羽釜 須恵器	— (26.4) —	口縁部は短く屈曲して丸める。 鐔は口縁部に近く低く丸い。	口縁部 巻き上げ成形 鐔に指オサエ 胴部 指ナデ	赤褐色・軽石を含む	にぶい橙 良好	口縁一部残存 甕
0639 S B 109 ●	羽釜 須恵器	— (30.2) —	鐔の部分で大きく屈曲し、すぼまる胴部になると考えられる。	口縁部 鐔は低く丸く指ナデ	赤褐色・小石・石英を含む	浅黄橙 良好	口縁一部残存 甕
0640 S B 109 ●	甕 土師器	— (10.0) —	器内の厚い底部から立ち上がる。	底部 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリへ、 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を多量に含む	にぶい褐 良好	底部に残存 須恵質
0641 S B 110 ○	椀 須恵器	— (12.4) —	僅かに内湾する胴部は、玉縁状の口縁に到る。	胴部 ロクロ目不明瞭	赤褐色粒・砂粒	赤灰 良好	口縁～体部 に残存 底部欠損
0642 S B 110 ●	椀 須恵器	— (15.6) —	僅かに内湾傾向を持つ胴部は、端部で短く外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を含む	灰褐 良好	口縁部に残存 底部欠損
0643 S B 110 ○	長甕 土師器	— (14.7) —	胴部は僅かに丸味を持ち、口縁部は端部で強く外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色・軽石を含む	にぶい赤褐 良好	口縁部に残存 須恵質
0644 S B 110 ○	長甕 土師器	— (25.0) —	丸味のある胴部から、くの字状の口縁部に到り、端部で立ち上がる。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色・軽石を含む	橙 良好	口縁部約に残存
0645 S B 110 ○	瓶 須恵器	— — —	丸味を持つ胴部は、緩やかに内湾して口縁部に到る。	胴部 外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	細砂を含む	灰 良好	体部少片 内面に指頭痕あり
0646 S B 111 ●	椀 須恵器	4.4 13.5 5.2	平底の底部は、緩やかに立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ目痕 胴部 ロクロ目痕	軽石・小石を含む	灰白 良好	底部～口縁 に残存
0647 S B 111 ○	椀 須恵器	— (13.6) —	胴部は直線的に開き、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 ロクロによる回転ナデ 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰白 良好	口縁部少片
0648 S B 111 ●	高台杯 須恵器	5.1 14.0 6.4	短い高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、肥厚して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 内外面 ロクロ目不明瞭	軽石を含む	灰白 良好	口縁～底部 に残存
0649 S B 111 ●	高台杯 須恵器	5.9 (12.9) 7.7	粗雑な高台を貼付する器内の厚い底部は、緩やかに立ち上がり、薄い口縁部に到る。	付高台 外面底部に糸切り痕、 残る 胴部 外面 ロクロ目不明瞭	軽石・赤褐色粘土粒を含む	にぶい橙 良好	完形
0650 S B 111 ●	丸甕 土師器	— 12.0 —	丸味を持つ胴部から、くの字状の口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒を含む	にぶい橙 良好	口縁部少片 須恵質
0651 S B 112 ●	高台杯 須恵器	( 5.9) (14.6) 8.9	外反する高台を貼付する底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	石英・小石 白色石を含む	橙 良好	口縁～底部 に残存
0652 S B 112 ●	高台杯 須恵器	( 6.7) 15.0 —	粗雑な高台を貼付する底部は強く内湾して立ち上がり、外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色色粒 軽石・小石を含む	にぶい褐 良好	口縁に欠損
0653 S B 112 ●	高台杯 須恵器	— 14.7 —	低い高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 糸切り後ナデ 内面 渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色・軽石・石英を含む	にぶい橙 やや良好 硬質	口縁～底部 に残存
0654 S B 112 ●	杯 須恵器	— — 5.4	厚くしっかりした底部から、立ち上がる。	底部 外面 静止糸切り	赤褐色・軽石・砂粒を含む	にぶい橙 良好	体部～底部 残存
0655 S B 113 ○	椀 土師器	( 2.8) (10.8) —	丸底の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、外反して尖る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 に残存
0656 S B 114 ○	椀 須恵器	— (11.4) —	緩やかに立ち上がる体部は、屈曲して、口縁部は外反する。口唇内面に一条の状線めぐる。	胴部 外面 荒いロクロ目痕 内面 丁寧なナデ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好	底部欠損
0657 S B 114 ○	椀 須恵器	— (13.0) —	開く胴部は外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	明黄褐 良好	口縁部に残存

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0658 S B 114 ○	高台杯 須恵器	5.7 (15.5) 7.0	短い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、外反して丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粘土粒	灰白 良好	底部、口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
0659 S B 114 ○	皿 灰釉	— (15.3) —	胴部は大きく外方へ開きながら立ち上がり、外反気味の口縁部に到る。	胴部 外面 回転ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰 良好	口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存 漬け掛け
0660 S B 114 ○	椀 灰釉	— (16.5) —	緩やかに外方へ開く胴部から、口縁部に到り、口唇部は折り返し気味に外反する。	胴部 ナデ 口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰白 良好	口縁部約 $\frac{1}{2}$ 残存、漬け掛け
0661 S B 114 ○	丸 甕 土師器	— 11.8 —	球形の胴部は、短く外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒を含む	にぶい橙 良好	口縁部残存
0662 S B 114 ○	長 甕 土師器	— (18.0) —	口縁部は、緩やかに外反し、端部に沈線が巡るくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土と1mmの砂粒を含む	浅黄橙 良好	口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存 須恵質
0663 S B 114 ○	長 甕 土師器	— 17.3 —	胴部は、器厚を増しながら、短く外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒・軽石含む	淡赤橙 良好	体部欠損 須恵質
0664 S B 114 ○	長 甕 土師器	— 18.8 —	僅かに丸味のある胴部は、くの字状の口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒・軽石含む	橙 良好	体部欠損 須恵質
0665 S B 114 ○	長 甕 土師器	— 22.1 —	くの字状の口縁部、端部で段を持つ。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒・軽石含む	橙 良好	体部欠損 須恵質
0666 S B 114 ○	長 甕 土師器	— (21.6) —	僅かに肩を持つ丸味のある胴部は、短く外反し、端部でやや尖るくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 外面下位指オサエ	赤褐色土粒砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁～体部 $\frac{1}{2}$ 残存 須恵質
0667 S B 114 ○	長 甕 土師器	— 4.8 —	小さい平底から、緩やかに立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	軽石・赤褐色粘土粒を含む	灰白 良好	底部～胴部小片残存
0668 S B 114 ○	長 甕 土師器	— 4.8 —	小さい底部から、緩やかに立ち上る。	底部 外面 砂底 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	赤褐色粘土粒・軽石・小石含む	にぶい橙 良好	胴部～底部 $\frac{1}{2}$ 残存
0669 S B 115 ○	蓋 須恵器	0.9 (14.8) —	天井部は扁平で、口縁端部は短く直に折れる。	天井部 外面 回転ヘラケズリ 体部 外面 回転のナデ 内面 回転のナデ	細砂を含む	灰白 良好	口縁～天井部、 $\frac{1}{2}$ 残存
0670 S B 115 ○	杯 須恵器	3.4 13.8 7.4	凹面を持つ厚い底部から緩やかに内湾して立ち上がり口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り後周辺ヘラケズリ調整 口縁部 横ナデ	長石・軽石砂粒を含む	灰白 良好	外面鉄分付着
0671 S B 115 ●	長 甕 土師器	— 20.2 —	コの字状の口縁部は、緩やかに外反する。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒・軽石を含む	赤 良好	口縁部のみ残存
0672 S B 116 ○	鉢 須恵器	— (18.0) —	直線的な胴部は、端部で僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ロクロ成形のナデ 口縁部 横ナデ	小石・砂粒含む	橙 良好	外面 鉄分付着
0673 S B 116 ●	盤 須恵器	3.8 (19.1) (14.6)	付高台の底部から、腰部に張りを持って屈曲して立ち上がり、口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 胴部 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	細砂を含む	青灰 良好	口縁～底部少片
0674 S B 116 ●	長 甕 土師器	— 25.4 —	やや直線的に立ち上がる胴部から、短く強く外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土・小石を含む	にぶい赤褐 良好	口縁部 $\frac{1}{2}$ 胴部上半残存 須恵質
0675 S B 117 ●	椀 土師器	( 3.1) (12.2) —	丸底気味の底部は、屈曲して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁部のみ $\frac{1}{2}$ 残存
0676 S B 117 ●	椀 須恵器	3.3 10.4 4.8	一定した器厚の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反し丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り	細砂を含む	灰白 良好	完形ゆがみあり
0677 S B 117 ●	高台杯 須恵器	4.6 11.7 6.5	低い高台を貼付する底部は、強く内湾して立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部が到る。	高台部 付高台 底部 内面 左渦文 口縁部 球線状	軽石・赤褐色粒を含む	赤 良好	底部 $\frac{1}{2}$ 欠損ほぼ完形

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0678 S B 117 ○	高台杯 須恵器	4.9 12.0 (6.3)	低い高台を貼付する底部は、屈曲して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 回転糸切り後ナデ 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰白 良好	口縁～底部 1/2残存
0679 S B 117 ●	長 甕 土師器	— (13.0)	緩やかに内湾して立ち上がる胴部から、口縁部で短く外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 須恵質
0680 S B 117 ●	丸 甕 土師器	— (16.4)	丸味を帯びた胴部から、短く外傾する。くの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒・軽石を含む	黒褐 良好 (軟質)	口縁部1/4 胴部小片 須恵質
0681 S B 118 ●	碗 土師器	(2.6) (11.4)	丸底の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、外反して尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	軽石・砂粒含む	明褐灰 良好	口縁部1/4 体部
0682 S B 118 ●	碗 土師器	3.2 (13.0)	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、端部で短く内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 1/2残存
0683 S B 118 ●	碗 土師器	(3.8) (16.8) (10.2)	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	口縁～底部 1/2残存
0684 S B 118 ●	碗 須恵器	— (13.5)	直線的に開く器内の厚い底部は素直に丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ明瞭 口縁部 横ナデ	長石・細砂を含む	灰 良好	口縁部1/4 残存
0685 S B 118 ●	碗 須恵器	— (13.2)	胴部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰白 良好	口縁部1/4 残存
0686 S B 118 ●	杯 須恵器	— (12.8) (9.2)	中央より器厚を増す大きい底部は屈曲して立ち上がり、直線的に、口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラ調整 胴部 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	小石・細砂を含む	灰 良好	口縁～底部 1/2残存
0687 S B 118 ●	杯 須恵器	3.9 14.0 7.5	底部は厚く、強く内湾して立ち上がり、直線的に開く。	底部 外面 手持ちヘラ調整 内面 ロクロ目不明瞭 胴部 ロクロ目不明瞭	長石・小石を含む	灰白(内) 灰(外)	良好 外面(黒煙) 完形
0688 S B 118 ●	長 甕 土師器	— (21.0)	くの字状口縁部は緩やかに外反し、端部はやや立ち上がる。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	2mmの砂粒を含む	橙 良好	口縁部1/4 残存
0689 S B 118 ●	長 甕 土師器	— (19.6)	口縁部は、くの字状に外反する。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒砂粒を含む	橙 良好	口縁部小片
0690 S B 118 ●	長 甕 土師器	— (18.0)	器内の薄い丸味を帯びた胴部から、くの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を含む	橙 良好	口縁部1/4 残存
0691 S B 118 ○	長 甕 土師器	— (18.3)	直線的に立ち上がる胴部から、強く外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部1/4 残存
0692 S B 118 ●	丸 甕 土師器	— (13.8)	外反するくの字口縁部は、端部で器肉が薄くなり尖る。	口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を含む	にぶい赤褐 良好	口縁部1/4 残存
0693 S B 118 ●	長 甕 土師器	— (22.8)	丸みのある胴部から、緩やかに外反するコの字状口縁部。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒砂粒を含む	橙 良好	口縁～胴部 1/2残存
0694 S B 118 ●	甕 須恵器	— (70.0)	肩部が緩やかで長胴の甕。	胴部 外面 平行タタキ目 内面 青海波の当て目痕	長石・小石を含む	灰 硬質	胴部少片
0695 S B 118 ●	長頸瓶 須恵器	— 14.9	一定な器厚の底部は、短く直線的に外反する高台を貼付し立ち上がる。	高台部 付高台 胴部 外面 ヘラケズリ→ 内面 横方向ナデ	長石・小石を含む	灰白 良好	底部1/4残存 内外面鉄分 付着。大型瓶
0696 S B 119 ●	碗 土師器	— (12.0)	緩やかに内湾する胴部から、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ成形のナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁部のみ 1/4残存
0697 S B 119 ○	碗 須恵器	— (12.8)	僅かな内湾傾向を持つ胴部から、外反気味の口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	浅黄 良好	底部欠損

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0698 S B 121 ●	杯 須恵器	( 2.9) (14.8) ( 9.9)	一定した器厚を保ち、緩やかに立ち上がる胴部は直線的に外方へ開き口縁部は肥厚する。	底部 外面 回転ヘラ調整 胴部 内面 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	長石を含む 白色柱状物質を含む	灰 良好	口縁部のみ 残存
0699 S B 121 ○	碗 須恵器	— (15.2) —	僅やかな内湾傾向を持つ胴部は、外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 下端高台接合時の 横ナデ他ロクロ目 不明瞭	細砂を含む	灰白 良好	底部欠損
0700 S B 121 ●	杯 須恵器	— — 9.4	厚くしっかりした大きい底部は、弱いしめを行って立ち上がる。	底部 外面 右回転ヘラ調整 内面 ロクロ目痕	小石を含む	灰白 良好	内外面鉄分 付着、内外 面なめらか
0701 S B 121 ●	杯 須恵器	— — 8.2	底部は、平底で大きい。	底部 外面 左回転ヘラ調整 内面 ロクロ目不明瞭	赤褐色粘土 粒を含む	灰白 良好	底部残存
0702 S B 123 ○	碗 土師器	( 3.3) (12.4) —	丸底の底部は、腰部に張りを持って屈曲して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を含む	明褐色 良好	口縁～底部 残存
0703 S B 123 ○	碗 土師器	— (12.5) —	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁部残 存
0704 S B 123 ○	丸 甕 土師器	— — ( 8.4)	台部は円錐形を呈し、上半は緩やかに下半では大きく外方へ開く。	台部 横ナデ 底部 内外面 ナデ	赤褐色土を 含む	にぶい橙 良好	台部残存
0705 S B 124 ●	足高碗 須恵器	— (11.1) —	高台を貼付する底部は、強く内湾して立ち上がり、肥厚して丸く終る口縁部に到る。	高台部 剥落 底部 内面 左渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒・ 砂粒を含む	橙 良好	口縁～体部 残存
0706 S B 124 ●	足高碗 須恵器	— — 8.6	直線的に強く張り出す高い高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り	赤褐色土・ 砂粒含む	にぶい橙 良好	高台部のみ
0707 S B 124 ●	羽釜 須恵器	— 25.0 —	やや内湾する胴部は、断面三角形の鋸部を貼付する。口唇部は平坦。	胴部 外面 ヘラケズリ↑↓ 内面 ナデ 口縁部 棒状工具による横ナデ	赤褐色土を 多量に含む	橙 良好	口縁部欠 損、胴部残 存 甕
0708 S B 124 ●	羽釜 須恵器	— — 10.5	平底の底部は、屈曲して直線的に立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 胴部 外面 ヘラケズリ	5 mm以下の 赤褐色土・ 砂粒多量含む	明赤褐 良好	胴部～底部 残存 甕
0709 S B 125 ○	碗 土師器	— (13.8) —	丸底気味の底部は、屈曲気味に立ち上がり、端部で短く立つ口縁部に到る。	胴部 内外面ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	底部欠損
0710 S B 126 ○	杯 土師器	4.5 (12.0) (5.4)	丸底気味の底部は、緩やかに立ち上がり、薄くなる口縁部に到る。	底部 外面 砂底 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	灰白 良好	口縁～底部 残存
0711 S B 126 ○	碗 須恵器	— (13.3) —	僅かに内湾傾向を持つ胴部は、丸く肥厚する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	砂粒含む	明赤褐 良好	口縁～体部 残存
0712 S B 126 ○	碗 灰釉	— — ( 8.7)	三日月高台を貼付する底部から内湾気味に立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ 底部 切り離し技法不明 胴部 ロクロ目痕	精選された 胎土	灰 良好	漬け掛け
0713 S B 126 ○	長 甕 土師器	— (17.8) —	内湾する胴部から、強く外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量 に含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 残存
0714 S B 127 ○	碗 須恵器	— (14.4) —	胴部は直線的に開いて、外反して丸く終る口縁部に到る。	口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい黄橙	体部欠損
0715 S B 127 ○	碗 須恵器	— — 5.7	厚くしっかりした底部は、緩やかに内湾して立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り	赤褐色粒・ 金雲母含み 精選されてる	橙 良好	底部のみ残 存
0716 S B 128 ●	杯 須恵器	3.2 (13.2) ( 9.2)	一定した器厚の底部から内湾して立ち上がり胴部はやや内湾傾向を続け、口縁部は少し外反する。	底部 外面 磨減の為不明 内面 左渦文 胴部 外面 ロクロによるナデ	細砂を含む	灰白 良好	口縁～底部 残存
0717 S B 128 ●	碗 須恵器	— — 5.4	底部は厚くしっかりしている。	底部 外面 右回転糸切り 内面 渦文	砂粒含む	にぶい橙 良好	底部のみ残 存

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0718 S B 128 ●	椀 須恵器	— 5.6	一定した器厚の底部は、整った曲縁を描いて立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 横ナデ	赤褐色粒・軽石・砂粒を含む	淡橙 良好	口縁欠損
0719 S B 128 ●	高台杯 須恵器	— 6.5	短い高台を貼付する底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ナデ	軽石・石英を含む	にぶい橙 良好	底部のみ残存
0720 S B 128 ●	足高椀 須恵器	— 8.9	外反する高い高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 内面 ナデ	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	底部のみ残存
0721 S B 128 ○	椀 灰釉	( 3.7) (10.6) ( 5.2)	内湾気味で短い高台を貼付する底部は、丸味を持って立ち上がり、口唇部で小さく外反する。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 切り離し後ナデ 胴部 外面 ロクロ目痕	精選された胎土	灰 良好	口縁から内面全体に軸虎渓山
0722 S B 128 ●	皿 灰釉	4.1 16.6 8.6	薄い高台を貼付する底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、外反気味の口縁部に到る。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 右回転糸切り 胴部 回転ヘラケズリ	精選された胎土	灰 良好	漬け掛け 重ね焼き痕
0723 S B 128 ●	椀 灰釉	— (15.5) —	緩やかに内湾する胴部から口縁部に到る。	胴部 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰白 良好	内側全体に釉がかかっている
0724 S B 128 ●	椀 灰釉	— ( 7.0)	短く開く高台を貼付する底部から緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 ナデ調整	精選された胎土	灰白 良好 硬質	漬け掛け 底部のみ残存
0725 S B 128 ○	丸 甕 土師器	— ( 6.0)	砂底の底部から、緩やかに立ち上がる。	底部 砂底 胴部 外面 ヘラケズリ	赤褐色土を含む	にぶい褐 良好	底部～胴部 のみ残存
0726 S B 128 ●	羽釜 須恵器	— 5.2	小さい底部から、外反気味に立ち上がる。	底部 ヘラケズリ 胴部 外面 横位ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	赤褐色粘土粒・軽石含む	橙 良好	底部完形 甕
0727 S B 128 ○	羽釜 須恵器	— (18.1) —	胴最上部が、鐔の位置にくる。鐔の張りは弱い。	口縁部 丁寧な横ナデ	赤褐色粘土粒・軽石含む	にぶい橙 良好	体部欠損 甕
0728 S B 128 ●	羽釜 須恵器	— (22.4) —	胴最大幅が、鐔の位置にある。鐔の断面形は、正三角形に近く、上向き。	口縁部 丁寧な横ナデ	軽石・小石 石英を含む	灰白 良好	体部欠損 甕
0729 S B 128 ●	大型甕 須恵器	— (16.0)	底部から緩やかに立ち上がる。	胴部 外面 たたき目 内面 当て具痕あり のちヘラナデ	長石・小石を含む	外面暗灰 内面灰 良好	胴部下 半のみ 残存
0730 S B 129 ●	椀 須恵器	2.1 ( 9.4) 5.3	中央より器厚を増す底部は、緩やかに立ち上がり、尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒を多量含む	橙 良好	口縁のみ欠損
0731 S B 129 ●	椀 須恵器	2.3 ( 9.0) 4.2	厚くしっかりした底部から、強いしめを行って立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒を少量含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 のみ欠損
0732 S B 129 ○	椀 須恵器	— ( 6.4)	中央より器厚を増す底部は、緩やかに立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 ロクロ目痕	細砂を含む	灰白 良好	底部少片
0733 S B 129 ○	足高椀 須恵器	6.6 (14.1) 8.3	厚くしっかりした高台を貼付する底部は、やや強く屈曲して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 切り離し方向不明 内面 左渦文 胴部 内外面 ロクロによるナデ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁～底部 のみ残存
0734 S B 129 ○	高台杯 須恵器	( 6.4) (16.8) ( 8.0)	外反する高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 糸切り後ナデケシ 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 左方向のナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～高台 のみ残存
0735 S B 129 ●	直線甕 土師器	— (22.9) —	僅かに肩部を持つ胴部は、短く立ち上がる口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 横方向指ナデ	赤褐色粒・軽石を含む	明赤褐 良好	口縁～胴部 のみ残存
0736 S B 129 ●	長 甕 土師器	— ( 4.8)	小さい平底の底部から、緩やかに立ち上がる。	底部 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	1mmの砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	胴部～底部 のみ残存
0737 S B 129 ●	羽釜 須恵器	— (18.0) —	小さく上向きの鐔を貼付し、短く内傾する口縁部に到る。	口縁部 外面 横ナデ 内面 回転の横ナデ	5mmの石を含む	にぶい橙 良好	口縁部 のみ残存 甕

## 1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0738 S B 129 ○	羽釜 須恵器	— (20.6) —	直立する口縁部は長い。胴は張らないと考えられる。	口縁部 横ナデ	2mmの砂粒を含む	にぶい橙 良好	体部欠損 瓶
0739 S B 129 ●	羽釜 須恵器	— 20.8 —	最大幅は、胴中位にあり、口縁部は丸くすはまる。	胴部 外面 斜位ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	石英・赤褐色粘土粒・軽石含む	浅黄橙 良好	胴下半部欠損 壺
0740 S B 129 ●	羽釜 須恵器	— (29.8) —	最大幅は、胴上半に考えられ、鐏から上は短い。	胴部 外面 縦位ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ 指頭痕	小石・軽石含む	橙 良好	胴部欠損 瓶
0741 S B 129 ○	羽釜 須恵器	— (25.1) —	胴上位に、最大幅を持ち、鐏は口縁近くにあり。	胴部 外面 縦位ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒・軽石を含む	赤褐 良好	口縁～底部 1/2残存 瓶
0742 S B 130 ●	椀 土師器	2.8 13.6 10.0	扁平な丸底の底部は、内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 指オサエ後ナデ 内面 一部金属棒ミガキ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁～底部 1/2残存
0743 S B 130 ○	椀 土師器	2.8 (14.4) (10.4)	僅かに凹面をなす丸底気味の底部は、強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する尖った口縁部に到る。	底部 外面 回転ヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒・砂粒・軽石含む	橙 良好	口縁～底部 1/2残存
0744 S B 130 ●	蓋 須恵器	( 1.3) (15.2) —	平坦な天井部は、緩やかに外方へ開き、直線的に折れる口縁部に到る。	天井部 切り離し技法不明 体部 外面 回転ヘラ切り 像 内外面 回転ナデ	小石を含む	青灰 良好	口縁～天井 1/2残存
0745 S B 130 ○	椀 須恵器	— (14.0) —	やや屈曲気味に立ち上がり、直線的に丸く終る口縁部に到る。	胴部 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰白 良好	口縁～体部 1/2残存
0746 S B 130 ●	椀 土師器	3.4 13.3 —	丸底の底部は強く内湾して立ち上がり、内傾気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	2～3mmの石粒含む	橙 良好	完形
0747 S B 130 ●	丸壺 土師器	— — 7.0	丸底気味の底部は、大きく外方へ開きながら立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	1mmの砂粒を含む	橙 良好	胴部～底部 1/2残存 煤付着
0748 S B 130 ●	長壺 土師器	— (20.5) —	口縁部は、くの字状に外反する。	胴部 外面 横ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部 1/2残存
0749 S B 130 ○	長壺 土師器	— (25.1) —	口縁部は、くの字状に外反する。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部 1/2残存
0750 S B 130 ○	長壺 土師器	— (23.8) —	張りを持たない胴部から、くの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 小片
0751 S B 131 ●	蓋 須恵器	— — 4.5	環状つまみを貼付する天井部から緩やかに開く。	内面 ロクロ目痕 天井部 外面 ナデ 体部 外面 回転ヘラ切り	赤褐色粘土粒・軽石砂粒を含む	褐灰 良好	つまみ周辺部 1/2残存
0752 S B 131 ○	杯 須恵器	3.8 (13.5) ( 8.4)	底部から強く内湾して立ち上がり、胴部内外面に緩やかな凹凸を持ち直線的に外方へ開く。	底部 外面 回転ヘラ調整 内面 ロクロ目痕 胴部 ロクロ目痕	長石を含む	青灰 良好	口縁～底部 1/2残存
0753 S B 131 ●	足高椀 須恵器	— — —	高台を貼付する底部は、厚くしっかりして緩やかに立ち上がる。	底部 回転糸切り	4mm大の石・赤褐色土粒含む	にぶい橙 良好	口縁、底部 欠損
0754 S B 131 ●	長壺 土師器	— (19.1) —	緩やかな丸味を持つ胴部から、くの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 粘土巻上痕 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色粘土粒を含む	明赤褐 良好	口縁部1/2 体部小片 須恵質
0755 S B 131 ●	羽釜 須恵器	— (17.6) —	直立する羽釜の口縁部のみ、口唇部内斜気味に丁寧な仕上げである。	口縁部 回転による丁寧な横ナデ	1mmの砂粒を含む	灰白 良好	口縁端部の み残存 瓶
0756 S B 131 ●	長壺 土師器	— (25.5) —	器厚の一定した胴部から、緩やかに外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 横位ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色粘土粒を含む	黒褐 良好	口縁1/2残存 煤付着 須恵質
0757 S B 131 ●	羽釜 須恵器	— — —	直立する口縁部を持つ羽釜で、胴部も張らない。長三角形の鐏の接合は荒い。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 荒いハケ目	1mmの砂粒を含む	灰黄褐 良好	口縁～胴下 半部欠損 瓶

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0758 S B 131 ●	羽釜 須恵器	— — (9.0)	平底の底部から、緩やかに立ち上がる。	底部 ヘラケズリ 胴部 外面 斜位ヘラケズリ 内面 ナデ	赤褐色粘土 粒含む	灰白 良好	底部～体部 片残存 甕
0759 S B 131 ●	長甕 土師器	— — (5.6)	小さな平底から、緩やかに立ち上がる。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	赤褐色土と 2mmの砂粒 を含む	橙 良好	胴部 片残存
0760 S B 131 ●	羽釜 須恵器	— — (12.0)	器肉の厚くなる平底の底部。	底部 ヘラケズリ	1mmの砂粒 を含む	にぶい黄橙 良好	底部1片 内面に黒斑 あり 甕
0761 S B 132 ●	椀 土師器	3.2 13.6 —	扁平な丸底の底部から、強く内湾して立ち上がり、内傾気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 成形後ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 片残存
0762 S B 132 ○	椀 土師器	— (14.8) —	強く外反する胴部は、さらに外反し尖り気味の口縁部に到る。	胴部 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・ 砂粒を含む	橙 良好	体部～口縁 片残存
0763 S B 132 ○	椀 土師器	— (14.0) —	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、薄い口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ	砂粒含む	橙 良好	底部欠損
0764 S B 132 ●	杯 須恵器	3.8 (12.0) (8.1)	屈曲気味に強く内湾して立ち上がり胴部は直線的で、口縁部で僅かに内湾する。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	細砂を含む	青灰 良好	底部欠損
0765 S B 132 ○	蓋 須恵器	1.3 (19.5) —	天井部の低い蓋で、口縁部先端を短く折り返す。	天井部 回転ヘラケズリ つまみ欠損	細砂を含む	灰白 良好	天井部一部 欠損
0766 S B 132 ○	皿 須恵器	— (16.5) —	急に大きく外方へ開く、胴部、口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒・ 砂粒含む	灰白 良好	底部欠損
0767 S B 132 ●	皿 須恵器	— (16.2) —	胴部は直線的に大きく外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含 む	にぶい橙	口縁～胴部 片残存
0768 S B 132 ○	椀 須恵器	— (15.0) —	直線的に開く胴部は、短く外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 横ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含 む	浅橙 (内黒)	口縁部 片残存 内 面黒色処理
0769 S B 132 ●	直線甕 土師器	— (20.8) —	直線的な胴部から、短く外反するくの字状口縁部に到る。器肉は厚い。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒 を多量に含 む	赤 良好	口縁～胴部 片残存 須恵質
0770 S B 132 ●	羽釜 須恵器	— — (6.2)	小さい平底の底部から、大きく外方へ開いて立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 横位ヘラケズリ 内面 横ナデ	軽石を含む	外面にぶい赤褐 内面黄灰	良好 底部 片残存 甕
0771 S B 132 ○	羽釜 須恵器	— (26.8) —	口縁部は、短く内傾し、断面三角形で上向きに張り出す鏝を貼付する。	胴部 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	軽石・長石 粒を含む	黄灰 良好	体部欠損 甕
0772 S B 133 ●	椀 土師器	(2.6) (12.6) —	一定した器厚の扁平な底部は、強く内湾して立ち上がり、薄くなる口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 片残存
0773 S B 133 ○	椀 土師器	— (14.0) —	緩やかに内湾して立ち上がり、直立気味の口縁部に到る。	底部 ヘラケズリ 胴部 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	細砂粒・石 粒を含む	にぶい橙 良好	口縁部 片残存
0774 S B 133 ○	椀 土師器	— (13.1) —	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、僅かに内傾する口縁部に到る。	底部 外面 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒を 含む	橙 良好	口縁部 片残存
0775 S B 133 ○	椀 土師器	(3.0) (13.0) —	扁平な丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 指ナデ	砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁部 片残存
0776 S B 133 ○	椀 土師器	(3.4) (12.7) —	扁平な、丸底の底部は、屈曲気味に立ち上がり、端部で短く内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・ 砂粒	橙 良好	口縁部 片残存
0777 S B 133 ○	椀 土師器	(2.8) (14.6) —	平底気味の底部は、屈曲して立ち上がり、直立する口縁から端部で短く内傾して終る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	軽石・黒雲 母・砂粒を 含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 片残存



1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特 徴	成 形・調整の特 徴	胎 土	色 調・焼 成	備 考
0778 S B 133 ○	杯 須恵器	3.3 (13.3) ( 8.9)	底部は一定した器厚。腰部は、強く内湾して直線的に立ち上がり、口縁部で、僅かに内湾する。	底部 外面 回転ヘラケズリ 胴部 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	細砂を含む	明緑灰 良好	底部欠損
0779 S B 133 ○	蓋 須恵器	— — 3.6	環状つまみを貼付する天井部から、外方へ開く胴部は、ほぼ水平になり、直線的に折れる。	天井部 外面 ナデ 切り離し技法不明 胴部 外面 ロクロ目痕	細砂を含む	灰白 良好	天井～体部 1/10残存 短頸壺の蓋
0780 S B 133 ○	羽釜 須恵器	— — (16.6)	甑の脚部と考えられる。端部から直立気味に立ち上がる。	脚部 内・外面ロクロによる 横方向のナデ	1mmの砂粒を含む	灰白 良好	底部又は口縁 1/10残存 甑
0781 S B 134 ○	丸 甕 土師器	— (16.0) —	胴部は球形を呈し、直線的に立ち上がりコの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁～胴部 1/10残存
0782 S B 134 ●	長 甕 土師器	— (23.4) —	胴部は緩やかで肩部を持たず、外反しコの字状口縁部に到る。	胴部 外面 横ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒 砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部 1/10残存
0783 S B 135 ●	椀 土師器	3.5 12.0 —	扁平な平底の底部から、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、僅かに内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ後ナデ	砂粒を含む	橙 良好	口縁～底部 1/10強残存
0784 S B 135 ●	椀 土師器	3.8 14.6 10.3	平底気味の底部には、緩やかに立ち上がり、一旦直立して丸く終る。	底部・胴部 手持ちヘラケズリ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 約1/10残存
0785 S B 135 ○	椀 土師器	— (13.0) —	丸底の底部は、やや屈曲気味に立ち上がり、僅かに外反する尖った口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・ 砂粒を含む	橙 良好	口縁～体部 1/10残存
0786 S B 135 ●	椀 土師器	4.1 15.2 9.7	僅かに凹面をなす丸底気味の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	1mmの砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁部 1/10残存
0787 S B 135 ○	蓋 須恵器	— — —	環状つまみを貼付した天井部は、緩やかに、口縁部に向かう。	天井部 切り離し技法不明 胴部 外面 巻き上げ痕あり 内面 横ナデ	小石を含む	灰白 粗雑	天井部 小片
0788 S B 135 ○	椀 須恵器	— (15.0) —	内湾する胴部は、素直に口縁部に到る。	胴部 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰 良好	口縁部 1/10残存
0789 S B 135 ○	盤 須恵器	2.2 (17.5) (15.3)	内湾する底部から強く屈曲して立ち上がり胴部は直線的に開き、口縁部に到る。	胴部 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰 良好	口縁部 少片
0790 S B 135 ●	高台杯 須恵器	— — (11.5)	外反する端部で、丸く終る低い高台を貼付する。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整 内面 ロクロ目不明瞭	長石・小石を含む	灰白 良好 硬質	底部 1/10残存
0791 S B 135 ○	短頸壺 須恵器	— (10.2) —	肩部に、張りをもち、短く直立する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロによる横方 向ナデ 内面 ナデ	銀色に光る 物を含む	灰白 良好	口縁～胴部 1/10残存
0792 S B 135 ○	平 瓶 須恵器	— — —	胴上半と下半は強い屈曲をもち、平底の底部に到ると考えられる。	肩部 横方向のナデ	石英・細砂を含む	灰 良好	肩部 1/10残存
0793 S B 135 ●	丸 甕 土師器	— (14.0) —	肩の緩やかな胴部から、短い直立気味のコの字状を呈し、端部の外反は薄く終る。	胴部 外面 横ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部 1/10残存
0794 S B 135 ●	長 甕 土師器	— (17.4) —	丸みのある胴部から、緩やかに外反するコの字状の口縁部に到る。	胴部 外面 横ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部 1/10残存
0795 S B 135 ○	長 甕 土師器	— (19.9) —	直線的な胴部から、緩やかに外反し、くの字状口縁部は内湾気味。	胴部 外面 横ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	にぶい橙 良好	口縁部 1/10残存
0796 S B 135 ●	長 甕 土師器	— (19.9) —	緩やかな胴部から、器内の薄い、くの字状口縁部は外湾する。	胴部 外面 横ヘラケズリ 口縁 横ナデ	赤褐色土粒 砂粒を含む	橙 良好	口縁部 1/10残存
0797 S B 135 ○	直線甕 土師器	— (20.6) —	直線的な胴部から、緩やかに短く外反する、くの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ↑ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色と1 mmの砂粒を含む	橙 良好	口縁～胴部 1/10残存 須恵質

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0798 S B 135 ●	長甕 土師器	— (25.8)	緩やかに丸みを持つ上胴部より短く外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/3残存
0799 S B 135 ●	丸甕 土師器	—	底部と、台部の一部分である。	胴部 外面 ヘラケズリ→ 内面 脚部接合の為へこみあり 指ナデ	1mmの砂粒を含む	明暗褐 良好	破片1片
0800 S B 135 ●	長甕 土師器	— (4.6)	小さく、薄い平底の底部より、緩やかに胴部は、ふくらんで立ち上がる。	底部 荒いヘラケズリ 胴部 外面 斜位ヘラケズリ 内面 指ナデ	赤褐色土粒砂粒を含む	橙 良好	胴部～底部 1/3残存
0801 S B 136 ●	碗 土師器	3.4 13.0	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、内傾気味の尖る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を含む	にぶい橙 良好	ほぼ完形
0802 S B 136 ○	碗 須恵器	— (12.0)	器内の薄い胴部は、口縁部で丸く肥厚して終る。	胴部 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	長石を含む	青灰 良好	口縁部 1/3残存
0803 S B 136 ●	杯 須恵器	— 8.3	厚い底部から屈曲して立ち上がり直線的に開く傾向。	底部 外面 右回転糸切り後、 周縁手持ちヘラ調整 内面 ロクロ目痕	細砂を含む	灰白(内面) 黒(外面)	良好 底部のみ
0804 S B 136 ○	杯 須恵器	— 7.5	厚い底部から腰部に絞り込みを持ち屈曲して立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り後周縁 回転ヘラケズリ調整 胴部 ロクロ目不明瞭	小石を含む	灰白(内面) 黒(外面)	良好 底部のみ
0805 S B 136 ○	長甕 土師器	— 21.8	口縁部は、くの字状に外反する胴部は、肩部を持たない。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部 1/3残存
0806 S B 136 ○	丸甕 土師器	— (16.5)	丸みを持った胴部。コの字状口縁部は強く外反する。	胴部 外面下 縦位ヘラケズリ 上 横位ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁～体部 1/3残存
0807 S B 136 ○	丸甕 土師器	— (16.2)	くの字状口縁部から、胴部は緩やかに外湾する。	胴部 外面 横位ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒砂粒を多量に含む	淡橙 良好	口縁のみ
0808 S B 137 ●	碗 土師器	(3.5) (10.7)	丸底の底部は、緩やかに内湾気味に立ち上がり、僅かに、外反しつつ口縁部に到る。	底部外面 手持ちヘラケズリ 胴部 指オサエ後ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 1/3残存
0809 S B 137 ○	碗 土師器	— (15.8)	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 指ナデ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 1/3残存
0810 S B 137 ●	碗 須恵器	3.2 11.9 6.5	厚い底部から内湾して立ち上がり胴部は直線的に外方へ開き、口縁部は僅かに外反する。	底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ目痕 胴部 ロクロ目不明瞭	小石を含む	灰 良好	口縁～底部 1/3残存
0811 S B 137 ○	杯 須恵器	— (7.5)	ほぼ一定した器厚を持ち、緩やかに立ち上がる。	底部 外面 回転ヘラ削り調整 内面 ロクロ目不明瞭 胴部 ロクロ目不明瞭	細砂を含む	オリーブ灰 良好	胴部～底部 1/3残存
0812 S B 137 ●	碗 須恵器	— (14.1)	胴部は直線的に開き、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 棒状ヘラミガキ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒・砂粒含む	橙 良好	口縁部 1/3残存 内黒土器
0813 S B 137 ○	長甕 土師器	— (20.0)	器肉は薄く、くの字状口縁部から、外湾する胴部に到る。	口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	にぶい橙 良好	口縁部 1/3残存
0814 S B 137 ○	長甕 土師器	— (19.4)	器肉は薄く、やや丸味のある胴部から、緩やかに外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部 1/3残存
0815 S B 137 ○	長甕 土師器	— (20.0)	緩やかに内湾する胴部から、ややコの字を呈し外傾する口縁部に到る。口縁部にゆがみあり。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	明赤褐 良好	口縁～胴部 1/3残存
0816 S B 137 ○	長甕 土師器	— (19.2)	僅かな肩を持つ丸味のある胴部は緩やかなくの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	にぶい赤褐 良好	口縁～胴部 1/3残存
0817 S B 137 ○	長甕 土師器	— 4.8	平底の小さく薄い底部は、直線的に外反する。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ヘラナデ	2mmの砂粒を含む	にぶい褐 良好	底部～胴部 外面煤付着

## 1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0818 S B 137 ○	丸 甕 土師器	— (28.2) —	強く張る胴部は、直立して強く外反するコの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を含む	橙 良好	口縁 1/2残存
0819 S B 138 ●	杯 須恵器	5.1 (16.3) 7.2	僅かに凹面をなす底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する薄い口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 内面 棒状ヘラミガキ 胴部 内面 ヘラミガキ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 1/2残存 内黒土器
0820 S B 138 ●	長 甕 土師器	— 19.5 —	全体に器内は薄く、コの字状の口縁部は強く屈曲して外反する。	口縁部 横ナデ	砂粒を多量に含む	にぶい橙 良好	口縁部 1/2残存
0821 S B 138 ○	丸 甕 土師器	— (15.0) —	緩やかに丸味を持つ胴部は、短くコの字状をし、端部で短く外反する。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒 砂粒を含む	橙 良好	口縁部 1/2残存
0822 S B 138 ●	長 甕 土師器	— (20.0) —	直線気味の胴部から、強く外反する、くの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 横ヘラナデ 口縁部 横ナデ	1～2mmの砂粒を含む	橙 良好 硬質	口縁部 1/2残存
0823 S B 139 ●	杯 土師器	3.4 10.3 4.3	平底の底部から、緩やかに立ち上がり、尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 砂底 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	砂粒を含む	にぶい橙 良好	完形
0824 S B 139 ○	足高椀 須恵器	— (14.8) —	高台を欠損する底部は、一定した器厚で緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒含む	浅黄橙 良好	口縁～底部 1/2残存
0825 S B 139 ●	足高椀 須恵器	— — 8.2	外に張る丸く終る高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 内面 ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	橙 良好	高台部のみ
0826 S B 139 ●	足高椀 須恵器	— (15.1) —	外反する高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0827 S B 139 ○	椀 須恵器	3.1 10.0 4.5	中央より器厚を増す底部は、内湾して立ち上がり、僅かに外反し、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	灰黄 良好	ほぼ完形
0828 S B 139 ○	高台杯 須恵器	4.7 11.6 6.4	直立する高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反して丸く終る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文	砂粒含む	灰黄 良好	ほぼ完形
0829 S B 139 ●	高台杯 須恵器	— — ( 6.7)	短く粗雑な高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り	5mm大の石 白色軽石・ 黒雲母含む	にぶい橙 良好	高台部のみ
0830 S B 139 ●	高台椀 須恵器	4.5 10.0 —	薄い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 内面 棒状ヘラミガキ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 1/2残存 内黒土器
0831 S B 139 ○	長 甕 土師器	— (15.2) —	丸味を持つ胴部から、緩やかに外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	2mmの砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 須恵質
0832 S B 139 ○	丸 甕 土師器	— (23.1) —	緩やかに丸味を持つ胴部は、短く外反して立ち上がる、くの字状口縁部に到る。	胴部 外面 巻き上げ痕 内面 横方向ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土 粒・軽石を 含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 須恵質
0833 S B 139 ●	羽 釜 須恵器	(24.7) (21.6) (10.0)	平底気味の底部から、緩やかに立ち上がり、小さく水平に張り出す鏝を貼付し、短く内傾する。	胴部 外面 上半ロクロ目痕 下半ヘラケズリ↓ 口縁部 横ナデ	赤褐色土と 1mmの砂粒 を含む	黄灰 良好	口縁～胴部 1/2残存 甕
0834 S B 140 ●	椀 土師器	4.0 12.5 —	丸底の底部から、内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ	赤褐色粒を含む	にぶい橙 良好	ほぼ完形
0835 S B 140 ●	椀 土師器	3.4 13.0 —	丸底の底部から、内湾して立ち上がり、端部で内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を含む	橙 良好	約1/2残存
0836 S B 140 ●	椀 土師器	( 3.3) 12.2 —	丸底の底部は、内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	底部1/2 口縁1/2欠損
0837 S B 140 ●	椀 土師器	3.1 (13.2) —	丸底の底部から、強く内湾して立ち上がり、直立して尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 1/2残存

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0838 S B 140 ○	碗 土師器	( 3.0) (14.8) —	丸底の底部から屈曲気味に、強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	砂粒含む	明赤褐 良好	口縁～底部 1/2残存
0839 S B 140 ○	碗 土師器	— (14.0) —	底部から直立気味に立ち上がり、やや外反する口縁部に到る。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 内面 ナデ	細砂粒を含む	外面黒灰 内面にふい橙	良好 口縁～底部 1/2残存
0840 S B 140 ●	碗 須恵器	— (13.4) —	内湾する胴部は、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	5mmの石含む	灰 良好	口縁部 1/2残存
0841 S B 140 ○	杯 須恵器	— — ( 8.8)	しっかりした底部から絞り込みを持ちながら強く内湾して立ち上がる。	底部 外面 回転ヘラ調整 内面 ロクロ目不明瞭	細砂を含む	灰白 良好	底部のみ
0842 S B 140 ○	長 甕 土師器	— (21.0) —	胴部上位に張りを持ち、緩やかに外反する、くの字口縁部に到る。	胴部 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土・砂粒を多量に含む	明赤褐 良好 硬質	口縁部 1/2残存
0843 S B 140 ○	長 甕 土師器	— (22.4) —	器肉の薄い胴部から、緩やかに外反するコの字状の口縁部に到る。	胴部 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部 1/2残存
0844 S B 140 ●	長 甕 土師器	— (19.8) —	器肉が薄く、強く外反する、くの字状口縁部に到る。	口縁部 横ナデ	赤褐色土と1mmの砂粒を含む	橙 良好	口縁部 1/2残存
0845 S B 140 ○	長 甕 土師器	— — ( 4.0)	小さい平底の底部から、直線的に立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	赤褐色土を含む	にふい赤褐 良好	胴部～底部 1/2残存
0846 S B 140 ○	長 甕 土師器	— — ( 3.9)	小さい平底の底部から、緩やかに立ち上がる。器肉は薄い。	胴部 外・内面 ヘラケズリ 底部 外・内面 ヘラケズリ	赤褐色土粒砂粒を多量に含む	明赤褐 良好	底部 1/2残存
0847 S B 140 ●	丸 甕 土師器	17.8 12.5 9.9	ハの字状の台部を持つ底部は、内湾して立ち上がり、胴部は球形を呈す。口縁部は緩やかに外反する。	高台部 ナデ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	砂粒を多量に含む	橙 良好	ほぼ完形 くの字状口縁
0848 S B 140 ●	中型甕 須恵器	— 26.4 —	肩部の張る甕の口縁部である。縁帯上端部は丸く、下端部は鋭い。	頸部 外面 横方向ナデ 内面 灰がかかる 口縁部 横ナデ	長石・小石を含む	灰 良好	口縁部 1/2残存
0849 S B 141 ○	碗 土師器	3.0 (12.4) ( 8.0)	丸底気味の底部から強く内湾して立ち上がり尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラ削り 胴部 外面 指オサエ後ナデ	白色軽石粒 細砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 1/2残存
0850 S B 141 ○	杯 土師器	( 2.7) (11.2) ( 8.8)	丸底の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、尖る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指ナデ 口縁部 横ナデ	黒雲母・砂粒	橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0851 S B 141 ○	碗 土師器	( 2.8) 12.4 —	丸底気味の底部は、屈曲気味に立ち上がり、尖る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	砂粒を含む	橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0852 S B 141 ○	高台碗 須恵器	— (13.2) —	緩やかに内湾する胴部は、やや外反し口縁端部が丸く終る口縁部に到る。高台付と考えられる。	胴部 外面 横方向 ヘラナデ 内面 丁寧なヘラミガキ 口縁部 横ナデ	細砂粒・砂粒を含む	外面にふい橙 内面黒褐	良好 口縁～体部 1/2残存 内面黒色処理
0853 S B 141 ●	高台杯 須恵器	— — 7.1	粗雑な低い高台を貼付する底部は緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 切り離し後ナデ 内面 ロクロ目不明瞭	細砂を含む	灰白 良好	底部 1/2残存
0854 S B 141 ●	碗 須恵器	2.8 ( 8.9) 5.5	厚くしっかりした底部は、強く内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り(右) 内面 左渦文	砂粒を含む	にふい橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0855 S B 141 ○	羽釜 須恵器	— — (12.0)	肩部の張る羽釜の底部であろう。	底部 外面 磨滅している 胴部下位外面 磨滅している 底部 胴部内面 ヘラナデ	長石・小石を含む	灰白 良好	体部～底部 小破片 甕
0856 S B 141 ●	高台碗 須恵器	— (14.6) —	強く内湾する胴部は、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 ロクロ目痕 内面 棒状ヘラミガキ 胴部 内面 棒状ヘラミガキ	赤褐色粒含む	外面にふい橙 内面にふい褐	良好 口縁部 1/2残存 内黒土器
0857 S B 141 ●	高台碗 須恵器	— — —	胴部は内湾する。	胴部 外面 ロクロ成形による ナデ 内面 ナデ	白色・砂粒含む	にふい黄橙 良好	体部のみ 1/2残存 内黒土器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特 徴	成 形 ・ 調 整 の 特 徴	胎 土	色 調 ・ 焼 成	備 考
0858 S B 141 ○	杯 須恵器	— — ( 5.6)	一定した器厚の平底の底部は、緩やかに立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 棒状ヘラミガキ	5mm赤褐色 粒含む	にぶい橙 良好	底部 1/2残存 内黒土器
0859 S B 141 ●	高台碗 須恵器	— — ( 7.0)	高台は外に張り出して尖る。	高台部 付高台 底部 内面 棒状ヘラミガキ	赤褐色粒・ 軽石・砂粒	にぶい赤褐 良好	底部 1/2残存 内黒土器
0860 S B 141 ○	碗 灰釉	— — ( 8.5)	三日月高台を貼付する底部から、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台ナデ 底部 外面回転ヘラ調整 胴部 下半回転ヘラケズリ調整	精選された 胎土	灰白 良好	底部 1/2残存 内 面に施釉
0861 S B 141 ●	長 甕 土師器	— — (18.2)	器肉の一定した胴部から、緩やかに外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 縦位ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐 色粘土粒	にぶい黄橙 良好	口縁～体部 1/2残存 須恵質
0862 S B 141 ○	丸 甕 土師器	— — (21.4)	やや丸味のある胴部は、くの字状の口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土を 含む	浅黄橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 須恵質
0863 S B 141 ●	直線甕 土師器	— — (24.2)	直線的に立ち上がる胴部から、短く外反する、くの字状口縁部に到る。	胴部 外面 縦位ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土 粒・軽石・ を含む	橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 須恵質
0864 S B 141 ●	羽 釜 須恵器	— — ( 9.5)	器肉の厚い底部から、緩やかに立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 縦位ヘラケズリ 内面 横ナデ	赤褐色粘土 粒・小石を 含む	にぶい赤褐 良好	底部～胴部 1/2残存 甕
0865 S B 141 ●	羽 釜 須恵器	— — ( 9.0)	器肉の厚い胴部は、直線的に立ち上がる。	胴部 外面 縦位ヘラケズリ 内面 横ナデ	赤褐色土・ 軽石を含む	橙 良好	体部下半 1/2残存 甕
0866 S B 141 ●	羽 釜 須恵器	— — (23.0)	平坦な端部から、緩やかなハの字状に立ち上がる。	脚部 内・外面横方向のナデ	1mmの砂粒 を含む	浅黄橙 良好	底部 1/2残存 甕
0867 S B 142 ○	杯 土師器	— — (13.8)	肉厚な胴部は、直線的に開き、丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 指頭圧痕後指ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・ 砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0868 S B 142 ●	碗 土師器	— — 5.2	平底の底部から、強く内湾して立ち上がる。	底部 外面 棒状の物の上の せた痕がある 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	赤褐色土を 含む	橙 良好	底部～体部 1/2残存 古墳時代
0869 S B 142 ●	碗 須恵器	— — (11.0)	胴部は緩やかに内湾し、肥厚して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 ロクロ目痕	砂粒含む	灰白 良好	口縁のみ 1/2残存
0870 S B 142 ●	高台杯 土師器	5.1 — (11.8) ( 6.9)	直線的に張り出す端部の丸い高台を貼付する。底部は内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 砂底 胴部 外面 ヘラケズリ	赤褐色粒含 む	外面灰黄褐 良好	口縁～底部 1/2残存
0871 S B 142 ●	高台杯 須恵器	— — 7.3	僅かに外反する低い高台を貼付する厚くしっかりした底部は、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ 内面 ロクロ目痕	細砂を含む	灰白 良好	底部のみ 残存
0872 S B 142 ○	高台杯 須恵器	— — 7.0	粗雑な高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り	赤褐色粒	浅黄橙 良好	高台部のみ 残存
0873 S B 142 ●	高台杯 須恵器	— — ( 7.4)	しっかりとした高台は、厚い底部に貼付する。	高台部 付高台 横ナデ 内面 ロクロ目痕	1mmの砂粒 を含む	灰白 良好	高台～底部 1/2残存
0874 S B 142 ●	碗 灰釉	4.8 13.3 ( 7.3)	外反する整いな高台を貼付する底部から、内湾気味に立ち上がり、口縁部は薄く小さく外反して終る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整 胴部 ロクロ目痕	精選された 砂粒	灰白 良好	漬け掛け 虎溪山
0875 S B 142 ○	皿 灰 釉	( 3.4) (14.6) ( 8.7)	台形の高台を貼付する底部から、緩やかに立ち上がり、口縁端部で外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 指ナデ 底部 切り離し法不明ナデケシ 胴部 ロクロ目痕	黒色斑点・ 精選された 胎土	灰 良好	口縁～底部 小片 重ね焼き痕
0876 S B 142 ●	皿 灰 釉	( 2.8) (13.3) ( 6.6)	台形の高台を貼付する底部から、緩やかに立ち上がる口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 切り離し法不明ナデケシ 胴部 下半回転ヘラ調整	精選された 胎土	灰白 良好	約1/2残存 漬け掛け 重ね焼き痕
0877 S B 142 ○	碗 灰 釉	— — (15.3)	緩やかに内湾する胴部から、短く外反する口縁部に到る。	胴部 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	精選された 胎土	灰白 良好	口縁～胴部 小片 内面に施釉

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0878 S B 142 ○	皿 灰釉	— (15.7)	緩やかな胴部から直線的に外方に開く口縁部に到る。 端部は肥厚し強く外傾して終る。	胴部 内外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	黒色斑点 精選された胎土	白灰 良好	口縁～胴部 少片 漬け掛け
0879 S B 142 ●	皿 灰釉	— (12.8)	胴部は緩やかに内湾して、端部で外傾気味に終る口縁部に到る。 器厚は全体に薄い。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰白 良好	口縁少片
0880 S B 142 ●	碗 灰釉	— (6.9)	三日月高台を、貼付する底部は、大きく外方に開きながら立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 胴部 外面下半 回転ヘラ調整	精選された胎土	灰 良好 硬質	底部～胴部 1/2残存 重ね焼き痕
0881 S B 143 ●	高台杯 須恵器	5.0 (13.0) (7.0)	高台を貼付する底部は緩やかに内湾して立ち上がり僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	2mmの軽石・砂粒を含む	黒褐 良好	底部～口縁 1/2残存
0882 S B 143 ●	杯 土師器	— (5.5)	丸底気味の一定した器厚の底部から、緩やかに立ち上がる。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	赤褐色粒・砂粒を含む	橙 にぶい褐 良好	底部のみ
0883 S B 144 ○	碗 土師器	3.8 (12.6)	丸底の底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	1mmの砂粒を含む	橙 良好	口縁部 1/2残存
0884 S B 144 ○	碗 土師器	3.3 12.6	扁平な丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整	1mmの砂粒を含む	橙 良好	口縁部 1/2残存
0885 S B 144 ○	碗 土師器	3.4 12.2	丸底気味の底部は、強く内湾して立ち上がり、僅かに内湾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0886 S B 144 ○	碗 土師器	3.7 13.5	丸底の底部から緩やかに立ち上がり、内湾して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	1～2mmの砂粒含む	橙 良好	完形
0887 S B 144 ○	碗 土師器	3.7 13.6	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、短く内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 内面 ナデ	砂粒を含む	橙 良好	完形
0888 S B 144 ○	杯 土師器	— (11.8)	内湾傾向を持つ胴部は、外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 横方向のナデ 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰 良好	口縁部 1/2残存
0889 S B 144 ○	高台杯 土師器	— 13.4	高台の欠損する底部は、屈曲して立ち上がり、薄くなる口縁部に到る。	高台部 付高台剥落 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0890 S B 144 ●	高台碗 須恵器	— (4.0)	僅かに外反する高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 内面 黒色処理 棒状ヘラミガキ	赤褐色粒・軽石・砂粒	橙 良好	底部 1/2残存 内黒土器
0891 S B 144 ○	碗 須恵器	4.1 (10.1) 5.0	中央より器厚を増す底部は器肉を減しながら僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	黒雲母・石英	灰黄 良好	口縁～底部 1/2残存
0892 S B 144 ●	高台杯 須恵器	5.2 13.2 6.7	外反する高台を貼付する底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり大きく外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	黒雲母・赤褐色土粒を含む	灰黄 良好	口縁～底部 1/2残存
0893 S B 144 ○	碗 灰釉	(5.2) (15.3) (7.5)	外反する小さな高台を貼付する底部は、内湾して立ち上がり、口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 胴部 外面 ロクロ目痕	精選された胎土	灰白 良好 硬質	漬け掛け 重ね焼き痕
0894 S B 144 ○	輪花碗 灰釉	— (15.8)	丸い腰から緩やかに口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰 良好	漬け掛け 輪花
0895 S B 144 ○	碗 灰釉	— (7.9)	短く内湾する高台を貼付する底部は、緩やかに内湾する。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 切り離し技法不明 胴部 ヘラケズリ	精選された胎土	白灰 良好	漬け掛け 重ね焼き痕 底部1/2残存
0896 S B 144 ○	碗 灰釉	— (7.8)	短く外反気味の高台を貼付する底部から緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 回転ヘラ調整	精選された胎土	灰 良好	漬け掛け 重ね焼き痕 底部1/2残存
0897 S B 144 ○	碗 灰釉	— (7.0)	端部の丸い外反気味の高台を貼付する底部から、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 ナデケシ 胴部 外面 ロクロ目痕	精選された胎土	灰白 良好	底部～胴部 1/2残存 重ね焼き痕

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0898 S B 144 ●	長 甕 土師器	— (16.3) —	丸味を持つ胴部は、短く外反して立ち上がるくの字状口縁部。端部は尖る。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	2mmの砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 須恵質
0899 S B 144 ○	丸 甕 土師器	— ( 4.3) —	小さい平底の底部から大きく外方に開く。	底部 砂底 胴部 外面 ヘラケズリ↘ 内面 ヘラナデ	赤褐色土を含む	にぶい橙 良好	底部 1/2残存
0900 S B 144 ●	長 甕 土師器	— — —	小さく器内の厚いと思われる底部から外方に開く。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ヘラナデ	1mmの砂粒を含む	灰 良好	胴部下半 1片
0901 S B 145 ○	椀 須恵器	— — 5.0	やや厚く一定した底部から屈曲して立ち上がり、外方へ開く。	底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ目痕	小石を含む	灰 良好	底部のみ 残存
0902 S B 146 ○	長 甕 土師器	— (20.2) —	直線的な胴部から、くの字状に口縁部は外反し、端部で外稜を持つ口縁。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土と1mmの砂粒を含む	浅黄橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 須恵質
0903 S B 146 ●	長 甕 土師器	28.0 (24.5) 9.8	平底気味の底部は、直線的に立ち上がり、長胴化した胴部からくの字状に短く外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色粘土粒を含む	明赤褐 良好	口縁～底部 1/2残存 須恵質
0904 S B 147 ●	鉢 須恵器	— (14.4) —	胴部は、僅かに内湾傾向を持って内面に稜を持ち、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ロクロによるナデ 口縁部 横ナデ	細砂を含む	オリープ灰 良好	口縁部 小破片
0905 S B 147 ●	足高椀 須恵器	6.4 (14.5) 8.6	器高の高い高台を貼付する。底部はやや強く屈曲して直線的に立ち上がり、外反して丸く終る口縁部。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 ロクロ目痕	黒雲母・赤褐色粒・砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0906 S B 147 ○	高台杯 須恵器	( 7.0) 13.8 ( 7.6)	外反する薄い高台を貼付する底部は、強く内湾して立ち上がり丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り後ナデ 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒・砂粒を含む	浅黄橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0907 S B 147 ○	高台椀 須恵器	— (14.0) —	内湾する胴部は、器肉が薄く、僅かに外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ヘラミガキ	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	口縁～体部 1/2残存 内黒土器
0908 S B 147 ○	直線甕 土師器	— (28.8) —	直線的に立ち上がる胴部から、強く外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を含む	橙 良好	口縁部 1/2残存 須恵質
0909 S B 147 ●	長 甕 土師器	— 21.7 —	丸味を持つ胴部から、僅かに外反し短く終るくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色粘土粒を含む	にぶい赤褐 良好	口縁部1/2 体部小片 須恵質
0910 S B 147 ●	羽 釜 須恵器	— — ( 6.0)	しっかりした底部から、外方に直線的に立ち上がる。	内面 横ナデ 底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ	軽石・赤褐色粘土粒を含む	橙 良好	底部 1/2残存 甕
0911 S B 147 ●	羽 釜 須恵器	— — 9.2	平底の内面凹凸のある底部から、直線的に立ち上がる。	内面 ヘラナデ 底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ	軽石・1～2mmの砂粒を含む	灰褐 良好	底部 1/2残存 甕
0912 S B 147 ●	羽 釜 須恵器	— (18.0) —	口縁部は短く内傾し、断面三角形の鑄を貼付する。口唇部は平坦。	口縁部 横ナデ	軽石を含む	にぶい橙 良好	体部欠損 甕
0913 S B 147 ●	羽 釜 須恵器	— (23.1) —	口縁部は短く内傾し、端部外面直立気味に揃み上がる。上向き小さい鑄を貼付する。	口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒・軽石・を含む	にぶい褐 良好	体部欠損 甕
0914 S B 148 ●	皿 灰 釉	2.7 (12.7) 6.8	低い台形の高台を貼付する器内の厚い底部は、緩やかに内湾し、口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 ナデ調整 胴部 ロクロ目痕	長石・石英を含む	白灰 良好	虎溪山 漬け掛け 重ね焼き痕
0915 S B 149 ●	椀 土師器	— (13.2) —	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ	1mmの砂粒を含む	橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0916 S B 149 ○	椀 土師器	( 2.7) (14.0) —	丸底の底部から、内湾して立ち上がり尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	軽石・砂粒を含む	橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0917 S B 149 ●	椀 土師器	( 4.0) (14.0) —	丸底の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。全体に器厚。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	白色砂粒含む	橙 良好	口縁～体部 1/2残存

第Ⅲ章 遺 物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特 徴	成 形・調 整 の 特 徴	胎 土	色 調・焼 成	備 考
0918 S B 149 ●	杯 土師器	— ( 9.8) —	内湾傾向を持つ胴部は、肥厚して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 指オサエ	赤褐色粒・砂粒含む。	にぶい橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0919 S B 149 ●	杯 土師器	( 4.0) (12.4) —	緩やかに内湾して立ち上がり、胴部中央に指おさえによる段を持って丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 1/2残存
0920 S B 149 ○	碗 須恵器	2.0 10.3 5.9	中央より器厚を増す底部は、外方して立ち上がり口縁部は平坦に仕上げ、内面に凹縁がめぐる。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 横ナデ	砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 僅か欠損
0921 S B 149 ○	碗 須恵器	1.7 (10.2) ( 6.2)	一定した器厚の底部は、外方して立ち上がり、丸く終る口縁部に終る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 内面 ナデ	赤褐色粒・砂粒含む 金雲母	明黄褐 良好	口縁～底部 1/2残存
0922 S B 149 ○	碗 須恵器	— (12.0) —	器肉の薄い胴部は、肥厚して丸く終る口縁部に到る。	外面 ロクロ目痕 内面 横ナデ	赤褐色粒・砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	口縁部 1/2残存
0923 S B 149 ●	高台杯 須恵器	— — ( 8.8)	高台部は緩やかなハの字状に開く。	高台部 付高台 横ナデ	1mmの砂粒を含む	にぶい橙 硬質	底部のみ 1/2残存 黒斑あり
0924 S B 149 ●	足高碗 須恵器	— — —	高台を貼付する底部は、器肉が厚くしっくりしている。	高台部 付高台	赤褐色粒・軽石・砂粒	浅黄橙 良好	底部のみ
0925 S B 149 ●	丸 甕 土師器	— (17.1) —	丸味を持つ胴部から、くの字状に短く外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 指頭圧痕 ナデ	軽石を含む	黒褐 良好	体部欠損 須恵質
0926 S B 149 ●	長 甕 土師器	— (18.4) —	僅かに丸味を持つ胴部から、直立気味のくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	2mmの砂粒を含む	橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 須恵質
0927 S B 149 ●	長 甕 土師器	26.8 21.2 ( 5.1)	厚く小さな底部から、内湾して立ち上がり、緩やかに外反するコの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土・軽石を含む	明赤褐 良好	口縁～底部 1/2残存
0928 S B 149 ●	瓶 須恵器	— — (13.1)	広い平底の底部から、直立的に立ち上がる。	内面 ナデ 底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ	小石を含む	灰 良好	胴部～底部 小破片
0929 S B 149 ●	羽 釜 須恵器	— (26.3) —	丸味を持って、水平に張り出す鐏を貼付し、直立的に立ち上がる口縁部に到る。口唇部は尖り気味。	口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒・軽石を含む	にぶい黄橙 良好	体部欠損 甑
0930 S B 153 ○	高台杯 須恵器	— — 6.6	低い高台を貼付する底部は、屈曲気味に立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 ナデケシ 胴部 外面 ロクロ回転のナデ	石英・軽石 黒雲母・砂粒	にぶい橙 良好	口縁部のみ 欠損
0931 S B 153 ○	羽 釜 須恵器	— (26.3) —	緩やかに内湾する胴部は、小さく垂れ気味の鐏を貼付し、内傾気味の口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色粘土粒を含む	明褐 良好	胴下半欠損 甕
0932 S B 155 ●	碗 土師器	3.5 14.0 —	丸底の底部は強く内湾して立ち上がり短く内傾する口縁部に到る。全体に薄い。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	砂粒を含む	にぶい赤褐 良好	口縁～底部 1/2強残存
0933 S B 155 ○	碗 土師器	( 3.9) 13.5 —	丸底の底部は強く内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 無調整	白色軽石粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 1/2残存
0934 S B 155 ●	碗 土師器	3.7 (14.0) —	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、直立して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 1/2残存
0935 S B 155 ○	碗 土師器	( 2.0) (14.0) —	扁平な底部は、屈曲して立ち上がり、強く外反して端部で短く直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を含む	橙 良好	口縁～胴部 1/2残存
0936 S B 155 ○	杯 須恵器	3.9 13.4 7.0	底部から強く内湾して立ち上がり、胴部外面に凹凸を持ち口縁は丸い。	底部 外面 回転糸切り後、周 縁部回転ヘラ調整 胴部 ロクロ目痕	細砂を含む	青灰 良好	口縁～底部 1/2残存
0937 S B 155 ○	杯 須恵器	3.7 (14.0) 7.6	厚い器厚の底部から緩やかに立ち上がり胴部は直線的に開く。口縁部は次第に器厚を減じていく。	底部 外面 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ目痕 胴部 ロクロ目不明瞭	細砂を含む	灰 良好	口縁～底部 1/2残存



1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0938 S B 155 ●	長 甕 土師器	— — 4.8	小さく薄い平底の底部は、直線的に立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	1mmの砂粒を含む	明赤褐 良好	底部～胴部
0939 S B 155 ○	瓶 須恵器	— (27.6) —	頸部先端に全体的に丸味のある緑帯が巡る。	頸部 内外面 横方向ナデ 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰 良好	口縁部 1/4残存
0940 S B 156 ●	碗 土師器	( 3.1) (13.8) —	丸底の底部は強く内湾して立ち上がり、短く内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 1/4残存
0941 S B 156 ○	碗 土師器	( 3.0) (13.2) —	扁平な丸底の底部は、僅かに屈曲して立ち上がり、端部で内傾気味に終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 内外面 ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を含む	にぶい赤褐色 良好	口縁～底部 1/4残存
0942 S B 156 ●	丸 甕 土師器	— (10.4) —	球形気味の胴部から、緩やかなくの字状に外反する、口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	明褐色土・1～2mmの砂粒を含む	橙 良好	口縁～体部 1/4残存
0943 S B 156 ○	長 甕 土師器	— (12.0) —	やや直線的に立ち上がる胴部から短く外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 横ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒砂粒を含む	明赤褐 良好	体部欠損 黒斑あり 須恵質
0944 S B 156 ●	碗 土師器	( 2.7) (11.1) —	扁平な丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、端部で僅かに内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	砂粒を含む	灰褐 良好	口縁～底部 1/4残存
0945 S B 156 ●	碗 土師器	2.0 (15.9) (12.8)	平な底部から、屈曲して立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 横ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	少破片
0946 S B 156 ●	長 甕 土師器	— 20.4 —	丸味を持つ胴部は、くの字状に外反する口縁部に到る。器肉は薄い。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土砂粒を多量に含む	橙 良好	胴部下 半欠損
0947 S B 156 ○	鉢 土師器	— — 7.7	丸底の底部から、強く内湾して立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ	赤褐色粒・黒雲母・石英を含む	にぶい橙 良好	胴部～底部 少破片
0948 S B 157 ○	蓋 須恵器	— (13.4) —	体部は緩やかに外方へ開き、短く直に折れる口縁部に到る。	体部 内外面 回転ナデ 口縁部 横方向ナデ	細砂を含む	灰白 良好	小片2個 内外面 鉄分付着
0949 S B 157 ●	鉢 須恵器	— (16.0) —	強く内湾して立ち上がり、外反する尖り気味の口縁部に到る。	胴部 外面・内面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	黒色斑点	灰白 良好	底部欠損 黒色斑点あり
0950 S B 157 ●	長 甕 土師器	— (20.0) —	器肉の薄い胴部から、コの字状に立ち上がる口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁部1/4 残存
0951 S B 157 ●	長 甕 土師器	— (22.2) —	張りのある胴部から、コの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒多量に含む	橙 良好	口縁部1/4 残存
0952 S B 157 ●	長 甕 土師器	— (22.6) —	丸味のある胴部から、ややコの字状に外反して口縁部に到る。	胴部 外面 上位ヘラケズリ← 中位ヘラケズリ→ 内面 ヘラナデ	砂粒多量に含む	橙 良好	器面が あれている
0953 S B 158 ○	高台杯 須恵器	3.8 ( 8.7) ( 5.2)	外反する高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁～底部 1/4残存
0954 S B 158 ○	高台杯 須恵器	4.9 (12.7) 7.7	だれている低い高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ成形のナデ 内面 ロクロ成形のナデ	3cmの砂粒を含む	灰白 良好	口縁～底部 1/4残存
0955 S B 158 ○	碗 須恵器	— — 5.4	凹凸のある厚い底部から、屈曲して立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り 内面 ロクロ目不明瞭 胴部 ロクロ目不明瞭	細砂を含む	灰白 良好	底部残存
0956 S B 158 ○	碗 須恵器	— — ( 7.1)	中央より器厚を増す底部は、屈曲して立ち上がる。	底部 外面 二重回転糸切り (右) 胴部 外面 ナデ	砂粒含む	灰白 良好	体部～底部 1/4残存
0957 S B 158 ○	碗 須恵器	— — 6.9	上底気味の底部は、緩やかに内湾して立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 回転によるナデ 内面 回転によるナデ	赤褐色粒・砂粒等含む	にぶい橙 良好	体部～底部 1/4残存

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0958 S B 158 ●	丸甕 土師器	— — (6.0)	小さい平底の底部から、外方に直線的に開く。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ	赤褐色粒を含む	にぶい黄橙 良好	底部残存
0959 S B 158 ○	蓋 須恵器	— (13.4) —	丸味を持つ体部から、短く直に折れる口縁部に到る。	体部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰白 良好	少片
0960 S B 158 ○	蓋 須恵器	— (14.4) —	扁平な体部から、短く外傾気味に折れる口縁部に到る。	体部 内外面 回転ナデ 口縁部 横ナデ	長石・小石を含む	明オリーブ灰 良好	少片
0961 S B 158 ○	高台椀 須恵器	— (16.0) —	緩やかに内湾する胴部は、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒含む	浅橙 良好	口縁残存
0962 S B 158 ○	高台椀 須恵器	(5.8) (17.0) —	胴部は、緩やかに立ち上がり、口縁部で僅かに外反して丸く終る。	胴部 内面 棒状ヘラミガキ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	口縁～底部残存
0963 S B 158 ○	椀 灰釉	— — (7.2)	三日月高台を貼付する底部より、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台ナデ 底部 外面 回転ヘラケズリか	精選された胎土 黒色斑点	灰 良好	体部欠損
0964 S B 158 ○	中型甕 須恵器	— (15.8) —	頸部は、外反する。	頸部 内外面とも横方向ナデ	細砂含む	灰 良好	口縁部少片
0965 S B 158 ○	直線甕 土師器	— (20.0) —	直立気味の胴部から、端部で強く外反する。くの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒を含む	黒褐 良好	口縁残存 須恵質
0966 S B 158 ○	直線甕 土師器	— (21.4) —	直線的な胴部から緩やかに外反する、くの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒含む	灰黄褐 良好	体部欠損 須恵質
0967 S B 158 ○	長甕 土師器	— (22.4) —	口縁部はくの字状に、大きく外反する。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部残存
0968 S B 159 ●	椀 土師器	4.3 15.4 9.9	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、端部で僅かに内傾する口縁部に到る。	底部 ヘラケズリ 胴部 ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 強残存
0969 S B 159 ○	椀 土師器	(3.2) (15.0) —	丸底の底部から緩やかに内湾して立ち上がり、短く内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色粒・砂粒	橙 良好	口縁～体部 残存
0970 S B 159 ○	鉢 土師器	— (17.5) —	厚くしっかりした胴部は端部で短く内傾する薄い口縁部に到る。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ	軽石・黒雲母・砂粒	橙 良好	底部欠損
0971 S B 159 ○	長甕 土師器	— (22.9) —	丸味を持った胴部から、くの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒多量に含む	橙 良好	口縁部残存
0972 S B 159 ○	長甕 土師器	— (21.0) —	器肉の薄い丸味のある胴部から、緩やかなくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 横ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒を多量に含む	明赤褐 良好	口縁部残存
0973 S B 159 ○	杯 土師器	(3.9) (11.9) —	厚く内湾する丸底の底部は、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ 後指オサエ	赤褐色粒・砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 残存
0974 S B 160 ○	椀 土師器	(3.6) (14.0) —	丸底の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、直立気味の口縁部に到る。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	底部一部欠損
0975 S B 160 ○	椀 土師器	(2.6) (11.0) —	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 残存
0976 S B 160 ●	杯 須恵器	3.6 (13.6) 7.8	整った底部から強く屈曲して立ち上がり、胴部外面に緩やかな凹凸を持ち、直線的に外方へ開く。	底部 外面 回転糸切り後、周縁ヘラ調整 胴部 外面 ロクロ目不明瞭	長石・赤褐色粒含む	青灰 良好	口縁残存 底部残存
0977 S B 160 ●	杯 須恵器	— — 7.4	底部は厚く、屈曲気味に立ち上がり器厚は、次第に減ずる。	底部 外面 回転ヘラケズリ 内面 ロクロ目痕	細砂を含む	外面 灰白 内面 にぶい橙	良好 底部残存

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0978 S B 160 ○	長 甕 土師器	— — ( 3.0)	平底の小さな底部は、外方に直線的に立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	底部～胴部 欠残存
0979 S B 160 ●	長 甕 土師器	— (20.0) —	器内の薄いやや丸味を持つ胴部は、緩やかなコの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒含む	橙 硬質	口縁部欠残存
0980 S B 160 ●	長 甕 土師器	— (21.2) —	丸味のある胴部から、緩やかなコの字状口縁部に到る。器内は全体に薄い。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒を多量に含む	橙 良好	口縁部欠残存
0981 S B 160 ○	長 甕 土師器	— (20.5) —	丸味のある胴部から、直立気味に立ち上がり、短く外反するコの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒を含む	明赤褐 良好	口縁部欠残存
0982 S B 160 ○	長 甕 土師器	— 20.2 —	やや張りを持つ器内の薄い胴部から、立ち上がり緩やかに外反するコの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁部欠残存
0983 S B 161 ○	椀 土師器	— (12.7) —	胴部は外方に開きながら屈曲気味に立ち上がり、口縁端部で小さく内傾して終る。	胴部 外面 指オサエ後ヘラケズリ 内面 棒状ヘラミガキ	砂粒含む	明赤褐 良好	口縁部欠残存
0984 S B 161 ○	椀 土師器	— (14.5) —	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	黒雲母・砂粒・軽石	橙 良好	欠残存 底部欠損
0985 S B 161 ○	椀 土師器	( 3.0) (13.6) (11.0)	丸底気味の底部は、強く屈曲して立ち上がり、端部で短く立つ口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ 胴部 外面 ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 欠残存
0986 S B 161 ○	椀 土師器	( 3.5) (14.6) —	丸底の底部は、屈曲して立ち上がり、外反して口縁端部で短く立ち上がる。	底部 手持ちヘラケズリ 胴部 手持ちヘラケズリ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 欠残存
0987 S B 161 ○	長 甕 土師器	— (16.5) —	やや丸味のある胴部から、緩やかに外反して、くの字状口縁部に到る。端部は、短く内傾する。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁少々 胴部欠残存
0988 S B 161 ○	長 甕 土師器	— (19.9) —	口縁部は、くの字状に外反する。	胴部 外面 よこヘラケズリ 内面ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒多量に含む	橙 良好	口縁部欠残存
0989 S B 161 ○	長 甕 土師器	— (21.0) —	器内の薄い胴部から、器厚を増しながらくの字状に開く口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒多量に含む	橙 良好	口縁部欠残存
0990 S B 161 ○	長 甕 土師器	— (21.3) —	口縁部は緩やかな、くの字状に外反する。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	赤褐色粒・砂粒含む	橙 良好	口縁部欠残存
0991 S B 161 ○	甕 土師器	— — (16.0)	大きい平底の底部は、直線的に外方に立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	砂粒含む	内面 浅黄橙 外面 にぶい黄褐	良好 底部小片 須恵質
0992 S B 162 ○	椀 土師器	— (12.5) —	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり短く内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 内面 丁寧なナデ	砂粒を含む	橙 良好	口縁部欠残存
0993 S B 162 ○	椀 土師器	( 3.3) (14.0) —	丸底の底部は緩やかに立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 欠残存
0994 S B 162 ○	椀 土師器	— (15.0) —	丸底の底部から、強く内湾して立ち上がり、直立して尖る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	底部欠損
0995 S B 162 ○	高台杯 須恵器	— — (10.1)	尖った低い三角高台を貼付する底部は、均一な器厚を持って立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整 内面 ロクロ目不明瞭	小石を含む	灰白 良好 硬質	体部欠損
0996 S B 162 ○	高台杯 須恵器	7.0 (15.2) 8.4	外反する高台を貼付する底部は、やや強く屈曲して立ち上がり、僅かに外反して丸く終る口縁部。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ成形によるナデ	白色軽石・砂粒含む	灰黄 良好	口縁～胴部 欠残存
0997 S B 162 ○	輪花椀 灰釉	— (17.9) —	緩やかに内湾して立ち上がる胴部から、端部で外反気味に丸く終る口縁部に到る。	胴部 下半回転ヘラケズリ調整 口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰 硬質良好	輪花 漬け掛け 口縁部少片

第III章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
0998 S B 162 ○	碗 灰釉	— — ( 6.1)	短い高台を貼付した一定の器厚の底部から、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 回転ヘラケズリ後 ナデケシ	精選された胎土	灰 良好	底部に残存 重ね焼き痕
0999 S B 162 ○	丸甕 土師器	— 20.4 —	ほぼ球形の胴部から、短いくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒・軽石	にぶい橙 良好	口縁部に 体部少片残存 須恵質
1000 S B 163 ●	杯 土師器	— (15.0) —	外反して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	胴部 外面 指オサエ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁一部 に残存
1001 S B 163 ●	足高碗 土師器	— — ( 7.2)	外に張る高台を貼付する底部は、器肉が薄く凹凸を持つ。	高台部 回転台を使わずに高台 を付けた。 底部 外面 砂底	石英・砂粒含む	にぶい橙 良好	高台部に 残存
1002 S B 163 ●	碗 須恵器	3.7 (11.8) 5.4	中央より器厚を増す底部は、整った曲線を描いて立ち上がり、僅かに内湾する胴部から肥厚して終る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒・砂粒含む	浅黄 良好	口縁一部 に残存
1003 S B 163 ●	碗 須恵器	4.2 11.7 5.6	平底の底部から、屈曲して立ち上がり外反し、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒・砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁一部欠損
1004 S B 163 ●	蓋 須恵器	1.1 (13.7) —	平坦な天井部から緩やかに開き、口縁部短く直に折れる。	天井部 外面 回転ヘラ切り 体部 外面 回転ナデ	細砂を含む	浅黄橙 良好	破片の為 傾き、径 正確でない
1005 S B 163 ●	碗 須恵器	— (14.0) —	緩やかに内湾しながら丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	白色軽石粒含む	黒褐色 良好	くすべ焼き 口縁部に 残存
1006 S B 163 ●	杯 須恵器	3.4 (15.2) ( 9.0)	底部は厚く、腰部緩やかな絞り込みを持ちながら、強く内湾して立ち上がる。	底部 外面 回転ヘラ調整 内面 ロクロ目不明瞭 胴部 ロクロ目不明瞭	細砂を含む	灰白 良好	口縁一部 に残存
1007 S B 163 ●	高台杯 須恵器	4.9 (13.2) 6.6	外反する低い高台を貼付する底部は、均一な器厚を持って立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台付 付高台 底部 外面 右回転糸切り 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む・黒雲母	浅黄 良好	口縁一部 に残存
1008 S B 163 ●	瓶 須恵器	— (18.4) —	肩部の張ると思われる胴部から、外方に開く頸部に到る。	頸部 横方向ナデ	長石・細砂を含む	灰 良好	頸部に 残存
1009 S B 164 ○	蓋 須恵器	— (11.2) —	外方に開く体部から、直に折れる口縁部に到る。端部は平坦で上位に沈線巡る。	体部 外面 ロクロによるナデ 内面 ロクロによるナデ 口縁部 横ナデ	小石を含む	灰 良好	に残存
1010 S B 164 ●	高台杯 須恵器	5.6 (13.2) 6.9	短く粗雑な高台を貼付する底部は屈曲気味に強く内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロによるナデ 内面 ロクロによるナデ	砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	口縁一部 に残存
1011 S B 164 ○	碗 須恵器	— (11.7) —	直線的に開く胴部は、端部で丸く肥厚して終る口縁部に到る。	内面 ナデ 胴部 外面 ナデ	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	口縁部に 残存
1012 S B 164 ●	高台杯 須恵器	— (15.4) —	高台の欠損する底部は、緩やかに立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	胴部 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	細砂を含む	明オリブ 灰	に残存
1013 S B 164 ●	長甕 土師器	— — ( 4.3)	凹む底部は、内湾して立ち上がり外方へ開く。	底部 外面 ナデ 胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ナデ	小石を含む	にぶい黄 良好	胴部一部 に残存
1014 S B 164 ●	大型甕 須恵器	— — —	肩の張る胴部から、立ち上がり、外方に開く頸部。	頸部 外面 波状文	長石・小石を含む	灰 良好	少片
1015 S B 165 ●	碗 土師器	3.4 (12.0) (8.0)	平底気味の底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、外反する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 下部手持ちヘラケズリ 上部無調整	砂粒含む	にぶい橙 良好	底部一部 に残存
1016 S B 165 ●	碗 須恵器	3.5 (12.5) ( 7.4)	厚く一定した底部から強く屈曲して立ち上がり胴部内外面に凹凸を持ちながら口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ目痕 胴部 ロクロ目痕	細砂を含む	緑灰 良好	に残存
1017 S B 165 ○	蓋 須恵器	— — —	宝珠状の摘み。	つまみ 横方向ナデ	細砂含む	灰 良好	つまみ部分 に残存

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1018 S B 165 ○	碗 須恵器	4.1 (12.3) 6.3	中央より器厚を増す底部から内湾して立ち上がり内湾を続け口縁は外反する。	底部 右回転糸切り 胴部 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土 粒・長石・ 小石を含む	明オリブ灰 良好	口縁～底部 残存
1019 S B 165 ●	長 甕 土師器	— — 4.1	平底の底部は、内湾気味に立ち上がり、胴部で丸味を持つ。 器内は薄い。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	砂粒多量に 含む	橙 良好	底部のみ完 形
1020 S B 166 ●	杯 土師器	5.5 15.8 6.7	平底の底部から、緩やかに立ち上がり僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 砂底 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	赤褐色砂粒 含む	にぶい橙 良好	指圧→横ナ デ→ケズリ 全体ゆがみ
1021 S B 166 ●	高台杯 土師器	5.4 14.0 8.4	直線的に外に張り出す高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり端部で内湾する口縁部に到る。	底部 外面 ナデケシ 胴部 外面 指オサエ後ヘラケズリ	赤褐色粒・ 1～3mm 砂粒を含む	にぶい赤褐色 良好	口縁～体部 小片欠損器 高ゆがみ
1022 S B 166 ●	高台杯 須恵器	— — 7.5	短い粗雑な高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がる。	底部 内面 渦文(左) 胴部 外面 ロクロ目痕	軽石・長石 砂粒	灰 良好	底部、体部 の一部欠損
1023 S B 166 ●	碗 灰 釉	— (14.1) —	胴部は緩やかに立ち上がり、口縁端部で短く外傾して終る。	胴部 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	精選された 胎土	灰 硬質良好	内外共全体 に釉
1024 S B 166 ●	丸 甕 土師器	14.8 (14.3) 9.7	折り返る裾部でハの字状の台部を持ち、器厚を増す底部から、球状を持つ胴部。くの字状の口縁部。	台部 横ナデ 胴部 外面 ヘラケズリ↑↘ 内面 ナデ	赤褐色粒・ 砂粒多量に 含む	淡橙 良好	高台はほぼ完 形、本体は 残存
1025 S B 166 ○	長 甕 土師器	— (23.0) —	丸味を持つ胴部は、強くくの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ ヘラナデ 内面 ヘラナデ	1mmの砂粒 含む	にぶい橙 良好	口縁小破片 胴部は残存
1026 S B 167 ●	蓋 須恵器	6.3 23.5 8.0	環状摘みを貼付する天井部は、緩やかに外方へ開き、丸味のある口縁部に到る。	天井部 外面 回転ヘラ切り 体部 外面 回転ヘラ切り 天井部・体部内面 回転ナデ	赤褐色土・ 硬石砂粒を 含む	にぶい橙 良好	は残存 つまみ(環状)
1027 S B 167 ●	長 甕 土師器	— (18.8) —	丸味のある胴部から、コの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ(横) 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂 粒多量に含 む	橙 硬質良好	口縁部は残 存
1028 S B 168 ○	高台杯 須恵器	5.5 (13.5) 6.6	短い高台を貼付する底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、端部で丸く肥厚する口縁部に到る。	高台部 付高台	砂粒含む	灰白 良好	口縁部ほど くゆがんで いる
1029 S B 168 ○	碗 須恵器	— (13.8) —	内湾傾向を持つ胴部は、強く外反する口縁部に到る。	胴部 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	細砂を含む	青灰 良好	口縁部は残 存
1030 S B 168 ●	高台杯 須恵器	— — (7.2)	直線的に外に張り出す端部の丸い高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り	赤褐色粒含 む	灰白 良好	底部のみ残 存
1031 S B 168 ●	丸 甕 土師器	— (15.0) —	丸味のある胴部から、器厚を増し短く外反する、くの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂 粒多量に含 む	浅黄橙 良好	口縁～胴部 は残存 煤 付着須恵質
1032 S B 168 ●	長 甕 土師器	— — (4.2)	平底の薄い底部から、外方に直線的に開く。	底部 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ヘラナデ	1mmの砂粒 含む	外面 黄橙 良好 内面 灰白	底部～胴部 は残存
1033 S B 170 ●	碗 土師器	(3.9) (13.2) —	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部外面 手持ちヘラケズリ 胴部外面 無調整	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 は残存
1034 S B 170 ●	高台杯 須恵器	— (15.3) —	屈曲して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る、全体に肉厚。	高台部 剝離 底部 不明 胴部 ロクロ回転によるナデ	赤褐色粒・ 砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 は残存
1035 S B 170 ●	長 甕 土師器	— (21.0) —	直線的な胴部から緩やかに外反する口縁部は、端部で外稜を持つくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒と 砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 は残存 須恵質
1036 S B 170 ○	長 甕 土師器	— (19.5) —	丸味を持つ胴部から、くの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ↘ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒 含む	赤褐 良好	口縁～胴部 は残存
1037 S B 170 ○	長 甕 土師器	— (22.2) —	肩を持つ胴部から、口縁はくの字状に外反し、端部で外稜を持ち、直立気味に尖る。	胴部 外面ヘラケズリ↓ 内面ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒と 2mmの砂粒 含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 は残存 須恵質

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1038 S B 170 ●	長 甕 土師器	— (20.6) —	丸味を持つ胴部から、緩やかにくの字状に外反し、口縁部に到る。	胴部 外面ヘラケズリへ 内面ナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁～胴部 %残存
1039 S B 170 ●	長 甕 土師器	— 21.3 —	丸味のある胴部から、くの字状に外反し短く厚い口縁部に到る。	胴部 外面ヘラケズリ→↓ 内面ヘラナデ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色粘土粒・含む	にぶい橙 良好	口縁部・体部 須恵質
1040 S B 171 ●	碗 土師器	( 3.6) (12.8) —	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 指ナデ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ	砂粒含む	橙 良好	底部～口縁 %残存
1041 S B 171 ●	碗 土師器	3.4 13.4 —	丸底の底部は強く内湾して立ち上がり、尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ	砂粒を含む	橙 良好	口縁～底部 %欠損
1042 S B 171 ○	碗 土師器	( 3.2) (15.0) —	丸底気味の底部から、内湾して立ち上がり、屈曲した口縁部に到る。	底部 外面ヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 内面 ナデ	砂粒含む	内面 橙 良好 外面 (にぶい橙)	口縁～底部 %残存
1043 S B 171 ○	碗 土師器	( 3.6) (14.4) —	丸底の底部から強く内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 内面 指ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 %残存
1044 S B 171 ●	碗 土師器	— (14.0) —	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり薄くなる口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 指ナデ 胴部 外面 無調整	砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 %残存
1045 S B 171 ○	碗 土師器	( 3.4) (14.4) —	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、端部で丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～体部 %欠損
1046 S B 171 ●	碗 土師器	( 2.7) (12.7) —	丸底気味の底部は、強く内湾して立ち上がり、直立して、内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整	軽石・砂粒を含む	橙 良好	口唇部がかなり薄い
1047 S B 171 ○	碗 土師器	— (15.6) —	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、強く外反する口縁部に到る。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ	砂粒を含む	橙 良好	口縁部のみ %残存
1048 S B 171 ○	碗 土師器	( 4.3) (15.2) —	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、僅かに内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	砂粒を含む	橙 良好	口縁～底部 %残存
1049 S B 171 ○	碗 土師器	( 3.5) (17.6) —	丸底の底部は緩やかに内湾して立ち上がり、短く直立する口縁部に到る。	底部 ヘラケズリ 胴部 外面ヘラケズリ 内面 ナデ	細砂粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 %残存
1050 S B 171 ○	碗 土師器	( 4.4) (16.8) —	緩やかに内湾する底部は、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 丁寧なナデ	黒雲母・砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁%、体部～底部 %残存
1051 S B 171 ○	碗 土師器	( 4.3) (15.6) —	一定した器厚の丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 口縁部 横ナデ	黒雲母・砂粒	にぶい褐 良好	口縁～底部 %残存
1052 S B 171 ○	蓋 須恵器	— (12.8) —	口縁部は端部短く折り返る。	胴部 外面 回転ナデ 口縁部 外面 ナデ	赤褐色粒・軽石・黒雲母含む	浅黄橙 良好	口縁長さ4cmの小破片
1053 S B 171 ●	蓋 須恵器	2.6 12.4 —	摘まみ部の剥離した天井部から、緩やかに開いた口縁部に到る。端部は内稜を持つ。	体部 外面 回転ヘラ切り 内面 回転ナデ 横ナデ	細砂含む	灰白 良好	%残存 裏側にかえりがある
1054 S B 171 ○	丸 甕 土師器	— (14.9) —	丸味のある胴部は、強くくの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 口縁部 外内面 横ナデ	赤褐色粒・砂粒を多量に含む	明赤褐 良好	口縁部%残存
1055 S B 171 ○	丸 甕 土師器	— (21.2) —	丸味を持つ胴部から、短い口縁部が僅かに、くの字状に外反する。	胴部 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	赤 良好	口縁少々残存 須恵質
1056 S B 171 ○	長 甕 土師器	— (26.0) —	やや丸味のある胴部から、外反するくの字状口縁部。	胴部 外面 横ヘラ 斜位ヘラケズリ 内面ヘラナデ	砂粒多量に含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 %残存
1057 S B 172 ●	碗 土師器	3.2 12.6 10.0	扁平な丸底の底部から外面に稜を持って直立し、端部で僅かに内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指ナデ 口縁部 横ナデ	軽石・砂粒含む	にぶい橙 良好	完形

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1058 S B 172 ○	碗 土師器	3.1 12.7 —	扁平な丸底の底部は、屈曲して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ 胴部 外面 無調整	黒雲母・砂粒を含む	橙 良好	ほぼ完形
1059 S B 172 ●	碗 土師器	( 2.9) (12.4) —	中央部で器厚になる丸底の底部は強く内湾して立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 残存
1060 S B 172 ●	碗 土師器	( 2.9) (13.0) —	扁平な丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、短く内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 残存
1061 S B 172 ○	碗 土師器	— 11.9 10.8	丸底気味の底部は、強く屈曲して立ち上がり、薄く直立した口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 指ナデ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 残存
1062 S B 172 ○	碗 土師器	( 3.2) (13.4) —	強く内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁部残存
1063 S B 172 ○	碗 土師器	— (12.8) —	胴部は直線的に立ち上がる。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 丁寧なナデ後斜め 方向棒状ヘラミガキ	精選された胎土	内面 褐灰 外面 (にぶい橙)	良好 口縁残存
1064 S B 173 ●	碗 土師器	( 3.3) (13.0) —	扁平な丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、内湾傾向を保つ口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ	砂粒を多く含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 残存
1065 S B 173 ●	碗 土師器	( 3.4) (13.0) —	丸底の底部から、強く内湾して立ち上がり、尖る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	黒雲母・砂粒を含む	にぶい橙 良好	ほぼ完形
1066 S B 173 ●	長 甕 土師器	— (18.4) —	胴部は丸味を持ち、口縁部はコの字状を呈し、端部は短く外反する。	胴部外面下位 縦位ヘラケズリ 上位 横位ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	赤褐色粒・砂粒多量に含む	橙 良好	口縁～胴部 残存
1067 S B 174 ●	碗 須恵器	4.2 16.0 8.0	凹面をなす底部から、緩やかに、内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 弱いロクロ目痕 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	口縁～底部 約残存
1068 S B 174 ●	碗 須恵器	— — ( 5.0)	小さな底部から、直線的にひろがる体部にうつる。	体部 内外面 丁寧なナデ 底部 外面 糸切り後ナデケン	砂粒を含む	浅黄橙 良好	底部残存
1069 S B 174 ●	高台杯 須恵器	— — ( 8.2)	大きく外反して端部で尖る高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	底部のみ残存
1070 S B 175 ●	碗 土師器	— (11.0) —	丸底気味の底部は、外面に稜を持って立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	胴部 指オサエ後ナデ	赤褐色粒・軽石・砂粒を含む	橙 良好	口縁一部分 残存
1071 S B 175 ●	碗 土師器	( 3.2) (12.1) —	丸底気味の底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、端部で直立して尖る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を含む	橙 良好	口縁～体部 残存
1072 S B 175 ○	碗 土師器	( 4.5) (17.6) —	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 底部・胴部内面 ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～体部 残存
1073 S B 176 ○	杯 土師器	3.9 (11.4) ( 6.6)	丸底気味の底部は、緩やかに立ち上がり、内傾気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	浅黄色 良好	口縁～底部 残存
1074 S B 176 ○	杯 土師器	( 3.7) (11.7) ( 4.2)	胴部は屈曲して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ	軽石・小石を含む	灰白 良好	口縁部残存
1075 S B 176 ○	高台杯 土師器	( 4.8) (13.9) ( 4.9)	高台を欠損する底部は、屈曲して立ち上がり、僅かに内湾気味の口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ	1mm程の白色黒色砂粒少量含む	にぶい橙色 良好	口縁～底部 残存
1076 S B 176 ○	鉢 土師器	— (17.6) —	直線的な胴部は、外方へ開き素直に口縁部に到る。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ 口縁部 横ナデ	1～4mmの小石を含む	橙 良好	口縁～体部 残存
1077 S B 176 ○	碗 須恵器	3.7 6.9 4.8	中央より器厚を増す底部から、整った曲線を描いて立ち上がり、素直に口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り	2mm程度の砂粒を少量含む	浅黄色 内面 黒	良好 口縁～底部 残存

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1078 S B 176 ●	碗 須恵器	3.2 10.0 5.5	厚くしっかりした底部から、緩やかに立ち上がり、外反して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	ほぼ完形
1079 S B 176 ●	碗 須恵器	( 3.4) (11.2) 6.0	厚くしっかりした底部から、直線的に立ち上がり、口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 丁寧なナデ 内面 丁寧なナデ	砂粒を含む	灰黄 良好	口縁~底部 %残存
1080 S B 176 ●	碗 須恵器	4.2 (10.5) 5.2	中央より器肉を増す底部は、内湾して立ち上がり、僅かに外反する尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒含む	にぶい褐 良好	口縁部% 体部~底部 残存
1081 S B 176 ○	碗 須恵器	4.2 11.0 4.6	平底で小さい底部は、整った曲線を描いて立ち上がり、外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	3mmの小石を少量含む	灰黄色 良好	完形
1082 S B 176 ○	碗 須恵器	3.6 (11.4) 4.8	厚くしっかりしたやや小さめの底部は、緩やかに屈曲して立ち上がり、素直に、口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 荒いナデが残る	赤褐色粒含む	にぶい褐 良好	口縁部% 底部残存
1083 S B 176 ○	碗 須恵器	— — ( 5.4)	底部は厚く強く屈曲して立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り	軽石砂粒を含む	灰白 良好	黒斑あり
1084 S B 176 ○	碗 須恵器	— — 11.4	厚くしっかりした底部は、強く屈曲して立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り	砂粒含む	黄灰 良好	底部のみ残存
1085 S B 176 ○	碗 須恵器	— — ( 5.2)	中央より肥厚する底部から屈曲して立ち上がり、胴部は内湾傾向を保つ。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	軽石砂粒・小石を含む	灰白 良好	底部%残存
1086 S B 176 ●	羽釜 須恵器	— — ( 5.0)	底部は厚く、屈曲して立ち上がる。	底部 外面 調整不明 内面 ロクロ目痕 胴部 ナデ	細砂を含む	灰白 良好	体部欠損 欠
1087 S B 176 ○	碗 須恵器	— — ( 5.2)	厚くしっかりした底部から立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ	黒雲母・砂粒含む	浅黄 良好	底部のみ% 残存
1088 S B 176 ○	高台杯 須恵器	4.6 (12.0) 6.2	外反する高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り	砂粒多く含む	黒褐色 良好	口縁~体部 %残存 高台部完形
1089 S B 176 ●	高台杯 須恵器	4.35 13.2 6.8	短い、やや粗雑な高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒含む	灰黄色 良好	完形 口縁に炭化 物付着
1090 S B 176 ○	高台杯 須恵器	5.3 (13.3) 6.8	短い高台を貼付する底部は屈曲して立ち上がり薄くなる口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒含む	灰白色 不良	口縁部% 底部残存
1091 S B 176 ●	高台杯 須恵器	— — 8.7	外反する丁寧な高台を貼付する。	高台部 付高台	少量の砂粒含む	灰白色 良好	高台部% 残存
1092 S B 176 ○	高台杯 須恵器	— — 7.2	外反する高台を貼付する。	高台部 付高台	白色砂粒含む	にぶい橙 断面 橙	高台~底部 残存
1093 S B 176 ●	高台杯 須恵器	— — 6.2	短い高台を貼付する底部は、中央より器厚。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り	砂粒含む	橙 良好	底部のみ残存
1094 S B 176 ○	高台杯 須恵器	— — 6.8	外反する高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	赤褐色砂粒を含む	にぶい橙色 良好	底部~高台 部%残存
1095 S B 176 ●	高台杯 須恵器	— — 6.3	僅かに外反する高台を貼付する底部は、強く内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 体部 外面 ロクロによるナデ	砂粒含む	橙 良好	体部下半~ 底部残存
1096 S B 176 ○	足高碗 須恵器	— — ( 9.7)	直線的に外に張る高い高台を貼付する。	高台部 付高台	赤褐色粒を少量含む	橙色 良好	高台部% 残存
1097 S B 176 ○	碗 灰 軸	— — ( 7.1)	低い高台を貼付する。器厚の一定した底部より、立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 ナデケジ	精選された胎土	淡黄 良好	底部% 残存



1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1098 S B 176 ○	碗 灰釉	— — 6.5	短い高台を貼付する器内の厚い底部から、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 糸切り後ナデケン 胴部 回転ヘラケズリ調整	精選されている	灰白 良好	重ね焼き痕 底部のみ残存
1099 S B 176 ○	碗 灰釉	— — 8.8	しっかりした高台を貼付する器厚の一定の底部から、外方に開く。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 ナデ調整	砂粒を含む	灰白 良好	底部～高台 片残存
1100 S B 176 ○	丸 甕 土師器	— (22.0)	丸味のある胴部から、くの字状に外反する、口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ単位不明瞭 内面 横方向ナデ	赤褐色粒 黒色粒少量	にぶい橙 含む	良好 口縁部片残存 須恵質
1101 S B 176 ○	長 甕 土師器	— — —	胴部は緩やかに立ち上がる。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	1mmの砂粒含む	橙 良好	胴部 破片 1片
1102 S B 176 ●	羽 釜 須恵器	— — (26.5)	器肉が厚く端部で丸味を持つ脚部より、直線的に外反して胴部に到る。	脚部 横ナデ 胴部 外面 ナデ後ヘラケズリ 内面 ナデ	5mm程の黒色の石含む	にぶい黄橙 良好	断面は灰色 胴下部～底部 片 甕
1103 S B 177 ●	碗 須恵器	3.6 (11.4) (5.8)	中央より器肉を増す底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り	砂粒含む	黒 良好	口縁～底部 片残存
1104 S B 177 ●	碗 須恵器	— (11.8) 5.3	平底の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 指頭痕 胴部 外面 ロクロによるナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 片残存
1105 S B 177 ●	碗 須恵器	3.5 (12.8) (6.9)	緩やかに内湾して立ち上がる胴部は、外反して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒含む	外面 にぶい黄橙 内面 黒褐色 良好	口縁～底部 片残存
1106 S B 177 ○	高台杯 須恵器	— — 6.0	短い粗雑な高台を貼付する底部は、器肉が厚くしっかりしている。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 横ナデ	白色砂粒を少量含む	灰白 良好	底部のみ残存
1107 S B 177 ○	高台杯 須恵器	— — (6.6)	外反する高台を貼付する底部は、内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 胴部 内外面 ロクロ成形	赤褐色粒を含む	橙 良好	体部下半片 残存
1108 S B 177 ○	長頸瓶 灰釉	— — 8.3	歪む高台を貼付し、内面屈曲している底部から、直線的に立ち上がる。	底部 外面 糸切り後ナデ調整 内面 右ロクロ目痕 胴部 外面 回転ヘラケズリ	精選された胎土	灰白 良好	底部のみ残存 内側無調整突起有
1109 S B 178 ○	碗 土師器	— (9.3)	胴部は外面に稜を持って、強く外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	底部 欠損
1110 S B 178 ○	碗 土師器	— (16.0)	僅かに内湾する胴部は、緩やかに外反する薄い口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒を含む	浅黄橙 良好	口縁部煤付着 墨書あり
1111 S B 178 ●	碗 土師器	(3.8) (13.3)	一定した器厚の丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、直立して端部で僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ 底部・胴部 内面 ナデ	5mmの小石含む	橙 良好	片残存 外面観察不可能
1112 S B 178 ●	高台杯 土師器	5.3 (13.5) 6.8	内湾する高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、直立気味に丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 切り離し後指ナデ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 上部指オサエ	砂粒多量含む	にぶい橙 良好	底面に指ナデあり
1113 S B 178 ○	羽 釜 須恵器	— — —	平坦な端部から、外反気味に立ち上がる。	脚部 外面 横方向ナデ 内面 横方向ナデ	赤褐色粒含む	淡赤橙 良好	小片 甕 端部欠損により再利用
1114 S B 178 ○	羽 釜 須恵器	— — (25.0)	僅かに凹む端部から、緩やかに立ち上がる。	脚部 外面 横方向ナデ 内面 横方向ナデ	1mmの砂粒含む	明赤褐 良好	底部少々 甕
1115 S B 178 ●	羽 釜 須恵器	— — (28.0)	僅かに凹む端部から、緩やかに立ち上がる。	脚部 外面 横方向ナデ 内面 横方向ナデ	1mmの砂粒多量に含む	淡黄 良好	底部少々 甕
1116 S B 178 ●	碗 須恵器	2.7 8.9 5.3	一定した器厚の底部は、強く内湾して立ち上がり、外反気味の口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り	砂粒多数含む	浅黄橙 硬質 良好	口縁～底部 片残存
1117 S B 178 ●	碗 須恵器	(2.8) (9.6) (5.4)	厚くしっかりした底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、素直に口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	砂粒・暗褐色土粒を含む	にぶい黄橙 硬質 良好	口縁～底部 片残存

第Ⅲ章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特 徴	成 形・調 整 の 特 徴	胎 土	色 調・焼 成	備 考
1118 S B 178 ○	椀 須恵器	3.1 (10.5) ( 6.9)	平底の底部は緩やかに内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る全体が肉厚。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ成形のナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を含む	浅黄橙 良好	底部一部欠損
1119 S B 178 ○	椀 須恵器	3.9 (10.6) 5.2	一定した器厚の底部から、内湾して立ち上がり、内湾傾向を保ち、強く外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	暗褐色土・砂粒を含む	橙 良好	欠残存
1120 S B 178 ○	椀 須恵器	3.7 (13.1) ( 8.2)	底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、素直に口縁部に到る。	底部 外面 静止糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒・砂粒を含む	浅黄橙 良好	欠残存
1121 S B 178 ●	椀 須恵器	— — 5.8	一定した器厚の底部から緩やかに内湾して立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ	赤褐色土粒・砂粒含む	にぶい黄橙 良好	底部のみ完形
1122 S B 178 ●	高台杯 須恵器	— — 6.7	粗雑な尖った高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り	赤褐色粒含む	灰白 良好	高台部残存
1123 S B 178 ○	高台杯 須恵器	4.1 (12.4) ( 6.9)	外に張りだす高台を貼付する底部は、強く内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	暗褐色土粒を含む	橙 良好	欠残存
1124 S B 178 ●	高台杯 須恵器	— 10.4 —	高台を欠損する底部は、強く内湾して立ち上がり、直立して丸く終る。	高台部 剥落 底部 内面 渦文左 胴部 外面 ロクロ目痕	3mm砂粒暗褐色土粒を含む	にぶい黄橙 良好	欠残存
1125 S B 178 ○	足高椀 須恵器	— — (10.4)	直線的に外に張る高い高台を貼付する。	高台部 付高台	赤褐色土粒・砂粒含む	橙 良好	高台部のみ欠残存
1126 S B 178 ●	足高椀 須恵器	— — —	屈曲気味で器高の高い高台を貼付する底部は、緩やかに外方に立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 ナデ 内面 ロクロ目痕	金雲母含む	にぶい黄橙 良好	底部のみ
1127 S B 178 ○	羽 釜 須恵器	— — ( 7.6)	小さい凹凸した底部から立ち上がる。	底部 敷物の圧痕あり	赤褐色土粒含む	外面(灰褐) 内面 橙	底部欠残存
1128 S B 178 ●	羽 釜 須恵器	— — ( 5.0)	小さい底部から、肥厚して立ち上がる。	底部 外面 木葉痕あり	赤褐色土粒・2mmの砂粒含む	橙 良好	底部～胴部欠残存
1129 S B 178 ●	椀 須恵器	3.1 10.6 6.0	厚くしっかりした底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	2mmの砂粒を含む	橙 硬質 良好	口縁～底部欠残存
1130 S B 178 ○	椀 須恵器	— (10.5) —	内湾傾向を持つ胴部は、僅かに外反し尖る口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒・砂粒含む	橙 良好	底部欠損
1131 S B 178 ○	椀 須恵器	3.6 (10.8) ( 6.2)	平底の底部は、整美な曲線を描いて立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒を含む	灰黄 良好	口縁～底部欠残存
1132 S B 178 ●	足高椀 須恵器	— — ( 8.5)	器肉は薄い、高くしっかりした高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り後ナデ	砂粒を多数含む	橙 硬質 良好	底部 外面 墨書 平と読める
1133 S B 178 ○	長頸瓶 須恵器	— ( 6.0) —	頸部は、やや外方へ直線的に立ち上がる。	口縁部 外面 頸部に急角度の ロクロ目痕 内面 ナデ	長石含む	青灰 良好	少片 中型瓶
1134 S B 178 ●	高台椀 須恵器	( 5.2) (12.2) 6.0	直線的に外に張る高台を貼付する底部は、強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する薄い口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 内面 棒状ヘラミガキ 胴部 内面 棒状ヘラミガキ	2.5mmの砂粒を含む	浅黄橙 良好	口縁～底部欠残存
1135 S B 178 ●	高台椀 須恵器	5.8 (14.5) ( 7.1)	外反する高台を貼付する底部は、強く内湾して立ち上がり、素直に丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ナデ 内面 棒状ヘラミガキ	暗褐色土を含む	橙 良好	口縁～底部欠残存
1136 S B 178 ●	皿 灰釉	2.2 (13.3) ( 7.4)	低い高台を貼付し、一定の器厚の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、外反気味の口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	精選された砂粒含む	灰白 硬質 良好	欠残存 内外面に煤付着
1137 S B 178 ○	皿 灰 釉	— (13.7) —	外面凹凸の胴部から、やや外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	精選された砂粒含む	灰 良好	口縁部少片 外側釉の境目、不明瞭

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1138 S B 178 ○	椀 緑釉	— — —	化破片の器形不明	丁寧な器表面に施釉されて、定着も安定している。	軟胎	緑釉 良好 断面 灰白	破片 内外面施釉
1139 S B 178 ●	長 甕 土師器	— — —	張りのない胴部から、外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 横方向ナデ、ヘラケズリ→	赤褐色粒と1mmの砂粒含む	にぶい赤褐 良好	胴部破片1片 須恵質
1140 S B 178 ●	羽 釜 須恵器	— — —	直線的な胴部を持つ羽釜。鏝は口径にくらべて小さい。	胴部 外面 縦ヘラケズリ 内面 ナデ	1mmの砂粒含む	橙 良好	小片 甕破片少しの為、不正確
1141 S B 179 ●	椀 土師器	— (11.2) —	丸底の底部は、腰部に強い張りを持ち、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 内外面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・軽石含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/2残存
1142 S B 179 ○	椀 須恵器	( 2.4) ( 8.6) ( 4.4)	平底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 横方向のナデ	砂を少量含む	にぶい黄橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1143 S B 179 ○	椀 須恵器	— (10.5) —	内湾傾向を持つ胴部は、尖り気味の口縁部に到る。	胴部 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	軽石・砂粒を含む	灰 良好	少片
1144 S B 179 ○	椀 須恵器	— (11.6) —	直線的に開き、丸く肥厚して終る。	胴部 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	細砂を含む	オリーブ灰 良好	少片
1145 S B 179 ●	椀 須恵器	( 2.8) (10.0) ( 5.9)	厚く、僅かに凹面をなす底部は、整った曲線を描いて立ち上がり、やや屈曲して胴部、口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	2～3mmの赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 残存
1146 S B 179 ●	椀 須恵器	3.1 10.4 7.0	厚くしっかりした底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、素直に口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1147 S B 179 ●	椀 須恵器	2.5 10.2 6.0	一定した器厚の底部は、内面に凹部を作って立ち上がり、内湾する胴部から素直に口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	砂少量含む	にぶい橙 良好	完形
1148 S B 179 ○	椀 須恵器	3.5 (10.0) ( 4.8)	一定した器厚の底部は、整った曲線を描いて立ち上がり、素直に口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒含む。砂粒多い	暗赤灰 断面一赤	良好 内外面くすべ
1149 S B 179 ○	椀 須恵器	3.3 10.5 6.5	僅かに凹面をなす底部から、整った曲線を描いて立ち上がり、素直に口縁部に到る。全体に肉厚。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	暗褐色土粒砂粒を含む	橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1150 S B 179 ●	椀 須恵器	3.6 11.6 6.3	厚くしっかりした底部から、腰部でさらに器厚を増し、緩やかに内湾して立ち上がり、口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	ほぼ完形
1151 S B 179 ●	足高椀 須恵器	— — 7.0	直線的に外に張り出す高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	高台部のみ 完形
1152 S B 179 ●	足高椀 須恵器	— — ( 7.7)	直線的に外反する高台を貼付する。	底部 外面 回転糸切り 内面 ナデ	赤褐色粒・長石混入	橙 良好	高台部1/2 残存
1153 S B 179 ○	高台杯 須恵器	— — ( 6.5)	強く開く低い高台を貼付する底部は、内湾して立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り 内面 ナデ 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒を含む	にぶい橙 良好	体部～底部 1/2残存
1154 S B 179 ○	足高椀 須恵器	— — ( 9.0)	強く外反する高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	底部1/2欠損
1155 S B 179 ○	高台杯 須恵器	— — ( 7.2)	直線的に外に張る貼付する底部から、強く内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好 硬質	体部1部分 高台部1/2 残存
1156 S B 179 ○	高台杯 須恵器	5.0 10.4 ( 5.8)	外面に稜を持つ短い高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ目痕	4mm大の長石混入	黄灰 良好	口縁～底部 1/2残存 粗雑
1157 S B 179 ●	足高椀 須恵器	7.1 (13.5) ( 8.2)	器高の高い高台を貼付する底部は屈曲気味に立ち上がり、外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 糸切り後ナデ 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 1部分

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1158 S B 179 ●	高台椀 内黒土器	— — —	一定した器厚の底部から、緩やかに立ち上がる。	底部 内面 渦文 胴部 外面 ナデ 内面 ヘラミガキ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好	底部のみ残存
1159 S B 179 ●	高台椀 内黒土器	— — —	僅かに開く高台を貼付する底部は、厚くしっかりしている。	高台部 付高台 底部 回転糸切り（方向不明）	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	底部のみ残存
1160 S B 179 ○	高台椀 内黒土器	— (12.4) —	強く内湾する胴部は、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 内面 ヘラミガキ	赤褐色粒・砂粒含む	橙 良好	胴部内面は使用による磨減激しい
1161 S B 179 ○	皿 灰釉	( 2.6) (12.0) 6.4	低い高台を貼付する一定の器厚の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、小さく終る口縁部に到る。	高台部 付高台 ナデ 底部 回転糸切り後ナデ調整	精選された胎土	灰白 良好	底部に残存 重ね焼き痕
1162 S B 179 ○	椀 灰釉	( 4.4) 13.3 ( 6.5)	高台を貼付し丸底気味の底部から、内湾して立ち上がり、口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り 胴部 ロクロ目痕	精選された胎土	淡黄 良好	漬け掛け 重ね焼き痕
1163 S B 179 ○	長頸瓶 灰釉	— 14.4 —	器内の薄い口縁部は、外反し縁帯を持つ。	口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰白 良好	口縁少片
1164 S B 179 ○	四足壺 緑釉	( 6.7) ( 3.4) —	器内の薄い肩部に、横に突帯を繞らし、縦の突帯が貼られている。	器表面が荒れている為、観察不明	精選された胎土	外面 灰白 内面 黒	小破片であるが貴重品と考え復元
1165 S B 179 ●	直線甕 土師器	— (17.6) —	直線的な胴部から、強く外反するくの字状口縁部は、外稜を持つ。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒多量に含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 残存 須恵質
1166 S B 179 ●	羽釜 須恵器	— — ( 7.0)	平底の底部から、直線的に外方に大きく開いて立ち上がる。器肉は厚い。	底部 外面 ナデ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	1mmの砂粒含む	にぶい黄橙 良好	底部～胴部 残存 甕
1167 S B 179 ●	羽釜 須恵器	— (20.8) —	丸味を持つ胴部から、断面三角形の小さな鐙を貼付し、内湾する口縁部に到る。端部は平坦。	胴部 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒多量に含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 残存
1168 S B 179 ●	羽釜 須恵器	— (22.0) —	直立的に立ち上がる胴部から、断面三角形の鐙を持ち、口縁部でやや内湾して終る。	胴部 外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	3mmの砂粒含む	橙 良好	口縁が少ない為、正確でない。甕
1169 S B 179 ●	羽釜 須恵器	— (24.0) —	底部はハの字状に開き、端部は縁帯をなす。縁帯は中央が凹んでいる。	脚部 外面 横方向ナデ 内面 横方向ナデ	石英・赤褐色粒・細石 砂粒含む	オリーブ灰 良好	底部に残存 内面に煤が付着。甕
1170 S B 180 ●	高台椀 須恵器	— (14.0) —	強く内湾して立ち上がる胴部は、素直にやや尖り気味の口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 棒状ヘラミガキ	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい黄橙	口縁～体部 残存
1171 S B 180 ○	羽釜 須恵器	— (17.4) —	直立的な胴部は、断面三角形に下る鐙を貼付し、口縁部でやや外反する。端部は平坦。	口縁部 横ナデ	5mmの小石を含む	灰白 良好	口縁少々 黒斑 甕
1172 S B 181 ○	椀 須恵器	— (12.2) —	僅かな内湾傾向を持つ胴部は、外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰白 良好	少片
1173 S B 181 ●	椀 須恵器	— (11.0) —	胴部は、内湾傾向を持ち、肥厚して丸く終る口縁部に到る。	胴部 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	軽石・砂粒含む	灰白 良好	口縁～胴部 残存
1174 S B 181 ○	椀 須恵器	( 3.5) (10.5) ( 6.0)	凹面をなす底部から、強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。口縁部は薄くなる。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒	にぶい橙 良好	口縁～底部 残存
1175 S B 181 ●	椀 須恵器	( 3.0) (10.5) ( 5.5)	中央より器厚を増す平底の底部は緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する尖り気味の口縁部。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	3mmの大小の石を含む	橙 良好	作り方が、粗雑である
1176 S B 181 ●	杯 須恵器	3.7 (10.9) ( 6.2)	中央より器厚を増す底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 静止糸切り 胴部 外面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒多く含む	橙 良好	口縁～底部 残存
1177 S B 181 ●	椀 須恵器	4.0 11.9 5.6	平底の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 ナデ	砂粒多い	灰白 良好	口縁～胴部 底部残存

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1178 S B 181 ○	高台杯 須恵器	— (12.9) —	高台の欠損する底部は、緩やかに立ち上がり、薄くなる口縁部に到る。	高台部 剥離 胴部 外面 ロクロ目不明瞭	赤褐色粒・ 軽石・砂粒	橙、灰褐 良好	口縁～底部 1/2弱残存
1179 S B 181 ●	高台杯 須恵器	— (7.0) —	丸く終る低い高台を貼付する厚くしっかりした底部は、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 切り離し後ナデ 内面 ロクロ目痕	細砂を含む	明青灰 良好	底部残存
1180 S B 181 ●	高台杯 須恵器	5.0 11.1 7.4	外反する高台を貼付する底部は、強く内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ナデ	赤褐色粒含 む	浅黄橙 良好	底部内ひび 割れ、口縁 がひびつ
1181 S B 181 ○	高台杯 須恵器	4.4 (11.8) (6.8)	外反する高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含 む	黄橙 良好	口縁1/4底部 1/2残存
1182 S B 181 ●	高台杯 須恵器	5.4 13.4 6.6	外に張り出す尖った高台を貼付する底部は緩やかに立ち上がり、僅かに外反気味の口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 回転糸切り後ナデ消し 胴部 外面 ロクロ目痕 ナデ	赤褐色粒含 む	橙 良好	石英混入
1183 S B 181 ○	高台杯 須恵器	5.3 (13.5) 8.3	外反する高台を貼付する厚い底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 ロクロ目痕沈線 内面 横ナデ	赤褐色粒を 含む	にぶい黄橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1184 S B 181 ●	足高皿 須恵器	— (13.3) —	器厚を次第に減ずる胴部は、内湾気味に終る口縁部に到る。	胴部 外面 回転によるナデ 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含 む	橙 良好	口縁のみ1/2 残存
1185 S B 181 ●	高台椀 内黒土器	— (17.0) —	胴部は器厚で、口縁部は尖る。	胴部 外面 ナデ 内面 ヘラミガキ	3mm大の軽 石・黒雲母 砂粒含む	黒褐色 良好	口縁3cm片
1186 S B 181 ○	椀 内黒土器	(4.1) (14.5) (8.0)	丸底気味の底部は、強く内湾して立ち上がり、端部で短かく外反する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ヘラミガキ 胴部 外面 ロクロ状の沈線	赤褐色粒含 む	にぶい橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1187 S B 181 ●	高台椀 内黒土器	4.0 11.0 5.2	小さいが丁寧な高台を貼付する底部は、強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外内面 棒状ヘラミガキ 胴部 外内面 棒状ヘラミガキ	精選された 胎土	黒褐色 良好	全体研磨
1188 S B 181 ●	高台椀 内黒土器	5.7 12.7 5.7	外反する高台を貼付する小さい底部は、強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ目痕 腰部 稜線を持つ	微細砂・軽 石	外面 良好 浅黄橙	体部下位に 二次調整し ている
1189 S B 181 ○	椀 灰釉	— (7.7) —	三日月高台を貼付する底部から、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 回転糸切り 胴部 回転ヘラケズリ調整	精選された 胎土	灰 良好	底部残存 外面 釉の 境 不明瞭
1190 S B 181 ○	皿 灰釉	2.3 11.6 7.0	低い高台を貼付する器内の厚い底部から、直線的に外方へ開き、口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 右回転糸切り 胴部 ロクロ目痕	精選された 胎土	灰白 硬質	1/2弱残存 漬け掛け 重ね焼き痕
1191 S B 181 ●	皿 灰釉	2.4 12.9 7.2	低い高台を貼付する底部より、緩やかに外方に開き、口縁端部で細く終る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 ナデ調整 胴部 ロクロ目痕	精選された 胎土	灰白 良好	定型 内外面煤 附着
1192 S B 181 ●	輪花皿 灰釉	3 13.6 7.5	低い高台を貼付する器内の厚い底部から、緩やかに外方に開き、小さく外反気味に終る口縁部に到る。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 右回転糸切り 胴部 ロクロ目痕	精選された 胎土	灰白 良好	口縁一部欠 損、重ね焼 き痕 輪花
1193 S B 181 ○	椀 灰釉	— (8.7) —	三日月高台を貼付し、胴部は緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ 底部 切り離し法不明ナデ消し 胴部 回転ヘラケズリナデケシ	精選された 胎土	灰 良好	底部少々
1194 S B 181 ○	長頸瓶 灰釉	— (13.3) —	外反する三角高台を貼付する器内の厚い底部から、胴部内面に歪みを持ち直線的に立ち上がる。	底部 外面 切り離し技法不明 回転ヘラケズリ 胴部 外面 回転ヘラケズリ	精選された 胎土	灰 良好	底部～体部 残存
1195 S B 181 ●	長 甕 土師器	— (16.0) —	胴部に僅かに肩を持ち、口縁部は強く外反するくの字状口縁部。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁 外内面 横ナデ	赤褐色粒含 む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 須恵質
1196 S B 181 ○	直線甕 土師器	— (18.4) —	張りの無い胴部から、短く外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヨコヘラケズリ 内面 ヨコヘラナデ 口縁部 ヨコナデ	赤褐色粒含 む	くすんだ 灰黄褐	口縁1/2残存
1197 S B 181 ○	長 甕 土師器	— (23.0) —	器内の厚い口縁部は短く外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒と 2mmの砂粒 を含む	にぶい橙 良好	口縁1/2残存 須恵質

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1198 S B 181 ●	羽釜 須恵器	— — (7.0)	肥厚なしっかりした底部から、外方に立ち上がる。	底部 砂底	2mmの砂粒を含む	浅黄橙 良好	底部に残存 塵
1199 S B 181 ●	羽釜 須恵器	— (24.5) —	張りの無い胴部は外方に立ち上がり、断面三角形の鏝を貼付し、外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤色粘土粒を含む	橙 良好	に残存 復元不安定 甌
1200 S B 181 ○	羽釜 須恵器	— — —	直線気味の胴部は、断面台形を呈す。	胴部 外面 回転によるナデ 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	3mmの砂粒を含む	褐灰 良好	少破片 少しの為、 不正確
1201 S B 181 ○	羽釜 須恵器	— — (9.0)	八の字状の脚部と胴部との接合部は、器内が厚くなる。	脚部 横ナデ 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	1mmの軽石 赤褐色粒を含む	橙 良好	底部に残存 外面スス付 着 甌
1202 S B 181 ○	羽釜 須恵器	— — (30.0)	丸味のある端部から立ち上がる。	脚部 外面 横方向ナデ	赤褐色粒を含む	橙 良好	少破片 不正確甌
1203 S B 181 ○	大型甕 須恵器	— (26.5) —	大きく張る肩部。	肩部 外内面 たたき目痕 頸部 肩部外面 横方向のナデ	長石・軽石 砂粒を含む	灰 良好	肩部に残存
1204 S B 181 ○	瓶 須恵器	— — (14.6)	底部から、直線的に外方に立ち上がる。	底部外面 切り離し技法不明 胴部外内面 研磨に近く平滑である	長石・細砂を含む	灰 良好	底部に体部 少片
1205 S B 182 ●	杯 須恵器	3.7 10.8 5.8	中央より器厚を増す底部は、やや強く屈曲して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 静止糸切り 内面 左渦文	赤褐色土を含む	浅黄橙 良好	口縁に体部 に残存、底 部完形
1206 S B 182 ●	椀 須恵器	4.3 12.0 5.2	厚くしっかりした底部から、整美な曲線を描いて立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 渦文 胴部 内面 ナデ	2mmの砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	完形
1207 S B 182 ○	高台杯 須恵器	4.0 (11.5) 6.2	外反する高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色土を含む	浅黄 良好	口縁一部欠 損
1208 S B 182 ○	椀 須恵器	— (15.1) —	僅かに内湾する胴部は、屈曲気味に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	軽石・黒雲母・砂粒	灰黄 良好	口縁に体部 に残存
1209 S B 182 ○	椀 須恵器	— (8.8) —	緩やかに内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	軽石・砂粒を含む	灰 良好	少破片
1210 S B 182 ○	足高椀 須恵器	— — 8.8	高台は器内が厚く外反している。	高台部 付高台	砂粒を含む	黒 良好	高台残存
1211 S B 182 ○	高台椀 須恵器	— (15.0) —	中心部程、器内の厚い底部は強く内湾して立ち上がり、僅かに口縁端部で外反する。	底部 外面 回転糸切り 内面 棒状ヘラミガキ 胴部 内面 棒状ヘラミガキ	赤褐色土を含む	にぶい黄橙 良好	に残存
1212 S B 182 ●	高台椀 須恵器	— (14.7) —	強く内湾して立ち上がる胴部は、外反してから、端部で短く直立し丸く肥厚して終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ成形によるナデ 胴部 内面 棒状ヘラミガキ	赤褐色粒を含む	橙 良好	口縁に体部 に残存
1213 S B 182 ○	高台椀 須恵器	— (15.0) —	内湾傾向を持つ胴部は僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 棒状ヘラミガキ	赤褐色粒を含む	浅橙 良好	口縁に残存
1214 S B 182 ●	高台椀 須恵器	— — —	高台部の欠損する底部は、緩やかに立ち上がる。	高台部 剥離 胴部 内面 棒状ヘラミガキ	砂粒を含む	にぶい橙 良好	体部に底部 残存
1215 S B 182 ●	高台椀 須恵器	— — 6.8	外に張るしっかりした高台を貼付する。	底部 外面 回転糸切り 内面 ロクロ状の沈線	赤褐色粒・砂粒を含む	灰黄 良好	高台部のみ
1216 S B 182 ●	羽釜 須恵器	— (17.8) —	直立的な胴部は、断面三角形の鏝を貼付し口縁部に到る。鏝に沈線巡る。	胴部 外面 横ナデ 内面 横ナデ	1mmの砂粒を含む	灰白 良好	口縁に残存 甌
1217 S B 182 ○	椀 灰釉	— (2.8) —	丸く立ち上がる胴部は、外反気味の口縁部に到る。	胴部 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰 良好	口縁少片

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1218 S B 182 ○	長頸瓶 灰釉	— (15.7) —	外方に開く口縁部は緑帯を持つ。 端部はやや尖る。	口縁部 横ナデ	精選された胎土	内面 灰 良好 外面 オリーブ灰	内側全体に釉
1219 S B 182 ○	鉢 土師器	— (16.0) —	器肉は厚く、僅かに内湾する胴部から、端部に面を持ち外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 口縁部 横ナデ	細砂粒含む	浅黄橙 良好	口縁部残存
1220 S B 182 ●	碗 灰釉	— (7.7) —	三日月形のしっかりした高台を貼付する、肥厚の底部から、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 ナデケン 胴部 外面 ロクロ目痕	精選された胎土	灰白 良好	底部少片 重ね焼き痕
1221 S B 182 ○	碗 灰釉	— (6.7) —	小さな三角高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 回転ヘラケズリ 胴部 外面 回転ヘラケズリ	精選された胎土	灰白 良好	底部残存
1222 S B 183 ●	碗 須恵器	— (14.8) —	胴部は僅かに内湾し、肥厚して丸く終る口縁部に到る。	口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁のみ1片
1223 S B 183 ○	足高碗 須恵器	— — —	端部を欠損する高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り後ナデ 胴部 外面 ロクロ成形によるナデ	長石・黒雲母・小石・砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁部欠損
1224 S B 183 ●	高台杯 須恵器	— — 6.1	短い粗雑な高台を貼付する。	高台部 付高台 ヘラケズリ 底部 外面 右回転糸切り	砂粒含む	にぶい橙 良好	高台部のみ 完形
1225 S B 183 ●	高台杯 須恵器	— — 7.1	外反する高台を貼付する。	高台部 付高台	黒雲母・石英・砂粒含む	にぶい橙 良好	高台部のみ 完形
1226 S B 183 ●	高台杯 須恵器	— — (9.6)	外反する粗雑な高台を貼付する。	高台部 付高台	軽石・黒雲母・砂粒を含む	橙 良好	体部～底部 の一部残存
1227 S B 183 ●	足高碗 須恵器	— — 8.5	直線的に外反する高台を貼付する。	高台部 付高台	軽石・砂粒を含む	橙 良好	底部残存
1228 S B 183 ●	足高碗 須恵器	— — 8.6	外反し、端部で丸く肥厚する高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	高台部のみ 残存
1229 S B 183 ●	足高碗 須恵器	— — 8.4	外の張る高台を貼付する底部は器肉が薄い。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 内面 ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	高台部残存
1230 S B 183 ●	足高碗 須恵器	— — —	高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がる。	底部 外面 切り離し技法不明 内面 ナデ調整	白色軽石・砂粒含む	灰白 良好	高台周辺のみ 残存
1231 S B 184 ●	杯 土師器	3.6 10.7 4.7	平底の底部から、緩やかに立ち上がり、尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 砂底 胴部 内面 手持ちヘラケズリ	角閃石・軽石・砂粒を含む	明褐灰 良好	口縁～体部 欠損
1232 S B 184 ○	碗 須恵器	(3.6) (11.0) (6.0)	僅かに凹面をなす底部は、強く内湾して立ち上がり、外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文	赤褐色粒	橙 良好	口縁～底部 残存
1233 S B 184 ○	碗 須恵器	3.1 10.5 5.5	平底の底部は、強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する。丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 回転によるナデ	砂粒含む	灰白 良好	口縁～底部 残存
1234 S B 184 ○	碗 須恵器	3.2 10.4 5.7	一定した器厚の底部から、屈曲気味に立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	ほぼ完形
1235 S B 184 ○	高台杯 須恵器	5.0 12.1 6.5	外反する低い高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり丸く肥厚して終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁がひどくゆがんでいる
1236 S B 184 ○	碗 須恵器	— (11.2) —	僅かな内湾傾向を持つ胴部は、外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰白 良好	少破片
1237 S B 184 ○	碗 須恵器	4.3 (11.5) (6.6)	平底の底部は、屈曲して立ち上がり、丸く終る。口縁部に到る。	底部 切り離し技法不明 胴部 外面 ロクロ成形による横ナデ	砂粒を含む	灰白 良好	口縁～底部 残存

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1238 S B 184 ○	足高碗 須恵器	— ( 8.1)	外反する高台を貼付する底部から、強く内湾して立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り後ナデ 内面 ナデ 胴部 ロクロ目痕	赤褐色粒・ 軽石・黒雲 母・砂粒	にぶい橙 良好	底部～体部 の一片
1239 S B 184 ○	高台杯 須恵器	— 6.9	短い高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り	砂粒含む	灰 良好	底部のみ残 存
1240 S B 184 ●	足高碗 須恵器	— 8.0	外反するしっかりした高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 内面 左渦文	軽石・赤褐 色粒・砂粒	赤橙 良好	体部欠損
1241 S B 184 ○	高台碗 須恵器	— —	丁寧な高台を貼付する底部は、整った曲線を描いて立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒・ 砂粒等含む	にぶい橙 良好	体部～高台 残存
1242 S B 184 ●	高台碗 須恵器	— 6.6	直立気味の高台を貼付する底部は緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 糸切り後ナデ消し 胴部 内面 棒状ヘラミガキ	赤褐色粒・ 砂粒含む	橙 良好	体部高台 残存
1243 S B 184 ●	高台碗 須恵器	— —	底部は一定した器厚で、高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 胴部 内面 ヘラミガキ	2～3mm大 の石・砂粒 含む	にぶい黄橙 良好	高台周辺の み残存
1244 S B 184 ●	碗 灰釉	— ( 7.1)	三日月高台を貼付した底部は台付部で器厚を増し、緩やかに器厚を減らしながら、立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 回転糸切り	精選された 胎土	灰 良好	底部約1/2残 存、重ね焼 き痕
1245 S B 184 ○	羽釜 須恵器	— —	小さい平底の底部から、肥厚して立ち上がる。	底部 一部ケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ→ 内面 ナデ ←	赤褐色土・ 3mmの砂粒 含む	橙 良好	底部残存 堯
1246 S B 184 ○	羽釜 須恵器	— (20.2)	断面三角形の垂れた鑄を貼付し、直立気味の口縁部に到る。	口縁部 横ナデ	赤褐色粒と 1mmの砂粒 含む	橙 良好	口縁残存 瓶
1247 S B 184 ○	長甕 土師器	— 20.0	やや丸味を持つ胴部から、緩やかなくの字状に外反する。口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 横ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・ 軽石粒・砂 粒含む	橙 良好	口縁～胴部 残存 須恵質
1248 S B 184 ○	羽釜 須恵器	— —	胴部は緩やかに丸味を持って立ち上がる。	胴部 外面は丁寧な指ナデ 内面は横ナデ	5mmの石を 3ヶ含む	にぶい橙 良好	胴部残存 堯
1249 S B 184 ○	羽釜 須恵器	— (20.6)	裾部に縁帯を持ち、緩やかに立ち上がる。	脚部 外面 ロクロによるナデ 内面 ロクロによるナデ	1mmの砂粒 含む	灰白 良好	底部少々 瓶
1250 S B 185 ○	高台杯 須恵器	— (14.4)	高台の欠損する底部は、緩やかに立ち上がり、外反して、丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 胴部 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	小石を含む	灰白 良好	残存
1251 S B 185 ○	足高碗 須恵器	— ( 8.2)	直線的に外に張る高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 胴部 ロクロ目不明瞭	軽石・砂粒 を含む	灰白 良好	底部残存
1252 S B 186 ○	碗 須恵器	3.2 (10.2) ( 5.6)	平底の底部は、緩やかに立ち上がり、尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 切り離し技法不明 胴部 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	細砂を含む	灰白 良好	残存
1253 S B 186 ○	杯 須恵器	— 5.8	僅かに凹面をなす底部から、立ち上がる。	底部 外面 静止切り	軽石・赤褐 色粒・砂粒 を含む	にぶい橙 良好	底部のみ残 存
1254 S B 186 ●	杯 須恵器	— ( 6.8)	一定した器厚の底部から、屈曲して立ち上がる。	底部 外面 静止糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒・ 砂粒含む	浅黄橙 良好	底部のみ残 存
1255 S B 186 ●	高台杯 須恵器	4.4 (12.0) 7.4	丁寧な高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 糸切り後ナデ 胴部 外面 ロクロ成形	砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	口縁～体部 残存 台部完形
1256 S B 186 ●	足高碗 須恵器	— —	高台を貼付する底部は厚くしっかりしている。	高台部 付高台	赤褐色粒・ 軽石・砂粒 を含む	にぶい橙 良好	底部のみ残 存
1257 S B 186 ●	足高碗 須恵器	— ( 9.0)	外反するやや器高の高い高台を貼付する底部は強く内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り	1～3mmの 砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	体部～高台 残存



1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1258 S B 186 ●	高台碗 須恵器	5.7 13.8 8.4	直線的に外に張る高台を貼付する 底部は、緩やかに内湾して立ち上 がり、端部で短く外反する口縁部。	底部 外面 回転によるナデ 胴部 内面 棒状ヘラミガキ	1～2mmの 砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	口縁～体部 1/4残存
1259 S B 186 ●	皿 灰釉	2.1 (12.2) (7.1)	高台を貼付する底部は、緩やかに 開いて立ち上がり、短く内湾して 終る口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整ナデ 胴部 外面 回転ヘラ調整	硬質	灰白 良好	約1/4弱残存 重ね焼き痕
1260 S B 186 ●	碗 灰釉	— — (8.0)	外反する高台を貼付する底部から、 緩やかに丸味を持って立ち上がる。	高台 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切りナデ 胴部 外面 ロクロ目痕	硬質	灰白 良好	高台～体部 1/4弱残存
1261 S B 186 ○	羽釜 須恵器	— (24.0) —	直立気味に終る口縁部。	口縁部 横ナデ	2mmの砂粒 含む	黒褐 良好	口縁少々 飯
1262 S B 186 ○	羽釜 須恵器	— — —	断面三角形の鏝を貼付する。	胴部 外面 横ナデ 内面 横ナデ	1mmの砂粒 含む	浅黄 良好	つば少破片 欠
1263 S B 186 ○	羽釜 須恵器	— — (8.2)	底部から、やや内湾気味に立ち上 がる。	胴部外面上位 縦位ヘラケズリ 下位 横位ヘラケズリ	赤褐色粘土 粒・軽石含 む	橙 良好	底部～体部 1/4残存 欠
1264 S B 187 ●	杯 土師器	4.4 (12.4) (7.2)	薄い平底の底部から、緩やかに立 ち上がり、僅かに外反気味の口縁 部に到る。	底部 外面 砂底 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	3mmの砂粒 を含む	にぶい黄橙 硬質	外内面に黒 斑あり
1265 S B 187 ●	碗 須恵器	2.75 (10.6) (6.1)	厚くしっかりした底部から、緩や かに内湾して立ち上がり、丸く終 る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	暗褐色土を 含む	浅黄橙 良好	1/4残存
1266 S B 187 ●	碗 須恵器	4.0 10.95 4.85	小さな底部は弱いしめを行って立 ち上がり、内湾する胴部から外反 して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒を含む	浅黄橙 良好	粘土の巻き 上げ痕が観 察できる
1267 S B 187 ●	碗 須恵器	4.3 12.6 6.0	厚くしっかりした底部から、やや 強く屈曲して立ち上がり、僅かに 外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 渦文 胴部 外面 ナデ	砂粒を含む	灰白 硬質 良好	口縁～底部 1/4残存
1268 S B 187 ○	碗 須恵器	— (14.1) —	胴部は、直線的に開き、内外面に 沈線状の稜を持ち、丸く終る口縁 部に到る。	胴部 外面 ロクロ回転のナデ 口縁部 ヨコナデ	軽石砂粒・ 小石を含む	灰白 良好	口縁少片
1269 S B 187 ●	高台杯 須恵器	— — (7.0)	直線的に外に張る高台を貼付する 器内の薄い底部。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 ナデ 内面 ロクロ目不明瞭	軽石砂粒・ 小石を含む	灰白 良好	底部のみ残 存
1270 S B 187 ○	碗 灰釉	— (16.0) —	直線的に立ち上がる胴部から、僅 かに外反して終る口縁部に到る。	口縁部 横ナデ	精選された 胎土	灰 良好	口縁少片 内側共に釉
1271 S B 187 ○	碗 灰釉	— (15.6) —	外方に開く胴部から、僅かに外反 して終る口縁部に到る。	口縁部 横ナデ	精選された 胎土	白灰 良好	少片の為 灰釉の区別 つかず
1272 S B 187 ●	輪花碗 灰釉	— (19.1) —	薄く滑らかな胴部は、直線的に立 ち上がり、素直に口縁部に到る。	胴部 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	硬質	内面 深緑 外面 灰	輪花 口縁～胴部 1/4残存
1273 S B 187 ○	長甕 土師器	— (19.8) —	直線的な胴部から、緩やかに外反 し器厚を増す口縁部に到る。口唇 部外面に沈線巡るくの字状口縁。	胴部 外面 ヘラケズリ→ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒 含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/4残存 須恵質
1274 S B 187 ○	長甕 土師器	— (19.2) —	やや張りのある胴部から、短く外 反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ ハケ目 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・ 軽石含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/4残存 須恵質
1275 S B 187 ●	長甕 土師器	— (22.0) —	やや丸味のある胴部から、くの字 状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含 む	浅黄橙 良好	口縁～胴部 1/4残存 須恵質
1276 S B 187 ●	長甕 土師器	— (20.8) —	やや張りのある胴部から緩やかに くの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒 含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/4残存 須恵質
1277 S B 187 ○	長甕 土師器	— (22.0) —	やや丸味を持つ胴部は、緩やかに くの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 中位ヘラケズリ↓ 上位ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ ←	1～2mmの 砂粒含む	明赤橙 良好	口縁～胴部 1/4残存 須恵質

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1278 S B 188 ○	碗 須恵器	3.0 (11.7) 6.0	一定した器厚の平底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文	赤褐色土を含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 1/10残存 底部完形
1279 S B 188 ○	杯 須恵器	3.9 (10.8) 6.0	中央より器厚を増す底部は、強く屈曲して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 静止糸切り	赤褐色土を少量含む	浅黄橙 良好	約1/2残存
1280 S B 188 ●	高台碗 須恵器	5.5 (16.2) (7.6)	短い高台を貼付する底部は、強く内湾して立ち上がり、丸く肥厚して外反する口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 内面 ヘラミガキ 胴部 内面 ヘラミガキ	赤褐色土を含む	外面 橙 良好 内面 黒	高台部の器 面が荒れて いる
1281 S B 188 ○	高台杯 須恵器	4.0 (12.5) 7.7	短い高台を貼付する底部は強く内湾して立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 内外面 ロクロ回転ナデ	1mmの砂粒を含む	橙 良好	口縁～体部 1/10弱残存 底部完形
1282 S B 188 ○	高台杯 須恵器	— — 7.5	短い高台を貼付する底部は、内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒・軽石・黒雲母・砂粒含む	橙 良好 硬質	底部残存
1283 S B 188 ○	羽釜 須恵器	— 16.0 —	直立気味の胴部は、断面三角形の鏝を貼付し、やや内傾し直立して終る口縁部に到る。端部は平坦。	胴部 外面 横ナデ 内面 横ナデ	1mmの砂粒を含む	淡赤橙 良好	口縁外内面 に煤附着 堯
1284 S B 188 ○	瓶 須恵器	— — (18.2)	器厚の薄い底部から、直線的に外方に立ち上がる。	胴部外面 ヘラケズリ 板状工具によるナデ 内面 ヘラナデ	4mm以下の砂粒含む	暗緑灰 良好	下胴部1/2 残存
1285 S B 189 ○	杯 土師器	3.6 11.9 6.5	丸底の底部は、屈曲気味に立ち上がり、丸く肥厚する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 指オサエ	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	墨書あり平 と読みとれ る
1286 S B 189 ●	杯 土師器	4.6 11.8 6.5	厚く内湾する丸底気味の底部から、緩やかに立ち上がり、薄くなる口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	ほぼ完形 墨書あり
1287 S B 189 ○	杯 土師器	(4.2) (12.7) (6.8)	丸底気味の底部は、緩やかに立ち上がり、屈曲して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	口縁～底部 1/10残存
1288 S B 189 ○	碗 須恵器	— (14.0) —	僅かに内湾傾向を持つ胴部は、外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を含む	灰白色 良好	口縁～体部 1/2残存
1289 S B 189 ●	高台杯 須恵器	— — (7.0)	粗雑な高台を貼付する厚い底部は緩やかに立ち上がる。	底部 外面 切り離し後ナデ 内面 ロクロ目痕 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒を含む	灰色 良好	高台端部に 籠状のきざ みあり
1290 S B 189 ●	碗 灰釉	— — (7.8)	高台を貼付する肥厚の底部から、器厚を減らしながら緩やかに内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ	精選された胎土	暗灰黄 黒色斑点	良好 底部1/2残存 漬け掛け 重ね焼き痕
1291 S B 189 ○	碗 灰釉	— — (8.0)	台形の高台を貼付し肥厚で屈曲気味の底部から、内湾して器厚を減らしながら立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整 胴部 ロクロ目痕	精選された胎土	灰白 良好	底部 少片 重ね焼き痕 気泡がある
1292 S B 189 ○	皿 灰釉	2.5 (12.6) 6.3	低く丸い高台を貼付し、肥厚の底部は、緩やかに内湾し、口縁端部で僅かに外反して終る。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ 胴部 下半 回転ヘラケズリ	精選されて いる	灰白 良好	口縁～底部 1/2残存 重ね焼き痕
1293 S B 189 ●	長甕 土師器	— (22.2) —	やや張りのある胴部から、緩やかに字状口縁部に到る。器厚は一定している。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 横方向ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁部1/2 残存 須恵質
1294 S B 189 ○	丸甕 土師器	— (24.4) —	丸味のある胴部から、強く外反する、くの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	白色・黒色粒を含む	明赤褐 良好	口縁部1/2 残存 須恵質
1295 S B 189 ●	長甕 土師器	— (17.4) —	長胴形の胴部から立ち上がり、頸部に沈線が巡り、口縁部は短く外反くの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	1mmの赤褐色粒を含む	にぶい黄橙 良好	口縁～頸部 1/2 胴部1/2 残存須恵質
1296 S B 189 ●	長頸瓶 灰釉	— (22.5) 13.0	高台を貼付する底部は、内面凹凸を持ちながら内湾して立ち上がる胴部に到る。	胴部 内面 ロクロ目痕 回転ヘラケズリ 外面 水挽き痕	精選された胎土 黒色斑点	灰白 良好	胴部1/2高台 部1/2残存 自然釉付着
1297 S B 190 ○	碗 須恵器	4.2 (10.5) (5.7)	薄い平底の底部は、やや強く屈曲して立ち上がり、外反し、尖る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒を含む	灰 硬質 良好	口縁～底部 1/2残存

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特 徴	成 形・調 整 の 特 徴	胎 土	色 調・焼 成	備 考
1298 S B 190 ○	高台杯 須恵器	— — —	高台の欠損する底部は、内湾して立ち上がる。	高台部 高台欠損	1～5mmの砂粒を含む	暗灰黄色 良好	体下部1/4 底部残存
1299 S B 190 ●	高台杯 須恵器	5.4 (14.0) (7.0)	端部内面に、凹みを持つ高台を貼付し、緩やかに、立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 剥落 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 横ナデ	2mmの砂粒を含む	橙 良好	底部一部欠損
1300 S B 190 ○	足高碗 須恵器	— — 8.6	外反する高台は、一定した器厚の底部に貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 内面 左渦文	砂粒を含む	黒 良好	底部～高台のみ残存 黒斑
1301 S B 190 ●	長 甕 土師器	— (14.7) —	やや丸味のある胴部から、外反してくの字状口縁部に到る。端部は丸く終る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 横方向ナデ 口縁部 横ナデ	1～5mmの黒・赤褐色粒を含む	橙 良好	口縁～頸部1/4残存 須恵質
1302 S B 190 ●	丸 甕 土師器	— — (4.5)	小さな底部から、外方に開く。	底部 砂底 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ	1～5mmの小石を含む	橙 良好	胴下部～底部1/4残存
1303 S B 190 ●	長 甕 土師器	— 23.0 —	丸味を持つ胴部から、僅かに外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粘土粒含む	橙 良好	口縁部1/4残存 須恵質 外面煤付着
1304 S B 191 ●	碗 須恵器	3.7 (14.4) 7.6	平底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、大きく外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ成形ナデ 内面 ロクロ成形ナデ	1～4mmの砂粒を含む	にぶい橙 良好	全体の1/4残存
1305 S B 191 ●	碗 須恵器	— (13.8) —	僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	砂粒含む	黄橙 良好	体部～口縁1/4残存
1306 S B 191 ●	碗 須恵器	— — (5.6)	厚い底部から屈曲して立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ目痕	細砂を含む	灰白 良好	底部1/4残存
1307 S B 191 ●	長 甕 土師器	— (20.4) —	口縁部はくの字状口縁部に到る。	口縁部 横ナデ	1mmの砂粒含む	灰白 良好	口縁1/4残存 須恵質
1308 S B 191 ●	碗 灰 釉	— — (9.5)	三角高台を貼付し、中央器厚は薄くやや丸味を持つ底部は肥厚しながら、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 ナデケシ 胴部 外面 回転ヘラケズリ	精選された胎土	褐灰 良好	底部1/4弱 重ね焼き痕
1309 S B 191 ●	長頸瓶 灰 釉	— (17.1) —	頸部中位まで直立気味に立ち上がり緩やかに外反して、縁帯を持つ口縁部に到る。	頸部 ロクロ成形 口縁部 横ナデ	細砂粒・小石を含む	灰白 良好	口縁部破片
1310 S B 191 ●	羽 釜 須恵器	— (20.9) —	胴部は歪みながら外方に立ち上がり、断面丸い鑿を貼付し、口縁部で短く内湾する。	胴部 外面 ヘラナデ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・軽石・小石	橙 もろい	口縁部1/4 体部少し残存 甕
1311 S B 191 ●	羽 釜 須恵器	— — (13.5)	平底の底部から、強く内湾して立ち上がる。器厚は一定している。	底部 外面 ナデ 胴部 外面 横位ヘラケズリ	軽石・砂粒を含む	にぶい橙 良好	底部～体部1/4残存 甕
1312 S B 191 ●	羽 釜 須恵器	— — (11.9)	平底の底部から、内面凹凸を持ち外方へ直線的に立ち上がる。器内は厚い。	底部 外面 ナデ 胴部 外面 横位 斜位ヘラケズリ	赤褐色粘土粒・軽石・細砂	橙 良好	底部1/4残存 甕
1313 S B 191 ●	羽 釜 須恵器	— — (10.3)	立ち上がり部で肥厚し、器厚を減らしながら、直線的に外方に到る。	底部 外面 ヘラケズリ→ 胴部 外面 ヘラケズリ↓	軽石・砂粒を含む	淡黄 良好	底部～体部1/4残存 甕
1314 S B 192 ●	碗 土師器	— (11.8) —	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒・軽石含む	橙 良好	口縁のみ1/4残存
1315 S B 192 ●	杯 土師器	3.5 (10.4) (4.6)	平底の底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する薄い口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	1～5mmの砂粒を含む	にぶい橙 良好	全体の1/4残存
1316 S B 192 ●	杯 土師器	3.2 10.4 5.0	平底の底部は、緩やかに立ち上がり、尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 砂底 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	2～3mmの砂粒	にぶい黄橙 良好	ほぼ完形
1317 S B 192 ●	杯 土師器	3.5 10.4 4.5	平底の底部から、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 砂底 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	砂粒多量 軽石・黒雲母含む	にぶい橙 良好	ほぼ完形

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1318 S B 192 ○	杯 土師器	3.5 11.2 4.3	平底の小さい底部から、緩やかに立ち上がり、尖る口縁部に到る。	底部 外面 砂底 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	砂粒多く含む、3mmの小石を含む	にぶい黄橙 良好	完形
1319 S B 192 ●	杯 土師器	3.8 10.6 4.7	平底の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 砂底 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ	5mmの小石を含む	灰白 良好	ほぼ完形
1320 S B 192 ○	杯 土師器	3.5 10.6 4.6	中央より器肉を増す平底の底部は、直線的に立ち上がり、尖る口縁部に到る。	底部 外面 砂底 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 口縁部 横ナデ	黒雲母・細砂粒含む	にぶい黄橙	ほぼ完形
1321 S B 192 ●	碗 須恵器	(3.8) (11.5) 5.6	中央より器厚を増す底部は、屈曲気味に立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	1～3mmの小石・赤褐色粒含む	橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1322 S B 192 ●	碗 須恵器	4.2 10.9 5.0	一定した器厚の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、肥厚して外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒含む	灰黄 良好	口縁～底部 1/2残存
1323 S B 192 ○	碗 須恵器	(4.0) (10.8) (5.1)	平底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、次第に薄くなり、外反している口縁部に到る。	底部 外面の右回転糸切り 内面 渦文 胴部 外面 ナデ	砂粒多量	灰白 良好	1/2残存
1324 S B 192 ●	碗 須恵器	3.7 11.1 5.0	僅かに凹面をなす底部から、強く内湾して立ち上がり、口縁端部で僅かに外反する。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	3mmの小石を含む	灰白 良好	口縁～胴部 1/2欠損
1325 S B 192 ○	碗 須恵器	3.5 (11.0) 6.2	中央より器厚を増す底部は、強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 ロクロ目痕不明瞭	赤褐色粒を含む	橙 良好	口縁部一部 欠損
1326 S B 192 ○	碗 須恵器	(3.5) (11.1) (5.4)	僅かに凹面をなす底部から、整った曲線を描いて立ち上がり、強く外反し丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 渦文 胴部 ロクロ目痕	赤褐色粒を含む	浅黄橙 良好	完形
1327 S B 192 ○	碗 須恵器	4.8 (12.2) 6.8	一定した器厚の底部は、強く屈曲して立ち上がり、僅かに外反して肥厚する口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ成形のナデ 内面 ロクロ成形のナデ	赤褐色粒	にぶい橙 良好	口縁～底部 一部分残存
1328 S B 192 ●	碗 須恵器	3.5 10.4 5.0	僅かに凹面をなす底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文	砂粒を含む	灰黄 良好	口縁～底部 1/2残存
1329 S B 192 ●	碗 須恵器	(3.0) (10.7) (5.0)	僅かに凹面をなす底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、外反きみの口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 横ナデ	1mmの白色軽石含む	灰黄 良好	口縁～底部 1/2残存
1330 S B 192 ○	碗 須恵器	3.3 10.7 5.4	一定した器厚の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する薄い口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 ロクロ成形のナデ	砂粒含む	外面にぶい黄橙 内面黒褐色	良好 完形
1331 S B 192 ●	碗 須恵器	(2.8) (10.7) (5.0)	凹面をなす底部は、強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 内面 横ナデ	5mmの小石含む	浅黄橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1332 S B 192 ○	碗 須恵器	3.7 (9.7) (4.5)	平底の底部から、緩やかに立ち上がり僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 回転によるナデ 内面 回転によるナデ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁部1/2 残存
1333 S B 192 ●	杯 須恵器	— — 5.6	一定した器厚の底部から内湾して立ち上がる。	底部 外面 静止切り	軽石・赤褐色粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	底部残存
1334 S B 192 ○	碗 須恵器	— — 5.5	底部内面に凹凸をもち、ゆるやかに内湾して立ち上がる。	底部 外面 調整不明 内面 ロクロ目痕 胴部 外面 ナデ	軽石砂粒を含む	灰白 良好	底部残存
1335 S B 192 ○	高台杯 須恵器	(4.9) (12.4) 7.0	低い高台を貼付する底部は屈曲して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 左回転糸切り 胴部 外面 横ナデ	砂粒・黒雲母	浅黄橙 良好	体部～底部 1/2残存
1336 S B 192 ○	高台杯 須恵器	(4.8) (11.8) (6.2)	低い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 横ナデ	白色軽石含む	灰白 良好	口縁～底部 1/2残存
1337 S B 192 ●	高台杯 須恵器	5.1 12.2 6.3	低く丸い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 手持ちヘラ切り 胴部 外面 ナデ	砂粒含む	浅黄 不良	口縁がひどく いびつ

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1338 S B 192 ●	高台杯 須恵器	4.3 14.0 7.0	外反する低い高台を貼付する底部は、中央より器厚を増して、屈曲して立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒含む	橙 良好 硬質	口縁～底部 1/2残存
1339 S B 192 ○	高台杯 須恵器	4.8 (12.5) 6.4	低い粗雑な高台を貼付する底部は、屈曲して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り	砂粒多量含む 金雲母 少量含む	浅黄橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1340 S B 192 ○	足高椀 須恵器	( 5.9) (15.0) 8.2	外反する高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	1mmの砂粒 多量に含む	浅黄 良好	口縁～底部 1/2残存
1341 S B 192 ○	足高椀 須恵器	6.7 14.7 8.1	外反するやや高い高台を貼付する底部は緩やかに内湾して立ち上がり僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り後ナデ 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ナデ	軽石を含む	灰 良好	底部完形 口縁部1/2残存
1342 S B 192 ●	高台杯 須恵器	5.9 13.3 7.7	外反する高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、薄くなる口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ナデ	砂粒を含む	黄色 良好	口縁～底部 1/2残存
1343 S B 192 ●	足高椀 須恵器	5.3 (12.0) 6.6	外反する高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反気味の口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 ロクロ目痕	砂粒少ない	にぶい橙 良好	口縁部一部 欠損
1344 S B 192 ●	高台杯 須恵器	4.5 (12.4) 6.0	外反する低い高台を貼付する、底部は緩やかに内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 ロクロ目明瞭	白色軽石粒	灰白 良好	口縁～体部 1/2残存
1345 S B 192 ●	高台杯 須恵器	4.8 (12.2) 6.6	外反する低い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ	4mmの小石 を含む	灰白 良好	口縁～底部 1/2残存
1346 S B 192 ○	高台杯 須恵器	4.8 (11.9) 6.4	丸く終る低い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文	3mmの砂粒 含む	浅黄橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1347 S B 192 ○	椀 須恵器	— (12.0) —	胴部は肥厚し、外反気味の口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	砂粒少ない	明橙色 良好	口縁1/2残存
1348 S B 192 ○	椀 須恵器	— (10.3) ( 4.5)	緩やかに立ち上がり、外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目不明瞭 口縁部 横ナデ	軽石・砂粒 含む	灰白 良好	1/2残存
1349 S B 192 ●	椀 須恵器	— (14.5) —	僅かな内湾傾向を持つ胴部は、外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ成形のナデ 内面 ロクロ成形のナデ 口縁部 横ナデ	石英・軽石 砂粒・細砂 含む	灰白 良好	少片
1350 S B 192 ●	椀 須恵器	— (13.3) —	内湾傾向を持つ胴部は、僅かに外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	軽石砂粒・ 小石を含む	灰白 良好	口縁少片
1351 S B 192 ●	高台杯 須恵器	5.1 12.2 6.0	外反する高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り	砂粒を含む	黄灰 良好	口縁～底部 1/2残存
1352 S B 192 ○	高台杯 須恵器	— — ( 6.5)	低い高台を貼付する底部は、内面に僅かな凹部を作って立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 胴部 内面 ナデ	砂粒含む	橙 良好	底部1/2残存
1353 S B 192 ●	高台杯 須恵器	— — 6.6	直立する高台を貼付する器内の薄い底部は、内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ 内面 ロクロ目痕	石英・軽石 砂粒含む	灰白 良好	底部残存
1354 S B 192 ○	高台杯 須恵器	— — ( 6.4)	低い高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 ナデ 内面 ロクロ目不明瞭	軽石砂粒・ 少石含む	灰白 良好	底部1/2残存
1355 S B 192 ●	足高椀 須恵器	— — ( 8.8)	外反して端部で、丸く肥厚する高い高台を貼付する。	高台部 付高台	軽石・砂粒 含む	にぶい橙 良好	脚部のみ残 存
1356 S B 192 ●	高台杯 須恵器	— — ( 8.8)	端部で丸く肥厚する高台を貼付する。	高台部 付高台	長石・赤褐色 粒含む	にぶい橙 良好	高台部のみ 1/2残存
1357 S B 192 ●	足高椀 須恵器	— — ( 7.9)	直線的に外に張る。端部で丸く終る高台を貼付する。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ目不明瞭	石英・軽石 を含む	灰白 良好	底部のみ残 存

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1358 S B 192 ●	足高椀 須恵器	— — ( 8.7)	外反して丸く終る器高の高い高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台	長石・石英 砂粒を含む	灰白 良好	高台部以外残存
1359 S B 192 ●	足高椀 須恵器	— — —	外反する高い高台は付部で肥厚し、底部は僅かに凸面をなす。	高台部 付高台 ロクロ目痕 底部 内面 ロクロ目痕	軽石・砂粒 を含む	灰白 良好	高台以外残存 重ね焼き痕
1360 S B 192 ○	足高椀 須恵器	— — (11.5)	僅かに開く胴部は、強く外反して丸く終る口縁部に到る。	脚部 外面 ロクロ目痕 内面 横方向のナデ 端部 横ナデ	細砂を含む	暗灰 良好	口縁部以外残存
1361 S B 192 ●	足高椀 須恵器	— — —	器高の高い高台は、八の字状に開き、器肉を減じながら、端部で丸く終る。	高台部 付高台 杯接合部 指おさえ 脚全体 丁寧な横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	底部のみ残存 一部欠損
1362 S B 192 ●	高台椀 須恵器	— — 6.0	外反する器内の薄い高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 内面 棒状ヘラミガキ	白色軽石・ 砂粒等含む	にぶい橙 良好	高台部のみ残存
1363 S B 192 ○	椀 灰釉	— — ( 7.0)	高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 切り離し技法不明 ナデケン調整	精選された 胎土	灰 良好	底部以外残存
1364 S B 192 ○	羽釜 須恵器	— — 31.0	やや丸味を持つ胴部から、断面三角形の鐙を貼付し、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	2mm砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 以外残存 甑
1365 S B 192 ○	羽釜 須恵器	— — (30.6)	断面三角形の鐙を貼付し、直立気味の口縁部は、端部で外傾し平坦に終る。鐙先に沈線巡る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 以外残存 甑
1366 S B 192 ○	羽釜 須恵器	— — (19.0)	内湾気味の胴部から、断面三角形の鐙を貼付し、内面垂みながら直立気味の口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	黄灰 良好	口縁～体部 以外残存 甑
1367 S B 192 ●	羽釜 須恵器	— — —	直立する胴部は、短く水平に張り出す鐙を貼付する。	胴部 内面 刷毛ナデ 口縁部 内外面 丁寧なナデ	1mmの砂粒 を含む	にぶい橙 良好	つば部分小 破片 甑
1368 S B 194 ●	椀 須恵器	3.6 11.2 5.0	厚くしっかりした底部は、直線的に立ち上がり僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 ナデ	軽石を含む	灰白 良好	口縁～底部 以外残存
1369 S B 194 ●	椀 須恵器	3.6 11.3 5.0	厚くしっかりした底部から、屈曲して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 横ナデ	軽石を含む	灰白 良好	口縁～底部 以外残存
1370 S B 194 ●	椀 須恵器	3.4 11.1 6.5	一定した器厚の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	細砂粒含む	灰白 良好	内外面に煤 付着
1371 S B 194 ○	椀 須恵器	3.6 (11.0) ( 5.4)	一定した器厚の底部は、屈曲して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 脚部 外面 ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	口縁～底部 以外残存
1372 S B 194 ●	椀 須恵器	— — 5.4	厚くしっかりした底部から、切り離しの為のしめは弱い。	底部 外面 回転糸切り	赤褐色粒・ 軽石を含む	灰白 良好	底部残存
1373 S B 194 ●	高台杯 須恵器	— — ( 7.4)	外に張り出す高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り	1mmの砂粒 を含む	灰白 良好	体部下半分 底部高台以外 残存
1374 S B 194 ●	高台杯 須恵器	5.0 13.8 7.7	短く、粗雑な高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、直線的に口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ロクロ成形ナデ	細砂粒を含む	断面一灰黄 内外面一黒	体部以外欠損
1375 S B 194 ○	高台杯 須恵器	5.0 14.0 6.9	低い高台を貼付する底部は、厚くしっかりして、緩やかに立ち上がり薄くなる口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 内面 左渦文 口縁部 横ナデ	軽石を含む	灰白 良好	体部以外欠損 内外面黒斑 あり
1376 S B 194 ●	高台杯 須恵器	5.3 (13.9) 7.1	短いやだれた高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、直線的に口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	軽石・赤褐色 色粒を含む	にぶい黄橙色	良好 口縁～底部 以外残存
1377 S B 194 ●	高台杯 須恵器	5.3 13.7 7.3	短い高台を貼付する底部は屈曲して立ち上がり、外反して丸く肥厚する口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ナデ	赤褐色粒・ 軽石を含む	にぶい黄橙色	良好 高台部に黒 斑あり

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1378 S B 194 ●	足高椀 須恵器	5.9 14.0 7.1	外反するしっかりした高台を貼付する底部は緩やかに内湾して立ち上がり、肥厚して丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ナデ	軽石を含む	灰白 良好	片残存
1379 S B 194 ●	高台杯 須恵器	(4.6) (13.0) (5.6)	短く、粗雑な高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する肥厚した口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ナデ	砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁部片、 高台部片残存
1380 S B 194 ○	輪花皿 灰 釉	3.2 (14.2) 7.3	短い高台を貼付する肥厚の底部は緩やかに内湾し、口縁端部で短く外反する。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 ナデ調整 胴部 外面 ロクロ目痕	細砂粒含む	灰白 良好	口縁部欠損 漬け掛け 輪花
1381 S B 194 ●	椀 灰 釉	6.3 (16.6) 8.6	三日月高台を貼付し、内湾気味の底部は、丸味を持って立ち上がり内面一条の沈線巡る口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部外面・胴部下半 右回転ヘラケズリ	細砂粒含む	灰白 良好	片残存
1382 S B 194 ●	椀 灰 釉	— (16.8) —	胴部は内湾して立ち上がり、短く外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰白 良好	口縁部弱残存
1383 S B 194 ●	瓶 須恵器	— 27.5 —	丸味を持つ胴部は、緩やかな肩を張りながら、頸部に到る。	胴部 外面 丁寧なナデ 肩部 外面 丁寧なナデ 横方向のナデ	長石・小石を含む	オリーブ灰 良好	白色柱状物質含む
1384 S B 195 ●	杯 土師器	3.4 10.4 4.6	平底の底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 砂底 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	1～2mm砂粒を多量に含む	にぶい黄橙 良好	完形
1385 S B 195 ●	椀 須恵器	3.2 (10.6) 4.5	一定した器厚の底部から緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒を含む	浅黄橙 良好	肩部～口縁 片残存
1386 S B 195 ○	椀 須恵器	3.9 (10.4) —	僅かに凹面をなす底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、肥厚して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	浅黄橙 良好	口縁～底部 片残存
1387 S B 195 ●	椀 須恵器	3.5 (10.8) (4.0)	平底で小さい底部は強く内湾して立ち上がり、端部で僅かに外反気味の口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒含む	灰黄褐色 良好	口縁～底部 片残存
1388 S B 195 ●	椀 須恵器	3.8 (11.2) 5.6	平底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、素直に口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り、内外面 粘土塊あり、胴部 外面 ロクロ目痕、口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を含む	淡黄 良好	片残存
1389 S B 195 ○	椀 須恵器	(3.7) (11.8) (5.4)	平底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・細砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁～底部 片残存
1390 S B 195 ●	椀 須恵器	4.3 (12.1) 6.0	一定した器厚の底部から、整った曲線を描いて立ち上がり、肥厚し外反する口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 内面 左渦文 胴部 内面 ロクロ目痕	1～3mmの砂粒を含む	浅黄橙 良好	口縁部欠損他は残存
1391 S B 195 ●	椀 須恵器	4.2 (12.7) 5.7	僅かに凹面をなす底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、肥厚し丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を含む	灰白 良好	口縁～体部 少々残存
1392 S B 195 ●	椀 須恵器	— — 5.6	厚くしっかりした底部は、直線的に立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り	軽石・砂粒	灰 良好	底部のみ残存
1393 S B 195 ●	椀 須恵器	— — 5.8	中央より、器厚を増す底部は、弱いしめを行って立ち上がり、僅かに内湾する胴部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 粘土塊あり 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒含む	灰黄 良好	体部少々 底部完形
1394 S B 195 ●	椀 須恵器	— — 6.0	厚くしっかりした底部から、緩やかに内湾して立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文	1mmの砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	体部少々 底部完形
1395 S B 195 ○	椀 須恵器	— — 5.8	底部内面に、凹凸をもち腰部に絞り込みをもちながら内湾きみに、立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り 内面 ロクロ目痕 胴部 ロクロ目痕	軽石砂粒を含む	暗灰 良好	すくべ焼
1396 S B 195 ●	高台杯 須恵器	— — 6.7	短い高台を貼付する底部は非常に薄い。	高台部 付高台	赤褐色粒・黒雲母・砂粒含む	橙 良好	高台のみ完形
1397 S B 195 ●	高台杯 須恵器	— — 6.4	粗雑な高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文	赤褐色土を含む	灰白 良好	高台のみ完形

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1398 S B 195 ●	碗 須恵器	— (10.2) —	口縁部は外反して丸く終る。	口縁部 横ナデ	砂粒含む	灰黄 良好	口縁部残存
1399 S B 195 ●	碗 須恵器	— (12.7) —	一定した器厚の胴部は直線的に開き僅かに外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 ナデ 口縁部 横ナデ	3mm大の長石・砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部残存
1400 S B 195 ●	碗 須恵器	— (12.4) —	僅かに内湾する胴部から、そのまま口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色粒・黒雲母・砂粒	浅黄橙 良好	口縁部残存
1401 S B 195 ○	碗 須恵器	— (12.0) —	僅かに内湾する胴部は、外反して尖る口縁部に到る。	胴部 なで 口縁部 横ナデ	赤褐色粒砂粒含む	橙 良好	口縁部残存
1402 S B 195 ○	碗 須恵器	— (12.8) —	僅かに内湾傾向を持つ胴部は、直線的に開き素直に口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	砂粒含む	明赤褐色 良好	口縁部残存
1403 S B 195 ○	碗 須恵器	— (12.8) —	緩やかに内湾する胴部から、強く外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁のみ残存
1404 S B 195 ●	高台杯 須恵器	4.6 (12.0) 6.8	短い高台を貼付する底部は、屈曲して立ち上がり、僅かに外反する丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 内面 左渦文	1mmの砂粒を多量に含む	灰白 還元(不良)	口縁部残存
1405 S B 195 ●	高台杯 須恵器	4.7 (12.0) 6.0	短い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 横ナデ	1～2mmの砂粒を含む	灰黄 良好	口縁部欠損
1406 S B 195 ●	足高碗 須恵器	5.7 (12.8) 7.0	直線的に外に張り出す高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり丸く肥厚して終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り後ナデ 胴部 ロクロ目痕	1～2mmの砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	全体残存
1407 S B 195 ○	高台杯 須恵器	4.8 (13.4) 6.6	短い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、外反して丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	2mmの砂粒含む	浅黄橙 良好	口縁部残存
1408 S B 195 ●	高台杯 須恵器	— (6.4) —	低い高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り	軽石・砂粒	外面 暗灰 内面 浅黄橙	良好 底部残存
1409 S B 195 ●	高台杯 須恵器	— 6.6 —	短い高台を貼付する底部は、やや屈曲気味に立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文	赤褐色・軽石・砂粒	灰白 良好	底部のみ残存
1410 S B 195 ○	高台杯 須恵器	— (7.5) —	高台は、外に張り出して丸く終る。	高台部 付高台 底部 回転糸切り後ナデ消し	赤褐色粒・砂粒含む	浅黄橙 良好	高台のみ残存
1411 S B 195 ●	高台杯 須恵器	— (6.8) —	短い粗雑な高台を貼付する底部は緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	高台のみ残存
1412 S B 195 ●	足高碗 須恵器	— 8.6 —	器高の高い高台は、肉厚で八の字状に開き、端部で丸く終る。	高台部 付高台 胴部 内面 ナデ	赤褐色粒・砂粒を含む	橙 良好	脚部のみ残存
1413 S B 195 ●	高台杯 須恵器	5.3 (13.2) 6.6	低い方形の高台を貼付する底部は緩やかに内湾して立ち上がり、丸い口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	1～3mmの砂粒含む	橙 良好	口縁部残存 高台部完形
1414 S B 195 ●	高台杯 須恵器	4.9 (12.9) 6.5	外反する低い高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り(右) 胴部 内面 ナデ	1mmの砂粒を含む	灰白 良好	口縁部残存 底部完形
1415 S B 195 ●	高台杯 須恵器	4.5 12.2 6.4	低い高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り	3mmの砂粒を含む	灰白 良好	ほぼ完形
1416 S B 195 ●	高台杯 須恵器	4.4 (13.0) (7.2)	外面に稜を持つ高台を貼付して緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 口縁部 横ナデ	石英・砂粒含む	内面 浅黄橙 外面 灰白	良好 口縁部残存
1417 S B 195 ○	足高碗 須恵器	5.7 13.1 (7.8)	直線的に外に張り出す高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり僅かに外反する口縁部。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ目痕	1～2mmの砂粒を含む	にぶい橙 良好	全体欠損



1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特 徴	成 形・調 整の特 徴	胎 土	色 調・焼 成	備 考
1418 S B 195 ●	足高椀 須恵器	7.4 (14.0) 9.3	器高の高い緩やかに開く高台を貼付する底部は、屈曲気味に立ち上がり、強く外反し口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒・長石・軽石・砂粒を含む	橙 良好	口縁一体部 欠損
1419 S B 195 ●	足高椀 須恵器	7.1 (14.7) 9.1	器高の高い厚くしっかりした高台を貼付する底部は、緩やかに内湾しながら、外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 糸切り後ナデ 胴部 外面 ナデ	1～2mmの砂粒を含む	浅黄橙 良好	ほぼ完形
1420 S B 195 ●	高台椀 須恵器	— (11.1) —	胴部は強く内湾して立ち上がり、肥厚する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 棒状ヘラミガキ	赤褐色粒・砂粒含む	橙 良好	口縁のみ 残存
1421 S B 195 ●	高台椀 須恵器	— (11.4) —	胴部は緩やかに内湾して、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 内面 ヘラミガキ	軽石・砂粒含む	黒 良好	少破片
1422 S B 195 ○	高台椀 須恵器	— — 8.5	厚くしっかりした高台を貼付する底部は、強く内湾して立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 内面 棒状ヘラミガキ	1mmの砂粒を含む	外面 橙 良好 内面 黒	体部・高台 残存
1423 S B 195 ●	長頸瓶 須恵器	— — (10.0)	短く開く高台を貼付する底部は、内面歪みながら強く内湾して立ち上がる。器内に厚い。	胴部 外面 下半 ヘラケズリ	1～2mmの砂粒含む	オリーブ灰 硬質 良好	体部下～底 部弱残存 中型瓶
1424 S B 195 ●	長 甕 土師器	— (17.4) —	口縁部は強くくの字状に外反する。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒と2mmの砂粒含む	橙 良好	体部欠損
1425 S B 195 ○	丸 甕 土師器	— 16.2 —	張りのある胴部は、強くくの字状に外反する。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒と2mmの砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁欠残存 須恵質
1426 S B 195 ○	羽 釜 須恵器	— (20.4) —	断面三角形の鑊を貼付し直立し、端部で僅かに内傾して終る口縁部に到る。	鑊 外面 荒い横ナデ	砂粒を含む	灰白 良好	少破片 内面煤付着 甑
1427 S B 195 ○	羽 釜 須恵器	33.4 (31.5) (20.1)	縁帯を持つ八の字状の脚部から、強く外反し胴部中で直立して三角形の鑊を貼付する口縁部に到る。	脚部 ナデ 胴部 外面上位 内面 ナデ 外面中～下位ヘラケズリ	砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 欠残存 甑
1428 S B 196 ●	椀 須恵器	3.4 10.0 4.7	一定した器厚の底部から、直線的に立ち上がり、丸く口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 渦文	赤褐色粒・砂粒含む	浅黄橙 良好 砂粒を多く	完形
1429 S B 196 ●	椀 須恵器	— — 5.5	中央より器厚を増す底部から、屈曲して立ち上がり、胴部内外面に凹凸を持ち直線的に開く。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 ロクロ目痕	細砂を含む	灰白 良好	底部残存
1430 S B 196 ●	長頸瓶 須恵器	— — (7.9)	短い高台を貼付した底部から、内湾し、直線的に立ち上がる。	高台部 付高台 胴部 外面 横方向ナデ 内面 横方向の指ナデ	小石を含む	灰 良好	底部欠 胴部下位欠 残存小型瓶
1431 S B 196 ●	高台椀 須恵器	— (13.4) —	胴部は、強く内湾して立ち上がり、外反して丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 剥落 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 棒状ヘラミガキ	赤褐色粒・砂粒含む	橙 良好	口縁一体部 欠残存
1432 S B 196 ●	高台椀 須恵器	— — —	外反する高台を貼付する底部は、器肉が薄い。	高台部 付高台 底部 外面 棒状ヘラミガキ	軽石・赤褐色粒・砂粒	灰 良好	底部のみ残 存
1433 S B 196 ○	皿 灰 釉	2.3 (11.0) (6.5)	小さな台形の高台を貼付する器厚の薄い底部から、緩やかに内湾し口縁端部で僅かに立つ。	高台部 付高台 指ナデ 底部 外面 切り離し後ナデ 胴部 内外面 ナデ	精選された胎土	灰白 良好	口縁～底部 欠残存
1434 S B 196 ○	椀 灰 釉	— (16.5) —	緩やかに内湾する胴部は器厚を減らしながら、外面浅く凹み外反気味に丸く終る口縁部に到る。	胴部 ロクロ目痕 下半 回転ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰白 良好	底部欠損
1435 S B 196 ○	椀 灰 釉	— — (8.0)	丸くしっかりした高台を貼付する底部は、緩やかに内湾し、そのまま胴部に続く。	高台部 付高台 ナデ 底部 回転ヘラ調整 胴部 ヘラケズリなし	精選された胎土・黒色斑点	灰白 良好 硬質	底部～体部 残存 重ね焼き痕
1436 S B 196 ○	羽 釜 須恵器	— — (4.8)	肥厚の底部から、外方に開く。	底部 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ハケナデ	3mmの砂粒含む	にぶい橙 良好	底部欠残存 甕
1437 S B 196 ●	直線甕 土師器	— (22.4) —	口縁部は、くの字状に外反する。	口縁部 横ナデ	赤褐色1mmの砂粒含む	淡黄 良好	煤付着 須恵質

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1438 S B 196 ○	長 甕 土師器	— (21.4)	僅かに丸味を持つ胴部から、短く外反するくの字状口縁部。	胴部 外面 ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色粒・砂粒含む	明赤褐 良好	口縁～胴部上位に残存須恵質
1439 S B 196 ●	羽 釜 須恵器	—	直立する胴部から、断面台形の鐙を貼付する。	胴部 外面 回転によるナデ 内面 回転によるナデ	2mmの砂粒含む	にぶい黄橙 良好	胴部少片 甌
1440 S B 196 ●	羽 釜 須恵器	— 23.0	直線的に立ち上がる胴部から、断面台形気味の鐙を貼付し、僅かに外反する口縁部に到る。端部平坦	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色粘土粒・石英含む	にぶい黄橙 良好	底部 欠損 甌
1441 S B 197 ●	杯 土師器	3.5 (10.8) ( 5.0)	平底の底部は、内湾して立ち上がり、僅かに外反する尖った口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	灰黄 良好	口縁～底部に残存
1442 S B 197 ●	杯 土師器	3.6 10.9 4.8	平底の底部は、緩やかに立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 砂底 胴部 外面 手持ちヘラケズリ	1～2mmの砂粒を含む	にぶい橙 良好	完形
1443 S B 197 ●	碗 須恵器	3.2 (10.8) ( 5.0)	底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、端部で僅かに外反し、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒を含む	黒褐色 良好	口縁～底部に残存
1444 S B 197 ●	杯 須恵器	3.9 (10.5) 5.0	一定した器厚の底部から、やや強く屈曲して立ち上がり、そのまま直線的に丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 静止糸切り	赤褐色土を含む	浅黄橙 良好	口縁～底部に残存
1445 S B 197 ●	碗 須恵器	4.2 (12.6) 5.6	僅かに凹面をなす底部は、強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 口縁部 横ナデ	1～2mmの砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	口縁～底部に残存
1446 S B 197 ○	高台杯 須恵器	( 5.1) (12.4) 7.0	短い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、丸く肥厚する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ	1mmの砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	口縁～底部に残存
1447 S B 197 ●	足高碗 須恵器	5.9 14.2 7.9	厚くしっかりした高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 内面 渦文(左) 口縁部 横ナデ	1～2mmの砂粒を含む	灰白 良好	口縁～底部に残存
1448 S B 197 ●	足高碗 須恵器	6.2 (14.0) 8.6	しっかりした高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する。口縁部は丸く肥厚する。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	1mmの砂粒含む	灰白 良好	口縁部に欠損
1449 S B 197 ●	足高碗 須恵器	— 10.4	器高の高い高台は、八の字状に開き厚い。	高台部 付高台 底部 外面 糸切り後ナデ消し	8mmの石を含む	にぶい黄橙 良好	高台部のみ
1450 S B 197 ●	高台碗 須恵器	— (14.6)	一定した器厚の底部から、強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する器肉の薄い口縁部に到る。	底部 外面 ナデ消し 胴部 外面 ナデ 内面 棒状ヘラミガキ	1mmの砂粒を含む	外面 にぶい黄橙 内面 黒	口縁～底部に残存
1451 S B 197 ●	輪花皿 灰 釉	— (14.0)	胴部は緩やかに外方に開き、口縁外面に僅かな凹みを持ち外反気味に終る。	口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰 良好	口縁部に残存 輪花漬け掛け
1452 S B 197 ●	長 甕 土師器	— 22.2	丸味を持つ胴部から、くの字状に短く外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 横方向ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	口縁～胴部に残存 須恵質
1453 S B 197 ●	羽 釜 須恵器	— 36.0	張りのない胴部から、断面小さく垂れ気味の鐙を貼付して直立する口縁部に到る。	胴部 外面 明瞭な巻き上げ痕 内面 丁寧なナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部に残存 甌
1454 S B 197 ○	瓶 須恵器	— (12.1)	底部は上げ底となる。胴部は緩やかに立ち上がる。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 横方向ナデ	細砂含む	緑灰 良好	底部に残存
1455 S B 199 ○	碗 須恵器	3.5 10.5 5.0	一定した器厚の底部は、強く内湾して立ち上がり、外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ナデ 内面 ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	ほぼ完形
1456 S B 199 ●	碗 須恵器	3.5 (10.2) ( 5.2)	平底の底部から、内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 口縁部 横ナデ	1～2mmの砂粒・赤褐色粒含む	橙 良好	口縁～底部に残存 内外面黒斑
1457 S B 199 ○	碗 須恵器	3.3 10.5 4.8	平底の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙色 良好	口縁～底部に残存

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1458 S B 199 ●	碗 須恵器	3.5 11.2 5.6	一定した器厚の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒を多く含む	にぶい赤褐 良好	炭化物付着
1459 S B 199 ●	碗 須恵器	3.3 10.8 4.8	一定した器厚の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒を含む	橙 良好	ほぼ完形
1460 S B 199 ○	碗 須恵器	3.9 (12.4) (5.9)	底部外面に凹面を持ち緩やかに内湾して立ち上がり口縁部で外反する。器厚は薄い。	底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ目不明瞭 胴部 外面 ロクロ目不明瞭	長石・細砂を含む	灰白 良好	口縁～底部 1/10残存
1461 S B 199 ●	碗 須恵器	3.5 11.2 5.3	中央より器厚を増す底部は、整った曲線を描いて立ち上がり、外反し丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒 赤褐色土粒 含む	灰白 良好	口唇部一部 欠損
1462 S B 199 ●	高台杯 須恵器	5.3 (12.4) 6.3	短い高台を貼付する底部は、強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 切り離し後ナデ 胴部 内外面 ロクロに成形	赤褐色粒・砂粒を多く含む	橙 良好	口縁1/10残存 胴部1/10残存 底部完形
1463 S B 199 ●	足高碗 須恵器	5.2 13.3 7.1	直線的に外に張る高台を貼付する底部は緩やかに内湾して立ち上がり、丸く肥厚する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 回転糸切り後ナデ 胴部 ロクロ目痕	赤褐色粒を含む	橙 良好	口唇部、高台端部が歪んでいる
1464 S B 199 ●	碗 須恵器	2.7 10.7 6.4	厚く僅かに凹面をなす底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ成形後ナデ	赤褐色粒を含む	橙 良好	外面体部～ 底部にかけて 黒斑あり
1465 S B 199 ○	高台杯 須恵器	5.4 (11.0) 6.3	直線的に開く短い高台を貼付する底部は、強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ナデ	赤褐色粒を含む	明赤褐 良好	口縁～底部 1/10残存
1466 S B 199 ○	高台杯 須恵器	4.5 (11.0) 5.8	直立気味の高台を貼付する底部は強く内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	4mmの砂粒・赤褐色土を含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 1/10残存
1467 S B 199 ●	高台杯 須恵器	— 13.0 —	端部の欠損する高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 切り離し後ナデ 胴部 内面 ロクロ成形 口縁部 横ナデ	赤褐色土を含む	橙 硬質	口縁～底部 1/10残存
1468 S B 199 ●	碗 須恵器	— (12.4) —	内湾する胴部は、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ形成のナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・小石含む	橙 良好	口縁～胴部 1/10残存
1469 S B 199 ○	碗 須恵器	— (15.0) —	強く内湾する胴部は、外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ成形のナデ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・小石含む	橙 良好	口縁～胴部 1/10残存
1470 S B 199 ●	皿 灰 釉	( 2.5) (12.2) ( 7.1)	台形の高台を貼付する底部から、緩やかに立ち上がり、短く直立気味の口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 ナデ 胴部 外面 回転ヘラケズリ	精選された胎土	灰白 良好 硬質	1/10残存 漬け掛け 重ね焼き痕
1471 S B 199 ○	碗 灰 釉	— — ( 8.0)	三日月高台を貼付する底部から、丸く立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整 内面 ナデ	精選された胎土	灰 良好	底部1/10残存 漬け掛け
1472 S B 199 ●	高台碗 須恵器	— (16.2) —	内湾する器厚の胴部は、やや尖り気味の口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ヘラミガキ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒を含む	橙 良好	口縁～胴部 1/10残存
1473 S B 199 ○	高台碗 須恵器	— (13.4) —	内湾傾向を持つ胴部は、僅かに外反する尖り気味の口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラミガキ 口縁部 横ナデ	砂粒	にぶい黄橙 良好	非常に丁寧なヘラミガキ
1474 S B 199 ●	高台碗 須恵器	— (13.1) —	高台部の欠損する一定した器厚の底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 摩滅している 底部 外面 回転ナデ消し 胴部 内面 刻、ヘラミガキ	3mmの砂粒 赤褐色土粒 を含む	橙 良好	器面が荒れている
1475 S B 199 ●	高台碗 須恵器	— (13.4) —	僅かに内湾する胴部は、端部で外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 棒状ヘラミガキ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 一部
1476 S B 199 ●	高台碗 須恵器	— (11.6) —	内湾気味に立ち上がる胴部は、僅かに外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ成形のナデ 内面 ヘラミガキ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・石英粒含む	橙 良好	口縁部1/10残存、内面黒色処理
1477 S B 199 ○	高台碗 須恵器	— (13.0) —	内湾して立ち上がる胴部は、端部で僅かに外反して、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 棒状ヘラミガキ 口縁部 横ナデ	石英・赤褐色粒・砂粒 多量含む	橙 良好	口縁～胴部 1/10残存

第Ⅲ章 遺 物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1478 S B 199 ●	高台碗 須恵器	— (12.6) —	内湾して立ち上がる胴部は、外反して尖る口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ 内面 ヘラミガキ	赤褐色粒含む	橙 良好	口縁～胴部 1/2残存
1479 S B 199 ●	高台碗 須恵器	— (12.6) —	内湾傾向を持つ胴部は、僅かに外反するやや尖り気味の口縁部に到る。	胴部 内外面 ナデ 口縁部 横ナデ	3mm大の小石・赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/2残存
1480 S B 199 ○	高台碗 須恵器	— (7.6) —	外反する方形の高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 内面ヘラミガキ	小石・砂粒含む	橙 良好	4ヶ所に花弁状の棒状ヘラミガキ
1481 S B 200 ●	足高碗 須恵器	— (13.2) —	屈曲して立ち上がり、僅かに外反する薄い口縁部に到る。	胴部 外面 ナデ、指頭痕 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁～胴部 1/2残存
1482 S B 200 ●	碗 須恵器	(3.4) (14.0) —	直線的に立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 内外面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒	にぶい黄橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 口縁いびつ
1483 S B 200 ●	高台杯 須恵器	— (13.2) —	底部は一定した器厚で緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反する尖り気味の口縁部に到る。	高台部 剥落 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ナデ	赤褐色粒混入	にぶい黄橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1484 S B 200 ●	高台碗 須恵器	6.0 (13.1) —	僅かに開く丸い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、短く外反する口縁部に到る。	底部 内外面 棒状ヘラミガキ 胴部 内外面 棒状ヘラミガキ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	黒 一部 黄橙	口縁～体部 1/2残存
1485 S B 200 ●	碗 灰釉	(4.0) (12.4) (6.9) —	低い三角高台を貼付する底部から、丸味を持って立ち上がり、口縁部で器厚を減じ小さく丸く終る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	精選された胎土	灰黄 良好	ほぼ完形 重ね焼き痕
1486 S B 200 ●	段皿 灰釉	(2.5) (13.3) (7.4) —	やや外反する高台を貼付する底部から、外方へ開きながら立ち上がる。内面に段を持つ。	高台部 付高台 底部 外面 回転ヘラケズリ 胴部 外面 ロクロ目痕	精選された胎土	灰 良好	1/2残存 漬け掛け 段皿
1487 S B 200 ○	碗 灰釉	— (12.9) —	緩やかに立ち上がる胴部から、外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰 良好	底部欠損 漬け掛け
1488 S B 200 ●	段皿 灰釉	1.9 12.8 7.7 —	台形の高台を貼付する底部から、胴部内面に段を持って外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 回転ヘラケズリ 胴部 内外面 ロクロ目痕	小石少量含む、黒色粒目立つ	灰白 良好	ほぼ完形 漬け掛け 黒色斑点
1489 S B 200 ○	長甕 土師器	— 23.0 —	胴部は張りを持たず、口縁部は上半で外反するくの字状口縁部。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ヘラナデ→ 口縁部 横ナデ	3mmの砂粒多量に含む	明褐色 良好	口縁部1/2残存 須恵質
1490 S B 200 ○	羽釜 須恵器	— (17.0) —	やや直線的な胴部は、上向きの鏝を貼付し、内傾する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 回転の横方向ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒と1mmの砂粒含む	橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 甌
1491 S B 200 ●	甕 土師器	— — 6.2	平底の底部から、やや内湾気味に大きく立ち上がる。器肉が厚く重量感がある。	底部 外面 無調整 内面 指ナデ 胴部 外面 ヘラケズリ	5mmの石を数ヶ所含む	赤褐 良好	底部完形 胴部1/2残存 須恵質
1492 S B 201 ●	直線甕 土師器	— (23.0) —	胴部は直線気味に立ち上がり、上部で急に外反する、くの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ↑ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒多量に含む	にぶい赤褐 良好	口縁～胴部 1/2残存 須恵質
1493 S B 201 ●	長甕 土師器	— (13.2) —	一定した器厚の胴部から、くの字状の口縁部に到り、端部で段を持つ。	胴部 外面 粘土巻き上げ痕 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	雲母・赤褐色粒	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 須恵質
1494 S B 201 ●	長甕 土師器	— 23.6 —	やや丸味のある胴部は、くの字状の口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ指ナデ 内面 横方向ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 須恵質
1495 S B 201 ○	羽釜 須恵器	— (24.0) —	やや内湾する胴部は、長く水平に張り出す鏝を貼付し、内湾気味の口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/2残存 甕
1496 S B 201 ●	甕 土師器	— — (8.4)	器肉の厚い底部から、緩やかに立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 横方向ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい赤褐 良好	胴部～底部 1/2残存 須恵質
1497 S B 201 ●	長頸瓶 灰釉	— —	頸部は外反気味に立ち上がる。	頸部 外面 ロクロ目痕 内面 ロクロ目痕	精選された胎土・黒色斑点	灰 良好	頸部1/2残存

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1498 S B 202 ●	足高碗 須恵器	— — 9.5	直線的に外に張る、器高の高い高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 切り離し技法不明	砂粒を多量に含む	橙 硬質 良質	高台部完形
1499 S B 202 ●	碗 須恵器	— — 5.8	厚く、しっかりした底部から、屈曲して立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り	砂粒を含む	灰白 硬質 良好	胴下部～底部 残存
1500 S B 202	碗 須恵器	4.1 10.4 4.6	厚くしっかりした底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	3mmの砂粒を含む	灰黄褐 硬質 良好	口縁～底部 残存 煤付着
1501 S B 202 ●	台付碗 須恵器	— (14.5) —	胴部は内湾して、丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 ヘラミガキ	赤褐色粒	にぶい橙 良好	口縁～胴部 残存
1502 S B 202 ●	羽釜 須恵器	— (20.0) —	胴部は直線的になり、断面三角形で水平に張り出す鑊を貼付し、短く立ち上がる口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ハケナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土含む	にぶい橙 良好	口縁部小片 甌
1503 S B 202 ●	長甕 土師器	— (24.4) —	やや張りのある胴部から、緩やかに外反する口縁部は、器厚を増し端部で尖るくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	橙 良好	口縁～胴部 残存 須恵質
1504 S B 202 ●	長甕 土師器	— 25.2 —	胴部にやや張りを持ち、口縁部は器厚を増しながら、外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色粒を含む	褐灰 良好	口縁～胴部 残存 須恵質
1505 S B 202 ●	羽釜 須恵器	— (10.4) —	平底の底部から、肥厚して、直線的に器厚を減じながら、外方に立ち上がる。	胴部 外面 ヘラケズリ→↑ 内面 ヘラナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	胴部～底部 残存 甕
1506 S B 202 ○	羽釜 須恵器	— (20.4) —	張りのない胴部から、断面丸味を持つ鑊を貼付し、僅かに内湾する口縁部に到る。端部は平坦。	胴部 外面 ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	明赤褐 良好	煤付着 口縁部残存 甕
1507 S B 202 ○	羽釜 須恵器	— 18.6 —	張りのない胴部は断面三角形の鑊を貼付し、直立する口縁部は外面のみ内傾して終る。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・2mmの砂粒含む	明赤褐 良好	口縁～胴部 残存 甌
1508 S B 202 ●	長甕 土師器	— 25.2 —	平底の底部は立ち上がり部で肥厚し、長胴形の胴部から、強くくの字状に外反する口縁部に到る。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ↓← 内面 ヘラナデ	4mmの小石 2ヶ・赤褐色粒含む	にぶい赤褐 良好	底部外面に 刺突痕 須恵質
1509 S B 203 ○	高台杯 須恵器	— — 7.7	低い高台を貼付する底部は、中央に器肉を増す。	高台部 付高台 底部 外面 糸切り後ナデ	軽石・赤褐色粒・長石 砂粒を含む	にぶい橙 良好	底部残存
1510 S B 203 ○	足高碗 須恵器	— — (9.5)	高く八の字状に開く、高台を貼付する。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 糸切り後ナデ 内面 ナデ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好	台部残存
1511 S B 203 ○	足高碗 須恵器	— — (11.6)	器高の高い高台は、八の字状に開き肉厚。	高台部 付高台 底部 外面 手持ちヘラ切り	細砂粒	浅黄橙 良	高台部のみ ほぼ完形
1512 S B 203 ○	羽釜 須恵器	— (18.2) —	底部は八の字状に開き、端部に縁帯を持つ。	底部 外面 横方向のナデ 内面 横方向のナデ	長石・小石含む	灰 良好	内面2次加熱の煤付着 甌
1513 S B 203	長頸瓶 須恵器	— (18.8) —	断面三角形の鑊を貼付し、口縁部で内湾する。端部は平坦。	口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰白 良好	口縁部残存 甕
1514 S B 203 ○	長頸瓶 灰釉	— — (12.6)	短く平坦な底部を貼付した屈曲気味の底部から、内面凹凸し直線的に立ち上がる胴部。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 ナデ調整 胴部 外面 回転ヘラ調整	精選された胎土	灰 良好	胴部～底部 残存
1515 2号堀立柱 ○	碗 土師器	— (13.2) —	偏平な丸底と思われる底部は、内湾して立ち上がり、やや短く内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を含む	にぶい橙 良好	口縁部残存
1516 2号堀立柱 ○	碗 土師器	— (14.0) —	丸底気味の底部から、緩やかに立ち上がり、端部でやや短く内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を含む	橙 良好	口縁部残存
1517 2号堀立柱 ○	碗 土師器	— (13.0) —	丸底気味の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、口縁端部で短く内傾する。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒の砂粒含む	橙 良好	底部欠損

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1518 2号堀立柱 ○	碗 土師器	— (11.2)	丸底気味の底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、やや外反する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1519 2号堀立柱 ○	碗 須恵器	4.1 12.7 6.5	平底の底部は、内湾して直線的に立ち上がり、口縁部で僅かに外反して終る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	長石・小石を含む	灰 良好	口縁1/4欠損
1520 2号堀立柱 ○	杯 須恵器	— (13.7) (8.3)	平底の底部は、一定の器厚で直線的に立ち上がり、口縁部に到る。	底部 外面 回転ヘラ調整 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	軽石・砂粒 長石を含む	灰白 良好	口縁1/2残存
1521 3号堀立柱 ○	碗 土師器	— (11.5)	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/2残存
1522 3号堀立柱 ○	碗 土師器	— (12.8)	平底気味の底部から、強く内湾して立ち上がり、口縁部で僅かに外反して終る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 1/6残存
1523 3号堀立柱 ●	杯 須恵器	— (7.9)	器厚を増す底部から、強く屈曲して立ち上がる。	底部 外面 回転ヘラ切り 胴部 内外面 ロクロ目痕	細砂を含む	灰白 良好	底部1/2残存
1524 3号堀立柱 ○	丸 甕 土師器	— (24.3)	口縁部は、緩やかに外反する。コの字状口縁部。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土含む	橙 良好	口縁少破片
1525 4号堀立柱 ○	碗 須恵器	3.4 (13.0) (5.9)	平底の薄い底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、口縁部で肥厚する。	底部 右回転糸切り 胴部 内外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	長石・小石含む	にぶい黄橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1526 4号堀立柱 ○	碗 須恵器	— (10.6)	緩やかに立ち上がる胴部は、外面に細い沈線を持つ口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒多量に含む	橙 良好	口縁～胴部 1/2残存
1527 6号堀立柱 ○	蓋 須恵器	— (17.4)	天井部は偏平で、口縁部は短く直に下に折れる。	体部 外面 上半回転ヘラ切り 下半回転ナデ	長石・軽石 砂粒含む	明オリブ灰 良好	口縁～体部 1/2残存
1528 10号堀立柱 ○	碗 須恵器	— (5.6)	肥厚する底部から、緩やかに内湾して立ち上がり、器厚は次第に減ずる。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ	軽石・砂粒・ 小石含む	オリブ灰 良好	底部1/2残存
1529 10号堀立柱 ○	碗 灰 釉	— (7.4)	内湾する三角高台を貼付する底部から、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 回転ヘラ調整	精選された 胎土	灰 良好	底部1/2残存
1530 14号堀立柱 ○	杯 須恵器	— (7.4)	平底の底部は、屈曲して立ち上がる。	底部 外面 回転ヘラ調整 内面 回転によるナデ	細砂含む	明オリブ灰 良好	底部1/2残存 内外面火擦 有
1531 14号堀立柱 ○	平 瓶 灰 釉	— — —	肩部は、直線的に傾斜し、胴部は強く屈曲する。	肩部 外面 ロクロ目痕	精選された 胎土	灰白 明青灰 良好	肩部1/2残存
1532 S D 001 ○	器 台 土師器	— — 10.7	八の字状に開く脚部で、3ヶ所に円窓を穿つ。	台部 外面 斜方向ハケ目調整 後縦ヘラミガキ 内面 横ハケ目	赤褐色・軽 石・石英含 む	にぶい橙 良好	脚部1/2残存 古墳時代
1533 S D 001 ○	器 台 土師器	— — 7.8	台付部から、緩やかに外反して端部に到る。	台部 外面 横方向のナデ 内面 ヘラナデ 端部 横ナデ	砂粒多量に 含む	にぶい黄橙 良好	高台部残存 鉄分付着 古墳時代
1534 S D 001 ○	高 杯 土師器	— — —	脚部から緩やかにくびれて杯部に到る。	台部 外面 縦ヘラミガキ	赤褐色・軽 石・小石含 む	明赤褐 良好	脚部上位残 存 古墳時代
1535 S D 001 ○	台付甕 土師器	— — —	器高の高い高台を貼付する。	高台部 付高台 斜ハケ目 底部	雲母・小石 含む	明赤褐 良好	杯底部～脚 上位残存 古墳時代
1536 S D 001 ●	碗 土師器	(3.0) (13.5) (10.0)	平底気味の底部から、強く内湾して立ち上がり、口縁部で内傾気味に終る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1537 S D 001 ○	杯 内黒土器	4.0 (15.0) (10.4)	平底の底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がる。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ後全面ミガキ 胴部 外面 回転によるナデ	赤褐色粒含 む	浅黄橙 良好	底部～口縁 1/2残存

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1538 S D 001 ○	丸 甕 土師器	— (15.1)	内湾する胴部から、くの字状に外反して口縁部に到る。	胴部 外面 ハケ目後ナデ 内面 横ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色・軽石・小石含む	橙 明赤褐 良好	口縁～胴部 残存
1539 S D 001 ○	甕 土師器	14.3 17.0 4.6	やや凹む平底の底部から、内湾して立ち上がり、丸味を持つ胴部で口縁部は、くの字状に広がる。	底部 外面 ナデ 胴部 外面 刷毛ナデツケ 口縁部 刷毛ナデツケ後横ナデ	赤褐色土粒 砂粒多量に含む	橙 良好	口縁～底部 残存 古墳時代
1540 S D 001 ●	樽系壺 土師器	— (16.3)	一定の器厚を持って外反する口縁で、端部を外方に折り返す。	頸部 外面 右方向の簾状文 口縁部 外面 波状文 内面 ヘラナデ	石英含む	灰白 良好	口縁少片 古墳時代
1541 S D 001 ●	樽系壺 土師器	— 11.2	やや張りを持つ胴部から、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 波状文 頸部 外面 右回りの簾状文 口縁部 外面 2段波状文	石英・軽石含む	にぶい橙 良好	鉄分附着 古墳時代
1542 S D 001 ●	壺 土師器	33.0 24.1 7.9	底部は凹み、胴部は丸く中位で最大径を持ち、くの字状に外反し、口縁端部に3本の粘土紐を貼付。	胴部 外面 ハケ目後上位LR 中～下位RL 口縁部 ハケ目後ヘラミガキ	石英・軽石含む	灰白 良好	ほぼ完形 古墳時代 赤井戸系壺
1543 S D 002 ○	羽 釜 須恵器	— — —	やや直線的な胴部は、断面台形の鏝を貼付する。	胴部 内外面 回転によるナデ 鏝部 横ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土・1cmの石含む	にぶい黄橙 良好	外面鉄分 内面炭化物 附着 甕
1544 S D 003 ○	杯 土師器	3.9 (10.8) 6.1	平底気味の底部は、強く内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 手持ちヘラケズリ 口縁部 横ナデ	砂粒多量に含む	橙 良好	口縁～胴部 欠損
1545 S D 003 ○	小型甕 須恵器	— (13.7)	口縁部は強く外反して開き、外面に段を持ち凹線が入る。	頸部 外面 波状文 口縁部 横ナデ	長石・軽石 砂粒含む	青灰 良好	口縁残存
1546 S D 005 ○	小型鉢 土師器	— — 5.5	小さい平底の底部は、緩やかに立ち上がる。	底部 外面 砂底 側面 指オサエによるしめ	砂粒含む	灰黄褐 良好	底部のみ残存 古墳時代
1547 S D 005 ○	高台杯 須恵器	— — —	高台は欠損し、一定した器厚の底部から、緩やかに内湾して立ち上がる。	高台部 高台剥離 底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕	軽石・砂粒含む	灰黄 良好	底部～胴中位 残存
1548 S D 005 ○	丸 甕 土師器	— (18.6)	球形気味の胴部は、緩やかに外反し口縁端部で強く外反するくの字状口縁。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒 砂粒含む	明赤褐 良好	口縁残存
1549 S D 008 ○	椀 須恵器	2.3 (9.8) 6.1	平底の底部は、短く内湾して立ち上がり、口縁端部でやや内傾して終る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 外面 回転によるナデ	赤褐色粒・軽石・砂粒含む	浅黄橙 良好	口縁欠損
1550 S D 008 ○	足高椀 須恵器	6.3 (14.6) 7.9	外反する高い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり端部で外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り後ナデ 内面 左渦文	赤褐色粒・砂粒含む	橙 良好	口縁～胴部 欠損
1551 S D 008 ○	高台杯 須恵器	(4.5) 13.5 —	高台は欠損し、一定した器厚の底部から、直線的に外方に開く口縁部に到る。	高台部 高台剥離 底部 外面 回転糸切り後ナデ 胴部 外面 ロクロ目痕	砂粒含む	灰白 良好	高台部欠損
1552 S D 008 ○	足高椀 須恵器	— — 8.2	器台の高い高台を貼付する底部は、内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	橙 良好	高台部のみ 完形
1553 S D 008 ○	瓶 須恵器	— — (15.3)	平底気味の底部から、外方へ直線的に立ち上がる。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 板状工具による横ナデ	長石・小石含む	青灰 良好	底部のみ残存
1554 S D 008 ○	皿 灰 釉	(2.5) (13.1) (8.1)	低い三角高台を貼付する器厚の一定した底部より、外方へ開きながら立ち上がり、口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整 胴部 内外面 回転によるナデ	精選された胎土	灰白 良好	口縁～底部 残存
1555 S K 003 ○	椀 須恵器	— (13.2)	内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	黒 良好	口縁残存 過還元
1556 S K 004 ○	椀 須恵器	3.3 (11.8) 6.0	一定した器厚の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反気味の口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁 底部残存
1557 S K 004 ○	高台杯 須恵器	5.0 10.6 6.7	外に張り出す丁寧な高台を貼付する底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、素直に口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 糸切り後ナデ 内面 左渦文	赤褐色粒含む	淡橙 良好	口縁～底部 残存

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1558 S K 004 ○	高台杯 須恵器	5.3 (10.4) 6.1	高台を貼付する底部は、内湾して立ち上がり、直立気味の口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り後ナデ 内面 左渦文 胴部 内外面 ロクロ目痕	赤褐色粒・多量含む	橙 良好	底部は完形 胴～口縁迄 残存、火樫
1559 S K 004 ○	高台杯 須恵器	5.1 12.2 6.8	低い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに外反して丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文	小石・砂粒 多く含む	灰白 良好	口縁～底部 迄欠損
1560 S K 004 ○	高台杯 須恵器	5.4 10.7 6.4	端部に沈線を持つ丁寧な高台を貼付する底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上り、口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 内面 左渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒・軽石・砂粒 含む	橙 良好	口縁～胴部 迄欠損
1561 S K 004 ○	椀 須恵器	— 13.6 —	胴部は直線的に外方に開きながら、素直に口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁★残存
1562 S K 004 ○	椀 灰釉	— — 7.2	外傾する三角高台を貼付する器内の厚い底部は、緩やかに内湾する胴部に続く。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 内面 ロクロ目痕	精選された 胎土	灰白 良好	底部のみ完 形、重ね焼 き痕有り
1563 S K 004 ○	足高椀 須恵器	6.6 14.2 9.5	端部に沈線を持つ高い高台を貼付する底部は、屈曲して立ち上がり僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 内面 左渦文 胴部 内外面 ロクロ目痕	赤褐色粒・砂粒含む	橙 良好	口縁～胴部 少片欠損
1564 S K 004 ○	足高椀 須恵器	— — (9.9)	器高の高い外反する高台を貼付する。	高台部 付高台 底部 外面 切り離し後ナデ 内面 左渦文	赤褐色粒・砂粒含む	浅黄橙 良好	高台部のみ 迄残存
1565 S K 004 ○	椀 灰釉	(3.6) (9.3) (5.1)	三角高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、短く外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 内面 ロクロ目痕 胴部 外面 ロクロ目痕	黒色斑点有	灰白 良好 硬質	迄残存 漬け掛け 重ね焼き痕
1566 S K 004 ○	高台杯 須恵器	— — —	低く丸味のある高台を貼付する底部は、緩やかに外方に到る胴部へ続く。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り後ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	底部迄残存
1567 S K 006 ○	椀 須恵器	4.1 (13.8) 6.1	僅かに凹面をなす器内の薄い底部は、緩やかに内湾して立ち上がり外反し丸く肥厚な口縁端部で終る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	4mmの石含む	にぶい橙 良好	底部迄口縁 迄残存
1568 S K 006 ○	高台杯 須恵器	(5.8) (15.0) (7.4)	低い高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がり僅かに外反して丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ	2～3mmの 石含む	オリーブ灰 良好	口縁～底部 迄残存
1569 S K 016 ○	丸甕 土師器	— (18.0) —	丸味を持つ胴部から、コの字状に外反して、口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	細砂含む	橙 良好	口縁～胴部 迄残存、胴 部スス付着
1570 S K 020 ○	丸甕 土師器	— (22.9) —	丸味を持つ胴部から、コの字状に外反して口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	細砂含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 迄残存
1571 S K 020 ○	長甕 土師器	— (20.4) —	やや丸味を持つ胴部から、コの字状に外反して端部でやや立ち上がる口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	細砂含む	にぶい赤褐 良好	口縁～胴部 迄残存 鉄分付着
1572 S K 043 ○	椀 土師器	— (12.2) —	偏平な丸底の底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、僅かに内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	白色軽石粒 含む	橙 良好	口縁～胴部 迄残存
1573 S K 043 ○	長甕 土師器	— (24.7) —	口縁部は外反気味に、短く直立するくの字状口縁部に到る。	胴上位 外面 成形技法不明 内面 横方向のナデ 口縁部 横ナデ	長石・軽石 砂粒含む	緑灰 良好	口縁迄残存 須恵質
1574 S K 081 ○	長甕 土師器	— — (3.8)	やや丸味を持つ小さな底部から、外方へ直線的に開き、緩やかに立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ナデ	砂粒多量含む	明赤褐 良好	底部は完形 胴部下位迄 中位迄残存
1575 S K 084 ○	蓋 須恵器	— — 3.2	環状つまみを貼付する天井部は、緩やかに外方へ開く。つまみの頭頂部は退化している。	天井部 外面 ナデ後つまみ貼付 体部 外面 回転ヘラ切り	長石・細砂 含む	灰 良好	天井部迄残 存
1576 S K 086 ○	高台杯 須恵器	6.5 (14.8) (8.2)	外方へ開く高台を貼付する底部は、内湾して立ち上がり、大きく外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転によるナデ 胴部 外面 ロクロ目痕	赤褐色粒・砂粒含む	灰白 良好	口縁～底部 迄残存
1577 S K 086 ○	瓶 須恵器	— — (20.8)	平底の底部から、直立気味に立ち上がる。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 板状工具のケズリ 内面 横方向のナデ	長石・小石 含む	青灰 良好	底部迄残存



## 1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1578 S K 086 ○	羽釜 須恵器	— (18.2)	断面三角形の鋤より口縁部は短く直立する。 胴部もなだらかに底部に向かう。	胴下半部 外面縦ヘラケズリ↓ 鋤下外面 ロクロ目痕	2mmの砂粒含む	灰白 良好	外面煤付着
1579 S K 087 ●	長甕 土師器	— 21.0	丸味のある胴部から、くの字状口縁部に到る。端部は強く外傾して終る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒 砂粒含む	橙 良好	口縁部 $\frac{1}{2}$ 残存
1580 S K 091A ●	椀 土師器	3.5 13.6	丸底部の底部は、緩やかに立ち上がり、端部で僅かに内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	黒雲母・軽石・長石・赤褐色粒含む	橙 良好	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存
1581 S K 091A ●	椀 土師器	3.4 12.9	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存
1582 S K 091A ●	椀 土師器	3.4 13.0	丸底の底部は、僅かに屈曲して立ち上がり内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	完形
1583 S K 091A ●	椀 土師器	3.2 13.6	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、口縁端部で僅かに内傾する。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存
1584 S K 091A ●	椀 土師器	3.3 13.2	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	細かい赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存
1585 S K 091A ●	椀 土師器	3.6 13.5	丸底の底部は、緩やかに立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	黒雲母・砂粒含む	橙 良好	ほぼ完形
1586 S K 091A ●	椀 土師器	3.7 (12.6)	丸底の底部は、緩やかに立ち上がり、内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	橙 良好	口縁 $\frac{1}{2}$ 欠損
1587 S K 091A ●	椀 土師器	3.5 (12.6)	丸底の底部は、内湾して立ち上がり、直立する尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存
1588 S K 091A ○	椀 土師器	( 3.3 ) (13.9)	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり端部で内傾気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色砂粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存
1589 S K 091A ○	椀 土師器	( 3.4 ) (13.3)	丸底の底部から、緩やかに立ち上がり、端部で僅かに内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 無調整 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・黒雲母・軽石含む	橙 良好	口縁 $\frac{1}{2}$ 胴部～底部 $\frac{1}{2}$ 残存
1590 S K 091A ○	椀 土師器	( 2.9 ) (12.4)	丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存
1591 S K 091A ○	椀 土師器	( 3.5 ) (13.6)	丸底の底部は、内湾して立ち上がり、直立する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	黒雲母・砂粒含む	にぶい橙 良好	底部欠損
1592 S K 091A ○	椀 土師器	( 3.2 ) (13.4)	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、直立気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・軽石・砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存
1593 S K 091A ○	椀 土師器	( 3.3 ) 13.0	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、素直に口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	底部欠損
1594 S K 091A ●	杯 須恵器	4.0 (14.8) ( 8.1 )	一定した器厚の底部から、強く屈曲して立ち上がり、口縁部で僅かに外反する。	底部 外面 回転ヘラ調整 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	小石含む	外面 暗青灰 内面 灰白	良好 口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存
1595 S K 091A ●	杯 須恵器	4.0 (13.4) ( 7.6 )	器厚する底部から、屈曲して立ち上がり、直線的に口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り後手持ちヘラ調整 胴部 ロクロ目痕	細砂含む	灰 良好	口縁～底部 $\frac{1}{2}$ 残存
1596 S K 091A ●	椀 須恵器	— (13.1)	屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	細砂含む	明オリブ灰 良好	口縁～胴部 $\frac{1}{2}$ 残存
1597 S K 091A ●	椀 須恵器	— (17.1)	直線的に開く胴部は、内湾気味の口縁部に到る。	胴部 内外面、ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	細砂含む	青灰 良好	口縁少片

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1598 S K 091A ●	高杯 須恵器	— — —	長脚で、透し孔の無い円柱部分である。	円柱部、粘土紐により巻き上げ杯部 接合段階の圧痕残る	軽石砂粒含む	明オリブ灰 良好	円柱上部接合の為の沈線残る
1599 S K 091A ●	丸甕 土師器	— — 6.0	丸底気味の底部は、緩やかに内湾して立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラケズリ	1mmの砂粒含む	橙 良好	底部～胴部 残存
1600 S K 101A ○	高台杯 須恵器	— — (9.3)	外反する薄い高台を貼付する。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整	軽石砂粒・小石含む	灰白 良好 硬質	底部のみ一部欠損
1601 S K 101A ○	羽釜 須恵器	— 27.7 —	胴部は、断面三角形の鑄を貼付し僅かに外傾する口縁部に到る。端部はやや凹む。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	8mmの石含む	灰白 良好	小破片 外面煤付着 皿
1602 S K 101A ○	大型瓶 灰釉	— — (16.9)	平底の底部から、内湾し直線的に素直に開く。全体に器肉は厚い。	底部 外面 切り離し技法不明 胴部 内面 粘土巻き上げ痕	細砂含む	外面 緑黒 内面 灰	底部残存
1603 S K 112 ○	丸甕 土師器	— — 10.4	台部は円錐形を呈し、中半から緩やかに外反し、大きく外方へ開く。	台部 外面 指オサエ後指ナデ 底部 内面 ヘラナデ	砂粒多量に含む	橙 良好	高台部のみ 完形
1604 S K 112 ○	椀 土師器	4.2 (15.6) —	中央に僅かな凹みを持つ丸底の底部は、強く内湾して立ち上がり、内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 上半指オサエ 下半手持ちヘラケズリ	赤褐色粒含む	橙 良好	口縁～底部 残存
1605 S K 153 ○	蓋 須恵器	— — 2.8	宝珠状摘まみを貼付する天井部は緩やかに外方へ開く。頭頂部が低い。	天井部 外面 摘まみ貼付 体部 外面 回転ヘラ切り	細砂含む	灰白 良好	天井部残存
1606 S K 155 ○	高台杯 須恵器	5.2 (13.1) 7.2	低い高台を貼付する底部は、屈曲して立ち上がり、丸く肥厚した高台を貼付する。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ 胴部 外面 ロクロ目痕	8mm大の石含む	灰白 良好	口縁～底部 残存
1607 S K 155 ○	高台杯 須恵器	(6.2) (17.2) (10.9)	僅かに外反する、細く丁寧な高台を貼付する底部は、屈曲して立ち上がり、直線的に口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整 口縁部 横ナデ	細砂含む	灰白 良好 硬質	口縁外面に 沈線を持つ
1608 S K 155 ○	椀 灰釉	— — (9.3)	三日月高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整	精選された胎土	灰 良好	底部残存 重ね焼き痕
1609 S K 155 ○	丸甕 土師器	11.8 (10.0) 7.6	八の字状に開く台部を持つ底部は内湾し、球形の胴部から、口縁部はくの字状口縁で端部に沈線入る。	台部 外面 横ナデ 胴部 外面 上位ヘラケズリ 中下位ヘラケズリ↓	赤褐色土粒 砂粒多量に含む	にぶい黄橙 良好	口縁～台部 残存 鉄分付着
1610 S K 155 ●	瓶 須恵器	— (31.2) —	張りのある肩部からくの字状に大きく開く口縁に到る。頭部先端に縁帯巡る。	肩部 内外面 横方向のナデ 頸部 外面 たたき目痕 内面 ハケ目	長石・細砂含む	青灰 良好	口縁残存 肩部内面に 灰かかる
1611 S K 160 ○	椀 須恵器	— (15.4) —	内湾する胴部は、丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	口縁～胴部 残存
1612 S K 170 ○	長頸瓶 須恵器	— — (13.0)	低い高台を貼付した底部は、内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 胴部 外面 板状工具のナデ 内面 ヘラナデ	長石・細砂含む	灰 良好	高台部に糞 の子状圧痕 有 大型瓶
1613 S K 177 ○	大型甕 須恵器	— (49.6) —	頭部の先端に縁帯が巡る。縁帯上端部は、上方へ薄く延びる。下端部は、下方へ薄く延びる。	頸部 内外面 横方向のナデ 口縁部 横ナデ 底部 外面 右回転糸切り	長石・軽石 砂粒含む	灰黄 良好	口縁少片
1614 S K 192 ○	椀 須恵器	2.6 9.8 5.8	平底の底部は、緩やかに立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	胴部 内外面 ロクロ成形 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒に多く含む	橙 良好	口縁欠損
1615 S K 198 ○	長甕 土師器	— (18.2) —	丸味のある胴部から、くの字状口縁部に到る。端部に沈線入る。	胴部 外面 ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒含む	灰白 良好	口縁残存 須恵質
1616 S K 200 ●	蓋 須恵器	4.1 17.8 3.4	環状摘みを貼付する偏平な天井部は、緩やかに開き、口縁端部で内側に折り返す。	天井部 外面 右回転糸切り 体部 外面 回転ヘラ切り 内外面 ロクロ目痕	長石・小石含む	緑灰 良好	口縁残存
1617 S K 201 ●	椀 土師器	3.9 12.8 —	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、端部で内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	ほぼ完形

## 1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1618 S K 201 ●	椀 土師器	3.3 13.6 —	丸底の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに内傾する口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	ほぼ完形
1619 S K 201 ○	丸 甕 土師器	— (20.6) —	張りのある胴部は、くの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒多量に含む	橙 良好	口縁残存
1620 S K 201 ○	丸 甕 土師器	— (22.4) —	張りのなる胴部は、くの字状に外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒多量に含む	橙 良好	口縁～胴部 残存 鉄分付着
1621 S K 225 ○	瓶 土師器	— — ( 5.0)	直線的に延びる単孔の瓶	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 横ヘラケズリ 底部 外面 ヘラケズリ	1mmの砂粒含む	明赤褐 良好	底部～胴部 残存 古墳時代
1622 S K 230 ○	高台杯 須恵器	— — ( 8.2)	直線的に外に張る薄い高台を貼付する。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 切り離し後ナデ 内面 回転によるナデ	軽石砂粒含む	灰 良好 硬質	底部少片 内面鉄分付着
1623 S K 235 ○	高台杯 須恵器	— — ( 6.7)	粗雑な高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 内面 左渦文 胴部 外面 ロクロ目痕	細砂含む	灰白 良好	底部残存
1624 S K 235 ○	皿 灰 釉	( 2.7) (13.8) ( 7.7)	低い高台を貼付する底部は、緩やかな胴部から端部で短く外傾する口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	精選された胎土	灰 良好	口縁～底部 残存
1625 S K 255 ○	長 甕 土師器	— (18.0) —	直線的な胴部から、外反するくの字状口縁部。	胴部 外面 ヘラケズリ← 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒含む	橙 良好	口縁～胴部 残存
1626 S K 255 ○	長 甕 土師器	— — ( 5.6)	平底の底部から、内湾して立ち上がる。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ	1mmの砂粒含む	橙 良好	底部～胴部 残存
1627 S K 258 ○	椀 灰 釉	— — ( 6.5)	開く高台を貼付し内面凹凸面を持つ底部は、強く内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整 内面 渦文	精選された胎土	灰白 良好	底部のみ残存
1628 S K 263 ○	杯 土師器	4.0 (11.7) 5.6	平底の底部は、緩やかに立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 下半手持ちヘラケズリ 上半指オサエ	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁～底部 残存
1629 S K 287 ○	椀 須恵器	— (14.2) —	僅かな内湾傾向を持つ胴部は、直線的に終る口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	軽石砂粒・細砂含む	灰 良好	口縁部残存
1630 S K 307 ●	杯 須恵器	— — (10.2)	一定した器厚の底部から、屈曲して立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り後回転 ヘラケズリ 胴部 内外面 回転によるナデ	細砂含む	緑灰 良好	底部残存
1631 S K 307 ○	羽 釜 須恵器	— (19.6) —	直立気味の口縁部は、端部で僅かに凹みを持つ。	口縁部 横ナデ	砂粒含む	外面 橙 良好 内面 にぶい橙	口縁部残存 甕
1632 S K 354 ●	長 甕 土師器	35.6 20.9 3.8	平底の底部から、内湾して立ち上がる張りのない長い胴部は、鋭く外反するくの字状口縁部。	底部 外面 ヘラケズリ 胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ヘラナデ	砂粒多量に含む	橙 良好	口縁～底部 残存
1633 S K 375 ○	椀 土師器	— (12.6) —	胴部は内湾して立ち上がる。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ 後指ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～胴部 残存
1634 S K 375 ○	椀 土師器	— 12.8 —	丸底の底部は、屈曲して立ち上がり、端部で僅かに内湾し、丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	軽石・長石 黒雲母・石英含む	橙 良好	口縁部残存
1635 S K 375 ○	長 甕 土師器	— (19.6) —	コの字状の口縁部。	口縁部 横ナデ	赤褐色土粒含む	明赤褐 良好	口縁部残存
1636 S K 381 ○	杯 須恵器	— — 9.8	平底の大きい底部は、弱い締めを行って、屈曲して立ち上がる。	底部 外面 回転糸切り後、周 縁手持ちヘラ調整 胴部 内外面 回転によるナデ	2～3mmの 少石含む	灰白 良好	底部×印あり (ヘラ書き)
1637 S K 382 ○	椀 土師器	— (13.0) —	薄い器肉で丸底の底部は、内湾し直立気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 残存

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1638 S K 382 ○	杯 須恵器	( 3.2) (12.1) ( 7.5)	屈曲気味に立ち上がり、直線的な口縁部に到る。器厚は一定している。	胴部 内外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	細砂含む	緑灰 良好	口縁部片残存
1639 S K 382 ○	長 甕 土師器	— (20.4) —	口縁部はコの字状を呈す。端部は僅かに内傾して終る。	口縁部 横ナデ	赤褐色土粒 砂粒多量に 含む	にぶい橙 良好	口縁部片残存
1640 S K 394 ○	高台杯 須恵器	— — —	高台の割がれた器内の厚い底部は、緩やかに器厚を減らしながら、立ち上がる。	高台部 付高台剥離	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	胴部下位一底部残存
1641 S K 394 ●	丸 甕 土師器	— (13.2) —	球形の胴部は、器厚を増し、緩やかに外反する、くの字状の口縁部に到る。	胴部 外面ヘラケズリ← 内面指ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・ 砂粒含む	橙 良好	口縁部片残存 須恵質
1642 S K 396 ●	杯 土師器	— (12.3) —	屈曲気味の胴部は、外方に開きながら口縁部に到る。	胴部 外面 上半指オサエ 下半ヘラケズリ 口縁部 横ナデ	軽石・砂粒 含む	にぶい橙 良好	口縁部片残存
1643 S K 396 ○	杯 土師器	— (12.7) —	胴部は直線的に立ち上がり、口縁部に到る。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	外面 にぶ い橙 内面 橙	口縁部片残存
1644 S K 396 ○	碗 須恵器	— (11.5) —	直線的に開く胴部は、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・ 砂粒含む	橙 良好	口縁部片残存
1645 S K 396 ○	高台杯 須恵器	— (18.0) —	緩やかに内湾する胴部は、端部で短く外反する口縁部に到る。	高台部 剥離 胴部 内外面 棒状ヘラミガキ 口縁部 横ナデ	黒雲母・砂 粒含む	褐灰 良好	口縁部片残存
1646 S K 398 ●	碗 須恵器	3.3 (10.4) ( 5.0)	一定した器厚の底部は、整った曲線を描いて立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	4mm大の石 ・砂粒含む	橙 良好	口縁部片残存
1647 S K 398 ○	碗 須恵器	— (12.8) —	緩やかに内湾して立ち上がる胴部は、外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	口縁部片残存
1648 S K 398 ○	碗 須恵器	— (12.7) —	内湾する胴部は、外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部片残存
1649 S K 398 ○	碗 須恵器	— (10.8) —	僅かに内湾する胴部は、肥厚する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・ 石英含む	橙 良好	口縁部片残存
1650 S K 398 ○	碗 須恵器	— (10.4) —	内湾する胴部は、丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横	赤褐色粒含む	橙 良好	口縁部片残存
1651 S K 398 ○	碗 須恵器	— (15.2) —	口縁部は、外反する。	胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	口縁部片残存
1652 S K 398 ○	碗 須恵器	— (13.5) —	内湾する口縁部は、丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	口縁部片残存
1653 S K 399 ○	碗 須恵器	— (13.0) —	内湾する胴部は、やや外反気味の口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横	白色軽石・ 砂粒含む	にぶい褐 良好	口縁部片残存
1654 S K 401 ●	直線甕 土師器	— (23.0) —	胴部は直立気味に立ち上がり、強く外反して口縁部に到る。端部はやや尖るくの字口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ヘラナデ← 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁部片残存
1655 S K 404 ○	碗 須恵器	— (13.3) —	器内の厚い胴部は、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色 粒・砂粒 含む	にぶい橙 良好	口縁部片残存
1656 S K 404 ○	高台碗 須恵器	— (11.1) —	高台の欠損する小さな底部から、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり端部で僅かに外反する口縁部。	高台部 剥離 胴部 外面 回転によるナデ 内面 棒状ヘラミガキ	砂粒含む	灰白 良好	口縁部片残存
1657 S K 404 ○	羽 釜 須恵器	— (25.8) —	断面三角形の鐙を貼付し、内湾気味な胴部から、やや直立し口縁部に到る。端部は平坦。	口縁部 横ナデ	1mmの砂粒 含む	外面 橙 内面 浅黄	口縁部片残存 甕

## 1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1658 S K 405 ○	碗 須恵器	2.9 (10.2) 5.0	一定した器厚の底部から、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 1/10残存
1659 S K 405 ○	碗 須恵器	— (11.0) —	内湾する胴部は、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	白色軽石・ 砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁部1/10残存
1660 S K 405 ○	碗 須恵器	— — 4.8	一定の器厚を持つ平底の底部からやや内湾して立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ	1mmの砂粒 含む	にぶい橙 良好	胴下部～底 部1/10残存
1661 S K 406 ○	碗 土師器	— (14.6) —	緩やかに内湾して立ち上がり、僅かに内傾して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	明褐 良好	口縁部1/10残存
1662 S K 410 ●	長 甕 土師器	— (18.5) —	丸味を持つ胴部から、外反して丸く終るくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒 含む	橙 良好	口縁部1/10残存 須恵質
1663 S K 412 ○	長 甕 土師器	— (20.0) —	口縁部は強く外反する。口唇部に沈線巡る。コの字状口縁。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	砂粒多量に 含む	橙 良好	口縁部1/10残存
1664 S K 413 ○	碗 須恵器	— (12.2) —	僅かな内湾傾向を持つ胴部は、肥厚して丸く終る口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	長石・石英 砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁部1/10残存
1665 S K 413 ○	高台杯 須恵器	( 6.1) (14.2) ( 8.2)	外反する高台を貼付する底部は内湾して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ 胴部 内外面 回転によるナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 1/10残存
1666 S K 418 ○	碗 須恵器	— (12.7) —	僅かな内湾傾向を持つ胴部は、素直に丸く終る口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	軽石・砂粒 含む	灰黄 良好	口縁～胴部 1/10残存
1667 S K 418 ○	碗 須恵器	— (13.0) —	緩やかに内湾して立ち上がり、丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	浅黄橙 良好	口縁部1/10残存
1668 S K 418 ○	碗 須恵器	— (12.6) —	直線的な胴部は、僅かに外反し丸く終る口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	細砂の赤褐色 色粒・砂粒 含む	にぶい黄橙 良好	口縁部1/10残存
1669 S K 418 ○	碗 須恵器	— (13.0) —	外反しながら、丸く終る口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁部1/10残存
1670 S K 418 ○	碗 須恵器	— (13.2) —	緩やかに内湾して立ち上がり、外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁～底部 1/10残存
1671 S K 418 ○	高台杯 須恵器	— — ( 6.5)	しっかりとした高台を貼付し、底部は、内面僅かに凸面を持つ。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ 内面 ナデ	4mmの小石 含む	にぶい橙 良好	台部1/10残存
1672 S K 419 ○	碗 須恵器	— (12.2) —	直線的に開く胴部は、僅かに外反して丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	底部欠損
1673 S K 419 ○	碗 須恵器	— (12.2) —	外反に開く胴部から、屈曲して丸く終る口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部1/10残存
1674 S K 420 ○	碗 須恵器	— (10.2) —	胴部は内湾して、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面回転によるナデ 口縁部 横ナデ	細砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部1/10残存
1675 S K 420 ○	碗 須恵器	— (10.2) —	口縁部は僅かに外反して、丸く終る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ ナデ	軽石砂粒含む	にぶい黄橙 良好	口縁部1/10残存
1676 S K 420 ○	碗 須恵器	— (14.0) —	内湾して直線的に立ち上がり、強く外反する口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	石英・赤褐色 色粒・砂粒 含む	橙 良好	口縁～胴部 1/10残存
1677 S K 420 ○	鉢 土師器	— (16.0) —	内湾する厚い胴部から、短く外反する口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	浅黄橙 良好	口縁部1/10残存

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1678 S K 420 ○	椀 須恵器	4.1 (12.4) 5.6	一定した器厚の底部は、緩やかに立ち上がり、外反して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒含む	灰白 良好	口縁～底部 1/2残存
1679 S K 420 ○	足高椀 須恵器	— — (8.0)	外反する高い高台を貼付する。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ 内面 回転によるナデ	砂粒含む	黒 良好	過還元 高台部1/2残存
1680 S K 420 ○	足高椀 須恵器	— — (9.4)	八の字状に外反する、高い高台。	高台部 付高台 外面 ロクロ目痕	赤褐色土粒含む	浅黄橙 良好	高台部1/2残存
1681 S K 420 ○	足高椀 須恵器	— — 10.6	八の字状に開く厚い高台を貼付する。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ	砂粒含む	浅黄橙 良好	底部のみ残存
1682 S K 420 ●	足高椀 須恵器	— — (14.0)	厚くしっかりした外反する足高高台を貼付する。底部は器厚は厚い。	高台部 付高台 外面 ロクロ目痕 底部 内面 回転によるナデ	赤褐色土粒少量含む	灰白 良好	高台部1/2残存
1683 S K 420 ○	椀 灰釉	— — (8.9)	三日月高台を貼付した底部は、内湾気味に立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整	精選された胎土	灰白 良好	底部1/2残存
1684 S K 420 ○	羽釜 須恵器	— — (19.0)	厚い脚部は外方に開く。	脚部 横方向のナデ	1mmの砂粒含む	灰黄 良好	内面煤付着 脚部1/2残存 甑
1685 S K 420 ○	長頸瓶 灰釉	— — 14.9	しっかりした器肉の厚い頸部から、直線的に外方に、器肉を減らしながら立ち上がる。	頸部 外面 ロクロ目痕	精選された胎土・黒色斑点	灰白 良好	頸部に釉が強くかかる (ハケぬり)
1686 S K 420 ○	長甕 土師器	— — (30.2)	僅かに肩を持つ胴部は、器厚を増し外反するくの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ↓ 内面 ヘラナデ← 口縁部 横ナデ	2mmの砂粒含む	灰白 良好	口縁～胴上 位1/2残存 須恵質
1687 S K 420 ○	大型瓶 須恵器	— — —	器肉の一定した肩部に把手痕を残す。	肩部 内面 ロクロ目痕	砂粒含む	灰 良好	把手部のみ 残存 環状耳付
1688 S K 420 ○	中型甕 須恵器	— — —	大きな球形の胴部は、頸部で器厚を増す。	胴部 外面 タクキ目痕 内面 手のひらによる当て痕	長石・細砂含む	緑灰 良好	口縁端部と 底部欠損
1689 S K 420 ○	大型甕 須恵器	— — (28.2)	張りを持つ肩部かた、僅かに外方に立ち上がる。	肩部 内面 手のひらによる当て痕	長石・小石含む	青灰 良好	肩部少片
1690 S K 421 ○	椀 須恵器	— — (10.6)	底部から、直線的に立ち上がり、僅かに外反気味の口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	口縁～底部 1/2残存
1691 S K 421 ●	椀 須恵器	— — (12.5)	直線的に外反する胴部は、丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	軽石含む	灰白 良好	口縁部1/2残存
1692 S K 421 ○	椀 須恵器	— — (15.2)	内湾する胴部は、僅かに外反して終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒多量に含む	橙 良好	口縁～胴部 1/2残存
1693 S K 426 ●	椀 須恵器	— — (13.2)	直線的に開く胴部は、僅かに外反して、丸く肥厚する口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	灰黄 良好	口縁部1/2残存
1694 S K 427 ●	高台杯 須恵器	4.8 (12.8) (6.8)	外反する高台を貼付する底部は、屈曲して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り 内面 渦文	砂粒多量含む	灰白 良好	ほぼ完形 底部内側が 凹凸してる
1695 S K 428 ●	椀 須恵器	3.4 10.5 6.0	平底の底部は立ち上がり部で器厚を増し、内湾して口縁部で僅かに外反する。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	灰白 良好	ほぼ完形
1696 S K 428 ○	椀 須恵器	3.1 10.2 6.0	平底の底部から、緩やかに肥厚し、内湾しながら立ち上がり、外反気味の口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	3mmの小石含む	灰白 良好	口縁～底部 1/2残存
1697 S K 428 ○	高台杯 須恵器	— — 11.0	胴部は内湾して立ち上がり、やや外反気味の口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	細砂含む	にぶい橙 良好	口縁～胴部 1/2残存

1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1698 S K 428 ○	碗 須恵器	— (12.8) —	胴部は直線に外方に開き、外反気味の口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	灰白 良好	口縁部 <sub>10</sub> 残存
1699 S K 429 ●	高台杯 土師器	— (13.7) —	高台の欠損する底部は、緩やかに立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	胴部 外面 手持ちヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・少量含む	橙 良好	口縁～底部 <sub>10</sub> 残存 煤附着
1700 S K 429 ○	高台杯 須恵器	6.1 (13.4) 6.4	短い高台を貼付した底部は、中央に傾き凸面を持ち、屈曲して立ち上がり、口縁部で外反する。	高台部 付高台 胴部 外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～体部 <sub>10</sub> 欠損
1701 S K 429 ○	長 甕 土師器	— (16.0) —	口縁部は外反するくの字状口縁部に到る。	口縁部 横ナデ	砂粒含む	浅黄橙 良好	口縁部 <sub>10</sub> 残存
1702 S K 431 ●	碗 須恵器	3.5 10.7 4.7	僅かな凹凸面を内面に持つ底部は内湾して立ち上がり、外反して丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 内外面 回転によるナデ	砂粒含む	灰白 良好	完形 黒斑あり
1703 S K 431 ●	碗 須恵器	3.9 (11.0) ( 5.6)	中央に僅かな脹らみを持つ底部から、屈曲気味に内湾して立ち上がり、外反し丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 内外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	赤褐色土粒 2mmの砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 <sub>10</sub> 残存
1704 S K 431 ○	碗 須恵器	3.9 (11.4) ( 5.6)	平底の底部は、屈曲して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 内外面 ロクロ目痕 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒 多量に含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 <sub>10</sub> 残存
1705 S K 431 ○	杯 須恵器	4.0 (11.6) 5.0	平底の底部から内湾して立ち上がり、直線的な口縁部は、外面でやや肥厚する。	底部 外面 静止糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 <sub>10</sub> 残存 黒斑あり
1706 S K 431 ○	碗 須恵器	— (12.0) —	胴部は外方に直線的に開き口縁部で短く外反する。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	浅黄橙 良好	口縁部 <sub>10</sub> 残存
1707 S K 431 ○	碗 須恵器	— (12.2) —	僅かに内湾する胴部は、外反して丸く肥厚して終る口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒・黒雲母含む	灰黄 良好	口縁部 <sub>10</sub> 残存 黒斑あり
1708 S K 431 ○	碗 須恵器	— (10.8) —	口縁部は外方に屈曲して、丸く終る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	長石・細砂粒含む	浅黄橙 良好	口縁部 <sub>10</sub> 残存
1709 S K 431 ○	碗 須恵器	— (12.3) —	胴部から、屈曲し外反する厚い口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	長石・白色軽石含む	にぶい黄橙 良好	口縁部 <sub>10</sub> 残存
1710 S K 431 ○	碗 須恵器	— (14.6) —	口縁部は強く外反して、肥厚し丸く終る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部 <sub>10</sub> 残存
1711 S K 431 ○	高台杯 須恵器	4.2 (12.8) 6.6	短い高台を貼付する底部は、屈曲して立ち上がり、僅かに外反する口縁部に到る。	高台部 付高台 底部 外面 右回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ	1mmの砂粒含む	灰白 良好	口縁～底部 <sub>10</sub> 残存 底部黒斑
1712 S K 431 ○	高台杯 須恵器	5.0 (12.2) ( 6.6)	短い台形の高台を貼付する底部は、内湾して立ち上がり、僅かに外反し丸く肥厚して終る口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文	黒雲母	灰オリーブ 良好	口縁～底部一部欠損 過還元
1713 S K 431 ○	足高碗 須恵器	6.1 (15.2) 8.7	外反する高台を貼付する底部は、内湾して立ち上がり、僅かに外反し丸く肥厚して終る口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ 胴部 内外面 回転によるナデ	小石・砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁～高台部 <sub>10</sub> 残存
1714 S K 431 ○	高台杯 須恵器	— 6.2	外面に稜をもつ高台を貼付する底部から緩やかに外方へ開いて立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 右回転糸切り 内面 渦文	軽石・砂粒を含む	灰 良好	胴部欠損
1715 S K 431 ○	高台杯 須恵器	— 6.2	外面に弱い張りを持つ高台を貼付する器内の厚い底部から緩やかに立ち上がる。	底部 外面 切り離し後ナデ 内面 渦文 胴部 内外面 回転によるナデ	軽石・砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	胴部欠損
1716 S K 431 ○	足高碗 須恵器	— 9.2	端部に沈線を持つ高い高台を貼付する底部から緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ	赤褐色粒を含む	浅黄橙 良好	胴部下位～高台部 <sub>10</sub> 残存
1717 S K 431 ○	足高碗 須恵器	— (10.8)	端部に沈線を持つ高さのある高台である。	高台部 付高台 横ナデ	細砂を含む	浅黄橙 良好	高台部 <sub>10</sub> 残存

第三章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1718 S K 431 ○	足高碗 須恵器	— — (12.8)	器内の薄い足高台は、裾部で外反する。	高台部 付高台 横ナデ	赤褐色粒含む	浅黄橙 良好	高台部のみ残存
1719 S K 431 ○	碗 灰 釉	— — (7.4)	外面に稜線を持つ短い高台を貼付した底部は、高台付部から器肉を増し、緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 ナデ 底部 外面 回転ヘラ調整	砂粒を含む	灰 良好	重ね焼き痕 胎土が発泡している
1720 S K 431 ○	碗 灰 釉	— — (8.7)	器内の厚いしっかりした高台を貼付し、緩やかな凹凸面を持つ底部は、内湾気味に立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 回転ヘラ調整	精選されている	灰 良好	重ね焼き痕 底部に残存
1721 S K 433 ○	高台杯 須恵器	— — (7.1)	器内の薄い高台を貼付する底部は、緩やかに内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ 内面 渦文	砂粒を含む	にぶい黄橙 良好	底部に残存
1722 S K 433 ○	高台杯 須恵器	— — —	器肉の厚い底部は、高台を貼付し内湾気味に立ち上がる。	高台部 付高台 端部欠損 底部内外面 指ナデ 胴部 外面 ヘラケズリ	砂粒を含む	浅黄橙 良好	底部は完形 胴部に残存 底部黒斑有
1723 S K 434 ●	碗 須恵器	3.0 (10.0) (5.0)	上底の底部から強く内湾して立ち上がり、器厚を減しながら外反して、口縁部は尖って終る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	外面 黄灰 内面 にぶい橙 良好	底部に口縁に残存
1724 1号土器集積 ●	碗 土師器	3.5 11.7 7.4	丸底気味の底部は、屈曲気味に強く内湾して立ち上がり、尖り気味の口縁部に到る。	底部 外面 手持ちヘラケズリ 胴部 外面 指オサエ後指ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	口縁～底部に残存
1725 1号土器集積	高台碗 須恵器	— — (9.0)	外に張る高台を貼付する底部は、内湾して立ち上がる。	高台部 付高台 底部 外面 回転糸切り後ナデ 内面 棒状ヘラミガキ	赤褐色粒・白色砂粒含む	橙 良好	高台部ほぼ完形 内面鉄分付着
1726 1号土器集積 ●	碗 須恵器	(2.6) (11.0) (6.1)	一定した器厚の底部は、緩やかに内湾して立ち上がり、端部で外反気味に終る口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 内面 左渦文 胴部 内外面 回転によるナデ	赤褐色粒含む	橙 良好	口縁～底部に残存
1727 1号土器集積	碗 須恵器	— — (5.8)	平底の底部から外方へ開いて立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ	軽石・黒雲母含む	灰白 良好	胴部に底部残存 黒斑あり
1728 1号土器集積 ●	高台杯 須恵器	5.7 (14.1) 9.2	外反する高台を貼付する底部から屈曲して直線的に立ち上がり、外反し端部は丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 回転糸切り後ナデ 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ	赤褐色粒を含む	橙 良好	高台完形 口縁部一部あり
1729 1号土器集積 ●	足高碗 須恵器	— — (8.4)	外反する高台を貼付する底部から器厚を増しつつ緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 糸切り後ナデ 胴部 内外面 回転によるナデ	赤褐色粒・軽石を含む	浅黄橙 良好	口縁部欠損
1730 1号土器集積 ●	高台杯 須恵器	— — (6.9)	粗雑な低い高台を貼付する底部から屈曲して立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ 胴部 内外面 回転によるナデ	砂粒を含む	灰白 良好	口縁部欠損
1731 1号土器集積 ○	輪花皿 灰 釉	(2.4) (14.6) (7.6)	短い高台を貼付する器肉の厚い底部から大きく外方へ開き外反し端部が丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ	5～6mmの砂粒を含む	灰白 良好	漬け掛け 重ね焼き痕 輪花に残存
1732 1号土器集積 ●	碗 灰 釉	— — (7.8)	外面に稜を持ち端部が尖る高台を貼付する底部から緩やかに内湾して立ち上がる。	底部 外面 切り離し後ナデ 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ	精選された胎土	灰白 良好	胴部～底部に残存
1733 1号土器集積 ●	碗 灰 釉	— — 6.6	外面に稜を持つ高台を貼付する底部から大きく外方へ開いて立ち上がる。	底部 外面 回転ヘラ調整 胴部 外面 回転ヘラ調整 内面 回転によるナデ	精選された胎土	灰白 良好	口縁部欠損
1734 1号土器集積 ●	碗 灰 釉	— — (7.1)	断面三角形の低い高台を貼付する底部から大きく外方へ開いて立ち上がる。	底部 外面 回転ヘラ調整 胴部 外面 回転ヘラ調整 内面 回転によるナデ	精選された胎土	灰白 良好	漬け掛け 重ね焼き痕 口縁部欠損
1735 1号土器集積 ○	碗 灰 釉	— — (7.7)	外面に稜を持つ高台を貼付する底部から緩やかに立ち上がる。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転ナデ調整	精選された胎土	灰白 良好	底部に残存 重ね焼き痕
1736 2号土器集積 ●	長 甕 土師器	— — (18.0)	口縁部はコの字状に立ち上がり、短く外反する端部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ヘラナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色土と2mmの砂粒含む	橙 良好	口縁～胴上部に残存
1737 2号土器集積 ●	長 甕 土師器	— — (20.4)	口縁部は、コの字状を呈す。	口縁部 横ナデ	赤褐色土含む	橙 良好	口縁部に残存



1 土 器

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1738 2号土器集積 ●	長 甕 土師器	— (18.4) —	やや丸味のある胴部は、コの字状口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 横方向ヘラナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒含む	橙 良好	口縁～胴部 欠残存
1739 2号土器集積 須恵器	羽 釜	— (22.4) —	胴部は断面三角形のしっかりした鑊を貼付し、直立気味に立ち上がる口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ 内面 ナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	胴部下位～ 底部欠損 甑
1740 2号土器集積 ●	台付甕 土師器	— (10.3) —	ハの字状に開き、裾部で内湾する脚部である。	脚部 外面 ハケ目 内面 不定方向ハケ目	軽石・石英を含む	にぶい赤橙 良好	底部欠残存 古墳時代
1741 2号土器集積 ●	鉢 土師器	— (13.0) —	半球形の底部は、口縁部内面に面を持って終る。	底部 外面 荒れていて不明 胴部 内外面 丁寧なナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	浅黄橙 良好	口縁～底部 欠残存
1742 2号土器集積 ●	高台杯 須恵器	— — 7.2	低い高台を貼付する底部は、緩やかに立ち上がる。	底部 外面 右回転糸切り 内面 渦文 胴部 内外面 回転によるナデ	軽石・黒雲母・砂粒含む	暗灰 灰白 良好	口縁部欠損 黒斑あり
1743 2号土器集積 ●	碗 須恵器	— (14.2) —	直線的な胴部は外方へ開き、丸く終る口縁部に到る。	胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒含む	浅黄橙 良好	口縁部 $\frac{1}{10}$ 残存
1744 2号土器集積 ●	台付甕 土師器	— (18.0) —	器肉の薄い張りのある胴部から強く外反し、外稜を持つ口縁部に到る。	胴部 外面 上位ハケ目← 中～下位ハケ目← 内面 ヘラナデ	赤褐色土粒砂粒多量に含む	橙 良好	口縁～胴部 欠残存 古墳時代
1745 3号土器集積 ●	碗 須恵器	3.2 10.4 5.1	上げ底の底部から緩やかに内湾して立ち上がり均一な器厚で口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	砂粒を含む	にぶい橙 良好	巻き上げ痕あり
1746 3号土器集積 ●	碗 須恵器	3.2 10.3 5.1	平らで厚い底部から緩やかに立ち上がり外反する口縁部に到る。	底部 外面 右回転糸切り 胴部 外面 ロクロ目痕 内面 回転によるナデ	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	口縁部欠残存 欠残存
1747 3号土器集積 ●	高台杯 須恵器	4.5 11.3 6.3	低い高台を貼付する底部から緩やかに立ち上がり、外反して丸く終る口縁部に到る。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ 胴部 内外面 回転によるナデ	赤褐色粒含む	にぶい橙 良好	口縁～高台 欠残存 黒斑あり
1748 3号土器集積 ●	羽 釜 須恵器	— (20.0) —	直線的な胴部は断面三角形で水平に張り出す鑊を貼付し、やや内傾し端部は平らな口縁部に到る。	胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	1mmの砂粒含む	灰白 黒 良好	口縁～胴部 欠残存 甑
1749 3号土器集積 ●	羽 釜 須恵器	— (22.0) —	やや丸味をもつ胴部は断面三角形で水平に張り出す鑊を貼付しわずかに内傾する口縁部に到る。	胴部 外面 ヘラケズリ↓後ナデ 内面 回転によるナデ	2mmの砂粒多量に含む	淡黄 良好	口縁～胴部 欠残存 甑
1750 5号土器集積 ●	杯 土師器	1.4 6.4 —	丸底の底部から緩やかに立ち上がり、口縁部に到る。	手づくね土器で指頭による成形後底部内外面指ナデ、口縁部横ナデである。	赤褐色粒含む	橙 良好	ほぼ完形 手捏
1751 5号土器集積 ●	杯 土師器	1.2 6.0 —	底部外面中心にくぼみを持ち緩やかに立ち上がり口縁部に到る。	良好な手づくね土器で指頭による成形後底部内外面指ナデ、口縁部横ナデである。	赤褐色粒・砂粒含む	橙 良好	口縁～底部 欠残存 手捏
1752 5号土器集積 ○	杯 土師器	1.5 6.0 —	丸底の底部からやや内湾しながら口縁部に到る。	手づくね土器で指頭による成形後底部内外面指ナデ、口縁部横ナデである。	赤褐色粒を含む	橙 良好	ほぼ完形 手捏
1753 5号土器集積 ●	杯 土師器	1.3 6.3 —	丸底の底部から緩やかに立ち上がり口縁部に到る。	手づくね土器で指頭による成形後底部内外面指ナデ、口縁部横ナデである。	赤褐色粒を含む	橙 良好	口縁～底部 欠残存 手捏
1754 5号土器集積 ●	杯 土師器	1.3 6.4 —	丸底の底部から緩やかに立ち上がり口縁部に到り端部は尖る。	手づくね土器で指頭による成形後底部内外面指ナデ、口縁部横ナデである。	赤褐色粒を含む	橙 良好	ほぼ完形 手捏
1755 5号土器集積 ●	杯 土師器	( 1.4 ) ( 6.0 ) —	丸底気味の底部から緩やかに立ち上がり口縁部に到る。器肉は薄い。	良好な手づくね土器で指頭による成形後底部内外面指ナデ、口縁部横ナデである。	赤褐色粒を含む	橙 良好	口縁～底部 欠残存 手捏
1756 5号土器集積 ●	碗 須恵器	4.0 (10.5) ( 4.5 )	平底の底部から外方に向けて立ち上がり、肥厚する口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 内面 渦文 胴部 内外面 回転によるナデ	赤褐色粒を含む	明赤褐 良好	口縁～底部 欠残存
1757 5号土器集積 ●	碗 須恵器	2.0 8.8 5.4	平底の底部から屈曲して立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・軽石を含む	にぶい橙 良好	口縁～底部 欠残存

第Ⅲ章 遺物

土器番号 遺構番号 出土地点	器形 分類	法量 器高・口径・底径	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	色調・焼成	備考
1758 5号土器集積 ●	碗 須恵器	2.0 9.4 5.6	器内の薄い平底の底部から屈曲して立ち上がり、端部が肥厚する口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒を含む	にぶい橙 良好	完形
1759 5号土器集積 ●	碗 須恵器	2.1 9.3 5.4	平底の底部から屈曲して立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 内面 渦文 胴部 内外面 回転によるナデ	赤褐色粒を含む	にぶい橙 良好	完形
1760 5号土器集積 ●	碗 須恵器	2.0 8.9 5.7	一定した器厚の底部から屈曲して立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・軽石を含む	にぶい橙 良好	ほぼ完形
1761 5号土器集積 ●	碗 須恵器	1.9 9.2 5.3	平底の底部は屈曲して立ち上がり、端部が丸く終る口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ	赤褐色粒を含む。	にぶい橙 良好	完形
1762 5号土器集積 ●	碗 須恵器	2.4 9.5 5.2	平底の底部は大きく外方へ開いて立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 内面 渦文 胴部 内外面 回転によるナデ	赤褐色粒を含む	橙 良好	完形
1763 5号土器集積 ●	碗 須恵器	2.2 9.2 5.3	平底の底部から緩やかに立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 内面 渦文 胴部 内外面 回転によるナデ	赤褐色粒を含む	にぶい橙 良好 存	口縁部欠残
1764 5号土器集積 ●	碗 須恵器	1.8 9.0 5.4	平底の底部から屈曲して立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒を含む	にぶい橙 良好	完形
1765 5号土器集積 ●	碗 須恵器	1.7 9.2 5.7	平底の器内の薄い底部から大きく外方へ開いて立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒を含む	にぶい橙 良好	完形
1766 5号土器集積 ●	碗 須恵器	1.9 9.2 5.2	平底の底部から内湾して立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒を含む	にぶい橙 良好	完形
1767 5号土器集積 ●	碗 須恵器	1.7 9.0 5.3	平底の底部から緩やかに立ち上がり、やや内湾する口縁部に到る。端部は丸く肥厚する。	底部 外面 左回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒を含む	にぶい橙 良好	完形
1768 5号土器集積 ●	碗 須恵器	2.0 9.2 5.6	平底の底部からやや強く屈曲して立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・含む	にぶい橙 良好	完形
1769 5号土器集積 ●	碗 須恵器	2.0 9.3 6.1	器内の薄い底部から屈曲して立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	軽石・赤褐色粒・黒雲母含む	にぶい橙 良好	底部一部欠損
1770 5号土器集積 ○	碗 須恵器	1.9 9.0 5.2	平底の底部から屈曲して立ち上がり、丸く肥厚して終る口縁部に到る。	底部 外面 左回転糸切り 胴部 内外面 回転によるナデ 口縁部 横ナデ	赤褐色粒・砂粒含む	にぶい橙 良好	完形
1771 5号土器集積 ●	碗 須恵器	— — 7.0	粗雑で低い高台を貼付する厚手の底部である。	高台部 付高台 横ナデ 底部 外面 回転糸切り後ナデ	細砂含む	灰 良好	底部のみ残存

西今井遺跡 遺構出土の土器分類一覧表

土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号
0001	A-14	0057	B-30	0113	A-02	0169	A-14	0225	A-03	0281	B-19
0002	A-14	0058	B-22	0114	A-14	0170	A-14	0226	A-16	0282	B-19
0003	A-14	0059	C-03	0115	A-14	0171	B-16	0227	A-14	0283	B-16
0004	B-16	0060	B-14	0116	B-19	0172	B-16	0228	A-14	0284	A-08
0005	B-16	0061	A-14	0117	B-19	0173	B-16	0229	A-14	0285	A-01
0006	A-06	0062	A-14	0118	B-19	0174	A-14	0230	B-16	0286	A-01
0007	A-06	0063	A-01	0119	B-22	0175	A-14	0231	A-14	0287	A-01
0008	A-09	0064	A-01	0120	B-15	0176	A-14	0232	A-14	0288	A-01
0009	A-08	0065	A-14	0121	A-02	0177	B-19	0233	A-14	0289	A-02
0010	A-01	0066	A-14	0122	A-02	0178	B-18	0234	A-14	0290	A-03
0011	A-01	0067	A-14	0123	A-14	0179	B-09	0235	A-14	0291	A-01
0012	A-03	0068	A-14	0124	A-14	0180	B-15	0236	A-14	0292	A-14
0013	B-16	0069	B-15	0125	B-19	0181	B-15	0237	A-14	0293	A-14
0014	B-19	0070	D-01	0126	A-04	0182	A-02	0238	A-14	0294	B-21
0015	B-18	0071	A-10	0127	A-09	0183	A-02	0239	A-14	0295	A-11
0016	A-14	0072	A-02	0128	A-09	0184	A-02	0240	B-16	0296	C-06
0017	B-18	0073	A-01	0129	A-07	0185	A-02	0241	B-16	0297	C-06
0018	B-19	0074	A-01	0130	B-19	0186	B-14	0242	B-18	0298	C-06
0019	B-09	0075	B-19	0131	B-19	0187	A-02	0243	A-01	0299	A-18
0020	A-14	0076	A-02	0132	B-30	0188	A-10	0244	B-17	0300	A-18
0021	B-21	0077	B-24	0133	B-05	0189	A-03	0245	A-01	0301	A-02
0022	B-18	0078	A-02	0134	A-06	0190	A-14	0246	A-14	0302	A-16
0023	B-15	0079	A-02	0135	A-02	0191	A-14	0247	A-14	0303	A-11
0024	A-01	0080	B-30	0136	B-19	0192	B-19	0248	A-14	0304	A-11
0025	A-03	0081	B-30	0137	B-16	0193	A-02	0249	A-06	0305	C-12
0026	A-07	0082	B-14	0138	B-15	0194	A-16	0250	B-05	0306	B-19
0027	A-14	0083	B-22	0139	A-06	0195	A-14	0251	A-14	0307	C-08
0028	A-14	0084	B-22	0140	A-14	0196	A-14	0252	A-14	0308	C-06
0029	A-15	0085	A-18	0141	A-02	0197	B-16	0253	A-14	0309	A-16
0030	A-14	0086	B-13	0142	A-03	0198	A-10	0254	A-14	0310	A-16
0031	A-14	0087	A-14	0143	A-14	0199	B-16	0255	B-18	0311	A-04
0032	A-01	0088	A-14	0144	A-14	0200	A-14	0256	B-27	0312	A-16
0033	A-01	0089	B-16	0145	A-14	0201	A-14	0257	A-04	0313	A-09
0034	A-01	0090	B-02	0146	A-14	0202	A-02	0258	A-04	0314	B-21
0035	A-02	0091	A-02	0147	B-16	0203	A-01	0259	A-09	0315	B-30
0036	A-02	0092	A-03	0148	B-18	0204	A-14	0260	A-03	0316	B-30
0037	A-15	0093	A-02	0149	A-01	0205	A-14	0261	A-10	0317	B-30
0038	B-30	0094	A-14	0150	A-02	0206	A-01	0262	A-01	0318	B-30
0039	B-22	0095	B-18	0151	A-14	0207	A-14	0263	B-19	0319	A-16
0040	B-30	0096	C-04	0152	A-14	0208	A-14	0264	B-12	0320	A-03
0041	B-22	0097	C-06	0153	A-14	0209	A-14	0265	A-14	0321	A-16
0042	A-06	0098	A-02	0154	B-16	0210	A-14	0266	A-14	0322	B-14
0043	A-01	0099	B-19	0155	B-18	0211	B-16	0267	A-18	0323	B-19
0044	A-17	0100	B-30	0156	A-14	0212	B-16	0268	C-06	0324	A-14
0045	B-14	0101	B-22	0157	B-16	0213	B-16	0269	C-07	0325	B-19
0046	B-30	0102	A-05	0158	B-16	0214	A-01	0270	A-18	0326	B-19
0047	B-18	0103	B-14	0159	A-01	0215	A-14	0271	B-30	0327	B-29
0048	B-30	0104	A-14	0160	A-03	0216	A-14	0272	B-09	0328	B-15
0049	B-30	0105	A-14	0161	A-14	0217	A-14	0273	A-04	0329	B-13
0050	B-30	0106	B-16	0162	A-14	0218	A-14	0274	D-01	0330	B-14
0051	D-01	0107	B-16	0163	A-14	0219	A-14	0275	A-04	0331	A-13
0052	D-01	0108	B-16	0164	B-16	0220	A-14	0276	A-16	0332	A-13
0053	B-19	0109	B-26	0165	A-01	0221	A-14	0277	A-04	0333	A-16
0054	B-19	0110	B-18	0166	A-01	0222	A-14	0278	A-14	0334	A-14
0055	B-30	0111	A-01	0167	A-04	0223	B-21	0279	A-14	0335	A-08
0056	B-30	0112	A-02	0168	A-06	0224	B-14	0280	A-14	0336	A-02

第三章 遺 物

土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号
0337	A-09	0397	C-06	0457	B-19	0517	A-14	0577	A-14	0637	B-13
0338	A-11	0398	B-13	0458	B-19	0518	B-19	0578	A-14	0638	B-14
0339	A-14	0399	B-14	0459	B-15	0519	A-02	0579	A-14	0639	B-14
0340	A-14	0400	A-14	0460	C-06	0520	A-02	0580	A-14	0640	A-20
0341	A-11	0401	B-18	0461	A-06	0521	A-10	0581	A-14	0641	B-19
0342	A-16	0402	B-19	0462	A-10	0522	A-06	0582	B-16	0642	B-19
0343	A-03	0403	B-16	0463	A-07	0523	A-01	0583	B-16	0643	A-16
0344	A-09	0404	B-16	0464	B-29	0524	A-14	0584	B-19	0644	A-01
0345	A-11	0405	B-16	0465	A-14	0525	A-14	0585	B-01	0645	B-03
0346	A-13	0406	B-19	0466	B-17	0526	A-14	0586	B-30	0646	B-19
0347	A-16	0407	B-16	0467	B-19	0527	B-16	0587	A-16	0647	B-19
0348	A-18	0408	B-15	0468	A-14	0528	B-30	0588	A-16	0648	B-30
0349	A-18	0409	A-19	0469	B-29	0529	A-14	0589	A-16	0649	B-30
0350	A-14	0410	A-18	0470	A-11	0530	A-14	0590	A-01	0650	A-18
0351	A-11	0411	A-03	0471	C-06	0531	A-14	0591	A-11	0651	B-30
0352	B-19	0412	A-03	0472	C-06	0532	B-15	0592	B-05	0652	B-30
0353	B-19	0413	A-10	0473	A-06	0533	B-01	0593	C-06	0653	B-18
0354	B-30	0414	B-14	0474	A-03	0534	A-14	0594	B-19	0654	B-29
0355	C-06	0415	A-17	0475	A-11	0535	A-14	0595	B-30	0655	A-14
0356	C-06	0416	A-17	0476	B-14	0536	A-14	0596	A-14	0656	B-19
0357	A-16	0417	A-17	0477	A-14	0537	A-14	0597	B-19	0657	B-19
0358	A-16	0418	B-19	0478	B-15	0538	A-10	0598	A-06	0658	B-30
0359	A-16	0419	A-11	0479	A-11	0539	A-10	0599	A-02	0659	C-08
0360	A-18	0420	B-19	0480	B-19	0540	A-14	0600	B-19	0660	C-06
0361	A-16	0421	B-05	0481	B-19	0541	B-15	0601	B-30	0661	A-06
0362	A-06	0422	A-13	0482	A-05	0542	B-18	0602	A-06	0662	A-16
0363	B-19	0423	C-08	0483	B-14	0543	B-18	0603	A-01	0663	A-16
0364	B-19	0424	C-06	0484	B-16	0544	A-14	0604	A-02	0664	A-16
0365	B-30	0425	A-08	0485	B-29	0545	A-14	0605	A-01	0665	A-16
0366	B-30	0426	A-01	0486	B-30	0546	A-14	0606	B-14	0666	A-16
0367	B-30	0427	B-30	0487	B-22	0547	A-14	0607	A-14	0667	A-03
0368	B-30	0428	B-30	0488	B-30	0548	A-14	0608	A-14	0668	A-03
0369	C-06	0429	B-30	0489	B-19	0549	A-14	0609	A-14	0669	B-15
0370	C-06	0430	B-14	0490	B-22	0550	A-14	0610	A-14	0670	B-16
0371	A-16	0431	B-19	0491	B-30	0551	A-14	0611	A-14	0671	A-02
0372	A-16	0432	B-19	0492	A-09	0552	A-14	0612	A-14	0672	B-26
0373	A-16	0433	B-19	0493	A-03	0553	A-14	0613	B-19	0673	B-27
0374	B-14	0434	B-30	0494	A-18	0554	B-15	0614	B-16	0674	A-16
0375	B-14	0435	B-30	0495	A-02	0555	B-15	0615	B-19	0675	A-14
0376	B-14	0436	B-22	0496	A-02	0556	B-15	0616	A-15	0676	B-19
0377	B-13	0437	A-01	0497	B-19	0557	B-15	0617	A-02	0677	B-30
0378	B-21	0438	B-13	0498	B-30	0558	B-15	0618	A-02	0678	B-30
0379	B-21	0439	B-14	0499	B-30	0559	B-19	0619	B-20	0679	A-16
0380	B-19	0440	B-19	0500	B-30	0560	B-16	0620	A-03	0680	A-18
0381	B-19	0441	B-30	0501	B-19	0561	B-16	0621	B-19	0681	A-14
0382	B-19	0442	B-30	0502	B-18	0562	B-03	0622	B-19	0682	A-14
0383	B-30	0443	C-08	0503	A-16	0563	B-12	0623	B-19	0683	A-14
0384	B-16	0444	A-03	0504	A-02	0564	B-05	0624	A-16	0684	B-19
0385	A-11	0445	A-14	0505	A-14	0565	B-27	0625	A-16	0685	B-19
0386	C-06	0446	A-14	0506	B-24	0566	A-04	0626	C-08	0686	B-16
0387	C-06	0447	A-14	0507	B-15	0567	A-01	0627	A-14	0687	B-16
0388	C-06	0448	A-14	0508	A-06	0568	A-01	0628	B-16	0688	A-01
0389	C-10	0449	B-17	0509	A-02	0569	A-14	0629	B-30	0689	A-01
0390	A-11	0450	B-20	0510	A-02	0570	B-19	0630	B-22	0690	A-01
0391	B-19	0451	A-15	0511	A-01	0571	B-19	0631	B-19	0691	A-01
0392	A-11	0452	B-19	0512	B-03	0572	B-19	0632	B-19	0692	A-04
0393	B-30	0453	B-19	0513	B-16	0573	B-19	0633	A-02	0693	A-02
0394	A-11	0454	B-19	0514	B-19	0574	B-19	0634	A-03	0694	B-11
0395	B-30	0455	B-19	0515	B-30	0575	A-20	0635	B-18	0695	B-05
0396	C-08	0456	B-19	0516	A-16	0576	B-14	0636	C-04	0696	A-14

土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号
0697	B-19	0757	B-13	0817	A-03	0877	C-06	0937	B-16	0997	C-07
0698	B-16	0758	B-14	0818	A-06	0878	C-08	0938	A-03	0998	C-06
0699	B-19	0759	A-03	0819	B-17	0879	C-08	0939	B-03	0999	A-18
0700	B-16	0760	B-14	0820	A-02	0880	C-06	0940	A-14	1000	A-11
0701	B-16	0761	A-14	0821	A-06	0881	B-30	0941	A-14	1001	B-22
0702	A-14	0762	A-14	0822	A-01	0882	A-11	0942	A-04	1002	B-19
0703	A-14	0763	A-14	0823	A-11	0883	A-14	0943	A-16	1003	B-19
0704	A-10	0764	B-16	0824	B-22	0884	A-14	0944	A-14	1004	B-15
0705	B-22	0765	B-15	0825	B-22	0885	A-14	0945	A-14	1005	B-19
0706	B-22	0766	B-24	0826	B-22	0886	A-14	0946	A-01	1006	B-16
0707	B-14	0767	B-24	0827	B-19	0887	A-14	0947	A-15	1007	B-30
0708	B-14	0768	B-20	0828	B-30	0888	A-11	0948	B-15	1008	B-03
0709	A-14	0769	A-19	0829	B-30	0889	A-13	0949	B-26	1009	B-15
0710	A-11	0770	B-14	0830	B-21	0890	B-21	0950	A-02	1010	B-30
0711	B-19	0771	B-14	0831	A-16	0891	B-19	0951	A-02	1011	B-19
0712	C-06	0772	A-14	0832	A-18	0892	B-30	0952	A-02	1012	B-30
0713	A-01	0773	A-14	0833	B-14	0893	C-06	0953	B-30	1013	A-03
0714	B-19	0774	A-14	0834	A-14	0894	C-07	0954	B-30	1014	B-10
0715	B-19	0775	A-14	0835	A-14	0895	C-06	0955	B-19	1015	A-14
0716	B-16	0776	A-14	0836	A-14	0896	C-06	0956	B-19	1016	B-19
0717	B-19	0777	A-14	0837	A-14	0897	C-06	0957	B-19	1017	B-15
0718	B-19	0778	B-16	0838	A-14	0898	A-16	0958	A-09	1018	B-19
0719	B-30	0779	B-01	0839	A-14	0899	A-09	0959	B-15	1019	A-03
0720	B-22	0780	B-13	0840	B-19	0900	A-03	0960	B-15	1020	A-11
0721	C-06	0781	A-06	0841	B-16	0901	B-19	0961	B-21	1021	A-13
0722	C-08	0782	A-02	0842	A-01	0902	A-16	0962	B-21	1022	B-30
0723	C-06	0783	A-14	0843	A-02	0903	A-16	0963	C-06	1023	C-06
0724	C-06	0784	A-14	0844	A-01	0904	B-26	0964	B-11	1024	A-05
0725	A-09	0785	A-14	0845	A-03	0905	B-22	0965	A-19	1025	A-01
0726	B-14	0786	A-14	0846	A-03	0906	B-30	0966	A-19	1026	B-15
0727	B-14	0787	B-15	0847	A-05	0907	B-21	0967	A-01	1027	A-02
0728	B-14	0788	B-19	0848	B-11	0908	A-19	0968	A-14	1028	B-30
0729	B-10	0789	B-27	0849	A-14	0909	A-16	0969	A-14	1029	B-19
0730	B-19	0790	B-18	0850	A-14	0910	B-14	0970	A-15	1030	B-30
0731	B-19	0791	B-02	0851	A-14	0911	B-14	0971	A-01	1031	A-18
0732	B-19	0792	B-07	0852	B-21	0912	B-14	0972	A-01	1032	A-03
0733	B-22	0793	A-06	0853	B-30	0913	B-14	0973	A-11	1033	A-14
0734	B-30	0794	A-02	0854	B-19	0914	C-08	0974	A-14	1034	B-30
0735	A-19	0795	A-01	0855	B-14	0915	A-14	0975	A-14	1035	A-16
0736	A-03	0796	A-01	0856	B-21	0916	A-14	0976	B-16	1036	A-01
0737	B-14	0797	A-19	0857	B-21	0917	A-14	0977	B-16	1037	A-16
0738	B-13	0798	A-01	0858	B-17	0918	A-11	0978	A-03	1038	A-01
0739	B-14	0799	A-10	0859	B-21	0919	A-11	0979	A-02	1039	A-16
0740	B-13	0800	A-03	0860	C-06	0920	B-19	0980	A-02	1040	A-14
0741	B-13	0801	A-14	0861	A-16	0921	B-19	0981	A-02	1041	A-14
0742	A-14	0802	B-19	0862	A-18	0922	B-19	0982	A-02	1042	A-14
0743	A-14	0803	B-16	0863	A-19	0923	B-30	0983	A-14	1043	A-14
0744	B-15	0804	B-16	0864	B-14	0924	B-22	0984	A-14	1044	A-14
0745	B-19	0805	A-01	0865	B-14	0925	A-18	0985	A-14	1045	A-14
0746	A-14	0806	A-06	0866	B-13	0926	A-16	0986	A-14	1046	A-14
0747	A-09	0807	A-04	0867	A-11	0927	A-02	0987	A-01	1047	A-14
0748	A-01	0808	A-14	0868	D-01	0928	B-03	0988	A-01	1048	A-14
0749	A-01	0809	A-14	0869	B-19	0929	B-13	0989	A-01	1049	A-14
0750	A-01	0810	B-19	0870	A-13	0930	B-30	0990	A-01	1050	A-14
0751	B-15	0811	B-16	0871	B-30	0931	B-14	0991	A-20	1051	A-14
0752	B-16	0812	B-20	0872	B-30	0932	A-14	0992	A-14	1052	B-15
0753	B-22	0813	A-01	0873	B-30	0933	A-14	0993	A-14	1053	B-15
0754	A-16	0814	A-01	0874	C-06	0934	A-14	0994	A-14	1054	A-04
0755	B-13	0815	A-02	0875	C-08	0935	A-14	0995	B-18	1055	A-18
0756	A-16	0816	A-01	0876	C-08	0936	B-16	0996	B-30	1056	A-01

第Ⅲ章 遺 物

土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号
1057	A-14	1117	B-19	1177	B-19	1237	B-19	1297	B-19	1357	B-22
1058	A-14	1118	B-19	1178	B-30	1238	B-22	1298	B-30	1358	B-22
1059	A-14	1119	B-19	1179	B-30	1239	B-30	1299	B-30	1359	B-22
1060	A-14	1120	B-19	1180	B-30	1240	B-22	1300	B-22	1360	B-22
1061	A-14	1121	B-19	1181	B-30	1241	B-21	1301	A-16	1361	B-22
1062	A-14	1122	B-30	1182	B-30	1242	B-21	1302	A-09	1362	B-21
1063	A-14	1123	B-30	1183	B-30	1243	B-21	1303	A-16	1363	C-06
1064	A-14	1124	B-30	1184	B-25	1244	C-06	1304	B-19	1364	B-13
1065	A-14	1125	B-22	1185	B-21	1245	B-14	1305	B-19	1365	B-13
1066	A-02	1126	B-22	1186	B-20	1246	B-13	1306	B-19	1366	B-14
1067	B-19	1127	B-14	1187	B-21	1247	A-16	1307	A-16	1367	B-13
1068	B-19	1128	B-14	1188	B-21	1248	B-14	1308	C-06	1368	B-19
1069	B-30	1129	B-19	1189	C-06	1249	B-13	1309	C-04	1369	B-19
1070	A-14	1130	B-19	1190	C-08	1250	B-30	1310	B-13	1370	B-19
1071	A-14	1131	B-19	1191	C-08	1251	B-22	1311	B-14	1371	B-19
1072	A-14	1132	B-22	1192	C-07	1252	B-19	1312	B-14	1372	B-19
1073	A-11	1133	B-05	1193	C-06	1253	B-29	1313	B-14	1373	B-30
1074	A-11	1134	B-21	1194	C-04	1254	B-29	1314	A-14	1374	B-30
1075	A-13	1135	B-21	1195	A-16	1255	B-30	1315	A-11	1375	B-30
1076	A-11	1136	C-08	1196	A-19	1256	B-22	1316	A-11	1376	B-30
1077	B-19	1137	C-08	1197	A-16	1257	B-22	1317	A-11	1377	B-30
1078	B-19	1138	C-12	1198	B-14	1258	B-21	1318	A-11	1378	B-22
1079	B-19	1139	A-16	1199	B-13	1259	C-08	1319	A-11	1379	B-30
1080	B-19	1140	B-13	1200	B-13	1260	C-06	1320	A-11	1380	C-07
1081	B-19	1141	A-14	1201	B-13	1261	B-13	1321	B-19	1381	C-06
1082	B-19	1142	B-19	1202	B-13	1262	B-14	1322	B-19	1382	C-06
1083	B-19	1143	B-19	1203	B-10	1263	B-14	1323	B-19	1383	B-03
1084	B-19	1144	B-19	1204	B-03	1264	A-11	1324	B-19	1384	A-11
1085	B-19	1145	B-19	1205	B-29	1265	B-19	1325	B-19	1385	B-19
1086	B-14	1146	B-19	1206	B-19	1266	B-19	1326	B-19	1386	B-19
1087	B-19	1147	B-19	1207	B-30	1267	B-19	1327	B-19	1387	B-19
1088	B-30	1148	B-19	1208	B-19	1268	B-19	1328	B-19	1388	B-19
1089	B-30	1149	B-19	1209	B-19	1269	B-30	1329	B-19	1389	B-19
1090	B-30	1150	B-19	1210	B-22	1270	C-06	1330	B-19	1390	B-19
1091	B-30	1151	B-22	1211	B-21	1271	C-06	1331	B-19	1391	B-19
1092	B-30	1152	B-22	1212	B-21	1272	C-07	1332	B-19	1392	B-19
1093	B-30	1153	B-30	1213	B-21	1273	A-16	1333	B-29	1393	B-19
1094	B-30	1154	B-22	1214	B-21	1274	A-16	1334	B-19	1394	B-19
1095	B-30	1155	B-18	1215	B-21	1275	A-16	1335	B-30	1395	B-19
1096	B-22	1156	B-30	1216	B-13	1276	A-16	1336	B-30	1396	B-30
1097	C-06	1157	B-22	1217	C-06	1277	A-16	1337	B-30	1397	B-30
1098	C-06	1158	B-21	1218	C-04	1278	B-19	1338	B-18	1398	B-19
1099	C-06	1159	B-21	1219	A-15	1279	B-29	1339	B-30	1399	B-19
1100	A-18	1160	B-21	1220	C-06	1280	B-21	1340	B-22	1400	B-19
1101	A-03	1161	C-08	1221	C-06	1281	B-30	1341	B-22	1401	B-19
1102	B-13	1162	C-06	1222	B-19	1282	B-18	1342	B-30	1402	B-19
1103	B-19	1163	C-04	1223	B-22	1283	B-14	1343	B-22	1403	B-19
1104	B-19	1164	C-11	1224	B-30	1284	B-03	1344	B-30	1404	B-30
1105	B-19	1165	A-19	1225	B-30	1285	A-11	1345	B-30	1405	B-30
1106	B-30	1166	B-14	1226	B-30	1286	A-11	1346	B-30	1406	B-22
1107	B-30	1167	B-14	1227	B-22	1287	A-11	1347	B-19	1407	B-30
1108	C-04	1168	B-13	1228	B-22	1288	B-19	1348	B-19	1408	B-30
1109	B-30	1169	B-13	1229	B-22	1289	B-30	1349	B-19	1409	B-30
1110	B-30	1170	B-21	1230	B-22	1290	C-06	1350	B-19	1410	B-30
1111	A-14	1171	B-13	1231	A-11	1291	C-06	1351	B-30	1411	B-30
1112	A-13	1172	B-19	1232	B-19	1292	C-08	1352	B-30	1412	B-22
1113	B-13	1173	B-19	1233	B-19	1293	A-16	1353	B-30	1413	B-30
1114	B-13	1174	B-19	1234	B-19	1294	A-18	1354	B-30	1414	B-30
1115	B-13	1175	B-19	1235	B-30	1295	A-16	1355	B-22	1415	B-30
1116	B-19	1176	B-29	1236	B-19	1296	C-04	1356	B-30	1416	B-30

土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号	土器 番号	分類 番号
1417	B-22	1477	B-21	1537	B-17	1597	B-19	1657	B-14	1717	B-22
1418	B-22	1478	B-21	1538	A-04	1598	D-01	1658	B-19	1718	B-22
1419	B-22	1479	B-21	1539	D-01	1599	A-09	1659	B-19	1719	C-06
1420	B-21	1480	B-21	1540	D-01	1600	B-18	1660	B-19	1720	C-06
1421	B-21	1481	B-22	1541	D-01	1601	B-13	1661	A-14	1721	B-30
1422	B-21	1482	B-19	1542	D-01	1602	C-01	1662	A-16	1722	B-30
1423	B-05	1483	B-30	1543	B-14	1603	A-10	1663	A-02	1723	B-19
1424	A-01	1484	B-21	1544	A-11	1604	A-14	1664	B-19	1724	A-14
1425	A-18	1485	C-06	1545	B-12	1605	B-15	1665	B-30	1725	B-21
1426	B-13	1486	C-09	1546	D-01	1606	B-30	1666	B-19	1726	B-19
1427	B-13	1487	C-06	1547	B-30	1607	B-18	1667	B-19	1727	B-19
1428	B-19	1488	C-09	1548	A-04	1608	C-06	1668	B-19	1728	B-30
1429	B-19	1489	A-16	1549	B-19	1609	A-05	1669	B-19	1729	B-22
1430	B-05	1490	B-13	1550	B-22	1610	B-03	1670	B-19	1730	B-30
1431	B-21	1491	A-20	1551	B-30	1611	B-19	1671	B-30	1731	C-07
1432	B-21	1492	A-19	1552	B-22	1612	B-05	1672	B-19	1732	C-06
1433	C-08	1493	A-16	1553	B-03	1613	B-10	1673	B-19	1733	C-06
1434	C-06	1494	A-16	1554	C-08	1614	B-19	1674	B-19	1734	C-06
1435	C-06	1495	B-14	1555	B-19	1615	A-16	1675	B-19	1735	C-06
1436	B-14	1496	A-20	1556	B-19	1616	B-15	1676	B-19	1736	A-02
1437	A-19	1497	C-04	1557	B-30	1617	A-14	1677	A-15	1737	A-02
1438	A-16	1498	B-22	1558	B-30	1618	A-14	1678	B-19	1738	A-02
1439	B-13	1499	B-19	1559	B-30	1619	A-04	1679	B-22	1739	B-13
1440	B-13	1500	B-19	1560	B-30	1620	A-04	1680	B-22	1740	D-01
1441	A-11	1501	B-21	1561	B-19	1621	D-01	1681	B-22	1741	A-15
1442	A-11	1502	B-13	1562	C-06	1622	B-18	1682	B-22	1742	B-30
1443	B-19	1503	A-16	1563	B-22	1623	B-30	1683	C-06	1743	B-19
1444	B-29	1504	A-16	1564	B-22	1624	C-08	1684	B-13	1744	D-01
1445	B-19	1505	B-14	1565	C-06	1625	A-01	1685	C-04	1745	B-19
1446	B-30	1506	B-14	1566	B-30	1626	A-03	1686	A-16	1746	B-19
1447	B-22	1507	B-13	1567	B-19	1627	C-06	1687	B-04	1747	B-30
1448	B-22	1508	A-16	1568	B-30	1628	A-11	1688	B-11	1748	B-13
1449	B-22	1509	B-30	1569	A-06	1629	B-19	1689	B-10	1749	B-14
1450	B-21	1510	B-22	1570	A-06	1630	B-16	1690	B-19	1750	A-12
1451	C-07	1511	B-22	1571	A-02	1631	B-14	1691	B-19	1751	A-12
1452	A-16	1512	B-13	1572	A-14	1632	A-01	1692	B-19	1752	A-12
1453	B-13	1513	B-14	1573	A-16	1633	A-14	1693	B-19	1753	A-12
1454	B-03	1514	C-04	1574	A-03	1634	A-14	1694	B-30	1754	A-12
1455	B-19	1515	A-14	1575	B-15	1635	A-02	1695	B-19	1755	A-12
1456	B-19	1516	A-14	1576	B-30	1636	B-16	1696	B-19	1756	B-19
1457	B-19	1517	A-14	1577	B-03	1637	A-14	1697	B-30	1757	B-19
1458	B-19	1518	A-14	1578	B-14	1638	B-16	1698	B-19	1758	B-19
1459	B-19	1519	B-19	1579	A-01	1639	A-02	1699	A-13	1759	B-19
1460	B-19	1520	B-16	1580	A-14	1640	B-30	1700	B-30	1760	B-19
1461	B-19	1521	A-14	1581	A-14	1641	A-18	1701	A-16	1761	B-19
1462	B-30	1522	A-14	1582	A-14	1642	A-11	1702	B-19	1762	B-19
1463	B-22	1523	B-16	1583	A-14	1643	A-11	1703	B-19	1763	B-19
1464	B-19	1524	A-06	1584	A-14	1644	B-19	1704	B-19	1764	B-19
1465	B-30	1525	B-19	1585	A-14	1645	B-21	1705	B-29	1765	B-19
1466	B-30	1526	B-19	1586	A-14	1646	B-19	1706	B-19	1766	B-19
1467	B-30	1527	B-15	1587	A-14	1647	B-19	1707	B-19	1767	B-19
1468	B-19	1528	B-19	1588	A-14	1648	B-19	1708	B-19	1768	B-19
1469	B-19	1529	C-06	1589	A-14	1649	B-19	1709	B-19	1769	B-19
1470	C-08	1530	B-16	1590	A-14	1650	B-19	1710	B-19	1770	B-19
1471	C-06	1531	C-05	1591	A-14	1651	B-19	1711	B-30	1771	B-30
1472	B-21	1532	D-01	1592	A-14	1652	B-19	1712	B-30		
1473	B-21	1533	D-01	1593	A-14	1653	B-19	1713	B-22		
1474	B-21	1534	D-01	1594	B-16	1654	A-19	1714	B-30		
1475	B-21	1535	D-01	1595	B-16	1655	B-19	1715	B-30		
1476	B-21	1536	A-14	1596	B-19	1656	B-21	1716	B-22		

## 2. 土 錘

土錘の出土点数は146点である。住居からの出土は95点、土壙出土5点、溝からの出土1点、発掘区域内からの出土45点である。土錘は複数で出土する例が多く5点以上のまとまりで出土する遺構は74号住居（6点）、129号住居（16点）、195号住居（7点）である。形態は棒状具に粘土を巻きつけただけの小型のもの（2004）と中型のもの（2001）、楕円形を呈するずんぐりとした中型のもので両端末調整のもの（2006）と両端を調整するもの（2059）、大型品で紡錘状を呈するもの（2003）に分類できる。土錘の全長は形態分類の小型、中型、大型品にそって区分されるようである。2.5cm～3.5cmくらいが全体の68%を占める。3.5cm～5cmくらいが25%、5cm～6.5cmくらいが7%を占める。重量についても形態区分の大、中、小型にそって分布する。大型品は27g～29g、中型品が多様で4g～24gまでバラツキがみられる。小型品は2gから4gまでに集中し、全体の66%を占める。魚網の部品であると考え、大、中、小型品といった形態区分と長さ区分、重量区分や、中型品にみられる端面調整の有無などに使用部位の問題が関係するのであろう。また河川に接するといった地理的特徴が他の漁労の適、不適地とどういったあり方を示し、また、漁の形態の違いが土錘の形式とどう関係するのか興味深い。

## 3. 砥 石

砥石は本遺跡からは13点出土している。住居出土のものが10点、表面採集品が3点である。材質は凝灰岩が9点で圧倒的に多く、安山岩が2点、砂岩が1点、須恵器杯の底面の周縁を打ち欠き底面内部を使用している。砥石は3004と3013のように大型品で多角形の据砥と運搬可能なそれ以外に区分される。据砥は断面6角形、又は5角形を呈し中央部分はくびれており、周縁にむかって曲線を描いて太くなる。運搬可能な砥石のうち、3001、3003、3005～3009、3011のように断面形は長方形で4面を使用し、両端は撥形に開くものと、3002、3013のように断面は長方形を呈するもので直方体をもともと意識していたと考えられるものに分けられる。いずれも凝灰岩や安山岩といった材質から使用目的は農工具類の手入れの荒砥と考えてよからう。

## 4. その他の遺物

埴輪は橙色、明赤褐色を呈するもので全て一次縦ハケのみである。普通円筒ハニワは4001、4022と考えられる。朝顔形埴輪は4023、形象埴輪は4008、4009と考えられる。いずれも破損品で付近の古墳から集落内へ持ち込んだものと考えられる。紡錘車は凝灰岩製（4002）、滑石製（4003）、蛇紋岩製（4004、4006）、須恵器製（4016）の材質である。重量は35gほどのもの（4002、4004、4006）と70gほどのもの（4016）に分けられる。断面形が明瞭な截頭錐体のもの（4002）、先端が研磨された截頭錐体（4003、4004、4006）、円柱状のもの（4016）に分けられる。支脚は住居の竈用材として用いられている。材質は埴製（4005、4018）、砂岩型（4007）、凝灰岩製（4014、4019、4025、4026）に分けられる。特に凝灰岩製の支脚としたものは断面寸法に規格があり、遠隔の生産地より切り出したものを入手したと考えられる。羽口は128号住居と129号住居の重複住居から出土している。128号住居出土の羽口（4012）は径8cmの埴製の円柱に径18mmの単孔を穿つ。熔壁の取り付け角度は上向き15°を測る。石錘は3点出土している。未貫通の錐穴を残す凝灰岩のもの（4011）、貫通孔1つと未貫通の錐穴が1つ残る安山岩、軽石のもの（4015、4020）である。瓦（4017）は平瓦の半損品であって、広端部側を欠く。狭端部の幅は25.3cmである。鹿ノ川窯跡（笠懸村阿左美）で生産されたものとみられる。北東約1kmの源六堰廃寺（新田町下田中）からの移搬と推測される。



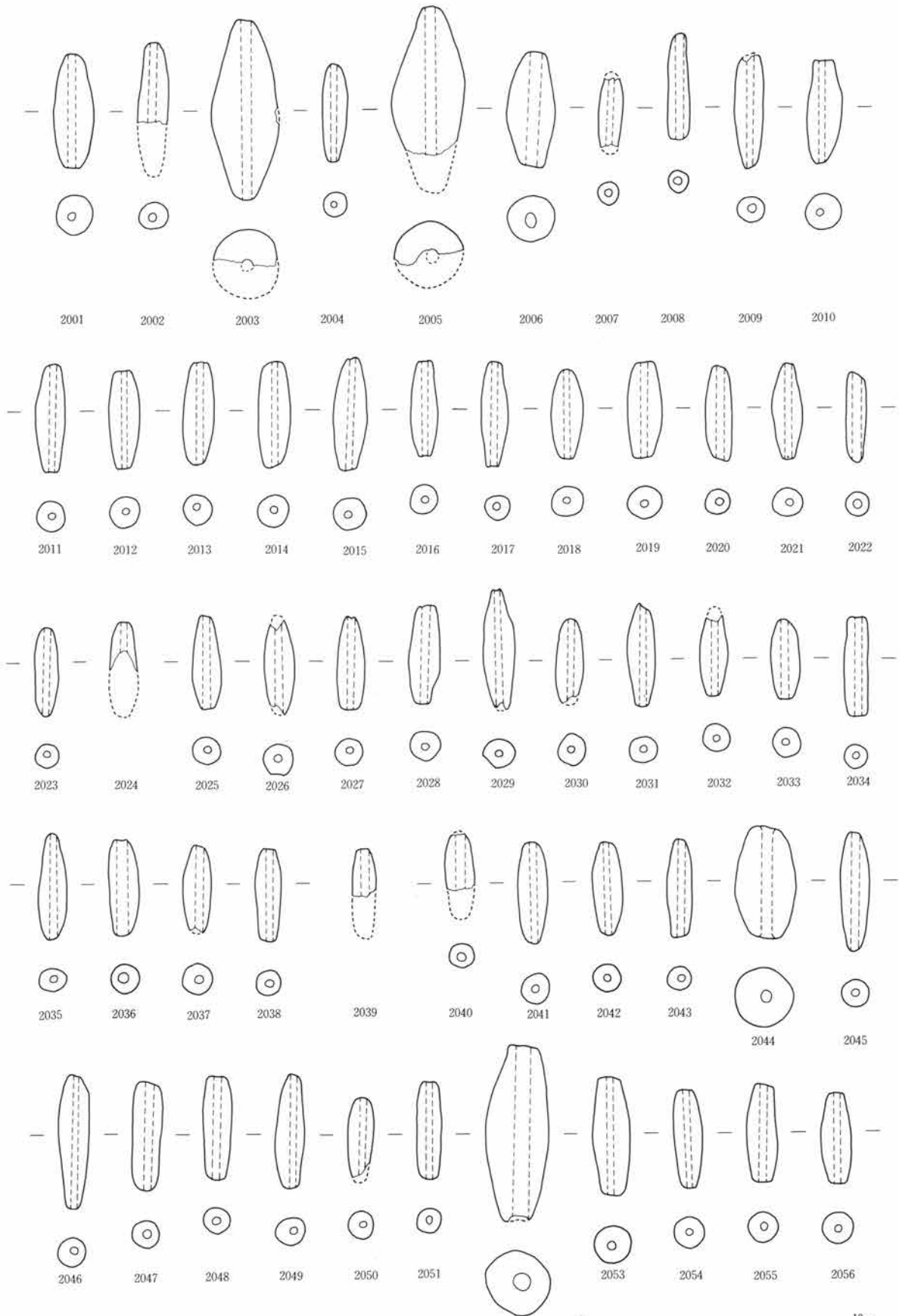


Fig. 199 遺物実測図(1) 土錘

第三章 遺物

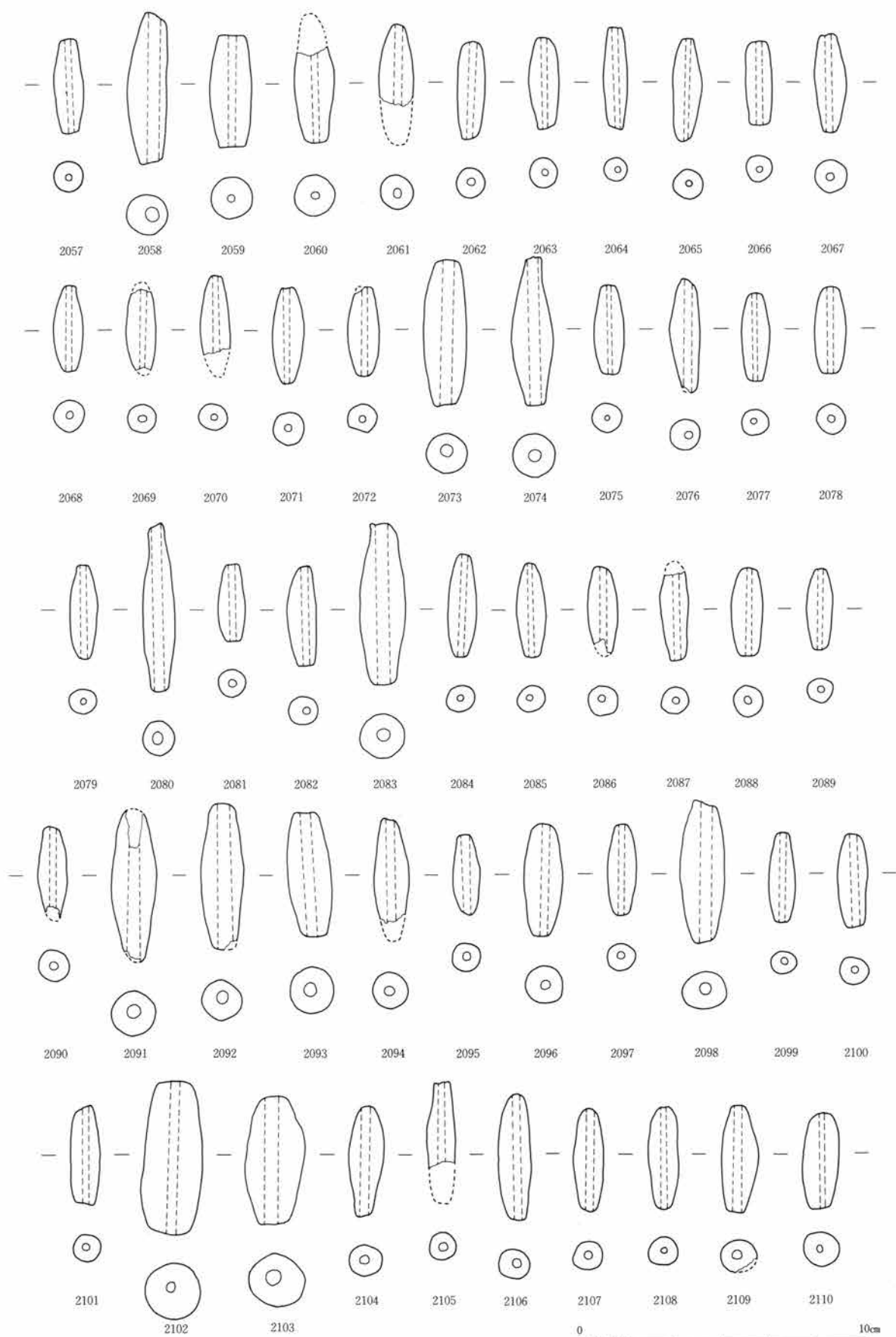


Fig. 200 遺物実測図(2) 土錘

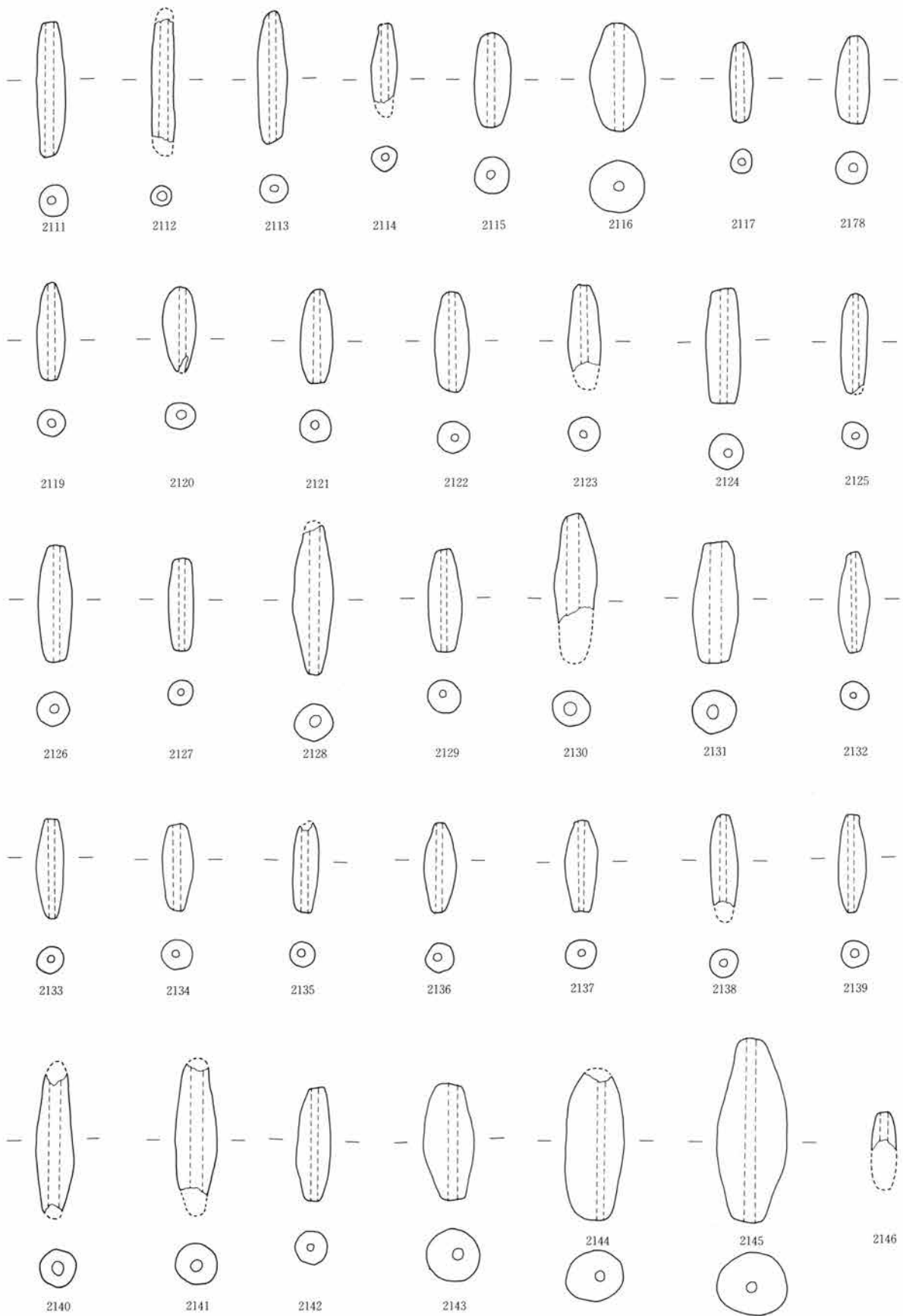


Fig. 201 遺物実測図(3) 土錘

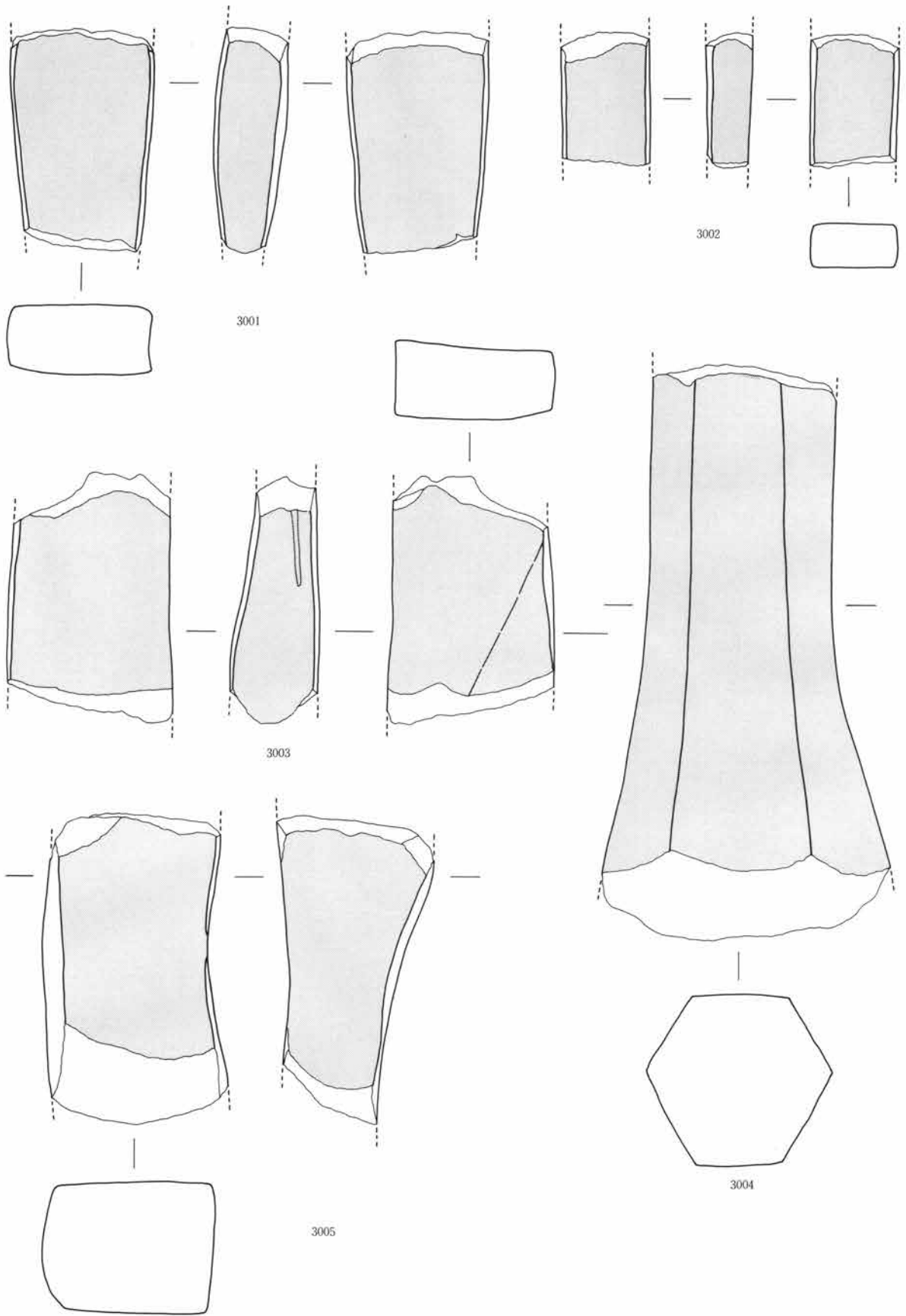


Fig. 202 遺物実測図(4) 砥石

3 砥石

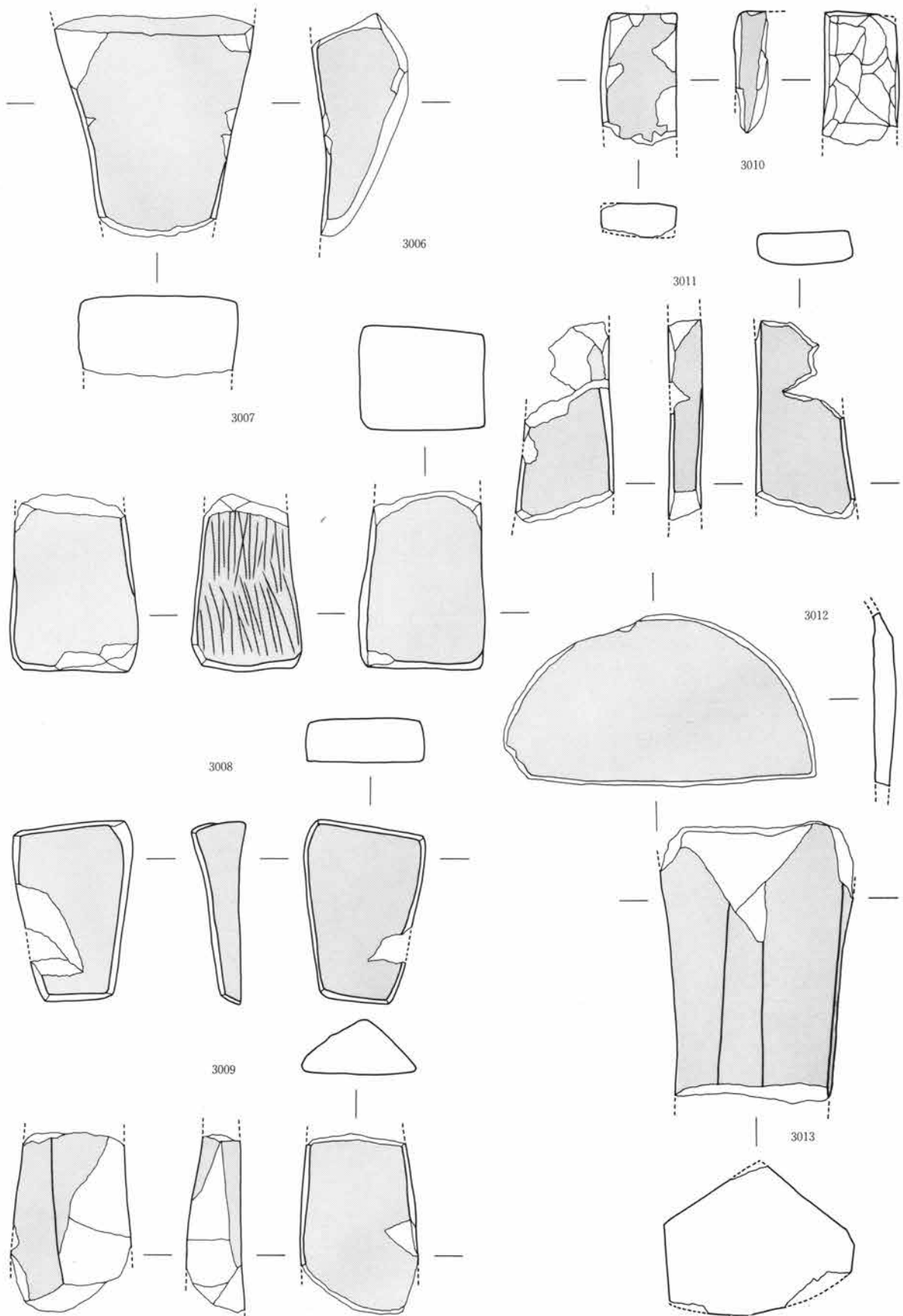


Fig. 203 遺物実測図(5) 砥石

0 10cm

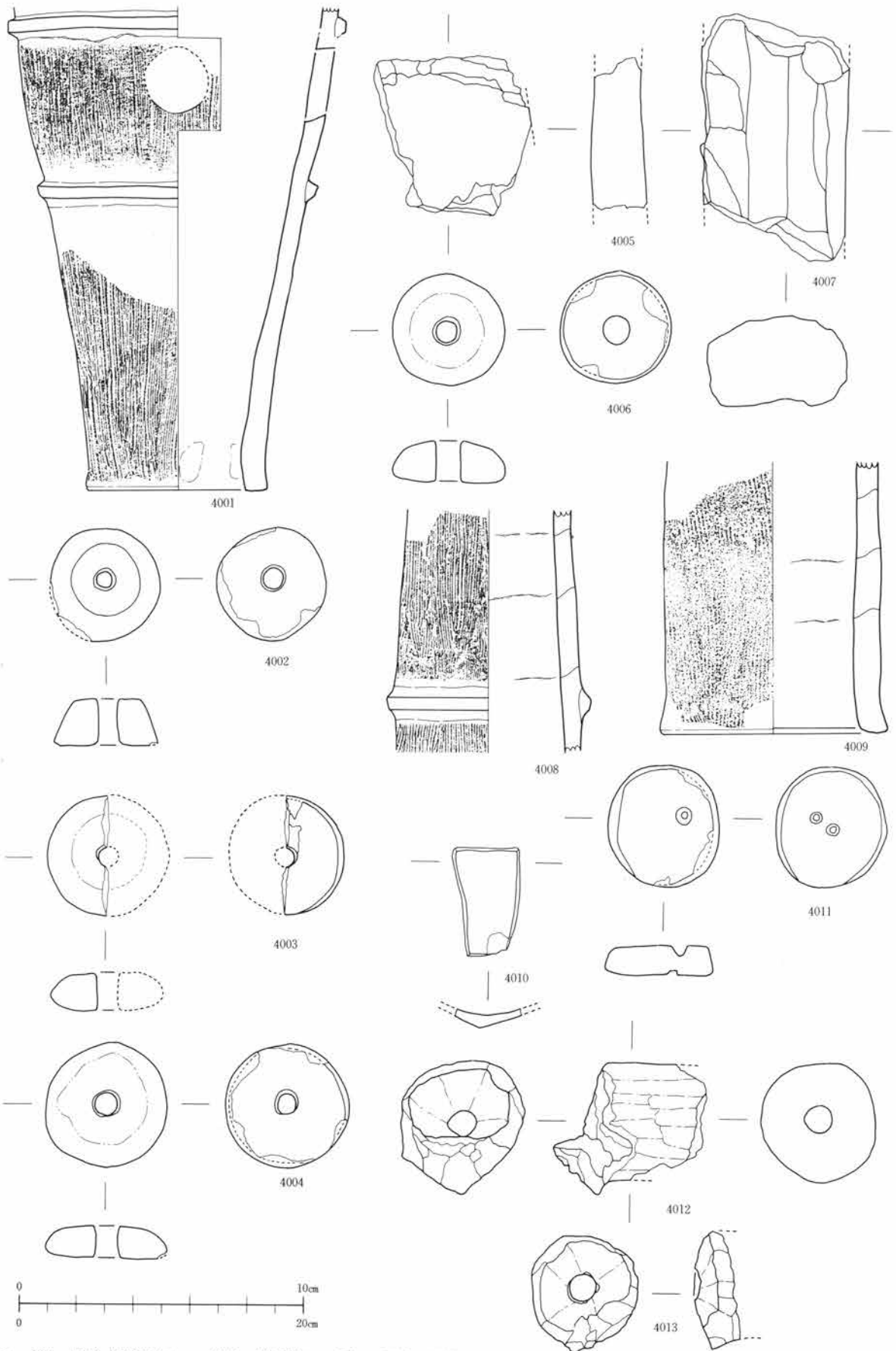


Fig. 204 遺物実測図(6) 埴輪・紡錘車・支脚・用途不明品・石錘・羽口

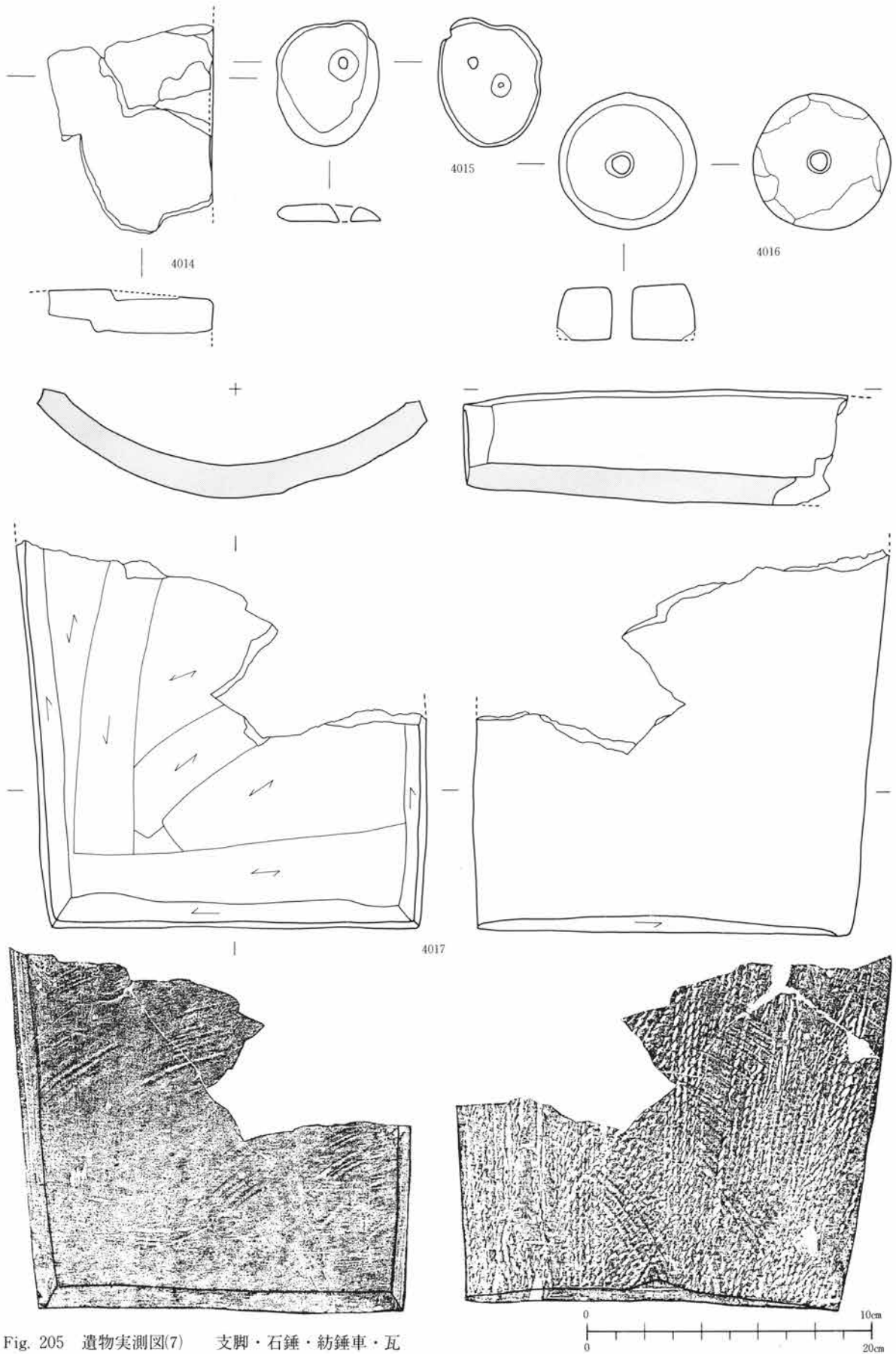


Fig. 205 遺物実測図(7) 支脚・石錘・紡錘車・瓦

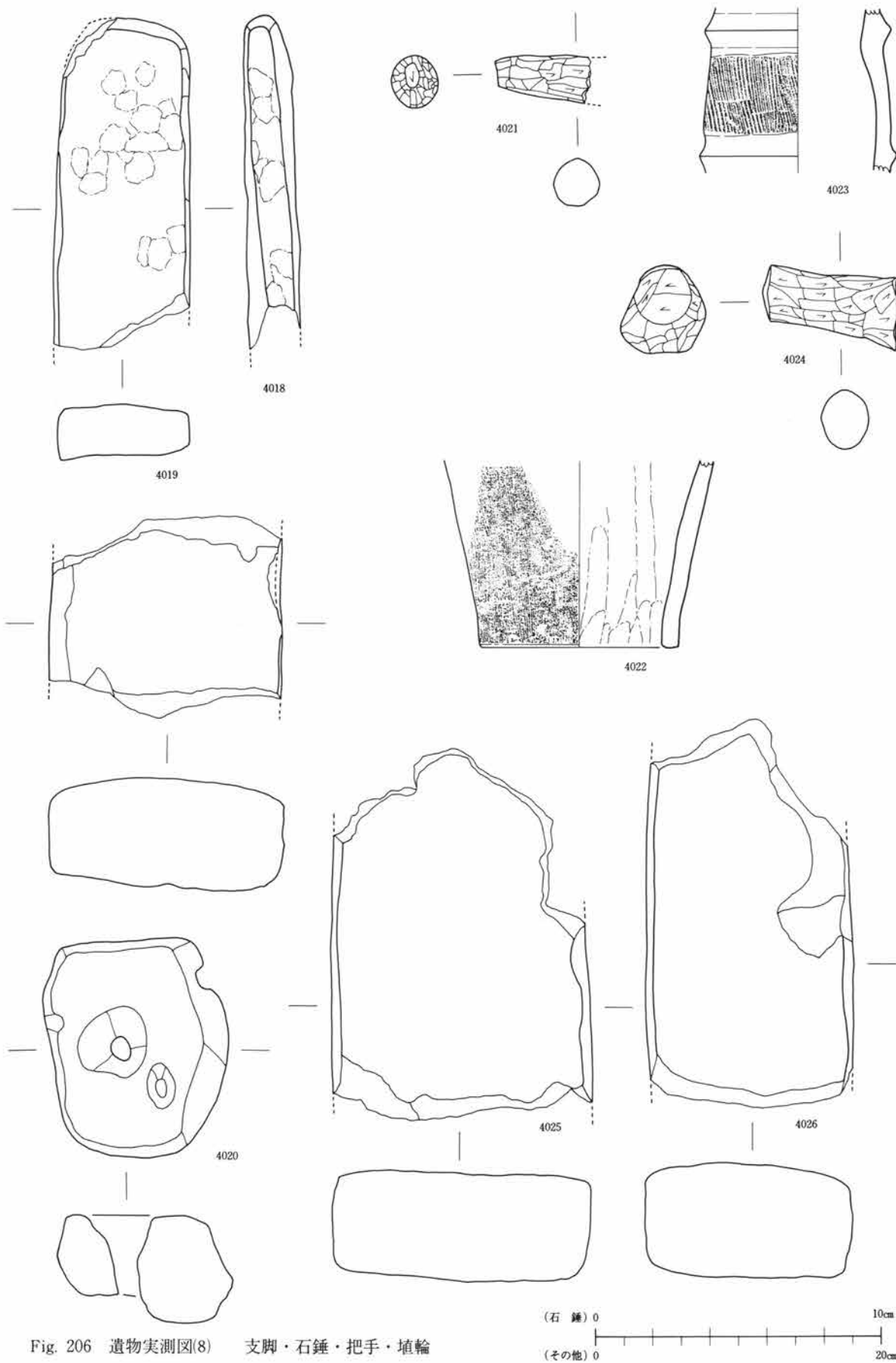


Fig. 206 遺物実測図(8) 支脚・石錘・把手・埴輪



土錘観察表

土錘番号	出土位置	軸長(cm)	最大径(cm)	重量(g)	穿孔径(mm)	色 調 ・ 胎 土 ・ 焼 成			備 考
2001	SB014○	4.0	1.4	6.9	2.9~3.0	にぶい黄橙	浅黄橙	良好	完 存
2002	SB031○	( 2.3)	1.1	( 3.6)	( 2.9)	にぶい黄橙	砂粒含む	良好	1/2残存
2003	SB037○	6.2	2.3	(13.7)	( 3.9)	浅黄橙	赤褐色と1mmの砂粒含む	良好	半 截
2004	SB032○	3.4	0.8	2.1	2.0~2.0	にぶい黄橙	2mmの砂粒含む	良好	完 存
2005	SB032○	( 6.5)	2.5	(15.8)	( 3.5)	にぶい黄橙	1mmの砂粒含む	良好	1/2残存
2006	SB041○	4.0	1.8	11.4	4.4~4.4	褐	1mmの砂粒含む	良好	完 存
2007	SB071○	( 2.9)	0.8	( 1.7)	( 2.0)	暗 褐	赤褐色土含む	良好	良端欠損
2008	SB073○	3.7	0.8	1.6	3.0~3.2	灰 白	赤褐色と1mmの砂粒多量含む	良好	完 存
2009	SB073○	4.0	1.0	2.9	2.9~2.9	にぶい黄橙	1mmの砂粒多量含む	良好	完 存
2010	SB074○	3.6	1.2	4.8	2.5~2.7	にぶい褐	赤褐色土含む	良好	完 存
2011	SB074○	3.3	1.1	3.5	2.7~2.5	にぶい橙	赤褐色土含む	良好	完 存
2012	SB074○	3.3	1.1	3.8	2.4~2.3	にぶい橙	赤褐色土含む	良好	完 存
2013	SB074○	3.6	1.2	4.0	2.5~2.6	にぶい黄橙	赤褐色土含む	良好	完 存
2014	SB074○	3.7	1.1	4.6	2.5~2.7	にぶい褐	赤褐色土多量含む		完 存
2015	SB074○	3.9	1.2	4.5	2.3~2.4	にぶい橙	赤褐色土含む	良好	完 存
2016	SB076○	3.3	1.0	2.5	2.3~1.9	にぶい黄橙	赤褐色土含む	良好	完 存
2017	SB076○	3.6	1.0	2.7	2.6~2.6	にぶい黄橙	赤褐色土含む	良好	完 存
2018	SB077○	3.1	1.2	3.1	2.0~2.5	にぶい褐	赤褐色土含む		完 存
2019	SB088○	3.4	1.2	5.4	2.4~2.3	にぶい黄橙	1mmの砂粒含む	良好	完 存
2020	SB088○	3.3	1.0	2.8	2.8~2.7	灰 白			完 存
2021	SB088○	3.3	10.1	3.3	2.5~2.5	にぶい黄橙	赤褐色土含む		完 存
2022	SB094●	3.2	0.8	2.0	3.0~3.0	にぶい黄橙	1mmの砂粒多量に含む	良好	完 存
2023	SB123○	3.1	0.8	2.0	2.4~2.2	黒 褐	赤褐色少量含む	良好	完 存
2024	SB129○	( 1.8)	( 1.0)	( 1.2)	( 2.2)	にぶい黄橙	赤褐色含む	良好	1/2残存
2025	SB129●	3.3	1.1	3.2	2.8~3.0	褐 灰	赤褐色土少量含む	良好	完 存
2026	SB129○	3.3	1.1	( 2.5)	(2.3~2.8)	黒 褐		良好	両端欠損
2027	SB129○	3.2	1.0	3.1	2.7~2.2	黒 褐	赤褐色少量含む	良好	完 存
2028	SB129○	3.5	1.1	3.6	3.2~2.8	灰黄褐	3mmの石含む	良好	完 存
2029	SB129○	( 4.2)	1.2	( 3.8)	( 3.1)	にぶい黄橙		良好	片側欠損
2030	SB129●	( 3.0)	1.0	( 2.9)	( 2.3)	にぶい橙	赤褐色と2mmの砂粒含む	良好	片側欠損
2031	SB129○	3.5	1.0	2.8	2.6~3.1	橙	赤褐色と1mmの砂粒含む	良好	完 存
2032	SB129○	( 2.8)	1.0	( 2.5)	( 2.8)	にぶい黄橙	1mm砂粒多量に含む	良好	片側欠損
2033	SB129○	2.8	1.0	2.7	3.0~2.6	にぶい赤褐	1mmの砂粒と赤褐色含む	良好	完 存
2034	SB129●	3.5	0.9	2.5	3.2~2.7	灰 黄		良好	完 存
2035	SB129○	3.7	1.0	3.0	2.8~3.0	にぶい赤褐	赤褐色土粒含む	良好	完 存
2036	SB129●	3.3	1.1	3.3	3.8~3.9	にぶい橙	1mmの砂粒多量に含む	良好	完 存
2037	SB129●	3.0	1.1	2.9	3.0~3.1	にぶい橙	赤褐色土粒含む	良好	完 存
2038	SB129○	3.2	0.9	2.2	2.9~2.8	にぶい橙		良好	完 存
2039	SB129○	( 1.7)	( 0.9)	( 1.1)	( 3.7)	赤 褐	1mmの砂粒含む	良好	1/2残存
2040	SB132●	( 2.0)	1.1	( 1.5)	( 3.8)	黒 褐	赤褐色土粒含む	良好	1/2残存
2041	SB132○	3.6	1.1	3.9	2.8~2.7	黒 褐		良好	完 存
2042	SB132●	3.2	1.1	3.2	2.3~2.5	浅 黄		良好	完 存
2043	SB132●	3.4	0.9	2.2	2.8~2.5	灰黄褐	1mmの砂粒含む	良好	完 存
2044	SB135○	3.9	2.1	14.1	3.8~4.0	淡 黄	1mmの砂粒含む	良好	完 存
2045	SB136○	4.2	1.0	3.8	3.0~2.8	灰 白	1mmの砂粒多量に含む	良好	完 存
2046	SB140○	4.7	1.1	4.9	2.5~2.7	黒・橙	1mmの砂粒多量に含む	良好	完 存
2047	SB140○	3.8	1.0	3.6	3.0~3.0	黒 褐	細粒多量に含む	良好	完 存
2048	SB142○	3.6	1.0	2.9	3.0~2.8	灰黄褐	赤褐色土粒含む	良好	完 存
2049	SB142○	4.0	1.1	3.5	2.6~2.6	橙	1mmの砂粒含む	良好	完 存
2050	SB144○	( 2.8)	0.9	( 1.8)	( 2.5)	灰 白	1mmの砂粒含む	良好	片側欠損
2051	SB144○	3.4	0.8	2.2	2.3~2.2	灰黄褐・黒	1mmの砂粒含む	良好	完 存
2052	SB164○	6.2	2.3	27.3	5.1~4.8	黄橙・橙	2mmの砂粒含む	良好	完 存
2053	SB176○	4.2	1.3	7.9	2.5~2.5	赤 灰		良好	完 存
2054	SB176○	3.5	1.1	4.1	2.3~2.0	にぶい橙		良好	完 存
2055	SB177●	3.4	1.1	4.0	2.7~2.8	橙		良好	完 存
2056	SB178○	3.2	1.1	3.7	2.2~2.0	灰黄褐	暗褐色土、砂粒含む	良好	完 存

第Ⅲ章 遺 物

土錘番号	出土位置	軸長(cm)	最大径(cm)	重量(g)	穿孔径(mm)	色 調 ・ 胎 土 ・ 焼 成	備 考
2057	SB178○	3.3	1.0	3.5	2.0~2.0	にぶい黄橙 砂粒含む	良好 完 存
2058	SB179●	( 5.3)	1.4	( 8.9)	4.2~4.7	浅 黄	良好 一部欠損
2059	SB179○	3.9	1.5	9.0	2.8~2.9	暗灰黄	良好 完 存
2060	SB179○	( 3.4)	1.5	( 6.3)	( 2.8)	にぶい橙	良好 %残存
2061	SB179○	( 2.9)	1.2	( 3.1)	( 2.8)	暗赤褐 微小砂粒、暗褐色粒多量に含む	良好 %残存
2062	SB181●	3.4	1.0	3.5	2.4~2.4	黒 褐 1mmの砂粒含む	良好 完 存
2063	SB182○	3.2	1.1	2.9	2.3~2.2	灰黄褐 赤褐色土粒含む	良好 完 存
2064	SB183○	( 3.6)	0.9	( 2.2)	(2.8~2.5)		良好 一部欠損
2065	SB184○	3.5	1.1	3.4	2.2~2.2	黒	良好 完 存
2066	SB184○	2.9	1.0	2.5	2.2~2.3	黒 褐	良好 完 存
2067	SB184○	3.4	1.2	3.9	2.0~2.2	灰黄褐	良好 完 存
2068	SB184○	3.0	1.1	2.6	2.2~2.3	灰 褐	良好 完 存
2069	SB186○	( 2.9)	1.5	( 3.3)	( 2.2)	にぶい橙 1.5mm以下の砂粒多量に含む	良好 両端欠損
2070	SB186●	( 2.9)	1.5	( 2.4)	( 2.0)	にぶい黄橙 1mmの砂粒含む	良好 %残存
2071	SB186●	3.4	1.1	3.1	2.2~2.2	黒 褐	良好 完 存
2072	SB186●	( 3.1)	1.5	( 2.6)	2.2~2.2	にぶい褐 赤褐色土粒含む	良好 片側欠損
2073	SB187○	5.1	1.5	11.8	4.6~4.5	にぶい橙 砂粒、暗褐色土含む	良好 完 存
2074	SB187●	5.2	1.4	8.6	4.5~4.8	浅黄橙 砂粒、暗褐色土含む	良好 完 存
2075	SB187●	3.2	1.1	2.7	1.7~2.0	浅黄橙 砂粒、暗褐色土含む	良好 完 存
2076	SB187○	4.0	1.1	3.7	3.0~3.1	にぶい橙 砂粒、暗褐色土含む	良好 完 存
2077	SB188●	3.1	1.0	2.7	2.0~2.0	黒 褐	良好 完 存
2078	SB188○	3.1	1.5	3.4	2.4~2.4	にぶい橙 赤褐色土粒含む	良好 完 存
2079	SB188●	3.2	1.0	3.1	2.5~2.7	灰	良好 完 存
2080	SB189○	( 5.9)	1.2	( 7.5)	3.5~3.9	浅黄橙 微小砂粒、暗褐色土粒含む	良好 一部欠損
2081	SB192○	2.8	1.0	3.3	2.5~2.8	黒 褐	良好 完 存
2082	SB192○	3.5	1.2	2.4	2.3~2.1	にぶい橙	良好 完 存
2083	SB195○	5.7	1.6	11.4	4.1~4.0	にぶい黄橙 1~2mmの砂粒含む	良好 完 存
2084	SB195○	3.6	1.0	3.4	2.5~2.5	にぶい橙	良好 完 存
2085	SB195○	2.3	1.5	3.1	2.0~2.5	にぶい褐	良好 完 存
2086	SB195○	( 3.1)	1.0	( 2.6)	( 2.8)	黒 褐 5mmの石を含む	良好 片側欠損
2087	SB195○	( 3.1)	1.0	( 3.1)	( 2.6)	黒 褐	良好 片側欠損
2088	SB195○	3.1	1.1	3.5	2.0~2.7	黒 褐	良好 完 存
2089	SB195○	2.9	0.9	2.0	2.4~2.4		良好 完 存
2090	SB196○	( 3.3)	1.1	( 3.8)	( 2.0)	赤 黒 砂粒含む	良好 片側欠損
2091	SB196○	( 5.4)	1.6	11.0	( 4.5)	浅 黄 暗褐色土粒、砂粒含む	良好 両側欠損
2092	SB197●	5.1	1.5	( 9.3)	(4.5~5.1)	浅黄橙 3mmの砂粒多量に含む	良好 一部欠損
2093	SB199●	4.4	1.1	12.3	3.7~3.5	にぶい黄橙 赤褐色土粒、砂粒含む	良好 完 存
2094	SB199○	( 3.7)	1.3	( 4.7)	( 2.8)	にぶい黄橙 微小砂粒含む	良好 片側欠損
2095	SB202○	2.8	1.0	( 2.2)	(3.3~2.8)	黒 褐 暗褐色土粒含む	良好 一部欠損
2096	SK174○	4.0	1.4	( 6.6)	2.2~2.3	暗 褐 赤褐色土粒含む	良好 一部欠損
2097	SK399○	3.2	1.0	3.4	2.0~2.2	灰黄褐 1mmの砂粒少量含む	良好 完 存
2098	SK405○	4.9	1.6	9.0	4.5~4.5	浅黄橙 2mmの砂粒、赤褐色土含む	良好 完 存
2099	SK424○	3.1	0.9	2.4	2.4~2.0	黒	良好 完 存
2100	SK431○	3.3	1.1	3.5	3.0~3.0	にぶい橙	良好 完 存
2101	SD08 ○	3.5	1.0	( 3.7)	2.2~2.2	黒 褐 赤褐色土粒少量含む	良好 一部欠損
2102	B-060○	5.4	2.0	24.1	3.0~3.0	灰 白 2mmの砂粒含む	良好 完 存
2103	I-078○	4.5	2.0	17.2	5.0~5.0	明 褐 1mmの砂粒含む	良好 完 存
2104	D-080○	3.9	1.2	5.1	2.9~3.1	淡 黄 1mmの砂粒含む	良好 完 存
2105	G-080○	( 3.1)	1.0	( 2.9)	(2.5~3.0)	灰 褐 1mmの砂粒含む	良好 %残存
2106	H-080○	4.4	1.1	5.6	2.3~2.0	淡 黄 1mmの砂粒含む	良好 完 存
2107	H-081○	3.6	1.1	4.1	2.9~2.9	灰 白 4mmの石1ヶ、赤褐色土粒含む	良好 完 存
2108	H-084○	( 3.6)	1.1	( 4.0)	( 0.2)	にぶい黄橙 1mmの砂粒含む	良好 片側欠損
2109	I-099○	( 3.8)	1.3	( 4.5)	(2.5~3.6)	灰 白 1mmの砂粒多量に含む	良好 一部欠損
2110	P-114○	3.4	1.3	6.5	2.3~2.5	にぶい橙 赤褐色土粒含む	良好 完 存
2111	Q-121○	4.8	1.0	4.8	2.5~2.5	灰 白 1mmの砂粒含む	良好 完 存

## 4 その他の遺物

土錘番号	出土位置	軸長(cm)	最大径(cm)	重量(g)	穿孔径(mm)	色 調 ・ 胎 土 ・ 焼 成			備 考
2112	Q-131○	( 4.2)	0.8	( 2.4)	(3.0~3.2)	にぶい橙	1mmの砂粒含む	良好	両端欠損
2113	T-131○	4.6	1.0	4.1	2.7~2.8	灰黄褐	2mm以下の砂粒多量に含む	良好	完 存
2114	N-140○	( 2.7)	0.9	( 2.2)	( 2.5)	橙	2mmの砂粒含む	良好	ㄻ残存
2115	N-140○	3.3	1.3	5.1	2.7~2.7	にぶい橙		良好	完 存
2116	Q-140○	3.8	2.0	11.3	3.5~3.3	灰 白	1mmの砂粒含む	良好	完 存
2117	T-141○	2.8	0.8	1.5	3.0~3.0	にぶい黄橙		良好	完 存
2118	U-142○	3.2	1.2	4.0	3.6~3.5	にぶい褐	1mmの砂粒多量に含む	良好	完 存
2119	U-142○	3.4	1.0	2.7	2.3~2.6	黒 褐		良好	完 存
2120	D-146○	( 3.0)	1.1	( 2.2)	( 2.9)	灰 白	1mmの砂粒含む	良好	片側欠損
2121	D-146○	( 3.2)	1.2	( 2.8)	(2.3~2.5)	灰 白	1mmの砂粒含む	良好	片側欠損
2122	C-051○	3.5	1.2	4.3	2.3~2.6	にぶい黄橙	赤褐色土粒含む	良好	完 存
2123	C-151○	( 3.0)	1.2	( 3.4)	( 2.3)	灰 白	赤褐色土粒含む	良好	ㄻ残存
2124	Q-177○	4.0	1.2	6.7	2.9~3.0	灰 黄	1mmの砂粒含む	良好	完 存
2125	Q-178○	( 3.5)	1.0	( 2.5)	(2.1~2.1)	にぶい橙	赤褐色土粒多量に含む	良好	片側欠損
2126	O-179○	4.1	1.2	5.8	2.2~2.3	灰 褐	赤褐色土粒含む	良好	完 存
2127	Q-179○	3.3	0.9	( 2.6)	2.5~2.5	橙	赤褐色土粒含む	良好	一部欠損
2128	Q-180○	( 5.2)	1.4	( 7.7)	(4.0~8.5)	にぶい橙	2mmの砂粒含む	良好	片側欠損
2129	R-181○	3.6	1.2	3.3	2.0~2.0	灰 白	赤褐色土粒多量に含む	良好	完 存
2130	S-181○	( 4.0)	1.3	( 6.1)	( 4.3)	にぶい黄橙	2mmの砂粒含む		ㄻ残存
2131	T-181○	4.3	1.6	10.0	3.7~4.2	にぶい橙	1mmの砂粒含む	良好	完 存
2132	R-184○	3.5	1.1	2.7	2.0~2.3	灰黄褐	1mmの砂粒含む	良好	完 存
2133	R-184○	3.5	1.0	3.5	2.4~2.4	灰 黄		良好	完 存
2134	R-184○	3.0	1.1	2.9	2.8~2.2	にぶい橙	1mmの砂粒、赤褐色土粒含む	良好	完 存
2135	R-184○	( 3.2)	0.9	( 2.6)	( 2.5)	にぶい橙	赤褐色粒と1mmの砂粒含む		片側欠損
2136	R-184○	3.2	1.2	2.6	2.2~2.2	灰 褐	赤褐色土粒含む	良好	完 存
2137	R-184○	3.2	1.1	3.2	2.0~1.5	灰黄褐	赤褐色土粒含む		完 存
2138	P-186○	( 3.8)	1.0	( 3.1)	(2.2~2.2)	にぶい赤褐	1mmの砂粒含む	良好	片側欠損
2139	P-186○	3.4	1.0	( 3.0)	2.2~2.4	黒	2mmの砂粒少量含む	良好	一部欠損
2140	S-189○	( 5.0)	1.2	( 8.2)	( 4.0)	にぶい橙	1mmの砂粒含む	良好	両端欠損
2141	T-193○	( 4.5)	1.5	( 8.3)	( 4.3)	にぶい黄橙・黒	1mmの砂粒含む	良好	ㄻ残存
2142	I区表採○	3.9	1.2	5.2	2.4~2.4	灰 白	1mmの砂粒多量に含む	良好	完 存
2143	II区表採○	4.1	1.9		3.1~3.1				一部欠損
2144	IV区表採○	( 5.3)	2.0	(18.2)	( 2.8)	浅 黄	1mmの砂粒多量に含む	良好	片側欠損
2145	表 採○	6.4	2.5	28.8	3.0~3.3	浅 黄	1~2mmの砂粒含む	良好	完 存
2146	表 採○	( 1.5)	( 0.9)	0.9	( 2.9)	灰黄褐	砂粒含む	良好	ㄻ残存

## 砥石観察表

砥石番号	出土位置	形 態 の 特 徴	石 質	重 量(g)
3001	SB032○	両端の欠損したもの。4面使用。	凝灰岩	156
3002	SB043○	両端の欠損したもの。4面使用。	凝灰岩	40
3003	SB128●	両端は欠損し、4面使用するが表面は複数面をなす。	安山岩	105
3004	SB139○	両端は欠損してない。6面を使用し、研磨面は曲面をなす。	安山岩	1468
3005	SB140●	両端は欠損している。4面を使用しており、曲面を呈する。	凝灰岩	420
3006	SB143●	両端は欠損し、広い破面も研磨され、5面を使用。	凝灰岩	176
3007	SB156○	狭少面を欠損している。4面を使用し、1面は刃物の傷痕残す。	凝灰岩	170
3008	SB167●	小形の砥石で、4面を使用している。	凝灰岩	49
3009	SB189○	両端の欠損した砥石で、断面は三角形。使用面は複雑に入り組む。	凝灰岩	60
3010	SB194○	3面の研磨面を残し、他は欠損している。	凝灰岩	21
3011	III区表採○	両端は欠損している。研磨されやせている。4面とも使用している。	凝灰岩	32
3012	表 採○	杯底部周縁を打ち欠き、砥石又は硯として使用か。1面のみ研磨。	転用砥(転用硯)	55
3013	表 採○	両端を欠損している。5面以上の使用面を残す。	砂 岩	480

### 第三章 遺物

遺物観察表（その他の遺物）

遺物番号	名称	出土位置	観察
4001 ○	埴輪	SB006	色調は橙色を呈し、胎土に砂粒及び赤色粘土粒を含む。焼成は良好である。二次的な加熱が加えられて変色している。外面 1次タテハケ目11本/2cm 内面 上方荒いタテハケ目、下方タテ指ナデ
4002 ●	紡錘車	SB007	色調は淡黄を呈する。截頭錐体を呈する。材質は凝灰岩で軟質である。軸穴は上面径7m/m、下面径8m/mを測る。軸線は、底面の線より曲がる。重量は32gである。全体に丁寧な研磨がゆきとどいている。
4003 ○	紡錘車	SB022	色調は灰色を呈する。半分欠損しているが、完存すると重量は36gとなる。截頭錐体を呈する。稜線は、面取りされ丸い。穿孔径は約6.7mm/mmを測る。材質は滑石である。
4004 ○	紡錘車	SB080	色調はオリーブ灰色を呈し、材質は蛇紋岩である。原形は截頭錐体であるが、稜線はだれて丸い。下面は荒れている。穿孔径は上面8m/m、下面8.5m/mを測る。重量は37gである。
4005 ○	支脚	SB082	色調は浅黄橙色を呈し、胎土に2mmの砂粒を含む。材質は埴製である。焼成は良好である。すざわらを混入して焼き上げている。原形は、長方形の板状のものであったと考えられる。平の面の一方は平坦、他の面は波を打つ。側面は丸く仕上げている。
4006 ●	紡錘車	SB087	色調は黒と灰白のまだらである。材質は蛇紋岩である。重量は36gを測る。原形は截頭錐体を意識するが、稜線はだれて丸い。穿孔径は、上面7.5m/m、下面8m/mを測る。
4007 ○	支脚	SB094	色調は浅黄色を呈し、材質は砂岩である。形状は柱状であったと考えられ、両端は欠損している。側面に粘土をぬりつけており、焼けて赤橙色を呈する。欠損する一方の木口面には、白色粘土塗布の痕跡が認められる。竈構造の袖部に埋められていた。
4008 ●	埴輪	SB096	色調は明赤褐色を呈し、胎土に赤褐色粒を含む。焼成は良好である。大刀形と埴輪を想起させる。外面は1次タテハケ目で11本/2cmの単位である。内面はタテ指ナデである。表面に白色鉱物の塗布がみられる。
4009 ●	埴輪	SB096	色調はにぶい橙色を呈し、胎土に3mm以下の砂粒を多量に含む。焼成は良好である。形象埴輪の台部と考えられる。表面は1次タテハケ目9本/2cmの単位である。内面も1次タテハケ後タテ指ナデ。
4010 ○	用途不明品	SB104	色調は橙色を呈し、胎土に赤褐色粒と、1mmの砂粒を含む。焼成は良好である。土師器の鉢の四辺をすりへらし使用したもの。整形時の外面は、ヘラケズリ、内面はナデを残す。二次加工痕は未確認。
4011 ○	石錘	SB104	色調は淡黄色を呈し、材質は凝灰岩である。表面に1孔、裏面に2孔の未貫通孔を穿つ。周縁は荒く仕上げ、不定形の楕円形を呈する。一方の面は平坦、他の面は凹凸が強い。重量は27gである。
4012 ●	羽口	SB128	色調は灰白色を呈し、胎土に赤褐色粒を含み、埴製である。約8cmの円柱に、口径18m/mの単孔を穿つ。穿孔周辺は二次加熱による赤色を呈する。先端部分は黒色を呈して発泡し、下方に流れて凝集、固まる。
4013 ●	羽口	SB129	色調は浅黄色を呈する。先端部分のみで二次加熱により赤褐色を呈し、脆弱である。中央に2cmの孔が穿たれている。表面上方は、黒色で光沢をもって、下方にとけ出し、発泡している。
4014 ○	支脚	SB132	色調は浅黄橙色を呈し、材質は凝灰岩である。先端は欠損しているが、板状に切り出されたものと考えられる。表面は葉理に沿って剝落し、裏面は加熱によるものか、荒れている。
4015 ○	石錘	SB137	色調は灰色を呈し、材質は安山岩である。重量は14gである。径5～6cmの扁平な自然石を打ち割って製作している。自然面側からは、台形状の貫通孔、上面径10m/m、裏面は未貫通孔、上面径7m/mが残る。
4016 ●	紡錘車	SB165	色調は灰色を呈し、胎土に3～10mmの砂粒を含む。材質は須恵器製である。重量は71gである。転用でなく専用である。片面に深緑色の釉、反対面に叩き痕残る。中央に径7m/mの単孔を穿つ。
4017 ●	瓦	SB173	表面に粘土板剝取の糸切痕あり。模骨補痕は不明瞭である。裏面は、粘土板剝取痕が残り、縄印が施される。1枚作り用凸型製作台上で作瓦された可能性が高い。側部は窠により2面取され、小口面も3面取される。焼成は煙がかかり、軟質で黄灰色を呈す。胎土に白色微鉱物粒を含み、ねっとりしている。
4018 ●	支脚	SB202	色調は橙色を呈し、胎土に赤褐色粒と砂粒を含む。材質は埴製である。幅9.5cm、厚さ3.5cmの断面形で残存長23cmを測る。完存側の先端部分は、二次加熱による変色、煤が付着している。
4019 ○	支脚	10号掘立柱建物	色調は淡黄色を呈し、胎土に2～7mmの砂粒を含む。材質は凝灰岩である。幅16cm、厚さ6.5cmの断面形で両端欠損し、残存長12cmを測る。欠損後も使用したらしく、二次加熱痕が破砕面にもみられる。
4020 ○	石錘	SB153	色調は浅黄色を呈し、材質は軽石である。重量は78gである。不定形な軽石を直方体に整える。片面から、径7m/mの貫通孔と、未貫通孔が各1ヶづつ穿たれる。
4021 ○	把手	P-141	色調はにぶい橙色を呈し、胎土に2mmの砂粒を多量に含む。最大部は3cm×3.5cmの楕円形。残存長7cmを測る。先端部に煤付着。長手方向に荒いケズリ痕を残す。
4022 ○	埴輪	S-143	色調は橙色を呈し、胎土に3mmの砂粒を含む。焼成は良好である。上に向かって開く円筒埴輪、外面1次タテハケ目18本/2cm、内面、タテ方向指ナデ。
4023 ○	埴輪	D-148	色調はにぶい橙色を呈し、胎土に3mm以下の砂粒を多量に含む。焼成は良好である。肩部のやせた小形の朝顔形埴輪。外面、1次タテハケ目11本/2cm。内面、タテハケ目。
4024 ○	把手	I区表探	色調はにぶい黄褐色を呈し、胎土に2mmの砂粒を含む。径約4cmの楕円形の断面で、長さ10cmを測る。体部からの剝落部分には、二次加熱による変色煤が付着する。
4025 ○	支脚	表探	色調は橙色を呈し、胎土に2～8mmの砂粒を含む。材質は凝灰岩である。幅18cm、厚さ7cmの断面形で残存長26cmを測る。二次加熱を強く受けている。
4026 ○	支脚	表探	色調は淡黄色を呈し、胎土に2mmの砂粒を含む。材質は凝灰岩である。幅14cm、厚さ7cmの断面形を呈し片方の端部が欠損する。残存長26cm。二次加熱による変色をうけ、煤が帯状に付着する。

## 5. 近世陶磁器

### 1. はじめに

西今井遺跡からは、約650点の陶磁器が出土している。これらの中には、中世に属するものは1点も認められず、すべて、江戸時代以降のものであった。このうち、遺構内出土のものは、2区5号溝2点・4区8号溝89点である。資料の選択にあたっては、遺構内・遺構外を問わず、遺存率の高さを原則とし、希少性を加味した。選択した資料は、2区5号溝2点・4区8号溝37点・遺構外19点の、計58点である。掲載した点数と、出土量の比率は、2区5号溝100%・4区8号溝約41%・遺構外約3%である。

### 2. 用語と観察項目

胎土は、断面の色調と挟雑物の有無を記した。釉調は、透明釉・灰釉・飴釉・鉄釉・柿釉・錆釉を使用し、一部にその色調を記した。なお、鉄釉系の釉で、半透明のものを飴釉・茶褐色から黒褐色で不透明のものを鉄釉、赤茶色のものを柿釉、釉厚が薄く、光沢がなく茶褐色不透明のものを錆釉とした。また、本遺跡出土の磁器は、すべて透明釉を施しているため、一部に色調を記したのみである。年代は<sup>①</sup>焼成年代であり、一世記を前後の二期に区分した。

### 3. 出土遺物について

遺構内からは、碗・皿・片口鉢・徳利・播鉢・鍋といった、日常の生活用品が出土している。このなかで、5013の湯飲みと5014の碗は、時期的に隔たりがあり、混入品と考えられる。これらは時期的には、5013のひょうそくと5032の灯明皿受け皿が19世紀に属する他は、概ね18世紀の所産と考えられる。碗は、波佐見諸窯を中心に焼かれた、くらわんか手(5004、5005、5037等)や陶胎染付(5006、5007)瀬戸・美濃系諸窯の腰錆(5010、5011)、尾呂茶碗と呼ばれるものが出土している。これらの碗は、生活雑器として県内に広く認められる。

この他には、陶胎上絵付碗(5015)が一点出土している。この碗は、単純な文様を三方に配し、胎土は、きめが細かいものの、瀬戸・美濃系の特徴を備えている。また、上絵の文様や器形は、瀬戸の空兵衛窯出土の碗<sup>②</sup>に共通性が認められ、瀬戸・美濃系の陶胎上絵付碗<sup>③</sup>と考えられる。この碗と同様の上絵文様を有する資料は、渋川市中村遺跡<sup>④</sup>から出土している。器形的に類似したものに、伊万里系の丸碗があり、18世紀後半から19世紀前半まで生産されている。有田では丸碗の口縁部は、19世紀に入ると内湾せずに直立気味になる<sup>⑤⑥</sup>以上のことから、本遺跡の上絵付碗は18C後半に位置付けることができる。

播鉢、片口鉢と徳利は、5057と5050の二点を除き、すべて瀬戸・美濃系であり、18世紀代には、調理用鉢類と徳利のほとんどを、瀬戸・美濃製品が占めていた。

本遺跡出土の陶磁器のうち、残存率のよいものは、ほとんど4区8号溝から出土しており、接合率も高い。これは陶磁器が、一次的な廃棄であることを示すとともに、18世紀には、溝に近接して屋敷地があったことが想定される。17世紀(5050)と19世紀(5030、5032等)の陶磁器も出土しているが、小片であるうえに量的にも少なく、生活の場は離れていたと考えられる。

第三章 遺物

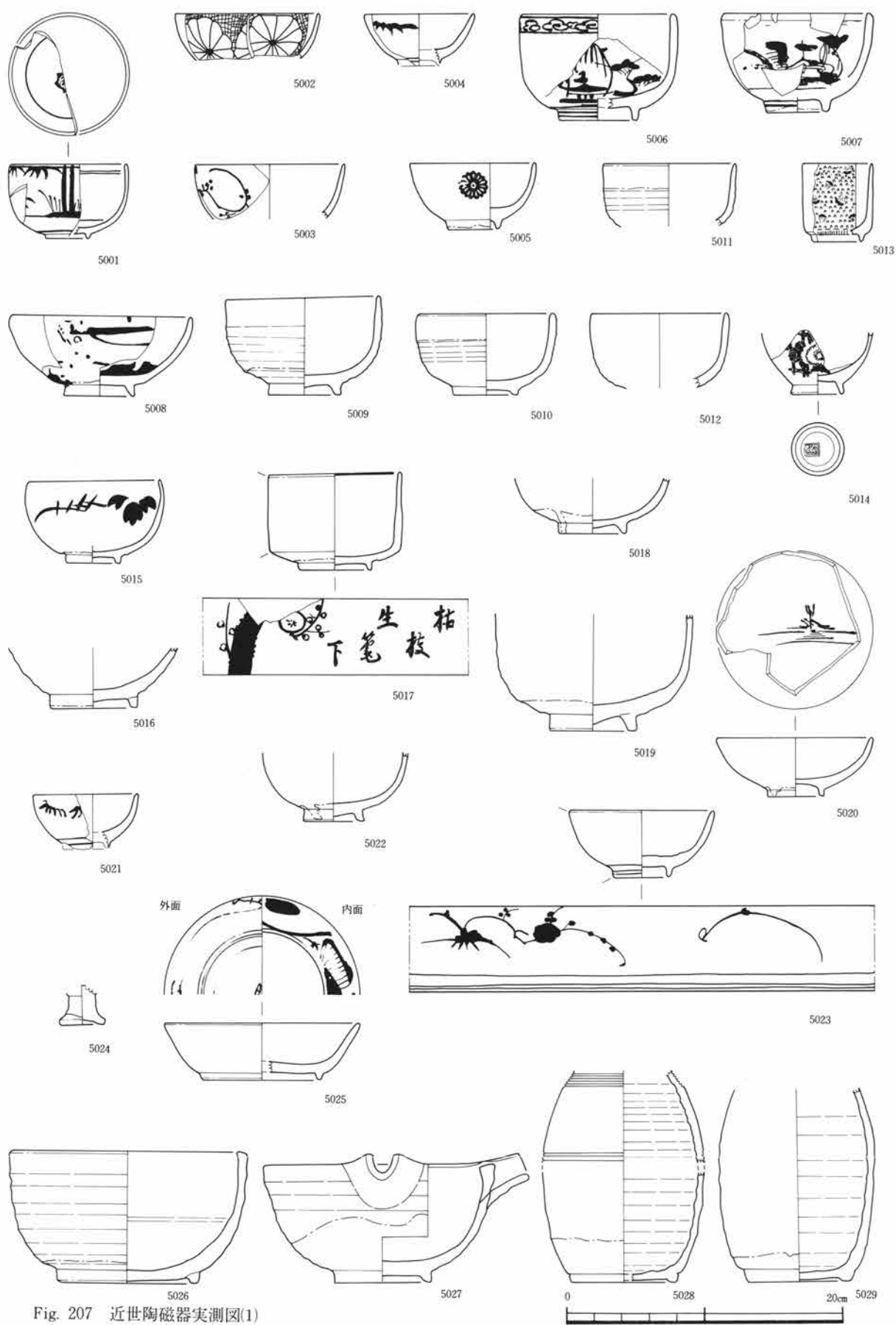


Fig. 207 近世陶磁器实测图(1)

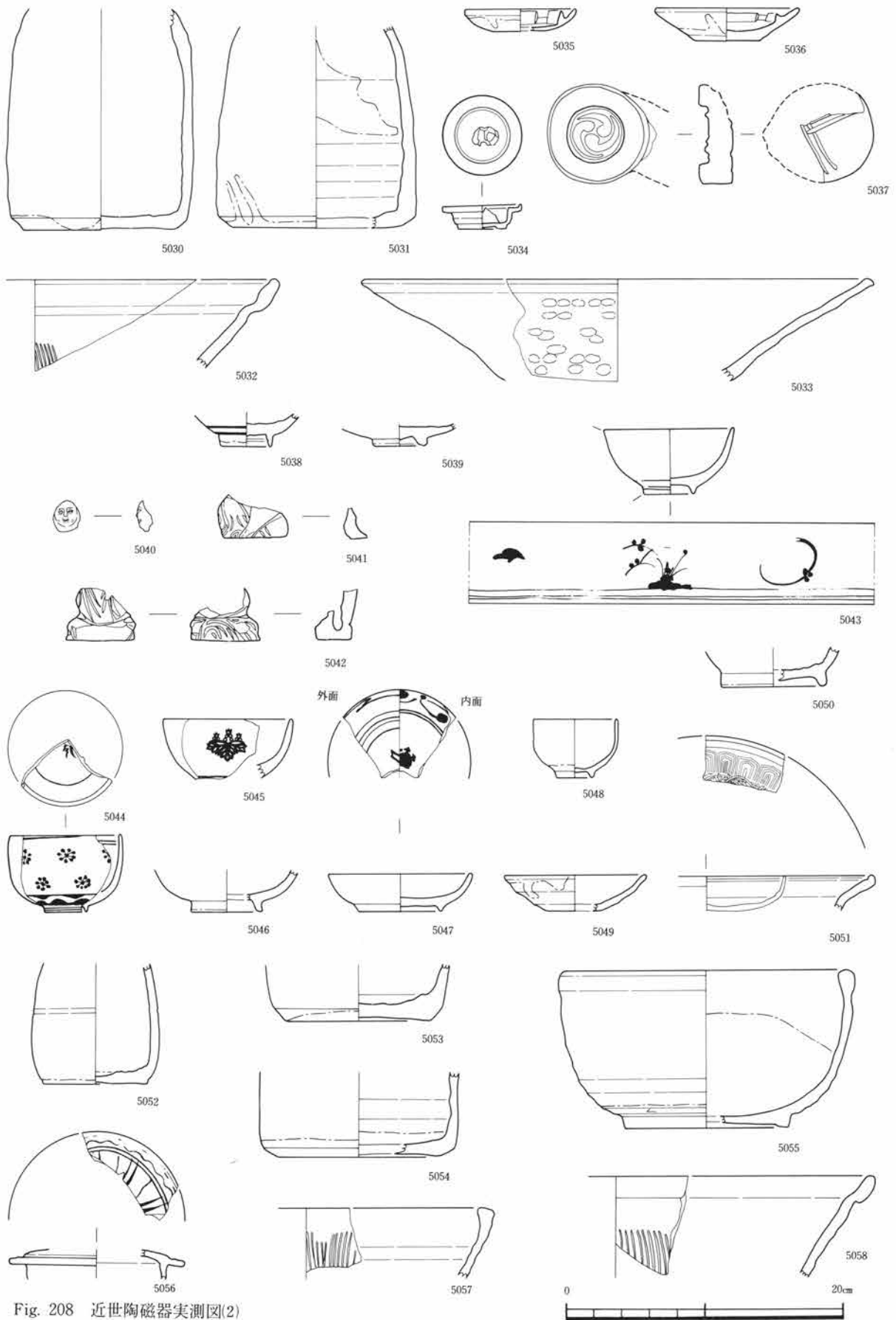


Fig. 208 近世陶磁器実測図(2)

第三章 遺物

近世陶磁器観察表

土器 番号 出土 地点	器 形 分 類	法 量 器高・口径・底径	器 形 の 特 徴	軸 調 ・ 絵 付 け の 特 徴	胎 土	備 考
5001 4区8号溝	染付丸碗 磁器	5.3 ( 8.3) ( 3.1)	高台は、小さく低い。胴部下位は丸みを帯び、口縁部は内湾ぎみに立上がる。	外面に双竹文を描く。見込みには、簡略化した五弁花を描く。高台端部は無軸。	白色	伊万里系 18C後半
5002 4区8号溝	染付碗 磁器	— (10.4) —	口縁部下位は、ゆるく内湾する。	内外面に、菊花つなぎ文を描く。口縁部下位には、貫入が入る。	白色	伊万里系 18C
5003 4区8号溝	染付碗 磁器	— (10.9) —	口縁部下位は、ゆるく内湾する。	外面に、蔓草と花を描く。呉須は、やや黒味を帯びる。軸には、気泡を多く含む。	白色	伊万里系 18C
5004 4区8号溝	染付碗 磁器	— ( 8.0) —	胴部下位の張りはなく、口縁部は開く。	口縁部外面に、6葉の笹を描く。呉須の発色はにぶい。軸厚に、ムラがある。	灰色	伊万里系 18C
5005 4区8号溝	染付碗 磁器	4.8 9.0 3.9	胴部下位で内湾し、口縁部は開く。	外面には、コンニャク版による菊花文を、三方に散らす。高台端部は、無軸。透明軸は、やや青みを帯びる。	灰白色	伊万里系 18C前半
5006 4区8号溝	染付碗 陶器	7.6 (11.3) 5.6	高台は大きい。口縁部は、張った腰部から直線的に立上がる。	柳の下に一屋を描き、右に老松を配する樹下一屋図である。呉須は、やや黒味を帯びる。全面に、貫入が入る。	青灰色	伊万里系 18C前半
5007 4区8号溝	染付碗 陶器	7.1 (11.0) 4.6	器壁は厚く、口縁部はゆるく開く。	簡略化された樹下一屋図を描く。呉須の色は薄く、一部はやや黒みを帯びる。内底は、小さい火彫れが多い。高台端部は、無軸。貫入が入る。	青灰色	伊万里系 18C前半
5008 4区8号溝	碗 陶器	5.7 13.2 ( 5.0)	高台脇に稜線を有し、口縁端部は直立する。	文様は、外面に白土で退化した梅花文？を描く。他は、白土を内外面に散らす。高台脇まで長石軸系の透明軸を掛ける。細かい貫入が入る。	にぶい橙色	唐津系 18C後半～ 19C前半
5009 4区8号溝	餡釉碗 陶器	6.9～7.1 11.2 5.3	口縁部は、ほぼ真直ぐに立上がる。貼り付け高台と思われる。	高台脇まで餡釉を掛ける。内外面共に、口縁部5mm程薄く、薬灰系の白濁釉を掛ける。	淡黄色で、ややち密	瀬戸・美濃系 18C後半
5010 4区8号溝	腰鎗碗 陶器	5.8 10.0 4.8	高台は低く、張った腰部から口縁部は立上がる。口縁下部の軸境には、螺旋状の沈線を施す。	内面と口縁部は灰軸、他は、鉄軸を掛ける。高台端部のみ無軸。灰軸部分のみ、大きい貫入が入る。	淡黄色で、ざっくりしている。	瀬戸・美濃系 18C後半
5011 4区8号溝	腰鎗碗 陶器	— ( 9.7) —	張った腰部から口縁部は立上がる。口縁下部の軸境には、螺旋状の沈線を施す。	内面と口縁部は灰軸、他は、鉄軸を掛ける。灰軸部分のみ貫入が入る。	淡黄色で、ややち密。	瀬戸・美濃系 18C後半
5012 4区8号溝	碗 陶器	— (10.0) —	張った腰部から口縁部は立上がる。	灰軸系の透明軸を掛ける。全面に貫入が入る。	淡黄色で、ざっくりしている。	瀬戸・美濃系 18C後半
5013 4区8号溝	湯飲み 磁器	5.6 ( 5.1) ( 3.4)	胴部・口縁部は、直線的に立上がる。	コバルトによる型紙摺	白色	伊万里系 明治
5014 4区8号溝	碗 磁器	— — ( 3.9)	高台は高く、外に開く。	胴版プリントで菊生垣文を施す。菊花は赤色で、生垣は、コバルトである。	白色	伊万里系 大正
5015 4区8号溝	陶胎上絵付丸碗 陶器	5.8 9.6 4.0	高台は低く、幅も狭い。胴部・口縁部は、内湾する。	灰軸系の透明軸を均一に掛ける。細かい貫入が入る。高台脇以下は無軸。上絵は、緑で笹風の文様を、くすんだ赤で不明の文様を三方に描く。	淡黄色で、ややち密。 (京焼風)	瀬戸・美濃系 18C後半
5016 4区8号溝	鉢 陶器	— — 6.5	腰部は、内湾ぎみに開く。	高台端部と高台内を除き、餡釉を薄く掛ける。内底に、目痕が二つ残る。	淡黄色で、ややち密。	瀬戸・美濃系 18C
5017 4区8号溝	筒形碗 陶器	6.9 9.7 5.3	腰部は屈曲し、口縁部は直線的に立上がる。	高台脇まで、クリーム色を帯びた透明軸を掛ける。梅花を呉須で描き、他は鉄絵である。	淡黄色で、ち密。	京焼系 18C
5018 4区8号溝	灰釉碗 陶器	— — 4.8	腰部は張らず、丸みを持って立上がる。	青みのある灰軸を、高台脇まで薄く掛ける。底部に石はぜがある。	灰色で、焼締まる。	瀬戸・美濃系 17～18C
5019 4区8号溝	灰釉碗 陶器	— — 6.4	腰部は丸みを帯び、胴部は直立する。底部に、施釉以前の輪状の器面の荒れが認められる。	青みのある灰軸を、高台脇まで掛ける。	灰色で、白色粒子を含む。焼締まる。	瀬戸・美濃系 18C
5020 4区8号溝	皿 陶器	4.2 (11.4) 4.5	高台はシャープに削り出され、高台内は、高台脇より深く削りこまれる。	高台脇まで、細かい貫入の入った透明軸を薄く掛ける。底部には、鉄を用いて楼閣山水文を描く。文様は、崩れている。	淡黄色で、ち密。	唐津系 (京焼風) 18C



## 5 近世陶磁器

土器 番号 出土 地点	器 形 類	法 量 器高・口径・底径	器 形 の 特 徴	釉 調 ・ 絵 付 け の 特 徴	胎 土	備 考
5021 4区8号溝	染付碗 磁器	— (7.7)	口縁部は、ゆるく内湾して立上がる。	外面に笹絵を描く。呉須の発色はにぶく、くすんでいる。	灰 色	伊万里系 18C
5022 4区8号溝	灰釉碗 陶器	— 4.3	高台系は小さい。腰部は内湾する。	高台脇まで、灰オリーブ色の灰釉を掛ける。釉厚にはむらが多い。	灰色で、ややち密。	瀬戸・美濃系 18C
5023 4区8号溝	染付碗 磁器	4.8 10.6 4.2	腰部は張らず、口縁部は内湾気味に開く。	外面に、雪持笹と梅枝文を描く。呉須の発色はにぶい。内面底部は、蛇ノ目釉剥ぎ。高台端部は無釉。	灰白色	伊万里系 18C前半
5024 4区8号溝	ひょうそく 磁器	— 3.2	脚部の下は、高台状に削り込む。	脚部下位以下は、無釉。露胎部分は、素地の鉄分により、錆色を呈する。		伊万里系 18C
5025 4区8号溝	染付皿 磁器	4.2 (14.0) (8.6)	口縁部は、真直ぐに開く。	内外面共に、簡略化した文様を描く。呉須の発色はにぶく、透明釉は青みを帯びている。釉厚にはむらがある。	灰白色	伊万里系 18C後半
5026 4区8号溝	片口鉢 陶器	9.5 (17.2) 10.3	腰部は丸みを持ち、口縁部は、直立する。	高台脇まで、黄色味を帯びた灰釉を掛ける。底部に目痕二つあり。破損後に、二次的な加熱を受けている。	淡黄色で白色鉱物粒少量含む。	瀬戸・美濃系 18C前半
5027 4区8号溝	片口鉢 陶器	8.5 16.7 7.1	口縁部は肥厚し、端部はやや窪んだ平坦面を持つ。	胴部～口縁部下位まで、オリーブ灰色の灰釉を掛ける。粗い貫入が入る。底部に目痕三つあり。	灰 白 色 で、ざっくりしている。	瀬戸・美濃系、18C後半～19C
5028 4区8号溝	鉛釉徳利 陶器	— — —	胴部と肩部に、沈線を施す。胴部は、ゆるく張る。	全面に鉛釉を掛けた後、腰部以下の釉を拭いとる。	淡黄色	瀬戸・美濃系 18C
5029 4区8号溝	鉛釉徳利 陶器	— — 7.5	低い付け高台を持ち、胴部はゆるく張る。	外面全体に、鉛釉を掛ける。胴部以下は、釉を拭いとる。肩部に一か所白濁釉が認められ、うのふ釉を流し掛けていると思われる。	淡黄色で、白色鉱物粒を少量含む。	瀬戸・美濃系 18C
5030 4区8号溝	鉄釉徳利 陶器	— — 11.0	底部は平底で、腰部下端は面取りする。胴部は、寸胴形である。	外面全体に、鉄釉を掛けるが、腰部下端以下は釉を雑に拭いとる。	灰色	瀬戸・美濃系 18C～19C
5031 4区8号溝	鉄釉徳利 陶器	— — 12.3	底部は平底で、腰部下端は面取りする。最大系は、腰部下端にある。	外面全体に、鉄釉を掛けるが、腰部下端以下は釉を拭いとる。	淡黄色で、やや粗い。	瀬戸・美濃系 18C～19C
5032 4区8号溝	播鉢 陶器	— — —	外面の口縁下位は窪み、その内側は、突出する。	全体に、錆釉を掛ける。	淡黄色で、やや粗い。白色鉱物粒を含む。	瀬戸・美濃系 18C後半
5033 4区8号溝	鍋 軟質陶器	— — —	体部は、ゆるく外反して開く。	器表と断面中央は、黒色。	灰白色で、白色鉱物粒を含む。	在地系 17C～19C
5034 4区8号溝	ひょうそく 陶器	2.8 5.7 3.6	低い削り出し高台を持つ。口縁部は、外方に水平に広がり、端部は上方に折れる。	高台脇まで、灰釉を掛ける。やや細かい貫入が入る。	淡黄色で、ち密。黒色粒子を少量含む。	地方窯 19C
5035 4区8号溝	灯明皿受皿 陶器	2.6 (8.1) (3.9)	体部は、内湾する。	全体に錆釉を掛けた後、口縁部下位以下の釉を拭いとる。	灰色で、ち密。器質に焼き締まる。	瀬戸・美濃系 18C後半
5036 4区8号溝	灯明皿受皿 陶器	2.4 10.3 4.7	体部は、直線的に開く。	全体に錆釉を掛けた後、口縁部下位以下の釉を拭いとる。	灰白色で、ち密。器質に焼き締まる。	瀬戸・美濃系 19C前半
5037 4区8号溝	棧瓦 — — —	— — —		器表は、黒灰色～灰色。	灰白色でち密。黒色粒子を含む。	製作地不詳 18C～19C
5038 4区8号溝	染付碗 磁器	— — 3.6	高台は幅が狭く、やや高い。	青みのある透明釉を、高台外面上半まで掛ける。高台内は無釉。	灰白色	伊万里系 17C～18C
5039 4区8号溝	白磁皿 磁器	— — 3.9	腰部は直線的に開く。	やや白濁した透明釉を、高台脇～高台端部まで掛ける。細かい貫入が入る。ロクロは左回転。内面底部は、蛇ノ目状に僅かに窪む。	白色。十分に磁化していない。	伊万里系か中国製16C～18C前半
5040 9号住居跡	土人形 土師質	— — —	人形の顔の部分である。		にぶい橙色。細砂多く含む。	製作地不詳 17C～19C

第Ⅲ章 遺 物

土器 番号 出土 地点	器 形 分 類	法 量 器高・口径・底径	器 形 の 特 徴	釉 調 ・ 絵 付 け の 特 徴	胎 土	備 考
5041 82号住居跡	土人形 土師質	— — —			にぶい橙色。 細砂多く含む。	製作地不詳 17C～19C フク土
5042 9号住居跡	土人形 土師質	— — —	仏像を模したものである。中空 になっており、前後を貼り合わ せている。		にぶい橙色。 細砂多く含む。	製作地不詳 17C～19C フク土
5043 B-159	染付碗 磁器	4.7 9.4 3.7	口縁部は、外にやや開く。	外面に梅、草花、三蓋松と思われる文様を描く。 呉須の発色は、くらわんか手のものにしては良 い。高台端部は無釉で、鉄分により錆色を呈す。	灰白色	伊万里系 18C前半
5044 M-127	染付碗 磁器	5.5 ( 8.1 ) ( 3.1 )	口縁部は、内湾気味に立上がる。	外面に、花を圖案化した文様を散らしている。 内面底部の文様は、不明。高台端部は、無釉。	白色	伊万里系 18C後半～ 19C前半
5045 表 採	染付碗 磁器	— — ( 9.4 )	口縁部は、内湾気味に開く。	コンニャク版により、五三の桐を施文する。三 方に施文したと思われる。	灰白色	伊万里系 18C前半
5046 表 採	碗 陶器	— — 5.0	高台は開く。	内外面に、白土を刷毛塗りし、高台端部を除き、 長石釉系の透明釉を掛ける。	赤褐色で、ち 密。	唐津系 18C
5047 表 採	染付皿 磁器	3.7 (10.4) ( 6.0 )	口縁部はやや内湾する。	内面底部の五弁花は、コンニャク版か。裏銘は 不明。	白色	伊万里系 18C
5048 B-159	灰釉小杯 陶器	4.2 ( 6.0 ) ( 3.3 )	胴部は内湾し、口縁部は直立す る。	高台脇まで灰釉を掛ける。貫入が入る。	灰色で、焼き 締まる。	瀬戸・美濃 系 19C
5049 A-135	灯明皿 陶器	2.6 (10.2) ( 4.0 )	口縁部は、内湾気味に開く。	全面に錆釉を掛けた後、外面口縁部以下の釉を 拭いとる。	灰白色で、焼 き締まる。	瀬戸・美濃 系か 19C
5050 B-100	德利 磁器	— — ( 7.4 )	高台は外方に開く。	高台端部を除く外面に、透明釉を掛ける。二次 的な加熱のためか、釉は白濁している。高台外 面の二本の、呉須の圏線は、かすかに見える。	白色	伊万里系 17C
5051 F-112	三島手皿 陶器	— — —	口縁部は外反する。	白土象嵌の後、長石釉系の透明釉を掛ける。	赤褐色で、ち 密。	唐津系 17C後半～ 18C
5052 A-155	錆釉德利 陶器	— — 7.5	底部は平底で、胴部はやや丸み を有する。胴部中に沈線を一 条巡らす。	外面全体に、錆釉を掛ける。底部のみ釉を拭い とる。	灰色で、ち密。 器質に焼き締 まる。	瀬戸・美濃 系 18C後半
5053 C-155	鉄釉德利 陶器	— — 10.5	底部は平底で、腰部下端は面取 りする。	外面全体に、鉄釉を掛ける。底部のみ釉を拭い とる。	灰白色でち密。 焼き締まる。	瀬戸・美濃 系 18C～19C
5054 A-155	鉄釉德利 陶器	— — (11.8)	底部は平底で、腰部下端は面取 りする。	全体に、柿釉を厚く掛ける。底部は、釉を雑に 拭い取っているため、錆釉を掛けたようになって いる。	灰白色で、焼 き締まる。	瀬戸・美濃 系 18C～19C
5055 B-159	片口鉢 陶器	11.4 20.5 12.0	口縁部は、肥厚する。	やや黄色味を帯びた灰釉を掛ける。口縁部内面 以下高台脇以下は無釉。	淡黄色で、 ごっくりして いる。	瀬戸・美濃 系 18C後半
5056 A-150	蓋 陶器	— (12.8) —	かえり部は立ちが高く、直立す る。	二本一単位の放射状の文様は、鉄で描き、その 他は白土で描く。笠部の波状文は、筒書きであ る。外面のみ、灰釉を掛ける。貫入が入る。	淡黄色で、ち 密。	地方窯 19C
5057 P-165	播鉢 陶器	— — —	口縁端部は、肥厚する。内外面 共に、ロクロ目が目立つ。おろ し目は、7本一単位。	内面に降った灰が、釉化している。	薄い橙色。 長石、石英を 含む。	信楽系 18C前半
5058 D-119	播鉢 陶器	— — —	口縁部は、外方に折返す。	黒味を帯びた錆釉を掛ける。	灰白色 黒色、白色粒 子を含む。	瀬戸・美濃 系？ 18C前半

註 1. a 伊万里系は大橋康二「肥前陶磁の変遷と出土分布」  
『国内出土の肥前陶磁』佐賀県立九州陶磁文化館 1984  
b 瀬戸・美濃系は藤澤良祐ほか『瀬戸市歴史民俗資料  
館研究紀要』1987  
2. 註1のaと同じ  
3. 中野康祐「江戸時代の瀬戸窯と京焼陶器」『愛知県陶

磁資料館研究紀要6』愛知県陶磁資料館 1987  
4. 横澤克明ほか『中村遺跡』洗川市教育委員会 1986 図版176  
の上段  
5. 大橋康二『南川原窯、辻窯・広瀬向窯』佐賀県立九州陶磁文化  
館 1986  
6. 皆沢焼にも小型の染付丸碗があり、有田のみの傾向ではない。

## 第Ⅳ章 結 語

早川河川改修工事と上武道路改築工事に伴う西今井遺跡の発掘調査の面積は26,500㎡であった。(Ⅰ区 6,980㎡、Ⅱ区 5,200㎡、Ⅲ区 4,180㎡、Ⅳ区 6,400㎡、Ⅴ区 2,000㎡、Ⅵ区 1,740㎡) 発掘区域は調査の手順にそって6つに分けられた。遺構の検出数は下の表にまとめた。遺跡の立地とその性格に規定されるであろう集落も考古学的手法で全て復元できるものではない。結論めいた話になってしまうが、それでも敢えて発掘調査の面積に対する遺構検出数を比較して調査区域内での分布傾向だけをみておこう。先づは、竪穴住居との比較をしてみよう。Ⅰ区の分布率を100と考えた場合、Ⅱ区も100、Ⅲ区は285、Ⅳ区は418、Ⅴ区は遺構なし、Ⅵ区は468である。一般的な形態と考えられる竪穴式住居はⅣ区とⅤ区に集中することがわかる。掘立柱建物はⅠ区、Ⅲ区、Ⅳ区で合計14軒検出されているがⅢ区には9軒と圧倒的に多い。土壌の大部分が帰属時期は不明である。435基の土壌の分布全体を100とするとⅠ区は9%、Ⅲ区は29%、Ⅳ区は53%、Ⅵ区は9%である。土壌のあり方は集落の竪穴住居の周囲などに穿たれてゆくのであろうと考えていたが、竪穴住居の密度の高いⅣ区には土壌が逆に少ないという数字となり、必ずしもそんな単純な関係でないことがわかる。

発掘調査を実施している頃は遺跡を保存し保護してゆくための方法論(今日の記録保存という名の方法論ではなかった)として徹底的な分布調査を実施していた。掘らないで地下の情報を記録し保存することを真剣に考えていた。なかには現表土面から遺構面まで精密な位置関係を全点記録し報告書としてまとめたものもあった。県内でも調査の当初から一切の重機による表土掘削を否定した発掘方法を採用した調査も見受けられた。西今井遺跡の発掘参加者のなかにもこの影響をうけ数度の調査方法に関する協議の結果、遺構外の遺物でも発掘グリッド毎に記録することになった。出土遺物のうちの土器に限定した場合、出土総点数89,582点である。これらの土器片の密度について図化したものが「遺跡における土器片の密度」(317頁)である。土器別に遺跡内出土比率と数値別にグラフ化したものが「西今井遺跡出土土器の総点数」(318頁)である。また総点数の内訳についての基礎数値は316頁の上段に表示した。今回報告書に掲載の1,771点は出土点数の2%にすぎない。図化できるからといった安易な選択もなきにしも非ず。記録保存の原則である「公開」を前提として、表採品として扱った98%の土器の意味について調査担当者として問い続ける義務も生涯にわたって生じている。

Tab. 西今井遺跡検出の遺構

発掘区	住居	掘立柱建物	溝	井戸	土壌	土器集積
Ⅰ	24	1	3	3	38	3
Ⅱ	18	0	3	1	2	0
Ⅲ	41	9	1	3	125	0
Ⅳ	92	4	1	3	230	2
Ⅵ	28	0	0	0	40	0
計	203	14	8	10	435	5

西今井遺跡出土土器の内訳

	須 恵 器	土 師 器	灰 釉 陶 器	合 計
竪 穴 住 居	2,463	36,872	474	39,809
掘 立 柱 建 物	81	717	2	800
溝	9	13	1	23
土 壙	1,069	3,234	45	4,348
土 器 集 積	72	499	7	578
グ リ ッ ト 別	5,988	35,950	538	42,476
不 明	283	1,235	30	1,548
合 計	9,965	78,520	1,097	89,582

地形と遺跡の関係はどう考えたらよいのであろうか。遺跡をどう把握するのか、どうアプローチしたらよいのか。学術調査の問題意識は記録保存という名の調査の前にともすれば縦割り行政の弊害をまともにかぶってしまいかねない。本遺跡は「西今井遺跡」、南東に接して「三ツ木遺跡」、南に接して「西今井・三ツ木遺跡」として三冊の報告書が2つの教育委員会で調査されている。これらの遺跡は間断なく広域に分布している。調査対象範囲が250,000㎡でそのうちの調査面積は3遺跡合計で51,952㎡にもなり全体の20%を発掘したことになる。検出された竪穴住居は598軒、掘立柱建物は58軒にもなる。北西から南東に細部に蛇行を繰り返しつつも大局的には直線的に走り三ツ木の鼻先で直線的に流下する現在の早川の旧流路の変遷と地形とは残された遺跡にどういった影響を与えているのであろうか。西今井遺跡のⅠ区と三ツ木遺跡のⅣ区とは約50mの距離にあり、調査主体は異なるものの3者を同時に検討することが必要である。古墳時代前期の集落と墓域との問題、平安時代に集落内に搬入されてくる竈用材としての埴輪や古瓦との問題、掘立柱建物の配置と同時存在の竪穴住居との問題、広域に展開する平安時代も後半の集落と中世荘園との関連性が強いとされる西今井館跡との問題、更に「新田荘」領域の一部を形成していたであろうその後の問題など課題は山積したままである。

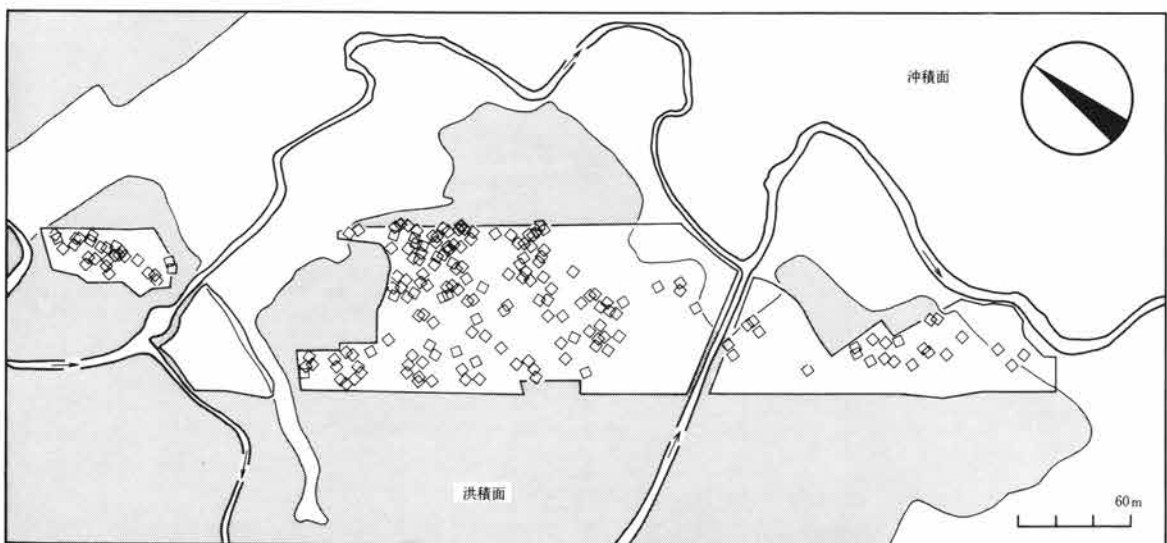


Fig. 209 地形と遺跡

広域の調査のため、本遺跡を理解するための他の隣接する遺跡を同レベルで俎上に載せる必要性をやや悲観的に述べてきた。

ここでは本遺跡で検出された遺構群を理解するための基準ともなるべき編年の基礎資料をまとめておきたい。先づ遺構の形態や方向性に規格性があるのかどうかを検討しよう。竪穴住居について検討を加えてみたが、竈の位置や、竈を住居の正面と考えての主軸の方向性の類型化は難しく、平面形態の分類のみに終わった。重複の多いもの54軒（27%）を削除し、149軒を対象とした。竈位置を正面として左右の幅を天地の幅で除した数値を客観的なデータとして使用した。その結果0.9~1.1を正方形とすると25軒で全体の25%である。0.6~0.8の範囲のものは縦長とすると51軒で全体の34%である。横長は1.2~1.6までの範囲で73軒、全体の49%である。

正 方 形	S B 051	S B 119	S B 159	
	S B 052	S B 123	S B 164	
	S B 054	S B 129	S B 165	
	S B 020	S B 066	S B 170	
	S B 026	S B 092	S B 171	
	S B 036	S B 094	S B 195	
S B 042	S B 115	S B 201		
縦 長	S B 035	S B 108	S B 173	
	S B 044	S B 111	S B 175	
	S B 046	S B 112	S B 178	
	S B 003	S B 048	S B 114	S B 182
	S B 006	S B 049	S B 116	S B 186
	S B 013	S B 056	S B 127	S B 189
	S B 018	S B 059	S B 128	S B 190
	S B 025	S B 065	S B 136	S B 191
	S B 027	S B 078	S B 148	S B 192
	S B 028	S B 089	S B 149	S B 197
	S B 029	S B 090	S B 158	S B 202
	S B 030	S B 102	S B 160	S B 203
	S B 031	S B 104	S B 166	
	S B 032	S B 107	S B 168	
	横 長	S B 045	S B 077	S B 141
S B 047		S B 085	S B 142	
S B 050		S B 086	S B 144	
S B 001		S B 053	S B 087	S B 146
S B 002		S B 055	S B 088	S B 147
S B 004		S B 057	S B 091	S B 153
S B 005		S B 058	S B 096	S B 156
S B 007		S B 060	S B 099	S B 157
S B 011		S B 061	S B 101	S B 162
S B 012		S B 062	S B 103	S B 163
S B 016		S B 063	S B 105	S B 167
S B 017		S B 064	S B 109	S B 172
S B 019		S B 068	S B 110	S B 174
S B 021		S B 069	S B 125	S B 181
S B 023		S B 071	S B 131	S B 193
S B 034		S B 072	S B 135	S B 194
S B 037		S B 073	S B 138	S B 196
S B 038		S B 074	S B 139	S B 199
S B 041		S B 076	S B 140	S B 200

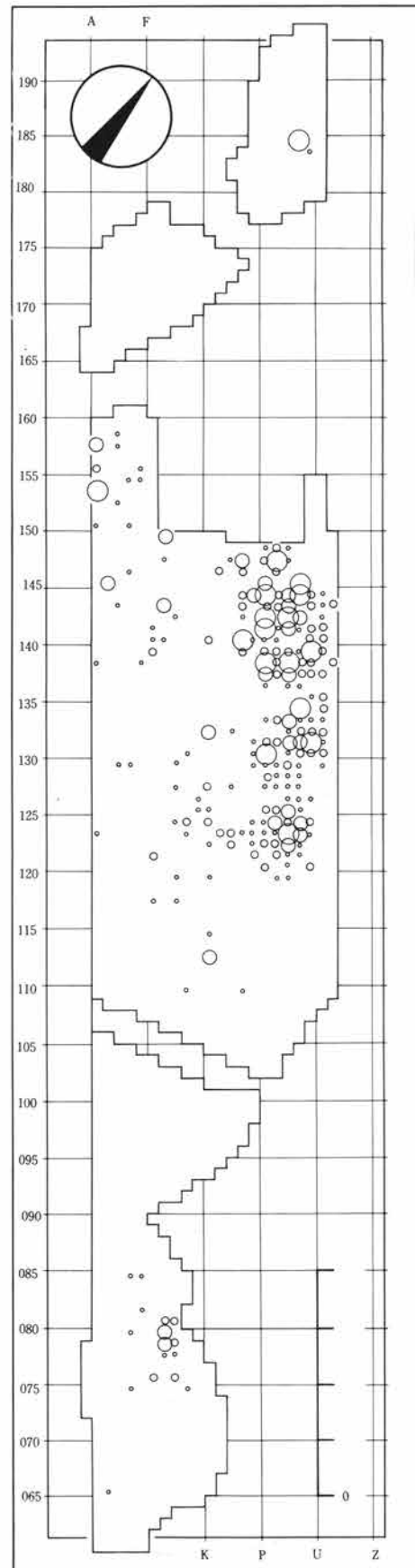


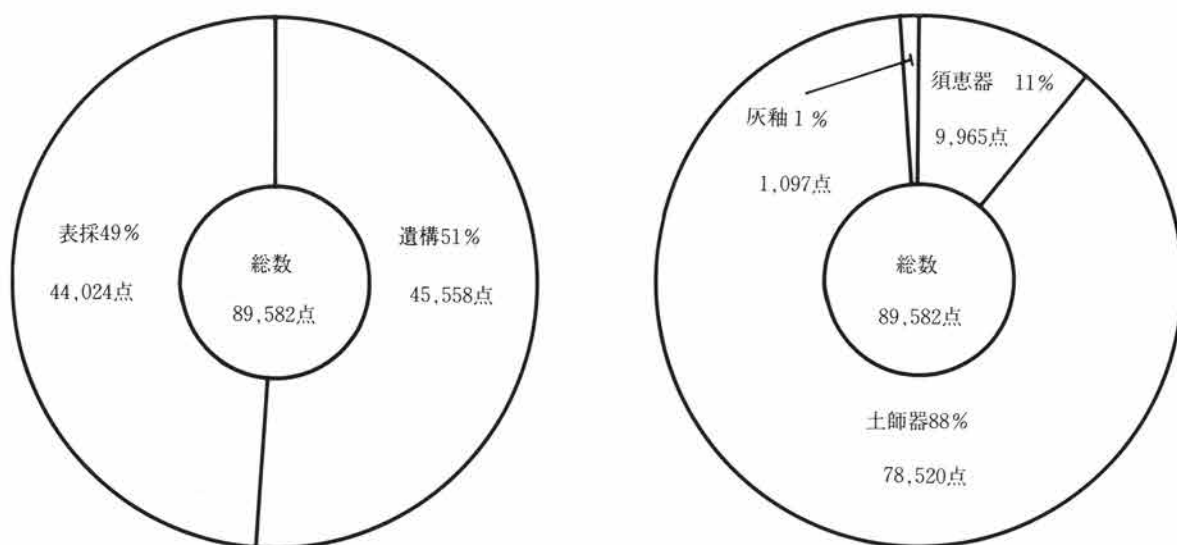
Fig. 210 遺跡における土器片の密度

#### 第IV章 結 語

前述の149軒の住居出土の土器の点数は1,226点である。これらの土器を土師器（A類）、須恵器（B類）、灰釉陶器（C類）、D類（古式土師器）の分類基準にもとづいて表にしてみた。（319頁上段）それぞれの土器の占める割合は、土師器の42%で特にA-14類とした椀がその中でも37%の比重をもつ。須恵器は全体の半分、50%を占め、その中でもB-19類の椀が29%、B-30類が19%を占める。灰釉陶器は7%と低い。その中ではC-6類の椀が54%、C-8類の皿が23%を占める。これらのことから食生活の中の土器類に限定した場合、供膳具の占める割合が高いことをうかがわせるものの、報告書作成といった限定期間つきの整理作業では特に復元が簡単な小型の器種に注意が向きやすく、土師器甕といった器壁の薄い土器は破損度が高く労力の割合に功少なしと等閑視したことも念頭におかなくてはならない。これらの出土量の高いグループを類型土器の共伴頻度表（326頁）にあてはめてみた。するとこれらのグループは他の類型とも高い共伴関係をもつことがわかる。土師器では長甕（A-1、A-2類）丸甕（A-6類）杯（A-11類）須恵質甕（A-16、A-18類）である。須恵器では羽釜（B-13、B-14類）蓋杯（B-15、B-16類）内黒土器（B-21、B-22）である。

共有する類型で大きな区分を試みると2つのグループに分けられ明らかに新旧関係があることがわかる。古段階の土器の特徴は硬質の須恵器の杯、内湾する土師器の椀などの供膳具、「く」の字状、「コ」の字状の口縁を持ち胴部を薄く窺ヶズリした長甕から構成される。新段階の土器の特徴は供膳具の主流を占める杯は焼成が軟質（土師質）であり、底部切り離し技法も荒い糸切りのままで高台も低く甘い。その他に内面黒色処理の椀、杯類、足高高台の椀、皿類がある。また灰釉陶器もこの時期には多量に認められ、器種も、椀、皿が主体で小型化してゆく傾向も認められる。更に「カワラケ」と呼ぶ中世土器との系譜に連なる一群もこの時期に顔を出している。長甕の一群は土師器から須恵質土師器へ変化してゆくようで胴部の器壁も厚くどっしりとしている。また羽釜も長甕と同様煮沸形態の中心にあるが、これも硬質（須恵器）なものから軟質（土師質）なものへと変化してゆく。

実年代を比定する直接資料を欠く本遺跡の場合、奈良時代の須恵器杯の底部に二次調整を施す技法が認められることや外反する土師器で盤皿に系譜をもつ杯の欠落から古段階を9世紀以降とすることができる。また、新段階に供伴する灰釉陶器の大部分が虎溪山-1窯式に比定されることから11世紀の前半と考えることができる。平安時代を単純に400年と考え、前期、中期、後期と区分する方法に従えば、古段階は平安時代前期、新段階は平安時代中期に比定されよう。



西今井遺跡出土土器の総点数

住居出土の土器分類

A 類				B 類				29	9	0.73	1.46
1	53	4.32	10.19	1	3	0.24	0.49	30	115	9.38	18.67
2	47	3.83	9.04	2	2	0.17	0.32		616	50.25	99.99
3	28	2.28	5.38	3	9	0.73	1.46		b	b/1,226	b/616
4	11	0.90	2.12	5	8	0.65	1.30	C 類			
5	4	0.33	0.77	7	1	0.08	0.16	3	1	0.08	1.15
6	16	1.31	3.08	9	3	0.24	0.49	4	8	0.65	9.20
7	3	0.24	0.58	10	3	0.245	0.49	6	47	3.83	54.02
8	4	0.33	0.77	11	2	0.17	0.32	7	6	0.49	6.90
9	10	0.82	1.92	12	2	0.17	0.32	8	20	1.63	22.99
10	9	0.73	1.73	13	36	2.94	5.84	9	2	0.17	2.30
11	32	2.61	6.15	14	47	3.83	7.63	10	1	0.08	1.15
13	8	0.65	1.54	15	30	2.45	4.87	12	2	0.17	2.30
14	194	15.82	37.31	16	39	3.18	6.33		87	7.10	100.01
15	6	0.49	1.15	17	4	0.33	0.65		c	c/1,226	c/87
16	58	4.73	11.15	18	16	1.31	2.60	D 類			
17	3	0.24	0.58	19	180	14.68	29.22		3	0.24	
18	19	1.55	3.65	20	4	0.33	0.65		d	d/1,226	
19	11	0.90	2.12	21	44	3.59	7.14				
20	4	0.33	0.77	22	48	3.92	7.79				
	520	42.41	100.00	24	3	0.24	0.49				
	a	a/1,226	a/520	25	1	0.08	0.16				
				26	3	0.24	0.49				
				27	4	0.33	0.65				

住居の時期区分

平 安 時 代 前 期	S B001	S B055	S B011	S B128
	S B002	S B059	S B016	S B129
	S B003	S B066	S B017	S B131
	S B004	S B078	S B021	S B132
	S B005	S B088	S B045	S B139
	S B006	S B091	S B057	S B141
	S B007	S B092	S B058	S B142
	S B012	S B094	S B060	S B144
	S B013	S B102	S B061	S B146
	S B018	S B104	S B062	S B147
	S B019	S B115	S B064	S B149
	S B020	S B119	S B065	S B153
	S B023	S B123	S B068	S B158
	S B025	S B130	S B069	S B163
	S B026	S B133	S B071	S B164
	S B027	S B135	S B072	S B166
	S B028	S B136	S B073	S B168
	S B029	S B138	S B074	S B170
	S B030	S B140	S B076	S B178
	S B031	S B155	S B077	S B181
	S B032	S B156	S B085	S B182
	S B034	S B157	S B086	S B186
	S B035	S B159	S B087	S B189
	S B036	S B160	S B090	S B190
	S B037	S B162	S B096	S B191
	S B038	S B165	S B099	S B192
	S B041	S B167	S B101	S B194
	S B042	S B171	S B103	S B195
	S B044	S B172	S B105	S B196
	S B046	S B173	S B107	S B197
S B047	S B174	S B109	S B199	
S B048	S B175	S B110	S B200	
S B049		S B111	S B201	
S B050		S B112	S B202	
S B052		S B114	S B203	

Tab. 11 西今井遺跡土器分類表

土 師 器 群 A		須 惠 質		須 惠 器 群 B		施 釉 陶 器 群 C												
土 師 器 群 A	甕	長 胴 甕	台 無	1	16	12	9	4	14	6	7							
			台 有	2														
		丸 甕	台 無	3														
			台 有	4														
			台 無	5														
			台 無	6														
			台 無	7														
	杯	手 捏 土 器	高 台 無	8														
			高 台 無	9														
			高 台 有	10														
	碗		11															
	鉢		12															
須 惠 質	甕	長 胴 甕	13	11	10	11	24	17	20	1	26	27	24	4	6	7	8	9
		丸 甕	14															
		長 胴 甕	15															
		直 線 胴 甕	16															
須 惠 器 群 B	壺	蓋	1	10	11	24	17	20	1	26	27	24	4	6	7	8	9	
		短 頸 壺	2															
		瓶	3															
		瓶	環 狀 耳 付 大 型 瓶															4
			長 頸 瓶															5
			脚 付 長 頸 瓶															6
			平 瓶															7
			橫 瓶															8
			小 型 長 頸 瓶															9
	甕		大 型 甕															10
			中 型 甕															11
			小 型 甕															12
	羽 釜	甕	13															
		蓋	14															
	杯	內 黑 土 器	高 台 無															16
			高 台 無															17
			高 台 有															18
		內 黑 土 器	高 台 無															19
			高 台 無															20
			高 台 有															21
	碗	足 高 (輪 台)	22															
		足 高 (中 実)	23															
		高 台 無	24															
		足 高	25															
	皿		26															
	鉢		27															
	盤		28															
	土 師 質	杯	高 台 無															29
			高 台 有															30
	施 釉 陶 器 群 C	灰 釉	瓶															大 型 瓶
中 型 瓶				2														
小 瓶				3														
長 頸 瓶				4														
脚 付 長 頸 瓶				5														
碗		碗	6															
		輪 花 碗	7															
皿		皿	8															
		段 皿	9															
		耳 皿	10															
綠 釉	四 足 壺	11																
	碗	12																
	皿	13																
19																		



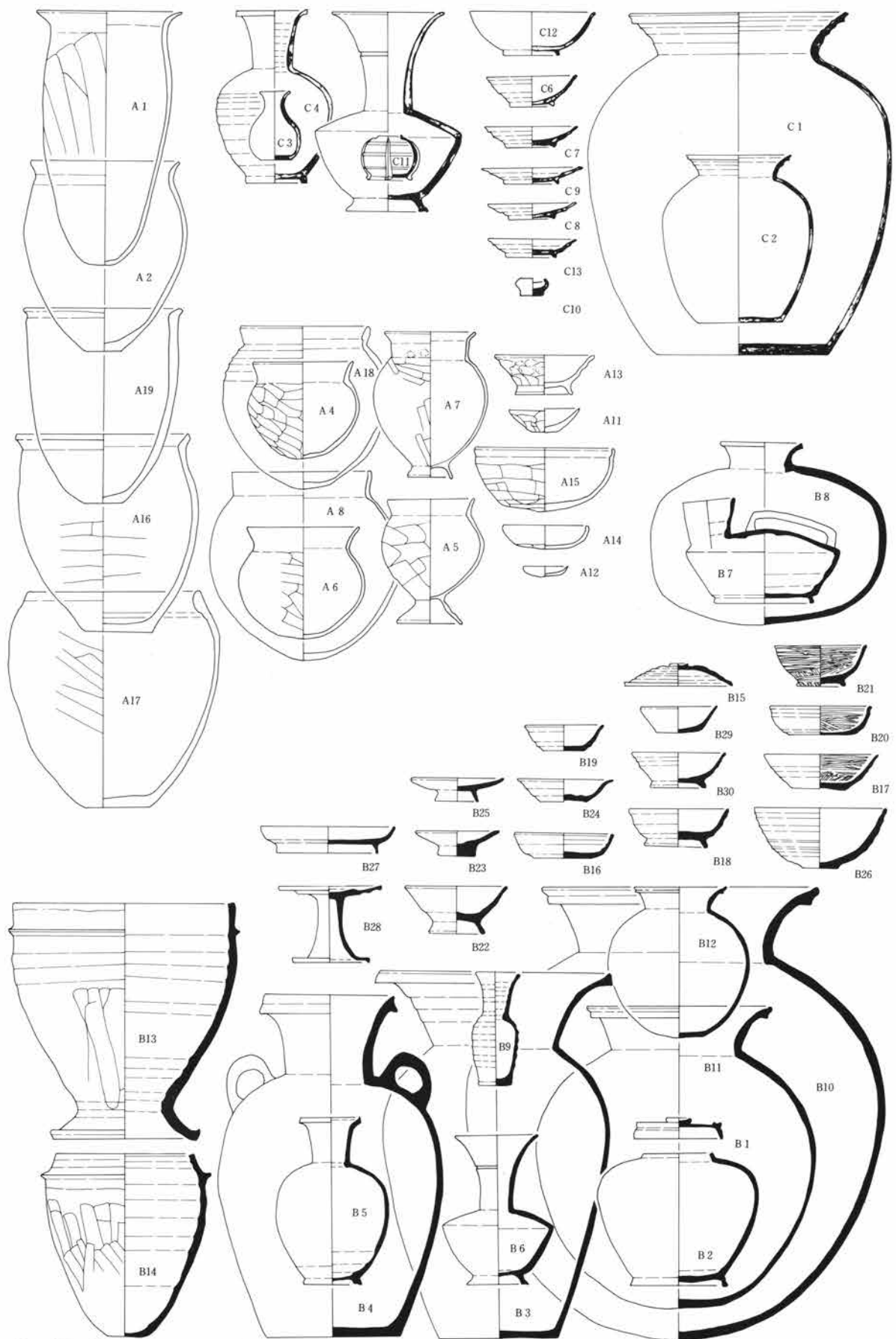


Fig. 211 遺跡における土器片の密度







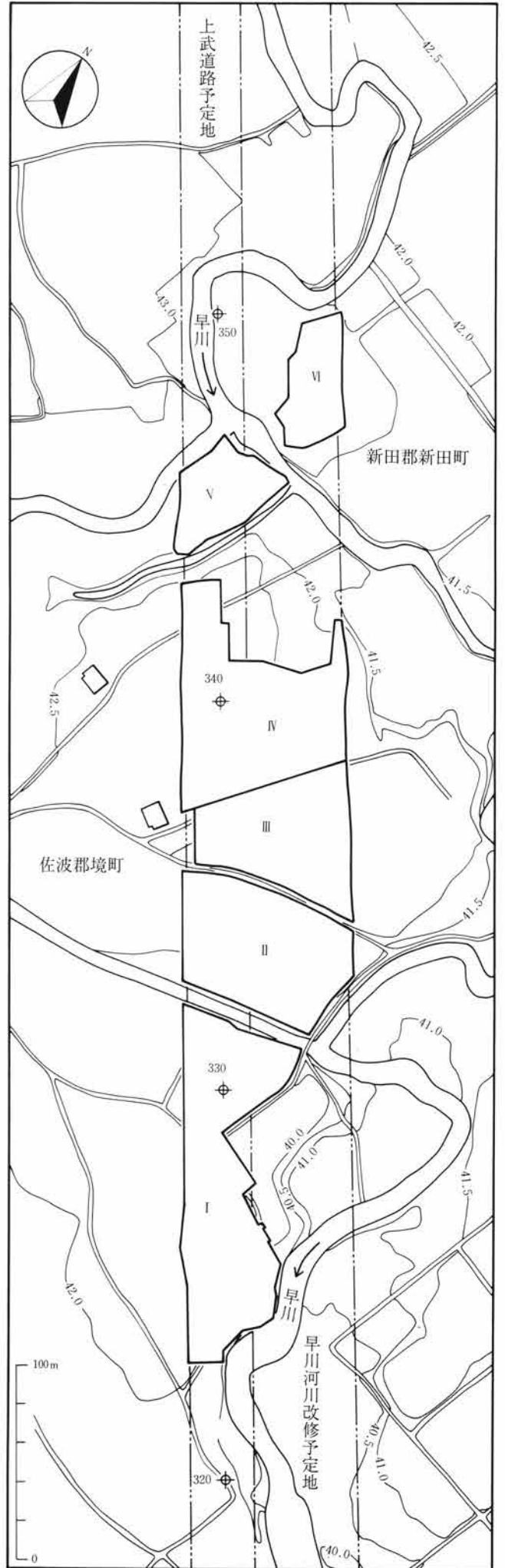




# 写 真 图 版









1 Ⅲ区 97~115号住居付近



2 Ⅲ区 2号掘立柱建物付近



1 Ⅲ区 3. 5. 6号掘立柱建物付近



2 Ⅲ区 6~10号掘立柱建物付近



1 IV区 129・132号住居付近



2 IV区 130~161号住居付近



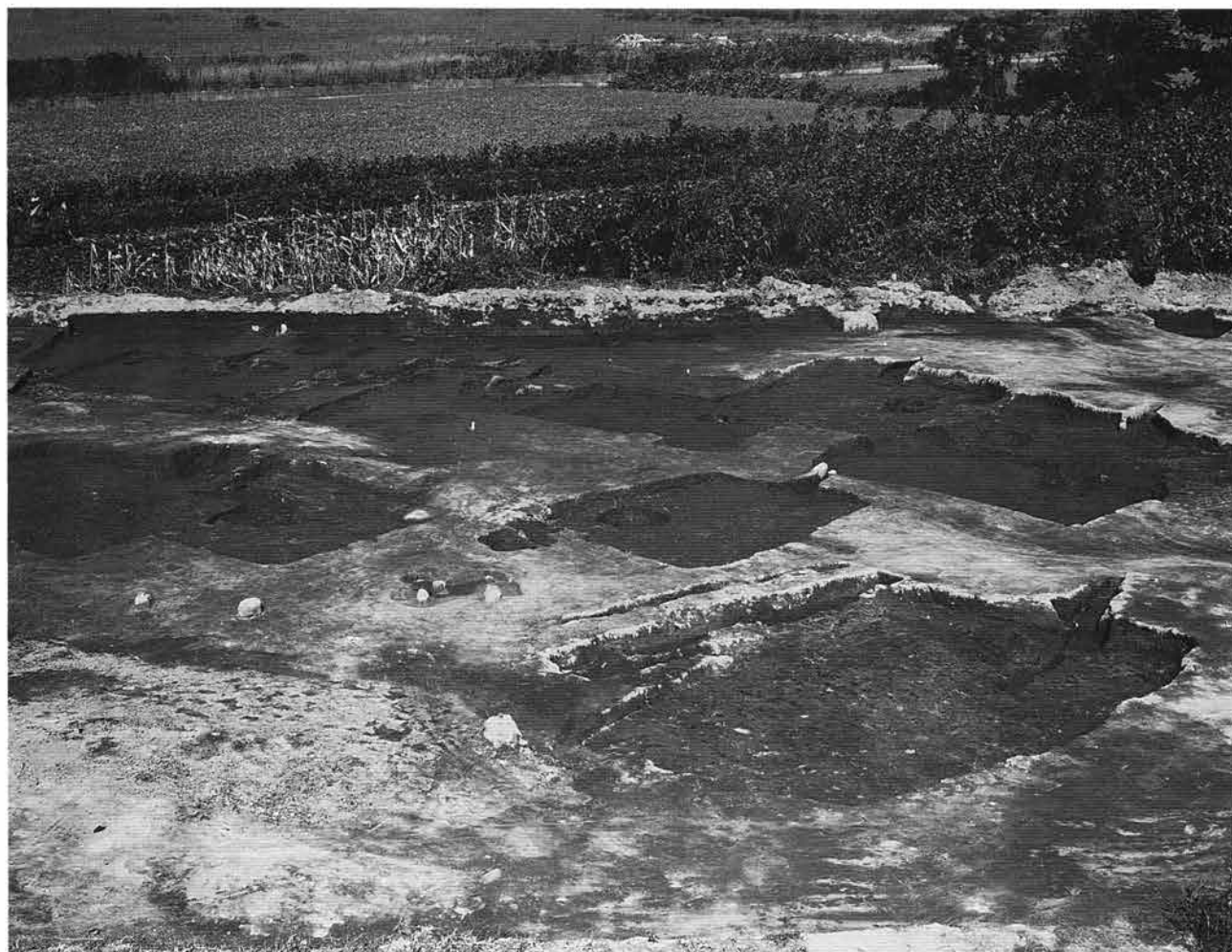
1 IV区 130~168号住居付近



2 IV区 170~173号柱住居付近



1 VI区 176~181号住居付近



2 VI区 182~197号住居付近



1 VI区 186~199号住居付近



2 VI区 189~203号住居付近



1 84号住居 全景



2 85号住居 全景



3 85号住居 竈



4 86号住居 全景



5 87号住居 全景



6 87号住居 竈



7 88号住居 全景



8 88号住居 竈





1 89号住居 全景



2 89号住居 竈



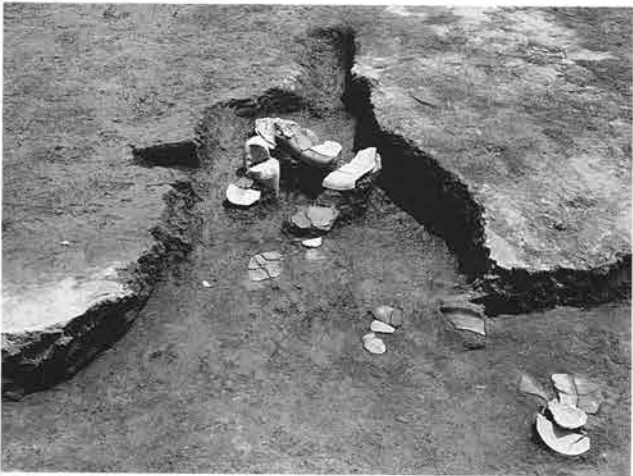
3 90号住居 全景



4 90号住居 竈



5 91号住居 全景



6 91号住居 竈



7 92号住居 全景



8 92号住居 竈



1 93号住居 全景



2 94号住居 全景



3 95・96号住居 全景



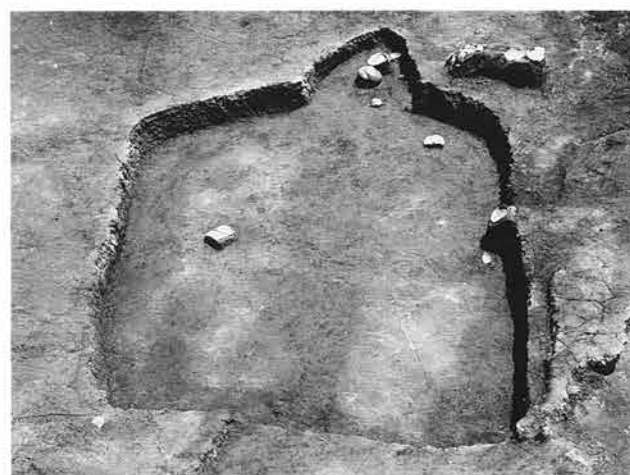
4 96号住居 竈



5 97号住居 全景



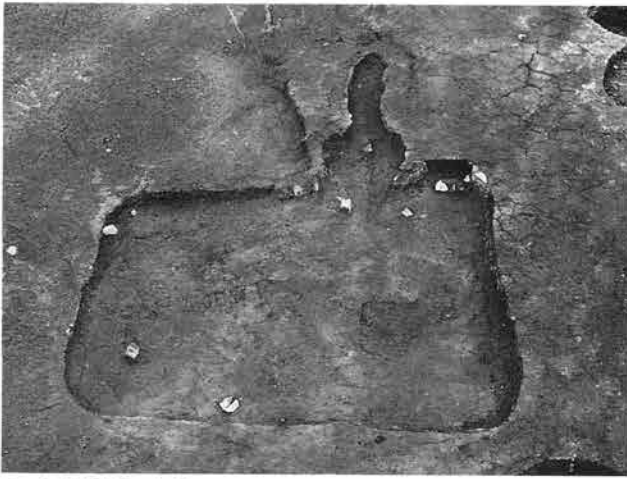
6 97号住居 竈



7 98号住居 全景



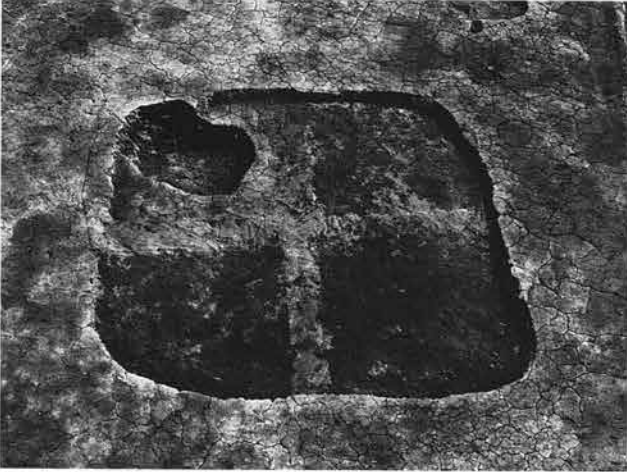
8 98号住居 竈



1 99号住居 全景



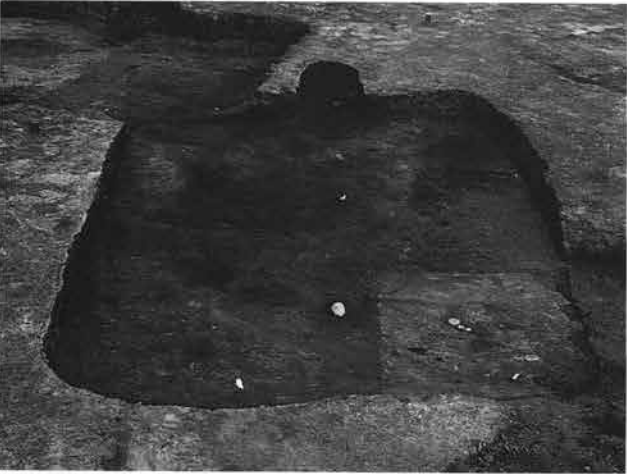
2 99号住居 竈



3 100号住居 全景



4 101号住居 全景



5 102号住居 全景



6 102号住居 竈



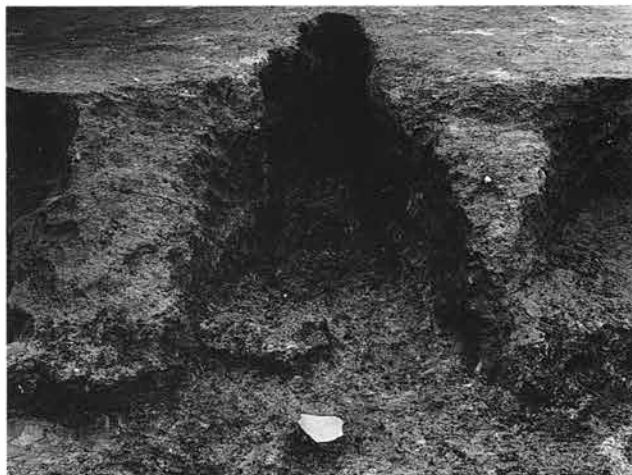
7 103号住居 全景



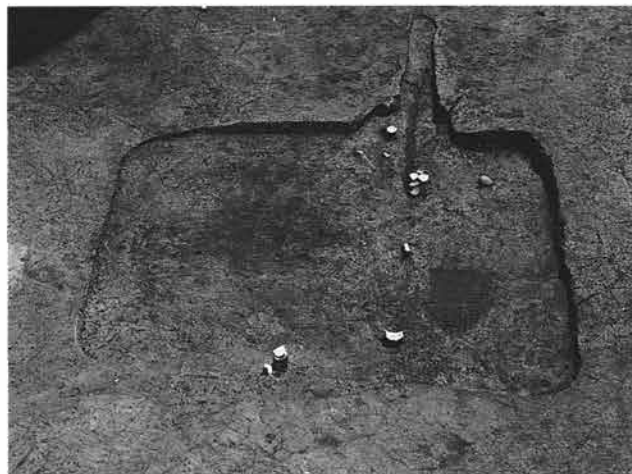
8 103号住居 竈



1 104号住居 全景



2 104号住居 竈



3 105号住居 全景



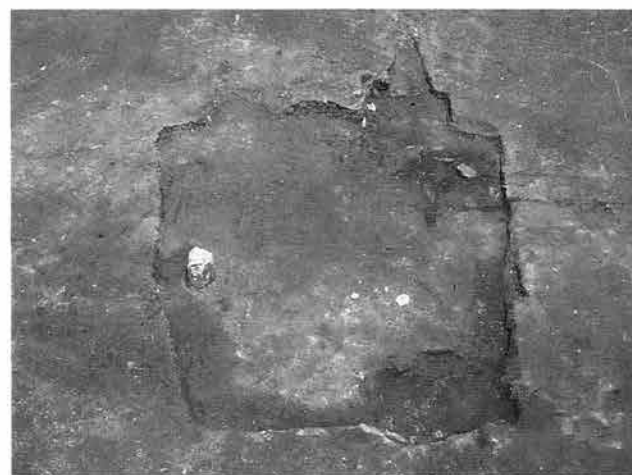
4 105号住居 竈



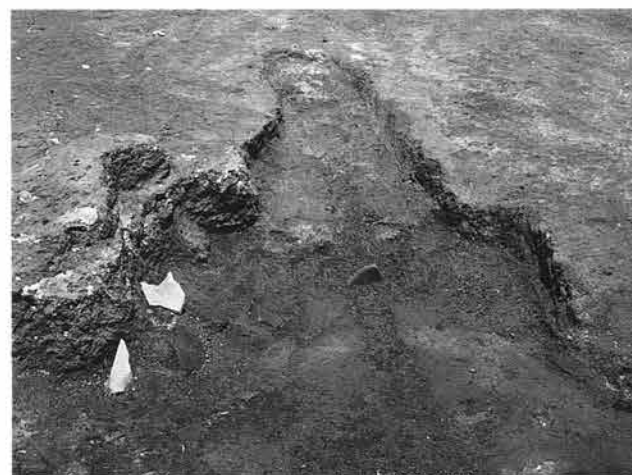
5 106・108号住居 全景



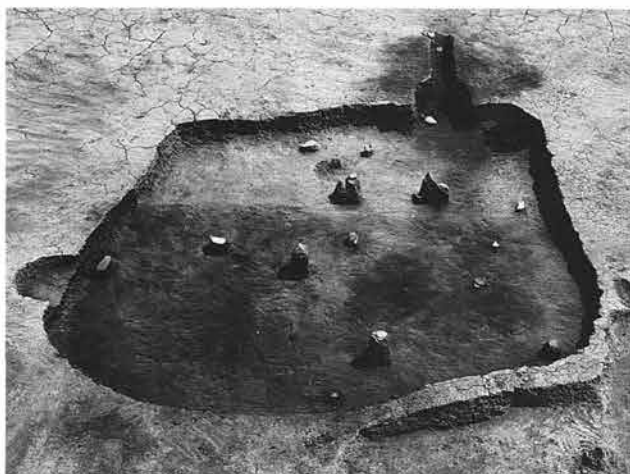
6 106・108号住居 全景



7 107号住居 全景



8 107号住居 竈



1 109号住居 全景



2 109号住居 竈



3 110号住居 全景



4 110号住居 竈



5 111号住居 全景



6 111号住居 竈



7 112号住居 全景



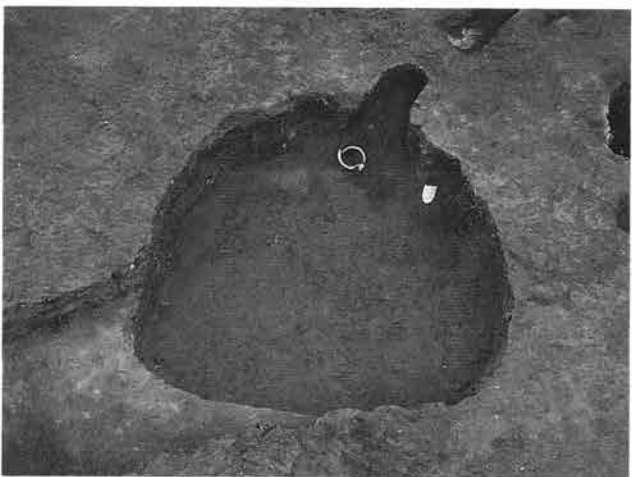
8 112号住居 遺物



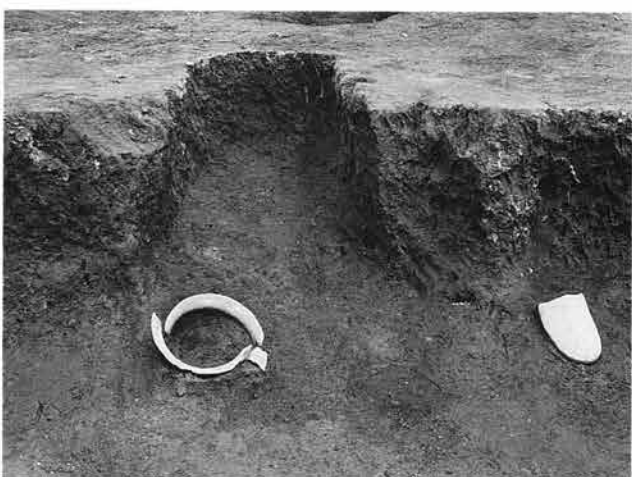
1 113・114号住居 全景



2 114号住居 竈



3 115号住居 全景



4 115号住居 竈



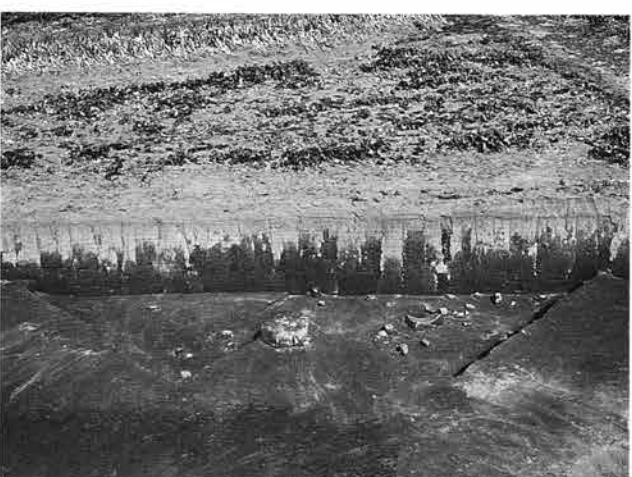
5 116号住居 全景



6 116号住居 竈



7 117号住居 全景



8 118・121号住居 全景



1 119号住居 全景



2 119号住居 竈



3 122号住居 全景



4 123号住居 全景



5 123号住居 竈



6 124号住居 全景



7 125号住居 全景



8 125号住居 竈



1 126号住居 全景



2 126号住居 竈



3 127号住居 全景



4 127号住居 竈



5 128号住居 全景



6 129号住居 全景



7 130号住居 全景



8 130号住居 竈





1 131号住居 全景



2 131号住居 竈



3 132号住居 全景



4 132号住居 竈



5 133号住居 全景



6 133号住居 竈



7 134号住居 全景



8 134号住居と135号住居の切り合い



1 135号住居 全景



2 135号住居 竈



3 136号住居 全景



4 137・138号住居 全景



5 137号住居 竈



6 138号住居 竈



7 139・141号住居 全景



8 139号住居 竈



1 140号住居 全景



2 140号住居 竈



3 141号住居 竈



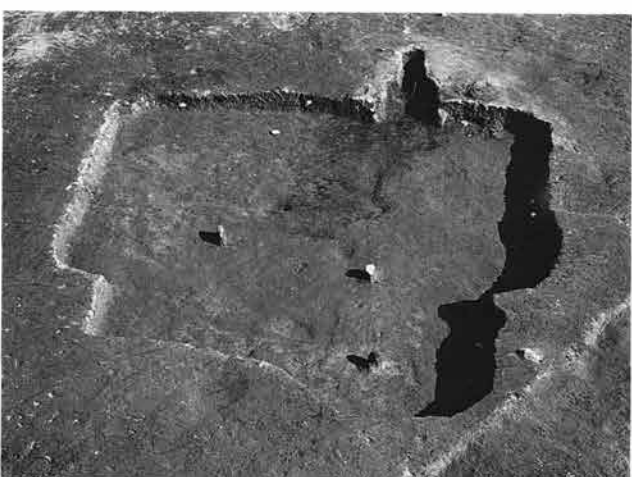
4 142号住居 全景



5 142号住居 竈



6 143号住居 全景



7 144・145号住居 全景



8 144号住居 竈



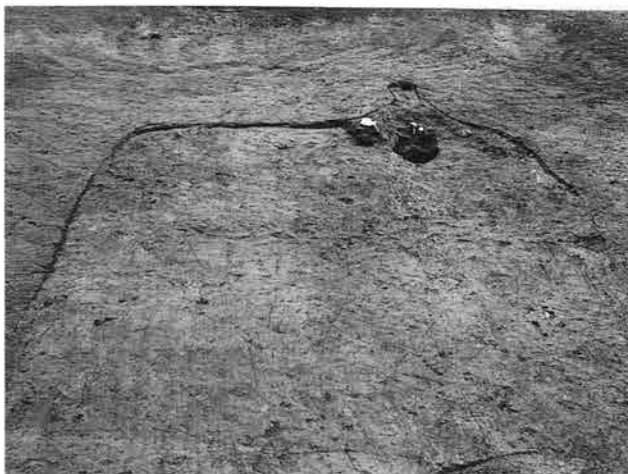
1 146・147号住居 全景



2 146号住居 竈



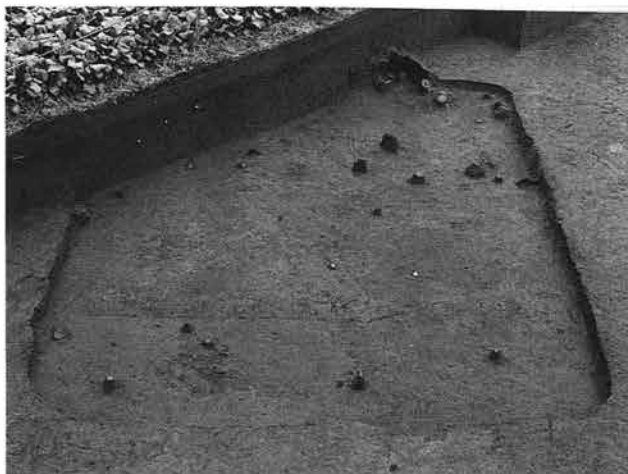
3 147号住居 竈



4 148号住居 全景



5 148号住居 竈



6 149号住居 全景



7 149号住居 竈



8 150号住居 全景



1 151号住居 全景



2 152号住居 全景



3 153号住居 全景



4 154号住居 全景



5 155・156号住居 全景



6 155号住居 竈



7 157号住居 全景



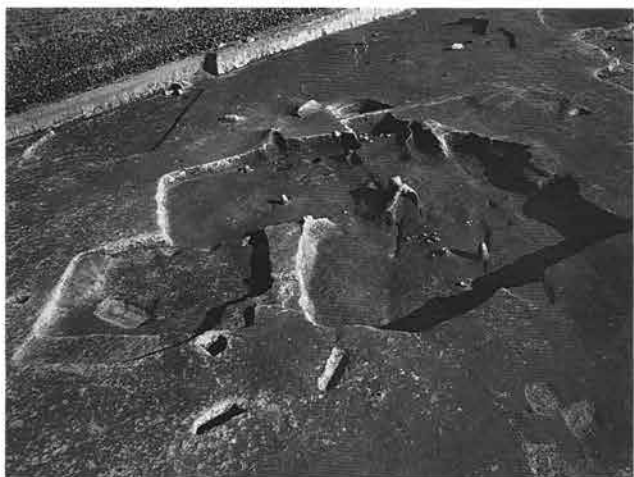
8 157号住居 竈



1 158号住居 全景



2 158号住居 竈



3 159・160・161号住居 全景



4 159号住居 竈



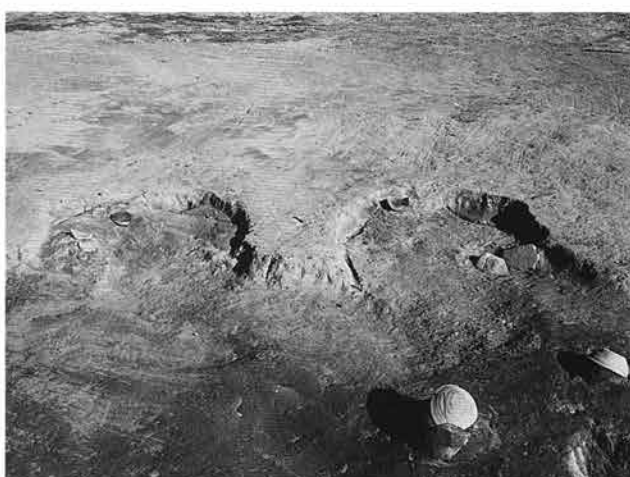
5 160号住居 竈



6 162号住居 全景



7 163号住居 全景



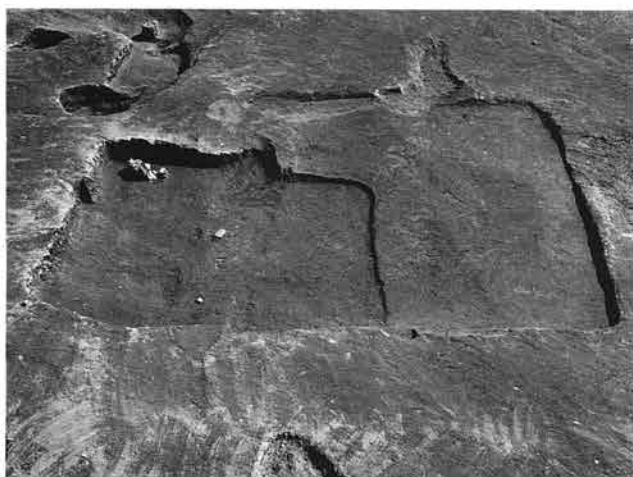
8 163号住居 竈



1 164号住居 全景



2 164号住居 竈



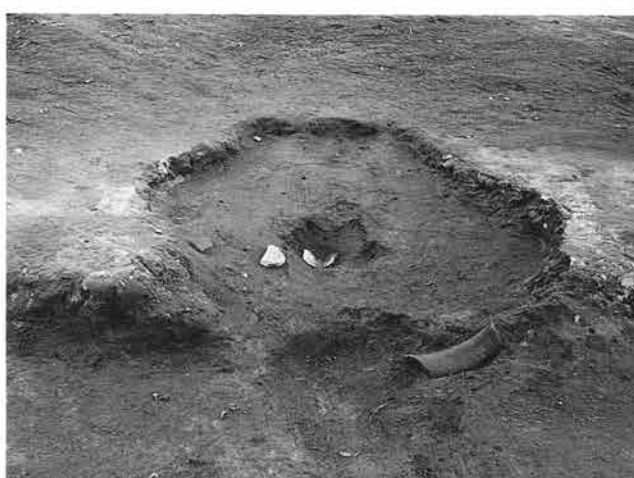
3 165・166号住居 全景



4 166号住居 竈



5 167号住居 全景



6 167号住居 竈



7 168号住居 全景



8 168号住居 竈



1 170号住居 全景



2 170号住居 竈



3 171号住居 全景



4 171号住居 竈



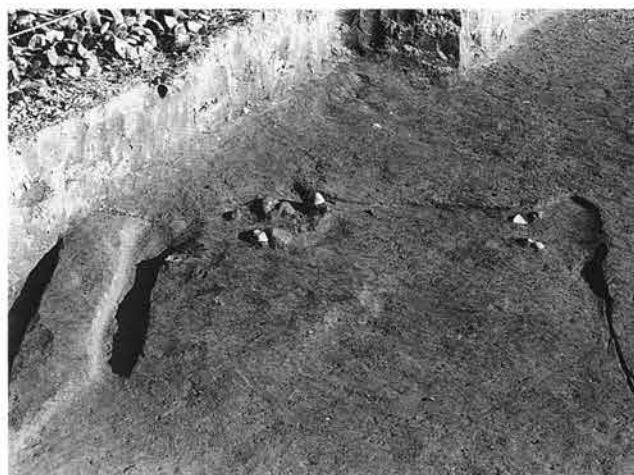
5 172・173号住居 全景



6 172号住居 竈



7 173号住居 竈



8 174号住居 全景





1 175号住居 全景



2 175号住居内 覆土



3 176・177号住居 全景



4 178・179・180号住居 全景



5 178号住居 竈



6 181号住居 全景



7 181号住居 竈



1 182・184・185号住居 全景



2 182号住居 竈



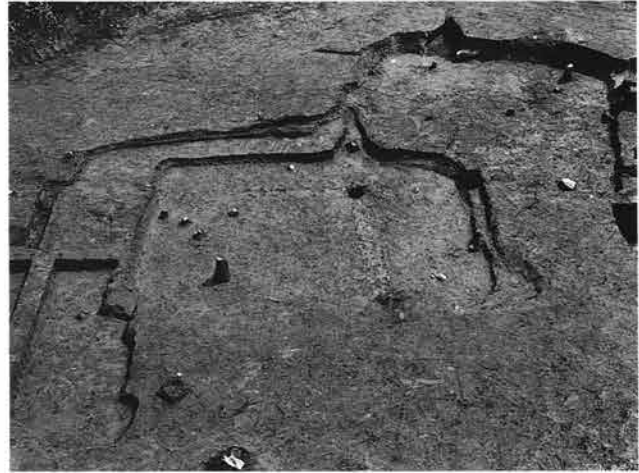
3 183号住居 全景



4 183号住居 竈



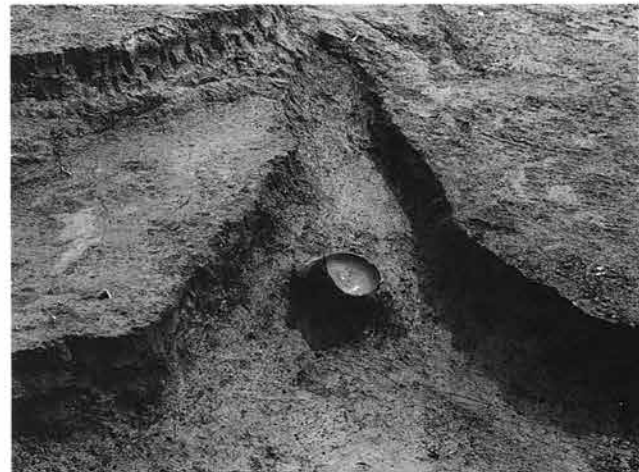
5 185号住居 竈



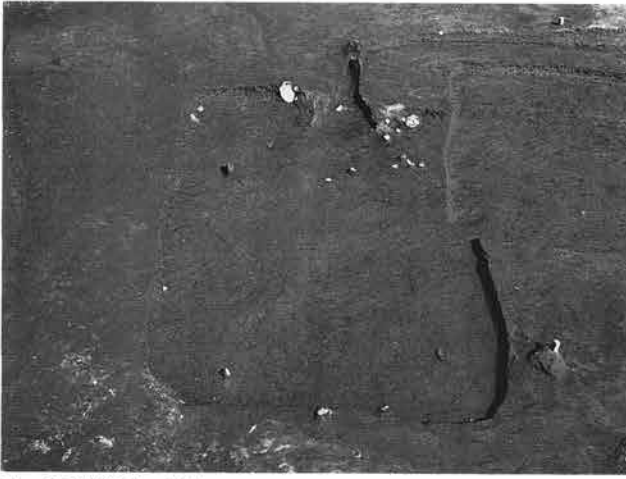
6 186・187・188号住居 全景



7 186号住居 竈



8 187号住居 竈



1 189号住居 全景



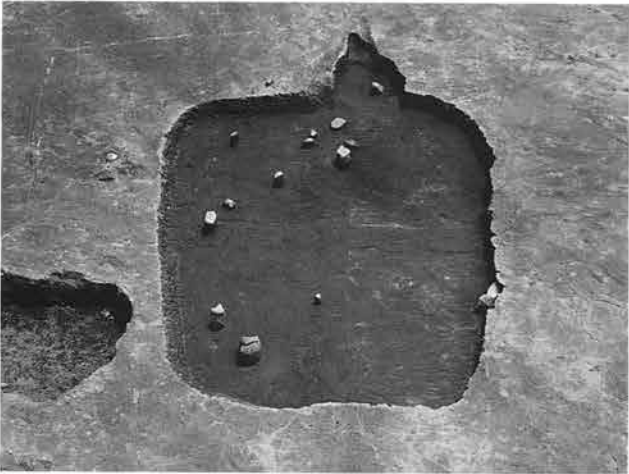
2 189号住居 竈



3 190号住居 全景



4 190号住居 竈



5 191号住居 全景



6 191号住居 竈



7 192号住居 全景



8 192号住居 竈



1 193号住居 竈



2 194号住居 全景



3 194号住居 竈



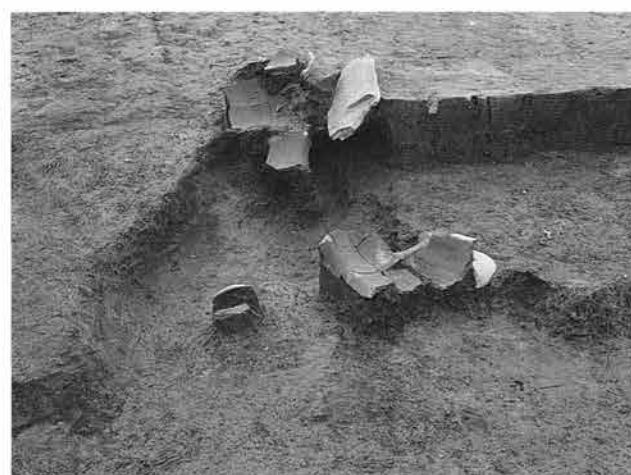
4 195・196号住居 全景



5 196号住居 竈



6 197号住居 全景



7 197号住居 竈



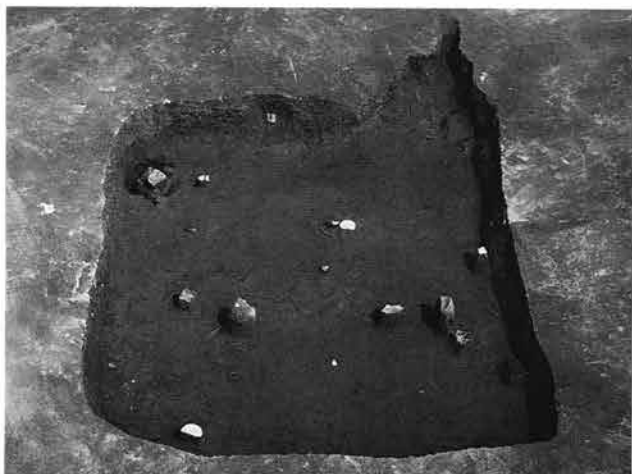
8 198・199号住居 全景



1 200号住居 全景



2 200号住居 竈



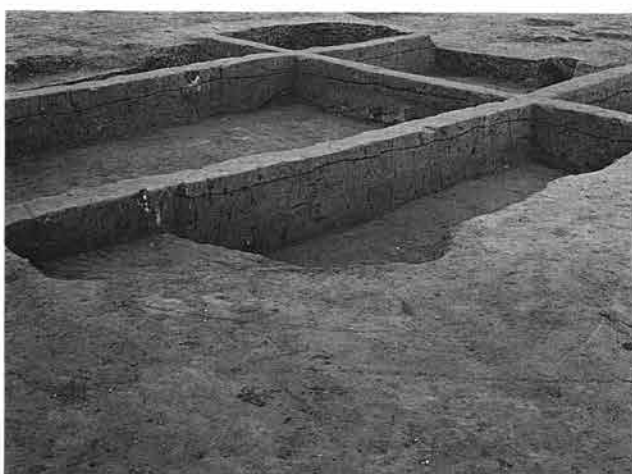
3 201号住居 全景



4 201号住居 竈



5 202・203号住居 全景



6 133号住居内 覆土



7 202号住居 竈



8 203号住居 竈



1 1号掘立柱建物 東より



2 2号掘立柱建物 遠景 西より



3 2号掘立柱建物 近景 南より



4 3号掘立柱建物 南より



5 4号掘立柱建物 南より



6 5号掘立柱建物 南より



7 6・8・9・10号掘立柱建物 遠景 南より



8 6号掘立柱建物 南より



1 7号掘立柱建物 南より



2 8号掘立柱建物 西より



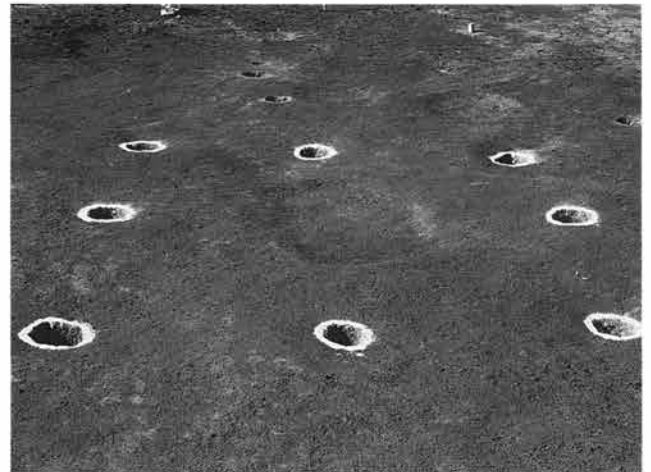
3 9号掘立柱建物7号溝 西より



4 10号掘立柱建物 南より



5 11号掘立柱建物 北より



6 12号掘立柱建物 東より



7 13号掘立柱建物 北より



8 14号掘立柱建物 西より



1 1号溝 西より



2 1号溝 西より



3 2号溝 南より



4 2号溝 土層断面



5 4・5・6号溝 北西より



6 4号溝 西より



7 5号溝 西より



8 8号溝 北より





1 4号土壙



2 5号土壙



3 6~11号土壙



4 13~15号土壙



5 39号土壙



6 40号土壙



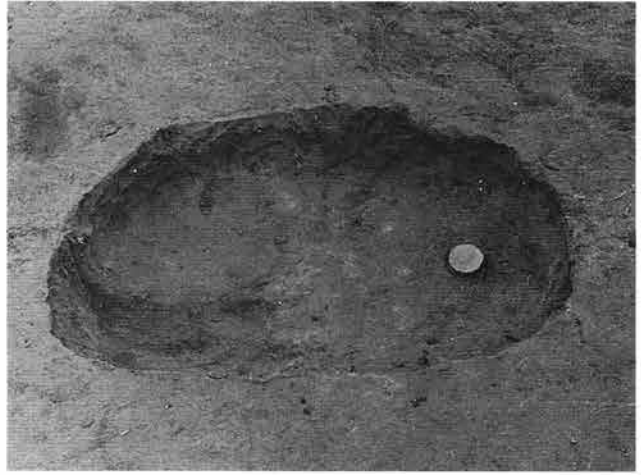
7 41号土壙



8 42号土壙



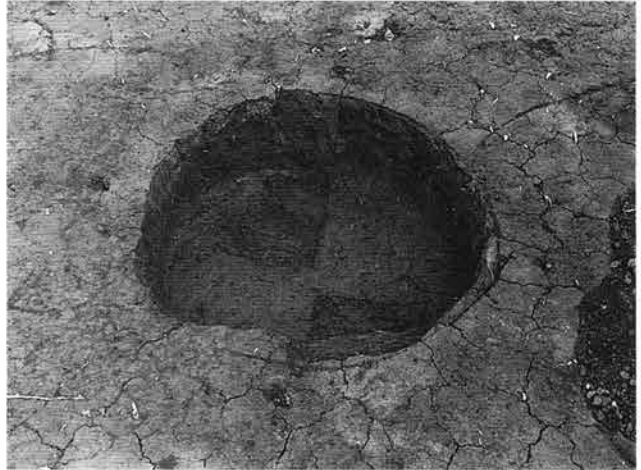
1 43号土壙



2 44号土壙



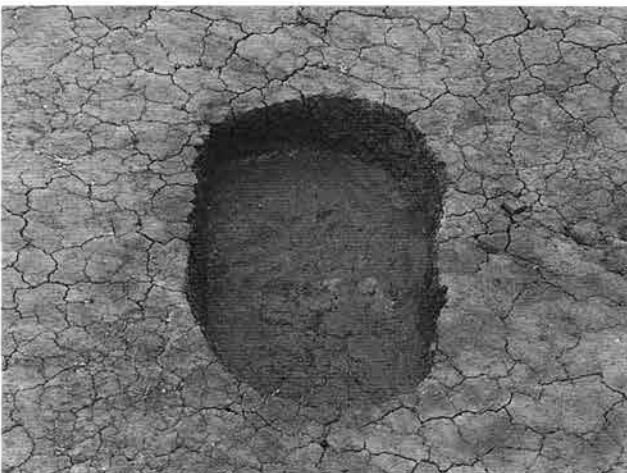
3 45・46号土壙



4 52号土壙



5 47~49. 53. 59. 61~63. 65号土壙



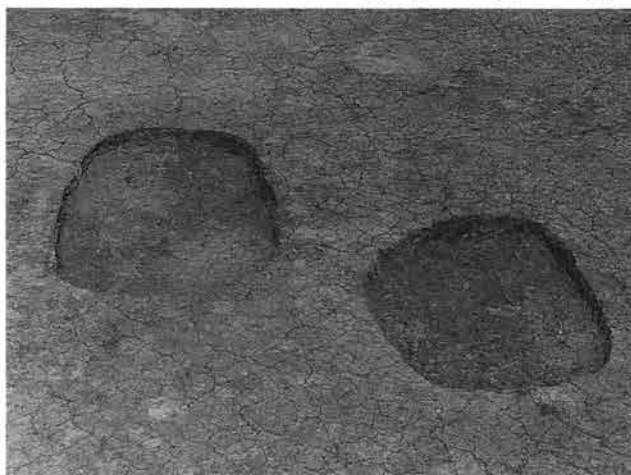
6 59号土壙



7 71号土壙



1 72~83号土壙



2 73・74号土壙



3 85号土壙



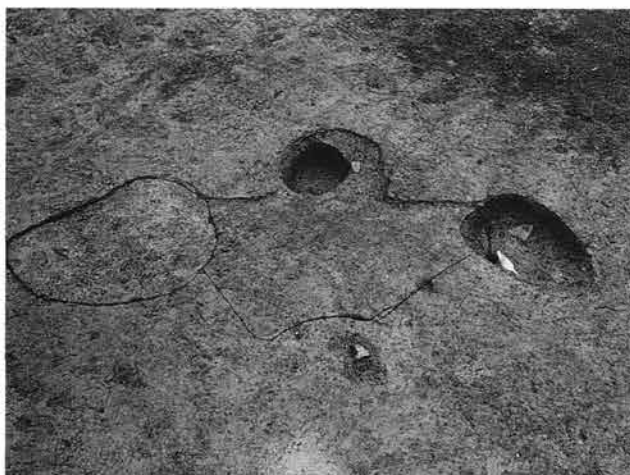
4 86号土壙



5 91 (A)・91 (B) 号土壙



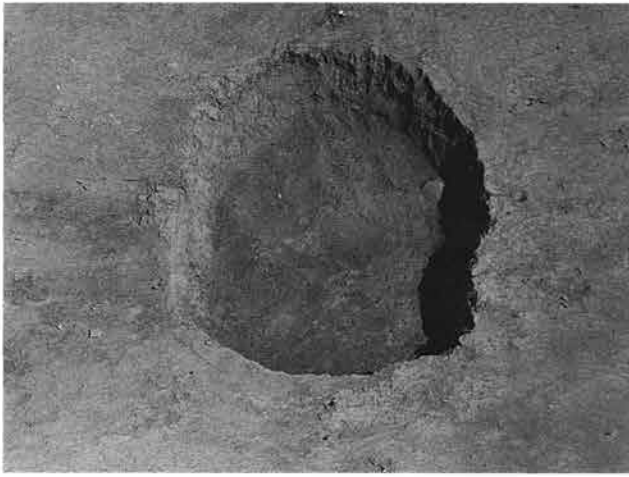
6 92号土壙



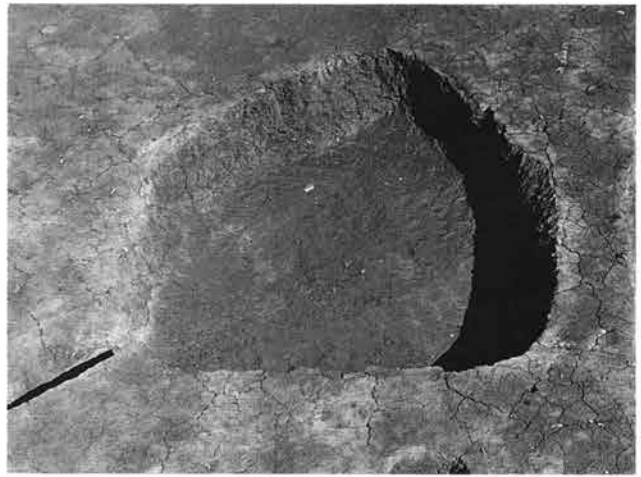
7 101 (B) 号土壙



8 147号土壙



1 149号土壙



2 154号土壙



3 155号土壙



4 157号土壙



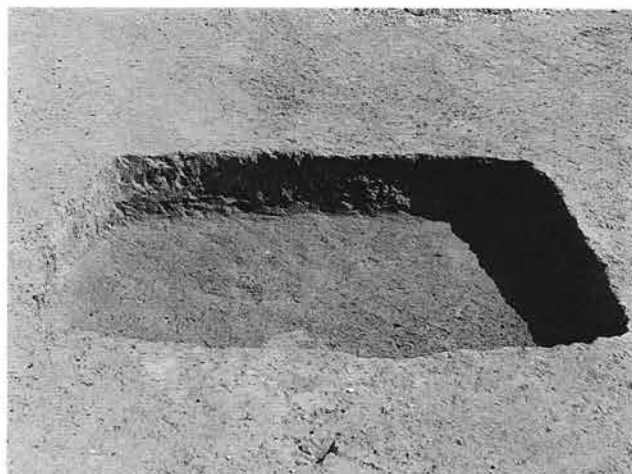
5 166(B)号土壙



6 172号土壙



7 168~171. 174~179. 181~184. 187~190号土壙



1 180号土壙



2 200号土壙



3 201号土壙



4 203号土壙



5 209号土壙



6 210号土壙



7 211号土壙



8 218号土壙



1 263·264·271·275·277·278号土壙



2 287号土壙



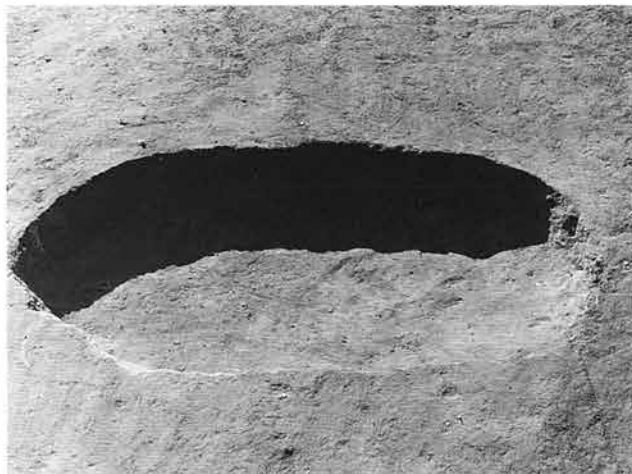
3 307号土壙



4 315·368号土壙



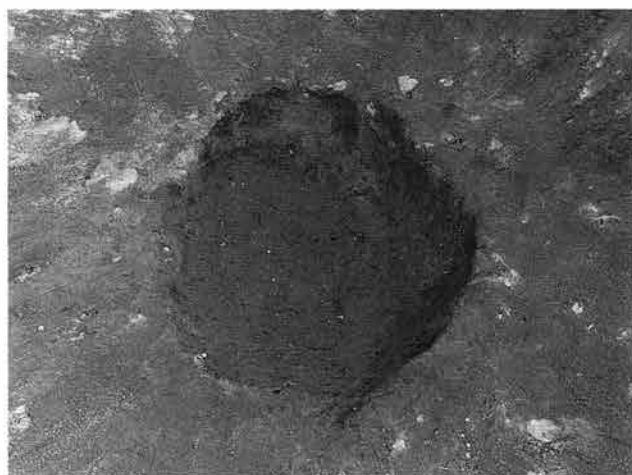
5 316号土壙



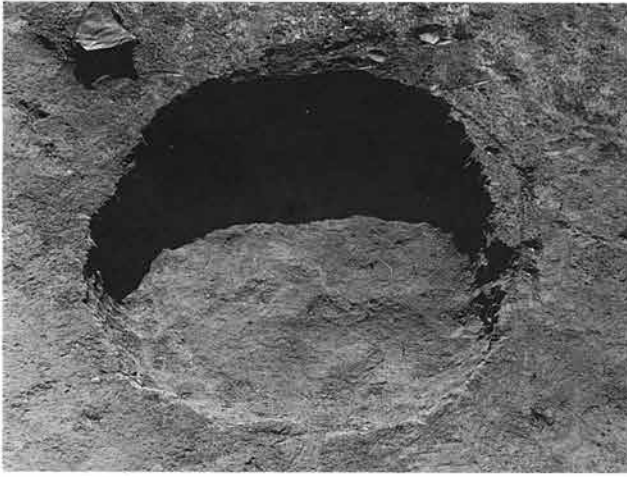
6 325号土壙



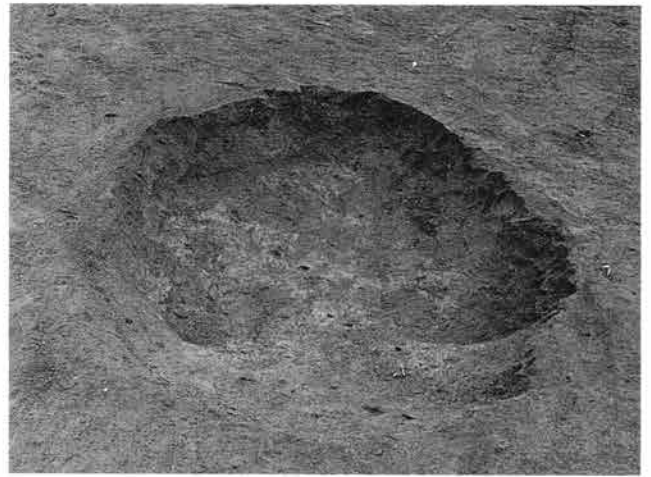
7 335·369号土壙



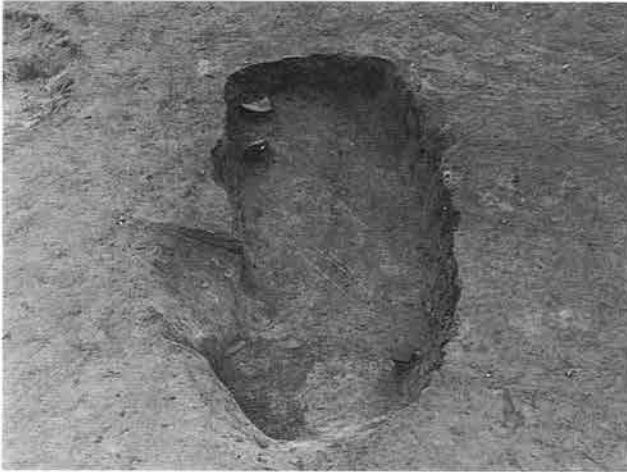
8 343号土壙



1 344号土壙



2 345号土壙



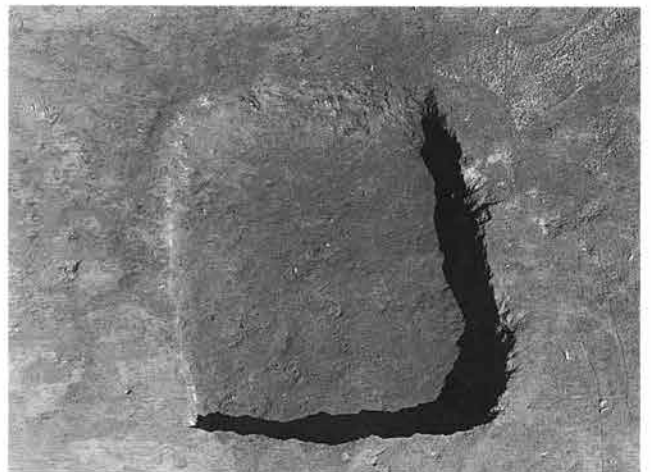
3 346号土壙



4 347号土壙



5 348号土壙



6 349号土壙



7 350号土壙



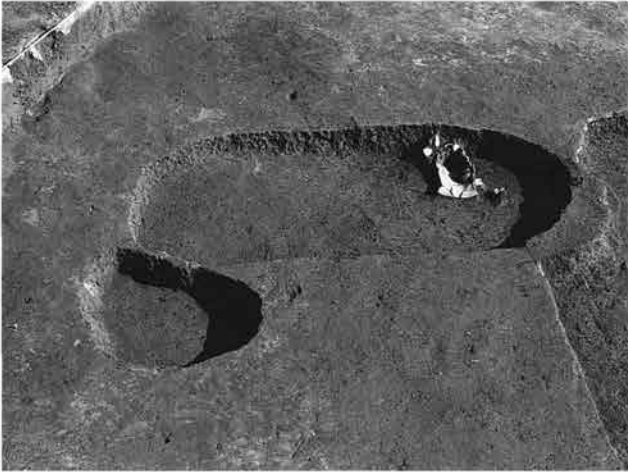
8 351号土壙



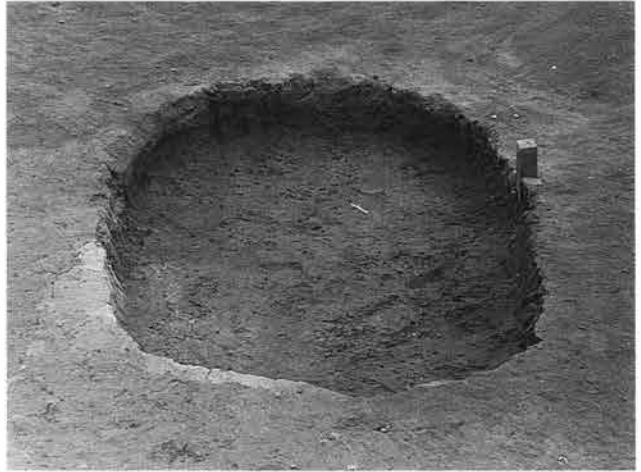
1 352号土壙



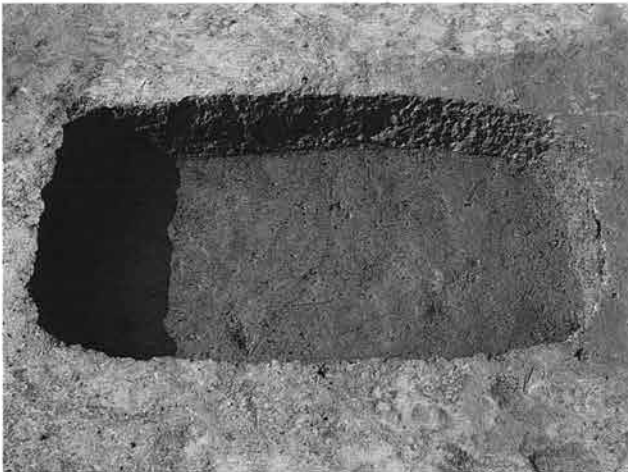
2 353号土壙



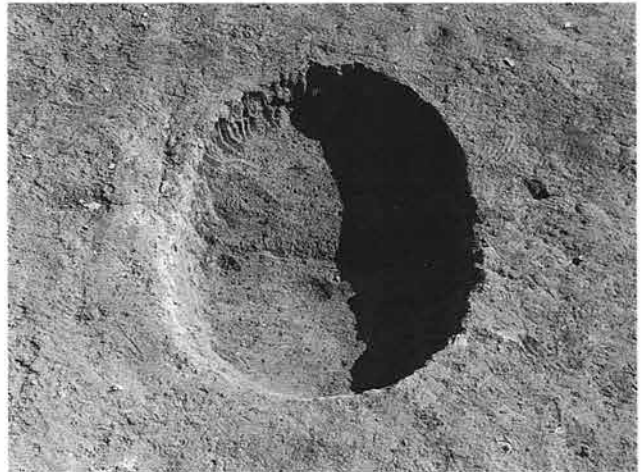
3 354・355号土壙



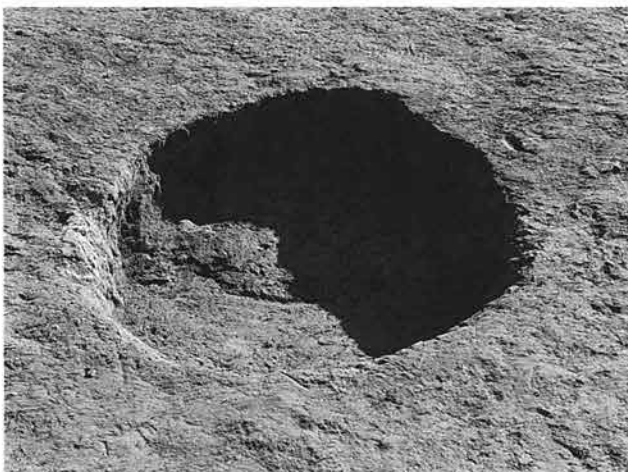
4 356号土壙



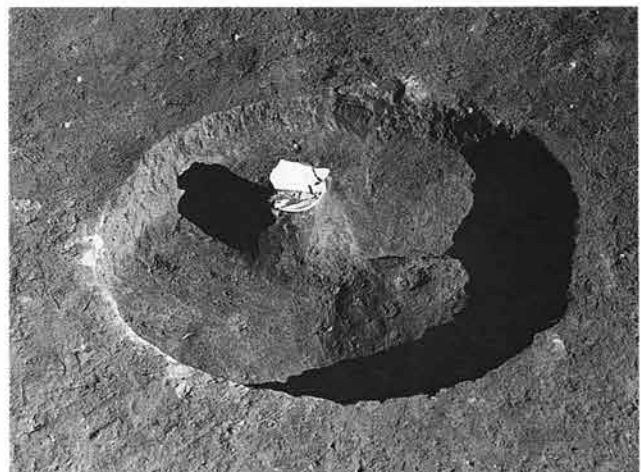
5 357号土壙



6 358号土壙



7 359号土壙



8 381号土壙





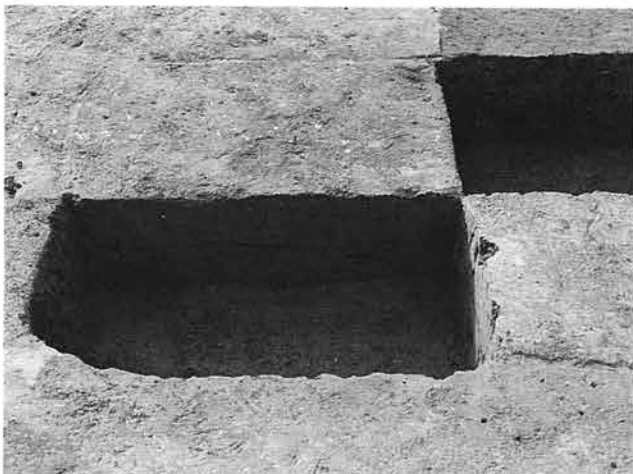
1 383·384号土壤



2 385号土壤



3 386号土壤



4 387号土壤



5 389号土壤



6 390号土壤



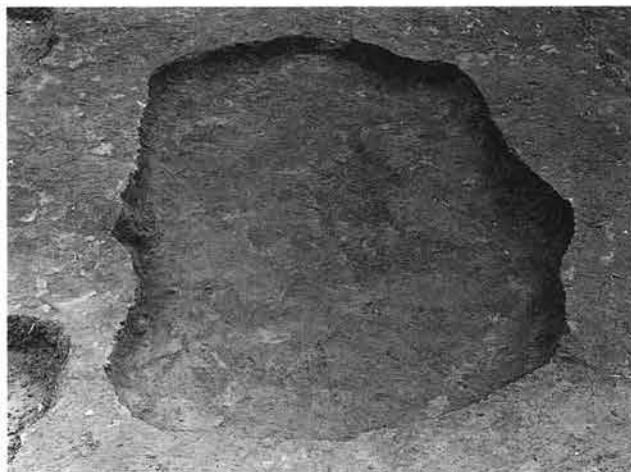
7 391号土壤



8 394号土壤



1 396号土壤



2 397号土壤



3 398号土壤



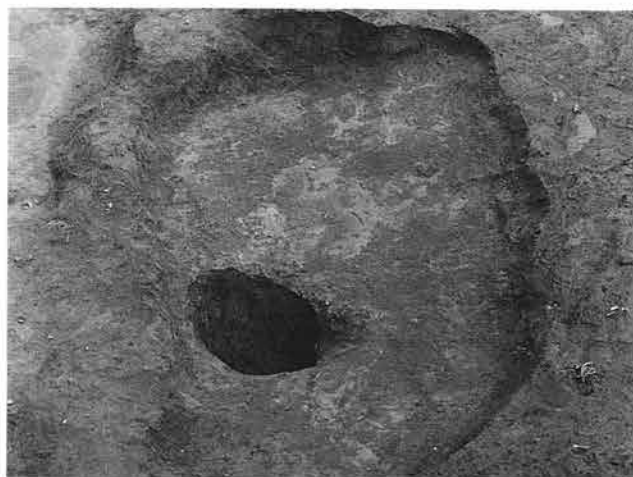
4 399·400号土壤



5 401号土壤



6 404号土壤



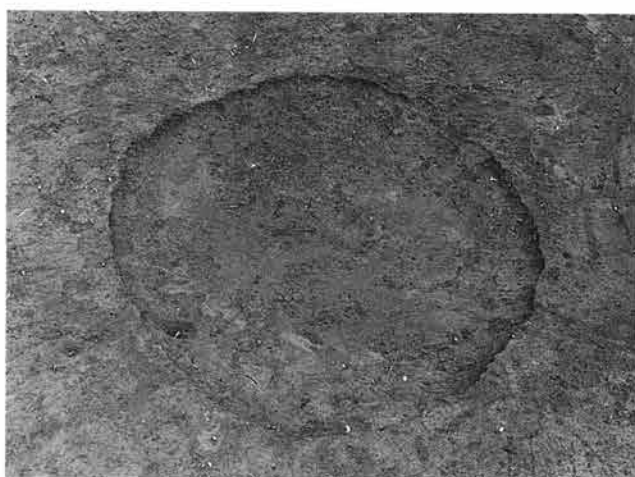
1 405号土壙



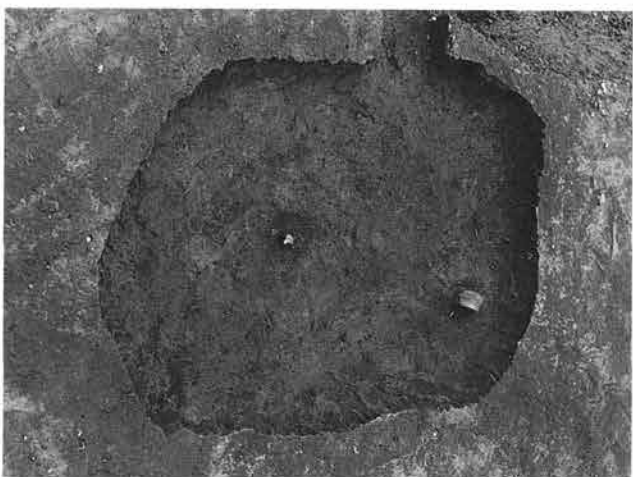
2 406・407号土壙



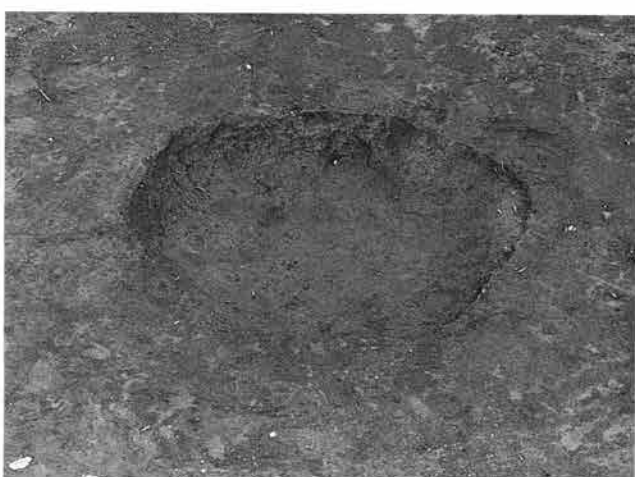
3 408号土壙



4 409号土壙



5 410号土壙



6 411号土壙



7 412号土壙



8 413号土壙



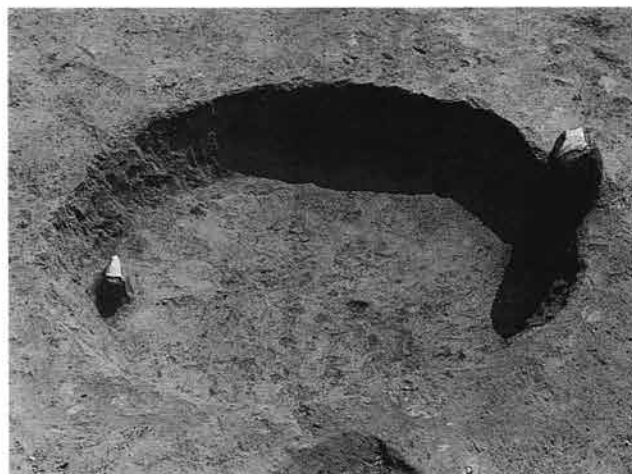
1 414号土坑



2 415号土坑



3 417~419号土坑



4 417号土坑



5 420号土坑



6 421号土坑



7 422号土坑



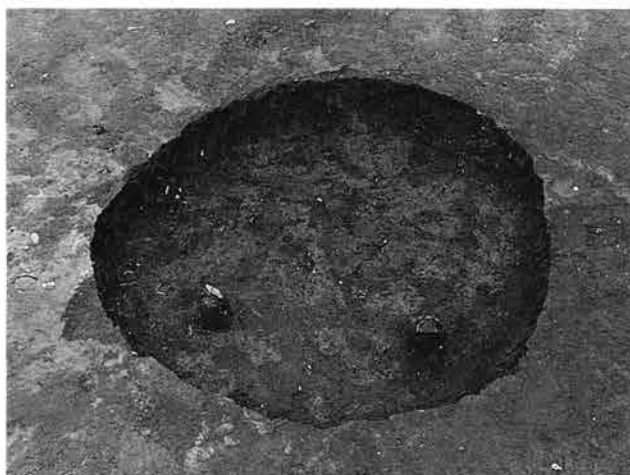
8 423号土坑



1 424号土壙



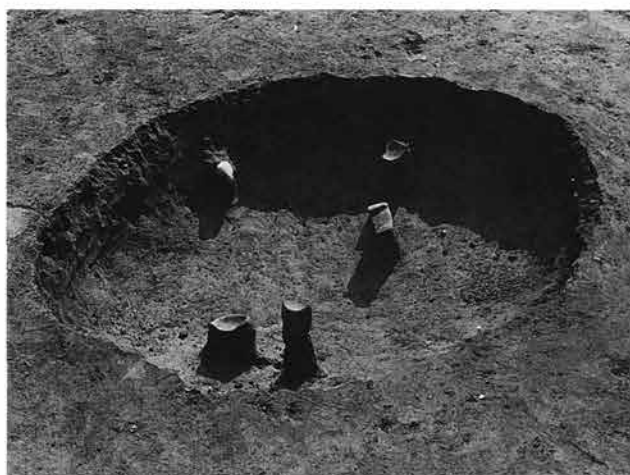
2 425号土壙



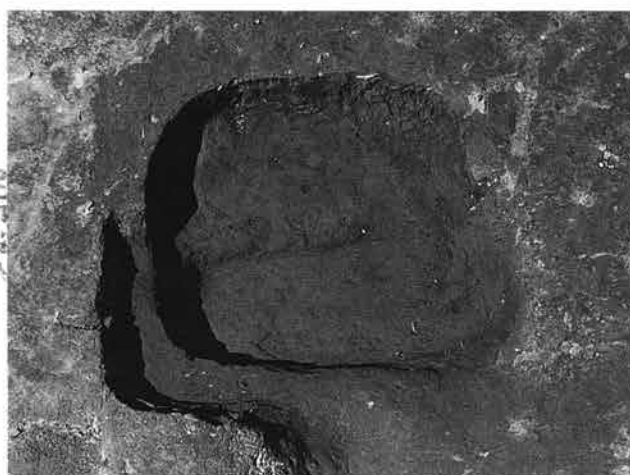
3 426号土壙



4 427号土壙



5 428号土壙



6 430号土壙



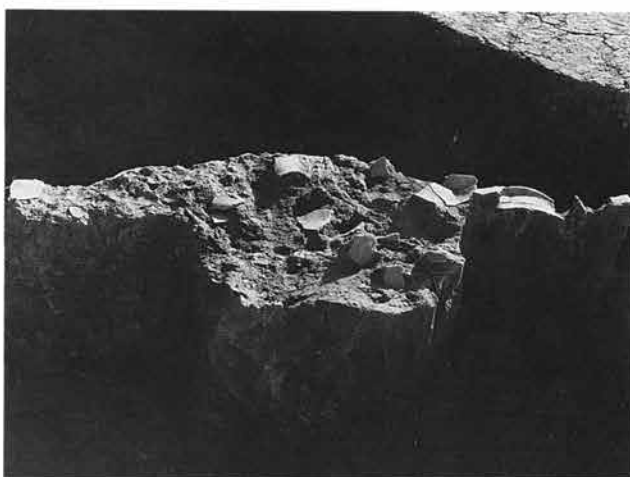
7 431号土壙



8 432号土壙



1 1号土器集積 遠景



2 1号土器集積 近景



3 2号土器集積 遠景



4 2号土器集積 近景



5 3号土器集積



6 3号土器集積



7 4号土器集積



8 5号土器集積



1 土師器 杯 0479 SB085 口径約11cm



2 須恵器 椀 0480 SB085 口径約11cm



3 須恵器 杯 0484 SB086 口径約12cm



4 須恵器 高台杯 0486 SB086 口径約14cm



5 須恵器 足高椀 0487 SB086 口径約14cm



6 須恵器 高台杯 0488 SB086 口径約14cm



7 土師器 丸甕 0494 SB086 口径約21cm



8 須恵器 杯 0497 SB087 口径約13cm



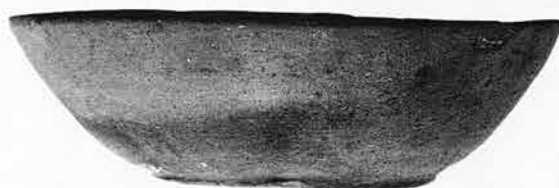
1 須恵器 高台杯 0498 SB087 口径約14cm



2 須恵器 高台杯 0500 SB087 口径約13cm



3 須恵器 杯 0513 SB090 口径約14cm



4 須恵器 椀 0514 SB090 口径約12cm



5 土師器 椀 0524 SB092 口径約12cm



6 土師器 椀 0530 SB092 口径約14cm

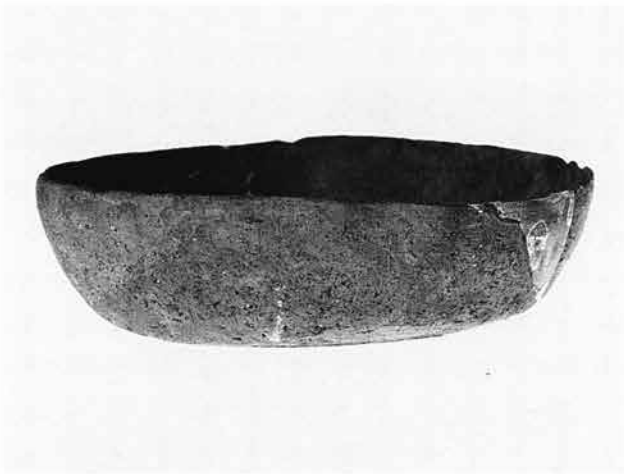


7 土師器 椀 0535 SB092 口径約14cm

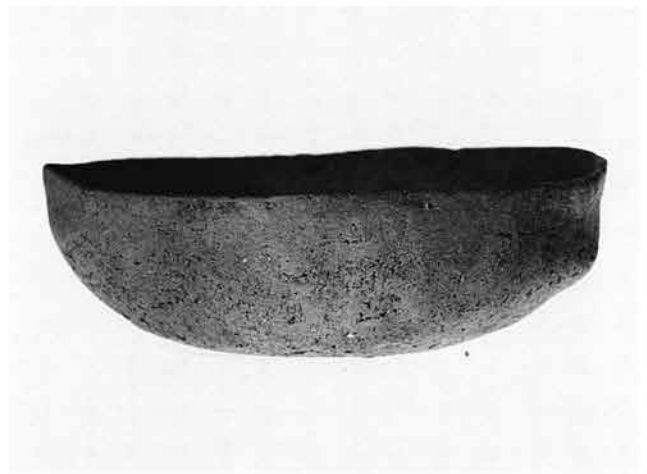


8 土師器 椀 0546 SB094 口径約13cm

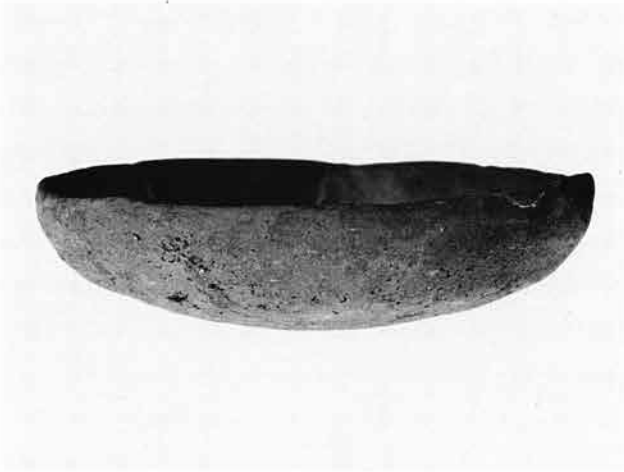




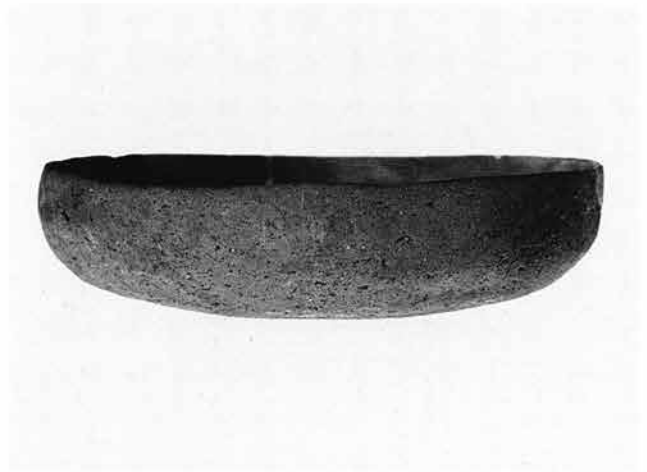
1 土師器 椀 0547 SB094 口径約13cm



2 土師器 椀 0548 SB094 口径約12cm



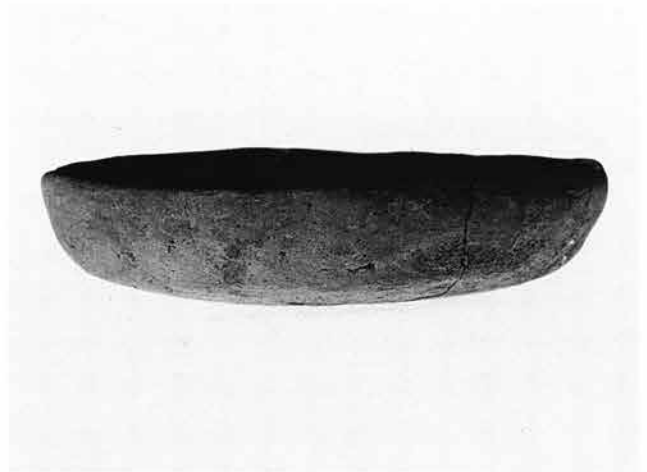
3 土師器 椀 0549 SB094 口径約12cm



4 土師器 椀 0550 SB094 口径約12cm



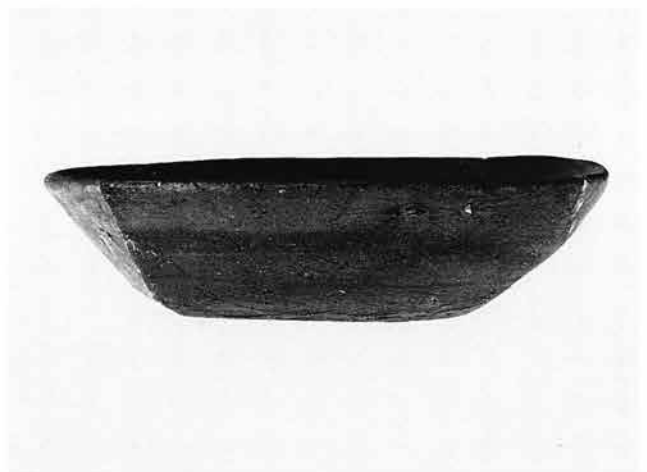
5 土師器 椀 0552 SB094 口径約13cm



6 土師器 椀 0553 SB094 口径約13cm



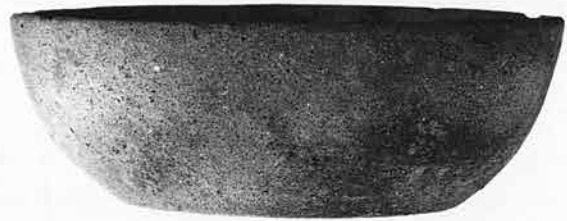
7 須恵器 蓋 0555 SB094 口径約17cm



8 須恵器 椀 0559 SB094 口径約14cm



1 須惠器 杯 0560 SB094 口径約13cm



2 須惠器 杯 0561 SB094 口径約11cm



3 土師器 丸甕 0566 SB094 口径約14cm



4 土師器 椀 0580 SB098 口径約13cm



5 土師器 椀 0581 SB098 口径約13cm



6 須惠器 杯 0582 SB098 口径約14cm



7 須惠器 杯 0583 SB098 口径約13cm



8 須惠器 高台杯 0586 SB099 口径約18cm



1 土師器 椀 0607 SB104 口径約12cm



2 土師器 長甕 0624 SB105 口径約13cm



3 須恵器 高台杯 0652 SB112 口径約15cm



4 須恵器 高台杯 0653 SB112 口径約15cm



5 須恵器 杯 0670 SB115 口径約14cm



6 須恵器 椀 0676 SB117 口径約10cm



7 須恵器 高台杯 0677 SB117 口径約12cm



8 土師器 長甕 0679 SB117 口径約13cm



1 須惠器 杯 0687 SB118 口径約14cm



2 須惠器 羽釜 0707 SB124 口径約25cm



3 須惠器 高台杯 0734 SB129 口径約17cm



4 土師器 椀 0742 SB130 口径約14cm



5 土師器 椀 0746 SB130 口径約13cm



6 土師器 椀 0786 SB135 口径約15cm



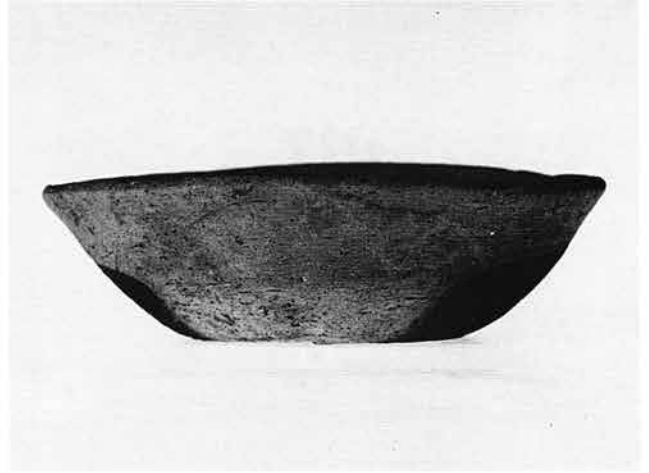
7 須惠器 椀 0810 SB137 口径約12cm



8 内黒土器 杯 0819 SB138 口径約16cm



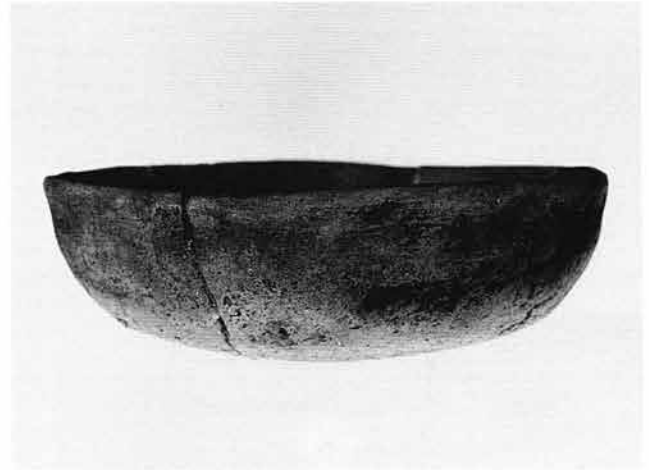
1 土師器 杯 0823 SB139 口径約10cm



2 須恵器 椀 0827 SB139 口径約10cm



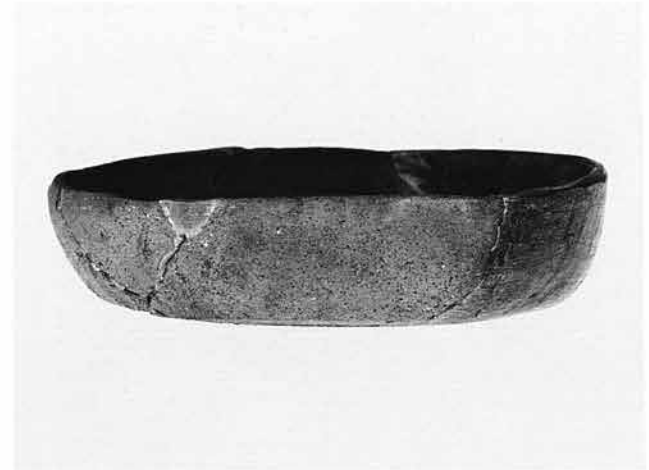
3 須恵器 高台杯 0828 SB139 口径約12cm



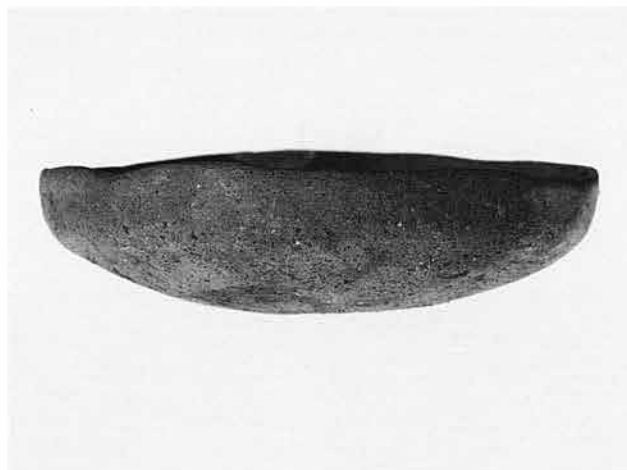
4 土師器 椀 0834 SB140 口径約13cm



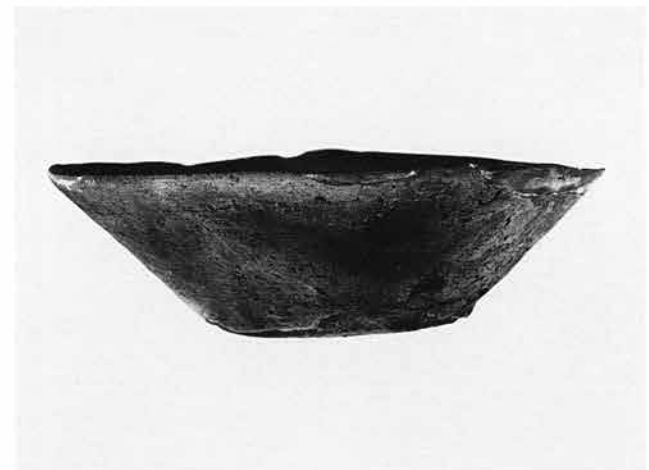
5 土師器 丸甕(台付) 0847 SB140 口径約13cm



6 土師器 椀 0885 SB144 口径約12cm



7 土師器 椀 0887 SB144 口径約14cm



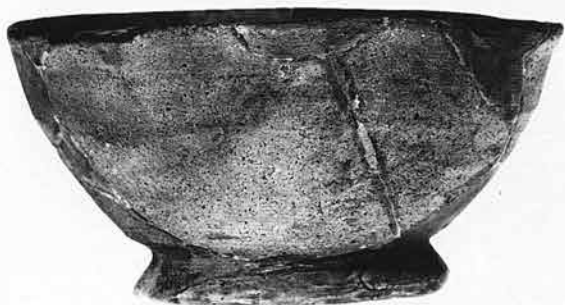
8 土師器 高台杯 0889 SB144 口径約13cm



1 須恵器 高台杯 0892 SB144 口径約13cm



2 土師器 長甕 0903 SB146 器高28cm



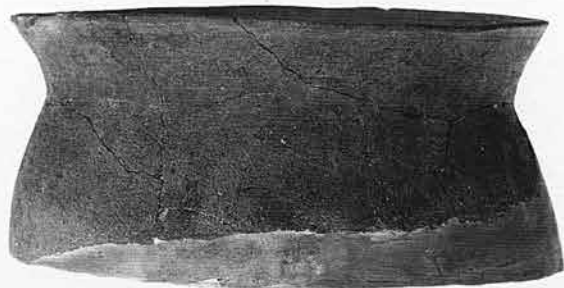
3 須恵器 高台杯 0906 SB147 口径約14cm



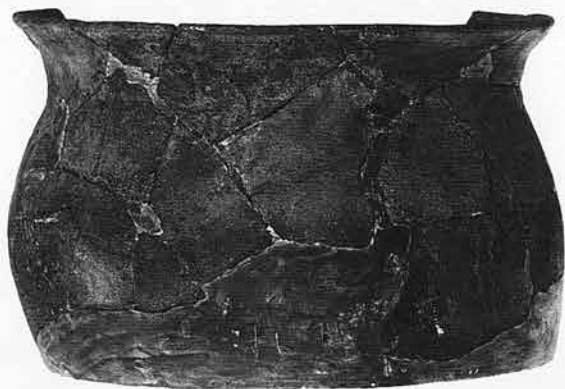
4 須恵器 椀 0920 SB149 口径約10cm



5 土師器 長甕 0927 SB149 器高約27cm



6 土師器 長甕 0946 SB156 口径約20cm



7 土師器 長甕 0952 SB157 口径約23cm



8 土師器 椀 0968 SB159 口径約15cm



1 土師器 丸甕 0999 SB162 口径約20cm



2 須恵器 椀 1003 SB163 口径約12cm



3 土師器 椀 1015 SB165 口径約12cm



4 土師器 杯 1020 SB166 口径約16cm



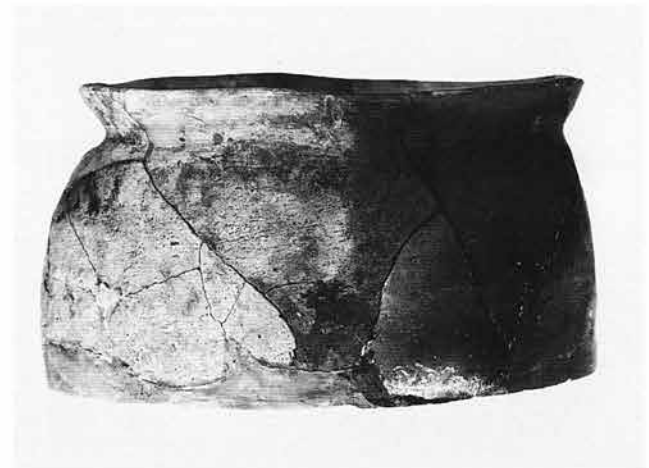
5 土師器 高台杯 1021 SB166 口径約14cm



6 土師器 丸甕(台付) 1024 SB166 口径約14cm



7 須恵器 蓋 1026 SB167 口径約24cm



8 土師器 長甕 1036 SB170 口径約20cm



1 須惠器 蓋 1053 SB171 口径約12cm



2 土師器 椀 1057 SB172 口径約13cm



3 土師器 椀 1058 SB172 口径約13cm



4 土師器 椀 1065 SB173 口径約13cm



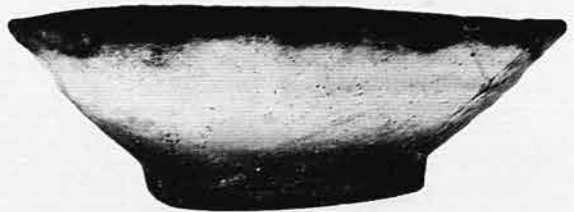
5 須惠器 椀 1067 SB174 口径約16cm



6 須惠器 椀 1078 SB176 口径約10cm



7 須惠器 椀 1081 SB176 口径約11cm



8 須惠器 高台杯 1089 SB176 口径約13cm





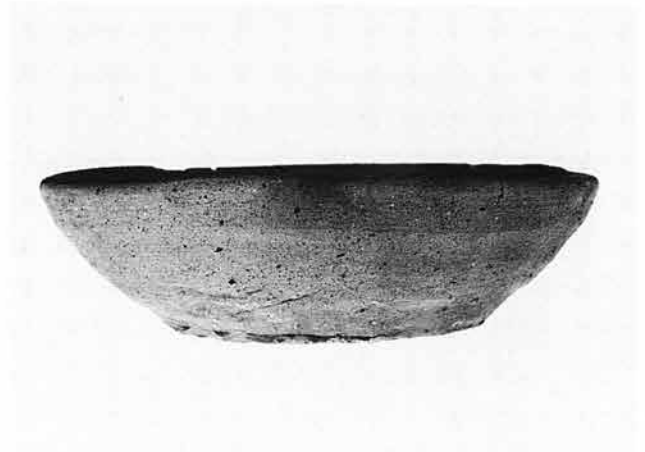
1 須恵器 高台杯 1124 SB178 口径約10cm



2 内黒土器 高台椀 1134 SB178 口径約12cm



3 須恵器 椀 1147 SB179 口径約10cm



4 須恵器 椀 1150 SB179 口径約12cm



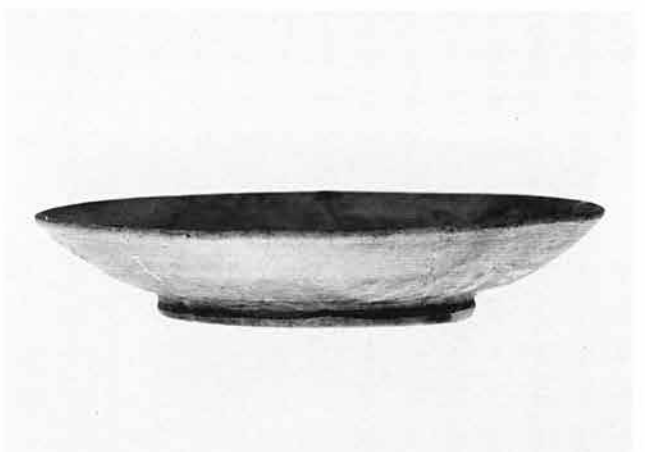
5 須恵器 高台杯 1180 SB181 口径約11cm



6 須恵器 高台杯 1182 SB181 口径約13cm



7 内黒土器 高台椀 1188 SB181 口径約13cm



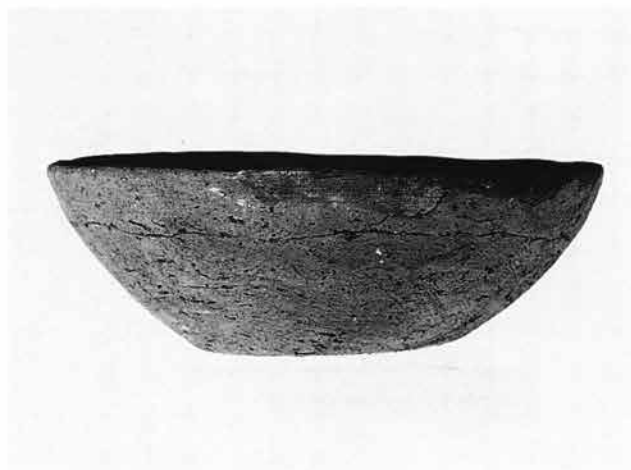
8 灰釉 皿 1191 SB181 口径約13cm



1 灰釉 輪花皿1192 SB181 口径約14cm



2 須恵器 椀 1206 SB182 口径約12cm



3 土師器 杯 1231 SB184 口径約11cm



4 須恵器 椀 1233 SB184 口径約11cm



5 須恵器 椀 1234 SB184 口径約10cm



6 須恵器 高台杯 1235 SB184 口径約12cm



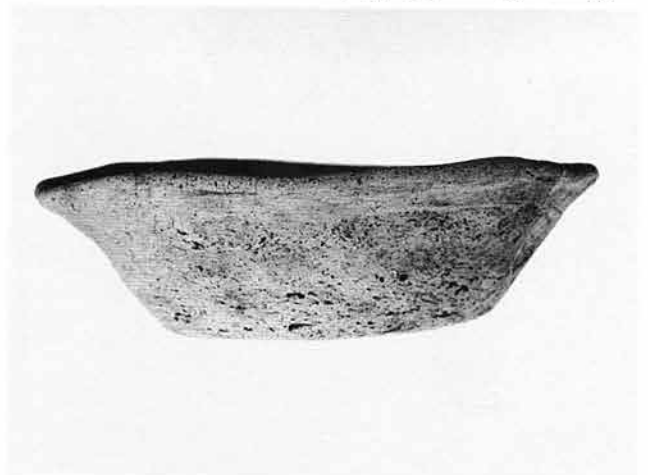
7 内黒土器 高台椀 1258 SB186 口径約14cm



8 須恵器 椀 1266 SB187 口径約11cm



1 須恵器 椀 1267 SB187 口径約13cm



2 土師器 杯 1285 SB189 口径約12cm



3 土師器 杯 1286 SB189 口径約12cm



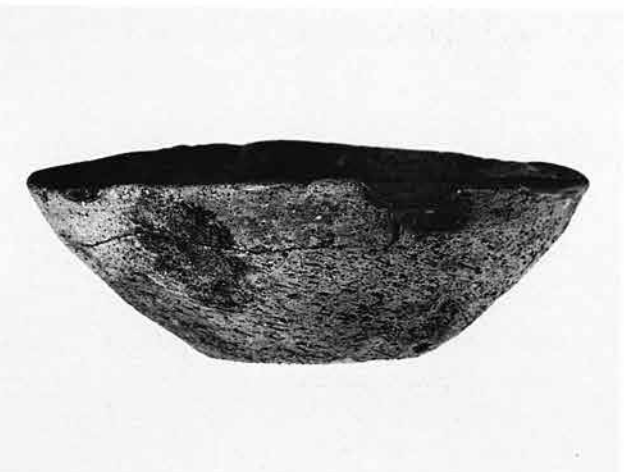
4 土師器 長甕 1303 SB190 口径約23cm



5 須恵器 椀 1306 SB191 底径約6cm



6 土師器 杯 1317 SB192 口径約10cm



7 土師器 杯 1318 SB192 口径約11cm



8 土師器 杯 1320 SB192 口径約11cm



1 須恵器 椀 1322 SB192 口径約11cm



2 須恵器 椀 1330 SB192 口径約11cm



3 須恵器 高台杯 1337 SB192 口径約12cm



4 須恵器 高台杯 1339 SB192 口径約13cm



5 須恵器 高台杯 1342 SB192 口径約13cm



6 須恵器 高台杯 1351 SB192 口径約12cm



7 須恵器 椀 1369 SB194 口径約11cm



8 須恵器 椀 1370 SB194 口径約11cm



1 須恵器 高台杯 1374 SB194 口径約14cm



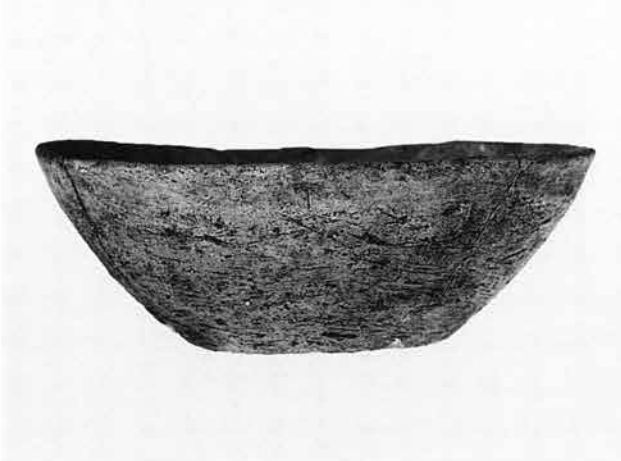
2 須恵器 高台杯 1376 SB194 口径約14cm



3 須恵器 高台杯 1377 SB194 口径約14cm



4 須恵器 足高椀 1378 SB194 口径約14cm



5 土師器 杯 1384 SB195 口径約10cm



6 須恵器 高台杯 1415 SB195 口径約12cm



7 須恵器 羽釜 1427 SB195 器高約33cm



8 須恵器 椀 1428 SB196 口径約10cm



1 土師器 杯 1442 SB197 口径約11cm



2 須恵器 杯 1444 SB197 口径約11cm



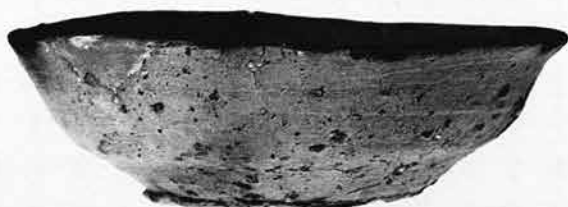
3 土師器 長甕 1452 SB197 口径約22cm



4 須恵器 椀 1455 SB199 口径約11cm



5 須恵器 椀 1457 SB199 口径約11cm



6 須恵器 椀 1458 SB199 口径約11cm



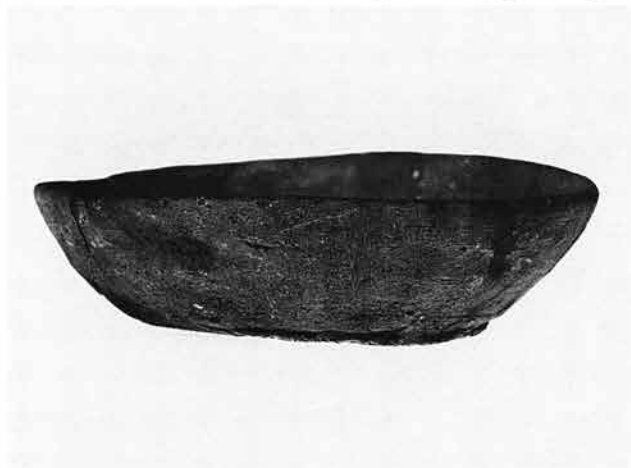
7 須恵器 椀 1459 SB199 口径約11cm



8 須恵器 椀 1461 SB199 口径約11cm



1 須恵器 足高椀 1463 SB199 口径約13cm



2 須恵器 椀 1464 SB199 口径約11cm



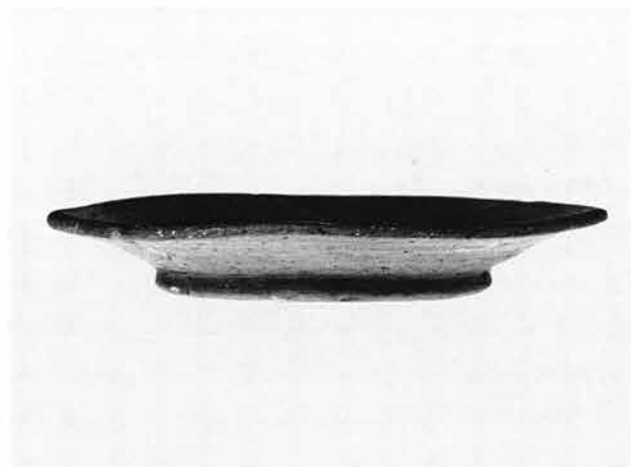
3 須恵器 高台杯 1467 SB199 口径約13cm



4 内黒土器 高台椀 1484 SB200 口径約13cm



5 灰釉 椀 1485 SB200 口径約12cm



6 灰釉 段皿 1488 SB200 口径約13cm



7 土師器 長甕 1494 SB201 口径約24cm



8 須恵器 足高椀 1511 SB203 底径約12cm



1 土師器 甕 1539 SD01 口径約17cm



2 土師器 樽系壺 1541 SD01 口径約11cm



3 土師器 壺 1542 SD01 器高33cm



4 土師器 杯 1544 SD03 口径約11cm



5 須恵器 高台杯 1551 SD08 口径約14cm



6 須恵器 高台杯 1557 SK004 口径約11cm



7 須恵器 高台杯 1559 SK004 口径約12cm



8 須恵器 足高椀 1563 SK004 口径約14cm





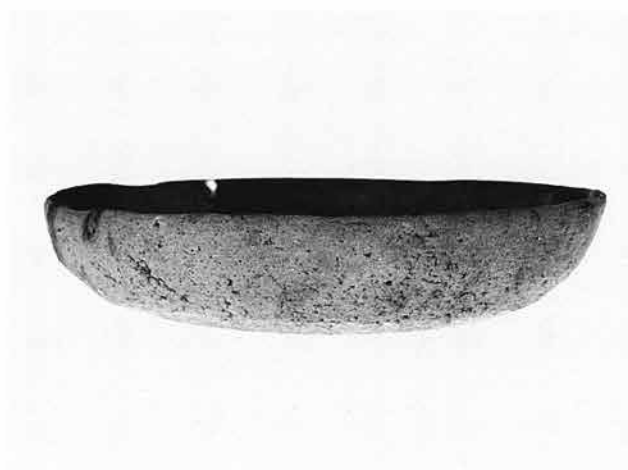
1 須恵器 高台杯 1576 SK086 口径約15cm



2 土師器 椀 1581 SK091 口径約13cm



3 土師器 椀 1582 SK086 口径約13cm



4 土師器 椀 1583 SK091 口径約14cm



5 土師器 椀 1585 SK091 口径約14cm



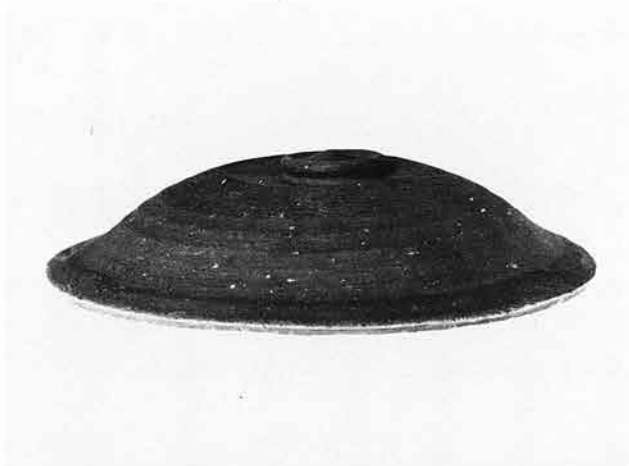
6 土師器 椀 1586 SK091 口径約13cm



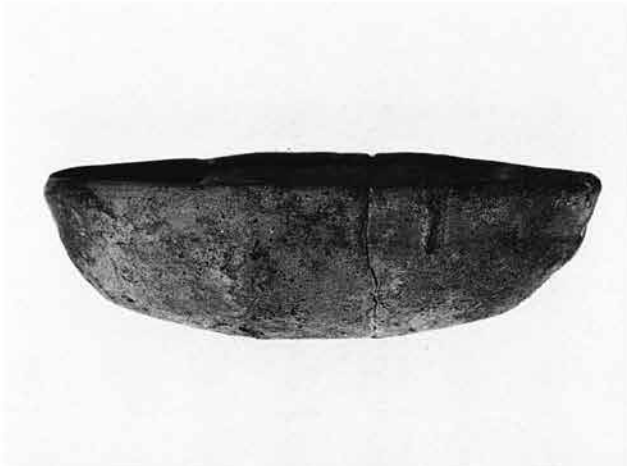
7 須恵器 高台杯 1606 SK155 口径約13cm



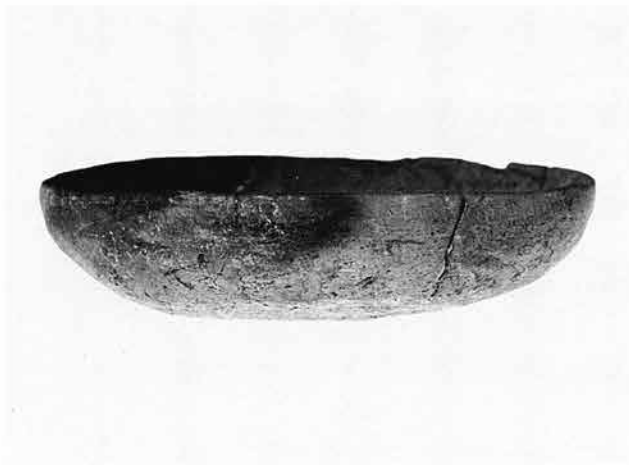
8 土師器 丸甕(台付) 1609 SK155 器高約12cm



1 須惠器 蓋 1616 SK200 口径約18cm



2 土師器 椀 1617 SK201 口径約13cm



3 土師器 椀 1618 SK201 口径約14cm



4 土師器 長甕 1632 SK354 器高約36cm



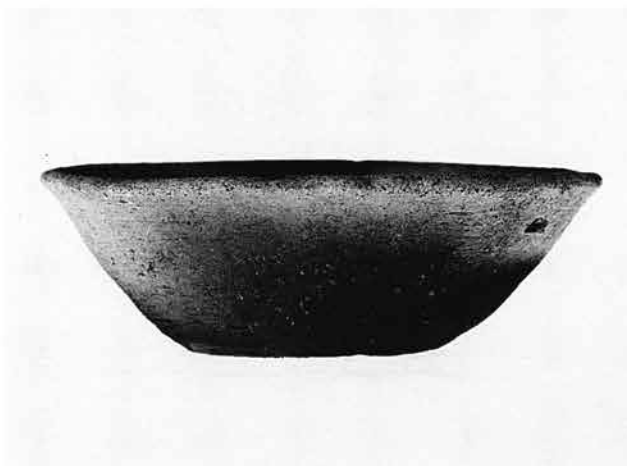
5 須惠器 足高椀 1682 SK420 低径約14cm



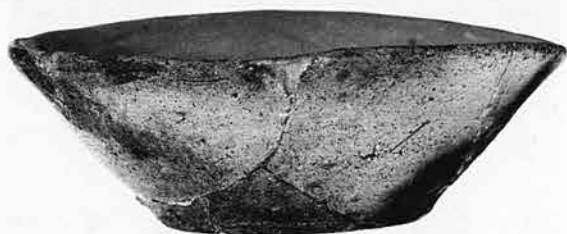
6 須惠器 高台杯 1694 SK427 口径約13cm



7 須惠器 高台杯 1700 SK429 口径約13cm



8 須惠器 椀 1702 SK431 口径約11cm



1 須恵器 椀 1709 SK431 口径約12cm



2 土師器 台付甕 1744 2号土器集積 口径約18cm



3 須恵器 椀 1746 3号土器集積 口径約10cm



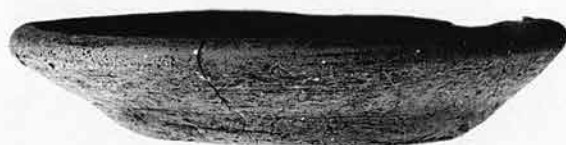
4 土師器 杯 1750 5号土器集積 口径約6cm



5 土師器 杯 1752 5号土器集積 口径6cm



6 土師器 杯 1754 5号土器集積 口径約6cm



7 須恵器 椀 1758 5号土器集積 口径約9cm



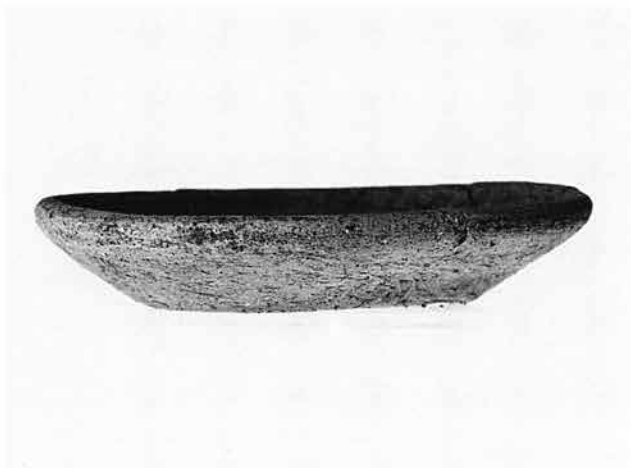
8 須恵器 椀 1759 5号土器集積 口径約9cm



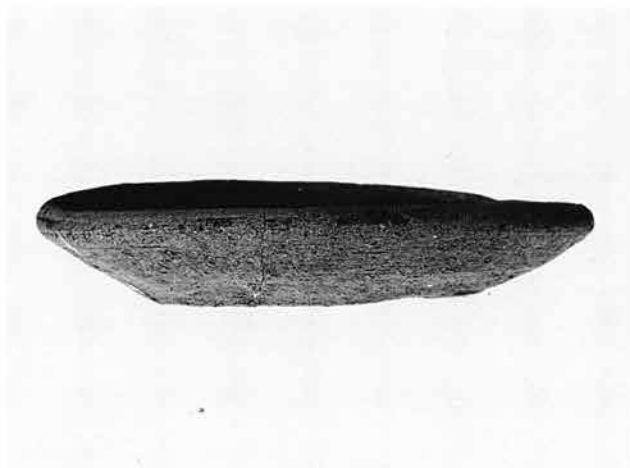
1 須恵器 椀 1761 5号土器集積 口径約9cm



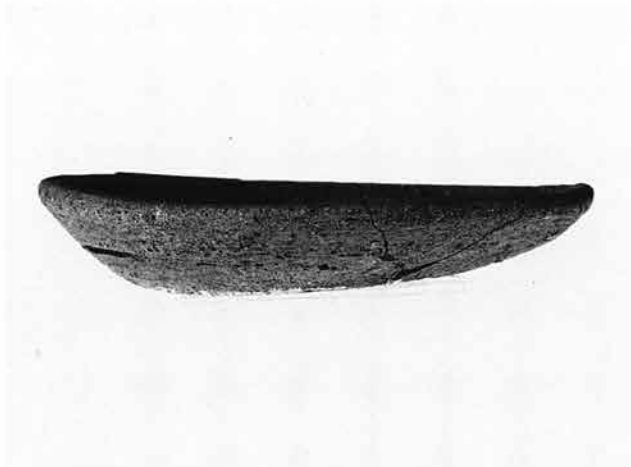
2 須恵器 椀 1762 5号土器集積 口径約10cm



3 須恵器 椀 1764 5号土器集積 口径9cm



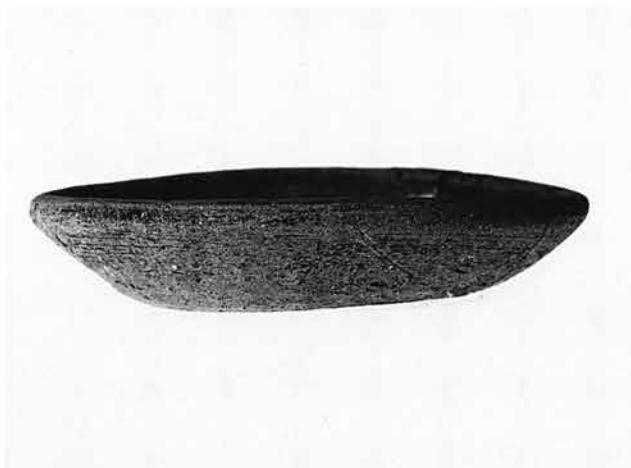
4 須恵器 椀 1765 5号土器集積 口径約9cm



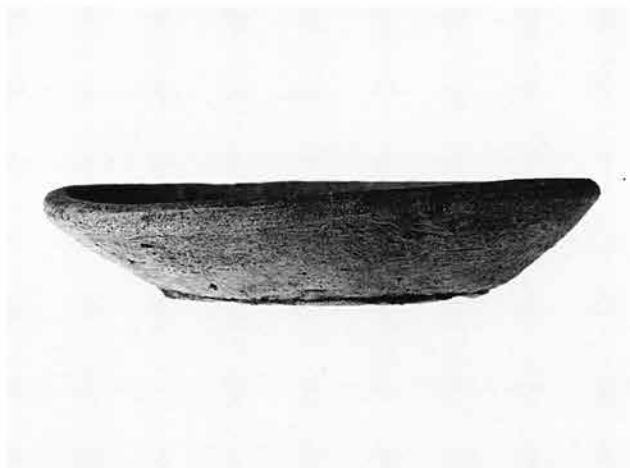
5 須恵器 椀 1766 5号土器集積 口径約9cm



6 須恵器 椀 1767 5号土器集積 口径9cm



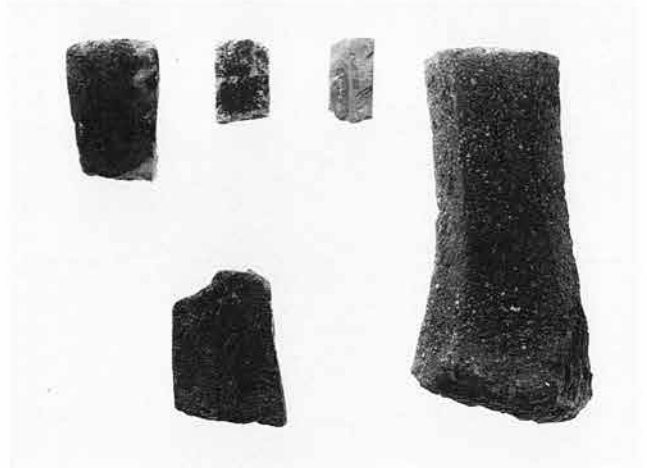
7 須恵器 椀 1768 5号土器集積 口径約9cm



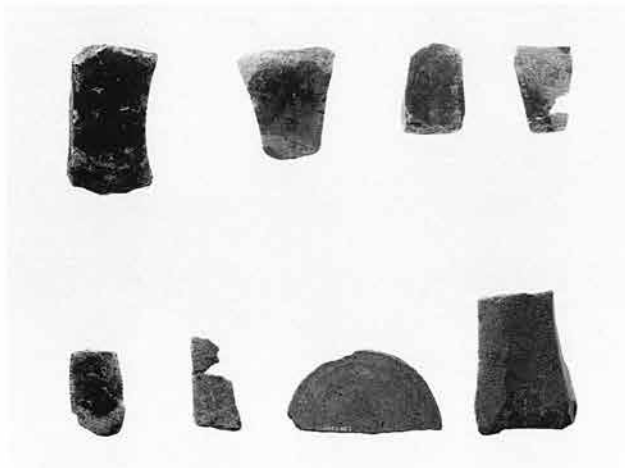
8 須恵器 椀 1770 5号土器集積 口径9cm



1 土錘 右下長さ6.4cm



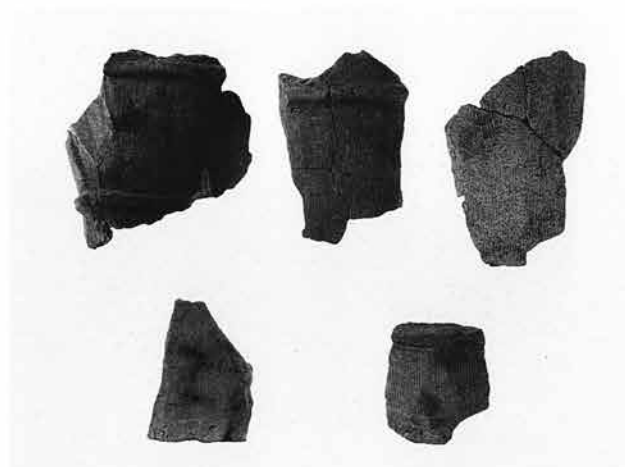
2 砥石 右長さ約20cm



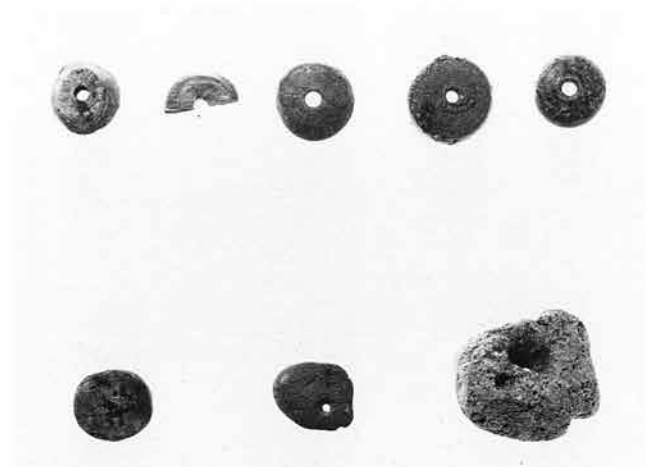
3 砥石 左上長さ約11cm



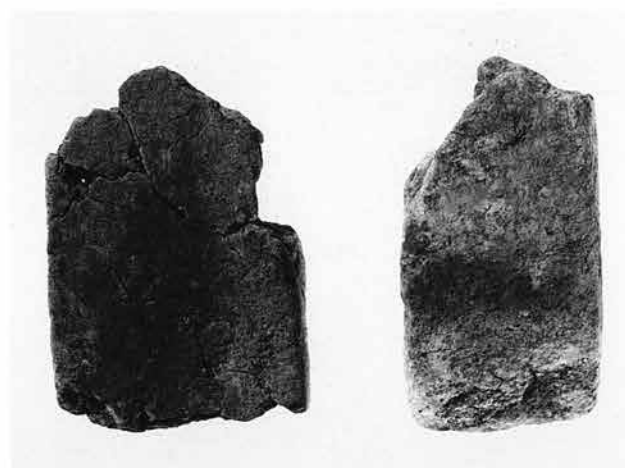
4 平瓦 4017 SB173 最大幅約28cm



5 埴輪 左下長さ約13cm



6 紡錘車 石錘 左上径3.8cm



7 支脚 右長さ約27cm



8 羽口 4012 SB128 口径約8cm



1 磁器 染付碗 5005 SD008 口径9cm



2 陶器 染付碗 5006 SD008 口径約11cm



3 陶器 染付碗 5007 SD008 口径約11cm



4 陶器 碗 5008 SD008 口径約13cm



5 陶器 恰袖碗 5009 SD008 口径約11cm



6 陶器 腰鑄碗 5010 SD008 口径10cm



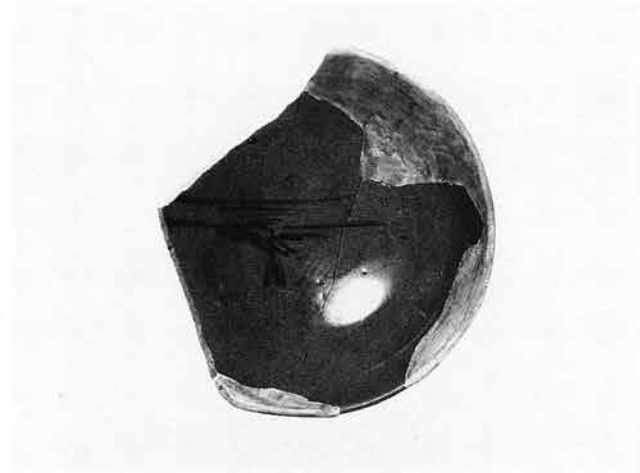
7 陶器 陶胎上絵付丸碗 5015 SD008 口径約10cm



8 陶器 筒形碗 5017 SD008 口径約10cm



1 陶器 皿（正面） 5020 SD008 口径約11cm



2 陶器皿（内面） 5020 SD008 口径約11cm



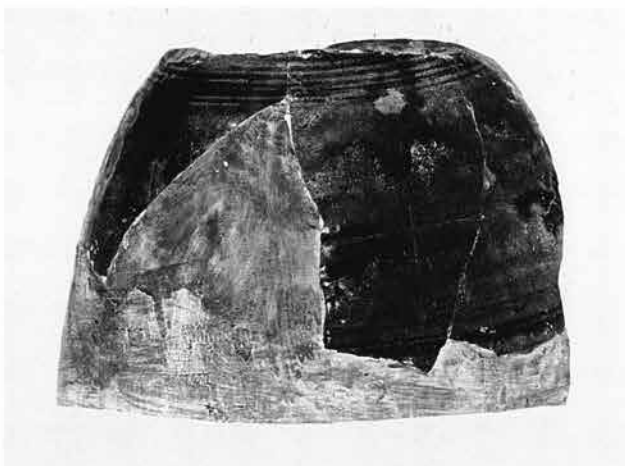
3 磁器 染付皿 5025 SD008 口径約14cm



4 陶器 灰釉碗 5022 SD008 底径約4cm



5 陶器 片口鉢 5027 SD008 口径約17cm



6 陶器 飴釉德利 5028 SD008 残存径約11cm



7 陶器 飴釉德利 5029 SD008 底径11cm



1 陶器 鉄釉徳利 5030 SD008 底径11cm



2 陶器 鉄釉徳利 5031 SD008 底径約12cm



3 陶器 ひょうそく 5034 SD008 口径約6cm



4 磁器 染付碗 5023 SD008 口径約11cm



5 磁器 染付碗 5043 B-159 口径約9cm



6 陶器 片口鉢 5055 B-159 口径約21cm



---

昭和63年3月25日 印刷

昭和63年3月30日 発行

# 西今井遺跡

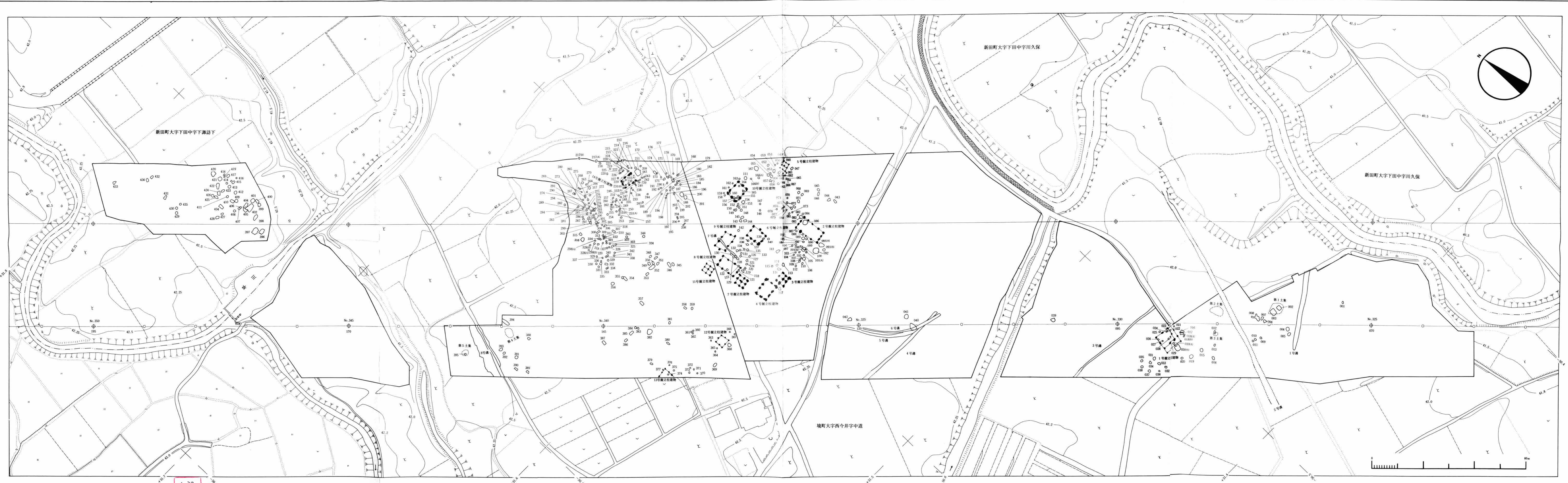
早川河川改修工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

編集・発行 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2  
電話(0279)52-2511 (代表)

印刷 上毛新聞社出版局

---





付図2 発掘区全体図（掘立柱建物、溝、土壇、土器集石） S=1/600

01-330  
12  
1(7) 文